

第570回 広島地方最低賃金審議会 資料目次

1	労働者の生計費	
1 -1	消費者物価指数（総合）	P. 1
1 -2	消費者物価指数 10大費目指数（広島市）	P. 2
1 -3	消費者物価指数 10大費目指数（福山市）	P. 3
1 -4	消費者物価指数 10大費目指数（全国）	P. 4
1 -5	標準生計費	P. 5
2	労働者の賃金	
2 -1	広島県賃金額の推移（パート、規模別）	P. 6
2 -2	広島県賃金額の推移（パート、規模・業種別）	P. 7
2 -3	広島県賃金額の推移（規模・業種別）	P. 8
2 -4	賃金構造基本統計調査における規模別給与額（広島県、短時間労働者）	P. 10
2 -5	賃金構造基本統計調査における規模別給与額（広島県、一般労働者）	P. 11
2 -6	賃金構造基本統計調査における規模別給与額（広島県、全労働者）	P. 12
2 -7	広島県新規学卒者の初任給	P. 13
2 -8	職業別有効求人・求職及び賃金の状況	P. 14
2 -9	春季賃金引上げ妥結状況（令和8年）	P. 16
2 -10	令和7（2025）年賃金構造基本統計調査の概況	P. 17
3	通常の事業の賃金支払能力	
3 -1	最近の広島県経済の動き（2026年6月、ひろぎんホールディングス）	P. 39
3 -2	広島県経済の動向（令和8年6月15日、広島県商工労働局）	P. 56
3 -3	広島県内経済情勢報告（令和8年4月22日、中国財務局）	P. 67
3 -4	企業短期経済観測調査結果の概要（2026年3月、日本銀行広島支店）	P. 79
3 -5	経営者団体調査結果（広島県経営者協会、広島県商工会連合会）	P. 89
3 -6	経営者団体調査結果（広島県中小企業家同友会）	P. 90
3 -7	中小企業等の人手不足、賃金引上げに関する調査結果（広島県商工会議所連合会）	P. 93
3 -8	2026年度上期経営者アンケート調査結果（2026年6月、ひろぎんホールディングス）	P. 111
3 -9	中東情勢影響調査（広島県中小企業家同友会）	P. 134
3 -10	全国企業倒産集計（2026年5月、帝国データバンク）	P. 142
4	地域・雇用情勢	
4 -1	管内の雇用情勢（令和8年5月分）	P. 166
4 -2	就職内定状況の推移（大学生等・高校生）（3月末現在）	P. 180
4 -3	広島県 労働力人口・転出超過の推移	P. 181
5	賃金引上げ支援策等	
5 -1	賃上げ環境整備のための経済産業省支援策について	P. 182
5 -2	令和7年度 業務改善助成金アンケート結果	P. 198
5 -3	業務改善助成金の都道府県別実績（交付決定件数）	P. 201
5 -4	価格交渉促進月間（2026年3月）フォローアップ調査結果	P. 202
6	要請文書	
6 -1	最低賃金額の引上げ及び地域間格差の是正を求める会長声明 広島弁護士会	P. 261
6 -2	最低賃金の大幅引上げと全国一律最低賃金制実現を求める要請 全国労働組合総連合中国ブロック協議会 広島県労働組合総連合	P. 264

消費者物価指数（総合）

（指数は令和2年を100としたもの）

年 月		全 国		広 島 市		福 山 市	
			前年(同月) 比 (%)		前年(同月) 比 (%)		前年(同月) 比 (%)
令和3年		99.8	▲ 0.2	99.6	▲ 0.4	99.5	▲ 0.5
令和4年		102.3	2.5	102.3	2.7	1019.0	2.5
令和5年		105.6	3.2	105.6	3.3	104.8	2.9
令和6年		108.5	2.7	108.4	2.6	107.4	2.4
令和7年		111.9	3.2	112.1	3.4	110.8	3.2
令和8年	1月	112.9	1.5	113.3	1.7	111.7	1.1
	2月	112.2	1.3	112.4	1.5	110.9	1.0
	3月	112.7	1.5	112.8	1.6	111.3	1.2
	4月	113.0	1.4	113.4	1.4	111.5	1.2
	5月	113.5	1.5	113.9	1.6	112.1	1.2

資料出所：広島県総務局統計課「消費者物価指数（小売物価統計調査結果）」

10大費目指数（広島市）

資料No.1-2

(指数は令和2年を100としたもの)

年 月		食料	生鮮食品	生鮮食品を 除く食料	住居	光熱・ 水道	家具・ 家事用品	被服及び 履物	保健医療	交通・ 通信	教育	教養娯楽	諸雑費	エネルギー
令和4年		105.3	109.1	104.7	101.8	116.0	104.2	101.4	98.5	93.4	100.2	102.7	101.8	122.4
令和5年		114.0	116.5	113.5	103.3	108.8	112.9	104.3	99.5	95.1	102.0	106.2	103.3	116.0
令和6年		119.3	125.2	118.2	103.7	109.6	118.7	107.1	100.5	96.5	103.4	112.2	104.8	117.2
令和7年		127.8	133.0	126.8	105.1	112.1	120.6	110.8	102.3	99.9	100.9	114.3	106.5	120.7
令和7年	1月	126.8	151.2	122.4	104.3	115.1	119.7	108.0	101.9	98.5	103.8	112.1	105.8	124.1
	2月	125.9	142.3	122.9	104.3	108.8	118.0	106.8	102.1	99.2	103.8	112.4	105.7	118.3
	3月	125.6	136.4	123.6	104.4	110.3	118.0	108.9	102.3	99.4	103.8	113.6	106.2	119.3
	4月	126.0	129.6	125.3	104.9	113.2	121.8	112.0	102.6	99.6	100.4	115.0	106.1	122.9
	5月	126.4	125.2	126.6	104.9	116.6	122.6	112.1	102.4	99.4	99.9	114.9	106.1	126.0
	6月	126.0	121.3	126.8	105.0	116.0	120.1	111.9	102.4	99.2	99.9	113.6	106.2	123.5
	7月	127.6	124.3	128.2	105.3	114.7	121.4	110.8	102.4	100.0	99.9	114.5	106.5	122.9
	8月	128.9	129.5	128.8	105.6	109.5	121.4	109.5	102.1	100.6	99.9	116.5	106.6	117.9
	9月	129.1	131.8	128.6	105.5	107.9	121.0	113.1	102.3	100.4	99.9	113.7	106.9	116.4
	10月	130.1	134.5	129.3	105.5	107.9	121.6	112.7	102.2	101.1	99.9	115.3	107.2	116.5
	11月	130.4	134.0	129.8	105.5	112.7	121.2	112.8	102.6	100.9	99.9	114.5	107.1	121.0
	12月	130.4	135.9	129.5	105.6	112.6	120.0	111.6	102.2	99.9	99.9	115.0	108.0	118.9
令和8年	1月	131.7	139.7	130.2	105.5	112.7	119.9	111.9	102.3	99.5	99.9	113.9	108.6	117.5
	2月	130.9	135.1	130.2	105.6	101.6	119.4	111.3	102.1	99.4	100.9	114.1	108.5	106.5
	3月	130.9	131.2	130.8	105.8	103.0	118.4	111.9	102.3	100.5	101.0	115.5	108.8	110.2
	4月	130.6	128.2	131.1	105.6	110.6	123.3	113.6	102.2	100.4	94.9	115.8	110.2	117.1
	5月	130.9	129.7	131.1	106.4	114.5	122.2	113.6	102.4	100.6	94.7	116.3	110.0	121.2

資料出所：広島県総務局統計課「消費者物価指数（小売物価統計調査結果）」

10大費目指数（福山市）

資料No.1-3

(指数は令和2年を100としたもの)

年 月		食料	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
令和4年		104.7	100.0	115.4	104.3	101.2	98.6	94.5	100.8	102.6	102.1
令和5年		112.7	100.7	108.1	113.1	103.8	99.9	96.2	103.3	106.0	103.4
令和6年		117.7	100.3	109.6	119.8	107.1	101.0	97.8	104.0	110.8	104.4
令和7年		126.2	100.7	112.4	123.1	110.8	102.7	101.1	96.5	112.7	105.7
令和7年	1月	126.0	100.0	115.4	121.2	108.2	102.4	100.1	103.9	110.8	104.7
	2月	125.0	100.0	109.2	121.2	106.1	102.6	100.6	103.9	111.2	104.7
	3月	124.5	99.9	110.1	120.1	108.5	102.8	100.7	103.9	112.2	105.3
	4月	124.0	100.0	113.6	121.9	111.6	102.7	101.1	94.4	113.6	105.6
	5月	124.9	100.0	116.9	125.9	111.2	102.7	100.9	94.0	113.5	105.8
	6月	124.8	100.0	116.0	123.6	110.8	102.4	100.5	94.0	112.4	105.8
	7月	125.1	101.3	114.9	123.7	110.3	102.7	101.2	94.0	112.8	105.8
	8月	126.2	101.5	109.6	123.2	109.7	102.6	101.7	94.0	114.4	105.9
	9月	126.8	101.3	108.2	123.6	113.5	102.7	101.5	94.0	112.0	106.0
	10月	128.4	101.3	108.7	124.2	113.4	102.8	102.3	94.0	113.5	106.2
	11月	129.1	101.2	112.8	125.1	113.5	103.0	101.8	94.0	112.7	105.8
	12月	129.1	101.2	112.9	123.1	113.2	102.8	101.0	94.0	112.9	107.2
令和8年	1月	129.1	101.0	113.0	123.5	113.2	102.8	100.6	94.0	112.6	107.7
	2月	129.0	100.8	103.8	121.2	112.1	102.1	100.5	94.8	113.2	107.5
	3月	129.3	100.8	104.2	122.7	112.6	102.3	101.1	94.9	114.1	107.7
	4月	127.6	100.8	111.3	125.8	113.9	102.0	101.5	87.1	114.3	109.5
	5月	128.1	101.1	115.4	125.0	113.9	102.1	102.0	87.6	115.0	109.6

資料出所：広島県総務局統計課「消費者物価指数（小売物価統計調査結果）」

10大費目指数（全国）

資料No.1-4

（指数は令和2年を100としたもの）

年 月		食料	生鮮食品	生鮮食品を 除く食料	住居	光熱・ 水道	家具・ 家事用品	被服及び 履物	保健医療	交通・ 通信	教育	教養娯楽	諸雑費	エネルギー
令和4年		104.5	106.7	104.1	101.3	116.3	105.5	102.0	99.3	93.5	100.9	102.7	102.2	121.7
令和5年		112.9	114.6	112.6	102.4	108.5	113.8	105.7	101.2	95.8	102.1	107.1	103.7	114.4
令和6年		117.8	122.6	116.9	103.1	112.8	118.4	108.2	102.8	97.4	101.6	112.9	104.8	118.7
令和7年		125.8	129.4	125.2	104	116.9	121.6	111.1	104.3	100	97.1	115.6	105.9	123
令和7年	1月	124.7	145.7	121.0	103.5	119.3	119.6	108.6	103.9	99.1	101.3	112.9	105.6	126.1
	2月	124.1	138.0	121.6	103.6	114.2	119.4	108.8	103.9	99.3	101.5	113.3	105.5	121.6
	3月	124.2	134.0	122.5	106.3	114.5	120.0	110.1	104.2	99.5	101.5	114.3	105.6	121.9
	4月	124.0	126.2	123.6	103.9	117.9	121.8	111.6	104.2	99.9	95.7	115.9	105.8	125.6
	5月	124.4	122.9	124.6	104.0	121.2	122.1	111.5	104.3	99.6	95.7	116.1	106.0	128.0
	6月	124.6	120.5	125.4	104.0	120.1	122.3	111.3	104.3	99.6	95.6	115.0	106.0	125.3
	7月	125.1	120.3	126.0	104.1	119.1	122.5	110.1	104.4	100.2	95.6	115.9	106.1	124.8
	8月	126.1	124.2	126.4	104.2	114.2	122.7	109.4	104.3	100.6	95.6	118.0	106.3	120.4
	9月	127.0	128.2	126.7	104.2	112.6	121.8	112.5	104.4	100.4	95.6	115.5	105.8	119.0
	10月	128.1	130.3	127.7	104.3	113.5	123.4	112.8	104.5	101.2	95.6	117.2	106.2	119.3
	11月	128.6	130.6	128.3	104.5	117.9	122.7	113.3	104.6	101.0	95.6	116.8	106.1	123.0
	12月	128.8	132.3	128.2	104.5	117.7	121.1	112.7	104.5	100.0	95.6	116.8	106.1	121.1
令和8年	1月	129.5	135.6	128.4	104.6	117.5	120.6	111.2	104.3	99.7	95.6	115.2	106.2	119.5
	2月	129.0	131.8	128.5	104.6	107.9	120.9	111.2	104.3	99.8	95.8	115.8	106.1	110.6
	3月	128.7	127.6	128.9	104.6	109.0	123.2	112.4	104.4	101.5	95.9	116.9	106.3	114.9
	4月	128.4	126.6	128.7	104.7	116.2	124.1	113.3	104.1	101.3	89.9	117.4	105.9	120.8
	5月	128.7	127.2	129.0	104.9	119.9	124.8	113.4	104.3	101.5	89.8	118.0	106.3	124.8

資料出所：広島県総務局統計課「消費者物価指数（小売物価統計調査結果）」

標準生計費

資料No.1-5

単身勤労者標準生計費の推移

[各年4月]

[単位：円]

費用	全国（全国加重平均1,121円※）				
	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
食料費	30,060	31,020	33,220	32,960	35,770
住居関係費	44,700	44,710	46,640	45,350	46,760
被服・履物費	5,160	5,780	5,760	5,970	6,230
雑費Ⅰ	23,600	22,620	24,830	24,220	25,660
雑費Ⅱ	11,200	10,350	10,460	10,610	10,640
合 計	114,720	114,480	120,910	119,110	125,060

費用	広島市（広島県1,085円※）				
	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
食料費	29,613	30,512	35,846	32,364	38,047
住居関係費	37,561	41,916	58,571	45,608	40,190
被服・履物費	5,193	5,853	5,006	4,895	6,848
雑費Ⅰ	18,447	15,696	21,467	18,732	25,280
雑費Ⅱ	9,044	9,973	12,023	20,346	12,416
合 計	99,858	103,950	132,913	121,945	122,781

費用	津市（三重県1,087円※）				
	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
食料費	27,500	30,670	30,040	29,440	33,030
住居関係費	34,840	42,880	90,870	30,250	43,130
被服・履物費	12,540	5,220	4,030	5,610	4,170
雑費Ⅰ	23,580	18,190	30,740	19,420	20,690
雑費Ⅱ	9,110	16,740	14,420	6,850	14,090
合 計	107,570	113,700	170,100	91,570	115,110

費用	大津市（滋賀県1,080円※）				
	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
食料費	30,980	33,920	35,930	36,600	39,050
住居関係費	37,500	36,790	43,700	35,410	38,450
被服・履物費	6,140	7,020	6,910	7,420	5,270
雑費Ⅰ	21,640	21,640	22,080	40,400	27,220
雑費Ⅱ	8,390	7,870	15,210	10,060	11,870
合 計	104,650	107,240	123,830	129,890	121,860

資料出所：人事院、広島県人事委員会
 労務行政研究所「賃金決定のための物価と生計費資料2026年版」

注）1 各費用と家計調査大分類項目との対応関係

食 料 費 ： 食料

住居関係費 ： 住居、光熱・水道、家具・家事用品

被服・履物費： 被服及び履物

雑 費 Ⅰ ： 保健医療、交通・通信、教育、教養娯楽

雑 費 Ⅱ ： その他の消費支出（諸雑費、こづかい、交際費、仕送り金）

2 ※は令和7年度の地域別最低賃金額

広島県賃金額の推移（パート、規模別）【所定内給与】

※「所定内給与」とは、きまって支給する給与のうち所定外労働給与（時間外手当、休日出勤手当、深夜手当等）以外のものをいう。

1 調査産業計（5～29人）

	所定内給与額／月(円)	所定内労働時間(時間)	所定内給与額／時間(円)	前年比(%)
令和3年	78,286	69.7	1,123	—
令和4年	83,320	71.1	1,172	4.4
令和5年	86,195	71.0	1,214	3.6
令和6年	87,767	71.9	1,221	0.6
令和7年	88,242	67.7	1,303	6.7

2 調査産業計（30～99人）

	所定内給与額／月(円)	所定内労働時間(時間)	所定内給与額／時間(円)	前年比(%)
令和3年	93,838	83.8	1,120	—
令和4年	90,158	76.4	1,180	5.4
令和5年	86,101	69.2	1,244	5.4
令和6年	88,986	68.4	1,301	4.6
令和7年	104,975	78.4	1,339	2.9

3 調査産業計（100人以上）

	所定内給与額／月(円)	所定内労働時間(時間)	所定内給与額／時間(円)	前年比(%)
令和3年	113,470	86.2	1,316	—
令和4年	114,151	86.9	1,314	△ 0.2
令和5年	116,298	89.9	1,294	△ 1.5
令和6年	115,584	88.4	1,308	1.1
令和7年	121,636	85.3	1,426	9.0

資料出所：毎月勤労統計調査

広島県賃金額の推移（パート、規模・業種別）【所定内給与】

1 調査産業計（5人以上）

	所定内給与額／月(円)	所定内労働時間(時間)	所定内給与額／時間(円)	前年比(%)
令和3年	89,652	77.0	1,164	
令和4年	91,494	75.9	1,205	3.5
令和5年	91,597	73.8	1,241	3.0
令和6年	93,869	74.0	1,269	2.3
令和7年	100,284	74.6	1,344	5.9

調査産業計（30人以上）

	所定内給与額／月(円)	所定内労働時間(時間)	所定内給与額／時間(円)	前年比(%)
令和3年	101,563	84.7	1,199	
令和4年	98,878	80.3	1,231	2.7
令和5年	96,769	76.5	1,265	2.8
令和6年	98,543	75.6	1,303	3.0
令和7年	112,017	81.3	1,378	5.8

2 製造業（5人以上）

	所定内給与額／月(円)	所定内労働時間(時間)	所定内給与額／時間(円)	前年比(%)
令和3年	103,217	98.7	1,046	
令和4年	108,904	97.5	1,117	6.8
令和5年	112,647	99.3	1,134	1.5
令和6年	125,071	103.5	1,208	6.5
令和7年	136,865	108.1	1,266	4.8

製造業（30人以上）

	所定内給与額／月(円)	所定内労働時間(時間)	所定内給与額／時間(円)	前年比(%)
令和3年	108,910	103.7	1,050	
令和4年	113,171	100.6	1,125	7.1
令和5年	124,297	105.2	1,182	5.0
令和6年	136,630	109.9	1,243	5.2
令和7年	144,240	112.0	1,288	3.6

3 卸売業、小売業（5人以上）

	所定内給与額／月(円)	所定内労働時間(時間)	所定内給与額／時間(円)	前年比(%)
令和3年	87,653	82.6	1,061	
令和4年	95,477	89.6	1,066	0.4
令和5年	95,749	85.5	1,120	5.1
令和6年	103,855	86.7	1,198	7.0
令和7年	97,395	79.7	1,222	2.0

卸売業、小売業（30人以上）

	所定内給与額／月(円)	所定内労働時間(時間)	所定内給与額／時間(円)	前年比(%)
令和3年	96,031	91.7	1,047	
令和4年	101,339	95.2	1,064	1.6
令和5年	102,531	93.0	1,102	3.6
令和6年	104,388	88.7	1,177	6.7
令和7年	109,352	90.2	1,212	3.0

4 医療、福祉（5人以上）

	所定内給与額／月(円)	所定内労働時間(時間)	所定内給与額／時間(円)	前年比(%)
令和3年	117,504	80.6	1,458	
令和4年	120,295	79.8	1,507	3.4
令和5年	118,716	79.7	1,490	▲ 1.2
令和6年	111,374	77.4	1,439	▲ 3.4
令和7年	118,171	72.3	1,634	13.6

医療、福祉（30人以上）

	所定内給与額／月(円)	所定内労働時間(時間)	所定内給与額／時間(円)	前年比(%)
令和3年	137,555	85.5	1,609	
令和4年	142,973	85.3	1,676	4.2
令和5年	145,452	93.0	1,564	▲ 6.7
令和6年	132,219	88.4	1,496	▲ 4.4
令和7年	141,576	81.4	1,739	16.3

資料出所：毎月勤労統計調査

広島県賃金額の推移（規模別・業種別）【所定内給与】

1 調査産業計

	事業所規模5人以上		事業所規模30人以上	
	所定内給与額(円)	前年比(%)	所定内給与額(円)	前年比(%)
令和3年	239,873		259,668	
令和4年	244,275	1.8	261,287	0.6
令和5年	241,743	▲ 1.0	262,124	0.3
令和6年	248,034	2.6	261,879	▲ 0.1
令和7年	256,716	3.5	281,458	7.5

2 宿泊業、飲食サービス業

	事業所規模5人以上		事業所規模30人以上	
	所定内給与額(円)	前年比(%)	所定内給与額(円)	前年比(%)
令和3年	90,013		101,778	
令和4年	87,787	▲ 2.5	81,686	▲ 19.7
令和5年	89,931	2.4	80,620	▲ 1.3
令和6年	102,607	14.1	90,985	12.9
令和7年	114,983	12.1	131,513	44.5

3 生活関連サービス業、娯楽業

	事業所規模5人以上		事業所規模30人以上	
	所定内給与額(円)	前年比(%)	所定内給与額(円)	前年比(%)
令和3年	137,451		116,438	
令和4年	161,474	17.5	127,892	9.8
令和5年	177,089	9.7	131,318	2.7
令和6年	151,668	▲ 14.3	165,476	26.0
令和7年	176,570	16.4	173,549	4.9

4 卸売業、小売業

	事業所規模5人以上		事業所規模30人以上	
	定期給与額(円)	前年比(%)	定期給与額(円)	前年比(%)
令和3年	232,896		234,739	
令和4年	229,119	▲ 1.6	222,973	▲ 5.0
令和5年	215,612	▲ 5.9	214,758	▲ 3.7
令和6年	231,974	7.6	201,039	▲ 6.4
令和7年	225,220	▲ 2.9	235,500	17.1

資料出所：毎月勤労統計調査

5 医療、福祉

	事業所規模5人以上		事業所規模30人以上	
	所定内給与額(円)	前年比(%)	所定内給与額(円)	前年比(%)
令和3年	239,022		267,193	
令和4年	266,060	11.3	297,408	11.3
令和5年	259,993	▲ 2.3	300,398	1.0
令和6年	251,806	▲ 3.1	290,847	▲ 3.2
令和7年	252,508	0.3	286,175	▲ 1.6

6 製造業

	事業所規模5人以上		事業所規模30人以上	
	所定内給与額(円)	前年比(%)	所定内給与額(円)	前年比(%)
令和3年	263,417		276,332	
令和4年	280,569	6.5	289,738	4.9
令和5年	287,513	2.5	303,687	4.8
令和6年	297,930	3.6	311,102	2.4
令和7年	311,279	4.5	325,814	4.7

7 情報通信

	事業所規模5人以上		事業所規模30人以上	
	所定内給与額(円)	前年比(%)	所定内給与額(円)	前年比(%)
令和3年	320,036		320,828	
令和4年	334,744	4.6	339,717	5.9
令和5年	335,933	0.4	346,604	2.0
令和6年	324,111	▲ 3.5	341,225	▲ 1.6
令和7年	320,136	▲ 1.2	331,951	▲ 2.7

8 建設業

	事業所規模5人以上		事業所規模30人以上	
	所定内給与額(円)	前年比(%)	所定内給与額(円)	前年比(%)
令和3年	352,843		409,875	
令和4年	323,117	▲ 8.4	396,126	▲ 3.4
令和5年	315,210	▲ 2.4	380,967	▲ 3.8
令和6年	347,672	10.3	456,976	20.0
令和7年	374,750	7.8	489,186	7.0

資料出所：毎月勤労統計調査

賃金構造基本統計調査における企業規模別給与額（広島県、短時間労働者）

企業規模（10人～99人）

区分	調査年	年齢	勤続年数	実労働日数	1日当たり 所定内実労働時間数	1時間当たり 所定内給与額	前年比
		歳	年	日	時間	円	%
産業計	令和3年	49.5	6.5	14.9	5.2	1,364	—
	令和4年	48.6	7.0	16.2	5.1	1,402	2.8
	令和5年	51.3	7.5	16.1	4.7	1,310	▲ 6.6
	令和6年	46.0	6.5	14.5	5.1	1,331	1.6
	令和7年	48.7	7.2	14.2	5.0	1,308	▲ 1.7

企業規模（100人～999人）

区分	調査年	年齢	勤続年数	実労働日数	1日当たり 所定内実労働時間数	1時間当たり 所定内給与額	前年比
		歳	年	日	時間	円	%
産業計	令和3年	47.5	6.7	15.6	5.2	1,330	—
	令和4年	50.0	6.6	15.9	4.9	1,277	▲ 4.0
	令和5年	50.6	7.3	15.2	5.1	1,520	19.0
	令和6年	50.7	7.2	14.5	5.4	1,626	7.0
	令和7年	47.1	7.0	14.7	5.3	1,419	▲ 12.7

企業規模（1000人以上）

区分	調査年	年齢	勤続年数	実労働日数	1日当たり 所定内実労働時間数	1時間当たり 所定内給与額	前年比
		歳	年	日	時間	円	%
産業計	令和3年	42.7	6.5	15.5	5.0	1,237	—
	令和4年	45.7	7.5	16.3	5.5	1,136	▲ 8.2
	令和5年	40.3	6.8	14.6	5.2	1,239	9.1
	令和6年	40.7	6.3	14.0	5.3	1,258	1.5
	令和7年	44.6	6.6	15.2	5.4	1,287	2.3

資料出所：賃金構造基本統計調査

※所定内給与額：決まって支給する現金給与額のうち、超過労働給与額を差し引いた額で、所得税等を控除する前の額

賃金構造基本統計調査における企業規模別給与額（広島県、一般労働者）

（単位：千円）

企業規模（10人～99人）

区分	調査年	決まって支給する現金給与額	前年比(%)	所定内給与額	前年比(%)
産業計	令和3年	284.3	—	266.3	—
	令和4年	298.7	5.1	277.3	4.1
	令和5年	305.0	2.1	282.8	2.0
	令和6年	314.7	3.2	288.0	1.8
	令和7年	316.9	0.7	291.5	1.2

企業規模（100人～999人）

区分	調査年	決まって支給する現金給与額	前年比(%)	所定内給与額	前年比(%)
産業計	令和3年	311.9	—	284.5	—
	令和4年	314.9	1.0	285.9	0.5
	令和5年	315.9	0.3	291.3	1.9
	令和6年	338.8	7.2	312.9	7.4
	令和7年	341.8	0.9	312.7	▲ 0.1

企業規模（1000人以上）

区分	調査年	決まって支給する現金給与額	前年比(%)	所定内給与額	前年比(%)
産業計	令和3年	358.4	—	321.2	—
	令和4年	369.8	3.2	329.4	2.6
	令和5年	361.8	▲ 2.2	318.1	▲ 3.4
	令和6年	378.7	4.7	335.5	5.5
	令和7年	400.9	5.9	359.3	7.1

資料出所：賃金構造基本統計調査

※所定内給与額：決まって支給する現金給与額のうち、超過労働給与額を差し引いた額で、所得税等を控除する前の額

賃金構造基本統計調査における企業規模別給与額（広島県、全労働者）

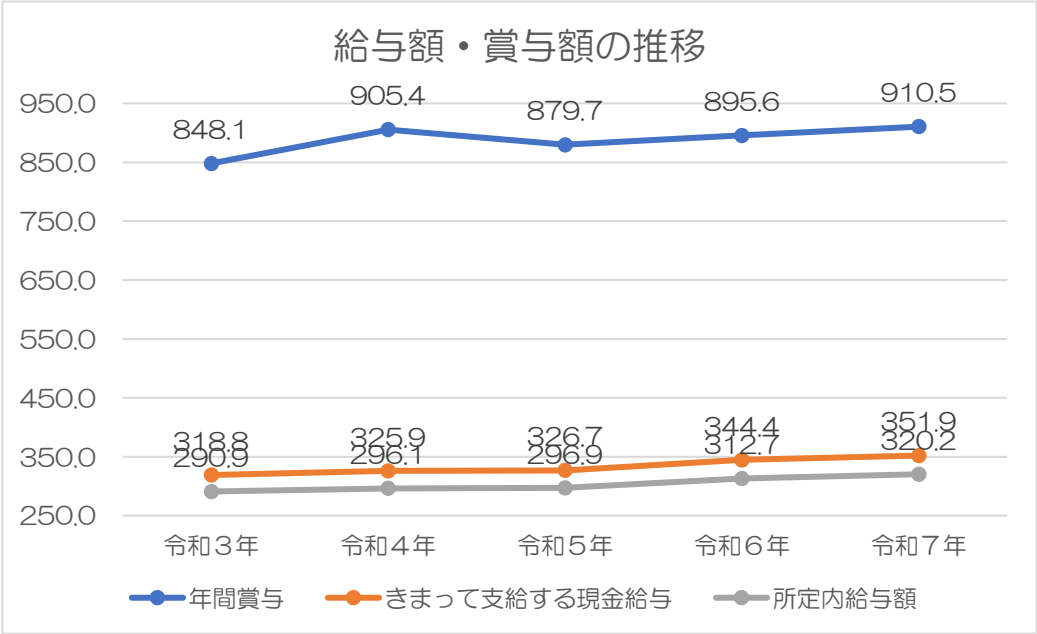
（単位：千円）

企業規模（10人以上）

業種	産業計	決まって支給する現金給与額	前年比(%)	所定内給与額	前年比(%)	年間賞与	前年比(%)
調査年	令和3年	318.8	—	290.9	—	848.1	—
	令和4年	325.9	2.2	296.1	1.8	905.4	6.8
	令和5年	326.7	0.2	296.9	0.3	879.7	▲ 2.8
	令和6年	344.4	5.4	312.7	5.3	895.6	1.8
	令和7年	351.9	2.2	320.2	2.4	910.5	1.7

業種	製造業	決まって支給する現金給与額	前年比(%)	所定内給与額	前年比(%)	年間賞与	前年比(%)
調査年	令和3年	320.0	—	281.7	—	822.3	—
	令和4年	333.4	4.2	293.1	4.0	1,030.6	25.3
	令和5年	340.4	2.1	298.4	1.8	1,061.4	3.0
	令和6年	347.4	2.1	304.5	2.0	1,057.3	▲ 0.4
	令和7年	374.9	7.9	330.3	8.5	1,160.2	9.7

業種	小売業	決まって支給する現金給与額	前年比(%)	所定内給与額	前年比(%)	年間賞与	前年比(%)
調査年	令和3年	257.8	—	245.5	—	498.8	—
	令和4年	278.4	8.0	265.2	8.0	500.0	0.2
	令和5年	297.9	7.0	277.1	4.5	600.8	20.2
	令和6年	299.0	0.4	282.4	1.9	655.6	9.1
	令和7年	303.1	1.4	281.9	▲ 0.2	648.0	▲ 1.2



資料出所：賃金構造基本統計調査

広島県新規学卒者の初任給の推移（産業計、企業規模10人以上）

（単位：千円）

年	高校		専門学校		高専・短大		大学		大学院	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
令和3年	176.8	163.5	192.8	185.2	202.2	216.2	232.0	224.6	233.3	217.5
令和4年	179.4	173.4	201.0	198.6	199.2	195.4	218.0	223.2	270.0	287.8
令和5年	199.1	179.3	204.7	202.4	208.1	224.9	226.1	221.3	230.9	241.1
令和6年	194.2	214.4	213.9	210.8	207.6	217.3	240.0	228.7	271.9	278.7
令和7年	209.5	212.0	240.9	237.5	230.2	217.1	246.3	239.5	319.4	293.3

資料出所：賃金構造基本統計調査

令和8年3月 広島県新規学卒者の初任給状況（確定版）

（単位：千円）

		中学卒	高校卒	短大卒	大学卒
産業別	農林漁業	—	199	207	211
	建設業	171	222	235	265
	製造業	188	211	223	247
	電気・ガス・熱	—	200	218	243
	情報通信	—	191	208	251
	運輸業	—	210	215	236
	卸売・小売	—	212	218	247
	金融・保険	—	209	230	259
	不動産	—	211	212	258
	学術研究	—	211	209	238
	飲食・宿泊	—	216	220	241
	生活関連・娯楽	—	217	211	233
	教育・学習	—	154	229	260
	医療・福祉	—	198	229	249
	複合サービス	—	217	198	234
	サービス	—	216	215	241
	公務・その他	—	215	210	220
職業別	専門的・技術的職業	182	213	226	253
	管理的職業	—	226	228	260
	事務的職業	—	208	215	247
	販売の職業	—	216	220	250
	サービスの職業	—	212	214	236
	保安の職業	—	231	278	255
	農林漁業の職業	—	208	207	218
	運輸・通信の職業	188	207	217	233
	生産工程・労務の職業	160	213	222	246
規模別	4人以下	—	213	199	219
	5～29人	171	210	211	232
	30～99人	188	214	219	241
	100～299人	—	211	220	248
	300～499人	—	212	215	243
	500～999人	—	216	228	249
	1000人以上	—	210	235	259

資料出所：広島労働局職業安定部職業安定課

※広島労働局管内事業所において、雇用保険被保険者となった日が、令和8年3月1日から4月30日までの間の者のうち、新規学卒者であって、かつ雇用形態が常用の者の採用時賃金の平均値による。

※賃金には、毎月決まって支払われる各種の手当は含むが、超過勤務手当や賞与、その他臨時的に支払われる賃金は含まれない額である。

職業別有効求人・求職及び賃金の状況（常用パート）

広島労働局

職業	令和8年4月			令和8年4月		
	有効求人 (人)	有効求職 (人)	有効求人倍率 (倍)	求 人 上限賃金 (円)	賃 金 下限賃金 (円)	求 職 賃 金 希望賃金 (円)
職業計	17,819	18,768	0.95	1,301	1,201	1,179
A 管理的職業従事者	1	21	0.05	1,482	1,425	1,210
B 専門的・技術的職業従事者	3,414	2,151	1.59	1,572	1,377	1,410
07 製造技術者（開発）	9	48	0.19	2,000	1,300	1,403
08 製造技術者（開発を除く）	14	70	0.20	1,590	1,377	1,257
09 建築・土木・測量技術者	16	50	0.32	2,000	1,313	1,474
10 情報処理・通信技術者	11	96	0.11	1,770	1,244	1,462
11 その他の技術者	1	15	0.07	0	0	1,414
12 医師、歯科医師、獣医師、薬剤師	109	91	1.20	2,799	2,236	1,792
13 保健師、助産師、看護師	948	656	1.45	1,563	1,399	1,362
14 医療技術者	451	128	3.52	1,734	1,501	1,303
15 その他の保健医療従事者	134	82	1.63	1,386	1,206	1,145
16 社会福祉専門職業従事者	1,409	493	2.86	1,376	1,230	1,413
22 美術家、デザイナー、写真家、映像撮影者	26	117	0.22	1,439	1,142	1,450
05.06.17～21.23.24その他の専門的職業	286	305	0.94	1,825	1,566	1,503
C 事務従事者	1,599	4,138	0.39	1,291	1,179	1,157
25 一般事務従事者	1,254	3,685	0.34	1,283	1,169	1,154
26 会計事務従事者	129	156	0.83	1,387	1,242	1,145
27 生産関連事務従事者	54	61	0.89	1,286	1,192	1,353
28 営業・販売事務従事者	73	63	1.16	1,222	1,134	1,207
29 外勤事務従事者	5	1	5.00	1,905	1,905	0
30 運輸・郵便事務従事者	40	10	4.00	1,177	1,123	1,093
31 事務用機器操作員	44	162	0.27	1,193	1,116	1,191
D 販売従事者	2,052	921	2.23	1,196	1,162	1,116
32 商品販売従事者	1,983	832	2.38	1,195	1,163	1,101
33 販売類似職業従事者	32	14	2.29	1,166	1,108	1,053
34 営業職業従事者	37	75	0.49	1,270	1,174	1,276
E サービス職業従事者	5,120	2,206	2.32	1,266	1,150	1,122
35 家庭生活支援サービス職業従事者	13	4	3.25	1,325	1,325	1,100
36 介護サービス職業従事者	1,893	578	3.28	1,332	1,174	1,136
37 保健医療サービス職業従事者	260	102	2.55	1,260	1,144	1,152
38 生活衛生サービス職業従事者	324	71	4.56	1,364	1,169	1,132
39 飲食物調理従事者	1,342	665	2.02	1,177	1,122	1,110
40 接客・給仕職業従事者	766	389	1.97	1,210	1,130	1,115
41 居住施設・ビル等管理人	90	208	0.43	1,127	1,115	1,131
42 その他のサービス職業従事者	432	189	2.29	1,297	1,147	1,114
F 保安職業従事者	658	141	4.67	1,267	1,206	1,093
G 農林漁業従事者	124	103	1.20	1,266	1,192	1,229
H 生産工程従事者	1,257	639	1.97	1,179	1,139	1,131
49 生産設備制御・監視従事者（金属製品）	3	21	0.14	1,500	1,200	1,158
50 生産設備制御・監視従事者（金属製品を除く）	10	4	2.50	1,240	1,240	1,100
51 機械組立設備制御・監視従事者	0	5	0.00	0	0	1,085
52 製品製造・加工処理従事者（金属製品）	37	71	0.52	1,305	1,182	1,191
53 製品製造・加工処理従事者（金属製品を除く）	1,049	283	3.71	1,152	1,132	1,088
54 機械組立従事者	44	89	0.49	1,205	1,137	1,182
55 機械整備・修理従事者	28	30	0.93	1,354	1,192	1,109
56 製品検査従事者（金属製品）	18	14	1.29	1,235	1,108	1,020
57 製品検査従事者（金属製品を除く）	33	19	1.74	1,106	1,092	1,085
58 機械検査従事者	6	13	0.46	0	0	1,220
59 生産関連・生産類似作業従事者	29	90	0.32	1,600	1,272	1,155
I 輸送・機械運転従事者	659	350	1.88	1,257	1,204	1,137
60 鉄道運転従事者	0	0	0.00	0	0	0
61 自動車運転従事者	596	252	2.37	1,247	1,193	1,140
62 船舶・航空機運転従事者	1	1	1.00	0	0	1,085
63 その他の輸送従事者	33	47	0.70	1,353	1,298	1,152
64 定置・建設機械運転従事者	29	50	0.58	1,267	1,221	1,115
J 建設・採掘従事者	30	63	0.48	1,523	1,254	1,333
65 建設躯体工事従事者	0	5	0.00	0	0	1,390
66 建設従事者（建設躯体工事従事者を除く）	5	20	0.25	1,367	1,233	1,562
67 電気工事従事者	6	20	0.30	1,500	1,200	1,304
68 土木作業従事者	19	18	1.06	1,768	1,312	1,135
69 採掘従事者	0	0	0.00	0	0	0
K 運搬・清掃・包装等従事者	2,905	3,890	0.75	1,148	1,127	1,107
70 運搬従事者	550	437	1.26	1,176	1,134	1,131
71 清掃従事者	1,155	976	1.18	1,148	1,126	1,091
72 包装従事者	82	129	0.64	1,125	1,118	1,106
73 その他の運搬・清掃・包装等従事者	1,118	2,348	0.48	1,141	1,128	1,106
分類不能の職業	0	4,145	0.00	0	0	1,141
参考 福祉関連職業合計	3,615	1,440	2.51	—	—	—
（うち介護関係）	2,466	716	3.44	—	—	—

- ・平成21年12月改定の「日本標準職業分類」に基づく区分
- ・広島労働局管内の各ハローワークでの取扱い分による集計。それぞれ学卒及び臨時・季節を含まない。
- ・求人賃金は総額、求職賃金は希望税込額による。常用は月給相当、常用パートは時給相当である。
- ・求人賃金は、計上月に受理された求人により、上限賃金が最高額の平均値、下限賃金が最低額の平均値による。
- ・求職賃金は、計上月に受理（再受理を含む）された求職の希望賃金（希望税込額）の平均値による。
- ・福祉関連職業合計とは、職業分類13、144、145、146、161の職業及び介護関係職業（職業分類162、169、351、36）の集計を合計した値である。
- ・ハローワークインターネットサービスの機能拡充に伴い、令和3年9月以降の数値には、ハローワークに未登録、オンライン上で求職登録した求職者数が含まれている。

職業別有効求人・求職及び賃金の状況（常用） 広島労働局

（パートを除く）

職業	令和8年4月			令和8年4月		
	有効求人	有効求職	有効求人倍率	求 人	賃 金	求 職 賃 金
	(人)	(人)	(倍)	上限賃金 (円)	下限賃金 (円)	希望賃金 (円)
職業計	34,005	25,132	1.35	292,060	223,799	227,399
A 管理的職業従事者	121	67	1.81	384,691	287,173	289,444
B 専門的・技術的職業従事者	8,710	4,033	2.16	323,938	238,989	243,534
07 製造技術者（開発）	506	166	3.05	371,543	247,833	280,682
08 製造技術者（開発を除く）	385	293	1.31	334,287	242,730	236,892
09 建築・土木・測量技術者	1,220	180	6.78	438,043	256,030	293,208
10 情報処理・通信技術者	968	547	1.77	420,723	266,864	245,052
11 その他の技術者	81	41	1.98	342,688	227,624	247,500
12 医師、歯科医師、獣医師、薬剤師	184	66	2.79	465,113	342,118	338,889
13 保健師、助産師、看護師	1,645	780	2.11	278,786	231,138	246,754
14 医療技術者	862	270	3.19	295,328	244,076	237,206
15 その他の保健医療従事者	359	216	1.66	241,203	208,910	214,426
16 社会福祉専門職業従事者	2,155	655	3.29	267,969	221,085	223,390
22 美術家、デザイナー、写真家、映像撮影者	59	300	0.20	305,006	213,951	228,000
05.06.17～21.23.24その他の専門的職業	286	519	0.55	306,586	237,836	243,741
C 事務従事者	2,751	6,581	0.42	255,264	208,444	210,361
25 一般事務従事者	1,739	5,631	0.31	242,603	204,165	207,578
26 会計事務従事者	268	384	0.70	280,416	215,705	219,604
27 生産関連事務従事者	195	87	2.24	291,697	215,503	262,727
28 営業・販売事務従事者	256	245	1.04	259,927	212,001	228,438
29 外勤事務従事者	8	3	2.67	262,550	200,150	230,000
30 運輸・郵便事務従事者	244	45	5.42	276,328	221,289	240,000
31 事務用機器操作員	41	186	0.22	273,650	211,688	214,118
D 販売従事者	2,756	1,444	1.91	305,578	227,079	240,787
32 商品販売従事者	1,042	700	1.49	254,742	209,285	210,747
33 販売類似職業従事者	26	25	1.04	289,358	231,920	298,333
34 営業職業従事者	1,688	719	2.35	329,284	235,130	268,523
E サービス職業従事者	5,009	2,131	2.35	256,650	210,133	213,376
35 家庭生活支援サービス職業従事者	1	0	0.00	0	0	0
36 介護サービス職業従事者	2,157	761	2.83	248,590	203,122	208,973
37 保健医療サービス職業従事者	383	127	3.02	225,350	196,474	196,957
38 生活衛生サービス職業従事者	578	111	5.21	293,675	227,639	218,000
39 飲食物調理従事者	945	448	2.11	251,283	211,474	219,286
40 接客・給仕職業従事者	468	351	1.33	284,930	230,408	225,122
41 居住施設・ビル等管理人	30	130	0.23	237,035	210,405	185,455
42 その他のサービス職業従事者	447	203	2.20	276,484	218,073	227,391
F 保安職業従事者	1,431	197	7.26	227,061	208,582	208,409
G 農林漁業従事者	200	162	1.23	271,086	222,280	208,333
H 生産工程従事者	5,543	1,913	2.90	292,894	212,949	224,447
49 生産設備制御・監視従事者（金属製品）	75	100	0.75	271,299	216,496	223,214
50 生産設備制御・監視従事者（金属製品を除く）	83	50	1.66	269,770	214,820	226,667
51 機械組立設備制御・監視従事者	20	25	0.80	297,609	206,024	260,000
52 製品製造・加工処理従事者（金属製品）	1,482	428	3.46	290,253	209,281	230,928
53 製品製造・加工処理従事者（金属製品を除く）	836	378	2.21	246,280	204,000	206,812
54 機械組立従事者	1,225	309	3.96	268,612	212,074	220,462
55 機械整備・修理従事者	1,166	185	6.30	326,566	220,857	245,849
56 製品検査従事者（金属製品）	115	44	2.61	266,828	221,495	210,000
57 製品検査従事者（金属製品を除く）	65	27	2.41	240,744	193,459	230,000
58 機械検査従事者	39	25	1.56	273,260	209,038	201,667
59 生産関連・生産類似作業従事者	437	342	1.28	328,087	218,119	221,014
I 輸送・機械運転従事者	3,051	1,055	2.89	275,016	231,788	247,877
60 鉄道運転従事者	20	3	6.67	225,000	225,000	0
61 自動車運転従事者	2,457	754	3.26	274,353	233,889	251,435
62 船舶・航空機運転従事者	3	2	1.50	354,000	214,000	0
63 その他の輸送従事者	121	129	0.94	251,290	213,221	242,353
64 定置・建設機械運転従事者	450	167	2.69	284,832	227,875	234,048
J 建設・採掘従事者	2,721	440	6.18	336,620	227,663	266,471
65 建設躯体工事従事者	380	51	7.45	369,423	239,074	283,636
66 建設従事者（建設躯体工事従事者を除く）	666	154	4.32	337,278	227,156	267,317
67 電気工事従事者	821	128	6.41	324,736	221,064	259,565
68 土木作業従事者	848	104	8.15	334,686	230,016	264,615
69 採掘従事者	6	3	2.00	261,080	187,500	250,000
K 運搬・清掃・包装等従事者	1,712	2,481	0.69	250,947	210,661	211,659
70 運搬従事者	932	803	1.16	256,593	212,729	232,111
71 清掃従事者	389	347	1.12	243,092	207,944	193,400
72 包装従事者	58	69	0.84	212,934	196,221	180,000
73 その他の運搬・清掃・包装等従事者	333	1,262	0.26	248,800	209,746	200,765
分類不能の職業	0	4,628	0.00	0	0	238,345
参 福祉関連職業合計	5,640	1,980	2.85	—	—	—
考 （うち介護関係）	3,468	1,052	3.30	—	—	—

- ・平成21年12月改定の「日本標準職業分類」に基づく区分
- ・広島労働局管内の各ハローワークでの取扱い分による集計。それぞれ学卒及び臨時・季節を含まない。
- ・求人賃金は総額、求職賃金は希望税込額による。常用は月給相当、常用パートは時給相当である。
- ・求人賃金は、計上月に受理された求人により、上限賃金が最高額の平均値、下限賃金が最低額の平均値による。
- ・求職賃金は、計上月に受理（再受理を含む）された求職の希望賃金（希望税込額）の平均値による。
- ・福祉関連職業合計とは、職業分類13、144、145、146、161の職業及び介護関係職業（職業分類162、169、351、36）の集計を合計した値である。
- ・ハローワークインターネットサービスの機能拡充に伴い、令和3年9月以降の数値には、ハローワークに未所せず、オンライン上で求職登録した求職者数が含まれている。

春季賃金引上げ妥結状況（令和8年）

区 分	調査対象	令 和 8 年 集 計			令 和 7 年 集 計		
		集計組合数 集計組合員数	引上げ額	引上げ率	集計組合数 集計組合員数	引上げ額	引上げ率
連合広島	300人未満	32組合	13,255円	4.78%	39組合	12,807円	4.83%
		3,155人			4,153人		
	全体計	90組合	16,595円	5.08%	103組合	17,067円	5.48%
		44,956人			55,079人		
連 合	300人未満	3,391組合	12,929円	4.70%	3,677組合	12,361円	4.65%
		329,417人			348,833人		
	300人以上	1,471組合	16,981円	5.06%	1,485組合	16,920円	5.33%
		2,534,019人			2,613,828人		
	全体計	4,862組合	16,518円	5.02%	5,162組合	16,356円	5.25%
		2,863,436人			2,962,661人		
経 団 連	中小企業（従業員数 500人未満）	—	—	—	366社	11,999円	4.35%
	大手企業（従業員数 500人以上）	103社	19,964円	5.46%	139社	19,195円	5.39%
厚生労働省	民間主要企業	—	—	—	390社	18,629円	5.52%

資料出所

連合 2026年春季生活 闘争集計結果（加 重平均）	連合広島は令和8年6月29日発表の第7回集計結果。令和7年集計は令和7年7月23日発表の最終集計結果。 連合は令和8年6月4日発表の第6回集計結果。令和7年集計は令和7年7月3日発表の最終集計結果。
経団連 2026年春季労使 交渉回答状況【了 承・妥結含】（加重 平均）	中小企業については未公表（令和8年6月30日時点）。令和7年集計は令和7年8月28日発表の最終集計結果。 大手企業については令和8年5月27日発表の第1回集計結果。令和7年集計は令和7年8月6日発表の最終集計結果。
厚生労働省 令和7年民間主要 企業春季賃上げ要 求・妥結状況	集計対象は、妥結額（妥結上明らかにされた額）などを把握できた、資本金10億円以上かつ従業員1,000人以上の労働組合のある企業。 令和8年集計は未公表（令和8年6月30日時点）。令和7年集計は令和7年8月1日公表。



令和 8 年 3 月 24 日

【照会先】政策統括官付参事官付賃金福祉統計室

室 長 外山

室長補佐 野仲

賃金第一係

(代表電話) 03(5253)1111(内線 7656、7634)

(直通電話) 03(3595)3147

令和 7（2025）年賃金構造基本統計調査の概況

目 次	
調査の概要	1 頁
利用上の注意	3 頁
主な用語の定義	4 頁
結果の概要	
1 一般労働者の賃金	
(1) 賃金の推移	6 頁
(2) 性別にみた賃金	7 頁
(3) 学歴別にみた賃金	8 頁
(4) 企業規模別にみた賃金	9 頁
(5) 産業別にみた賃金	10 頁
(6) 雇用形態別にみた賃金	12 頁
(7) 勤続年数階級別にみた賃金	14 頁
(8) 役職別にみた賃金	15 頁
(9) 在留資格区分別にみた賃金	15 頁
(10) 新規学卒者の学歴別にみた賃金	16 頁
(11) 都道府県別にみた賃金	16 頁
2 短時間労働者の賃金	
(1) 性別にみた賃金	17 頁
(2) 企業規模別にみた賃金	18 頁
(3) 産業別にみた賃金	18 頁
統計表	19 頁

令和 7 年（2025）賃金構造基本統計調査の結果は、厚生労働省のホームページにも掲載しています。

アドレス (https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/chinginkouzou_a.html)

調査の概要

1 調査の目的

この調査は、統計法に基づく基幹統計「賃金構造基本統計」の作成を目的とする統計調査であり、主要産業に雇用される労働者について、その賃金の実態を労働者の雇用形態、就業形態、職種、性、年齢、学歴、勤続年数、経験年数別等に明らかにするものである。

2 調査の範囲

(1) 地域

日本全国（ただし、一部島しょ部を除く。）

(2) 産業

日本標準産業分類（平成 25 年 10 月改定）に基づく 16 大産業〔「鉱業、採石業、砂利採取業」、「建設業」、「製造業」、「電気・ガス・熱供給・水道業」、「情報通信業」、「運輸業、郵便業」、「卸売業、小売業」、「金融業、保険業」、「不動産業、物品賃貸業」、「学術研究、専門・技術サービス業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「生活関連サービス業、娯楽業」（その他の生活関連サービス業のうち家事サービス業を除く。）、「教育、学習支援業」、「医療、福祉」、「複合サービス事業」及び「サービス業（他に分類されないもの）」（外国公務を除く。）〕

(3) 事業所

事業所母集団データベース（令和 4 年次フレーム）の事業所を母集団として、上記(2)に掲げる産業に属し、5 人以上の常用労働者を雇用する民営事業所（5～9 人の事業所については企業規模が 5～9 人の事業所に限る。）及び 10 人以上の常用労働者を雇用する公営事業所から、都道府県、産業及び事業所規模別に無作為抽出した 79,321 事業所を客体とした。

3 調査事項

事業所の属性及び雇用形態別労働者数、企業全体の常用労働者数、労働者の性、雇用形態、就業形態、最終学歴、新規学卒者への該当性、年齢、勤続年数、役職、職種、経験年数、実労働日数、所定内実労働時間数、超過実労働時間数、きまって支給する現金給与額、超過労働給与額、令和 6（2024）年 1 月から令和 6 年 12 月までの 1 年間の賞与、期末手当等特別給与額、在留資格

4 調査の時期

令和 7（2025）年 6 月分の賃金等（賞与、期末手当等特別給与額については原則として令和 6 年（2024）1 月から令和 6 年 12 月までの 1 年間）について、令和 7 年 7 月に調査を行った。

5 調査の方法

調査票の配布は、複数の調査事業所を有し、これらの事業所の報告を一括して行うことを厚生労働大臣が指定する企業（以下「一括調査企業」という。）にあっては厚生労働省が業務を委託する民間事業者（以下「民間事業者」という。）から、一括調査企業に属する調査事業所以外の調査事業所（以下「一括調査企業以外の事業所」という。）にあっては厚生労働省から、それぞれ郵送することにより行った。

調査票の回収は、（ア）記入済みの調査票を郵送する方式、（イ）インターネットを利用したオンライン報告方式、（ウ）調査票の様式により記入した光ディスクを郵送する方式のうちいずれかの方法により、以下のとおり回収した。

- (1) 一括調査企業
 - (ア) 及び(ウ)については民間事業者が、(イ)については厚生労働省が回収した。
- (2) 一括調査企業以外の事業所
 - (ア) 及び(ウ)については都道府県労働局又は労働基準監督署が郵送により回収した。
 - ただし、一部の事業所については、都道府県労働局若しくは労働基準監督署の職員又は統計調査員が訪問し、回収した。(イ)については厚生労働省が回収した。

6 集計・推計方法

都道府県、産業、事業所規模ごとに復元倍率を算出し、復元倍率を用いて集計した労働者数の加重平均により賃金等を算出した。

7 調査系統

- (1) 一括調査企業
 - (ア) 調査票の配布
 - 厚生労働省 — 民間事業者 — 報告者
 - (イ) 調査票の回収
 - (オンライン調査以外)
 - 厚生労働省 — 民間事業者 — 報告者
 - (オンライン調査)
 - 厚生労働省 — 報告者
- (2) 一括調査企業以外の事業所
 - (ア) 調査票の配布
 - 厚生労働省 — 報告者
 - (イ) 調査票の回収
 - (オンライン調査以外)
 - 厚生労働省 — 都道府県労働局 — (労働基準監督署) — (調査員・職員) — 報告者
 - (オンライン調査)
 - 厚生労働省 — 報告者

8 調査対象数、有効回答数及び有効回答率

調査対象数：79,321 事業所 有効回答数：59,836 事業所 有効回答率：75.4%

なお、本概況では、有効回答を得た59,836事業所のうち、10人以上の常用労働者を雇用する民営事業所(52,242事業所)について集計した。

利用上の注意

- 1 本概況に用いている「賃金」は、令和7(2025)年6月分として支払われた所定内給与額の平均をいう。
- 2 賃金カーブとは、年齢（階級）とともに変化する賃金の状況をグラフで表したものをいう。
- 3 年齢階級別の図の線上の●印は賃金のピークを示す。
- 4 統計表に用いている符号等
「*」は、調査回答数が少ない等、利用に際し注意を要する場合を示す。
「…」は、計数を表章することが不適当な場合を示す。
「―」は、該当する数値がない場合を示す。
- 5 本概況では、10人以上の常用労働者を雇用する民営事業所について、次の要件を満たす常用労働者を集計している。
 - (1) 調査対象期日の令和7(2025)年6月30日（給与締切日の定めがある場合には、6月における最終給与締切日）現在において、年齢が満15歳以上のもの。
 - (2) 令和7(2025)年6月分の給与の算定期間（例えば、毎月25日が給与締切日であれば、5月26日～6月25日の期間、給与締切日がない場合は、6月1日～6月30日の期間）中に、実労働日数が18日以上であって、1日当たりの所定内実労働時間数が5時間以上のもの（ただし、短時間労働者については、1日以上であって、1日当たり1時間以上9時間未満のもの。）。
 - (3) 令和7(2025)年6月分の所定内給与額が50.0千円以上のもの（ただし、短時間労働者については、1時間当たり所定内給与額が400円以上のもの。）。

主な用語の定義

「常用労働者」

次のいずれかに該当する労働者をいう。

- (1) 期間を定めずに雇われている労働者
- (2) 1か月以上の期間を定めて雇われている労働者

「賃金」

本概況に用いている「賃金」は、調査実施年6月分の所定内給与額の平均をいう。

「所定内給与額」とは、労働契約等であらかじめ定められている支給条件、算定方法により6月分として支給された現金給与額（きまって支給する現金給与額）のうち、超過労働給与額（①時間外勤務手当、②深夜勤務手当、③休日出勤手当、④宿日直手当、⑤交替手当として支給される給与をいう。）を差し引いた額で、所得税等を控除する前の額をいう。

「1時間当たり賃金」

短時間労働者について、労働者ごとに賃金を所定内実労働時間数で除したものを平均した額をいう。

「企業規模」

調査労働者の属する企業の全常用労働者数の規模をいい、本概況では、常用労働者1,000人以上を「大企業」、100～999人を「中企業」、10～99人を「小企業」に区分している。

「就業形態」

常用労働者を「一般労働者」と「短時間労働者」に区分している。

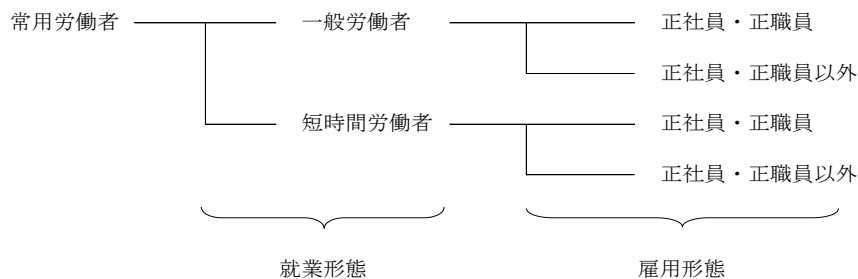
「一般労働者」とは、「短時間労働者」に該当しない通常の所定労働時間・日数の労働者をいう。

「短時間労働者」とは、同一事業所の一般の労働者より1日の所定労働時間が短い又は1日の所定労働時間が同じでも1週の所定労働日数が少ない労働者をいう。

「雇用形態」

常用労働者を「正社員・正職員」と「正社員・正職員以外」に区分している。

「正社員・正職員」とは、事業所で正社員、正職員とする者をいい、「正社員・正職員以外」とは、正社員・正職員に該当しない者をいう。



「年齢」

調査対象期日現在の満年齢の平均をいう。

「勤続年数」

労働者がその企業に雇い入れられてから調査対象期日までに勤続した年数の平均をいう。

「役職」

一般労働者のうち、雇用期間の定めのない者について、役職者を「部長級」、「課長級」、「係長級」等の階級に区分し、役職者以外の者を「非役職者」としている。

「在留資格区分」

常用労働者のうち外国人労働者について、出入国管理及び難民認定法に定める在留資格に基づき、以下のとおり区分している。ただし、特別永住者及び外交又は公用の在留資格をもって在留する者を除く。

在留資格区分	含まれる在留資格
専門的・技術的分野（特定技能を除く）	教授、芸術、宗教、報道、高度専門職、経営・管理、法律・会計業務、医療、研究、教育、技術・人文知識・国際業務、企業内転勤、介護、興行、技能
特定技能	特定技能1号、特定技能2号
身分に基づくもの	永住者、日本人の配偶者等、永住者の配偶者等、定住者
技能実習	技能実習
留学（資格外活動）	留学
その他（特定活動及び留学以外の資格外活動）	文化活動、短期滞在、研修、家族滞在、特定活動

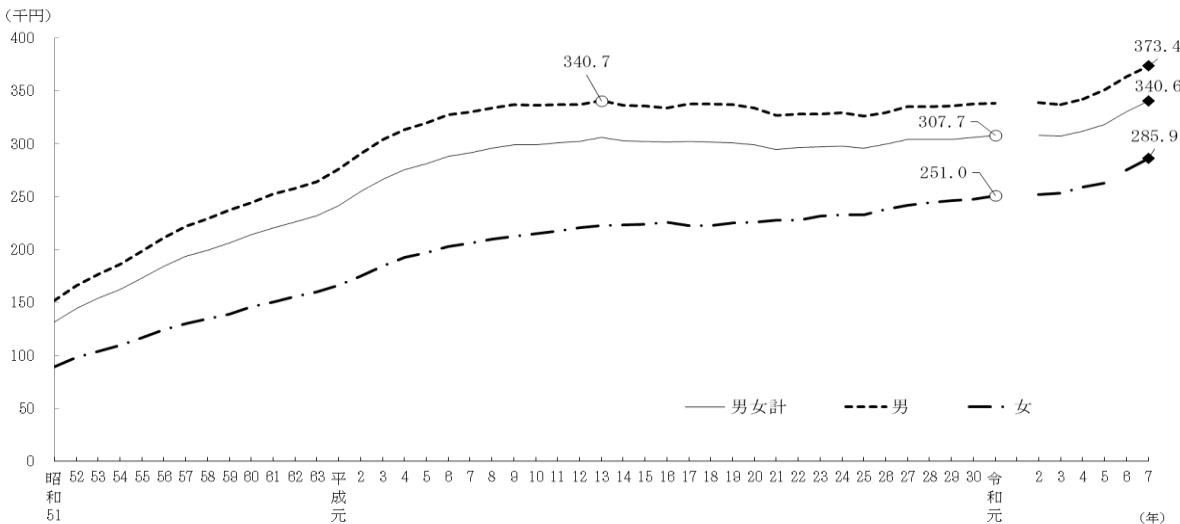
結果の概要

1 一般労働者の賃金

(1) 賃金の推移

賃金は、男女計 340.6 千円、男性 373.4 千円、女性 285.9 千円となっている。
男女間賃金格差（男＝100）は、76.6 となっている。（第 1 図、第 1 表、付表 1）

第 1 図 性別賃金の推移



注： 1）平成30(2018)年以前は、調査対象産業「宿泊業、飲食サービス業」のうち「バー、キャバレー、ナイトクラブ」を除外している。
2）令和 2 (2020) 年から有効回答率を考慮した推計方法に変更している。
3）線上の○印は令和元(2019)年以前における賃金のピークを、◆印は本概況での公表値を示す。

第 1 表 性別賃金、対前年増減率及び男女間賃金格差、対前年差の推移

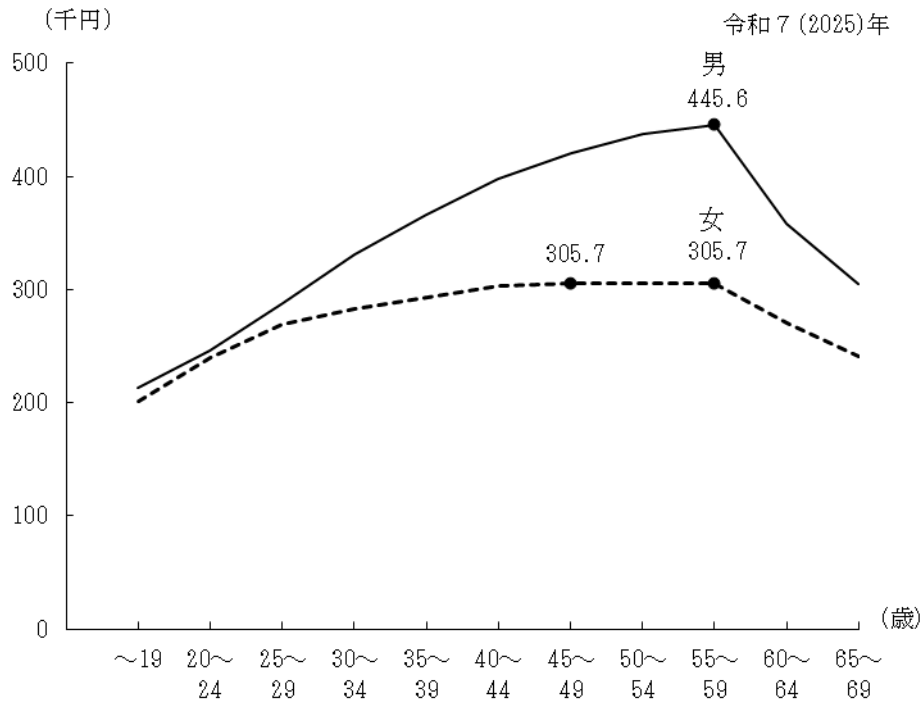
年 ¹⁾	男女計		男		女		男女間賃金格差 (男＝100)	
	賃金 (千円)	対前年 増減率 ²⁾ (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 ²⁾ (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 ²⁾ (%)	賃金格差 (男＝100)	対前年差 ²⁾ (ポイント)
平成 13 (2001) 年	305.8	1.2	340.7	1.2	222.4	0.8	65.3	-0.2
14 (2002)	302.6	-1.0	336.2	-1.3	223.6	0.5	66.5	1.2
15 (2003)	302.1	-0.2	335.5	-0.2	224.2	0.3	66.8	0.3
16 (2004)	301.6	-0.2	333.9	-0.5	225.6	0.6	67.6	0.8
17 (2005)	302.0	0.1	337.8	1.2	222.5	-1.4	65.9	-1.7
18 (2006)	301.8	-0.1	337.7	0.0	222.6	0.0	65.9	0.0
19 (2007)	301.1	-0.2	336.7	-0.3	225.2	1.2	66.9	1.0
20 (2008)	299.1	-0.7	333.7	-0.9	226.1	0.4	67.8	0.9
21 (2009)	294.5	-1.5	326.8	-2.1	228.0	0.8	69.8	2.0
22 (2010)	296.2	0.6	328.3	0.5	227.6	-0.2	69.3	-0.5
23 (2011)	296.8	0.2	328.3	0.0	231.9	1.9	70.6	1.3
24 (2012)	297.7	0.3	329.0	0.2	233.1	0.5	70.9	0.3
25 (2013)	295.7	-0.7	326.0	-0.9	232.6	-0.2	71.3	0.4
26 (2014)	299.6	1.3	329.6	1.1	238.0	2.3	72.2	0.9
27 (2015)	304.0	1.5	335.1	1.7	242.0	1.7	72.2	0.0
28 (2016)	304.0	0.0	335.2	0.0	244.6	1.1	73.0	0.8
29 (2017)	304.3	0.1	335.5	0.1	246.1	0.6	73.4	0.4
30 (2018)	306.2	0.6	337.6	0.6	247.5	0.6	73.3	-0.1
令和 元 (2019)	307.7	0.5	338.0	0.1	251.0	1.4	74.3	1.0
※令和 元 (2019) 年 ²⁾	306.0	...	336.1	...	249.8	...	74.3	...
2 ²⁾ (2020)	307.7	0.6	338.8	0.8	251.8	0.8	74.3	0.0
3 (2021)	307.4	-0.1	337.2	-0.5	253.6	0.7	75.2	0.9
4 (2022)	311.8	1.4	342.0	1.4	258.9	2.1	75.7	0.5
5 (2023)	318.3	2.1	350.9	2.6	262.6	1.4	74.8	-0.9
6 (2024)	330.4	3.8	363.1	3.5	275.3	4.8	75.8	1.0
7 (2025)	340.6	3.1	373.4	2.8	285.9	3.9	76.6	0.8

注： 1）平成30(2018)年以前は、調査対象産業「宿泊業、飲食サービス業」のうち「バー、キャバレー、ナイトクラブ」を除外している。
2）令和 2 (2020) 年から有効回答率を考慮した推計方法に変更しているため、令和 2 年の対前年増減率及び対前年差（ポイント）は、同じ推計方法で集計した令和元年の数値を基に算出している。
「※令和元(2019)年²⁾」は、令和 2 年と同じ推計方法で集計した令和元年の数値を参考として掲載したものである。

(2) 性別にみた賃金

男女別に賃金カーブをみると、男性では、55～59 歳で 445.6 千円（20～24 歳の賃金を 100 とすると 181.4）と賃金がピークとなり、その後下降している。女性では、45～49 歳及び 55～59 歳の 305.7 千円（同 127.6）が最も高くなっており、男性に比べ賃金の上昇が緩やかとなっている。（第 2 図、第 2 表）

第 2 図 性、年齢階級別賃金



第 2 表 性、年齢階級別賃金、対前年増減率及び年齢階級間賃金格差

年齢階級	男女計			男			女		
	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	年齢階級間 賃金格差 (20～24歳 =100)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	年齢階級間 賃金格差 (20～24歳 =100)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	年齢階級間 賃金格差 (20～24歳 =100)
年齢計 ¹⁾	340.6	3.1	140.3	373.4	2.8	152.0	285.9	3.9	119.3
～19歳	208.3	4.5	85.8	212.5	4.4	86.5	201.4	5.3	84.1
20～24	242.8	4.4	100.0	245.7	4.9	100.0	239.6	3.9	100.0
25～29	279.4	4.6	115.1	288.0	4.8	117.2	268.8	4.1	112.2
30～34	312.3	4.3	128.6	330.4	4.5	134.5	283.2	4.3	118.2
35～39	340.6	3.6	140.3	366.2	3.9	149.0	292.4	2.8	122.0
40～44	364.3	3.7	150.0	398.2	3.3	162.1	303.6	5.3	126.7
45～49	377.9	1.4	155.6	420.7	1.1	171.2	305.7	2.6	127.6
50～54	388.8	2.2	160.1	437.5	2.2	178.1	305.4	3.4	127.5
55～59	396.2	1.1	163.2	445.6	0.3	181.4	305.7	4.0	127.6
60～64	329.3	3.7	135.6	358.5	4.0	145.9	270.8	4.2	113.0
65～69	285.3	3.6	117.5	304.3	3.4	123.9	240.7	2.9	100.5
年齢(歳)	44.4			45.2			43.2		
勤続年数(年)	12.7			14.2			10.4		

注： 1) 年齢計には70歳以上の労働者を含む。

(3) 学歴別にみた賃金

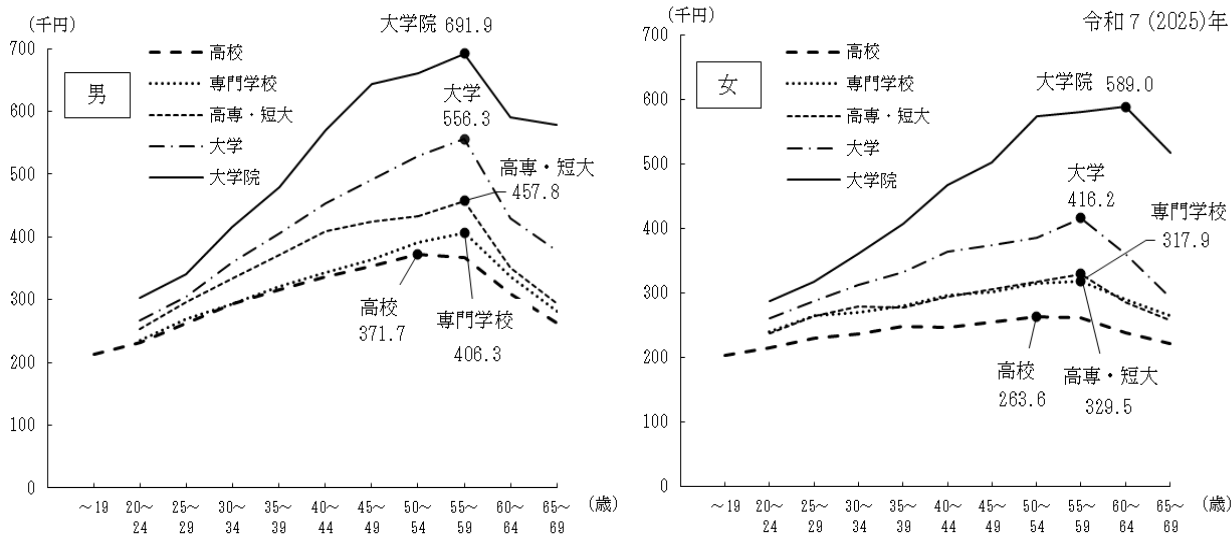
学歴別に賃金をみると、男女計では、高校 297.2 千円、専門学校 313.7 千円、高専・短大 321.2 千円、大学 396.3 千円、大学院 517.4 千円となっている。男女別にみると、男性では、高校 321.7 千円、大学 429.6 千円、女性では、高校 245.0 千円、大学 327.4 千円となっている。（第3表、第3図）

第3表 学歴、性、年齢階級別賃金及び対前年増減率

性、年齢階級		高校		専門学校		高専・短大		大学		大学院	
		賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)
男女計	年齢計 ¹⁾	297.2	2.9	313.7	2.2	321.2	4.6	396.3	2.7	517.4	4.1
	～19歳	209.4	4.8	—	—	—	—	—	—	—	—
	20～24	225.2	3.6	238.4	3.2	243.3	5.6	263.9	5.2	298.8	4.4
	25～29	251.7	3.6	266.8	4.2	277.2	7.2	296.4	4.4	335.0	7.5
	30～34	276.2	4.1	282.2	2.1	301.7	7.9	340.3	4.6	406.1	4.7
	35～39	296.6	4.8	302.7	2.0	313.4	4.8	382.2	2.4	466.6	3.9
	40～44	309.0	2.6	321.6	1.8	336.9	8.0	425.3	4.7	553.7	5.4
	45～49	322.2	1.7	334.0	-0.9	340.8	3.2	458.4	-0.2	617.8	4.1
	50～54	335.1	2.3	357.0	2.0	349.0	2.3	494.9	0.7	648.3	1.4
	55～59	332.1	0.2	363.7	2.3	364.0	4.5	529.1	0.4	676.2	-0.3
	60～64	286.7	4.9	310.2	1.6	304.1	4.1	420.2	3.8	589.8	1.6
	65～69	250.9	3.5	272.4	0.6	269.0	-1.7	367.5	5.2	571.3	-2.5
	年齢(歳)	46.8		43.7		44.6		41.8		42.5	
男	年齢計 ¹⁾	321.7	2.7	338.3	2.1	375.3	3.0	429.6	2.8	534.8	4.1
	～19歳	213.7	5.2	—	—	—	—	—	—	—	—
	20～24	231.1	3.5	236.0	4.3	252.4	5.2	267.4	6.3	302.0	4.6
	25～29	262.3	3.8	268.8	4.4	296.5	7.0	305.1	5.1	341.0	7.8
	30～34	293.0	4.5	293.4	2.2	333.5	7.1	358.9	5.4	416.2	4.8
	35～39	315.9	4.5	321.2	2.5	372.1	6.2	405.9	3.3	479.8	4.6
	40～44	336.3	2.5	343.1	0.5	409.5	8.2	452.8	4.6	569.7	4.9
	45～49	353.9	1.6	362.8	-0.6	425.1	2.9	491.4	-0.4	644.4	4.3
	50～54	371.7	2.5	391.6	1.9	433.6	0.4	528.8	1.4	660.9	-0.1
	55～59	367.4	-0.5	406.3	2.6	457.8	0.9	556.3	1.2	691.9	-0.6
	60～64	309.2	5.4	336.0	1.5	350.7	4.3	430.3	4.0	590.0	2.9
	65～69	263.4	2.4	281.8	3.4	293.6	-4.4	377.5	6.6	579.4	-6.7
	年齢(歳)	46.8		44.0		42.9		43.8		42.9	
	勤続年数(年)	15.4		13.6		14.4		13.9		13.0	
女	年齢計 ¹⁾	245.0	3.1	287.5	2.2	294.4	3.6	327.4	3.9	438.2	4.1
	～19歳	202.2	4.7	—	—	—	—	—	—	—	—
	20～24	214.6	3.7	240.2	2.6	237.5	4.7	260.4	4.1	288.0	3.6
	25～29	230.0	2.8	265.0	4.0	264.5	5.4	286.9	3.7	317.1	7.1
	30～34	236.0	2.9	269.6	1.9	279.2	7.5	311.5	3.8	361.3	4.6
	35～39	248.5	5.7	279.1	1.5	277.3	2.5	332.4	0.3	406.7	0.9
	40～44	246.8	2.2	296.4	5.1	293.2	2.6	363.7	7.3	466.7	4.1
	45～49	253.9	2.8	300.9	-1.0	305.3	0.7	373.8	2.2	503.2	4.9
	50～54	263.6	3.0	314.3	2.2	317.3	2.7	386.3	1.3	574.7	9.9
	55～59	261.0	1.5	317.9	-0.1	329.5	5.7	416.2	3.1	580.6	4.0
	60～64	238.8	3.6	289.7	2.4	286.3	4.6	360.1	4.1	589.0	-4.9
	65～69	220.9	4.1	264.1	-2.1	257.5	0.5	292.0	-4.6	517.8	12.7
	年齢(歳)	46.6		43.4		45.5		37.6		40.8	
	勤続年数(年)	11.6		10.1		12.7		8.7		9.0	

注： 1) 年齢計には70歳以上の労働者を含む。

第3図 学歴、性、年齢階級別賃金



(4) 企業規模別にみた賃金

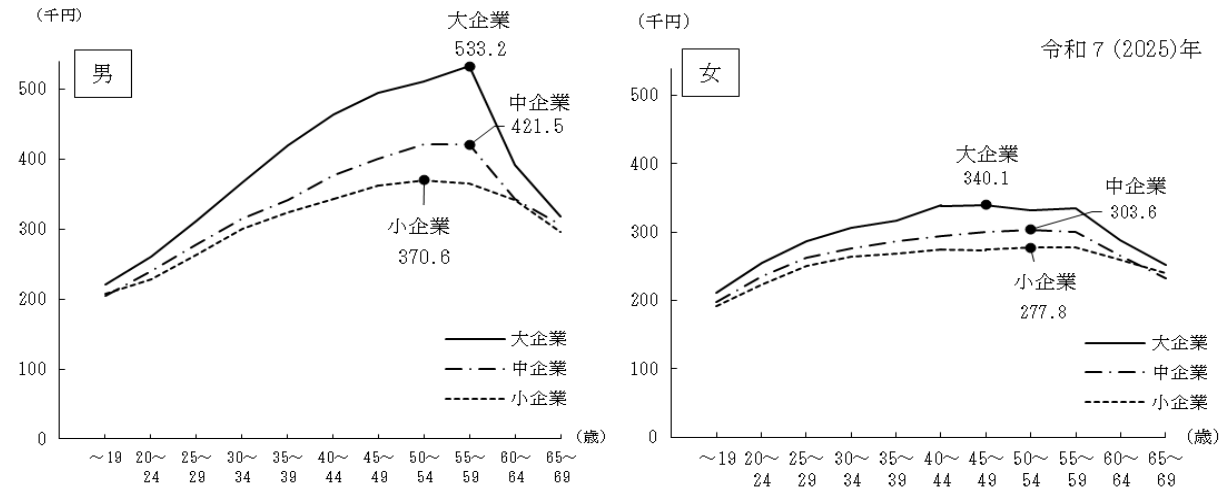
企業規模別に賃金をみると、男女計では、大企業 385.1 千円、中企業 326.2 千円、小企業 305.6 千円となっている。男女別にみると、男性では、大企業 428.0 千円、中企業 356.0 千円、小企業 329.6 千円、女性では、大企業 310.8 千円、中企業 280.1 千円、小企業 264.0 千円となっている。（第4表、第4図）

第4表 企業規模、性、年齢階級別賃金、対前年増減率及び企業規模間賃金格差

令和7(2025)年									
性、年齢階級		大企業		中企業			小企業		
		賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	企業規模間 賃金格差 ¹⁾ 【大企業=100】	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	企業規模間 賃金格差 ¹⁾ 【大企業=100】
男女計	年齢計 ²⁾	385.1	5.7	326.2	1.0	84.7 (88.6)	305.6	2.1	79.4 (82.1)
	～19歳	218.4	5.8	202.6	4.3	92.8 (94.1)	201.9	3.8	92.4 (94.2)
	20～24	258.4	5.6	237.6	4.5	92.0 (92.9)	226.3	2.0	87.6 (90.6)
	25～29	301.7	5.9	270.6	4.6	89.7 (90.8)	258.2	2.4	85.6 (88.5)
	30～34	344.6	5.7	299.4	4.0	86.9 (88.3)	286.5	2.8	83.1 (85.5)
	35～39	386.3	4.5	322.3	2.9	83.4 (84.7)	305.3	2.9	79.0 (80.3)
	40～44	422.0	6.5	346.1	1.8	82.0 (85.8)	318.9	1.6	75.6 (79.2)
	45～49	439.3	4.7	362.1	-0.6	82.4 (86.8)	330.0	0.1	75.1 (78.6)
	50～54	447.6	5.3	376.0	-0.7	84.0 (89.1)	336.6	2.0	75.2 (77.6)
	55～59	465.9	2.9	376.7	-2.2	80.9 (85.1)	335.1	0.7	71.9 (73.5)
	60～64	357.7	7.5	316.2	-0.2	88.4 (95.2)	315.7	3.7	88.3 (91.5)
	65～69	294.6	7.1	284.6	1.0	96.6 (102.4)	281.0	4.0	95.4 (98.3)
	年齢(歳)	43.4		44.1			46.0		
	勤続年数(年)	14.1		12.4			11.5		
男	年齢計 ²⁾	428.0	6.1	356.0	0.1	83.2 (88.2)	329.6	1.6	77.0 (80.4)
	～19歳	221.7	5.5	205.5	4.3	92.7 (93.7)	207.9	4.2	93.8 (94.9)
	20～24	261.3	6.7	240.3	4.4	92.0 (94.0)	229.0	1.9	87.6 (91.8)
	25～29	312.2	7.0	278.0	4.3	89.0 (91.3)	263.6	1.3	84.4 (89.2)
	30～34	366.4	6.6	315.4	4.1	86.1 (88.2)	300.4	1.7	82.0 (85.9)
	35～39	420.0	5.8	342.3	2.8	81.5 (83.9)	324.6	2.0	77.3 (80.2)
	40～44	464.8	6.1	376.8	1.7	81.1 (84.6)	343.3	0.5	73.9 (78.0)
	45～49	495.1	5.2	400.6	-1.5	80.9 (86.4)	362.1	-0.4	73.1 (77.2)
	50～54	511.2	5.6	420.8	-1.5	82.3 (88.2)	370.6	1.8	72.5 (75.2)
	55～59	533.2	3.7	421.5	-4.2	79.1 (85.6)	366.1	0.0	68.7 (71.2)
	60～64	391.9	9.3	343.4	-0.7	87.6 (96.5)	341.8	3.7	87.2 (91.9)
	65～69	317.9	9.1	307.0	0.6	96.6 (104.8)	295.9	3.4	93.1 (98.2)
	年齢(歳)	43.9		44.9			46.9		
	勤続年数(年)	15.9		13.8			12.5		
女	年齢計 ²⁾	310.8	4.8	280.1	3.2	90.1 (91.5)	264.0	3.3	84.9 (86.1)
	～19歳	211.9	7.9	198.6	4.2	93.7 (97.1)	192.2	3.9	90.7 (94.2)
	20～24	255.1	4.3	234.9	4.7	92.1 (91.7)	223.2	2.2	87.5 (89.3)
	25～29	287.5	4.1	262.3	5.1	91.2 (90.3)	251.3	4.0	87.4 (87.5)
	30～34	306.7	3.9	275.6	4.6	89.9 (89.3)	264.0	5.1	86.1 (85.1)
	35～39	316.9	0.9	287.5	3.3	90.7 (88.6)	269.2	4.8	84.9 (81.8)
	40～44	339.5	8.0	294.1	2.9	86.6 (90.9)	275.2	4.8	81.1 (83.5)
	45～49	340.1	4.6	300.9	2.0	88.5 (90.7)	274.8	0.8	80.8 (83.8)
	50～54	332.2	4.4	303.6	2.6	91.4 (93.0)	277.8	3.9	83.6 (84.0)
	55～59	335.6	4.9	300.2	3.1	89.5 (91.1)	277.4	2.1	82.7 (84.9)
	60～64	288.0	7.3	266.0	2.3	92.4 (96.9)	259.0	2.7	89.9 (94.0)
	65～69	252.9	3.5	232.4	0.4	91.9 (94.7)	239.9	4.2	94.9 (94.2)
	年齢(歳)	42.4		42.8			44.5		
	勤続年数(年)	11.1		10.2			9.8		

注： 1) () 内は、令和6(2024)年の数値である。
2) 年齢計には70歳以上の労働者を含む。

第4図 企業規模、性、年齢階級別賃金



(5) 産業別にみた賃金

産業別に賃金をみると、男女計では、「電気・ガス・熱供給・水道業」（444.0 千円）が最も高く、次いで「学術研究、専門・技術サービス業」（440.3 千円）となっており、「宿泊業、飲食サービス業」（277.2 千円）が最も低くなっている（第5－1表、第5－2表、第5図）。

第5－1表 産業、年齢階級別賃金及び対前年増減率

令和7(2025)年

年齢階級			鉱業、採石業、砂利採取業		建設業		製造業		電気・ガス・熱供給・水道業		情報通信業		運輸業、郵便業		卸売業、小売業		金融業、保険業	
			賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)
男女計	賃金 (千円)	年齢計 ¹⁾	388.3	4.3	366.3	3.9	330.0	3.6	444.0	1.5	406.0	3.8	312.7	2.6	349.1	1.6	437.0	6.4
		～19歳	235.0	10.6	221.5	8.8	209.0	5.5	214.2	4.9	205.0	2.3	211.7	3.5	198.3	-0.7	203.2	10.5
		20～24	285.1	6.6	250.5	4.9	227.1	4.8	260.7	6.7	262.2	5.3	241.4	2.8	241.0	4.5	266.5	6.4
		25～29	327.0	0.8	292.8	7.2	259.3	3.8	309.9	3.8	308.7	7.3	278.2	4.4	272.7	2.5	309.6	3.8
		30～34	396.5	12.8	330.9	8.0	291.2	3.1	379.5	2.4	363.4	3.9	306.9	5.1	302.2	3.2	378.6	5.4
		35～39	435.1	9.7	361.9	6.4	324.4	3.4	448.8	4.5*	410.1	4.9	324.3	5.3	336.7	2.8	448.7	7.0
		40～44	492.0	12.3	380.5	6.3	351.8	2.9	500.4	5.9	456.8	3.9	344.6	8.1	361.5	-0.5	494.1	6.4
		45～49	410.0	6.5	397.3	-0.5	372.8	4.6	524.7	3.5	491.7	3.6	335.5	2.6	385.4	-2.8	521.2	6.9
		50～54	401.0	-4.7	429.8	5.5	384.7	2.8	548.0	-1.5	491.3	1.3	335.2	2.3	418.1	0.4	532.7	7.3
		55～59	412.6	3.5	447.2	2.3	399.2	2.2	583.3	3.5	516.3	-0.8	324.3	-2.8	423.4	-0.7	495.9	5.1
		60～64	339.5	-2.4	389.5	-0.1	304.0	3.2	334.6	4.9	451.5	36.4	289.7	3.8	332.9	5.3	382.5	5.6
		65～69	295.7	8.2	329.3	-1.1	259.4	4.7	313.4	4.7*	385.8	25.5	252.7	3.0	261.8	3.1	370.4	6.8
	年齢(歳)		48.5		45.5		44.1		43.1		40.2		48.7		44.3		44.2	
	勤続年数(年)		13.9		13.7		15.3		17.6		12.3		12.9		14.5		14.6	
男女計	賃金 (千円)	年齢計 ¹⁾	360.1	-3.1	440.3	9.6	277.2	2.9	295.2	3.3	379.4	0.9	315.7	3.0	319.0	3.9	284.9	-0.3
		～19歳	208.1	1.9	219.5	12.3	204.7	5.2	208.1	4.0	199.1	5.7	192.4	-3.3	206.7	9.8	208.2	0.7
		20～24	261.7	0.8	280.1	14.2	224.6	1.6	229.8	2.4	240.9	3.6	249.0	2.0	224.2	5.0	235.0	5.8
		25～29	298.2	1.9	335.8	13.8	250.5	3.0	269.4	6.6	272.9	2.0	277.3	0.9	247.2	3.4	260.6	6.5
		30～34	337.3	-0.1	406.6	15.2	270.0	2.6	285.8	4.3	312.1	0.5	298.8	0.8	272.5	5.3	274.6	4.3
		35～39	371.7	-10.8	440.5	10.7	286.4	1.2	308.9	4.5	354.3	1.2	321.5	4.7	304.4	5.8	283.2	-2.1
		40～44	399.2	-3.6	484.8	11.5	302.3	2.4	324.0	0.5	381.3	-1.7	328.6	6.0	326.5	4.2	302.2	0.0
		45～49	414.3	-3.0	525.6	14.7	327.3	6.6	338.4	2.2	413.4	-1.6	330.0	-0.1	357.2	3.2	308.6	-5.2
		50～54	431.1	-0.2	489.2	2.0	312.7	2.4	336.8	6.3	445.3	1.9	337.0	3.2	379.7	2.7	312.8	-1.0
		55～59	414.6	-7.2	536.7	8.1	304.8	4.2	330.4	4.2	473.3	1.5	347.8	4.3	376.5	-1.1	311.7	-2.5
		60～64	334.6	-1.5	425.5	3.4	265.7	0.4	275.4	4.2	457.3	1.4	323.3	1.4	264.2	9.7	275.4	-0.3
		65～69	259.8	3.4	388.3	3.9	228.8	1.1	232.8	8.1	420.9	-0.3	318.8	5.0	222.2	9.3	241.9	-0.3
	年齢(歳)		43.9		42.9		43.1		42.3		44.2		44.0		44.9		45.9	
	勤続年数(年)		10.7		12.1		9.6		10.6		11.7		9.9		16.8		9.3	

注：1) 年齢計には70歳以上の労働者を含む。

第5－2表 産業、性、年齢階級別賃金及び対前年増減率

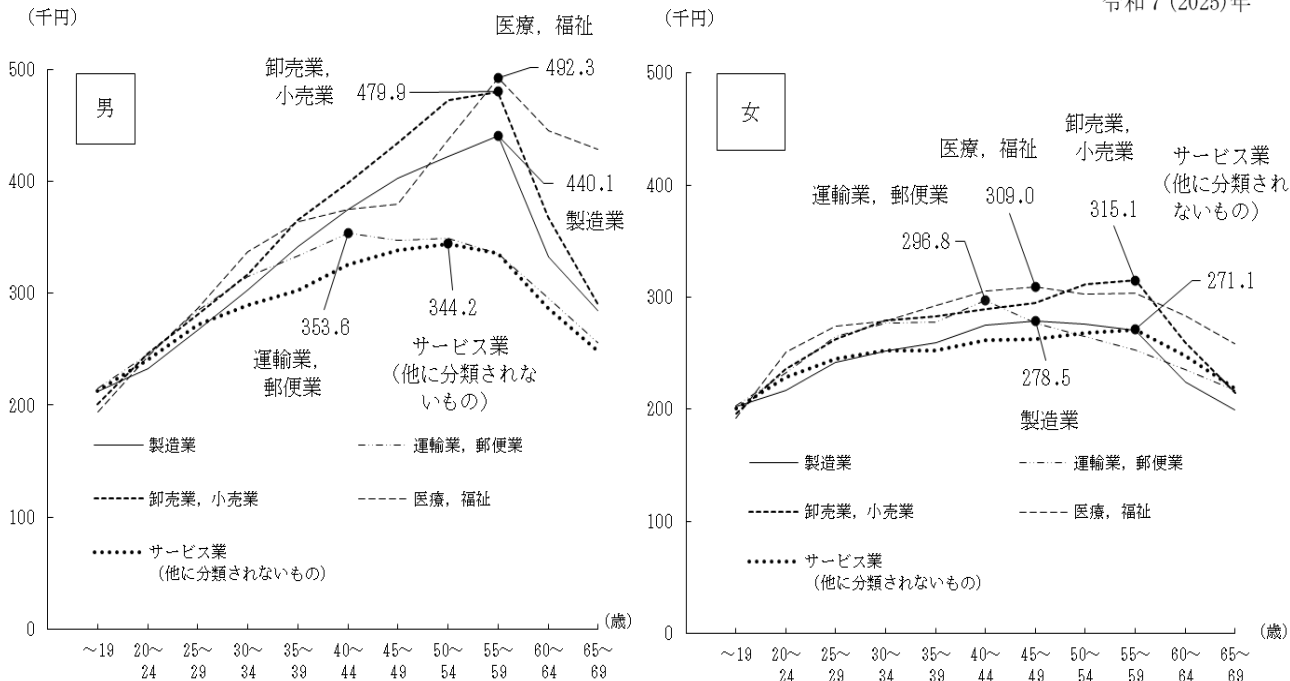
令和7(2025)年

性、年齢階級		鉱業、採石業、砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業	金融業、保険業	不動産業、物品賃貸業	学術研究、専門・技術サービス業	宿泊業、飲食サービス業	生活関連サービス業、娯楽業	教育、学習支援業	医療、福祉	複合サービス事業	サービス業（他に分類されないもの）
男	年齢計 ¹⁾	395.2	379.6	355.9	454.5	428.1	322.3	388.4	553.3	394.5	477.9	309.7	328.2	444.8	378.0	344.3	302.8
	～19歳	229.6	222.2	212.2	215.4	204.5	215.4	200.5*	172.2	207.3	224.8	209.3	199.8	206.6	193.9	220.5	213.3
	20～24	275.5	249.6	232.3	260.9	264.5	246.0	245.9	276.0	267.6	282.7	226.6	229.9	244.1	243.5	233.3	240.1
	25～29	327.0	296.0	267.0	310.3	312.4	284.0	281.4	339.8	314.9	343.1	259.0	278.2	290.6	285.9	256.0	272.1
	30～34	392.5	339.2	302.7	383.5	374.1	314.7	316.9	449.9	359.4	429.5	288.6	302.4	348.0	336.8	282.8	289.8
	35～39	451.2	375.1	341.6	456.5*	423.5	333.6	365.2	583.5	400.6	468.0	306.3	335.8	401.5	363.5	316.1	302.3
	40～44	493.3	396.9	374.6	513.5	473.8	353.6	398.1	652.4	441.8	533.0	332.2	358.6	441.5	374.9	343.9	325.1
	45～49	419.7	419.7	402.8	538.9	518.0	347.1	434.6	715.8	467.0	583.9	371.1	378.3	489.3	379.3	382.3	338.2
	50～54	422.2	452.9	422.4	566.9	515.8	348.7	472.5	711.2	489.3	541.1	355.6	382.7	521.9	436.9	411.9	344.2
	55～59	417.2	468.1	440.1	599.9	542.1	335.2	479.9	642.8	471.4	589.7	352.5	379.7	539.5	492.3	417.5	335.5
	60～64	347.6	402.2	332.2	342.3	470.8	295.2	367.8	429.6	359.6	452.8	302.8	302.1	495.5	445.2	278.8	286.5
	65～69	304.1	339.5	284.7	314.6*	399.5	255.8	289.4	373.5	266.7	399.4	256.9	241.9	435.7	428.3	232.0	247.7
	賃金(年齢計)の対前年増減率(%)	4.0	3.8	3.5	0.7	3.8	3.2	0.6	7.6	-5.2	9.8	2.9	3.1	2.7	2.6	3.2	-1.5
	年齢(歳)	48.8	45.8	44.3	43.4	41.3	49.5	45.1	44.4	45.1	43.8	44.0	44.1	47.1	43.8	45.7	46.9
	勤続年数(年)	14.1	14.3	16.4	18.1	13.4	13.5	16.2	16.7	11.7	13.2	10.7	11.9	13.3	10.6	18.1	10.2
女	年齢計 ¹⁾	345.8	292.2	254.2	382.0*	350.3	263.2	281.6	339.1	301.0	353.5	239.6	256.9	322.8	289.7	266.6	254.6
	～19歳*	277.4	216.3	202.5	206.9	205.5	202.8	196.2	207.3	208.7	202.1	200.6	212.8	189.8	191.8	200.7	200.5
	20～24	322.9	255.2	216.8	259.8	257.5	232.8	235.6	258.2	254.7	276.0	223.2	229.7	240.0	250.6	215.2	228.4
	25～29	327.6	277.2	241.3	308.3	302.6	264.4	262.4	286.1	278.1	324.1	241.6	261.7	264.7	274.3	236.8	244.6
	30～34	415.6	283.9	252.2	353.2	343.3	276.5	279.3	320.6	302.2	359.6	250.2	265.2	284.4	278.8	250.9	252.8
	35～39	347.9	292.4	259.0	403.4*	379.3	277.4	283.1	332.4	321.1	373.9	259.8	270.1	311.2	292.7	276.5	252.5
	40～44	484.7	289.9	274.9	426.9*	403.5	296.8	289.7	362.9	321.6	370.1	258.0	272.9	329.7	305.2	286.9	261.4
	45～49	351.9	297.2	278.5	432.2*	405.4	276.9	294.6	375.5	323.4	382.6	264.1	278.8	344.5	309.0	295.0	262.8
	50～54	298.1	319.1	276.3	441.8	407.0	264.7	311.9	375.7	330.0	372.6	247.9	273.2	375.5	302.5	302.3	268.1
	55～59	372.2	326.7	270.2	481.9	431.0	253.1	315.1	354.0	312.0	388.0	244.1	266.3	397.2	303.7	282.4	271.1
	60～64	273.2	294.8	224.0	252.8*	314.8	235.5	259.8	336.0	273.4	319.3	219.8	230.3	389.1	283.3	227.3	247.6
	65～69	233.3	220.8	199.2	293.6	249.7	216.8	214.2	368.2	230.8	291.4	198.8	217.6	384.9	258.8	200.7	217.9
	賃金(年齢計)の対前年増減率(%)	8.6	6.0	4.3	9.6	4.9	-1.7	5.7	4.8	2.7	10.0	2.5	3.4	-0.2	2.7	5.5	2.5
	年齢(歳)	46.6	44.3	43.7	41.5	37.4	44.4	42.9	44.0	41.9	40.8	42.1	40.1	41.7	44.2	43.0	44.1
	勤続年数(年)	12.9	10.9	12.3	15.1	9.6	10.1	11.5	12.8	9.0	9.6	8.4	9.1	10.2	9.7	14.1	7.8

注： 1) 年齢計には70歳以上の労働者を含む。

第5図 主な産業、性、年齢階級別賃金

令和7(2025)年



(6) 雇用形態別にみた賃金

雇用形態別に賃金をみると、男女計では、正社員・正職員 358.8 千円に対し、正社員・正職員以外 241.7 千円となっている。男女別にみると、男性では、正社員・正職員 387.4 千円に対し、正社員・正職員以外 268.1 千円、女性では、正社員・正職員 304.9 千円に対し、正社員・正職員以外 218.4 千円となっている。

雇用形態間賃金格差（正社員・正職員＝100）は、男女計 67.4、男性 69.2、女性 71.6 となっている。男女計でみると賃金格差が最も大きいのは、企業規模別では大企業（60.7）で、産業別では「卸売業、小売業」（61.3）となっている。（第6－1表、第6－2表、第6－3表、第6図）

第6－1表 雇用形態、性、年齢階級別賃金、対前年増減率及び雇用形態間賃金格差

令和7(2025)年

年齢階級	男女計					男					女				
	正社員・正職員		正社員・正職員以外			正社員・正職員		正社員・正職員以外			正社員・正職員		正社員・正職員以外		
	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	雇用形態間 賃金格差 ¹⁾ 【正社員・正職員 =100】	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	雇用形態間 賃金格差 ¹⁾ 【正社員・正職員=100】	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	雇用形態間 賃金格差 ¹⁾ 【正社員・正職員 =100】
年齢計 ²⁾	358.8	2.9	241.7	3.7	67.4 (66.9)	387.4	2.8	268.1	3.4	69.2 (68.8)	304.9	3.6	218.4	3.9	71.6 (71.5)
～19歳	210.8	4.6	186.3	3.8	88.4 (89.0)	214.8	4.7	187.3	1.7	87.2 (89.8)	203.8	5.0	185.3	6.0	90.9 (90.1)
20～24	247.5	4.4	203.5	3.1	82.2 (83.2)	250.0	5.0	205.1	3.1	82.0 (83.5)	244.8	3.9	202.0	3.2	82.5 (83.1)
25～29	285.0	4.5	227.9	3.8	80.0 (80.5)	292.4	4.9	236.6	4.1	80.9 (81.5)	275.3	3.8	220.9	3.0	80.2 (80.9)
30～34	321.1	4.1	233.8	5.4	72.8 (71.9)	337.0	4.4	247.9	6.5	73.6 (72.1)	293.4	4.0	222.0	4.0	75.7 (75.6)
35～39	352.6	3.6	230.3	3.9	65.3 (65.1)	374.2	4.1	247.7	3.3	66.2 (66.7)	307.2	2.5	217.8	3.9	70.9 (70.0)
40～44	379.0	3.3	230.6	3.6	60.8 (60.7)	406.3	3.3	250.9	2.3	61.8 (62.4)	322.2	4.6	220.1	4.1	68.3 (68.6)
45～49	395.6	1.3	233.4	2.4	59.0 (58.4)	429.7	1.3	262.8	-0.6	61.2 (62.4)	327.4	2.1	220.2	3.4	67.3 (66.4)
50～54	412.7	2.2	229.7	2.9	55.7 (55.3)	449.2	2.3	254.3	1.4	56.6 (57.1)	334.2	3.1	219.6	3.3	65.7 (65.6)
55～59	424.2	0.9	232.5	2.0	54.8 (54.2)	460.7	0.3	262.0	-1.1	56.9 (57.7)	339.1	3.6	217.6	4.1	64.2 (63.9)
60～64	366.2	2.6	279.9	3.1	76.4 (76.1)	390.5	2.2	310.9	4.1	79.6 (78.2)	310.3	3.7	227.6	4.9	73.3 (72.5)
65～69	327.7	2.5	249.4	4.5	76.1 (74.6)	341.7	1.3	269.1	5.1	78.8 (75.9)	287.5	4.1	210.1	3.1	73.1 (73.8)
年齢(歳)	43.2		51.2			44.1		53.4			41.5		49.2		
勤続年数(年)	13.1		10.8			14.4		12.6			10.7		9.2		

注： 1) () 内は、令和6(2024)年の数値である。

2) 年齢計には70歳以上の労働者を含む。

第6－2表 雇用形態、性、企業規模別賃金、対前年増減率及び雇用形態間賃金格差

令和7(2025)年

企業規模	男女計					男					女				
	正社員・正職員		正社員・正職員以外			正社員・正職員		正社員・正職員以外			正社員・正職員		正社員・正職員以外		
	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	雇用形態間 賃金格差 ¹⁾ 【正社員・正職員 =100】	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	雇用形態間 賃金格差 ¹⁾ 【正社員・正職員 =100】	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	雇用形態間 賃金格差 ¹⁾ 【正社員・正職員 =100】
大企業	414.1	5.7	251.5	4.9	60.7 (61.2)	448.5	6.1	284.4	5.4	63.4 (63.8)	342.7	4.8	225.3	4.6	65.7 (65.8)
中企業	344.4	0.7	238.6	2.1	69.3 (68.3)	372.0	0.1	260.3	1.3	70.0 (69.2)	297.7	2.9	216.4	2.5	72.7 (73.0)
小企業	315.0	1.9	229.0	4.5	72.7 (70.9)	335.9	1.4	253.9	4.2	75.6 (73.5)	274.9	3.2	208.4	4.7	75.8 (74.7)

注： 1) () 内は、令和6(2024)年の数値である。

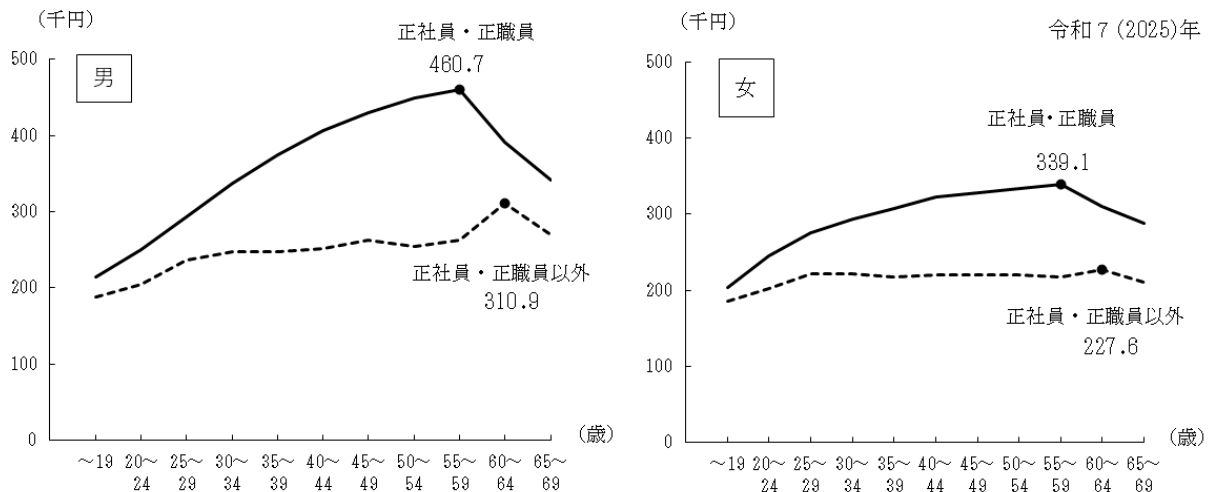
第6-3表 雇用形態、性、産業別賃金、対前年増減率及び雇用形態間賃金格差

令和7(2025)年

産 業	男女計					男					女				
	正社員・正職員		正社員・正職員以外			正社員・正職員		正社員・正職員以外			正社員・正職員		正社員・正職員以外		
	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	雇用形態間 賃金格差 ¹⁾ 【正社員・正職員=100】	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	雇用形態間 賃金格差 ¹⁾ 【正社員・正職員=100】	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	雇用形態間 賃金格差 ¹⁾ 【正社員・正職員=100】
鉱業、採石業、砂利採取業	388.3	4.4	388.4	2.9	100.0 (101.5)	396.9	4.8	372.5	-6.7	93.9 (105.4)	335.4	3.4	495.0	94.8	147.6 (78.3)
建設業	370.9	4.0	300.1	1.3	80.9 (83.1)	383.2	3.9	322.7	2.1	84.2 (85.7)	299.6	6.5	222.0	-0.8	74.1 (79.6)
製造業	346.1	3.3	229.4	3.8	66.3 (66.0)	366.8	3.4	256.2	3.5	69.8 (69.8)	273.1	3.9	198.8	3.9	72.8 (72.8)
電気・ガス・熱供給・水道業	453.7	1.0	294.3	9.3	64.9 (60.0)	462.3	0.4	316.6	9.0	68.5 (63.1)	400.3	8.5	228.1	6.5	57.0 (58.0)
情報通信業	411.0	2.4	333.8	15.7	81.2 (71.9)	431.5	2.4	372.7	20.3	86.4 (73.5)	*358.0	3.6	263.5	5.7	73.6 (72.1)
運輸業、郵便業	324.6	3.0	236.9	3.4	73.0 (72.7)	331.1	3.3	251.2	5.1	75.9 (74.5)	284.1	-0.1	207.0	-0.1	72.9 (72.9)
卸売業、小売業	374.4	1.1	229.5	5.4	61.3 (58.8)	403.0	0.1	265.0	5.1	65.8 (62.6)	312.4	5.3	207.7	6.5	66.5 (65.8)
金融業、保険業	444.8	6.2	300.7	-0.3	67.6 (72.0)	563.0	8.0	374.9	-7.1	66.6 (77.4)	344.9	4.2	243.7	5.9	70.7 (69.5)
不動産業、物品賃貸業	380.1	-3.0	241.9	-5.5	63.6 (65.3)	416.7	-4.3	251.5	-9.7	60.4 (64.0)	315.0	2.2	228.3	-1.0	72.5 (74.8)
学術研究、専門・技術サービス業	453.1	9.8	326.0	6.8	71.9 (73.9)	486.4	9.6	378.7	9.7	77.9 (77.8)	369.6	10.8	262.3	7.1	71.0 (73.4)
宿泊業、飲食サービス業	303.8	2.8	211.6	3.6	69.7 (69.1)	327.8	2.6	229.6	3.8	70.0 (69.3)	265.5	2.6	202.2	3.7	76.2 (75.3)
生活関連サービス業、娯楽業	320.1	2.7	214.0	1.3	66.9 (67.7)	350.7	2.8	223.8	0.4	63.8 (65.4)	278.2	2.6	207.2	1.8	74.5 (75.0)
教育、学習支援業	396.7	1.0	270.4	4.7	68.2 (65.7)	458.2	2.9	322.3	3.6	70.3 (69.8)	338.8	-0.5	244.5	6.8	72.2 (67.3)
医療、福祉	325.5	2.9	242.8	4.6	74.6 (73.4)	386.9	2.1	289.4	9.4	74.8 (69.8)	298.7	2.8	229.0	2.7	76.7 (76.7)
複合サービス事業	349.8	2.6	236.6	5.8	67.6 (65.6)	373.6	2.6	251.8	3.6	67.4 (66.7)	293.4	2.7	214.1	8.6	73.0 (69.0)
サービス業 (他に分類されないもの)	312.1	-1.2	238.6	1.9	76.4 (74.1)	327.6	-1.4	247.1	0.9	75.4 (73.6)	277.6	1.2	229.4	2.6	82.6 (81.5)

注： 1) () 内は、令和6(2024)年の数値である。

第6図 雇用形態、性、年齢階級別賃金



(7) 勤続年数階級別にみた賃金

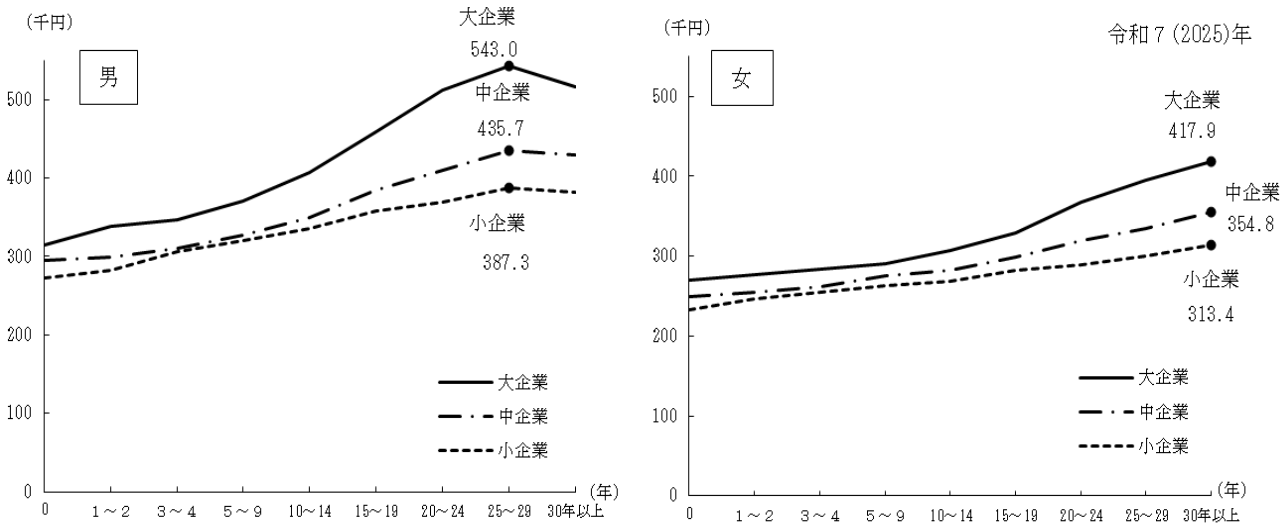
勤続年数階級別に賃金をみると、賃金が最も高い勤続年数階級は、男女計では、30 年以上 444.2 千円、男性では、25～29 年 463.9 千円、女性では、30 年以上 375.3 千円となっている（第 7 表、第 7 図）。

第 7 表 勤続年数階級、性、企業規模別賃金及び対前年増減率

令和 7 (2025) 年

性、企業規模		0 年		1～2 年		3～4 年		5～9 年		10～14 年		15～19 年		20～24 年		25～29 年		30 年以上	
		賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)
男女計	企業規模計	274.5	3.0	285.3	5.0	297.0	4.9	312.5	2.9	333.6	2.0	370.8	0.8	400.4	1.9	433.6	1.1	444.2	2.4
	大企業	292.6	2.8	310.6	7.9	318.5	9.1	337.3	5.3	367.6	4.0	415.0	1.9	467.8	4.9	507.5	4.1	496.8	4.1
	中企業	273.4	5.2	278.5	3.6	289.0	2.3	304.3	0.2	323.2	0.9	353.6	0.1	378.6	-0.6	407.5	-1.7	413.8	-0.6
	小企業	255.2	0.8	267.2	3.2	285.6	4.0	297.4	3.7	311.8	0.6	333.4	-0.7	344.7	0.7	364.9	1.3	366.7	0.2
男	企業規模計	294.0	2.1	305.8	5.7	320.2	5.2	338.3	2.6	362.8	1.6	405.1	1.2	434.7	2.2	463.9	1.4	461.8	2.0
	大企業	314.4	1.2	338.5	11.5	346.5	11.0	370.7	6.2	406.9	4.4	459.0	3.7	512.6	5.9	543.0	4.7	516.2	4.0
	中企業	294.4	5.1	298.7	2.9	311.1	2.2	327.0	-1.2	349.7	0.0	384.5	0.3	410.0	-0.5	435.7	-1.5	429.0	-1.3
	小企業	272.3	0.1	282.0	2.5	306.2	3.1	319.8	3.5	336.1	0.1	358.7	-1.7	368.9	0.9	387.3	1.0	381.4	-0.4
女	企業規模計	252.0	4.3	259.6	3.4	266.8	4.2	276.6	4.2	285.8	3.3	305.4	1.4	327.4	3.0	346.2	0.8	375.3	4.4
	大企業	269.2	5.2	276.5	2.1	283.4	5.9	291.1	4.5	306.8	4.1	328.6	0.8	367.5	5.7	395.1	2.0	417.9	5.0
	中企業	249.9	4.7	255.2	4.3	262.1	2.5	275.0	3.7	281.7	2.8	298.8	0.8	319.0	2.4	333.9	-0.1	354.8	2.5
	小企業	233.0	2.8	246.6	4.4	255.3	4.8	263.6	4.7	268.0	2.6	282.9	1.8	289.0	-1.3	299.5	0.4	313.4	3.4

第 7 図 勤続年数階級、性、企業規模別賃金



(8) 役職別にみた賃金

一般労働者のうち、雇用期間の定めのない者について、役職別の賃金をみると、男女計では、部長級 635.8 千円、課長級 529.2 千円、係長級 399.2 千円となっている。男女別にみると、男性では、部長級 642.4 千円、課長級 541.4 千円、係長級 410.9 千円、女性では、部長級 578.3 千円、課長級 470.3 千円、係長級 365.7 千円となっている。（第 8 表）

第 8 表 役職、性別賃金、対前年増減率及び役職・非役職間賃金格差

令和 7 (2025) 年

役職	男女計					男					女				
	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	役職・非役職 間賃金格差 ¹⁾ (非役職者=100)	年齢 (歳)	勤続 年数 (年)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	役職・非役職 間賃金格差 ¹⁾ (非役職者=100)	年齢 (歳)	勤続 年数 (年)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	役職・非役職 間賃金格差 ¹⁾ (非役職者=100)	年齢 (歳)	勤続 年数 (年)
部長級	635.8	1.4	204.8 (207.1)	53.1	22.6	642.4	0.9	193.4 (195.5)	53.1	22.9	578.3	5.2	206.5 (203.4)	53.0	20.0
課長級	529.2	3.4	170.4 (169.1)	49.5	20.9	541.4	3.6	163.0 (160.4)	49.5	21.3	470.3	2.7	167.9 (169.5)	49.4	19.0
係長級	399.2	3.4	128.6 (127.4)	45.4	17.5	410.9	3.7	123.7 (121.7)	45.3	17.8	365.7	3.3	130.6 (131.0)	45.7	16.7
非役職者	310.5	2.5	100.0 (100.0)	41.8	10.8	332.1	2.0	100.0 (100.0)	42.1	11.7	280.1	3.6	100.0 (100.0)	41.3	9.7

注： 1) () 内は、令和 6 (2024) 年の数値である。

(9) 在留資格区分別にみた賃金

外国人労働者の賃金は 254.3 千円で、在留資格区分別にみると、専門的・技術的分野（特定技能を除く）313.2 千円、特定技能 221.4 千円、身分に基づくもの 311.1 千円、技能実習 190.3 千円、その他（特定活動及び留学以外の資格外活動）228.3 千円となっている（第 9 表）。

第 9 表 外国人労働者の在留資格区分別賃金及び対前年増減率

令和 7 (2025) 年

在留資格区分 ¹⁾	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	年齢 (歳)	勤続年数 (年)
外国人労働者計	254.3	4.8	32.5	3.3
専門的・技術的分野（特定技能を除く）	313.2	7.3	32.4	3.2
特定技能	221.4	4.8	29.5	2.4
身分に基づくもの	311.1	3.6	45.0	6.5
技能実習	190.3	4.2	26.2	1.7
その他（特定活動及び留学以外の資格外活動）	228.3	0.8	30.1	2.0

注： 1) 在留資格区分については、5 頁「主な用語の定義「在留資格区分」」を参照。
「留学（資格外活動）」を含めた 6 区分となる。

(10) 新規学卒者の学歴別にみた賃金

新規学卒者の賃金を学歴別にみると、男女計で高校 207.3 千円、専門学校 230.7 千円、高専・短大 235.5 千円、大学 262.3 千円、大学院 299.0 千円となっている（第 10 表）。

第 10 表 新規学卒者の性、学歴別賃金及び対前年増減率

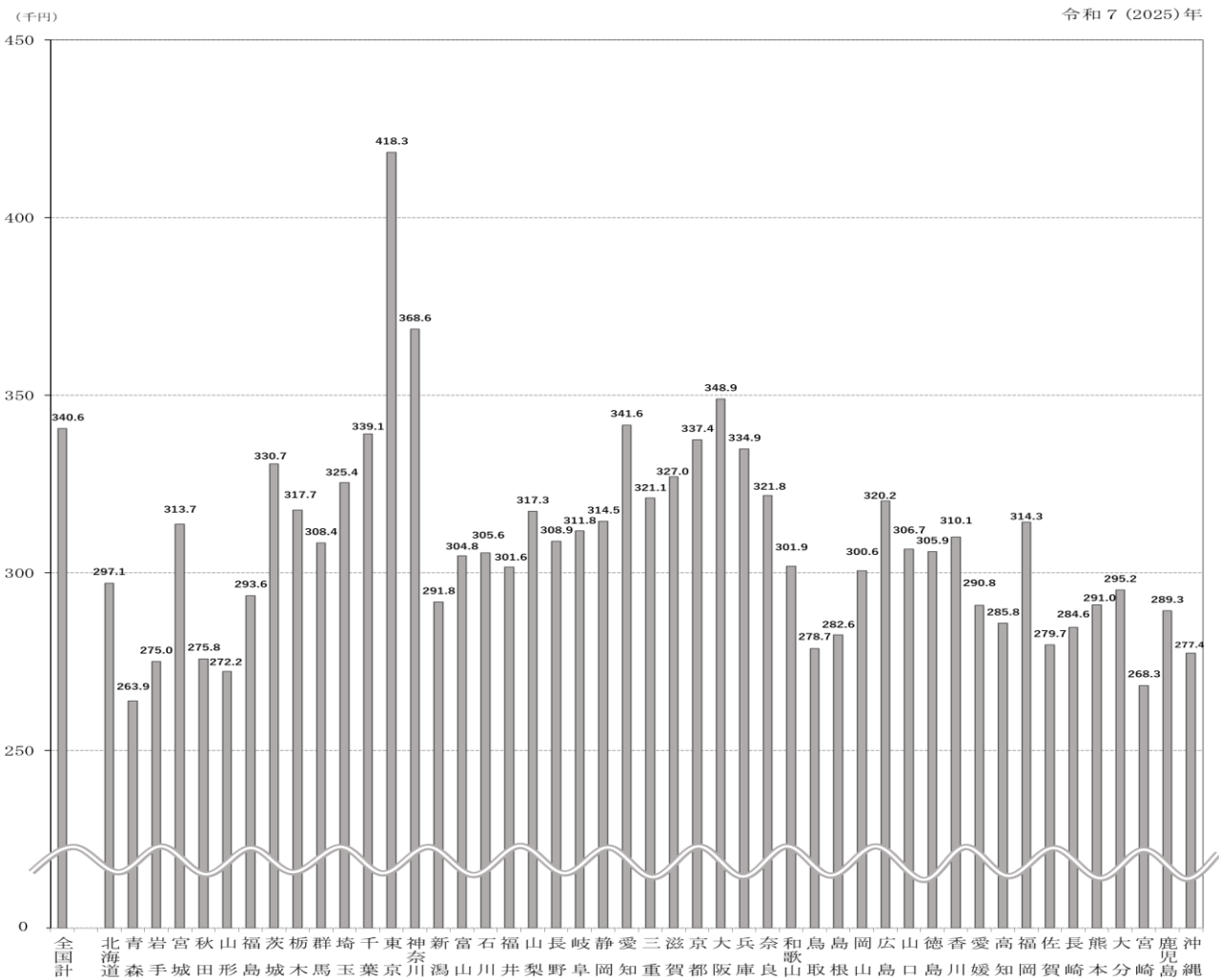
令和 7 (2025) 年

性	高校		専門学校		高専・短大		大学		大学院	
	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)
男女計	207.3	5.0	230.7	3.5	235.5	5.2	262.3	5.6	299.0	4.0
男	210.1	4.8	227.8	3.9	241.4	4.5	264.9	5.4	301.2	3.8
女	202.9	5.8	232.4	3.4	230.0	4.0	259.7	6.0	292.9	5.3

(11) 都道府県別にみた賃金

都道府県別の賃金をみると、全国計（340.6 千円）よりも賃金が高かったのは 4 都府県（東京都、神奈川県、愛知県、大阪府）となっており、最も高かったのは、東京都（418.3 千円）となっている（第 8 図）。

第 8 図 都道府県別賃金（男女計）



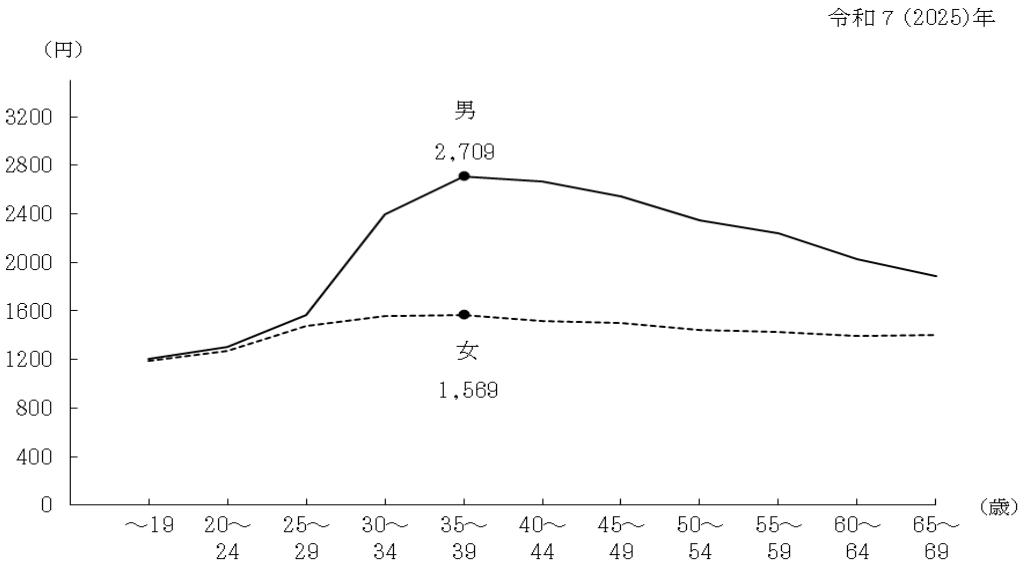
2 短時間労働者の賃金

(1) 性別にみた賃金

短時間労働者の1時間当たり賃金は、男女計 1,518 円、男性 1,769 円、女性 1,418 円となっている。

男女別に1時間当たり賃金を年齢階級別にみると、1時間当たり賃金が最も高い年齢階級は、男女とも 35～39 歳で、男性では、2,709 円、女性では、1,569 円となっている。（第9図、第11表）

第9図 短時間労働者の性、年齢階級別1時間当たり賃金



第11表 短時間労働者の性、年齢階級別1時間当たり賃金、対前年増減率及び年齢階級間賃金格差

令和7(2025)年

年齢階級	男女計			男			女		
	1時間 当たり 賃金 (円)	対前年 増減率 (%)	年齢階級間 賃金格差 (20～24歳 =100)	1時間 当たり 賃金 (円)	対前年 増減率 (%)	年齢階級間 賃金格差 (20～24歳 =100)	1時間 当たり 賃金 (円)	対前年 増減率 (%)	年齢階級間 賃金格差 (20～24歳 =100)
年齢計 ¹⁾	1,518	2.8	117.9	1,769	4.1	136.1	1,418	2.2	111.2
～19歳	1,192	4.8	92.6	1,202	6.0	92.5	1,185	4.0	92.9
20～24	1,287	4.8	100.0	1,300	6.1	100.0	1,275	3.7	100.0
25～29	1,513	-0.7	117.6	1,566	-7.5	120.5	1,478	3.7	115.9
30～34	1,772	7.2	137.7	2,394	20.6	184.2	1,558	0.8	122.2
35～39	1,782	6.5	138.5	2,709	19.1	208.4	1,569	1.9	123.1
40～44	1,692	2.9	131.5	2,667	10.1	205.2	1,514	0.7	118.7
45～49	1,652	6.5	128.4	2,545	16.6	195.8	1,501	3.9	117.7
50～54	1,562	1.4	121.4	2,343	-3.7	180.2	1,440	3.6	112.9
55～59	1,547	0.7	120.2	2,238	-0.7	172.2	1,430	1.2	112.2
60～64	1,526	-2.6	118.6	2,024	-1.7	155.7	1,397	-1.8	109.6
65～69	1,569	2.1	121.9	1,884	1.5	144.9	1,401	3.5	109.9
年齢(歳)	46.2			43.0			47.5		
勤続年数(年)	6.5			5.4			7.0		
実労働日数(日)	14.0			12.9			14.4		
1日当たり所定内 実労働時間数(時間)	5.2			5.2			5.2		

注： 1) 年齢計には70歳以上の労働者を含む。

(2) 企業規模別にみた賃金

企業規模別に1時間当たり賃金をみると、男女計では、大企業1,473円、中企業1,626円、小企業1,491円となっている。男女別にみると、男性では、大企業1,653円、中企業1,988円、小企業1,746円、女性では、大企業1,400円、中企業1,482円、小企業1,388円となっている。
(第12表)

第12表 短時間労働者の企業規模、性別1時間当たり賃金、
対前年増減率及び企業規模間賃金格差

令和7(2025)年

企業規模	男女計			男			女		
	1時間 当たり 賃金 (円)	対前年 増減率 (%)	企業規模間 賃金格差 ¹⁾ (大企業=100)	1時間 当たり 賃金 (円)	対前年 増減率 (%)	企業規模間 賃金格差 ¹⁾ (大企業=100)	1時間 当たり 賃金 (円)	対前年 増減率 (%)	企業規模間 賃金格差 ¹⁾ (大企業=100)
大企業	1,473	4.2	100.0 (100.0)	1,653	8.3	100.0 (100.0)	1,400	2.6	100.0 (100.0)
中企業	1,626	-0.7	110.4 (115.9)	1,988	-4.8	120.3 (136.8)	1,482	1.6	105.9 (106.8)
小企業	1,491	4.7	101.2 (100.8)	1,746	8.8	105.6 (105.1)	1,388	2.2	99.1 (99.5)

注： 1) () 内は、令和6(2024)年の数値である。

(3) 産業別にみた賃金

産業別に1時間当たり賃金をみると、男女計で1時間当たり賃金が最も高い産業は、「教育，学習支援業」(2,541円)となっている。男女別にみると、男性では、「医療，福祉」(3,961円)、女性では、「教育，学習支援業」(2,180円)となっている。(第13表)

第13表 短時間労働者の産業、性別1時間当たり賃金及び対前年増減率

令和7(2025)年

産 業	男女計		男		女	
	1時間当たり 賃金 (円)	対前年 増減率 (%)	1時間当たり 賃金 (円)	対前年 増減率 (%)	1時間当たり 賃金 (円)	対前年 増減率 (%)
鉱業，採石業，砂利採取業	1,369	-12.0	1,490	-4.6	1,257	-18.9
建設業	1,596	4.0	1,758	2.3	1,456	1.6
製造業	1,298	4.8	1,501	6.4	1,238	4.2
電気・ガス・熱供給・水道業	1,814	7.8	1,835	1.8	1,803	12.9
情報通信業	1,853	3.9	* 2,216	26.6	1,703	-5.1
運輸業，郵便業	1,371	6.2	1,465	4.2	1,298	7.5
卸売業，小売業	1,268	4.2	1,284	3.8	1,263	4.4
金融業，保険業	1,829	-1.9	2,259	-16.8	1,785	1.5
不動産業，物品賃貸業	1,389	3.5	1,357	2.6	1,412	4.2
学術研究，専門・技術サービス業	1,874	10.4	2,375	11.1	1,604	4.4
宿泊業，飲食サービス業	1,234	3.7	1,243	4.6	1,230	3.3
生活関連サービス業，娯楽業	1,330	6.7	1,332	8.1	1,330	6.1
教育，学習支援業	2,541	-3.3	3,114	-4.0	2,180	-1.8
医療，福祉	2,113	1.3	3,961	3.3	1,707	-2.0
複合サービス事業	1,439	5.9	1,503	4.5	1,407	6.6
サービス業(他に分類されないもの)	1,377	1.0	1,403	-2.0	1,366	2.7

統計表

付表1 一般労働者の性別賃金、対前年増減率、男女間賃金格差及び対前年差の推移

年 ¹⁾²⁾	男女計		男		女		男女間 賃金格差 (男=100)	対前年差 ³⁾ (ポイント)
	賃 金 (千円)	対前年 増減率 ³⁾ (%)	賃 金 (千円)	対前年 増減率 ³⁾ (%)	賃 金 (千円)	対前年 増減率 ³⁾ (%)		
昭和 51 (1976) 年	131.8	...	151.5	...	89.1	...	58.8	...
52 (1977)	144.5	9.6	166.0	9.6	97.9	9.9	59.0	0.2
53 (1978)	153.9	6.5	176.7	6.4	104.2	6.4	59.0	0.0
54 (1979)	162.4	5.5	186.3	5.4	109.9	5.5	59.0	0.0
55 (1980)	173.1	6.6	198.6	6.6	116.9	6.4	58.9	-0.1
56 (1981)	184.1	6.4	211.4	6.4	124.6	6.6	58.9	0.0
57 (1982)	193.3	5.0	222.0	5.0	130.1	4.4	58.6	-0.3
58 (1983)	199.4	3.2	229.3	3.3	134.7	3.5	58.7	0.1
59 (1984)	206.5	3.6	237.5	3.6	139.2	3.3	58.6	-0.1
60 (1985)	213.8	3.5	244.6	3.0	145.8	4.7	59.6	1.0
61 (1986)	220.6	3.2	252.4	3.2	150.7	3.4	59.7	0.1
62 (1987)	226.2	2.5	257.7	2.1	155.9	3.5	60.5	0.8
63 (1988)	231.9	2.5	264.4	2.6	160.0	2.6	60.5	0.0
平成 元 (1989) 年	241.8	4.3	276.1	4.4	166.3	3.9	60.2	-0.3
2 (1990)	254.7	5.3	290.5	5.2	175.0	5.2	60.2	0.0
3 (1991)	266.3	4.6	303.8	4.6	184.4	5.4	60.7	0.5
4 (1992)	275.2	3.3	313.5	3.2	192.8	4.6	61.5	0.8
5 (1993)	281.1	2.1	319.9	2.0	197.0	2.2	61.6	0.1
6 (1994)	288.4	2.6	327.4	2.3	203.0	3.0	62.0	0.4
7 (1995)	291.3	1.0	330.0	0.8	206.2	1.6	62.5	0.5
8 (1996)	295.6	1.5	334.0	1.2	209.6	1.6	62.8	0.3
9 (1997)	298.9	1.1	337.0	0.9	212.7	1.5	63.1	0.3
10 (1998)	299.1	0.1	336.4	-0.2	214.9	1.0	63.9	0.8
11 (1999)	300.6	0.5	336.7	0.1	217.5	1.2	64.6	0.7
12 (2000)	302.2	0.5	336.8	0.0	220.6	1.4	65.5	0.9
13 (2001)	305.8	1.2	340.7	1.2	222.4	0.8	65.3	-0.2
14 (2002)	302.6	-1.0	336.2	-1.3	223.6	0.5	66.5	1.2
15 (2003)	302.1	-0.2	335.5	-0.2	224.2	0.3	66.8	0.3
16 (2004)	301.6	-0.2	333.9	-0.5	225.6	0.6	67.6	0.8
17 (2005)	302.0	0.1	337.8	1.2	222.5	-1.4	65.9	-1.7
18 (2006)	301.8	-0.1	337.7	0.0	222.6	0.0	65.9	0.0
19 (2007)	301.1	-0.2	336.7	-0.3	225.2	1.2	66.9	1.0
20 (2008)	299.1	-0.7	333.7	-0.9	226.1	0.4	67.8	0.9
21 (2009)	294.5	-1.5	326.8	-2.1	228.0	0.8	69.8	2.0
22 (2010)	296.2	0.6	328.3	0.5	227.6	-0.2	69.3	-0.5
23 (2011)	296.8	0.2	328.3	0.0	231.9	1.9	70.6	1.3
24 (2012)	297.7	0.3	329.0	0.2	233.1	0.5	70.9	0.3
25 (2013)	295.7	-0.7	326.0	-0.9	232.6	-0.2	71.3	0.4
26 (2014)	299.6	1.3	329.6	1.1	238.0	2.3	72.2	0.9
27 (2015)	304.0	1.5	335.1	1.7	242.0	1.7	72.2	0.0
28 (2016)	304.0	0.0	335.2	0.0	244.6	1.1	73.0	0.8
29 (2017)	304.3	0.1	335.5	0.1	246.1	0.6	73.4	0.4
30 (2018)	306.2	0.6	337.6	0.6	247.5	0.6	73.3	-0.1
令和 元 (2019) 年	307.7	0.5	338.0	0.1	251.0	1.4	74.3	1.0
※令和 元 (2019) 年 ³⁾	306.0	...	336.1	...	249.8	...	74.3	...
2 ³⁾ (2020)	307.7	0.6	338.8	0.8	251.8	0.8	74.3	0.0
3 (2021)	307.4	-0.1	337.2	-0.5	253.6	0.7	75.2	0.9
4 (2022)	311.8	1.4	342.0	1.4	258.9	2.1	75.7	0.5
5 (2023)	318.3	2.1	350.9	2.6	262.6	1.4	74.8	-0.9
6 (2024)	330.4	3.8	363.1	3.5	275.3	4.8	75.8	1.0
7 (2025)	340.6	3.1	373.4	2.8	285.9	3.9	76.6	0.8

注： 1) 10人以上の常用労働者を雇用する民営事業所に関する集計は、昭和51(1976)年以降行っている。
2) 平成30(2018)年以前は、調査対象産業「宿泊業、飲食サービス業」のうち「バー、キャバレー、ナイトクラブ」を除
外している。
3) 令和2(2020)年から有効回答率を考慮した推計方法に変更しているため、令和2年の対前年増減率及び対前年差
(ポイント)は、同じ推計方法で集計した令和元(2019)年の数値を基に算出している。
「※令和元(2019)年³⁾」は、令和2年と同じ推計方法で集計した令和元年の数値を参考として掲載したものである。

付表2 一般労働者の性、雇用形態別賃金及び雇用形態間賃金格差の推移

年 ¹⁾²⁾	男女計			男			女		
	正社員・正職員	正社員・正職員以外		正社員・正職員	正社員・正職員以外		正社員・正職員	正社員・正職員以外	
	賃金 (千円)	賃金 (千円)	雇用形態間 賃金格差 【正社員・正職員 ＝100】	賃金 (千円)	賃金 (千円)	雇用形態間 賃金格差 【正社員・正職員 ＝100】	賃金 (千円)	賃金 (千円)	雇用形態間 賃金格差 【正社員・正職員 ＝100】
平成 17 (2005) 年	318.5	191.4	60.1	348.1	221.3	63.6	239.2	168.4	70.4
18 (2006)	318.8	191.0	59.9	348.5	222.8	63.9	240.3	165.4	68.8
19 (2007)	318.2	192.9	60.6	347.5	224.3	64.5	243.3	168.8	69.4
20 (2008)	316.5	194.8	61.5	345.3	224.0	64.9	243.9	170.5	69.9
21 (2009)	310.4	194.6	62.7	337.4	222.0	65.8	244.8	172.1	70.3
22 (2010)	311.5	198.1	63.6	338.5	228.8	67.6	244.0	170.9	70.0
23 (2011)	312.8	195.9	62.6	339.6	222.2	65.4	248.8	172.2	69.2
24 (2012)	317.0	196.4	62.0	343.8	218.4	63.5	252.2	174.8	69.3
25 (2013)	314.7	195.3	62.1	340.4	216.9	63.7	251.8	173.9	69.1
26 (2014)	317.7	200.3	63.0	343.2	222.2	64.7	256.6	179.2	69.8
27 (2015)	321.1	205.1	63.9	348.3	229.1	65.8	259.3	181.0	69.8
28 (2016)	321.7	211.8	65.8	349.0	235.4	67.4	262.0	188.6	72.0
29 (2017)	321.6	210.8	65.5	348.4	234.5	67.3	263.6	189.7	72.0
30 (2018)	323.9	209.4	64.6	351.1	232.5	66.2	265.3	187.9	70.8
令和 元 (2019) 年	325.4	211.2	64.9	351.5	234.8	66.8	269.4	189.1	70.2
※令和 元 (2019) 年 ³⁾	324.1	209.6	64.7	349.6	232.4	66.5	268.7	188.7	70.2
2 ³⁾ (2020)	324.2	214.8	66.3	350.7	240.2	68.5	269.2	193.3	71.8
3 (2021)	323.4	216.7	67.0	348.8	241.3	69.2	270.6	195.4	72.2
4 (2022)	328.0	221.3	67.5	353.6	247.5	70.0	276.4	198.9	72.0
5 (2023)	336.3	226.6	67.4	363.6	255.0	70.1	281.8	203.5	72.2
6 (2024)	348.6	233.1	66.9	376.9	259.2	68.8	294.2	210.3	71.5
7 (2025)	358.8	241.7	67.4	387.4	268.1	69.2	304.9	218.4	71.6

注： 1) 雇用形態別に関する集計は平成17(2005)年以降行っている。
2) 平成30(2018)年以前は、調査対象産業「宿泊業、飲食サービス業」のうち「バー、キャバレー、ナイトクラブ」を除外している。
3) 令和2(2020)年から有効回答率を考慮した推計方法に変更している。
「※令和元(2019)年³⁾」は、令和2年と同じ推計方法で集計した令和元年の数値を参考として掲載したものである。

付表3 一般労働者の賃金階級、性、企業規模別労働者割合

賃 金 階 級	男女計				男				女			
	企業規模計	大企業	中企業	小企業	企業規模計	大企業	中企業	小企業	企業規模計	大企業	中企業	小企業
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
～ 99.9 (千円)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
100.0 ～ 119.9	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.0	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.3
120.0 ～ 139.9	0.3	0.2	0.3	0.4	0.2	0.1	0.2	0.2	0.5	0.5	0.4	0.8
140.0 ～ 159.9	1.0	0.8	0.9	1.2	0.5	0.3	0.6	0.7	1.7	1.7	1.4	1.9
160.0 ～ 179.9	3.1	2.1	3.2	4.1	1.8	0.9	2.0	2.5	5.2	4.1	5.1	6.7
180.0 ～ 199.9	5.6	3.9	6.1	7.0	3.5	2.1	4.1	4.6	9.0	7.1	9.1	11.2
200.0 ～ 219.9	7.4	5.5	7.9	9.0	5.4	3.5	6.1	6.7	10.7	8.9	10.7	12.9
220.0 ～ 239.9	8.4	6.6	9.0	9.7	6.5	4.7	7.2	7.9	11.4	9.9	11.8	12.7
240.0 ～ 259.9	9.0	7.5	9.7	9.9	7.8	6.1	8.2	9.2	11.0	9.8	11.9	11.2
260.0 ～ 279.9	8.7	7.6	9.2	9.3	7.9	6.5	8.3	9.0	10.0	9.5	10.6	9.8
280.0 ～ 299.9	7.8	7.1	8.3	8.2	7.5	6.5	7.9	8.2	8.4	8.1	8.8	8.2
300.0 ～ 319.9	6.9	6.2	7.1	7.5	7.1	6.0	7.2	8.2	6.6	6.5	6.9	6.2
320.0 ～ 339.9	5.8	5.6	5.8	6.0	6.2	5.6	6.3	6.9	5.1	5.6	5.1	4.4
340.0 ～ 359.9	5.0	5.1	4.9	5.0	5.6	5.3	5.5	6.0	4.1	4.7	4.1	3.3
360.0 ～ 379.9	4.2	4.6	4.1	4.0	4.9	5.0	4.9	5.0	3.1	3.9	2.9	2.4
380.0 ～ 399.9	3.5	4.0	3.4	3.2	4.2	4.4	4.1	4.0	2.4	3.3	2.2	1.7
400.0 ～ 449.9	6.8	8.2	6.3	5.9	8.5	9.7	8.0	7.7	4.1	5.6	3.7	2.8
450.0 ～ 499.9	4.6	5.8	4.2	3.5	6.0	7.4	5.7	4.7	2.1	3.0	1.9	1.4
500.0 ～ 549.9	3.2	4.1	3.0	2.3	4.3	5.3	4.1	3.1	1.4	2.0	1.2	0.8
550.0 ～ 599.9	2.3	3.4	2.0	1.2	3.1	4.4	2.9	1.7	0.9	1.6	0.6	0.3
600.0 ～ 699.9	2.9	4.8	2.3	1.3	4.1	6.6	3.3	1.9	0.9	1.6	0.7	0.3
700.0 ～ 799.9	1.5	2.8	0.9	0.5	2.0	3.9	1.4	0.6	0.5	1.0	0.2	0.2
800.0 ～ 899.9	0.8	1.7	0.4	0.3	1.2	2.5	0.7	0.4	0.2	0.5	0.1	0.1
900.0 ～ 999.9	0.5	0.9	0.3	0.1	0.6	1.3	0.4	0.2	0.2	0.3	0.1	0.1
1000.0 ～ 1199.9	0.4	0.8	0.3	0.2	0.6	1.0	0.4	0.2	0.2	0.3	0.1	0.1
1200.0 ～	0.4	0.7	0.4	0.2	0.6	0.9	0.5	0.2	0.2	0.3	0.1	0.1
平 均 値 (千円)	340.6	385.1	326.2	305.6	373.4	428.0	356.0	329.6	285.9	310.8	280.1	264.0
第1・十分位数 ¹⁾ (千円)	199.9	211.1	198.3	192.2	214.9	233.9	210.3	205.5	185.5	190.2	186.9	180.4
第1・四分位数 ¹⁾ (千円)	238.2	255.5	234.7	226.7	258.2	282.6	251.8	245.2	215.6	225.1	216.7	206.1
中 位 数 ¹⁾ (千円)	296.6	328.6	288.4	278.5	325.8	369.3	314.6	301.9	260.3	276.1	259.1	245.9
第3・四分位数 ¹⁾ (千円)	389.8	450.1	372.3	350.5	433.1	507.9	413.1	379.0	320.8	352.3	314.2	297.6
第9・十分位数 ¹⁾ (千円)	527.3	632.0	494.8	444.7	582.6	692.7	544.0	477.9	405.3	456.7	389.4	362.5
十分位分散係数 ²⁾	0.55	0.64	0.51	0.45	0.56	0.62	0.53	0.45	0.42	0.48	0.39	0.37
四分位分散係数 ²⁾	0.26	0.30	0.24	0.22	0.27	0.31	0.26	0.22	0.20	0.23	0.19	0.19

注： 1) 十分位数とは、分布の形を示す値である。具体的には、該当労働者を賃金の低い者から高い者へと一列に並べたとき、以下の説明内容に該当する者の賃金である。
図示すれば下図のとおりである。

○ 第1・十分位数 ……

低い方から数えて全体の10分の1番目に
該当する者の賃金

○ 第1・四分位数 ……

低い方から数えて全体の4分の1番目に
該当する者の賃金

○ 中 位 数 ……

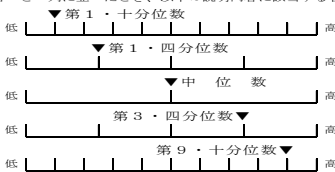
低い方（あるいは高い方）から数えて全
体の2分の1番目に該当する者の賃金

○ 第3・四分位数 ……

高い方から数えて全体の4分の1番目に
該当する者の賃金

○ 第9・十分位数 ……

高い方から数えて全体の10分の1番目に
該当する者の賃金



2) 分散係数とは、分布の広がりを示す指標の一つであり、次の算式により計算された数値をいう。一般に、その値が小さいほど分布の広がりの程度が小さいことを示す。

○ 十分位分散係数 = $\frac{\text{第9・十分位数} - \text{第1・十分位数}}{2 \times \text{中位数}}$ ○ 四分位分散係数 = $\frac{\text{第3・四分位数} - \text{第1・四分位数}}{2 \times \text{中位数}}$

付表4 短時間労働者の1時間当たり賃金階級、性、企業規模別労働者割合

令和7(2025)年

1時間当たり賃金階級	男女計				男				女			
	企業規模計	大企業	中企業	小企業	企業規模計	大企業	中企業	小企業	企業規模計	大企業	中企業	小企業
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
～ 599 (円)	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1
600 ～ 649	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
650 ～ 699	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1
700 ～ 719	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
720 ～ 739	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
740 ～ 759	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
760 ～ 779	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
780 ～ 799	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
800 ～ 819	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
820 ～ 839	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1
840 ～ 859	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1
860 ～ 879	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
880 ～ 899	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1
900 ～ 949	0.4	0.3	0.4	0.7	0.5	0.3	0.4	0.7	0.4	0.3	0.4	0.6
950 ～ 999	3.6	2.0	3.8	5.6	3.6	2.0	3.6	5.6	3.6	2.0	3.9	5.6
1,000 ～ 1,049	7.5	5.2	7.3	10.7	7.1	5.3	7.0	9.6	7.6	5.1	7.4	11.1
1,050 ～ 1,099	9.5	8.1	9.0	11.8	9.1	8.1	8.6	10.7	9.7	8.1	9.1	12.2
1,100 ～ 1,149	10.6	10.5	10.7	10.8	10.1	10.4	10.5	9.4	10.8	10.5	10.8	11.3
1,150 ～ 1,199	10.6	11.8	9.7	9.8	10.2	11.6	9.0	9.3	10.8	11.9	10.1	10.0
1,200 ～ 1,299	17.6	20.7	15.8	14.8	17.8	21.2	15.6	15.1	17.5	20.5	15.9	14.7
1,300 ～ 1,399	11.2	13.4	11.1	8.5	10.9	12.5	10.2	9.4	11.4	13.8	11.5	8.2
1,400 ～ 1,499	7.0	8.0	7.5	5.4	6.8	7.7	7.6	5.0	7.1	8.1	7.5	5.5
1,500 ～ 1,599	4.7	4.8	5.4	4.1	4.5	4.3	5.3	4.4	4.8	5.0	5.4	4.1
1,600 ～ 1,799	5.5	5.5	5.9	5.1	4.8	4.8	4.7	4.9	5.7	5.7	6.3	5.2
1,800 ～ 1,999	3.1	2.9	3.3	3.0	2.6	2.2	2.8	2.8	3.3	3.2	3.5	3.1
2,000 ～ 2,199	1.9	1.5	2.0	2.3	1.7	1.4	1.8	2.2	2.0	1.6	2.1	2.4
2,200 ～ 2,399	1.1	0.9	1.3	1.3	1.1	0.9	1.1	1.3	1.1	0.9	1.3	1.2
2,400 ～ 2,599	0.8	0.6	0.8	1.0	0.8	0.7	0.8	1.1	0.7	0.5	0.8	0.9
2,600 ～ 2,799	0.5	0.4	0.5	0.6	0.6	0.5	0.5	0.8	0.5	0.4	0.5	0.6
2,800 ～ 2,999	0.4	0.3	0.5	0.4	0.5	0.4	0.8	0.5	0.3	0.3	0.3	0.4
3,000 ～	3.4	2.7	4.5	3.3	6.6	5.2	9.1	6.3	2.1	1.7	2.7	2.2
平均値 (円)	1,518	1,473	1,626	1,491	1,769	1,653	1,988	1,746	1,418	1,400	1,482	1,388
第1・十分位数 ¹⁾ (円)	1,036	1,064	1,036	1,014	1,037	1,062	1,038	1,015	1,036	1,064	1,035	1,014
第1・四分位数 ¹⁾ (円)	1,116	1,143	1,119	1,081	1,120	1,142	1,123	1,088	1,115	1,144	1,117	1,079
中位数 ¹⁾ (円)	1,241	1,257	1,254	1,200	1,250	1,255	1,266	1,225	1,237	1,258	1,249	1,193
第3・四分位数 ¹⁾ (円)	1,448	1,433	1,488	1,431	1,475	1,440	1,537	1,484	1,438	1,431	1,473	1,412
第9・十分位数 ¹⁾ (円)	1,874	1,778	1,973	1,934	2,157	1,917	2,754	2,196	1,801	1,752	1,870	1,855
十分位分散係数 ²⁾	0.34	0.28	0.37	0.38	0.45	0.34	0.68	0.48	0.31	0.27	0.33	0.35
四分位分散係数 ²⁾	0.13	0.12	0.15	0.15	0.14	0.12	0.16	0.16	0.13	0.11	0.14	0.14

注：1) 分位数とは、分布の形を示す値である。具体的には、該当労働者を賃金の低い者から高い者へと一列に並べたとき、以下の説明内容に該当する者の賃金である。

図示すれば下図のとおりである。

○ 第1・十分位数 ……

低い方から数えて全体の10分の1番目に
該当する者の賃金

○ 第1・四分位数 ……

低い方から数えて全体の4分の1番目に
該当する者の賃金

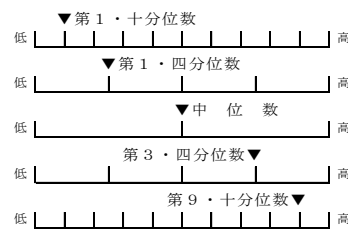
○ 中位数 ……

低い方（あるいは高い方）から数えて全
体の2分の1番目に該当する者の賃金

○ 第3・四分位数 ……

高い方から数えて全体の4分の1番目に
該当する者の賃金

○ 第9・十分位数 ……

高い方から数えて全体の10分の1番目に
該当する者の賃金

2) 分散係数とは、分布の広がり（分散）を示す指標の一つであり、次の算式により計算された数値をいう。一般に、その値が小さいほど分布の広がりの程度が小さいことを示す。

$$\text{十分位分散係数} = \frac{\text{第9・十分位数} - \text{第1・十分位数}}{2 \times \text{中位数}} \quad \text{○} \quad \text{四分位分散係数} = \frac{\text{第3・四分位数} - \text{第1・四分位数}}{2 \times \text{中位数}}$$

最近の広島県経済の動き（2026年6月）

2026年6月

株式会社ひろぎんホールディングス
経済産業調査部

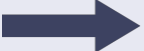
<u>本レポートのサマリー</u>	P. 2
I. <u>最近の注目点</u>	P. 3
II. <u>主要項目の動き</u>	
<u>1. 景況感</u>	P. 4
<u>2. 輸出</u>	P. 5
<u>3. 生産活動</u>	P. 6
<u>4. 企業業績</u>	P. 7
<u>5. 設備投資</u>	P. 8
<u>6. 所得環境</u>	P. 9－10
<u>7. 個人消費</u>	P. 11
<u>8. 住宅投資・公共投資</u>	P. 12
III. <u>主要経済指標</u>	P. 13－14

品質向上のためアンケートにご協力ください。



PCの方は[こちらをクリック](#)

※ ナインアウト株式会社が提供する
アンケートサイトへ遷移します。

項目	天気図	方向感	コメント
景気の 基調判断			最近の県内経済は、個人消費が横這い圏内の動きにとどまるものの、設備投資が堅調に推移。自動車を中心に輸出や生産が上向くなど、改善の動きがみられる。ただし、足下では、中東情勢の悪化に伴う景気の下押しとインフレの加速が懸念されてる。
輸出			4月の輸出金額は3ヵ月連続の前年比大幅プラス。主力の自動車を中心に持ち直し基調が持続。
生産活動			生産は、電子部品・デバイスが高水準を維持しているほか、主力の自動車も新型量販車の投入などから増加基調にあり、今後も回復を期待。
設備投資			人手不足の深刻化等を背景として、自動化・省力化などの生産性向上に向けた投資や就労環境の改善に向けた投資を中心に堅調に推移。
個人消費			小売6業態の販売額は物価上昇の中で横這い圏内の動き、乗用車販売は前年比マイナス圏内での推移が続いており、今後も回復力の弱い展開を予想。
住宅投資			新設住宅着工戸数は、地価・労務費・住宅価格の上昇などを背景に低調に推移。
公共投資			2026年4月の公共工事請負金額は前年同月比プラス。

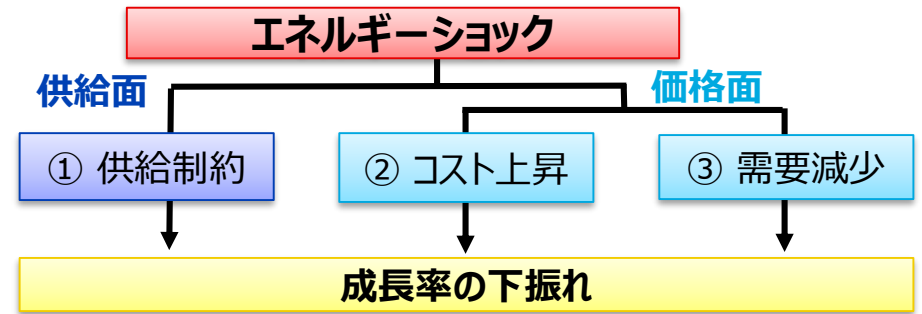
- 中東情勢の緊迫化に伴う原油価格の高騰とエネルギー供給の停滞に伴う経済的影響、いわゆる「エネルギーショック」がホルムズ海峡封鎖が長期化する中で広がっています。当部では、産業連関表に基づくモデルを用いて、エネルギーショックが広島県の県内総生産（GDP）に及ぼす影響を試算してみました。

試算の前提など

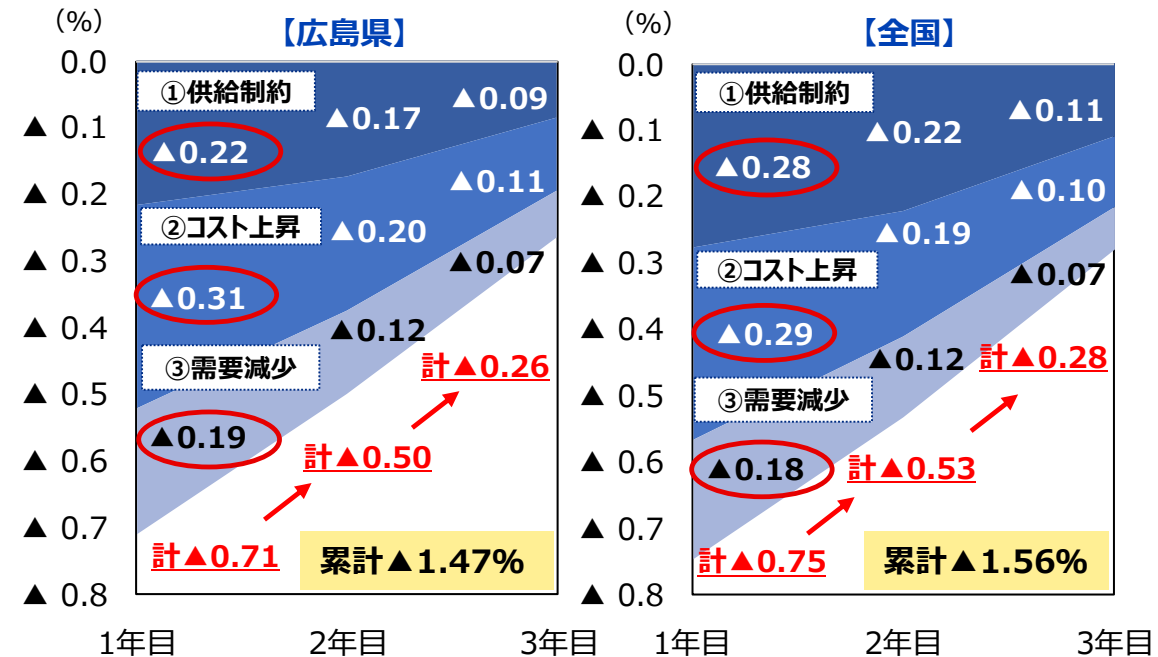
- ✓ 原油価格は初年度100ドル/バレル、2年目・3年目は80ドル/バレル程度で推移。
- ✓ エネルギーの供給制約は初年度のみ発現（2年目以降、正常化）。
- ✓ エネルギーの①「供給制約」に伴う生産量の減少を通じた影響と、②③「価格上昇」に伴うコスト増加および需要減退の影響に分けて整理（図表1）。

- 上記前提によれば、広島県のGDPは初年度に▲0.71%ほど下振れする結果となりました。このうち、「供給制約」による影響が▲0.22%、「コスト上昇」による影響が▲0.31%、「需要減少」による影響が▲0.19%で、広島県は供給制約に伴う生産数量の減少以上に、原材料・燃料費、物流費等の「価格上昇」に伴う企業のコスト負担増大と最終需要の減少が経済を下押しすることを表しています（図表2）。
- ただし、広島県の下振れ幅は全国（初年度▲0.75%）を幾分下回っています。これは主に「供給制約」の影響差によるものであり、石油関連製品のサプライチェーン上流に位置し直接的な影響を受ける石油精製・石油化学工業の集積が、広島県は全国に比べて薄いことが背景にあります。
- 米国・イランの戦闘が終結したとしても経済が元の状態に戻るには時間を要するとの見方が一般的です。本試算においてもエネルギーショックの影響は徐々に剥落していくものの、複数年に亘り経済が下押しされる結果となっています。
- このため、今後もエネルギーや石化製品等の需給動向に加えて、企業の価格転嫁の動き、そして消費など最終需要に及ぼす影響について注視していく必要があります。

図表1 エネルギーショックの波及経路



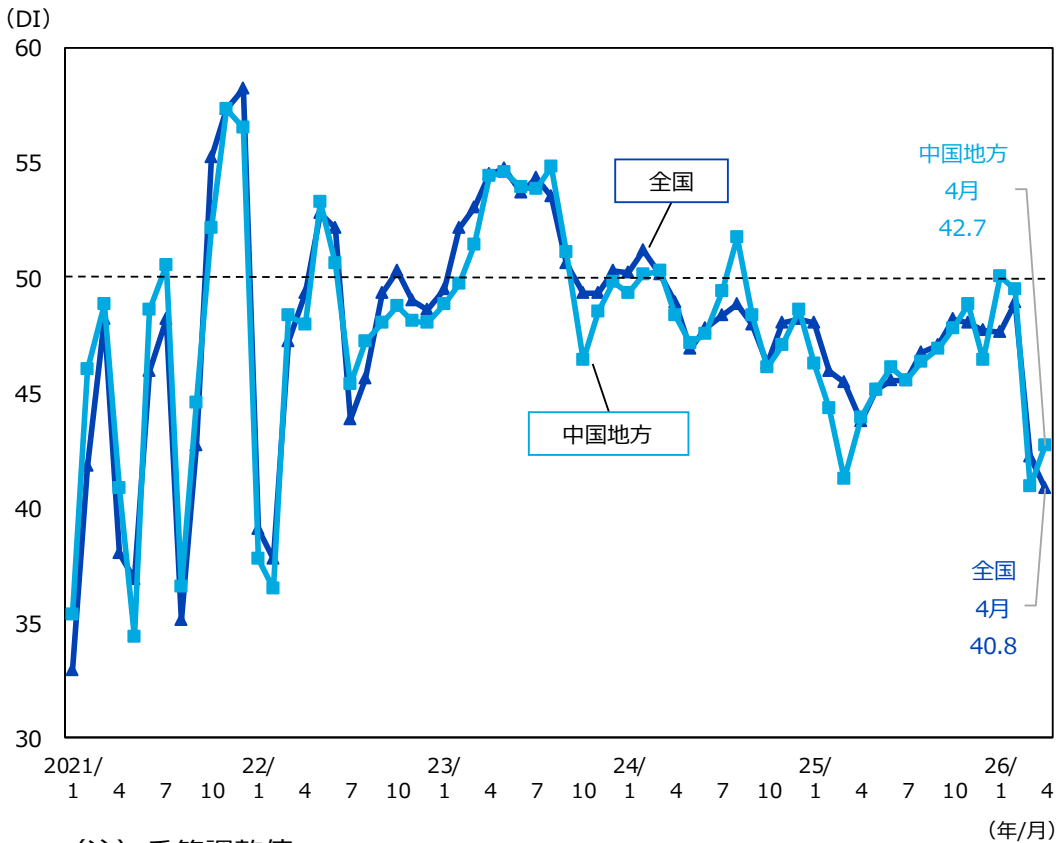
図表2 エネルギーショックのGDP影響



（注）図表2の赤字数値は初年度～3年目の単年度影響
（資料）図表1・2ともに当部作成

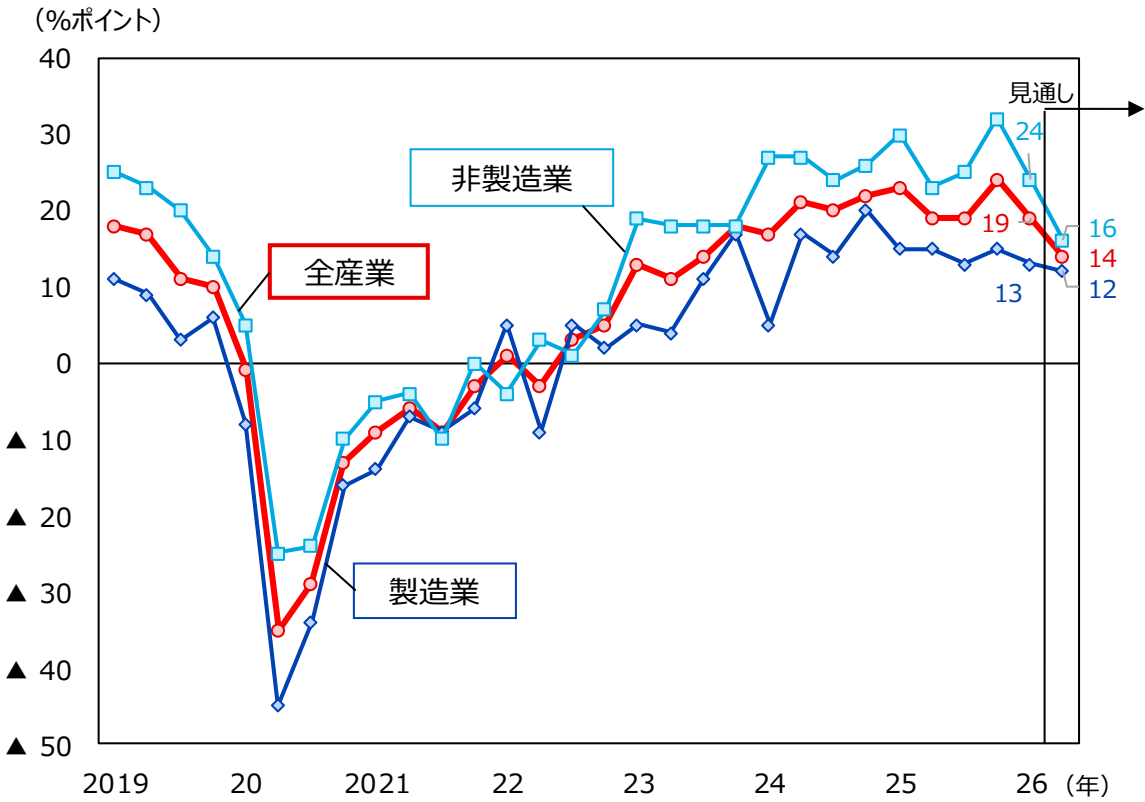
- 景気ウォッチャー調査における中国地方の4月の現状判断DI（季節調整値）は42.7と、前月（40.9）に続く低水準。物価高や中東情勢の緊迫化の影響で、企業マインド・消費者のマインドともに弱めの状況が続いている。
- なお、日銀短観（2026年3月調査）によれば、広島県内企業の業況判断DI（全産業）は+19%ポイント（12月調査比▲5ポイント）と悪化。先行きは+14%ポイント（3月調査比▲5ポイント）とさらなる低下を見込んでいるが、中東情勢の影響は十分には織り込まれていない可能性がある。

現状判断DIの推移（景気ウォッチャー調査）



(注) 季節調整値
(資料) 内閣府「景気ウォッチャー調査」より当部作成

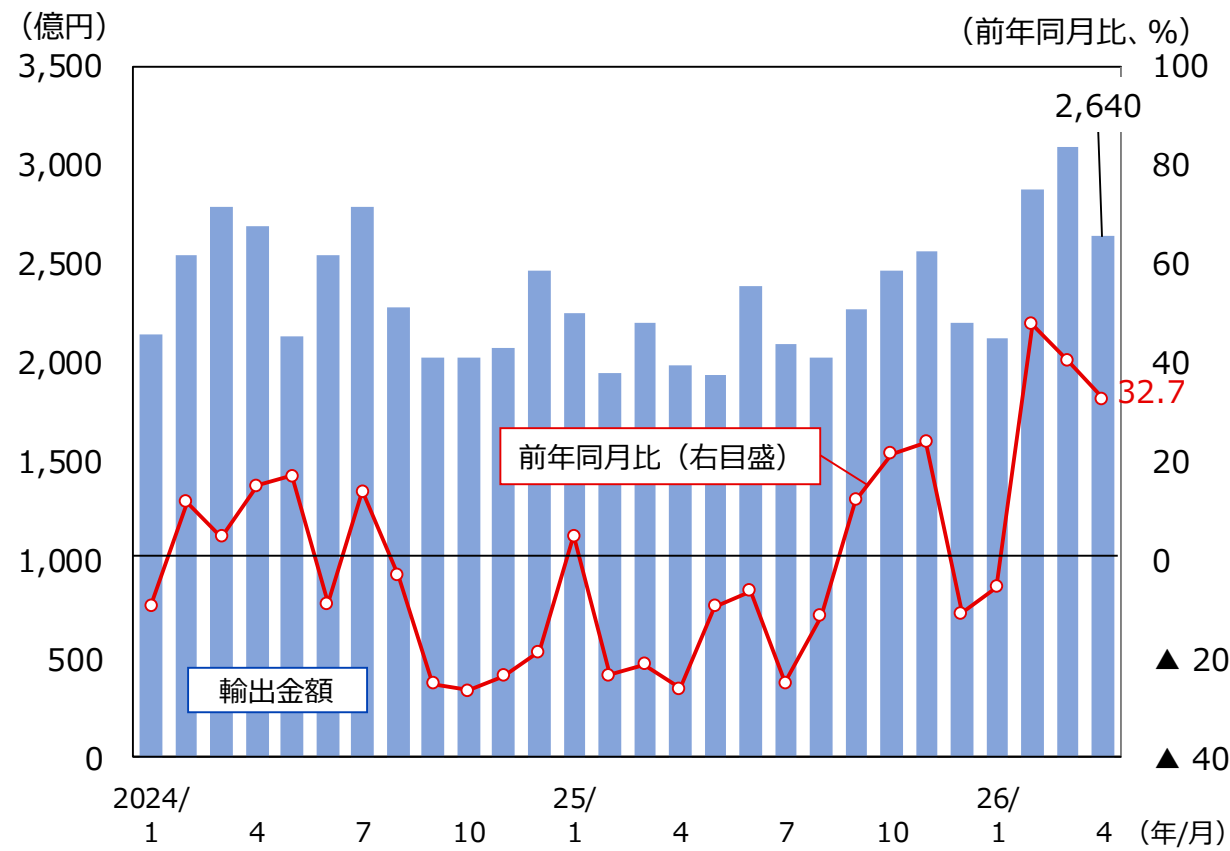
広島県内企業の業況判断DIの推移（日銀短観）



(注) 業況判断DI = 業況が「良い」企業割合 - 「悪い」企業割合
(資料) 日本銀行広島支店「短観」より当部作成

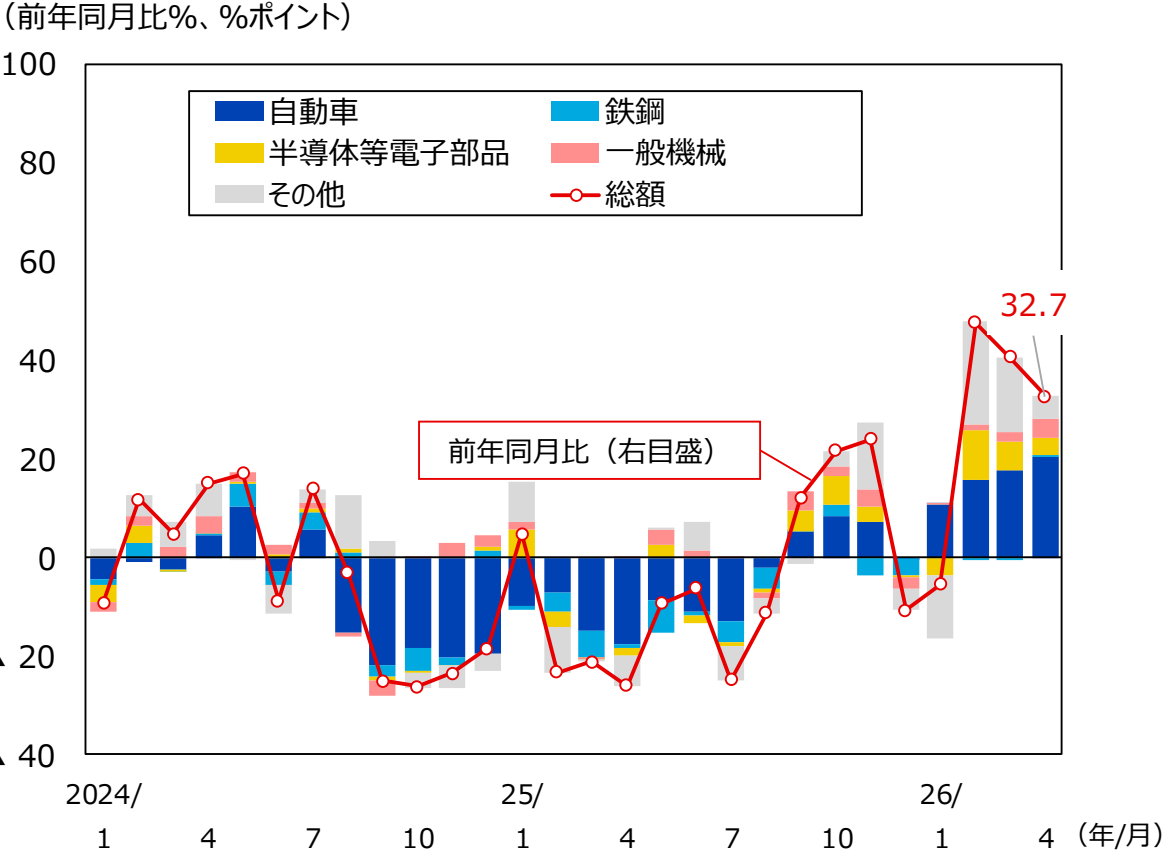
- 2026年4月の広島県の輸出金額は2,640億円（前年同月比+32.7%）と、3ヵ月連続して前年を大幅に上回った。
- 品目別には、主力の自動車（前年同月比寄与度+20.1%ポイント）がマツダの新型量販車の欧州・米国向け輸出の増加などから大きく寄与しているほか、半導体等電子部品（同+3.4%ポイント）も引き続き前年を上回った。

広島県の輸出金額の推移



(資料) 神戸税関資料より当部作成

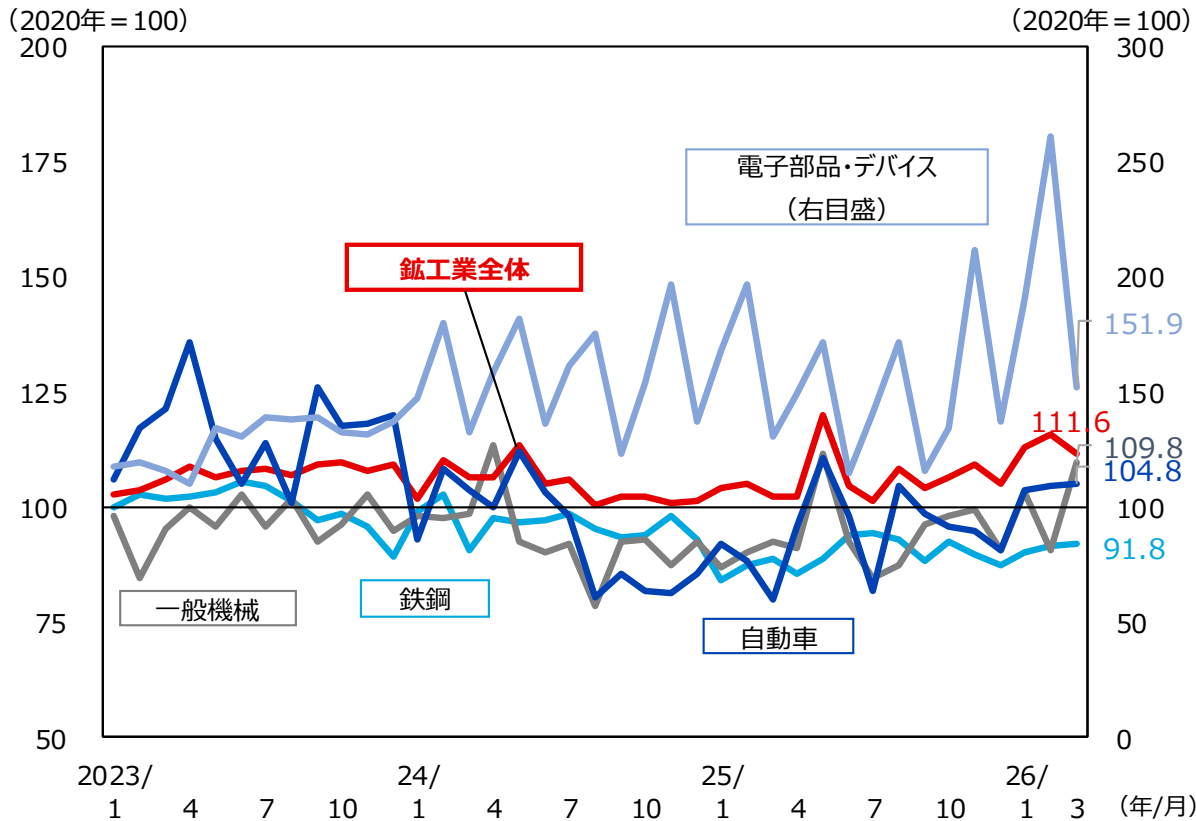
広島県の輸出金額の推移（品目別寄与度）



(注) 船舶は「その他」に含む
(資料) 神戸税関資料より当部作成

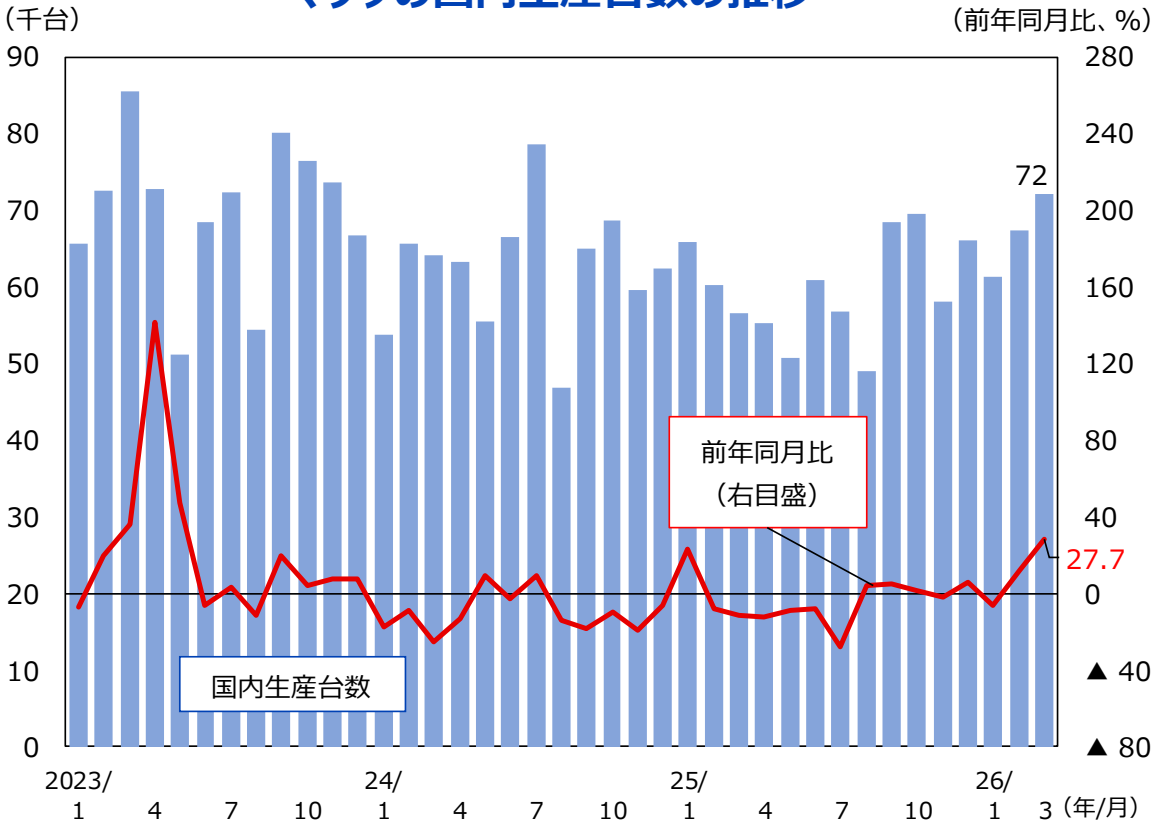
- 2026年3月の広島県の鉱工業生産指数（2020年＝100）は111.6と、電子部品・デバイス（151.9）の低下を主因に3ヵ月振りに低下したものの、引き続き高水準で推移しており、主力の自動車（104.8）も回復傾向にある。
- ちなみに、2026年3月のマツダの国内生産台数は72千台（前年同月比＋27.7%）と前月（67千台）から大きく増加。最量販車種CX-5の新型モデルの販売が昨年末の欧州に続いて北米・日本市場でもスタートしており、今後の持ち直しが期待される。

広島県の鉱工業生産指数の推移



(注) 季節調整値
(資料) 広島県資料より当部作成

マツダの国内生産台数の推移



(資料) マツダ(株)資料より当部作成

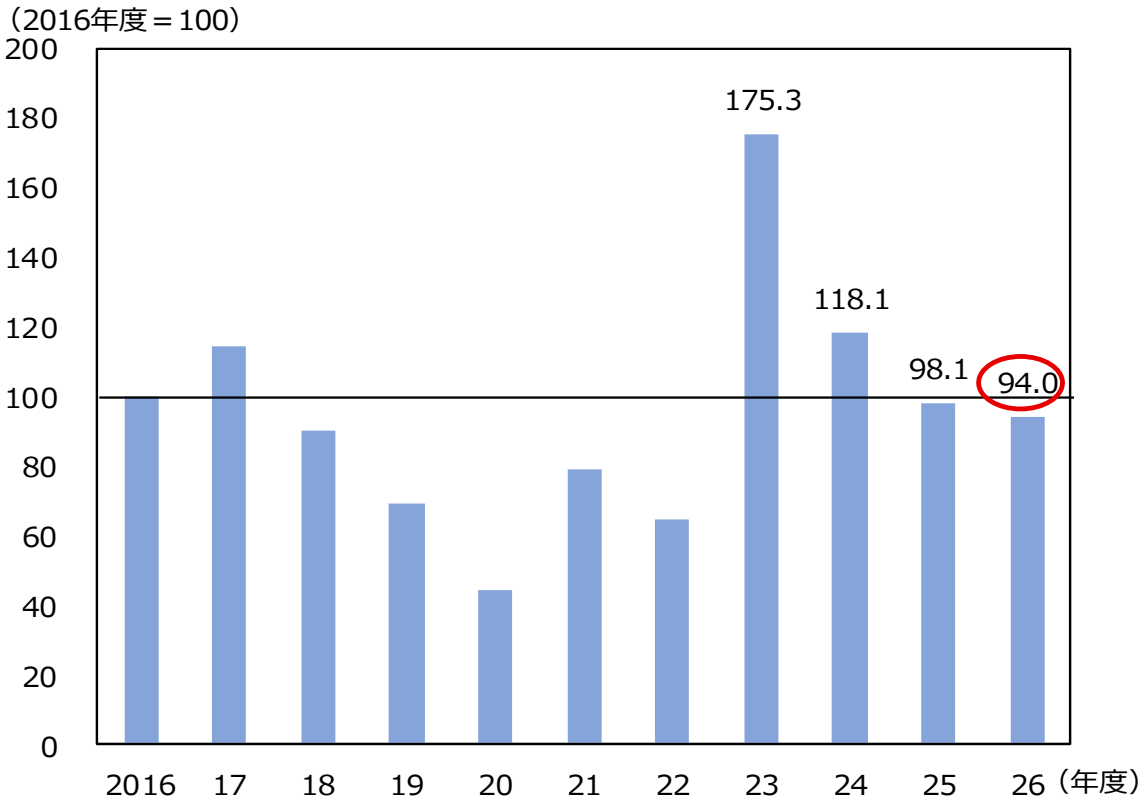
- 日銀短観（3月調査）によれば、県内企業の2026年度の業績は、売上高は概ね横這い、経常利益は製造業を中心に3期連続の減益を計画している。
- 中東情勢の緊張が続く中、供給制約に伴う生産・販売の減少や、原材料・エネルギー、輸送コストの上昇等を通じ、計画が下方修正される可能性がある。

広島県内企業の売上高・経常利益の計画（日銀短観）

(前年度比、%)						
	売上高			経常利益		
	24年度 (実績)	25年度 (実績見込)	26年度 (計画)	24年度 (実績)	25年度 (実績見込)	26年度 (計画)
全産業	+0.0	▲3.3	+0.5	▲32.6	▲17.0	▲4.1
製造業	+0.0	▲5.1	+0.5	▲44.2	▲24.8	▲12.5
大企業	▲1.5	▲5.9	+0.0	▲56.4	▲50.6	+1.9
中堅企業	+8.8	▲1.3	+2.3	▲15.1	+9.8	▲21.6
中小企業	+0.3	▲6.0	+1.3	+2.7	+1.6	▲18.9
非製造業	▲0.1	▲1.2	+0.5	▲19.5	▲11.1	+1.2
大企業	▲1.0	▲1.7	+0.4	▲25.4	▲12.2	+0.8
中堅企業	+4.2	▲0.3	+1.5	+42.0	▲6.8	+3.0
中小企業	+3.0	+1.6	+0.1	+9.1	▲5.2	+2.5

(注) 想定為替レート：25年度：148.49円／ドル、26年度：149.92円／ドル
(資料) 日本銀行広島支店「短観」より当部作成

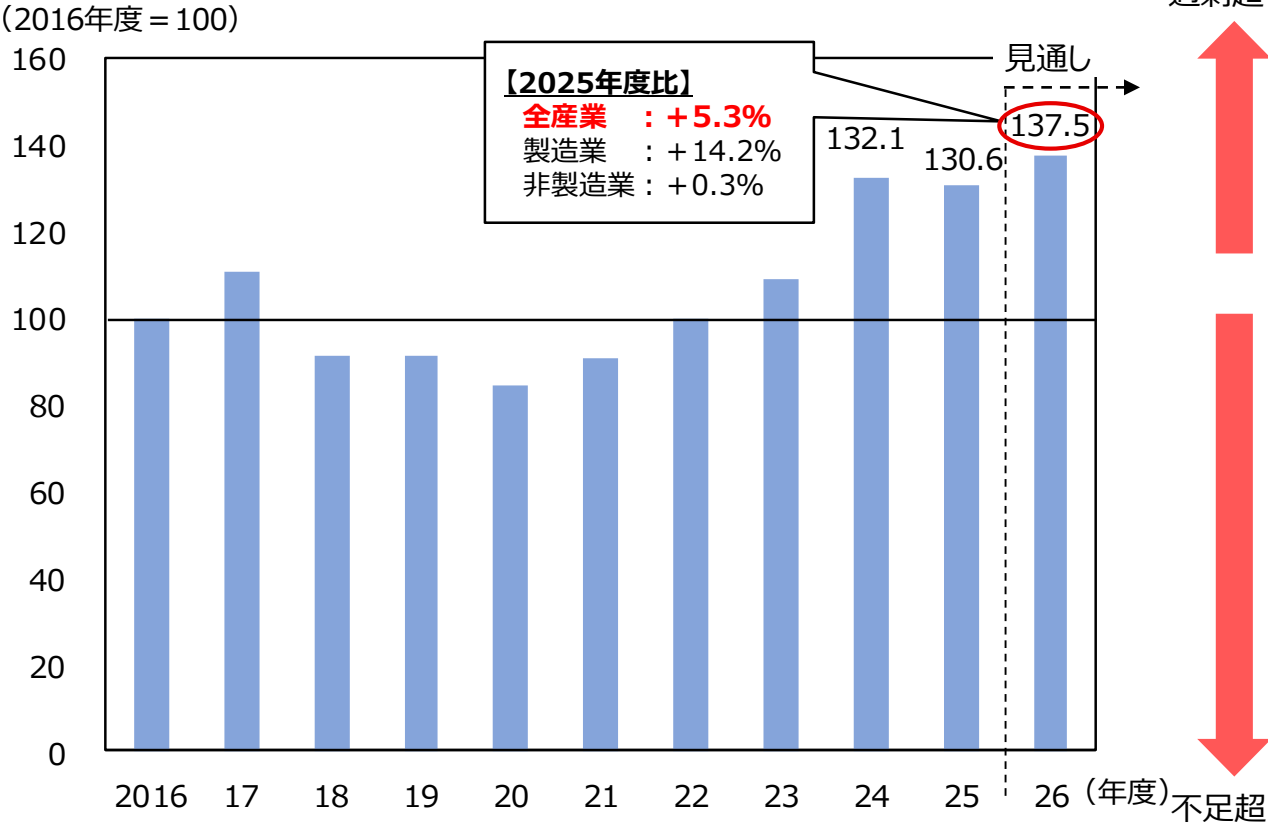
広島県内企業の経常利益の推移（日銀短観）



(資料) 日本銀行広島支店「短観」より当部作成

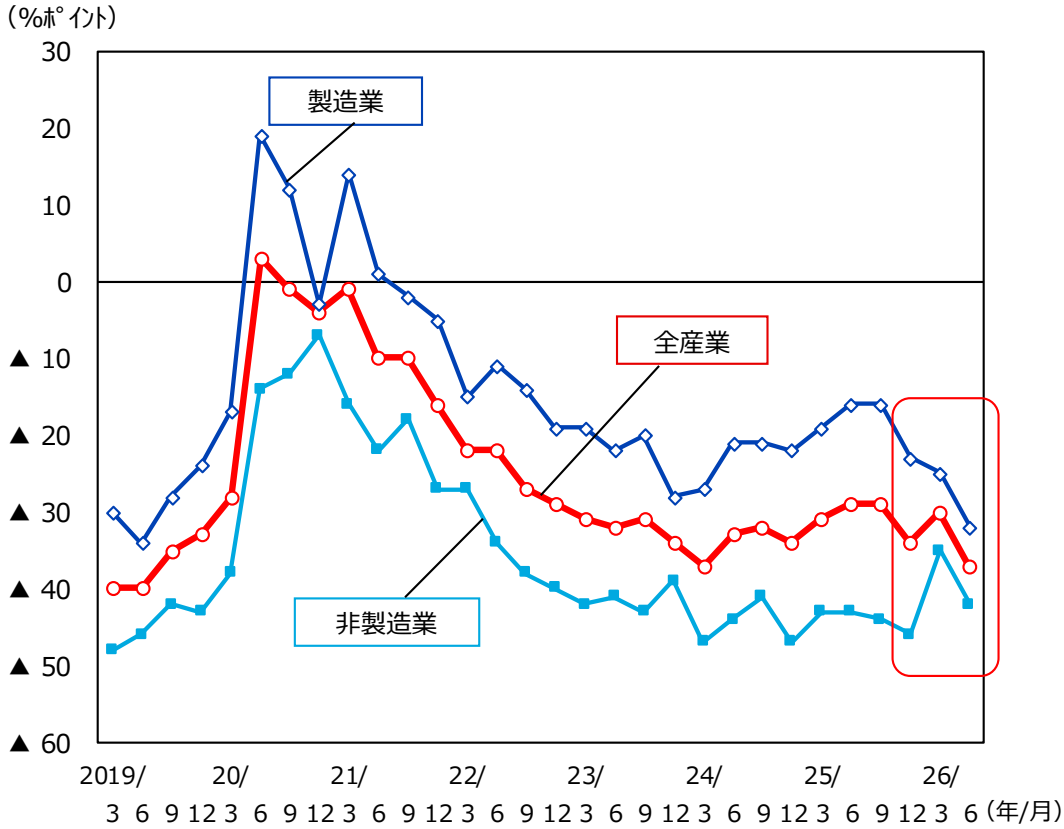
- 日銀短観（2026年3月調査）によれば、県内企業の26年度の設備投資計画額（2016年度 = 100）は全産業ベースで137.5と、前年度（130.6）を上回る高い水準が見込まれている。
- 人手不足の深刻化等を背景に、生産性向上や就労環境の改善に向けた投資を中心に今後も堅調な推移が予想されるが、企業収益の動向次第では計画が下押しされる懸念もある。

広島県内企業の設備投資計画額の推移（日銀短観）



(注) 土地投資額を含む
(資料) 日本銀行広島支店「短観」より当部作成

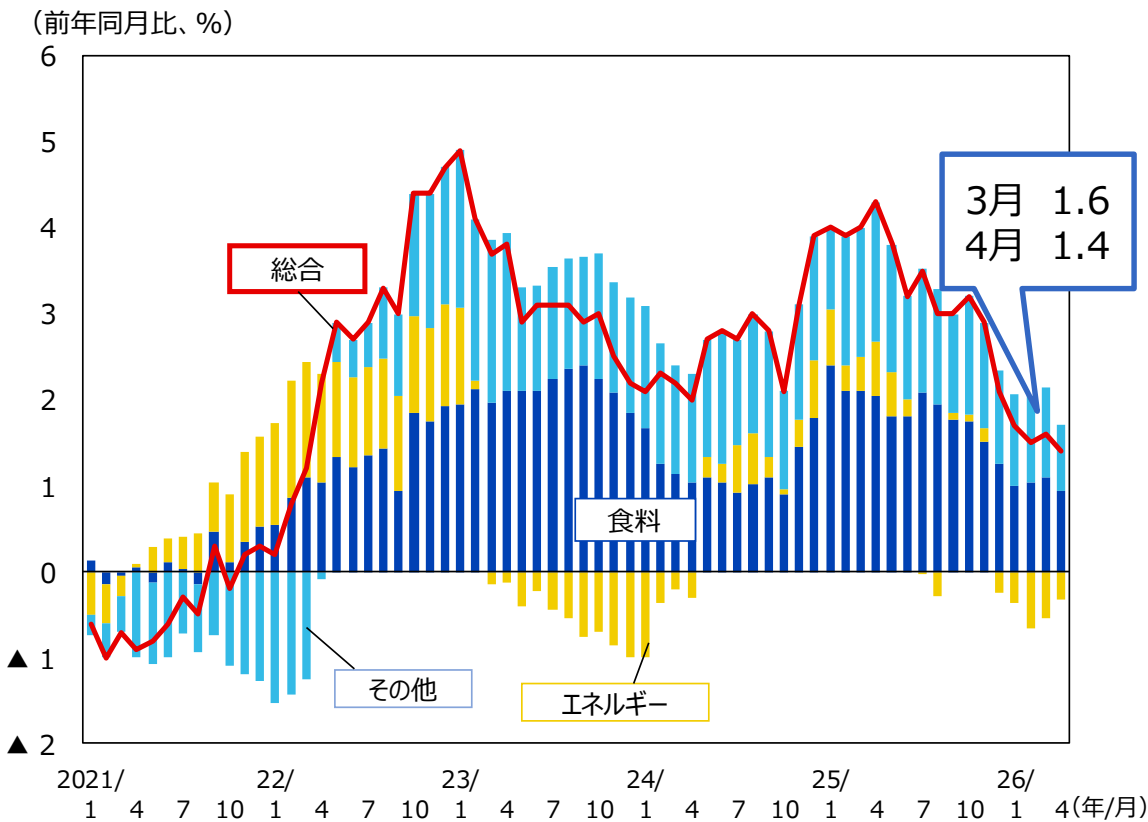
広島県内企業の雇用人員判断DIの推移



(注) 雇用人判断DI = 雇用が「過剰」-「不足」とする企業割合
(資料) 日本銀行広島支店「短観」より当部作成

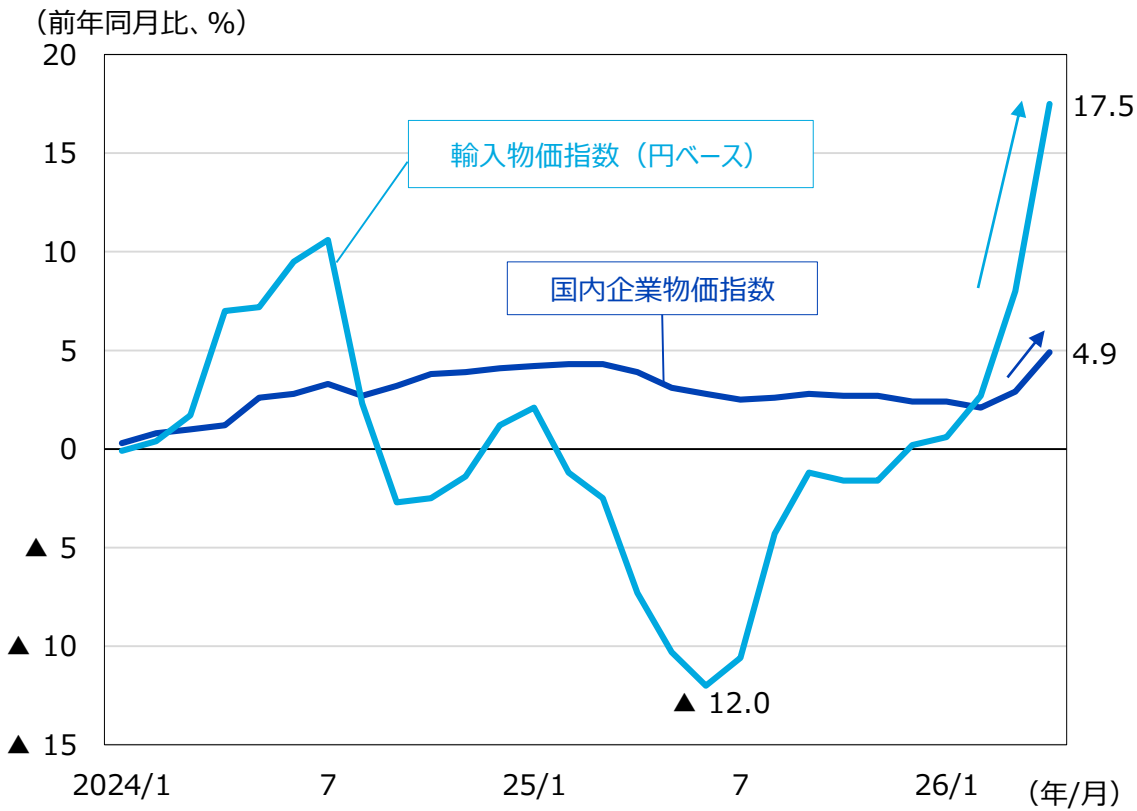
- 2026年4月の広島市の消費者物価指数（総合）は前年同月比+1.4%と、伸び率は小幅に低下。原油価格の高騰を受けた政府のガソリン等への激変緩和措置などからエネルギーが引き続きマイナスに寄与したほか、食料等の伸びも縮小した。
- ただし、足下では、輸入物価の高騰が国内企業物価に波及し始めており、消費者物価の伸びがタイムラグを伴って拡大に転じる可能性は高い。

広島市の消費者物価指数（総合）の推移



(注) 棒グラフは前年同月比寄与度
(資料) 総務省資料より当部作成

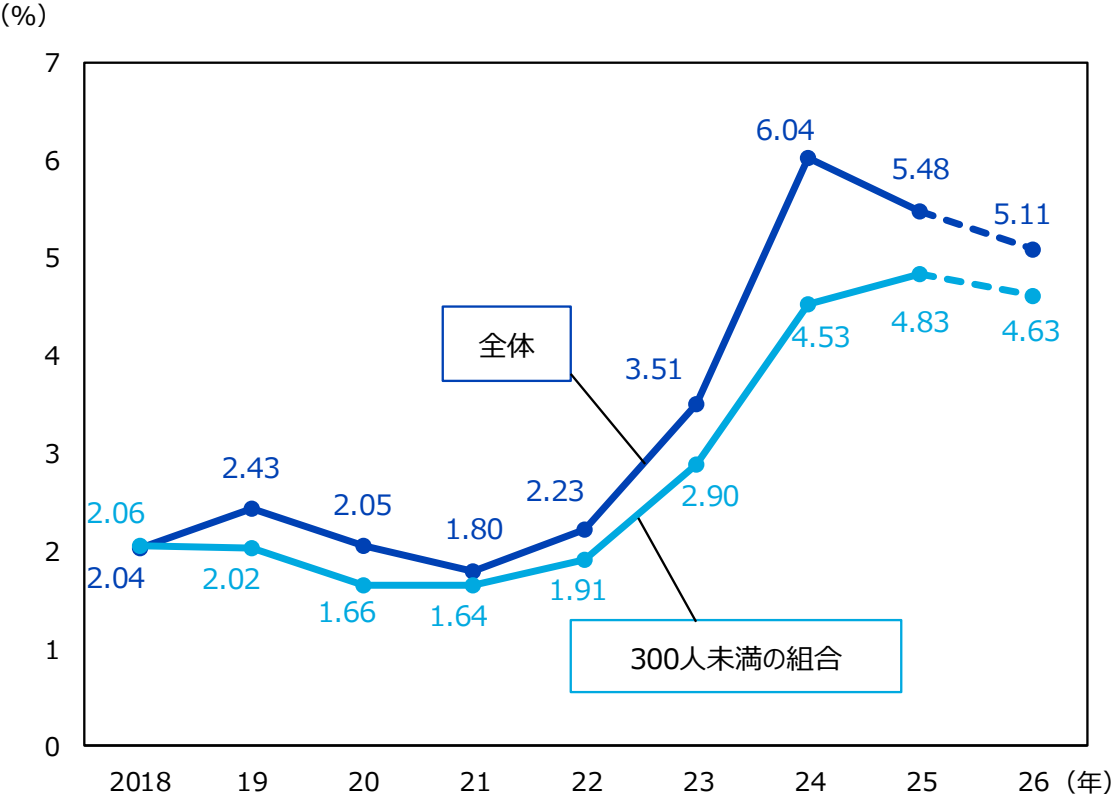
国内企業物価指数と輸入物価指数の推移



(資料) 日本銀行「企業物価指数」より当部作成

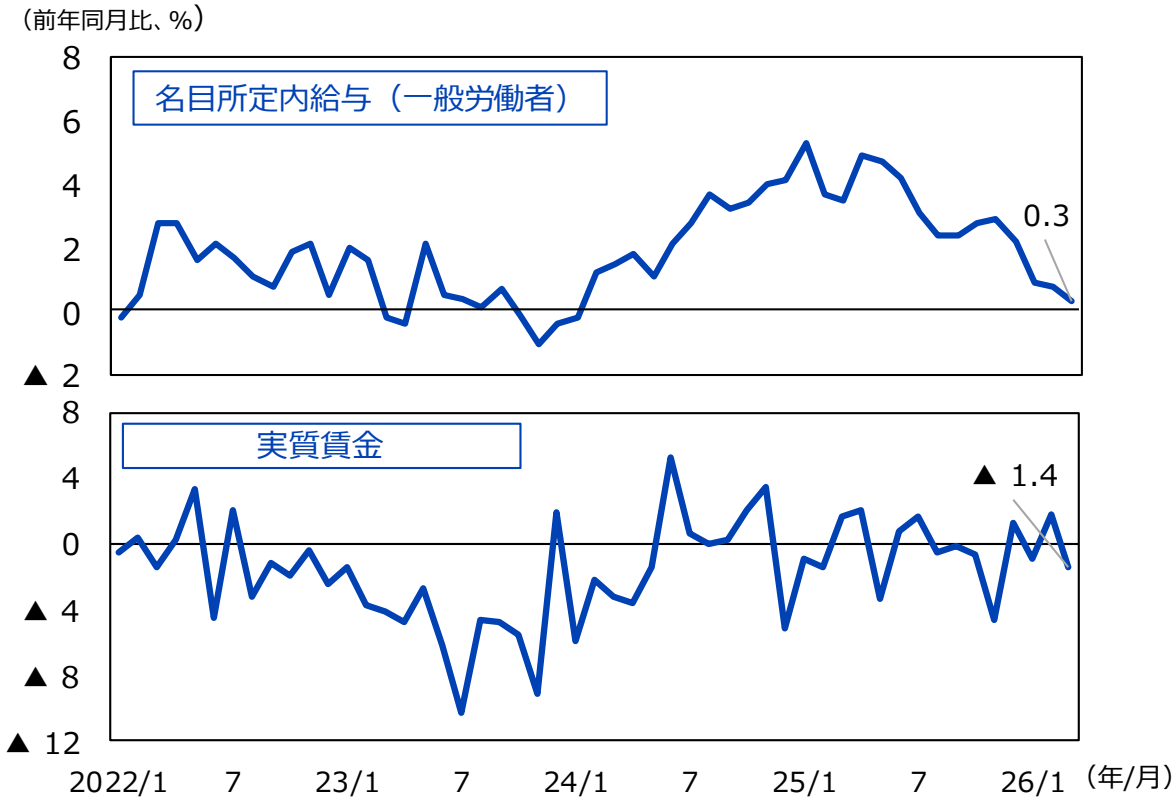
- 連合広島は2026年春闘賃上げ率（第4回回答集計時点）は5.11%、うち組合員数300人未満の中小労組は4.63%と、高めの水準を維持。こうした賃上げの流れが中小企業全体に広がることが期待される。
- 参考までに、2026年3月の広島県の名目所定内給与は前年同月比+0.3%、実質賃金は同▲1.4%となっている。中東情勢の緊張長期化に伴い物価上昇が再加速し、実質賃金のプラス定着が先送りされる可能性がある。

連合広島の賃上げ率の推移



(注) 2026年は第4回回答集計（5月18日）時点
(資料) 連合広島資料より当部作成

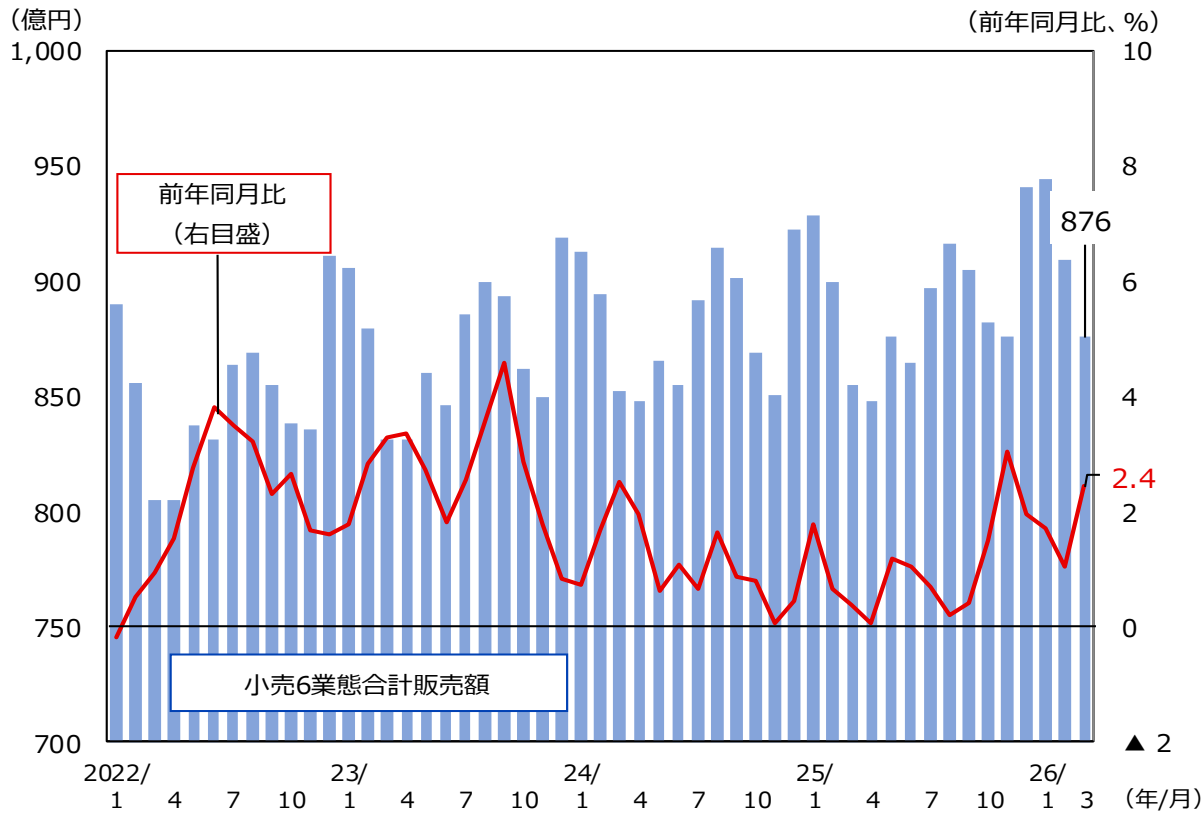
【参考】広島県の名目所定内給与と実質賃金の推移



(注) 従業員5人以上の事業所、所定内給与は一般労働者
(資料) 広島県資料より当部作成

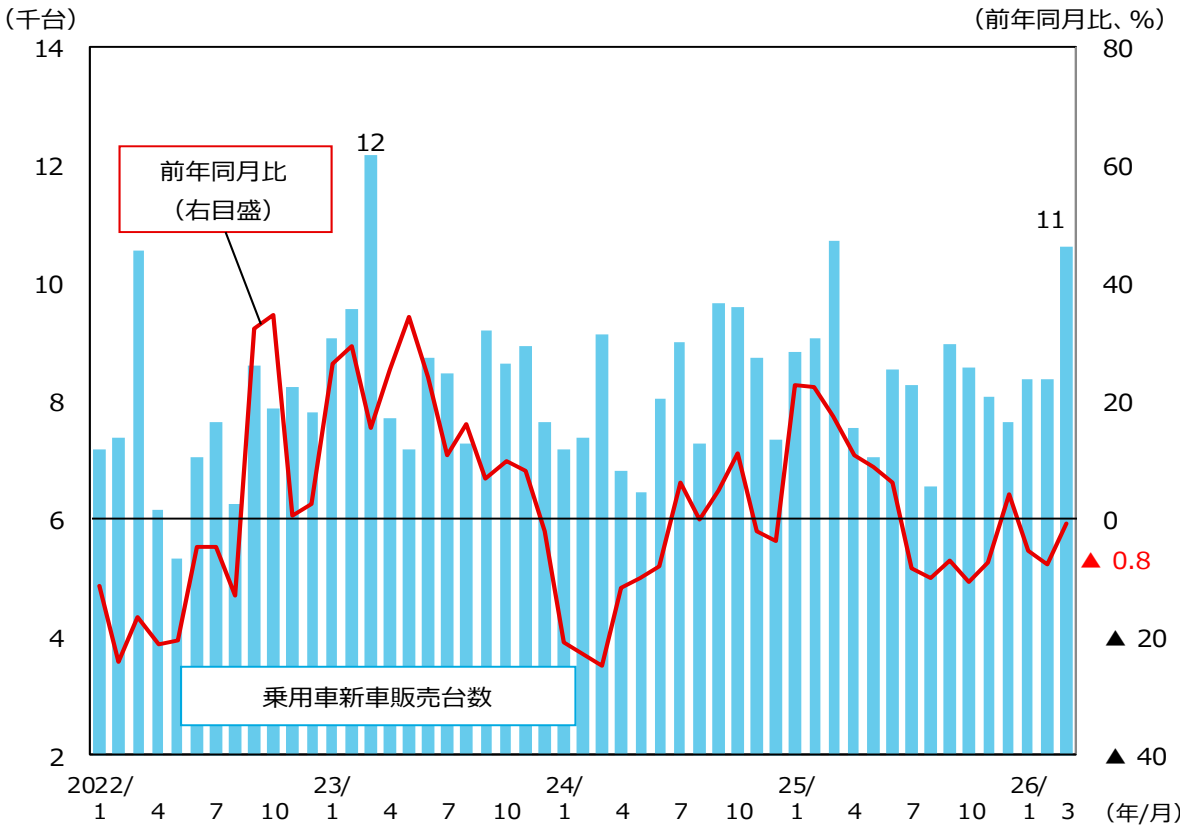
- 2026年3月の広島県の小売6業態販売額（3ヵ月移動平均）は前年同月比+2.4%と、物価上昇の中で横這い圏内の動き。乗用車新車販売台数は同▲0.8%とマイナス圏内での推移が続いている。
- 賃上げの広がりが期待される一方で、中東情勢の悪化を受けた物価上昇と消費マインドの慎重化が懸念され、今後も消費は回復力の弱い展開が予想される。

広島県の小売6業態販売額の推移



(注) 小売6業態販売額は百貨店、スーパー、家電大型専門店、ドラッグストア、ホームセンター、コンビニエンスストアの合計（3ヵ月移動平均値）
(資料) 経済産業省資料より当部作成

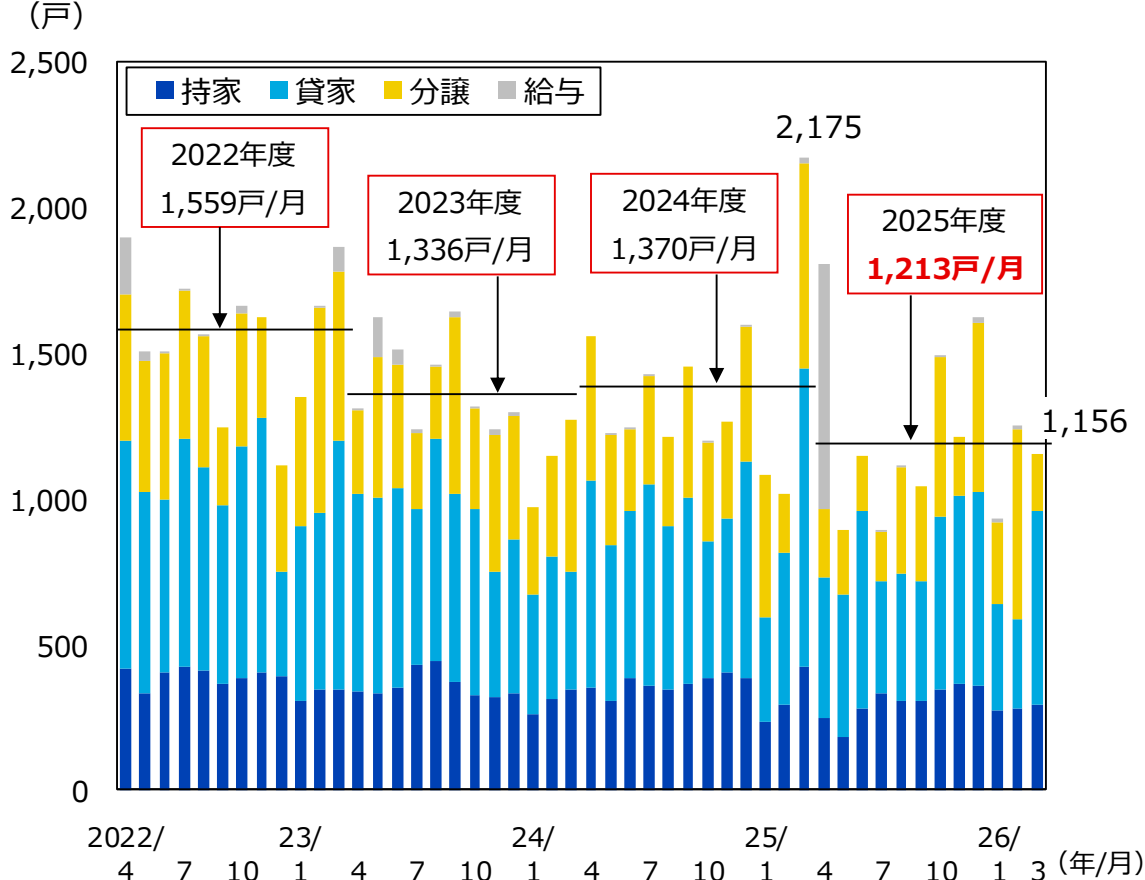
広島県の乗用車新車販売台数の推移



(資料) 自販連、軽自動車協会連合会資料より当部作成

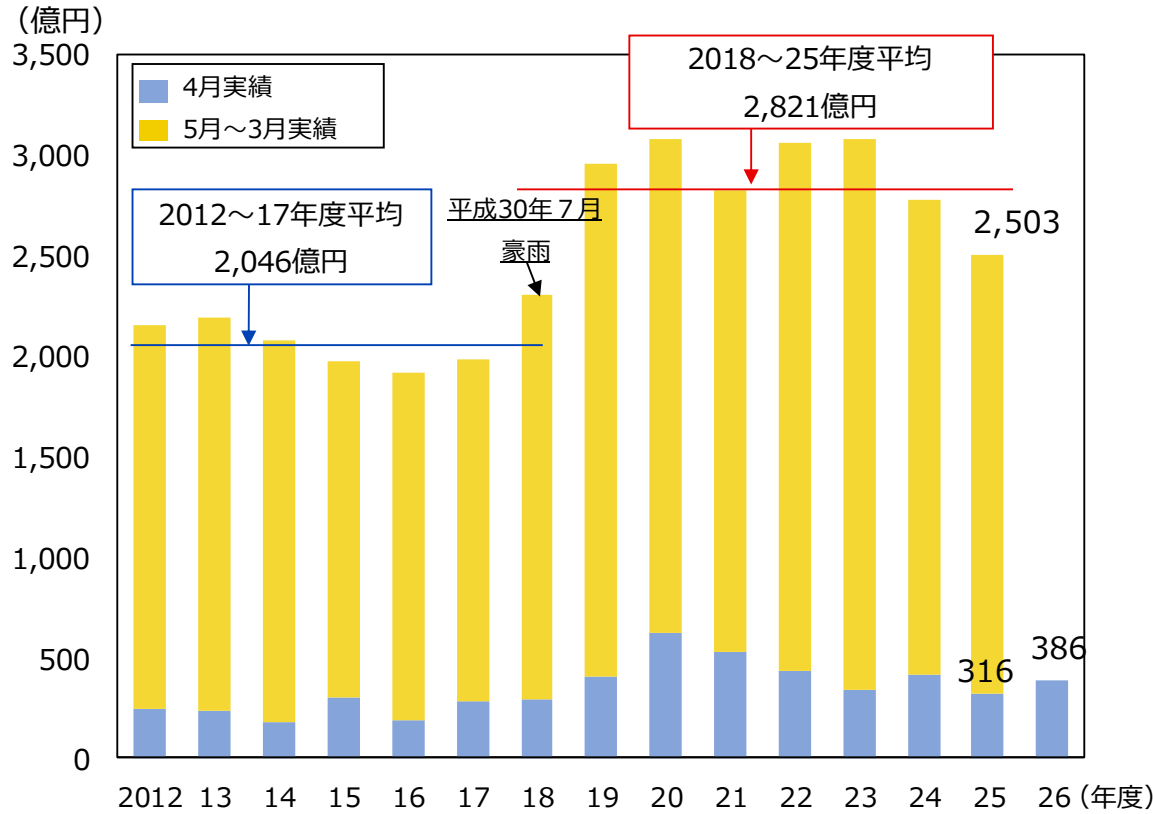
- 2025年度の新設住宅着工戸数は1,213戸/月と、地価・労務費等の上昇や資材価格の高止まりに伴う住宅価格の上昇などを背景に、減少基調にあり、今後も低調な推移が見込まれる。なお、2026年3月単月の着工戸数は1,156戸(前年同月比▲46.9%)と、前年の改正建築基準法施工前の駆け込みの反動から大きく落ち込んだ。
- 2026年度4月の公共工事請負金額は386億円(前年同期比+22.1%)と、前年を上回った。

広島県の新設住宅着工戸数の推移



(資料) 国土交通省資料より当部作成

広島県の公共工事請負金額の推移



(資料) 西日本建設業保証(株)資料より当部作成

p 速報値 r 修正値

広島県

年 月	推 計 人 口		景 気 動 向		生 産 活 動								個 人 消 費											
			業 況 判 断 D I		鉱工業生産指数		鉱工業出荷指数		鉱工業在庫指数		自動車生産台数		百貨店・スーパー販売額		百貨店販売額		スーパ－販売額		家電大型専門店販売額		ホームセンター販売額		乗用車新車販売台数 (含む軽乗用車)	
	前年(月)差	%	全産業	うち製造業	20年=100	前年比	20年=100	前年比	20年=100	前年比	[マツダ]	前年比	前年比	%	前年比	%	前年比	%	前年比	%	前年比	%	前年比	%
単 位	千 人	人	% [※] イ	% [※] イ	20年=100	%	20年=100	%	20年=100	%	千 台	%	億 円	%	億 円	%	億 円	%	億 円	%	億 円	%	台	%
23	2,739	▲ 20,256			107.3	▲ 1.6	105.4	▲ 1.5	110.0	▲ 2.1	839	14.2	4,273	2.7	1,174	▲ 2.5	3,099	4.8	1,088	▲ 1.0	889	▲ 1.8	104,637	16.1
24	2,716	▲ 22,713			104.8	▲ 2.3	100.8	▲ 4.4	96.0	▲ 12.7	749	▲ 10.7	4,295	0.5	1,097	▲ 6.5	3,197	3.2	1,077	▲ 1.0	888	▲ 0.2	96,673	▲ 7.6
25	2,695	▲ 22,085			105.9	1.0	101.8	1.0	100.3	4.5	717	▲ 4.3	4,256	▲ 0.9	1,049	▲ 4.4	3,207	0.3	1,115	3.5	880	▲ 0.9	99,871	3.3
25 . 2	2,710	▲ 3,402			105.1	▲ 5.1	99.9	▲ 3.1	99.4	▲ 17.6	60	▲ 8.4	311	▲ 6.0	77	▲ 11.6	234	▲ 4.0	85	5.7	61	▲ 1.8	9,058	22.6
3	2,708	▲ 2,156	23	15	102.4	▲ 3.9	96.4	▲ 7.0	100.9	▲ 15.4	57	▲ 11.7	357	▲ 1.7	93	▲ 6.6	264	0.1	119	3.9	74	0.8	10,721	17.4
4	2,701	▲ 6,685			102.1	▲ 4.0	98.4	▲ 5.7	110.4	▲ 1.7	55	▲ 12.6	327	▲ 2.1	75	▲ 6.8	252	▲ 0.7	75	4.5	81	1.3	7,560	10.9
5	2,701	115			120.1	3.4	116.4	3.7	109.1	▲ 2.9	51	▲ 8.8	339	▲ 1.5	77	▲ 6.6	262	0.1	79	9.2	78	▲ 0.6	7,048	9.0
6	2,700	▲ 1,416	19	15	104.5	2.0	103.2	3.7	104.1	▲ 11.6	61	▲ 8.4	344	▲ 3.1	82	▲ 9.9	262	▲ 0.8	98	2.9	76	5.3	8,536	6.2
7	2,698	▲ 1,368			101.1	▲ 4.6	100.1	▲ 2.4	97.0	▲ 18.0	57	▲ 27.9	367	▲ 1.7	92	▲ 6.9	274	0.2	101	▲ 5.9	77	1.3	8,262	▲ 8.2
8	2,697	▲ 1,153			108.5	5.8	105.1	6.4	99.9	▲ 13.5	49	4.3	360	0.4	74	▲ 3.0	287	1.3	94	2.7	74	▲ 5.8	6,557	▲ 9.9
9	2,696	▲ 1,642	19	13	104.1	3.9	100.2	3.3	104.2	▲ 8.0	68	5.1	328	1.2	78	▲ 0.6	250	1.7	93	2.1	65	▲ 4.6	8,977	▲ 7.1
10	2,695	▲ 985			106.6	4.4	103.1	6.4	107.0	▲ 6.2	70	1.2	347	3.2	86	1.1	261	3.9	78	9.7	70	▲ 1.3	8,576	▲ 10.8
11	2,694	▲ 265			109.2	4.4	104.9	3.1	102.5	0.5	58	▲ 2.3	368	3.0	99	1.0	270	3.8	94	10.9	74	0.8	8,092	▲ 7.4
12	2,693	▲ 1,823	24	15	104.9	5.8	99.3	4.3	106.2	4.5	66	5.9	454	0.2	125	▲ 2.0	328	1.1	108	▲ 1.1	85	▲ 5.1	7,654	4.1
26 . 1	2,691	▲ 1,781			113.1	6.4	107.3	8.8	103.0	1.3	61	▲ 6.8	369	4.4	90	0.2	279	5.8	98	7.7	61	▲ 4.6	8,362	▲ 5.3
2	2,688	▲ 2,330			115.8	10.2	110.0	10.2	105.6	6.3	67	12.0	r 320	2.9	r 78	1.2	r 242	3.4	r 87	2.4	r 60	▲ 2.6	8,376	▲ 7.5
3	2,686	▲ 2,419	19	13	111.6	11.4	107.8	13.9	105.4	4.5	72	27.7	p 368	3.2	p 95	2.4	p 273	3.4	p 124	4.8	p 74	0.9	10,639	▲ 0.8
4																								
出 所	広 島 県		日本銀行広島支店		広 島 県								経 済 産 業 省											
					マ ッ ダ								目 販 連 ・ 軽自動車協会連合会											

(注1)推計人口の各年は10月1日の数値、各月は1日現在の数値。(注2)鉱工業生産指数、同出荷指数、同在庫指数は季節調整済みの値。但し、前年比は原指数による。(注3)全国の2020年推計人口前年差の数値は増減数。(2020年国勢調査で基準を見直したため)(注4)百貨店・スーパー販売額、百貨店販売額、スーパー販売額は、金額、前年比ともに全店舗ベース。

p 速報値 r 修正値

全国

年 月	推 計 人 口		景 気 動 向		生 産 活 動								個 人 消 費											
			業 況 判 断 D I		鉱工業生産指数		鉱工業出荷指数		鉱工業在庫指数		自動車生産台数		百貨店・スーパー販売額		百貨店販売額		ス ー パ ー 販 売 額		家電大型専門店販売額		ホームセンター販売額		乗用車新車販売台数 (含む軽乗用車)	
	前年(月)差	%	全産業 %※イ	うち製造業 %※イ	20年=100	前年比 %	20年=100	前年比 %	20年=100	前年比 %	千 台	前年比 %	百 億 円	前年比 %	百 億 円	前年比 %	百 億 円	前年比 %	百 億 円	前年比 %	百 億 円	前年比 %	千 台	前年比 %
単 位	万 人	万 人																						
23	12,435	▲ 60			103.9	▲ 1.3	103.2	▲ 0.7	100.7	▲ 0.5	8,999	14.9	2,160	4.6	596	8.1	1,565	3.3	463	▲ 1.1	334	0.0	3,903	13.2
24	12,379	▲ 56			101.2	▲ 2.6	99.9	▲ 3.2	98.8	▲ 1.9	8,234	▲ 8.5	2,238	3.6	633	6.3	1,605	2.6	473	2.1	340	1.7	3,725	▲ 4.6
25	12,321	▲ 58			100.9	▲ 0.3	99.5	▲ 0.4	96.0	▲ 2.8	8,411	2.1	2,302	2.9	620	▲ 2.1	1,681	4.7	492	4.0	340	0.0	3,834	2.9
25 . 2	12,344	▲ 11			102.0	0.3	100.7	1.3	101.6	▲ 0.7	733	18.8	173	1.9	46	▲ 2.0	127	3.4	36	5.6	23	0.3	355	18.8
	12,342	▲ 2	15	7	101.4	0.0	99.3	▲ 0.8	101.7	▲ 0.6	724	2.0	193	2.8	54	▲ 3.2	139	5.3	48	5.3	28	0.9	421	9.6
4	12,340	▲ 2			100.5	▲ 0.7	99.2	▲ 0.8	101.1	▲ 1.2	669	3.5	180	2.7	46	▲ 4.9	134	5.6	36	1.1	30	▲ 0.5	287	11.0
5	12,334	▲ 6			101.8	▲ 2.9	100.4	▲ 3.0	100.0	▲ 3.0	638	▲ 2.1	185	1.8	48	▲ 7.3	137	5.4	37	4.7	31	0.6	269	3.1
6	12,337	3	15	7	101.5	3.4	100.3	2.9	99.7	▲ 3.0	726	5.0	188	1.0	51	▲ 8.0	138	4.8	43	5.6	30	2.3	329	5.5
7	12,337	0			100.5	▲ 1.5	98.8	▲ 2.5	100.1	▲ 2.3	744	▲ 7.5	193	1.6	51	▲ 6.6	141	4.9	43	▲ 4.8	30	1.0	326	▲ 3.7
8	12,327	▲ 10			99.2	▲ 3.3	98.9	▲ 2.5	99.5	▲ 2.9	543	0.4	193	3.3	45	2.4	147	3.6	41	5.4	29	▲ 3.5	249	▲ 8.2
9	12,319	▲ 8	15	7	101.0	2.2	99.6	1.6	99.8	▲ 2.3	761	▲ 0.1	180	3.4	47	1.2	133	4.2	40	5.4	25	▲ 2.3	357	▲ 2.4
10	12,322	3			101.6	0.1	100.5	0.2	99.9	▲ 1.9	814	▲ 0.3	188	5.1	51	4.0	137	5.6	37	11.0	27	0.2	328	▲ 2.8
11	12,320	▲ 2			99.6	▲ 4.2	99.5	▲ 3.0	98.0	▲ 4.1	686	▲ 7.2	199	4.9	57	0.7	142	6.7	41	7.6	29	1.0	307	▲ 7.0
12	r 12,317	▲ 3	18	11	100.2	0.9	98.4	0.3	98.6	▲ 2.8	691	1.9	238	1.4	71	▲ 1.2	167	2.6	49	0.4	33	▲ 2.6	278	▲ 0.8
26 . 1	12,295	▲ 22			104.5	0.7	102.1	1.2	97.8	▲ 4.3	677	▲ 0.6	197	3.0	54	2.2	143	3.3	45	9.6	25	1.6	308	▲ 6.2
	12,286	▲ 9			102.4	0.4	100.6	▲ 0.1	98.1	▲ 3.4	740	0.9	176	2.0	47	1.6	129	2.1	37	2.9	23	▲ 1.2	329	▲ 7.3
2	12,285	▲ 1	18	12	r 102.0	2.4	r 99.7	2.2	r 96.3	▲ 5.3			p 196	1.4	p 55	2.2	p 141	1.1	p 50	4.4	p 29	3.4	408	▲ 3.2
4	p 12,286	1																					315	9.7
出 所	総 務 省		日 本 銀 行		経 済 産 業 省								目 販 連 ・ 軽自動車協会連合会											

(注1)推計人口の各年は10月1日の数値、各月は1日現在の数値。(注2)鉱工業生産指数、同出荷指数、同在庫指数は季節調整済みの値。但し、前年比は原指数による。(注3)全国の2020年推計人口前年差の数値は増減数。(2020年国勢調査で基準を見直したため)(注4)百貨店・スーパー販売額、百貨店販売額、スーパー販売額は、金額、前年比ともに全店舗ベース。

広 島 県

年 月	建設投資				公共投資		貿易動向				物価動向		企業倒産				雇用動向		金融関係指標（月末〔年末〕値）						
	新設住宅着工戸数		建築着工床面積 （非居住用）		公共工事請負金額		輸出通関実績		輸入通関実績		消費者物価指数		件数		負債総額		求人倍率		県内銀行預金残高		県内銀行貸出金残高		資金需給実績等		
	単 位	戸	前年比	㎡	%	億 円	%	億 円	%	億 円	%	20年=100	%	件	%	百 万 円	%	倍	倍	億 円	%	億 円	%	発行高	受入高
23		17,515	▲ 2.5	746,498	1.4	3,038	2.0	30,234	10.1	14,963	▲ 7.8	105.2	3.1	157	48.1	18,956	▲ 42.1	2.82	1.53	157,561	3.0	117,675	3.3	1,936	1,572
24		15,560	▲ 11.2	721,882	▲ 3.3	2,699	▲ 11.2	28,550	▲ 5.6	14,332	▲ 4.1	107.8	2.4	195	24.2	53,629	182.9	2.68	1.45	162,978	3.4	122,239	3.9	1,971	1,217
25		15,502	▲ 0.4	715,732	▲ 0.9	2,695	▲ 0.1	26,315	▲ 7.8	13,476	▲ 6.0	111.3	3.3	171	▲ 12.3	36,284	▲ 32.3	2.56	1.41	167,399	2.7	127,513	4.3	2,064	1,752
25 .	2	1,020	▲ 11.3	48,357	▲ 7.0	108	▲ 24.3	1,949	▲ 23.4	904	▲ 23.3	109.5	3.0	13	▲ 35.0	1,763	▲ 23.9	2.82	1.42	160,838	2.5	122,057	3.5	1,011	1,434
	3	2,175	70.9	60,243	112.5	429	55.6	2,199	▲ 22.8	1,186	▲ 0.4	110.0	3.4	12	▲ 42.9	1,115	▲ 94.7	2.66	1.44	163,261	1.5	121,913	3.0	1,156	1,528
	4	1,810	16.2	31,078	▲ 66.2	316	▲ 22.7	1,990	▲ 25.9	1,065	▲ 15.5	111.1	4.1	18	12.5	2,005	12.9	2.69	1.46	164,058	2.0	122,499	4.1	990	1,472
	5	893	▲ 27.0	53,699	▲ 14.5	255	43.4	1,932	▲ 9.5	1,124	▲ 10.5	111.5	3.9	11	▲ 45.0	1,453	▲ 42.8	2.50	1.43	165,796	1.1	122,768	3.5	880	1,777
	6	1,147	▲ 7.4	95,051	40.2	346	22.7	2,386	▲ 6.3	1,093	▲ 14.4	111.3	3.3	20	33.3	5,261	90.1	2.53	1.42	164,921	1.1	123,403	3.4	1,028	1,379
	7	895	▲ 37.3	71,047	45.5	243	▲ 21.1	2,096	▲ 24.8	1,218	▲ 7.6	111.8	3.4	18	▲ 14.3	10,937	402.4	2.59	1.43	165,352	1.5	124,609	3.2	1,034	1,523
	8	1,114	▲ 8.2	114,643	172.8	152	▲ 2.4	2,020	▲ 11.3	1,084	3.5	111.9	3.1	18	63.6	5,361	▲ 54.0	2.46	1.41	166,053	2.0	124,713	3.6	1,067	1,688
	9	1,040	▲ 28.6	52,804	▲ 49.6	246	8.7	2,264	12.0	1,079	▲ 12.4	111.6	3.2	13	▲ 18.8	922	▲ 72.7	2.47	1.40	165,844	2.5	125,654	4.3	1,017	1,537
	10	1,487	24.5	42,884	▲ 44.4	206	▲ 9.5	2,462	21.6	1,089	▲ 4.8	112.1	3.3	16	23.1	2,694	123.9	2.48	1.38	166,596	2.7	126,155	4.2	1,371	1,781
	11	1,214	▲ 4.0	57,777	131.8	131	▲ 7.7	2,563	23.9	1,165	0.5	112.4	3.2	4	▲ 66.7	1,074	56.8	2.41	1.38	168,128	2.8	126,577	4.1	1,028	1,560
	12	1,623	2.1	58,803	42.9	98	▲ 30.9	2,202	▲ 10.7	1,187	4.5	112.2	2.3	20	33.3	2,403	26.5	2.44	1.38	167,399	2.7	127,513	4.3	2,064	1,752
26 .	1	931	▲ 14.1	58,162	98.2	158	▲ 3.9	2,125	▲ 5.5	1,210	▲ 7.4	112.2	2.3	16	100.0	2,719	109.8	2.48	1.39	167,503	3.7	127,309	4.3	672	1,996
	2	1,251	22.6	200,703	315.0	96	▲ 10.4	2,877	47.6	1,293	43.0	111.5	1.8	9	▲ 30.8	1,474	▲ 16.4	2.43	1.38	167,857	4.4	127,200	4.2	990	1,395
	3	1,156	▲ 46.9	59,976	▲ 0.4	255	▲ 40.6	3,090	40.5	1,157	▲ 2.4	112.1	1.8	18	50.0	1,957	75.5	2.42	1.37	168,466	3.2	127,869	4.9	1,003	1,643
	4					386	22.1	p 2,640	32.7	p 1,272	19.4	112.7	1.5	17	▲ 5.6	5,823	190.4								
出 所	国 土 交 通 省				西日本建設業保証 広 島 支 店		神 戸 税 関				広 島 県		東 京 商 工 リ サ ー チ 広 島 支 社				広 島 労 働 局		日 本 銀 行 広 島 支 店						

(注1)消費者物価指数は生鮮食品を除く。(注2)企業倒産は負債額1千万円以上の企業が対象。(注3)求人倍率は季節調整済みの値。

全 国

年 月	建設投資				公共投資		貿易動向				物価動向		企業倒産				雇用動向		金融関係指標（月末〔年末〕値）						
	新設住宅着工戸数		建築着工床面積 （非居住用）		公共工事請負金額		輸出通関実績		輸入通関実績		消費者物価指数		件数		負債総額		求人倍率		国内銀行預金残高		国内銀行貸出金残高		マネーストック		
	単位	千戸	前年比	千㎡	%	百億円	%	百億円	%	百億円	%	20年=100	%	件	前年比	億円	%	新規	有効	千億円	%	千億円	%	M3	前年比
23		820	▲ 4.6	43,447	▲ 8.0	1,458	7.1	10,087	2.7	11,040	▲ 6.8	105.2	3.1	8,690	35.2	24,026	3.1	2.29	1.31	9,654	3.6	5,880	4.0	1,599	1.8
24		793	▲ 3.3	38,657	▲ 11.0	1,531	5.0	10,709	6.2	11,272	2.1	107.9	2.5	10,006	15.1	23,435	▲ 2.5	2.25	1.25	9,869	2.2	6,125	4.2	1,621	1.4
25		739	▲ 6.8	36,463	▲ 5.7	1,634	6.7	11,045	3.1	11,310	0.3	111.2	3.1	10,300	2.9	15,921	▲ 32.1	2.20	1.22	10,055	1.9	6,452	5.3	1,637	1.0
25 .	2	61	2.4	3,181	2.5	69	▲ 22.5	919	11.4	863	▲ 0.6	109.9	3.0	764	7.3	1,713	22.7	2.31	1.25	9,883	1.6	6,140	4.0	1,619	0.6
	3	89	39.1	3,474	7.1	172	6.0	985	4.0	932	2.1	110.2	3.2	853	▲ 5.8	986	▲ 30.7	2.27	1.25	9,997	1.2	6,162	3.4	1,618	0.6
	4	56	▲ 26.6	4,085	0.9	273	12.0	915	1.9	930	▲ 2.1	110.8	3.5	828	5.7	1,028	▲ 9.4	2.26	1.25	10,019	0.9	6,150	3.1	1,616	0.3
	5	43	▲ 34.4	3,531	22.8	165	4.0	813	▲ 1.8	879	▲ 7.5	111.4	3.7	857	▲ 15.1	904	▲ 33.9	2.18	1.23	10,061	1.6	6,169	3.3	1,619	0.6
	6	56	▲ 15.6	2,922	▲ 13.9	191	10.8	916	▲ 0.5	904	0.5	111.4	3.3	848	3.4	1,057	▲ 3.8	2.18	1.22	10,034	1.6	6,233	3.8	1,621	0.8
	7	61	▲ 9.7	2,612	▲ 20.7	168	9.5	934	▲ 2.8	950	▲ 7.3	111.5	3.0	961	0.8	1,670	▲ 78.6	2.18	1.22	10,014	1.4	6,250	4.0	1,623	0.7
	8	60	▲ 9.8	2,578	▲ 15.6	110	2.7	842	▲ 0.1	871	▲ 5.1	111.5	2.7	805	11.3	1,144	12.8	2.15	1.21	10,046	1.9	6,271	4.6	1,626	1.0
	9	64	▲ 7.3	3,379	▲ 3.1	143	12.5	940	4.1	968	3.3	111.4	2.9	873	8.2	1,125	▲ 15.3	2.13	1.20	10,013	2.2	6,302	5.1	1,630	1.0
	10	72	3.2	3,093	▲ 8.0	133	18.1	977	3.6	1,001	0.8	111.9	3.0	965	6.2	1,275	▲ 49.6	2.12	1.19	10,032	2.2	6,327	5.3	1,631	0.9
	11	60	▲ 8.5	2,360	▲ 25.1	75	▲ 6.8	971	6.1	940	1.4	112.3	3.0	778	▲ 7.5	824	▲ 48.6	2.14	1.19	10,139	2.6	6,376	5.2	1,634	1.0
	12	62	▲ 1.3	2,761	▲ 5.9	78	14.9	1,041	5.1	1,031	5.4	112.2	2.4	928	10.2	2,982	53.7	2.14	1.20	10,055	1.9	6,452	5.3	1,634	0.8
26 .	1	56	▲ 0.4	2,566	3.2	62	9.1	919	16.8	1,035	▲ 2.6	112.1	2.0	887	5.6	1,198	▲ 1.3	2.11	1.18	10,090	1.9	6,464	5.3	1,632	0.9
	2	58	▲ 4.9	2,833	▲ 11.0	85	23.6	956	4.0	952	10.3	111.8	1.6	851	11.4	1,332	▲ 22.3	2.10	1.19	10,139	2.6	6,491	5.7	1,638	1.2
	3	63	▲ 29.3	3,057	▲ 12.3	202	17.5	1,098	11.5	1,034	10.9	112.3	1.8	924	8.3	1,148	16.5	2.15	1.18	10,312	3.2	6,552	6.3	1,643	1.6
	4					286	4.7	p 1,051	14.8	p 1,021	9.7	112.3	1.4	883	6.6	1,119	8.8								
出 所	国 土 交 通 省				西日本建設業保証		財 務 省				総 務 省		東 京 商 工 リ サ ー チ				厚 生 労 働 省		日 本 銀 行						

【アンケートのお願い】

- ひろぎんホールディングス経済産業調査部では、レポートの品質向上を目的として、アンケートを実施しております。（所要時間：1分程度）
- 下記の二次元コードまたはリンクからご回答いただきますようお願い申し上げます。なお、個別のご質問に対する回答は原則として行っておりませんので、あらかじめご了承ください。

アンケートはこちらから
ご回答ください



PCの方は[こちらをクリック](#)してください。

※ ナインアウト株式会社が提供する
アンケートサイトへ遷移します。

- ◆ 本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ◆ 本資料は、信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。また、本資料に記載された内容等は作成時点のものであり、今後予告なく修正、変更されることがあります。資料のご利用に関しては、お客さまご自身の責任において判断なされますよう、お願い申し上げます。
- ◆ 本資料に関連して生じた一切の損害については、責任を負いません。その他、専門的知識に係る問題については、必ず弁護士、税理士、公認会計士等の専門家にご相談のうえ、ご確認ください。
- ◆ 本資料の一部または全部を、当社の事前の了承なく複製または転送等を行うことを禁じます。
- ◆ 本件に関するご照会は、ひろぎんホールディングス経済産業調査部 唐井・山下（082-247-4958）までお願いします。

未来を、ひろげる。



広島県経済の動向

令和8年6月15日

商 工 労 働 局

目 次

1	経済動向の概要	1
	（１）国内経済の動向	
	（２）広島県経済の動向	
2	県内主要製造業の生産動向	3
	（１）鉄鋼	
	（２）自動車	
	（３）造船	
	（４）一般機械	
	（５）電気機械	
3	中小企業の動向	5
	（１）概況	
	（２）景況感・景況感の変化	
	（３）前月から変化のあった主な業種	
4	企業倒産状況	7
	（１）概況	
	（２）業種別	
	（３）原因別	
	（４）今後の見通し	
5	最近の雇用失業情勢	8
	（１）県内の有効求人・求職の動向	
	（２）県内の新規求人・求職の動向	
	（３）県内の人員整理の状況	
	（４）完全失業率の状況（全国・県内）	

（注）「広島県経済の動向」は、国、その他機関等から発表される各種指標を編集、加工し、とりまとめたものです。

1 経済動向の概要

(1) 国内経済の動向

ア 概要

指 標	令和8年		
	3月	4月	5月
基調判断	景気は、穏やかに回復しているが、 中東情勢の影響を注視する必要がある		
輸 出	おおむね横ばいとなっている		
生 産	横ばいとなっている		
設備投資	持ち直している		
雇用情勢	改善の動きがみられる		
個人消費	持ち直しの動きがみられる ただし、消費者マインドがこのところ弱い動きと なっていることに注意が必要である		
住宅建設	弱含んでいる		
消費者物価	このところ緩やかに上昇している		緩やかに上昇している
企業収益	米国の通商政策の影響が残るものの、 改善の動きがみられる		改善の動きがみられるが、 中東情勢の影響を 注視する必要がある

イ 先行き

雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるものの、中東情勢の影響を注視する必要がある。また、金融資本市場の変動の影響などに注意する必要がある。

【内閣府「月例経済報告」（令和8年5月26日公表）】

(2) 広島県経済の動向

ア 概要

指 標	令和8年		
	3月	4月	5月
基調判断	緩やかな回復基調にある		
輸 出	緩やかに持ち直している		
生 産	緩やかに持ち直している		
設備投資	増加している		
雇用・所得	緩やかに改善している		
個人消費	緩やかな回復基調にある		
住宅投資	下げ止まっている		
消費者物価 (除く生鮮食品、広島市)	1%台後半のプラスとなっている		1%台半ばのプラスとなっている

イ 県内の経済の先行き

今後の中東情勢の展開や原油価格の動向などが、企業の生産や賃金・価格設定行動、個人消費の動向など、県内の金融経済情勢に与える影響を注視していく必要がある。

【日本銀行広島支店「広島県の金融経済月報」(令和8年6月5日公表)】

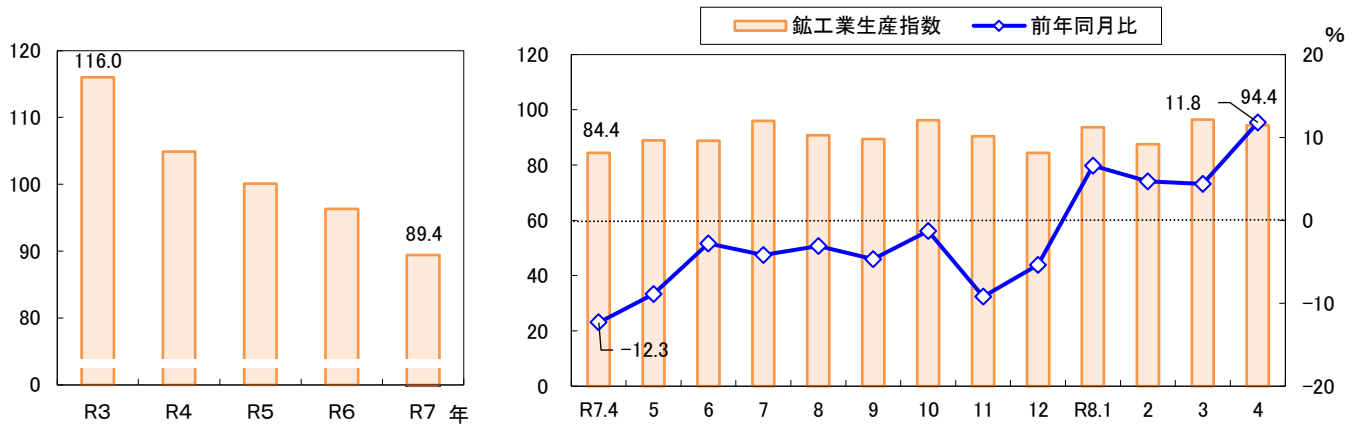
2 県内主要製造業の生産動向

(1) 鉄鋼（令和8年4月）

4月の鉱工業生産指数（鉄鋼業、原指数、速報値、令和2年＝100）は94.4で、前年同月比で11.8%増加となっている。

鉱工業生産指数(鉄鋼業) (年別・月別・前年同月比)

【県統計課】

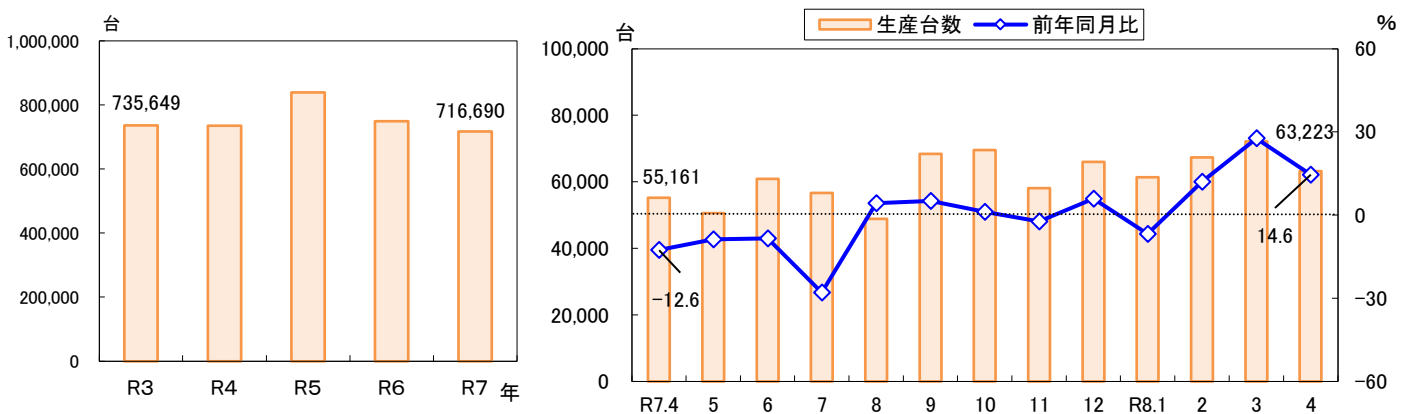


(2) 自動車（令和8年4月）

4月の国内生産台数は63,223台で、前年同月比で14.6%増加となっている。

自動車生産台数(年別・月別・前年同月比)

【マツダ（株）】

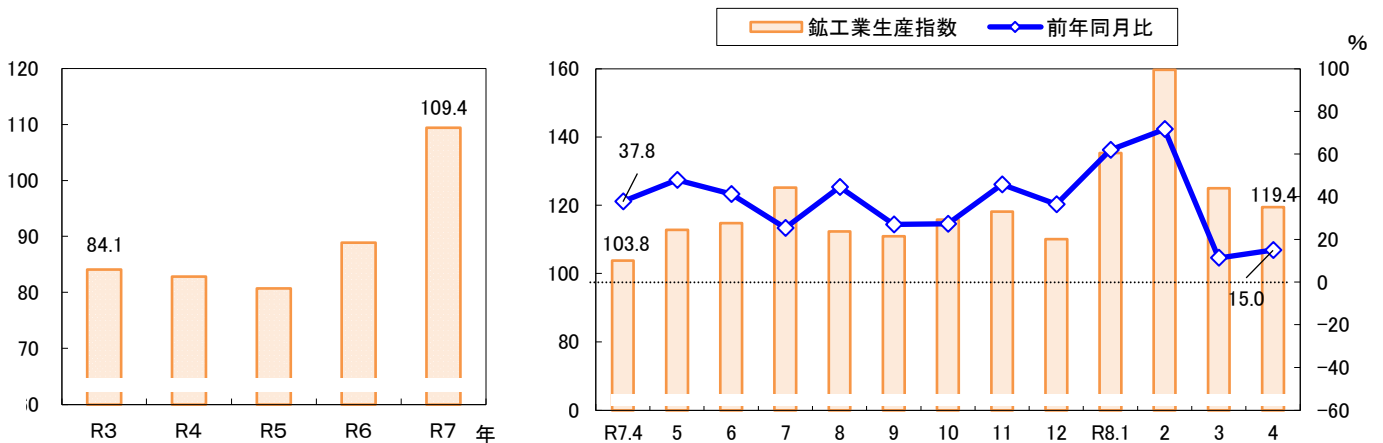


(3) 造船（令和8年4月）

4月の鉱工業生産指数（造船部門、原指数、速報値、令和2年＝100）は119.4で、前年同月比で15.0%増加となっている。

鉱工業生産指数(造船部門) (年別・月別・前年同月比)

【県統計課】

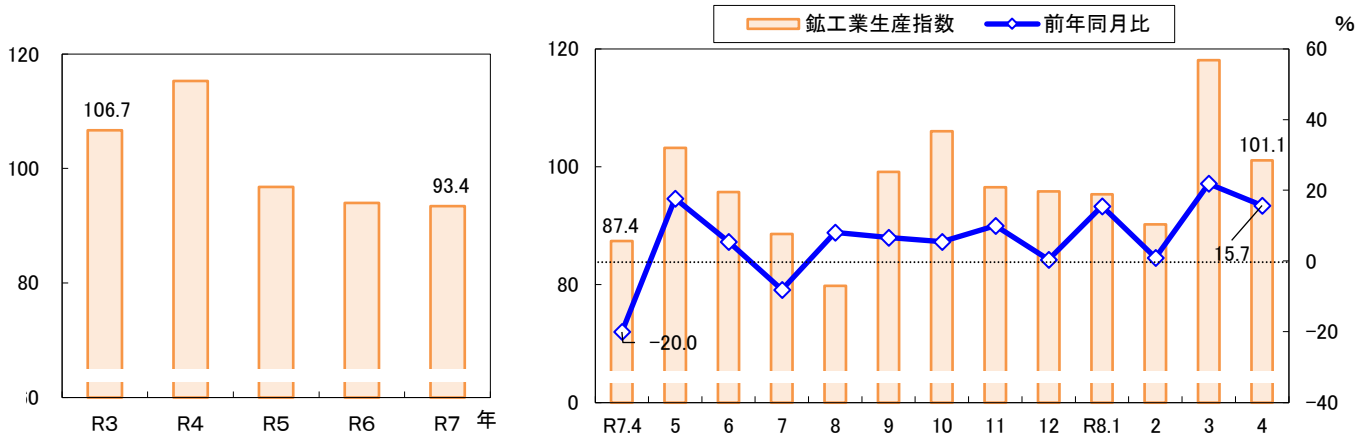


(4) 一般機械（令和8年4月）

4月の鉱工業生産指数(一般機械工業(総合)、原指数、速報値、令和2年=100)は101.1で、前年同月比で15.7%増加となっている。

鉱工業生産指数(一般機械工業(総合))(年別・月別・前年同月比)

【県統計課】

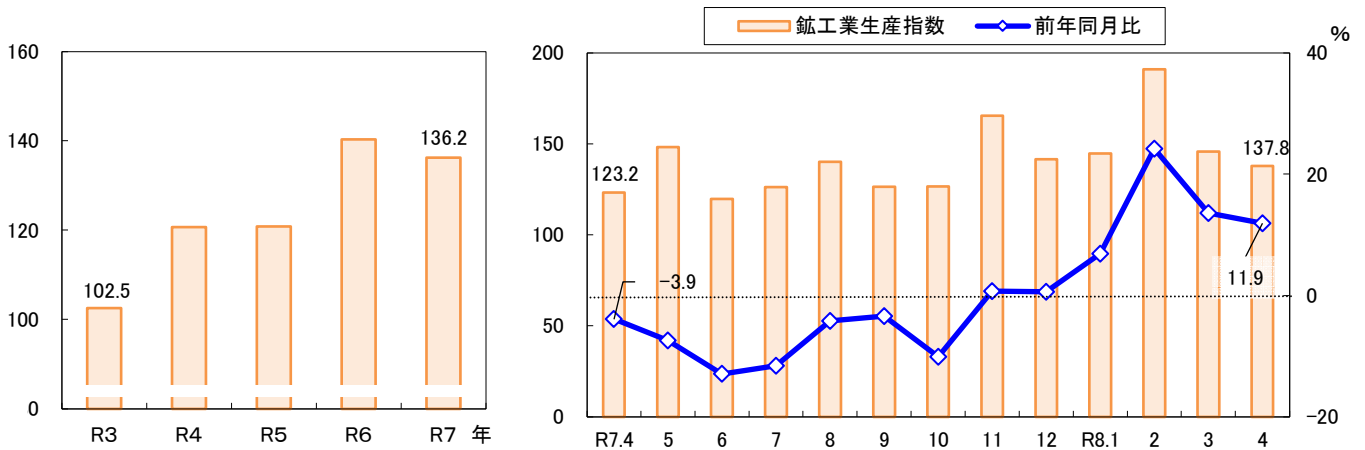


(5) 電気機械（令和8年4月）

4月の鉱工業生産指数(電気機械工業(総合)、原指数、速報値、令和2年=100)は137.8で、前年同月比で11.9%増加となっている。

鉱工業生産指数(電気機械工業(総合))(年別・月別・前年同月比)

【県統計課】



3 中小企業の動向（令和8年4月）

【広島県中小企業団体中央会（令和8年5月18日時点）】

（1）概況

一部の業種で景気の回復が見られるものの、県内の多くの中小企業は、原材料費やエネルギー価格の高騰、人件費の上昇に加え、国際情勢の緊迫化に伴う資材の調達難により収益が圧迫されるなど、厳しい様子が窺える。先行きについても、これらに伴う影響や深刻な人手不足の長期化、物価高に伴う消費低迷への懸念から、回復の見通しは依然として不透明である。

自動車関連業種では、4月の国内自動車販売台数は前年同月比+9.1%と4か月ぶりに増加した一方、マツダ車は前年同月比▲3.6%と3か月連続の減少となった。

また、木材業界では、4月の全国新設住宅着工戸数は62,569戸で前年同月比1+1.4%となったものの、県内の4月の着工戸数は1,107戸で、前年同月比▲38.8%となった。

※マツダ車に関する記載はマツダ（株）が発表する「4月の生産・販売状況について」に基づく

※木材業界に関する記載は、国土交通省が公表する「建築着工統計調査報告」及び広島県がホームページに掲載する「新設住宅着工戸数」の4月分のデータに基づく

（2）景況感・景況感の変化

業種	3月の景況感	4月の景況感
食料品	普通	やや悪い
繊維・衣服	普通	やや悪い
木材	普通	やや悪い
家具	やや悪い	やや悪い
印刷	やや好況	普通
化学	やや悪い	普通
プラスチック製品	普通	やや悪い
土石製品	やや悪い	やや悪い
鉄鋼（铸件）	やや悪い	やや悪い
金属製品	やや悪い	普通

業種	3月の景況感	4月の景況感
一般機械器具	やや悪い	普通
電気機械器具	やや悪い	普通
自動車部品	普通	やや悪い
造船	普通	普通
建設	やや悪い	やや悪い
トラック輸送	やや悪い	やや好況
卸売	普通	やや悪い
小売	やや悪い	やや悪い
情報サービス	普通	普通

（単位：業種）

景況感	3月	4月	増減数
好況	0	0	0
やや好況	1	1	0
普通	8	7	▲ 1
やや悪い	10	11	1
悪い	0	0	0

(3) 前月(3月)から変化のあった主な業種

業種	3月の 景況感	4月の 景況感	変化の理由・状況
化学	やや悪い	普通	米国・イスラエルとイランの軍事的対立が続いており、終結の見通しが立たない状況にある。この影響でホルムズ海峡等を通じた石油をはじめとする様々な物資の流通が滞り、価格が高騰している。また、円安も進行しており、全ての企業がサプライチェーンの再構築を迫られている。原価高騰をいかに価格転嫁するかが今後の大きな経営課題となっている。 今後の見通しは現時点では全く不透明であり、各企業は不安感の中、投資をはじめ全ての支出を抑制する経営に徹せざるを得ない状況にある。 【中国ゴム工業協同組合】
プラスチック製品	普通	やや悪い	ナフサ由来の石油化学基礎製品を原料とするプラスチック製品の主要材料に関する供給不安が日々高まっており、自工場の生産停止や顧客の生産調整も懸念される。また、電気・ガス等のエネルギー費の高騰も見込まれており、今後の経営見通しは不透明な状況にある。 【広島県プラスチック工業会】

4 企業倒産状況（令和8年4月）

（1）概況

負債総額1,000万円以上の倒産は、件数が17件、総額58億2,300万円であった。

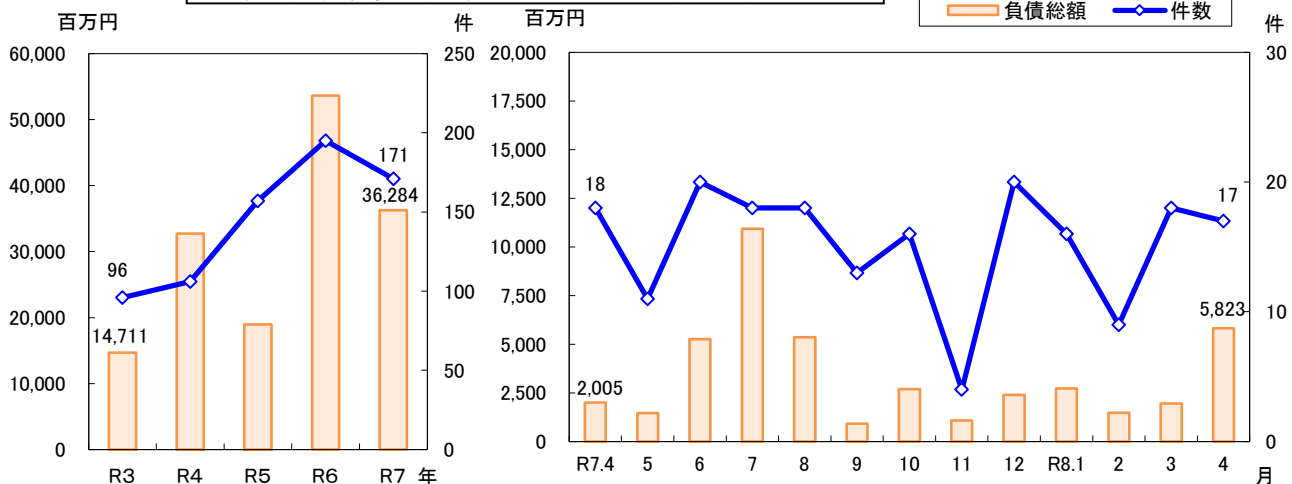
前月比では、件数が1件減、負債総額は38億6,600万円増加した。

前年同月比では、件数が1件減少、負債総額が38億1,800万円増加した。

大型倒産（負債総額10億円以上）は2件であった。

区 分	令和8年2月	令和8年3月	令和8年4月
件 数 (前年同月比)	9件 (30.8%減)	18件 (50.0%増)	17件 (5.5%減)
負債総額 (前年同月比)	1,474百万円 (16.4%減)	1,957百万円 (75.5%増)	5,823百万円 (190.4%増)

企業倒産件数・負債総額(1,000万円以上)(年別・月別・前年同月比)



（2）業種別

件数は、サービス業5件、製造業、卸・小売が各4件、建設業2件、運輸・通信業、不動産業が各1件となった。

負債総額は、製造業、サービス業、建設業、卸・小売業・飲食業、不動産業、運輸・通信業の順となった。

（3）原因別

原因別では、販売不振が15件、他社倒産余波が1件、信用性低下が1件であった。

（4）今後の見通し

令和8年4月度の倒産件数は17件、負債総額は58億2,300万円で、件数は前年同月比、前月比ともに2ヶ月ぶりの減少、負債総額は前年同月比、前月比ともに2ヶ月連続の増加となった。

業歴別倒産状況では30年以上が7件、20年以上が4件、10年以上が1件となり、業歴10年以上の倒産が全体の70.5%を占め、前月3月度では業歴10年以上の倒産が全体の77.7%と比較的業歴の長い企業の倒産が続いている。

原因別にみると販売不振が15件で最多となり、既往のシワ寄せは0件、売掛金等回収難は0件で、これらを合計した不況型倒産は15件で全体の88.2%を占めた。

そのような中、新型コロナウイルスを要因とした倒産は4月度17件中4件発生し、これまでの累計は326件（負債総額1,000万円未満、弁護士一任・準備中を除く）となった。ただ、代表者の急逝を要因とした倒産が1件発生しており、後継者不在や高齢化が企業経営を行き詰らせる要因となった。

広島県内に限られたことではないが、全国で見ても令和8年2月の米国とイスラエルのイラン攻撃以降、中東情勢の緊迫感が続き、国内経済にも影響が出始めており、原油と石油化学製品の原料となるナフサなどの安定供給が懸念されている。

すでに一部樹脂製品の値上げが明らかになり、中小企業の一部でも在庫に影響が出始めている。一部金融機関では「取引先のプラスチック関連業者からの供給制限で、在庫が大幅に減少し業況が厳しくなっている」と語り、中東情勢の悪化が実体経済に波及しつつある。包材関係でも「中国への生産外注分が、イラン攻撃の直後に2～3割値上げの打診があった。さらに、現在の受注分だけで新規追加発注は受け付けられていない」（包材商社）という。

こうした影響が広島経済に与える影響は大きく、企業は更なる対応に迫られる可能性がある。商品やサービスに競争力がある企業であれば売価へ転嫁が可能であるが、そうした企業に於いても仕入先などサプライチェーンマネジメントが必須であり、より強固な管理体制が求められる。

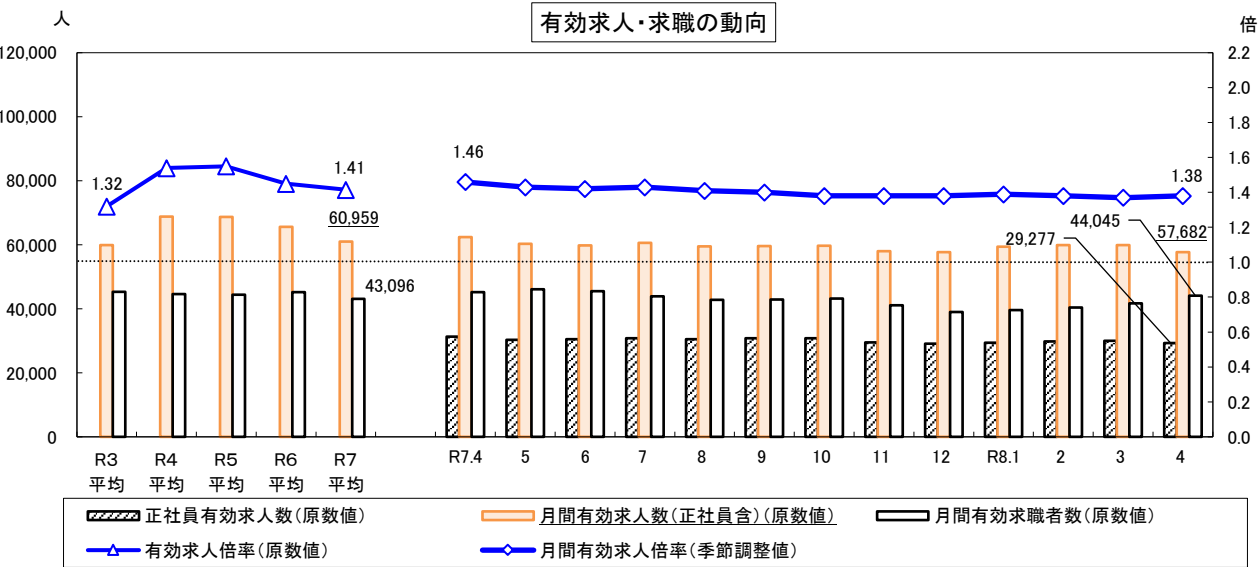
生き残る企業経営に於いて、利益を確保するための基盤が必要であり更なる競争激化へ対応できる企業以外は市場から退場せざるを得ない状況が続くものと見られる。

5 最近の雇用失業情勢（令和 8 年 4 月）

（１）県内の有効求人・求職の動向

区 分	令和 8 年 2 月	令和 8 年 3 月	令和 8 年 4 月
有効求人倍率〈季節調整値〉 （前月比）	1.38倍 （▲0.01ポイント）	1.37倍 （▲0.01ポイント）	1.38倍 （+0.01ポイント）
正社員有効求人倍率 （前年同月比）	1.26倍 （▲0.05ポイント）	1.23倍 （▲0.04ポイント）	1.16倍 （▲0.07ポイント）

【広島労働局】

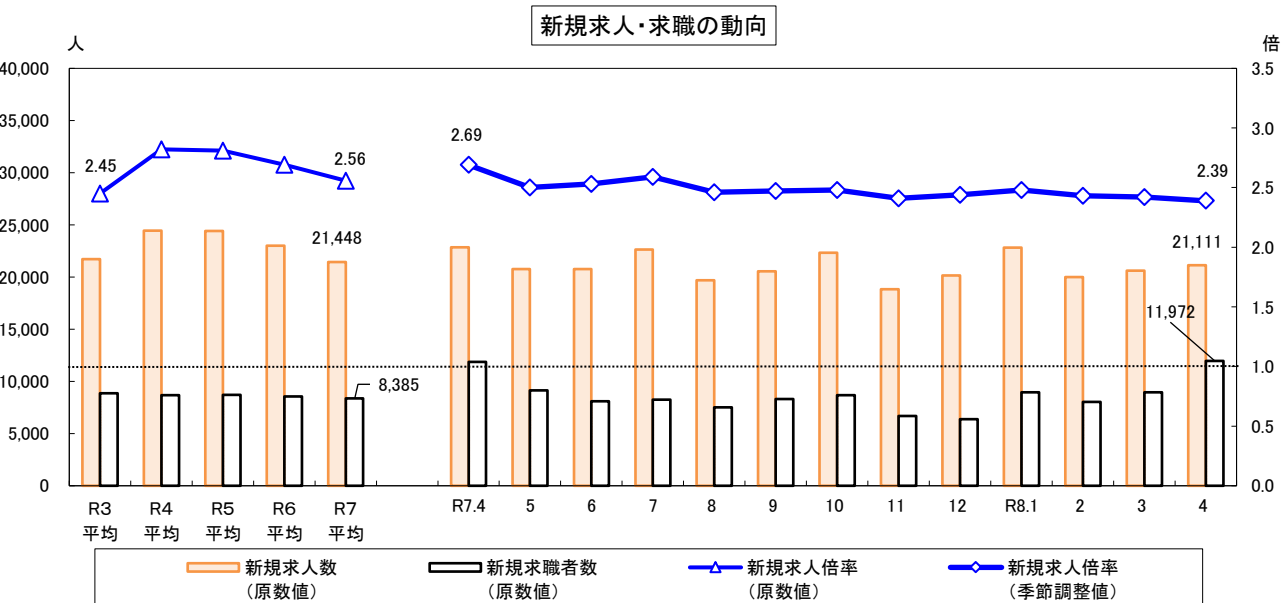


- (注1) 正社員有効求人倍率は、正社員の有効求人人数をパートタイムを除く常用有効求職者数（派遣労働者や契約社員を希望する者も含む）で除して算出しているため、厳密な意味での正社員有効求人倍率より低い値となる。
- (注2) 正社員有効求人倍率は、季節調整されていない。
- (注3) 季節調整値は毎年 1 月分公表時に過去に遡って改訂される。

（２）県内の新規求人・求職の動向

区 分	令和 8 年 2 月	令和 8 年 3 月	令和 8 年 4 月
新規求人倍率〈季節調整値〉 （前月比）	2.43倍 （▲0.05ポイント）	2.42倍 （▲0.01ポイント）	2.39倍 （▲0.03ポイント）

【広島労働局】

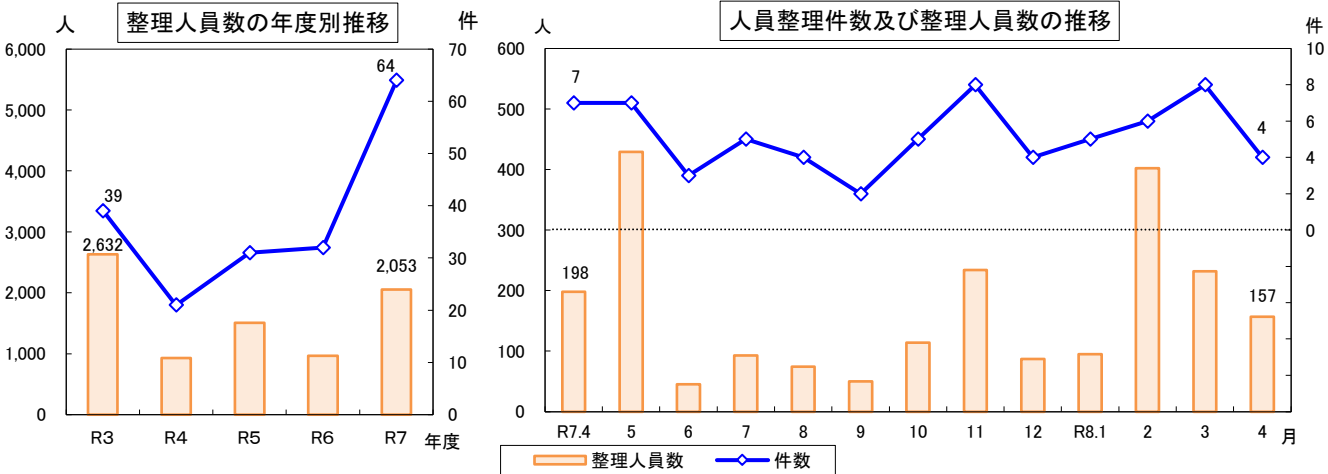


- (注) 季節調整値は毎年 1 月分公表時に過去に遡って改訂される。

(3) 県内の人員整理の状況（整理人員10人以上）

区 分	令和8年2月	令和8年3月	令和8年4月
件数 (前年同月比)	6件 (+3件)	8件 (+5件)	4件 (▲3件)
整理人員 (前年同月比)	402人 (+257人)	232人 (+151人)	157人 (▲41人)

【広島労働局】

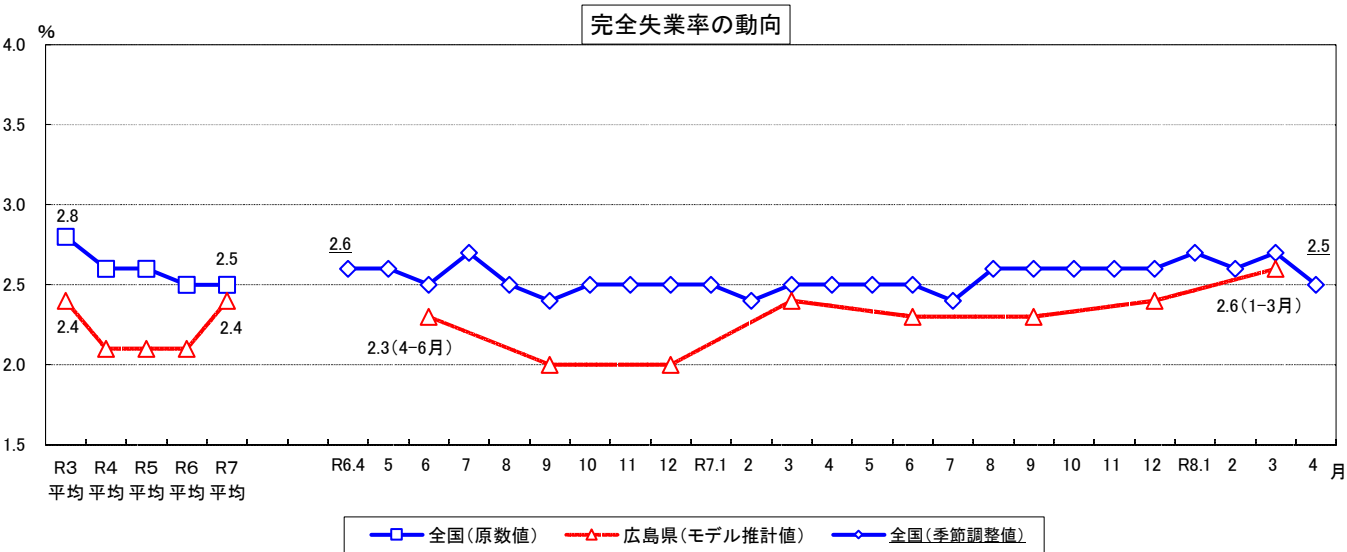


(4) 完全失業率の状況（全国・県内）

区 分	令和8年2月	令和8年3月	令和8年4月
全国完全失業者数 (前年同月比)	180万人 (+15万人)	194万人 (+14万人)	193万人 (+5万人)
全国完全失業率〈季節調整値〉 (前月比)	2.6% (▲0.1ポイント)	2.7% (+0.1ポイント)	2.5% (▲0.2ポイント)

区 分	令和7年		令和8年
	7～9月平均	10～12月平均	1～3月平均
広島県完全失業率 〈モデル推計値〉 (前年同期比)	2.4% (+0.4ポイント)	2.4% (+0.4ポイント)	2.6% (+0.2ポイント)

【総務省統計局】



※ 全国完全失業率の季節調整値は毎年1月分公表時に過去に遡って改訂される。
※ 広島県(モデル推計値)は、毎年1～3月期平均公表時に、新たな結果を追加して再計算を行い、前年までの四半期平均及び年平均結果を過去に遡って一部改定している。



広島県内経済情勢報告

～広島県の経済情勢について～

令和8年4月22日
財務省 中国財務局

【お問い合わせ先】
中国財務局経済調査課
電話 (082) 221-9221

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある」

項 目	前回（8年1月判断）	今回（8年4月判断）	前回比較
総括判断	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	

（注）8年4月判断は、前回8年1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

【各項目の判断】

項 目	前回（8年1月判断）	今回（8年4月判断）	前回比較
個人消費	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	
生産活動	横ばいの状況にある	緩やかに持ち直しつつある	
雇用情勢	緩やかに改善しつつある	緩やかに改善しつつある	
設備投資	7年度は前年度を上回る見込み	7年度は前年度を下回る見込み	
企業収益	7年度は減益見込み	7年度は増益見込み	
企業の景況感	「上昇」と「下降」が拮抗している	「下降」超となっている	
住宅建設	前年を下回る	前年を上回る	
輸出	前年を上回る	前年を上回る	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

■ 個人消費 「一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある」

業態別にみると、ホームセンター販売は、例年より気温が高かったことからストーブなどの冬物商材が不調で、前年を下回っている。スーパー販売は、時短志向のトレンドから味付け済みの半調理品などが好調で、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は、節約志向が継続する中、米飯類の代替としてパンや麺類などが好調で、前年を上回っている。家電大型専門店販売は、気温低下等によりエアコンなどが好調で、前年を上回っている。乗用車販売（新車登録・届出台数）は、新車価格の上昇による買い替えサイクルの長期化などから、前年を下回っている。このように、個人消費は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。

（主なヒアリング結果）

- 例年より気温が高かったため、ストーブ等の暖房商品、防寒用の作業衣料やカイロなど冬物商材が不調だった。（ホームセンター）
- 時短を求めるトレンドが続いており、調理に手間がかからない味付け済みの半調理品が好調だった。また、ハレの日需要を背景に節分の恵方巻が好調で、一本巻より価格が手頃なハーフ巻が好まれた。（スーパー）
- 節約志向が継続する中、米飯類の価格上昇を受けてパンや麺類へのシフトがみられており、特に価格の面でも買い求めやすいカップ麺の売上が伸びている。（コンビニエンスストア）
- エアコンは気温低下による需要増加のほか、2027年4月の省エネ基準引上げ前に購入する動きがみられ好調だった。（家電大型専門店）
- 新車価格の上昇による買い替えサイクル長期化の傾向がみられる。（自動車販売）
- 前年インバウンド等の影響で大幅に観光客数が増加していた反動で、1～2月は伸び悩んだが、3月に入り寒さも緩んで観光客が戻ってきている。物価高により海外や遠方への旅行を控えているのか、近隣県からの宿泊者が増加している。（宿泊業）

■ 生産活動 「緩やかに持ち直しつつある」

電気機械は、半導体の需要が好調であることなどから、増加している。一般機械は、半導体製造装置の需要が堅調であることなどから、増加している。プラスチック製品は、車載向けの需要が堅調であることなどから、増加している。輸送機械は、造船で豊富な受注残を抱えていることや、自動車で新型車効果がみられることなどから、おおむね横ばいとなっている。鉄鋼は、建材向けの需要が低調であることなどから、減少している。このように、生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。

- データセンターなどで用いられる生成AI向け半導体の需要が好調であることから、生産量が増加している。（電気機械）
- 生成AI向け半導体製造装置の需要が堅調に推移していることから、生産量が増加している。（一般機械）
- 自動車に搭載されるディスプレイの大型化に伴い、パネル使用面積が拡大しているなど、車載向けディスプレイの需要が堅調に推移していることから、生産量が増加している。（プラスチック製品）
- 脱炭素の流れを受け、新燃料船の建造需要が増加しており、数年先まで手持ちの工事量が確保できているなど、フル生産が続いている。なお、中東情勢の影響を受け、塗装工程で使用するシンナーなどの石油関連製品の調達が今後困難となり、生産に影響が生じることを懸念している。（輸送機械）
- 新型車効果のほか、欧州市場において一部車種の需要が堅調に推移していることから、生産量が増加している。なお、3月以降、中東向けの出荷を見合わせている。（輸送機械）
- 人手不足や建設コストの上昇などを背景に建設需要の低迷が続いており、建材向け鋼材の需要が低調なことから、生産量が減少している。（鉄鋼）

■ 雇用情勢 「緩やかに改善しつつある」

有効求人倍率は、緩やかに低下しているほか、新規求人数は、前年を下回っている。一方、法人企業景気予測調査（8年1～3月期）の従業員数判断 BSI でみると、製造業・非製造業いずれにおいても「不足気味」超が続いており、人手不足を背景に企業の採用意欲が高い状況にある。このように、雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

- 省人・省力化投資の進展に加え、民間職業紹介サービスの活用や自社ホームページでの直接募集など求人手法の多様化を背景に、求人数は減少傾向が続いているものの、依然として求人が求職を上回って推移している。（人材・職業紹介）
- 研究・開発を担うエンジニアが慢性的に不足している中、対象分野の学生数の減少もあり、人材獲得競争が激化している。このため、民間職業紹介サービスを活用して中途採用を積極的に行っているほか、外国人の登用にも取り組んでいる。（情報通信機械）
- 新規出店を進めるなか、求人募集を行っても応募は少なく、人手不足が続いているため、賃上げやパート・アルバイトの正社員登用などの待遇改善を進めている。また、棚卸作業の外注や営業支援端末の改良などにより、少ない人員で店舗運営ができるように取り組んでいる。（小売業）

■ 設備投資 「7年度は前年度を下回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8年1-3月期

- 製造業では、「非鉄金属」などで減少するものの、「自動車」、「その他製造」などで増加することから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。
- 非製造業では、「金融・保険」、「小売」などで増加するものの、「電気・ガス・水道」、「運輸・郵便」などで減少することから、全体では前年度を下回る見込みとなっている。

- 中長期的な需要の増加を見込み、新工場の建設などの設備投資を行っている。(自動車)
- 前年度の発電関連の大型設備投資の反動により、減少している。(電気・ガス・水道)

■ 企業収益 「7年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8年1-3月期

- 製造業では、「自動車」などで減益となるものの、「その他製造」、「その他の輸送用機械」などで増益となることから、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業(除く「電気・ガス・水道」、「金融・保険」)では、「情報通信」、「宿泊・飲食サービス」などで減益となるものの、「建設」、「運輸・郵便」などで増益となることから、全体では増益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『下降』超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8年1-3月期

- 企業の景況判断BSIは、「下降」超となっている。なお、先行きは「下降」超幅が拡大する見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を上回る」

- 新設住宅着工戸数でみると、貸家、持家が減少しているものの、分譲住宅、給与住宅が増加していることから、前年を上回っている。

■ 輸出 「前年を上回る」

- 輸出(円ベース)は、船舶などが減少しているものの、自動車、電気機器などが増加していることから、前年を上回っている。地域別では、中南米などで減少しているものの、西欧、アフリカなどで増加している。

なお、輸入(円ベース)は、電気機器、鉄鉱石などが増加していることから、前年を上回っている。地域別ではアジア、大洋州などで増加している。

広島県内経済情勢報告

(令和8年4月22日)

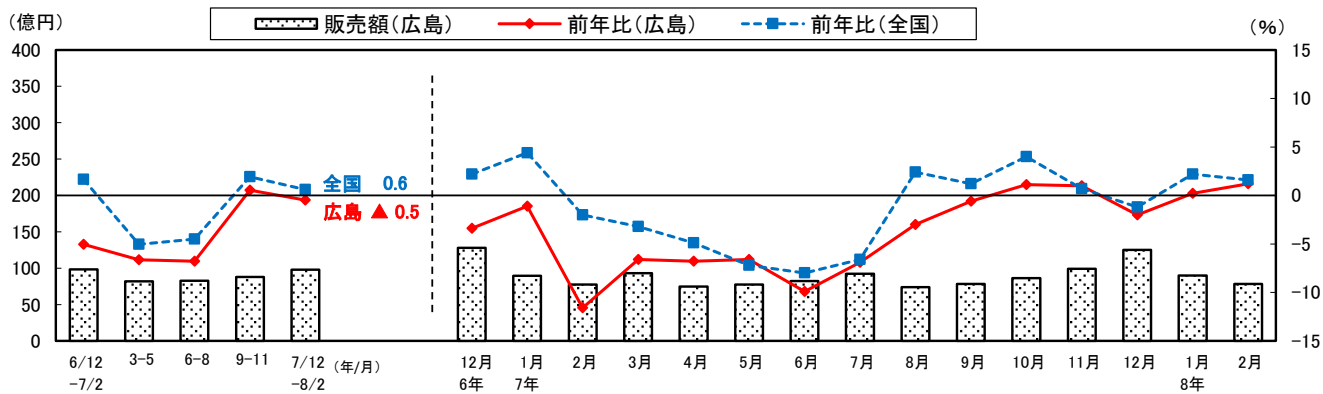
資料編

目次				ページ
1.	個	人	消 費	----- 1
2.	生	産	活 動	----- 3
3.	雇	用	情 勢	----- 4
4.	設	備	投 資	----- 5
5.	企	業	収 益	----- 5
6.	企	業	の 景 況 感	----- 6
7.	住	宅	建 設	----- 6
8.	輸		出	----- 7

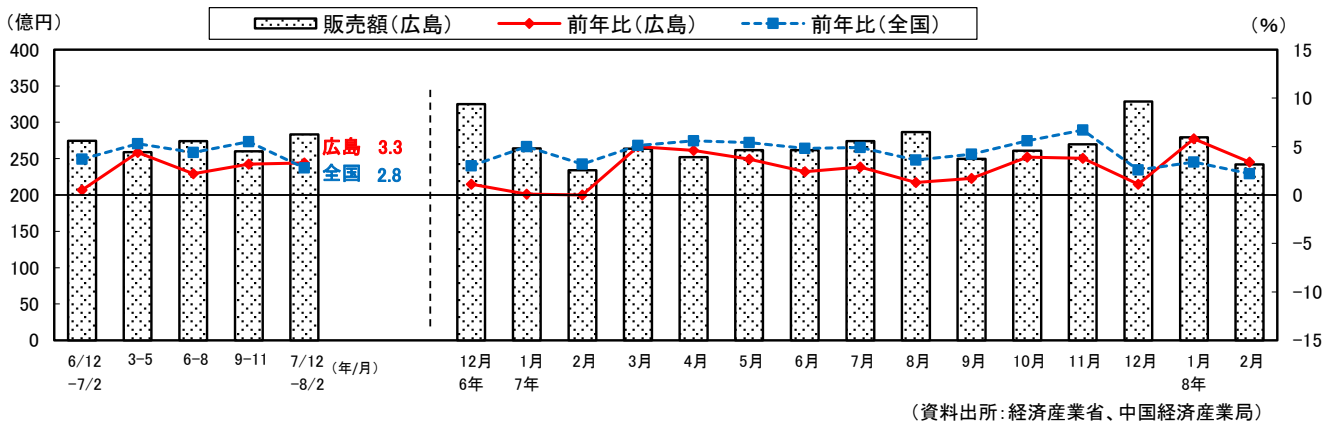
1. 個人消費 一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある

(1) 百貨店販売額(全店舗)

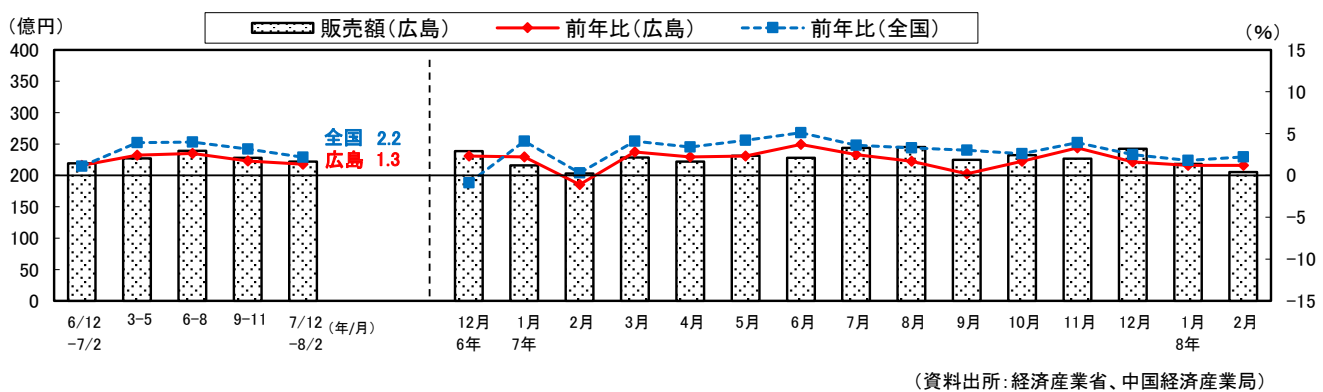
(注) (1)～(6)の各グラフの3か月毎の販売額は、1月あたりの平均を表示



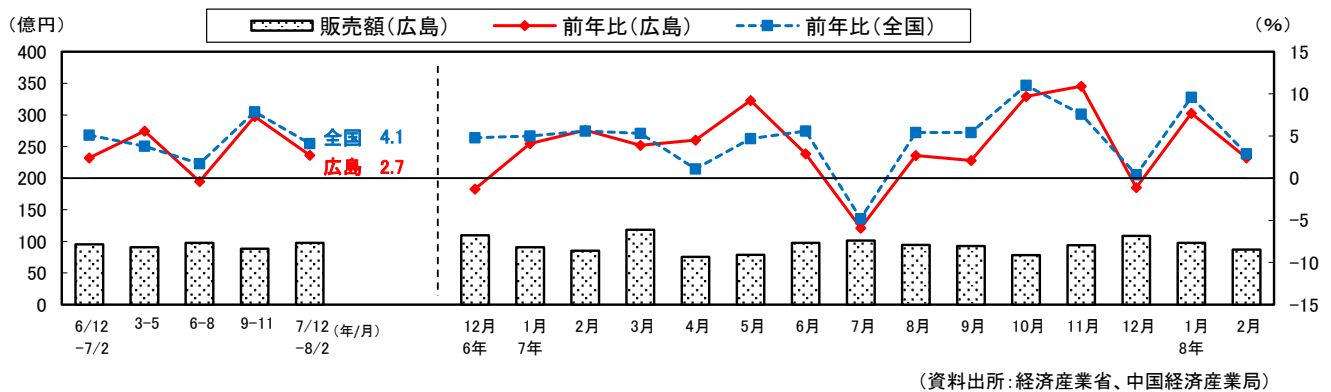
(2) スーパー販売額(全店舗)



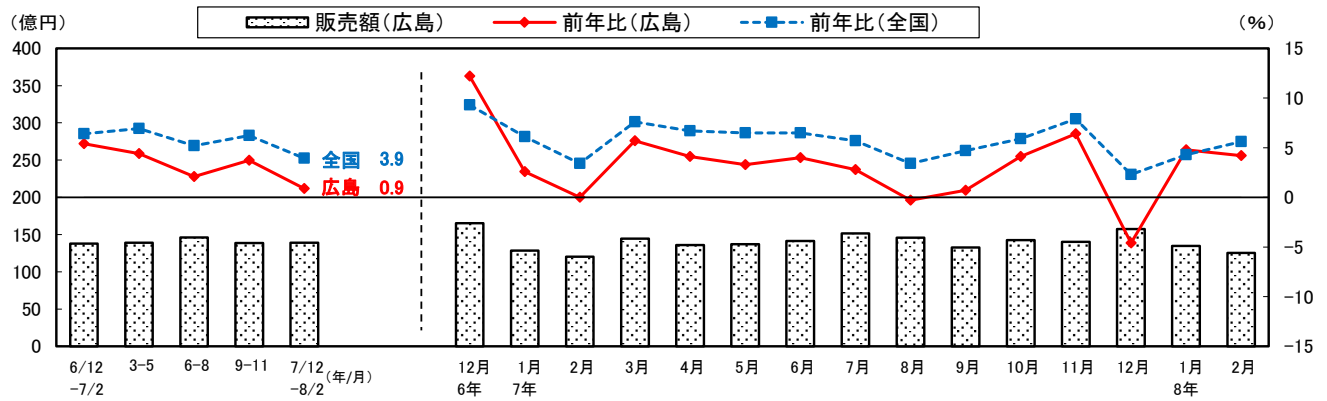
(3) コンビニエンスストア販売額(全店舗)



(4) 家電大型専門店販売額(全店舗)

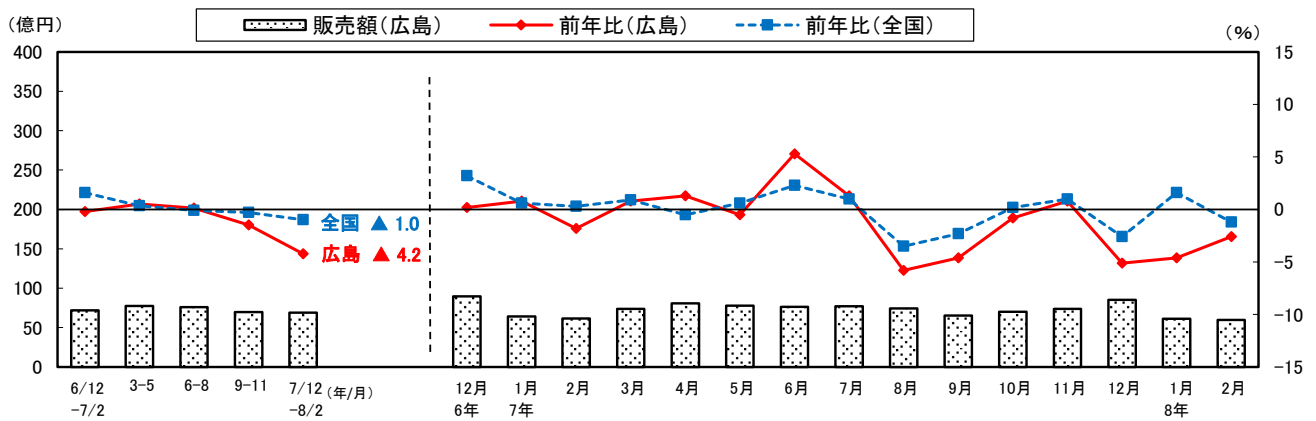


(5) ドラッグストア販売額(全店舗)



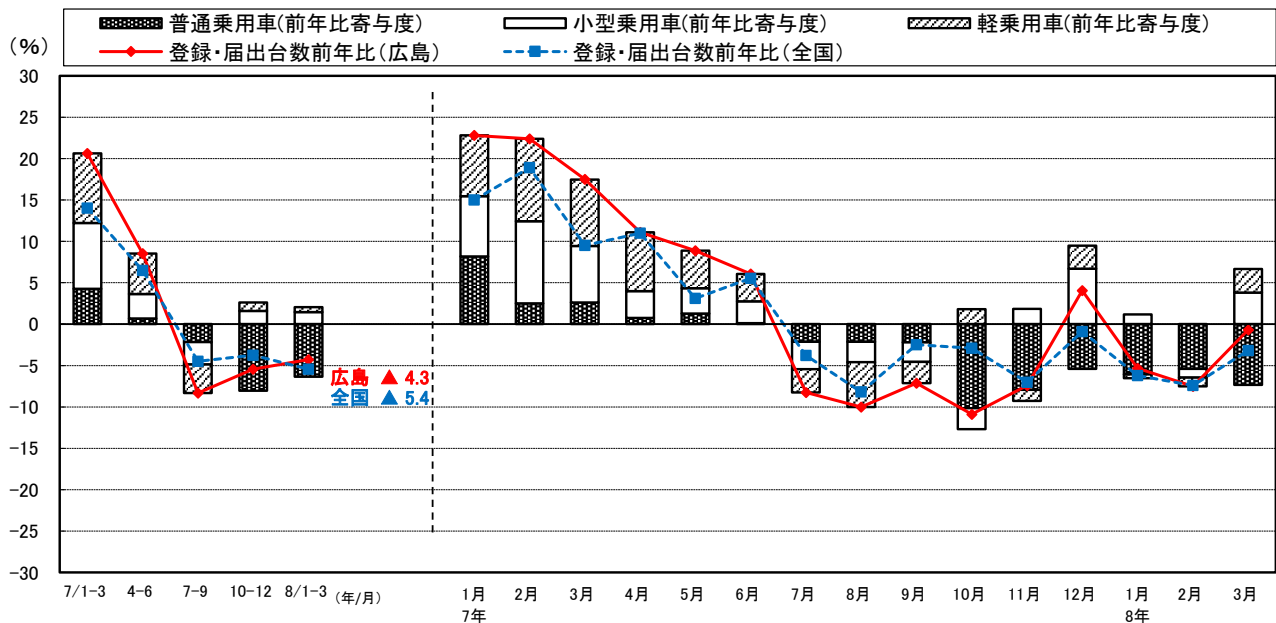
(資料出所: 経済産業省、中国経済産業局)

(6) ホームセンター販売額(全店舗)



(資料出所: 経済産業省、中国経済産業局)

(7) 乗用車販売(新車登録・届出台数)

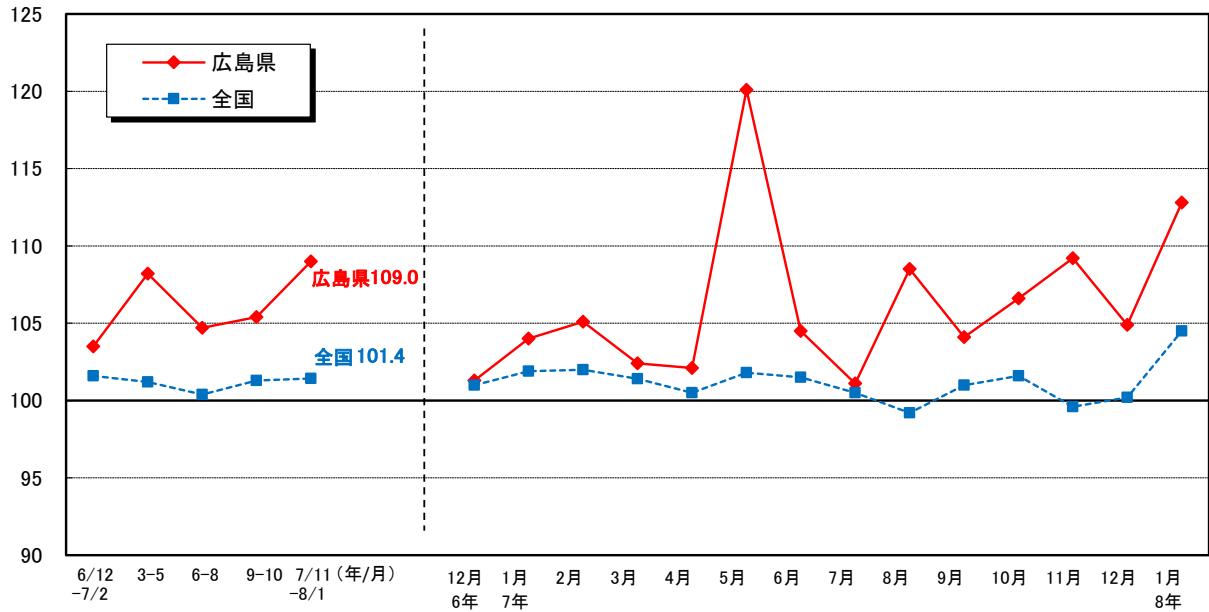


(資料出所: 中国運輸局、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車販売協会)

2. 生産活動 緩やかに持ち直しつつある

(1) 鉱工業生産指数(季節調整値)

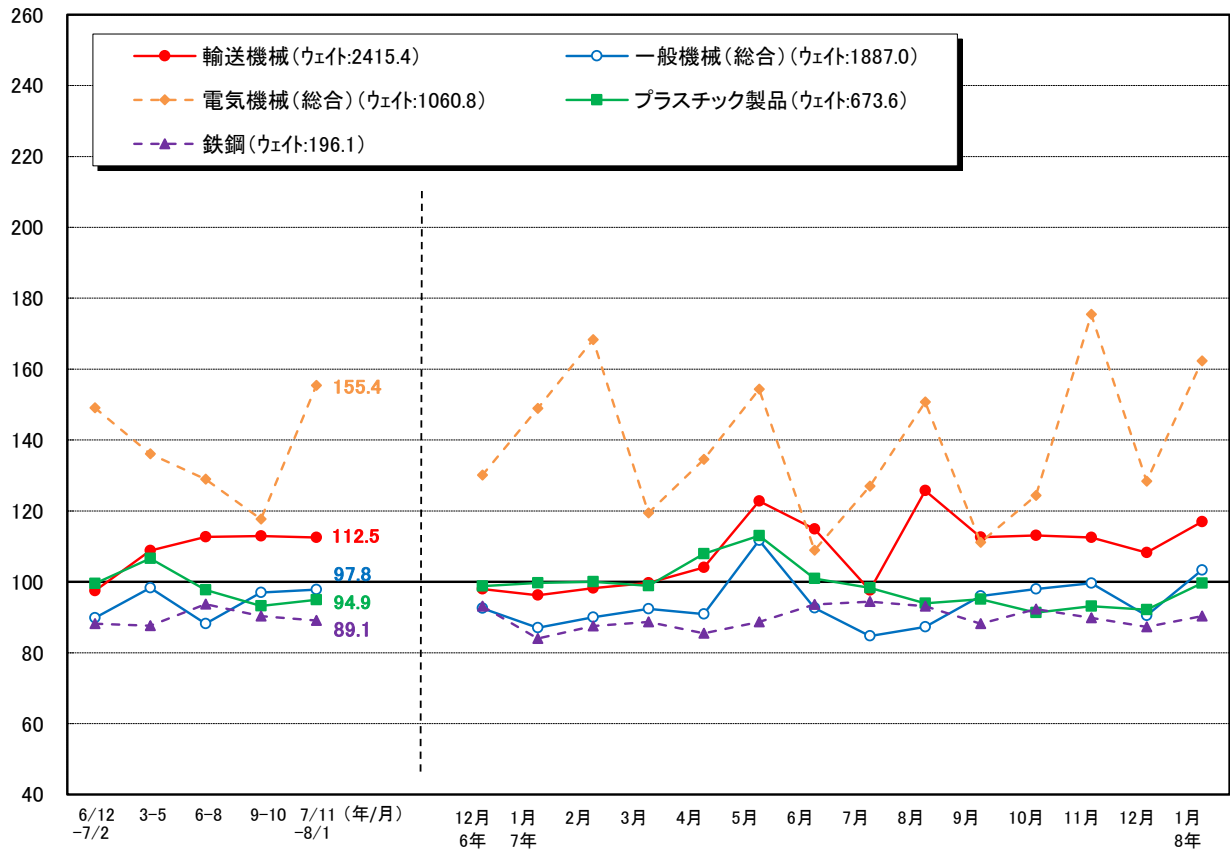
(指数) (令和2年=100)



(資料出所: 経済産業省、広島県)

(2) 県内主要業種別生産指数(季節調整値)

(指数) (令和2年=100)

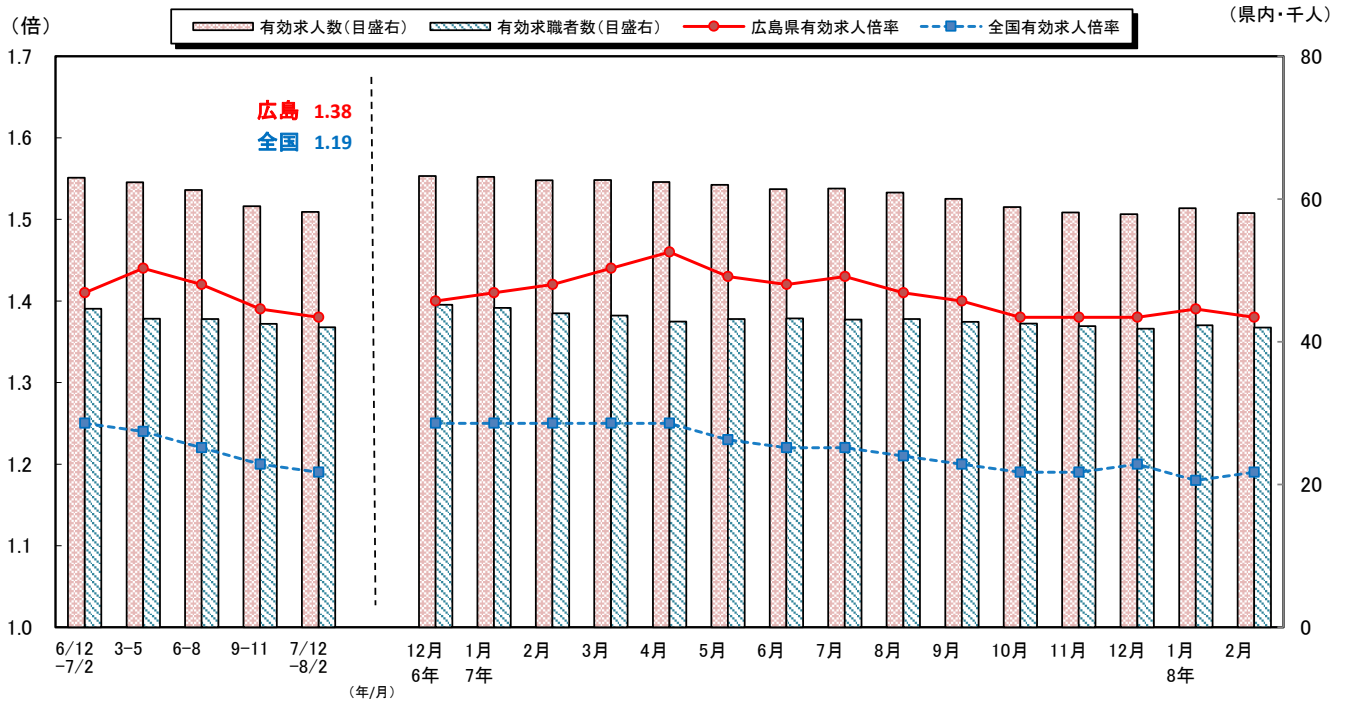


(資料出所: 広島県)

3. 雇用情勢 緩やかに改善しつつある

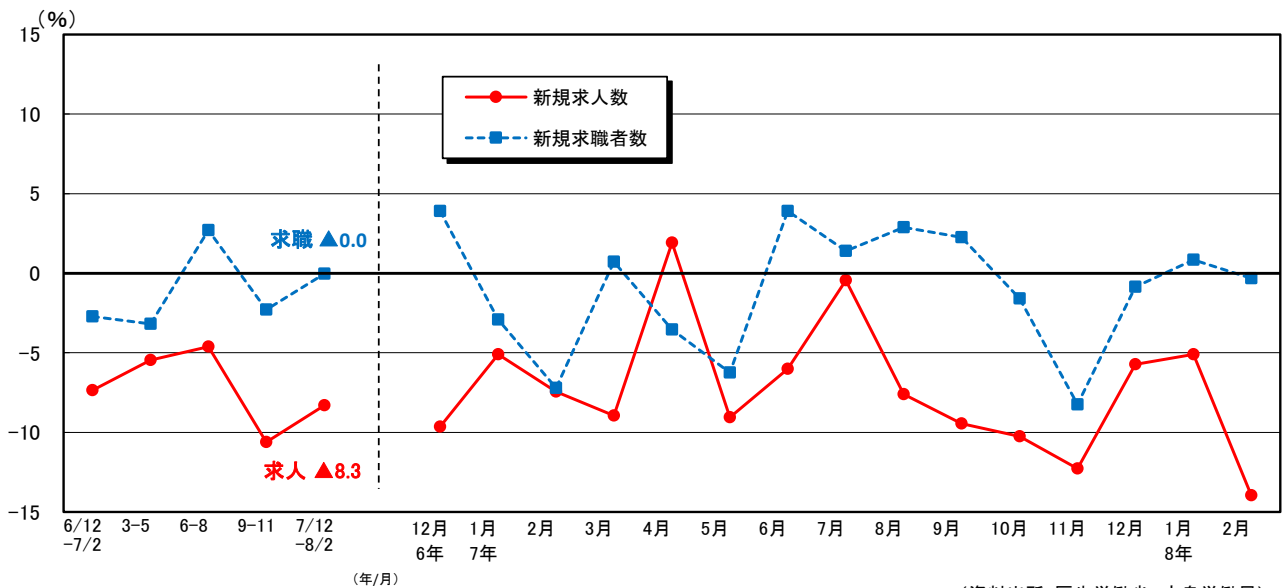
(1) 有効求人倍率、有効求人数・求職者数(学卒を除く、季節調整値)

(注) (1)のグラフの3か月毎の有効求人数と有効求職者数は、1月あたりの平均。



(資料出所:厚生労働省、広島労働局)

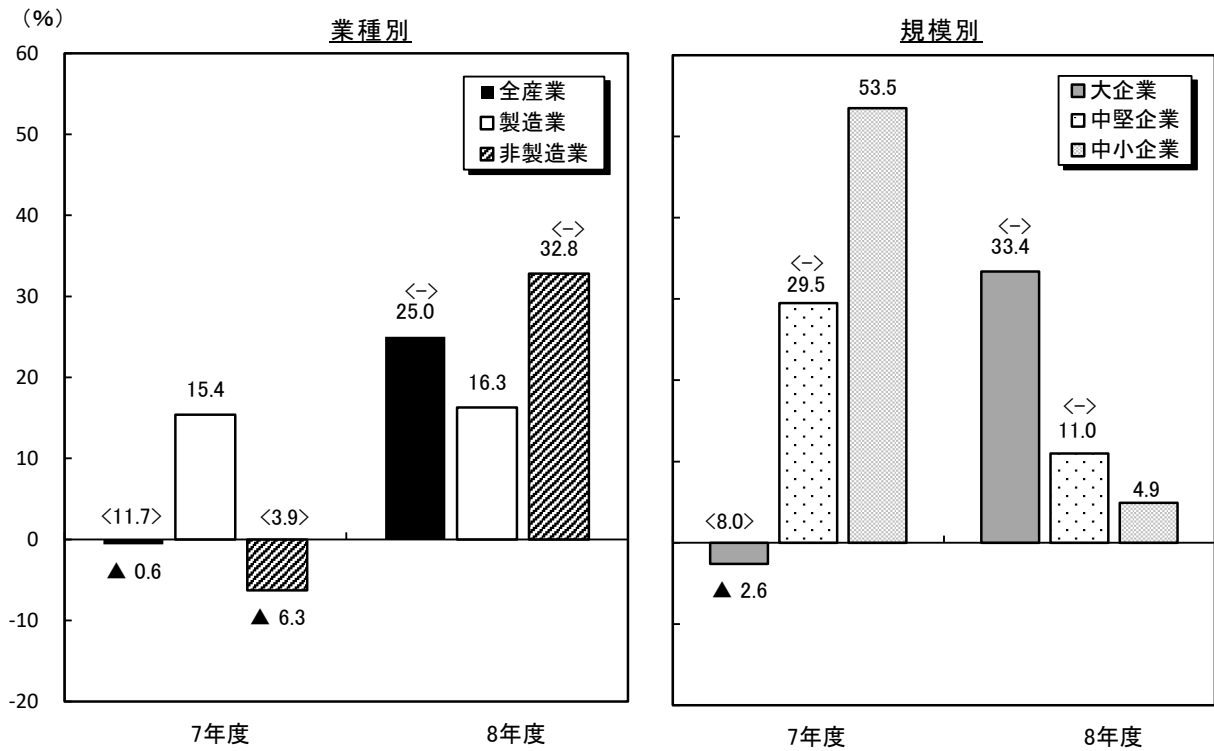
(2) 県内新規求人数・求職者数(学卒を除く、原数値)の前年比



(資料出所:厚生労働省、広島労働局)

4. 設備投資 7年度は前年度を下回る見込み

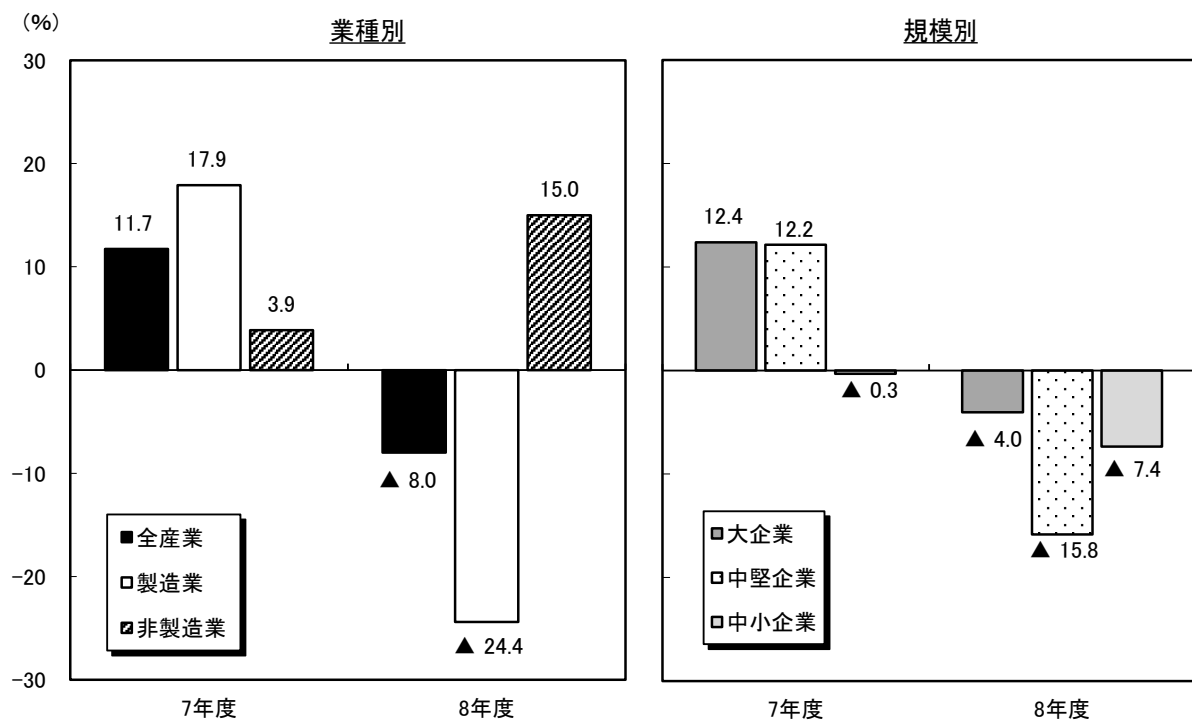
設備投資額(前年度比)



(資料出所: 中国財務局)

5. 企業収益 7年度は増益見込み

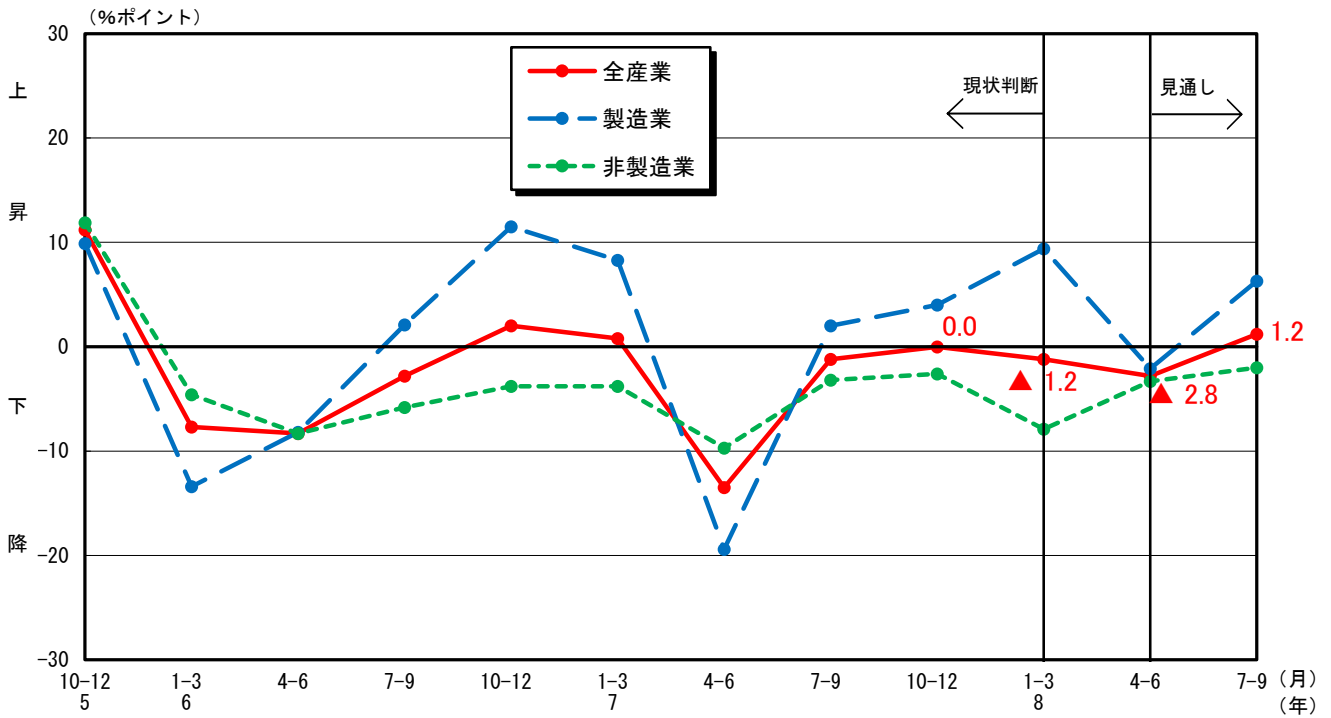
経常利益(電気・ガス・水道、金融・保険を除く: 前年度比)



(資料出所: 中国財務局)

6. 企業の景況感 「下降」超となっている

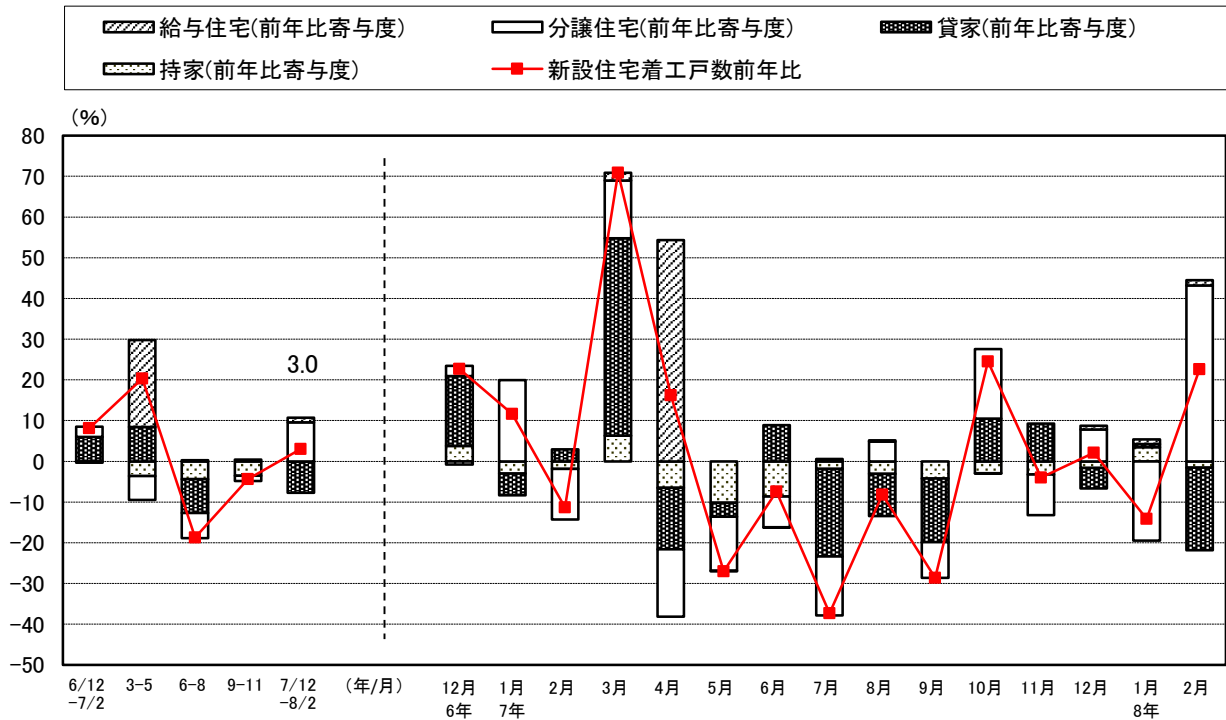
景況判断BSIの推移(原数値) (BSI: 前期比判断「上昇」-「下降」社数構成比)



(資料出所: 中国財務局)

7. 住宅建設 前年を上回る

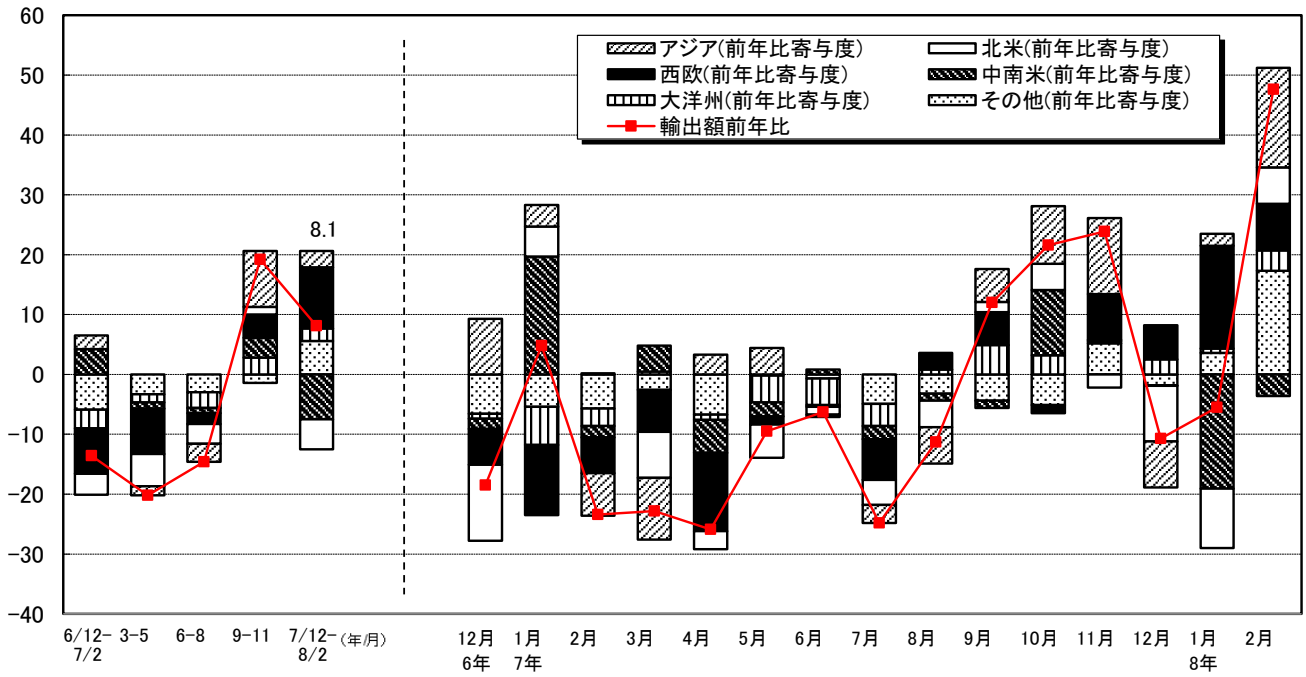
新設住宅着工戸数(前年比)



(資料出所: 国土交通省)

8. 輸出 前年を上回る

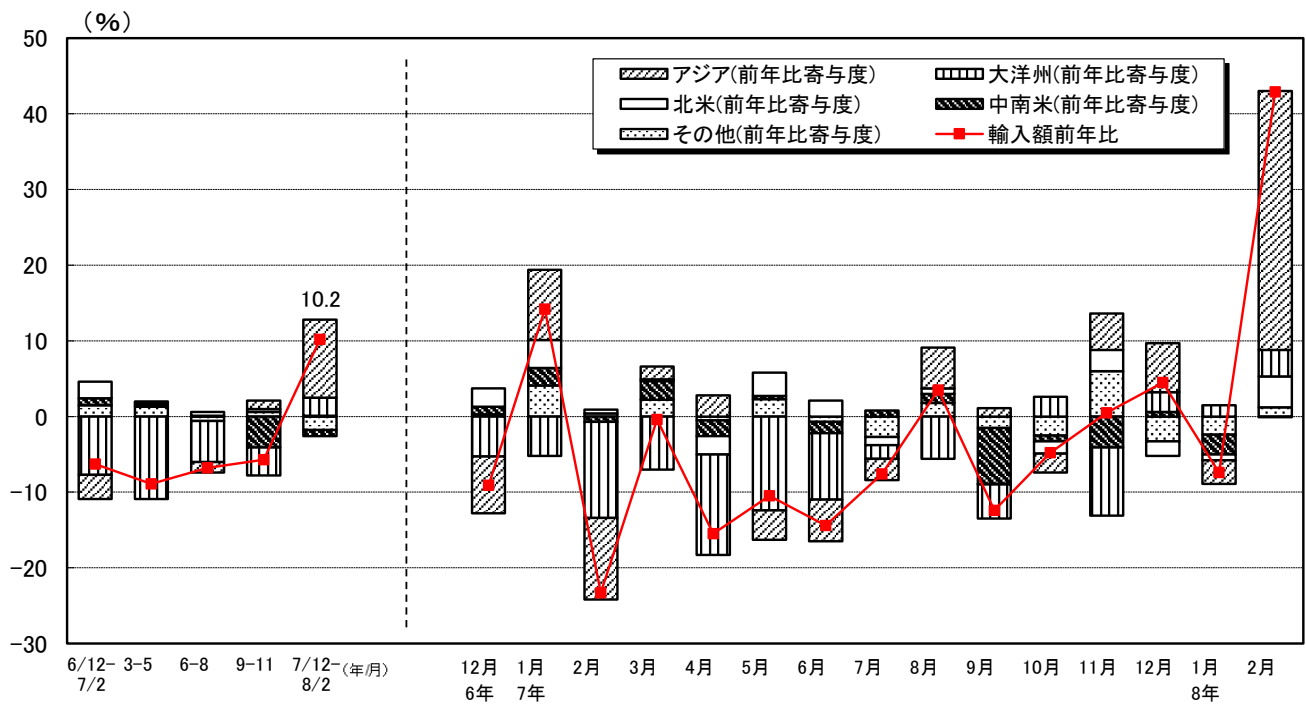
輸出(円ベース)
(%)



(資料出所: 神戸税関)

<参考>

輸入(円ベース)



(資料出所: 神戸税関)

2026 年 4 月 1 日
日本銀行広島支店

企業短期経済観測調査結果の概要（2026年3月）

— 中国地区および広島県 —

1. 回答期間 2月26日～3月31日

2. 調査対象企業数および回答状況

(社 数)

	調査先数	回答企業数（回答率）		
			製造業	非製造業
中 国	765	759 (99.2%)	351	408
広 島	226	224 (99.1%)	113	111
全 国	9,209	— (99.0%)	—	—

3. 事業計画の前提となっている想定為替レート（全産業）

(円／ドル)

	25年度			26年度		
	25/9月	12月	26/3月調査	25/9月	12月	26/3月調査
中 国	145.52	147.48	148.75	—	—	150.86
広 島	145.85	147.57	148.49	—	—	149.92
全 国	145.68	147.06	148.29	—	—	150.10

4. 注意事項

- (1) 回答率＝業況判断の有効回答社数／調査対象企業数×100
- (2) 判断項目において、「最近」は回答時点を、「先行き」は3か月後を示す。
「最近」の変化幅は、前回調査の「最近」との対比。
「先行き」の変化幅は、今回調査の「最近」との対比。

なお、判断項目については、調査対象企業からの回答（「1、2、3」）を以下のように算出される「D. I.」（ディフュージョン・インデックス＜Diffusion Index＞）という指標に加工・集計。

D. I.（％ポイント）

＝「第1選択肢の回答社数構成比（％）」－「第3選択肢の回答社数構成比（％）」

—— 例えば、「業況判断D. I.」は、「1. 良い」「2. さほど良くない」「3. 悪い」のうち、「1. 良い」の回答社数構成比から「3. 悪い」の回答社数構成比を引いて算出。

- (3) 規模区分については、大企業（資本金10億円以上）、中堅企業（同1億円以上10億円未満）、中小企業（同2千万円以上1億円未満）に区分。
- (4) 年度計画計数（売上高、経常利益、設備投資額等）については、調査対象企業から回答が得られなかった場合、欠測値補完を行った計数を使用。
- (5) 中国地区は、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県の5県。
- (6) 2026年3月調査において、短観調査対象企業の見直しを行った（「短観調査対象企業の見直しの概要＜2026年4月1日公表＞」参照）。

本資料はホームページにも掲載しています。
URL <https://www3.boj.or.jp/hiroshima/>
E-mail hiroshima@boj.or.jp

1. 業況判断

▽業況判断D. I.

(「良い」－「悪い」、%、%ポイント、()内は25/12月新ベース調査時予測)

			25/3月	6月	9月	12月		26/3月調査				
						〈旧〉	〈新〉	最近			先行き	変化幅
中 国	全 産 業	D. I. 1	18	14	15	19	19	(13)	16	▲ 3	11	▲ 5
		良 い 2	27	25	25	28	28	(23)	26	▲ 2	21	▲ 5
		さほど良くない 3	64	64	65	63	63	(67)	64	1	69	5
		悪 い 4	9	11	10	9	9	(10)	10	1	10	0
	製 造 業	D. I. 5	9	7	8	13	12	(10)	11	▲ 1	10	▲ 1
		良 い 6	21	20	22	25	25	(21)	24	▲ 1	21	▲ 3
		さほど良くない 7	67	67	64	63	62	(68)	63	1	68	5
		悪 い 8	12	13	14	12	13	(11)	13	0	11	▲ 2
	非製造業	D. I. 9	25	21	20	22	23	(16)	20	▲ 3	13	▲ 7
		良 い 10	32	29	27	29	30	(24)	29	▲ 1	21	▲ 8
		さほど良くない 11	61	63	66	64	63	(68)	62	▲ 1	71	9
		悪 い 12	7	8	7	7	7	(8)	9	2	8	▲ 1

広 島	全 産 業	D. I. 13	23	19	19	23	24	(17)	19	▲ 5	14	▲ 5
		良 い 14	28	28	28	31	32	(25)	27	▲ 5	21	▲ 6
		さほど良くない 15	67	63	63	61	60	(67)	65	5	72	7
		悪 い 16	5	9	9	8	8	(8)	8	0	7	▲ 1
	製 造 業	D. I. 17	15	15	13	18	15	(13)	13	▲ 2	12	▲ 1
		良 い 18	21	26	25	28	27	(22)	21	▲ 6	19	▲ 2
		さほど良くない 19	73	63	63	62	61	(69)	71	10	74	3
		悪 い 20	6	11	12	10	12	(9)	8	▲ 4	7	▲ 1
	非製造業	D. I. 21	30	23	25	30	32	(20)	24	▲ 8	16	▲ 8
		良 い 22	35	30	30	35	37	(28)	33	▲ 4	23	▲ 10
		さほど良くない 23	60	63	65	60	58	(64)	58	0	70	12
		悪 い 24	5	7	5	5	5	(8)	9	4	7	▲ 2

全 国	全 産 業	D. I. 25	15	15	15	17	18	(13)	18	0	11	▲ 7
	製 造 業	〃 26	7	7	7	11	11	(8)	12	1	7	▲ 5
	非製造業	〃 27	21	21	21	21	22	(16)	21	▲ 1	13	▲ 8

「良い」－「悪い」
(％ポイント)

景気後退期 中国 広島 全国

予測
「良い」超
「悪い」超

▲ 10
▲ 20
▲ 30
▲ 40
▲ 50
▲ 60

00 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 (年)

「良い」－「悪い」 (%ポイント)

景気後退期 製造業 非製造業

予測

「良い」超

「悪い」超

(年)

「良い」－「悪い」 (%ポイント)

景気後退 製造業 非製造業

予測

「良い」超

「悪い」超

(年)

(「良い」－「悪い」、%ポイント、()内は25/12月新ベース調査時予測)

- 3 -

▽業種別業況判断D. I. (中国)

(「良い」－「悪い」、%ポイント、() 内は25/12月新ベース調査時予測)

	有効 回答 社数	25/3月	6月	9月	12月		26/3月調査					
					〈旧〉	〈新〉	最近		先行き	変化幅		変化幅
製造業	1	351	9	7	8	13	12	(10)	11	▲ 1	10	▲ 1
うち												
繊維	2	20	0	0	9	24	25	(20)	10	▲ 15	15	5
木材・木製品	3	16	▲ 29	▲ 14	▲ 7	7	6	(7)	6	0	0	▲ 6
紙・パルプ	4	8	0	0	0	14	13	(13)	▲ 25	▲ 38	0	25
化学	5	33	0	9	21	18	18	(15)	9	▲ 9	6	▲ 3
石油・石炭製品	6	10	10	▲ 10	▲ 10	▲ 10	▲ 10	(▲ 10)	0	10	▲ 10	▲ 10
窯業・土石製品	7	29	17	7	7	17	21	(14)	14	▲ 7	10	▲ 4
鉄鋼	8	28	0	▲ 14	▲ 14	▲ 7	▲ 14	(▲ 17)	▲ 7	7	▲ 10	▲ 3
非鉄金属	9	12	18	0	▲ 18	0	9	(9)	9	0	17	8
食料品	10	40	15	25	22	17	17	(15)	17	0	20	3
金属製品	11	18	12	6	13	18	17	(11)	11	▲ 6	0	▲ 11
はん用・生産用・業務用機械	12	47	15	7	4	▲ 7	▲ 6	(▲ 6)	0	6	▲ 2	▲ 2
電気機械	13	26	14	8	18	21	16	(8)	27	11	15	▲ 12
自動車	14	16	12	▲ 6	▲ 13	12	12	(18)	13	1	25	12
造船・重機、その他輸送用機械	15	23	35	45	59	64	65	(61)	70	5	57	▲ 13
その他製造業	16	25	▲ 4	4	▲ 12	8	4	(0)	▲ 4	▲ 8	▲ 8	▲ 4
素材業種	17	156	3	▲ 2	2	9	10	(7)	5	▲ 5	4	▲ 1
加工業種	18	195	15	14	14	16	15	(13)	17	2	14	▲ 3
大企業	19	68	2	3	11	14	12	(10)	9	▲ 3	5	▲ 4
中堅企業	20	101	18	19	20	23	23	(22)	24	1	25	1
中小企業	21	170	6	1	1	8	7	(2)	4	▲ 3	1	▲ 3
非製造業	22	408	25	21	20	22	23	(16)	20	▲ 3	13	▲ 7
うち												
建設	23	90	36	30	31	35	34	(25)	33	▲ 1	19	▲ 14
不動産	24	14	7	0	14	0	0	(0)	7	7	0	▲ 7
物品賃貸	25	16	29	22	14	36	38	(7)	25	▲ 13	13	▲ 12
卸売	26	50	23	14	14	10	8	(6)	2	▲ 6	▲ 8	▲ 10
小売	27	63	15	13	10	13	14	(10)	12	▲ 2	9	▲ 3
運輸・郵便	28	39	14	7	7	9	10	(7)	11	1	7	▲ 4
情報通信	29	27	43	26	17	26	33	(26)	22	▲ 11	15	▲ 7
電気・ガス	30	20	6	12	18	18	20	(5)	5	▲ 15	5	0
対事業所サービス	31	27	46	36	35	36	36	(28)	30	▲ 6	33	3
対個人サービス	32	19	14	19	19	14	9	(9)	21	12	16	▲ 5
宿泊・飲食サービス	33	37	25	38	39	41	40	(25)	35	▲ 5	30	▲ 5
鉱業・採石業・砂利採取業	34	6	0	0	0	0	33	(17)	33	0	17	▲ 16
大企業	35	27	20	17	27	16	17	(11)	15	▲ 2	15	0
中堅企業	36	103	29	22	20	25	27	(16)	21	▲ 6	12	▲ 9
中小企業	37	259	24	20	21	21	22	(16)	19	▲ 3	13	▲ 6

▽業種別業況判断D. I. (広島)

(「良い」－「悪い」、%ポイント、() 内は25/12月新ベース調査時予測)

		有効 回答 社数	25/3月	6月	9月	12月		26/3月調査				
						〈旧〉	〈新〉	最近		先行き	変化幅	変化幅
製造業	1	113	15	15	13	18	15	(13)	13	▲ 2	12	▲ 1
うち	2	7	▲ 15	▲ 15	0	0	0	(▲ 15)	▲ 14	▲ 14	▲ 29	▲ 15
繊維												
木材・木製品	3	7	17	17	17	17	14	(29)	14	0	14	0
紙・パルプ	4	1	—	—	—	—	—	(—)	—	—	—	—
化学	5	7	14	57	57	43	43	(43)	43	0	29	▲ 14
石油・石炭製品	6	2	—	—	—	—	—	(—)	—	—	—	—
窯業・土石製品	7	5	▲ 25	0	▲ 25	▲ 25	▲ 20	(20)	0	20	0	0
鉄鋼	8	8	25	▲ 13	▲ 25	▲ 13	▲ 13	(0)	0	13	0	0
非鉄金属	9	4	25	0	▲ 25	0	0	(0)	0	0	0	0
食料品	10	10	10	30	20	30	30	(10)	0	▲ 30	20	20
金属製品	11	9	38	13	25	38	33	(22)	22	▲ 11	11	▲ 11
はん用・生産用・業務用機械	12	17	13	6	0	▲ 13	▲ 17	(▲ 18)	▲ 11	6	▲ 12	▲ 1
電気機械	13	10	27	27	27	18	10	(20)	30	20	20	▲ 10
自動車	14	7	14	▲ 29	▲ 15	15	15	(15)	14	▲ 1	29	15
造船・重機、その他輸送用機械	15	10	30	40	60	60	60	(50)	70	10	50	▲ 20
その他製造業	16	9	11	33	11	44	44	(22)	22	▲ 22	22	0
素材業種	17	41	7	8	2	5	5	(13)	5	0	3	▲ 2
加工業種	18	72	20	19	19	24	20	(14)	18	▲ 2	17	▲ 1
大企業	19	21	9	18	18	23	19	(19)	19	0	5	▲ 14
中堅企業	20	42	22	20	22	31	26	(31)	26	0	26	0
中小企業	21	50	14	10	4	6	4	(▲ 4)	0	▲ 4	2	2
非製造業	22	111	30	23	25	30	32	(20)	24	▲ 8	16	▲ 8
うち	23	21	59	33	38	57	57	(24)	62	5	23	▲ 39
建設												
不動産	24	2	—	—	—	—	—	(—)	—	—	—	—
物品賃貸	25	5	20	20	20	20	20	(0)	20	0	0	▲ 20
卸売	26	14	7	0	0	▲ 7	▲ 7	(0)	▲ 15	▲ 8	▲ 14	1
小売	27	16	25	13	13	25	25	(25)	19	▲ 6	25	6
運輸・郵便	28	14	22	29	29	29	29	(29)	22	▲ 7	21	▲ 1
情報通信	29	8	50	50	33	33	50	(25)	38	▲ 12	12	▲ 26
電気・ガス	30	9	12	25	38	38	33	(11)	11	▲ 22	22	11
対事業所サービス	31	6	43	15	29	29	29	(29)	16	▲ 13	33	17
対個人サービス	32	8	33	22	33	22	22	(22)	38	16	38	0
宿泊・飲食サービス	33	8	38	63	50	63	63	(38)	25	▲ 38	13	▲ 12
鉱業・採石業・砂利採取業	34	0	—	—	—	—	—	(—)	—	—	—	—
大企業	35	16	22	28	28	28	31	(19)	19	▲ 12	25	6
中堅企業	36	27	42	34	33	38	40	(33)	26	▲ 14	33	7
中小企業	37	67	28	18	20	27	27	(15)	24	▲ 3	7	▲ 17

(注) 「—」は有効回答社数が3社未満のため、非公表としたことを示す。

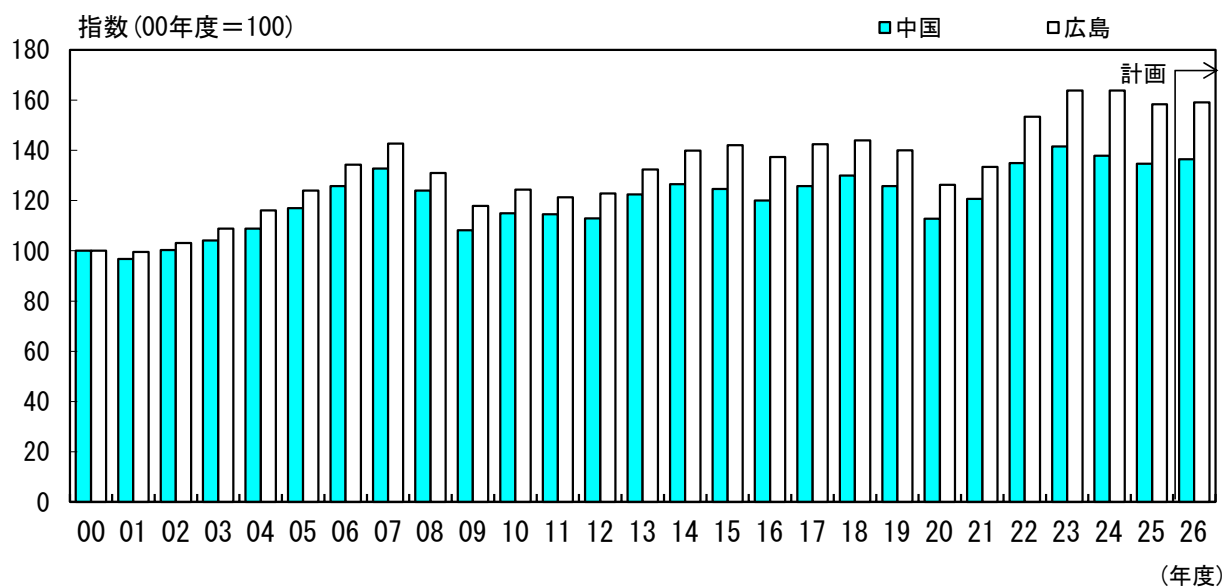
2. 売上・収益計画

▽売上高

(前年度比：%)

			24年度実績	25年度実績見込み	修正率	26年度計画
中国	全産業	1	▲ 2.6	▲ 2.3	0.2	1.3
	製造業	2	1.0	▲ 4.1	0.0	1.8
	大企業	3	▲ 0.5	▲ 5.6	▲ 0.3	2.1
	中堅企業	4	6.1	▲ 1.0	0.1	1.3
	中小企業	5	▲ 0.1	▲ 2.6	1.3	0.7
	非製造業	6	▲ 6.7	0.0	0.6	0.7
	大企業	7	▲ 12.4	▲ 1.2	0.7	0.9
	中堅企業	8	3.4	1.7	0.3	0.5
	中小企業	9	4.5	1.9	0.4	0.3
広島	全産業	10	0.0	▲ 3.3	0.2	0.5
	製造業	11	0.0	▲ 5.1	▲ 0.2	0.5
	大企業	12	▲ 1.5	▲ 5.9	▲ 0.4	0.0
	中堅企業	13	8.8	▲ 1.3	0.2	2.3
	中小企業	14	0.3	▲ 6.0	1.1	1.3
	非製造業	15	▲ 0.1	▲ 1.2	0.6	0.5
	大企業	16	▲ 1.0	▲ 1.7	0.8	0.4
	中堅企業	17	4.2	▲ 0.3	1.1	1.5
	中小企業	18	3.0	1.6	▲ 1.1	0.1

▽売上高（全産業）

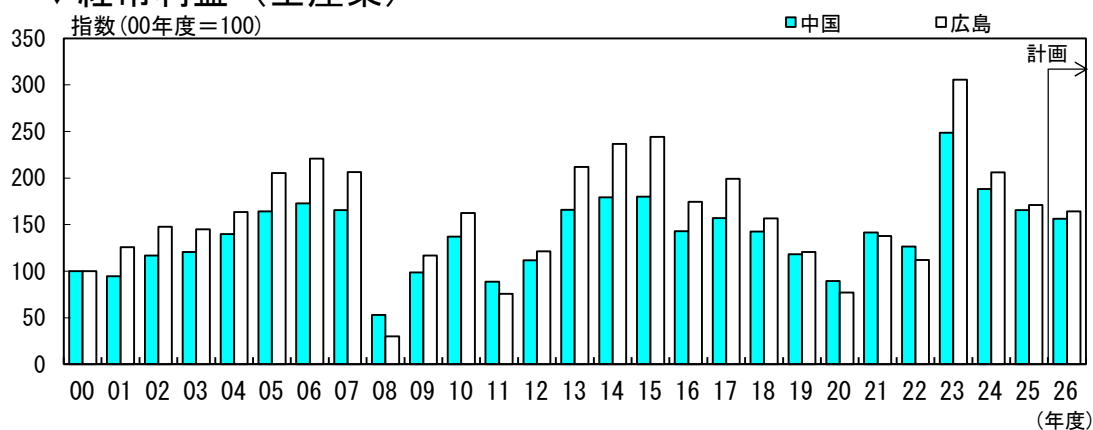


▽経常利益

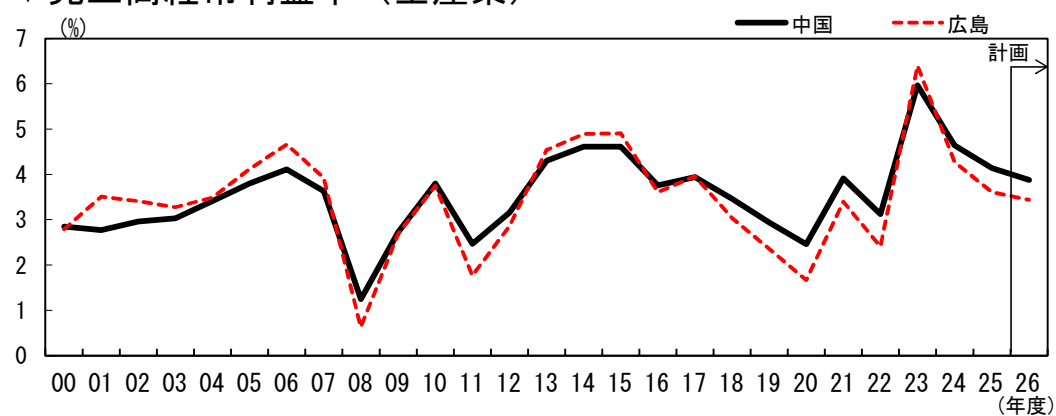
(前年度比：%)

			24年度実績	25年度実績見込み		26年度計画
					修正率	
中国	全産業	1	▲24.4	▲12.0	3.6	▲5.6
	製造業	2	▲30.7	▲15.0	6.5	▲12.1
	大企業	3	▲52.0	▲44.2	1.1	3.8
	中堅企業	4	▲4.3	▲0.8	7.1	▲18.0
	中小企業	5	▲12.5	3.4	11.5	▲12.2
	非製造業	6	▲16.6	▲8.9	1.1	0.7
	大企業	7	▲26.2	▲12.4	▲1.6	2.3
	中堅企業	8	14.6	▲4.2	2.6	0.8
	中小企業	9	8.8	0.0	11.5	▲6.6
広島	全産業	10	▲32.6	▲17.0	3.2	▲4.1
	製造業	11	▲44.2	▲24.8	8.8	▲12.5
	大企業	12	▲56.4	▲50.6	3.4	1.9
	中堅企業	13	▲15.1	9.8	13.2	▲21.6
	中小企業	14	2.7	1.6	9.8	▲18.9
	非製造業	15	▲19.5	▲11.1	▲0.1	1.2
	大企業	16	▲25.4	▲12.2	▲1.4	0.8
	中堅企業	17	42.0	▲6.8	7.0	3.0
	中小企業	18	9.1	▲5.2	1.9	2.5

▽経常利益（全産業）



▽売上高経常利益率（全産業）



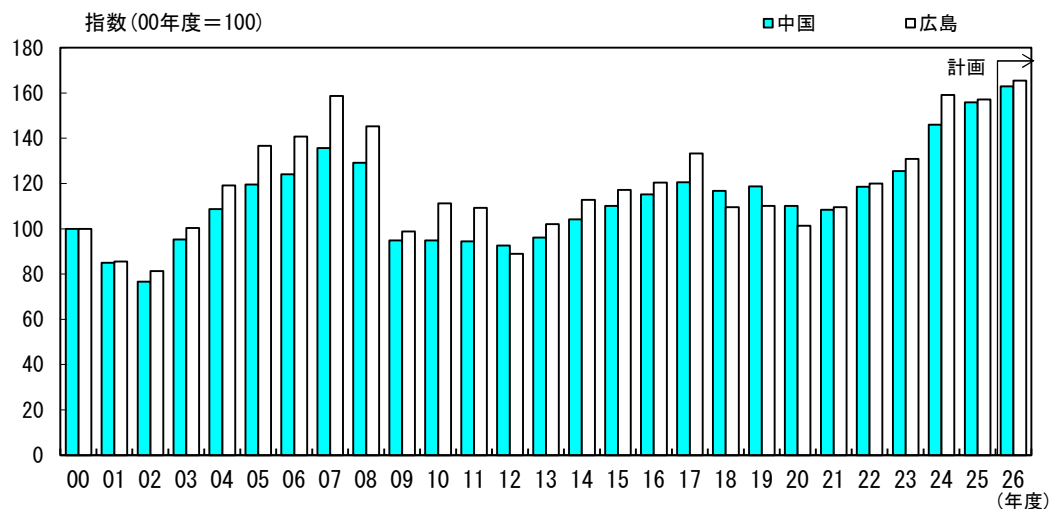
3. 設備投資

▽設備投資額（含む土地投資額）

（前年度比：％）

			24年度実績	25年度実績見込み		26年度計画
					修正率	
中国	全産業	1	16.3	6.7	▲ 2.9	4.6
	製造業	2	7.1	21.1	▲ 4.7	8.2
	大企業	3	8.8	18.3	▲ 2.4	9.3
	中堅企業	4	2.1	42.7	▲ 11.9	3.3
	中小企業	5	5.6	▲ 6.6	3.4	11.6
	非製造業	6	26.3	▲ 6.7	▲ 0.7	0.2
	大企業	7	35.7	▲ 7.4	0.0	▲ 1.1
	中堅企業	8	0.1	▲ 12.1	▲ 9.0	4.0
	中小企業	9	1.4	16.0	11.4	7.3
広島	全産業	10	21.6	▲ 1.2	▲ 3.3	5.3
	製造業	11	5.0	13.7	▲ 7.2	14.2
	大企業	12	2.4	22.6	▲ 6.0	0.2
	中堅企業	13	31.6	▲ 7.2	▲ 14.5	52.7
	中小企業	14	▲ 35.6	26.4	7.8	8.1
	非製造業	15	30.9	▲ 7.9	▲ 1.0	0.3
	大企業	16	36.1	▲ 9.8	▲ 1.1	0.4
	中堅企業	17	▲ 5.9	2.7	▲ 0.6	7.0
	中小企業	18	▲ 19.8	54.1	1.2	▲ 21.6

▽設備投資額（含む土地投資額）（全産業）



▽ソフトウェア・研究開発を含む設備投資額（除く土地投資額）

（前年度比：％）

			24年度実績	25年度実績見込み		26年度計画
					修正率	
中国	全産業	1	13.2	6.6	▲ 3.0	3.3
	製造業	2	6.2	16.9	▲ 4.2	4.6
	非製造業	3	24.3	▲ 7.8	▲ 0.8	0.8
広島	全産業	4	17.1	0.4	▲ 3.3	2.7
	製造業	5	5.0	11.4	▲ 5.3	4.8
	非製造業	6	30.7	▲ 9.5	▲ 0.9	0.4

▽生産・営業用設備判断D. I.

(「過剰」－「不足」、%ポイント、()内は25/12月新ベース調査時予測)

		25/3月	6月	9月	12月		26/3月調査			
					〈旧〉	〈新〉	最近		先行き	
								変化幅		変化幅
中国	全産業	0	1	▲ 1	▲ 1	▲ 1	(▲ 2) ▲ 3	▲ 2	▲ 4	▲ 1
	製造業	2	5	1	2	2	(0) ▲ 1	▲ 3	▲ 3	▲ 2
	非製造業	▲ 2	▲ 3	▲ 4	▲ 4	▲ 4	(▲ 4) ▲ 4	0	▲ 5	▲ 1
広島	全産業	▲ 2	0	▲ 1	▲ 1	▲ 1	(▲ 3) 0	1	▲ 3	▲ 3
	製造業	1	6	3	4	4	(▲ 2) 6	2	▲ 1	▲ 7
	非製造業	▲ 6	▲ 7	▲ 7	▲ 6	▲ 6	(▲ 5) ▲ 7	▲ 1	▲ 6	1

4. 雇用

▽雇用人員判断D. I.

(「過剰」－「不足」、%ポイント、()内は25/12月新ベース調査時予測)

		25/3月	6月	9月	12月		26/3月調査			
					〈旧〉	〈新〉	最近		先行き	
								変化幅		変化幅
中国	全産業	▲ 36	▲ 34	▲ 35	▲ 36	▲ 36	(▲ 42) ▲ 36	0	▲ 40	▲ 4
	製造業	▲ 24	▲ 22	▲ 24	▲ 24	▲ 24	(▲ 31) ▲ 31	▲ 7	▲ 33	▲ 2
	非製造業	▲ 46	▲ 44	▲ 44	▲ 46	▲ 46	(▲ 51) ▲ 41	5	▲ 45	▲ 4
広島	全産業	▲ 31	▲ 29	▲ 29	▲ 34	▲ 34	(▲ 41) ▲ 30	4	▲ 37	▲ 7
	製造業	▲ 19	▲ 16	▲ 16	▲ 23	▲ 23	(▲ 31) ▲ 25	▲ 2	▲ 32	▲ 7
	非製造業	▲ 43	▲ 43	▲ 44	▲ 46	▲ 46	(▲ 52) ▲ 35	11	▲ 42	▲ 7

▽新卒採用計画<6月、12月調査のみ>

(前年度比：%)

		25年度実績		26年度計画		27年度計画	
			修正率		修正率		修正率
中国	全産業	—	—	—	—	—	—
	製造業	—	—	—	—	—	—
	非製造業	—	—	—	—	—	—
広島	全産業	—	—	—	—	—	—
	製造業	—	—	—	—	—	—
	非製造業	—	—	—	—	—	—

5. 需給・在庫・価格判断（製造業）

▽国内での製商品需給判断D. I.

（「需要超過」－「供給超過」、%ポイント、（ ）内は25/12月新ベース調査時予測）

	25/3月	6月	9月	12月		26/3月調査			
				〈旧〉	〈新〉	最近	変化幅	先行き	変化幅
中国	▲ 14	▲ 18	▲ 17	▲ 16	▲ 17	(▲ 16) ▲ 16	1	▲ 14	2
広島	▲ 8	▲ 18	▲ 14	▲ 10	▲ 10	(▲ 12) ▲ 12	▲ 2	▲ 9	3

▽製商品在庫水準判断D. I.

（「過大」－「不足」、%ポイント）

	25/3月	6月	9月	12月		26/3月調査	
				〈旧〉	〈新〉	最近	変化幅
中国	15	14	15	15	16	14	▲ 2
広島	17	19	21	18	19	22	3

▽販売価格判断D. I.

（「上昇」－「下落」、%ポイント、（ ）内は25/12月新ベース調査時予測）

	25/3月	6月	9月	12月		26/3月調査			
				〈旧〉	〈新〉	最近	変化幅	先行き	変化幅
中国	31	30	25	26	24	(33) 28	4	43	15
広島	36	32	31	32	32	(36) 33	1	49	16

▽仕入価格判断D. I.

（「上昇」－「下落」、%ポイント、（ ）内は25/12月新ベース調査時予測）

	25/3月	6月	9月	12月		26/3月調査			
				〈旧〉	〈新〉	最近	変化幅	先行き	変化幅
中国	50	47	46	46	45	(52) 51	6	62	11
広島	51	46	51	48	48	(55) 53	5	60	7

6. 企業金融（全産業）

▽資金繰り判断D. I.

（「楽である」－「苦しい」、%ポイント）

	25/3月	6月	9月	12月		26/3月調査	
				〈旧〉	〈新〉	最近	変化幅
中国	8	11	11	10	10	11	1
広島	11	15	17	14	14	15	1

▽金融機関の貸出態度判断D. I.

（「緩い」－「厳しい」、%ポイント）

	25/3月	6月	9月	12月		26/3月調査	
				〈旧〉	〈新〉	最近	変化幅
中国	18	18	15	16	15	15	0
広島	22	20	20	22	22	20	▲ 2

▽借入金利水準判断D. I.

（「上昇」－「低下」、%ポイント、（ ）内は25/12月新ベース調査時予測）

	25/3月	6月	9月	12月		26/3月調査			
				〈旧〉	〈新〉	最近	変化幅	先行き	変化幅
中国	62	49	44	43	45	(54) 62	17	61	▲ 1
広島	70	51	52	47	48	(60) 68	20	66	▲ 2

【資料出所：広島県経営者協会「令和8年4月度景気動向アンケート調査結果」（抜粋）※69社から回答】

景気動向		経営上の問題点		令和7年度売上・利益（令和6年度比較）		令和8年度売上・利益見通し（令和7年度比較）	
良い	0社（－％）	人材確保	12％	増収増益	29社（39％）	変わらない	28社（38％）
やや良い	8社（8％）	人材不足	11％	減収減益	18社（27％）	増収増益	17社（26％）
普通	38社（58％）	人件費上昇	11％	変わらない	10社（15％）	減収減益	14社（21％）
やや悪い	22社（33％）	原材料価格高騰	9％	増収減益	6社（9％）	増収減益	6社（9％）
悪い	1社（1％）	物価上昇	8％	減収増益	6社（9％）	減収増益	4社（6％）
		DX推進	5％				
		少子高齢化	4％				

【資料出所：広島県商工会連合会（令和8年3月）広島県 商工会地域 中小企業景況調査報告書 第183回（令和8年1月～3月期 実績、令和8年4月～6月 見通し）】

1. 広島県と全国（全産業）業況DⅠ推移 ※商工会、商工会議所、中小企業団体中央会の3団体データを含む。

	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6（見通し）
広島県	▲ 17.8	▲ 14.5	▲ 6.5
全国	▲ 15.1	▲ 11.4	▲ 10.7

2. 広島県（産業別）業況DⅠ推移 ※商工会地域のみ

	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6（見通し）
製造業	3.7	▲ 11.4	1.9
建設業	▲ 20.9	▲ 18.6	▲ 9.5
小売業	▲ 31.2	▲ 42.5	▲ 21.2
サービス業	▲ 18.5	▲ 22.2	▲ 14.7
全産業	▲ 17.3	▲ 24.9	▲ 11.7

3. 広島県製造業DⅠ推移 ※商工会地域

	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6（見通し）
売上額	3.7	▲ 11.4	1.9
原材料仕入単価	▲ 20.9	▲ 18.6	▲ 9.5
採算	▲ 31.2	▲ 42.5	▲ 21.2
資金繰り	▲ 18.5	▲ 22.2	▲ 14.7

4. 広島県建設業DⅠ推移 ※商工会地域

	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6（見通し）
完成工事額	▲ 6.8	▲ 30.2	▲ 23.3
材料仕入単価	69.0	65.1	55.8
採算	▲ 25.0	▲ 20.5	▲ 9.5
資金繰り	▲ 16.3	▲ 11.3	▲ 13.6

5. 広島県小売業DⅠ推移 ※商工会地域

	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6（見通し）
売上額	▲ 39.4	▲ 37.3	▲ 23.9
商品仕入単価	65.6	59.7	53.7
採算	▲ 41.0	▲ 43.2	▲ 29.8
資金繰り	▲ 35.8	▲ 35.4	▲ 19.7

6. 広島県サービス業DⅠ推移 ※商工会地域

	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6（見通し）
売上額	▲ 10.7	▲ 9.2	▲ 17.2
材料等仕入単価	68.2	74.2	67.2
採算	▲ 32.3	▲ 18.4	▲ 15.6
資金繰り	▲ 14.0	▲ 12.9	▲ 12.9

【資料出所：一般社団法人広島県中小企業家同友会 政策委員会「2025年度第2回経営課題と政策要望のアンケート調査結果」（抜粋）】
 ※調査期間：2026年1月13日～30日、会員数：3,000名、回答数：2,133名（回答率71.1%）

1. 現在の経営状況（全業種）

とても良い	5.6%
少し良い	30.6%
どちらとも言えない	36.0%
少し悪い	20.4%
かなり悪い	7.4%
D I	8.4

2. 一年後の経営状況の見通し（全業種）

とても良くなる	6.1%
少し良くなる	31.0%
どちらとも言えない	49.8%
少し悪くなる	10.4%
かなり悪くなる	2.7%
D I	24.0

3. 経営上の問題点について（全業種）※上位5つを抜粋

人件費の増大	43.6%
従業員の不足	31.1%
仕入先からの値上要請	22.8%
同業者間の価格競争の激化	21.8%
税・社会保険の負担増	20.3%

4. 現在の経常利益の状況（全業種）

黒字基調	42.5%
トントン	38.3%
赤字基調	19.3%
D I	23.2

5. 現在の経常利益の状況（業種別）

	製造	建設	卸・小売	サービス	その他
黒字基調	36.4%	42.6%	37.5%	46.3%	43.8%
トントン	37.6%	38.6%	40.8%	37.4%	38.2%
赤字基調	26.0%	18.9%	21.7%	16.3%	18.0%
D I	10.4	23.9	15.8	30.0	25.8

6. 従業員の賃金を昨年度に比べて上げたか

上げた	61.8%
これから上げる	6.7%
変わらない	30.1%
これから下げる	0.5%
下げた	0.9%

7. 賃金のアップ率

1%～2%	26.1%
3%～5%	50.9%
6%～10%	18.2%
11%以上	4.8%

8. 賃上げに伴う価格転嫁の割合

全く転嫁できていない	36.6%
1割～2割程度	31.9%
3割～4割程度	8.7%
5割～6割程度	8.5%
7割～8割程度	6.0%
9割程度	2.5%
全て転嫁できている	5.8%

9. 今後、賃金を引き上げる余地はあるか

余地があり引き上げる	12.1%
余地を作って引き上げる	42.7%
余地はないが引き上げざるを得ない	26.5%
余地はなく引き上げられない	12.9%
その他	5.7%

10. 2030年には最低賃金1500円を実現するという話が出ている。対応は可能か

十分に対応可能	9.8%
何とか対応できそう	26.2%
対応は難しい	30.4%
全く対応不可能	7.7%
わからない	14.2%

11. 現在の経営状況（業種細分）

製造（D I ▲8.5）	機械器具	金属製品	鉄鋼	輸送機器	印刷	食品	繊維	木材・家具	その他
とても良い	8.7%	9.1%	5.3%	3.8%	2.8%	4.5%	0.0%	0.0%	11.3%
少し良い	28.3%	9.1%	28.9%	34.6%	13.9%	15.9%	21.1%	38.1%	34.0%
どちらとも言えない	37.0%	27.3%	36.8%	34.6%	33.3%	31.8%	42.1%	28.6%	17.0%
少し悪い	21.7%	36.4%	26.3%	7.7%	25.0%	38.6%	21.1%	14.3%	26.4%
かなり悪い	4.3%	18.2%	2.6%	19.2%	25.0%	9.1%	15.8%	19.0%	11.3%
D I 値	11.0	▲ 36.4	5.3	11.5	▲ 33.3	▲ 27.3	▲ 15.8	4.8	7.6

建設（D I 12.8）	総合工事	設備工事	職別工事
とても良い	5.6%	5.1%	5.2%
少し良い	30.6%	38.8%	30.6%
どちらとも言えない	36.1%	36.7%	37.3%
少し悪い	20.1%	17.3%	17.9%
かなり悪い	7.6%	2.0%	9.0%
D I 値	8.5	24.6	8.9

卸・小売（D I ▲7.8）	各種商品	飲食料品	機械器具	建設材料	繊維	その他卸小売
とても良い	7.5%	5.7%	7.2%	0.0%	4.0%	4.0%
少し良い	22.5%	28.6%	24.1%	24.0%	12.0%	24.8%
どちらとも言えない	40.0%	34.3%	36.1%	24.0%	36.0%	33.7%
少し悪い	22.5%	25.7%	27.7%	44.0%	28.0%	27.7%
かなり悪い	7.5%	5.7%	4.8%	8.0%	20.0%	9.9%
D I 値	0.0	2.9	▲ 1.2	▲ 28.0	▲ 32.0	▲ 8.8

サービス（D I 17.8）	飲食・宿泊	運輸	医療・福祉	生活関連・娯楽	専門・サービス	教育・学習支援	自動車・機械	その他
とても良い	4.4%	6.7%	13.1%	1.1%	7.2%	8.6%	5.7%	5.4%
少し良い	30.1%	33.3%	41.7%	41.3%	30.6%	31.4%	40.0%	38.7%
どちらとも言えない	33.3%	35.0%	28.6%	33.7%	44.6%	40.0%	40.0%	29.0%
少し悪い	20.8%	21.7%	11.9%	19.6%	14.0%	14.3%	14.3%	15.1%
かなり悪い	11.5%	3.3%	4.8%	4.3%	3.6%	5.7%	0.0%	11.5%
D I 値	2.2	15.0	38.1	18.5	20.2	20.0	31.4	17.2

その他（D I 14.2）	情報・通信	不動産	保険・金融	電気・ガス	一次産業
とても良い	4.6%	4.6%	6.5%	0.0%	0.0%
少し良い	24.8%	31.5%	40.3%	41.2%	40.0%
どちらとも言えない	45.9%	42.6%	33.9%	41.2%	35.0%
少し悪い	19.3%	19.4%	17.7%	17.6%	10.0%
かなり悪い	5.5%	1.9%	1.6%	0.0%	15.0%
D I 値	4.6	14.8	27.5	23.6	15.0

12. 一年後の経営状況の見通し（業種細分）

製造（D I 12.6）	機械器具	金属製品	鉄鋼	輸送機器	印刷	食品	繊維	木材・家具	その他
とても良くなる	6.5%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	5.3%	0.0%	5.7%
少し良くなる	15.2%	23.8%	39.5%	30.8%	13.9%	27.3%	15.8%	38.1%	30.2%
どちらとも言えない	65.2%	54.8%	39.5%	65.4%	66.7%	47.7%	63.2%	42.9%	50.9%
少し悪くなる	10.9%	14.3%	15.8%	3.8%	16.7%	15.9%	15.8%	14.3%	9.4%
かなり悪くなる	2.2%	4.8%	5.3%	0.0%	2.8%	6.8%	0.0%	4.8%	3.8%
D I 値	8.6	7.1	18.4	27.0	▲ 4.8	6.9	5.3	19.0	22.7

建設（D I 17.9）	総合工事	設備工事	職別工事
とても良くなる	3.5%	4.1%	5.2%
少し良くなる	27.8%	27.6%	25.4%
どちらとも言えない	50.7%	61.2%	56.7%
少し悪くなる	12.5%	7.1%	9.0%
かなり悪くなる	5.6%	0.0%	3.7%
D I 値	13.2	24.6	17.9

卸・小売（D I 15.6）	各種商品	飲食料品	機械器具	建設材料	繊維	その他卸小売
とても良くなる	5.1%	5.7%	7.2%	0.0%	8.0%	4.0%
少し良くなる	20.5%	42.9%	28.9%	24.0%	32.0%	21.8%
どちらとも言えない	46.2%	37.1%	47.0%	60.0%	52.0%	59.4%
少し悪くなる	20.5%	14.3%	12.0%	12.0%	0.0%	11.9%
かなり悪くなる	7.7%	0.0%	4.8%	4.0%	8.0%	3.0%
D I 値	▲ 2.6	34.3	19.3	8.0	32.0	10.9

サービス（D I 32.3）	飲食・宿泊	運輸	医療・福祉	生活関連・娯楽	専門・サービス	教育・学習支援	自動車・機械	その他
とても良くなる	3.3%	3.3%	10.7%	12.0%	7.7%	5.7%	2.9%	10.8%
少し良くなる	32.2%	38.3%	42.9%	37.0%	29.7%	37.1%	28.6%	46.2%
どちらとも言えない	50.8%	46.7%	38.1%	41.3%	53.6%	45.7%	60.0%	35.5%
少し悪くなる	10.9%	11.7%	7.1%	8.7%	8.1%	8.6%	8.6%	6.5%
かなり悪くなる	2.7%	0.0%	1.2%	1.1%	0.9%	2.9%	0.0%	1.1%
D I 値	21.9	29.9	45.3	39.2	28.4	31.3	22.9	49.4

その他（D I 30.0）	情報・通信	不動産	保険・金融	電気・ガス	一次産業
とても良くなる	9.2%	7.4%	14.5%	0.0%	9.5%
少し良くなる	39.4%	27.8%	30.6%	52.9%	38.1%
どちらとも言えない	41.3%	50.9%	38.7%	23.5%	38.1%
少し悪くなる	7.3%	11.1%	14.5%	17.6%	9.5%
かなり悪くなる	2.8%	2.8%	1.6%	5.9%	4.8%
D I 値	38.5	21.3	29.0	29.4	33.3

中小企業等の人手不足、 賃金引上げに関する調査結果

■調査概要	1
■調査結果の主なポイント	2～3
■人手不足について	4～6
■賃上げについて	7～15
■調査票	16

令和8年4月

広島県商工会議所連合会

■調査概要

1

- (1) 調査目的 県内企業の人手不足や賃金引上げの状況について実態を把握し、国等の経済対策にかかる要望活動に活用する。
- (2) 調査対象 県内13商工会議所の景気観測モニター企業 1,019社
〔回答：583社、回答率：57.2%〕
- (3) 調査期間 令和8年3月1日～3月31日
- (4) 調査方法 郵送、FAX、電子メール、インターネット

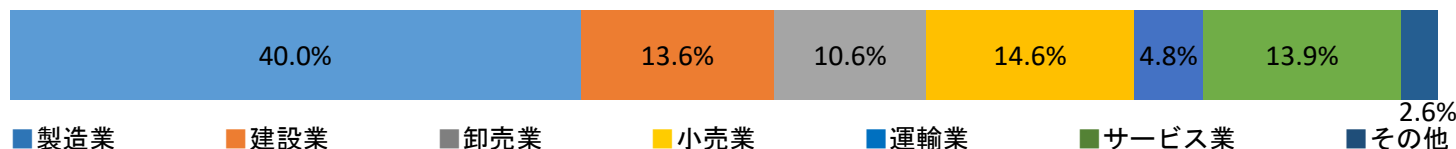
■前回（R7.3月調査）
対象数 1,055社
回答 632社
回答率 59.9%

＜回答企業の属性＞

（注）本資料の構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない

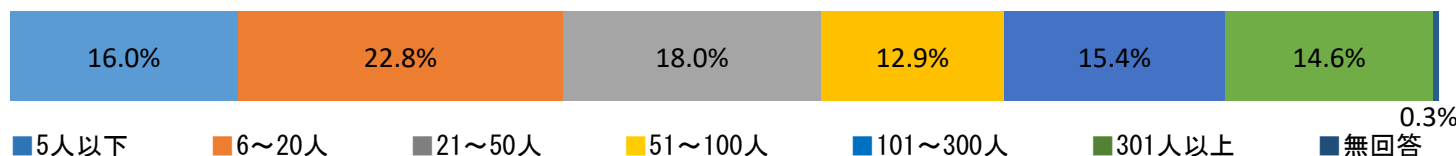
【業種】

製造業：233社（40.0%） 建設業：79社（13.6%） 卸売業：62社（10.6%）
小売業：85社（14.6%） 運輸業：28社（4.8%） サービス業：81社（13.9%） その他：15社（2.6%）



【従業員数】

5人以下：93社（16.0%） 6～20人：133社（22.8%） 21～50人：105社（18.0%）
51～100人：75社（12.9%） 101～300人：90社（15.4%） 301人以上：85社（14.6%） 無回答：2社（0.3%）



■ 調査結果の主なポイント

2

1. 人手不足について

(1) 人員充足状況

- ・ 人手が「不足している」と回答した企業は51.7%。過半数の企業において人手不足に直面している。
- ・ 業種別では、運輸業（85.7%）、建設業（68.4%）で人手不足が深刻化している。

(2) 人手不足対策

- ・ 「採用活動の強化」が77.7%と最多で、「従業員の育成・スキルアップ」（38.9%）、「事業のスリム化、ムダの排除、外注の活用」（36.9%）、「女性・高齢者・外国人等、多様な人材の活用」（34.6%）が続く。「デジタル・機械・ロボットの活用」（26.6%）は、前回より2.4ポイント上昇したが、3割に満たない。

(3) 必要な行政支援策

- ・ 行政支援の要望として、「各種補助金・助成金等の拡充や手続きの簡素化」が68.8%と最多で、「税制優遇」（51.2%）が続く。

2. 賃上げについて

(1) 2026年度の賃上げの状況

① 非正規社員

- ・ 2026年度に「賃上げを実施予定」とする企業は約5割（48.7%）。そのうち、「防衛的な賃上げ」は前回から3.4ポイント下降したが約7割（70.4%）と引き続き高水準で推移。

② 正社員

- ・ 2026年度に「賃上げを実施予定」とする企業は6割強（64.0%）。そのうち、「防衛的な賃上げ」は前回から4.6ポイント下降したが約7割（69.5%）と引き続き高水準で推移。

■ 調査結果の主なポイント

2. 賃上げについて

(2) 正社員に対する賃上げ

① 賃上げの内容

- ・ 「定期昇給」が72.5%と最多で、「ベースアップ」(64.0%)、「一時金(賞与)の増額」(20.1%)が続く。

② 賃上げ率

- ・ 「3%以上4%未満」が26.1%と最多で、「2%以上3%未満」(23.3%)が続く。賃上げ率「3%以上」の企業は56.8%と前回より1.8ポイント上昇した。

③ 実施予定の理由

- ・ 「人材確保・定着やモチベーション向上のため」が88.5%と最多で、「物価が上昇しているため」(74.5%)、「社会における賃上げ機運が高まっているため」(48.1%)、「最低賃金が引き上げられたため」(34.6%)が続く。

④ 見送るまたは未定の理由

- ・ 「今後の経営環境・経済状況が不透明なため」が61.8%と最多で前回より4.9ポイント上昇した。
「業績の改善がみられないため」(29.9%)、「賃上げを行う原資がないため」(18.1%)、「価格転嫁が進んでいないため」(16.2%)が続く。

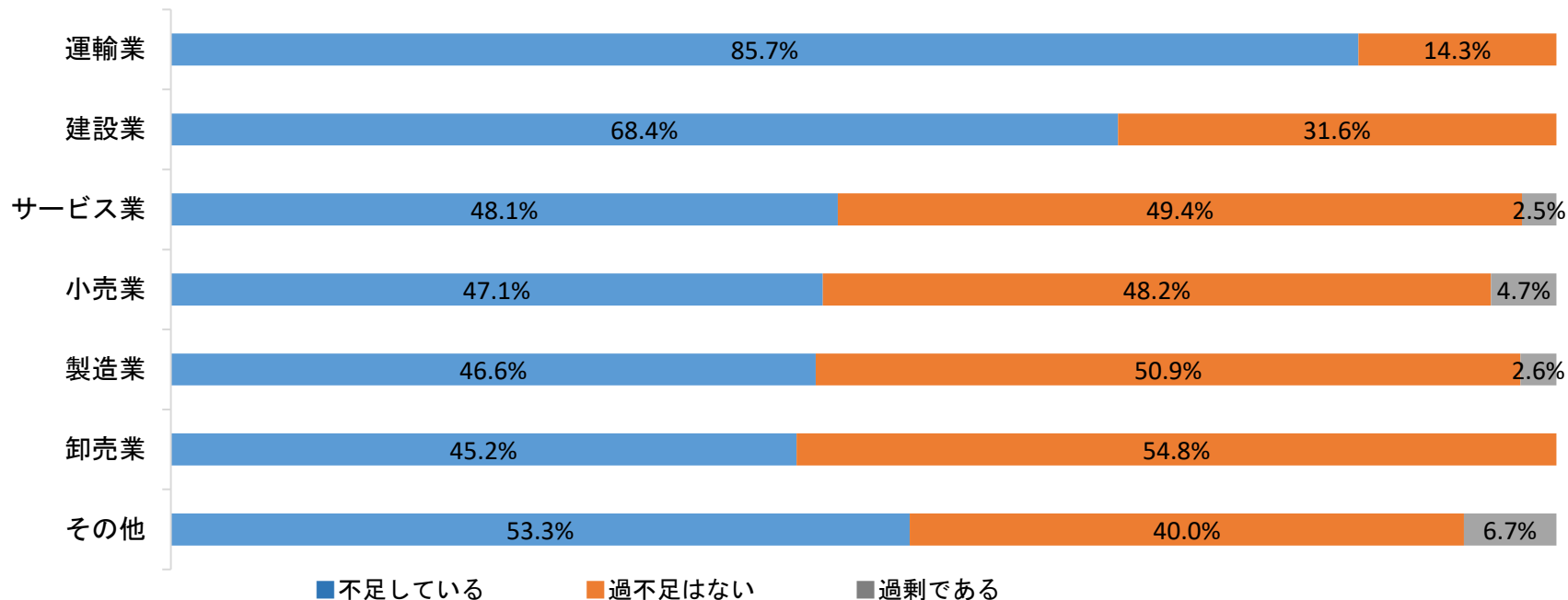
(1) 人員充足状況

- ・ 人手が「不足している」と回答した企業は51.7%。過半数の企業において人手不足に直面している。
- ・ 業種別では、運輸業（85.7%）、建設業（68.4%）で人手不足が深刻化している。

【全体集計】 n=582 ※「無回答」除く



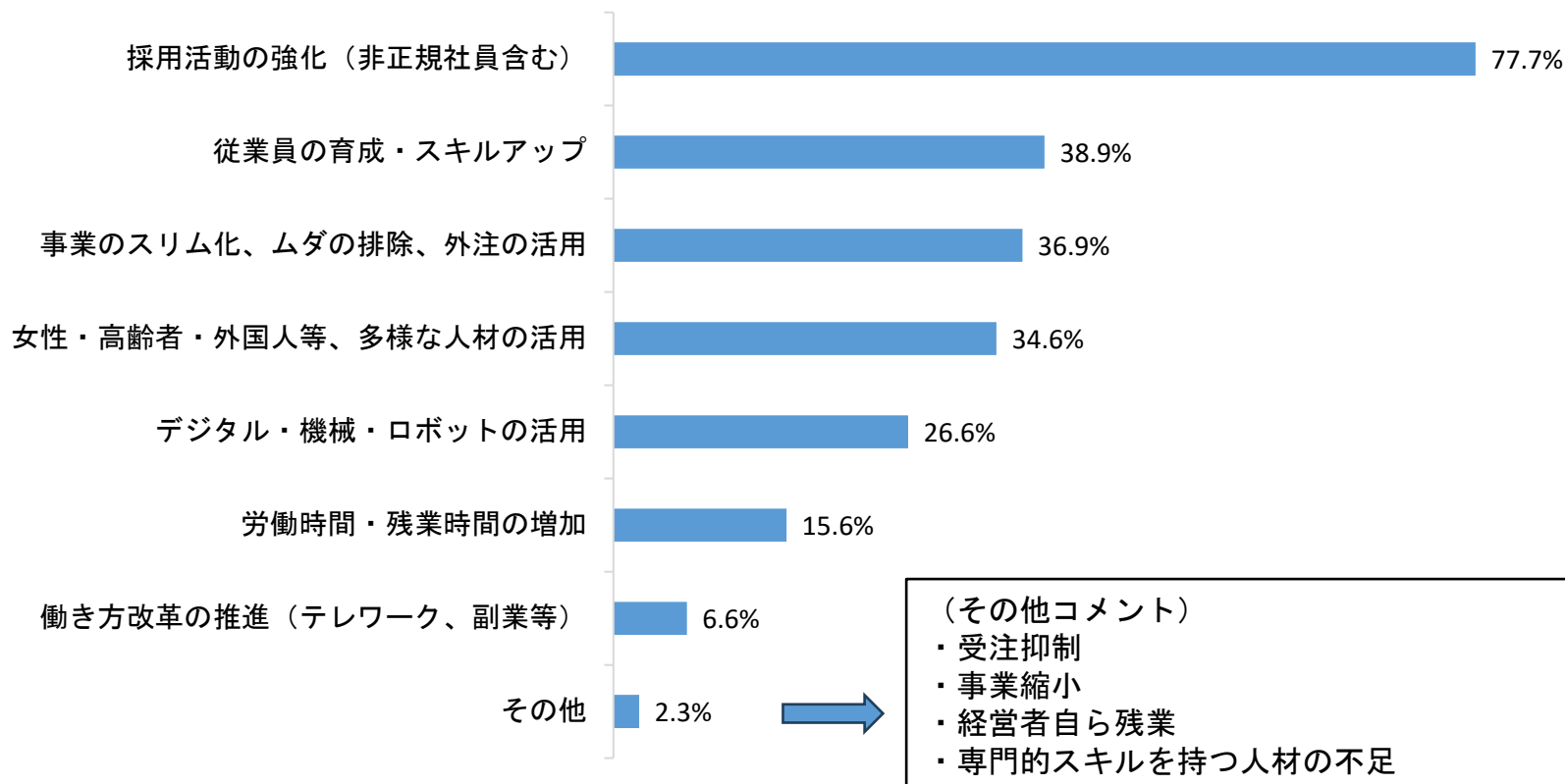
【業種別集計】 n=582 ※「無回答」除く



(2) 人手不足対策

- ・「採用活動の強化」が77.7%と最多で、「従業員の育成・スキルアップ」(38.9%)、「事業のスリム化、ムダの排除、外注の活用」(36.9%)、「女性・高齢者・外国人等、多様な人材の活用」(34.6%)が続く。「デジタル・機械・ロボットの活用」(26.6%)は、前回より2.4ポイント上昇したが、3割に満たない。

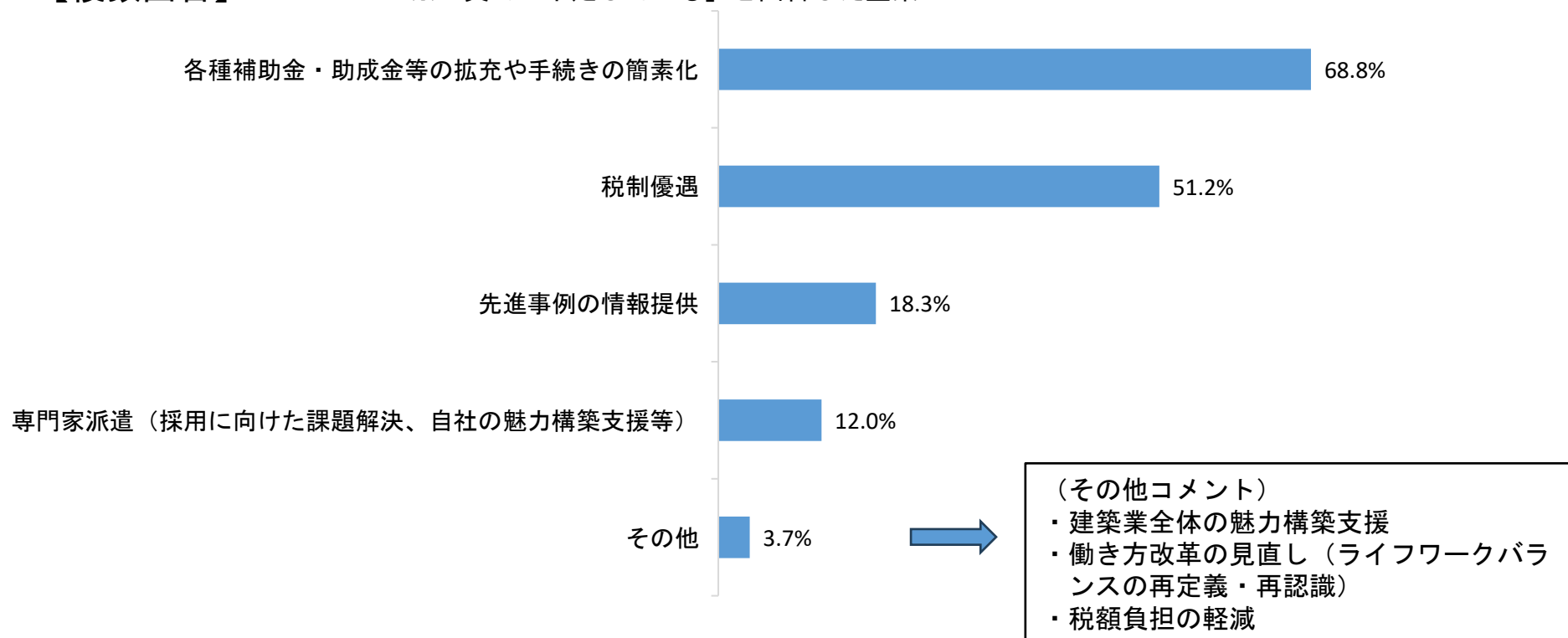
【複数回答】 n=301 ※4頁で「不足している」と回答した企業



(3) 必要な行政支援策

- ・行政支援の要望として、「各種補助金・助成金等の拡充や手続きの簡素化」が68.8%と最多で、「税制優遇」(51.2%)が続く。

【複数回答】 n=301 ※4頁で「不足している」と回答した企業



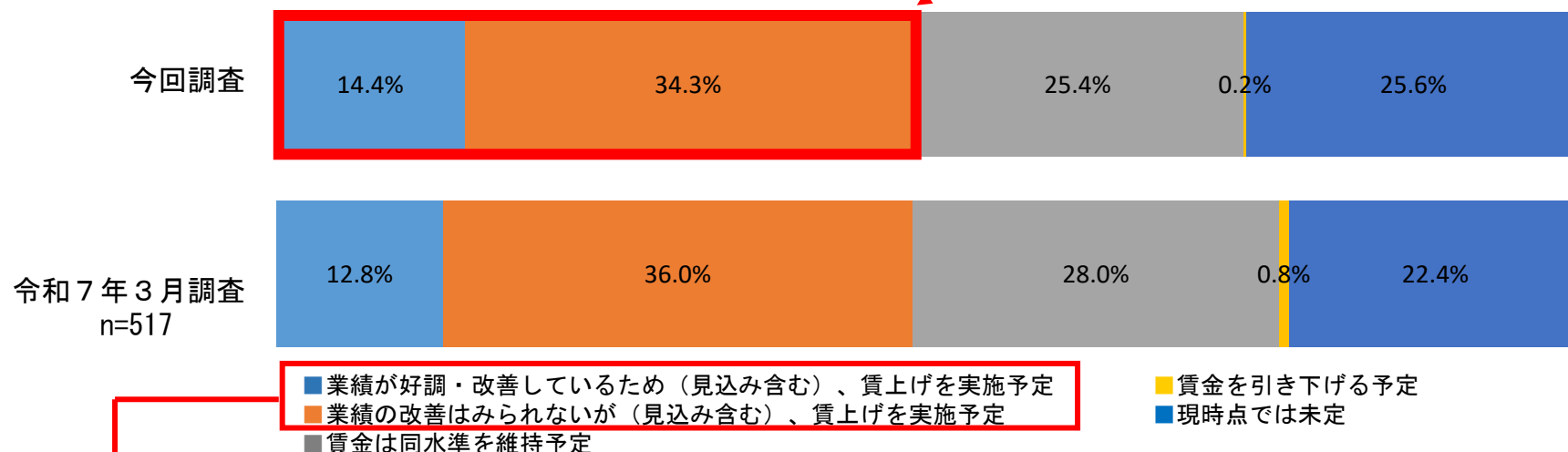
①非正規社員

7

- ・ 2026年度に「賃上げを実施予定」とする企業は約5割（48.7%）。そのうち、「防衛的な賃上げ」は前回から3.4ポイント下降したが約7割（70.4%）と引き続き高水準で推移。

【全体集計】 n=464 ※「非正規社員はいない」「無回答」除く

合計：48.7%



■ 賃上げ実施予定の企業を100とした場合の「前向きな賃上げ」と「防衛的な賃上げ」

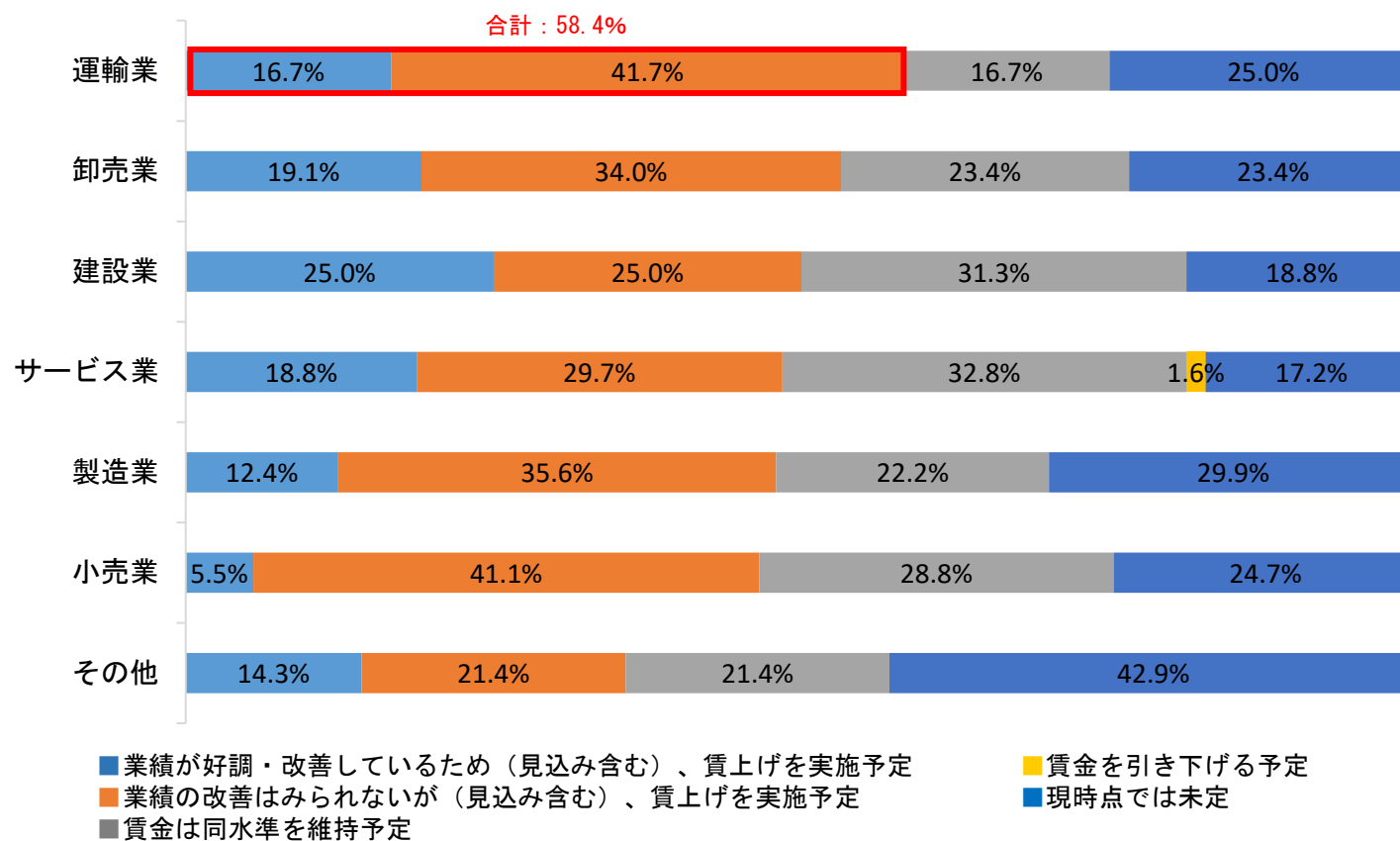


■ 前向きな賃上げ（業績が好調・改善しているため（見込み含む）、賃上げを実施予定） ■ 防衛的な賃上げ（業績の改善はみられないが（見込み含む）、賃上げを実施予定）

①非正規社員【業種別】

- ・「賃上げを実施予定」と回答した企業の割合は、運輸業（58.4%）が最も多く、卸売業（53.1%）が続く。

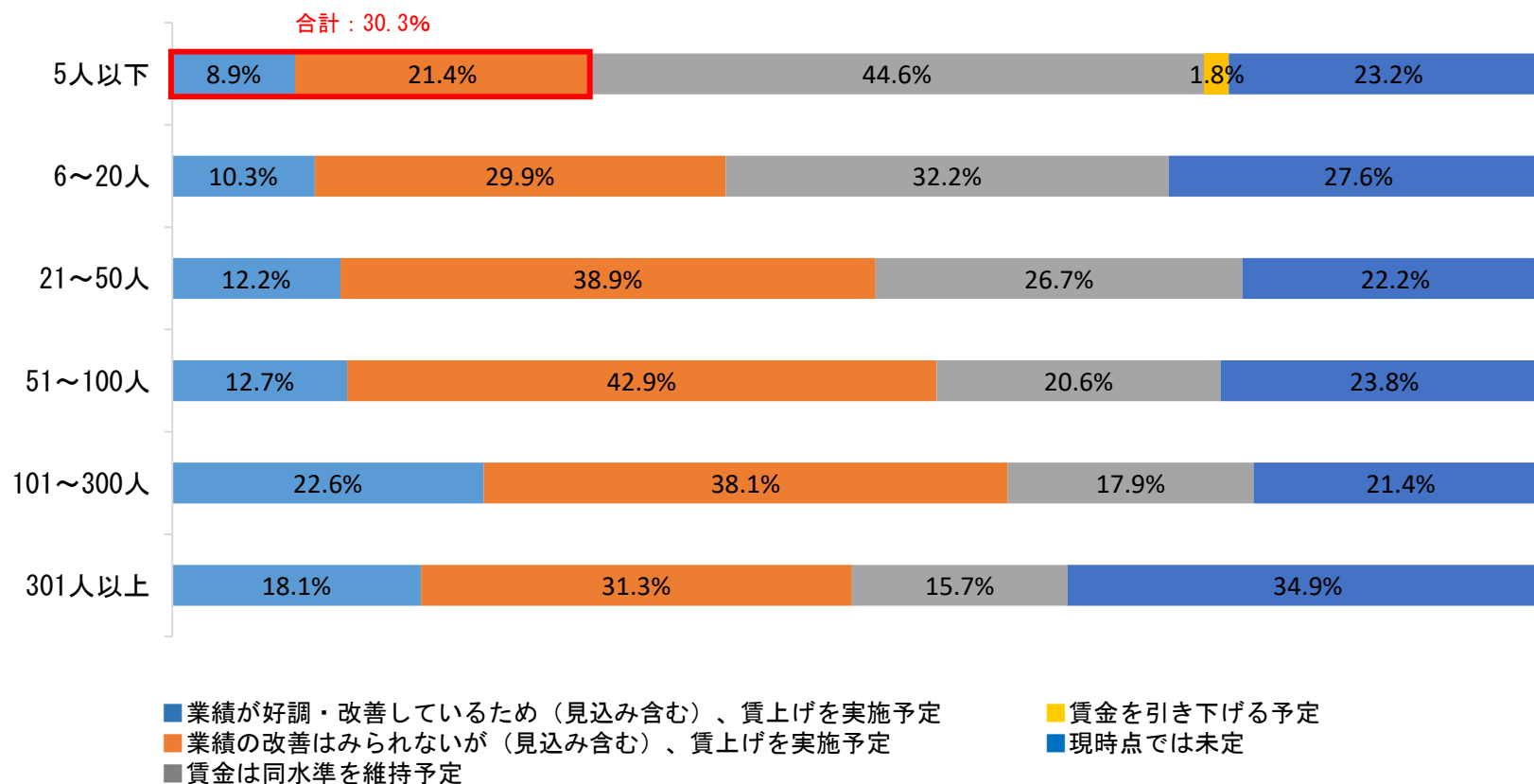
【業種別集計】 n=464 ※「非正規社員はいない」「無回答」除く



①非正規社員【従業員別】

- ・「賃上げを実施予定」と回答した企業の割合は、従業員数5人以下の企業では約3割（30.3%）、6～20人以下の企業でも約4割（40.2%）にとどまる。

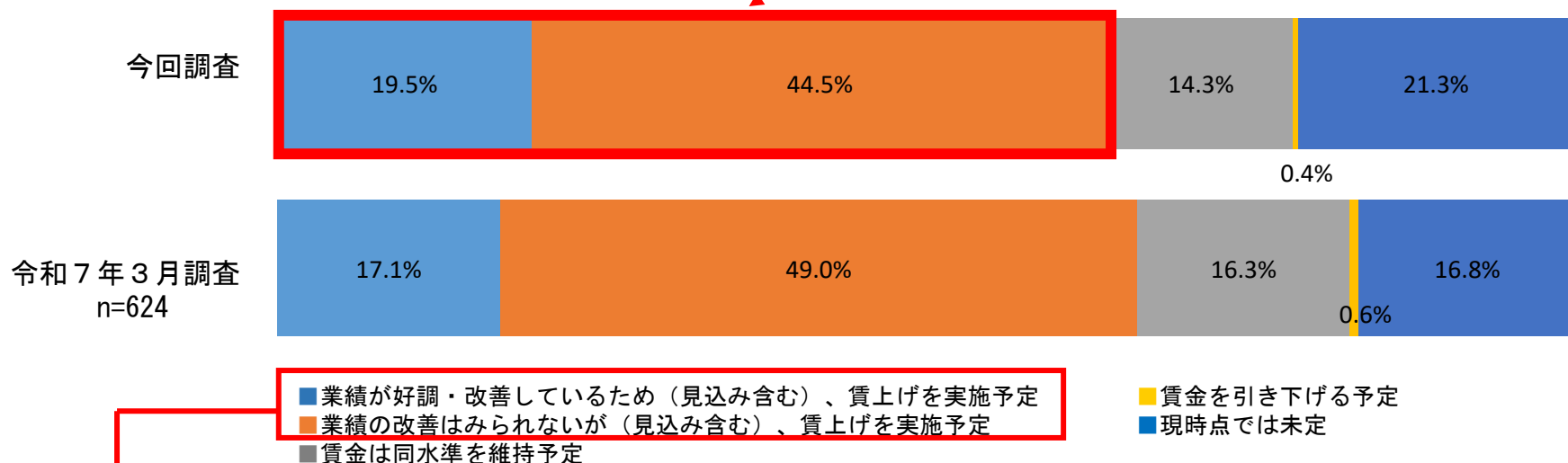
【従業員別集計】 n=463 ※「非正規社員はいない」「無回答」除く



②正社員

- ・ 2026年度に「賃上げを実施予定」とする企業は6割強（64.0%）。そのうち、「防衛的な賃上げ」は前回より4.6ポイント下降したが約7割（69.5%）と引き続き高水準で推移。

【全体集計】 n=568 ※「無回答」除く 合計：64.0%



■ 賃上げ実施予定の企業を100とした場合の「前向きな賃上げ」と「防衛的な賃上げ」

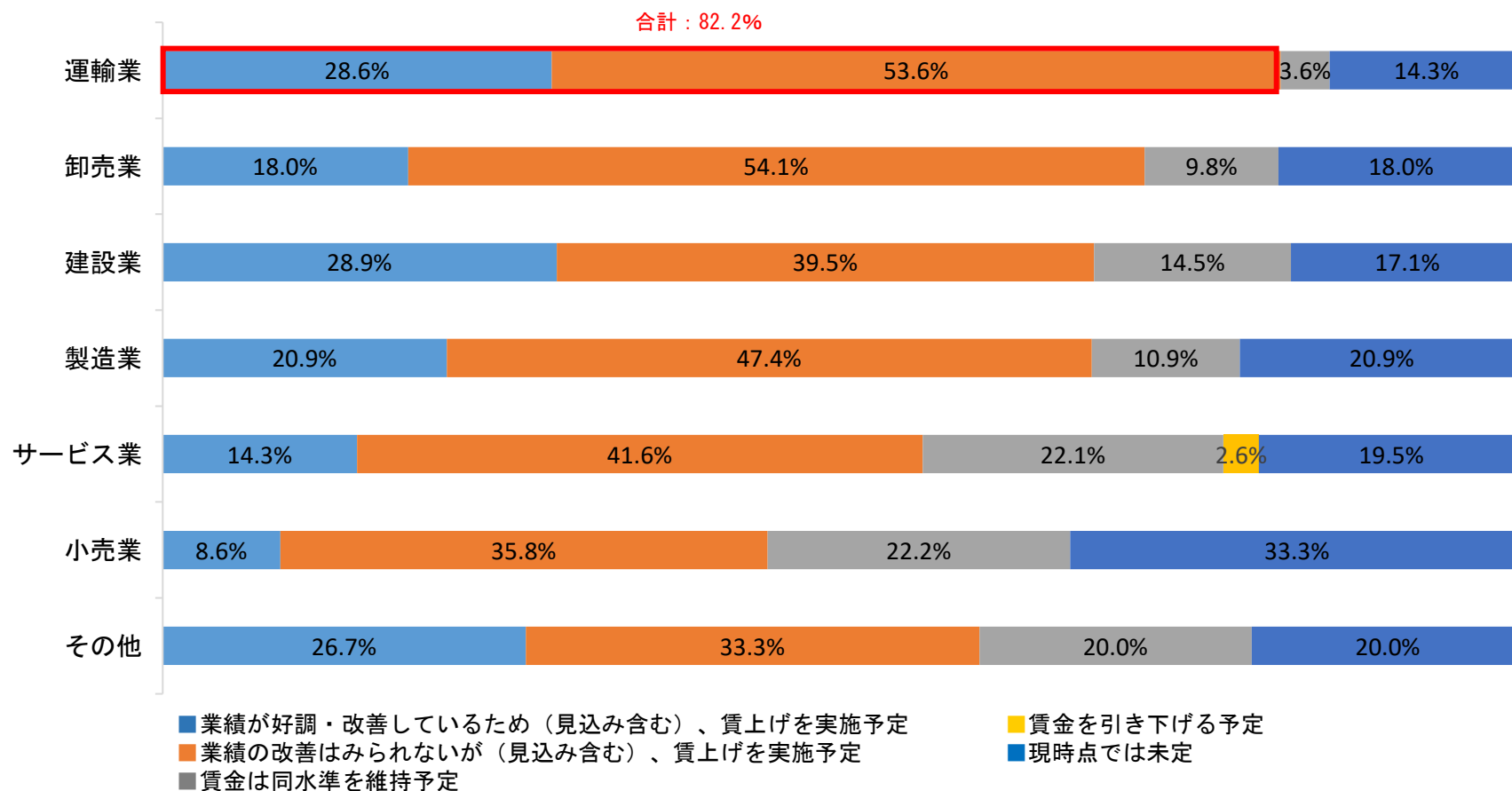


■ 前向きな賃上げ（業績が好調・改善しているため（見込み含む）、賃上げを実施予定） ■ 防衛的な賃上げ（業績の改善はみられないが（見込み含む）、賃上げを実施予定）

②正社員【業種別】

- ・「賃上げを実施予定」と回答した企業の割合は、運輸業（82.2%）が最も多く、卸売業（72.1%）が続く。

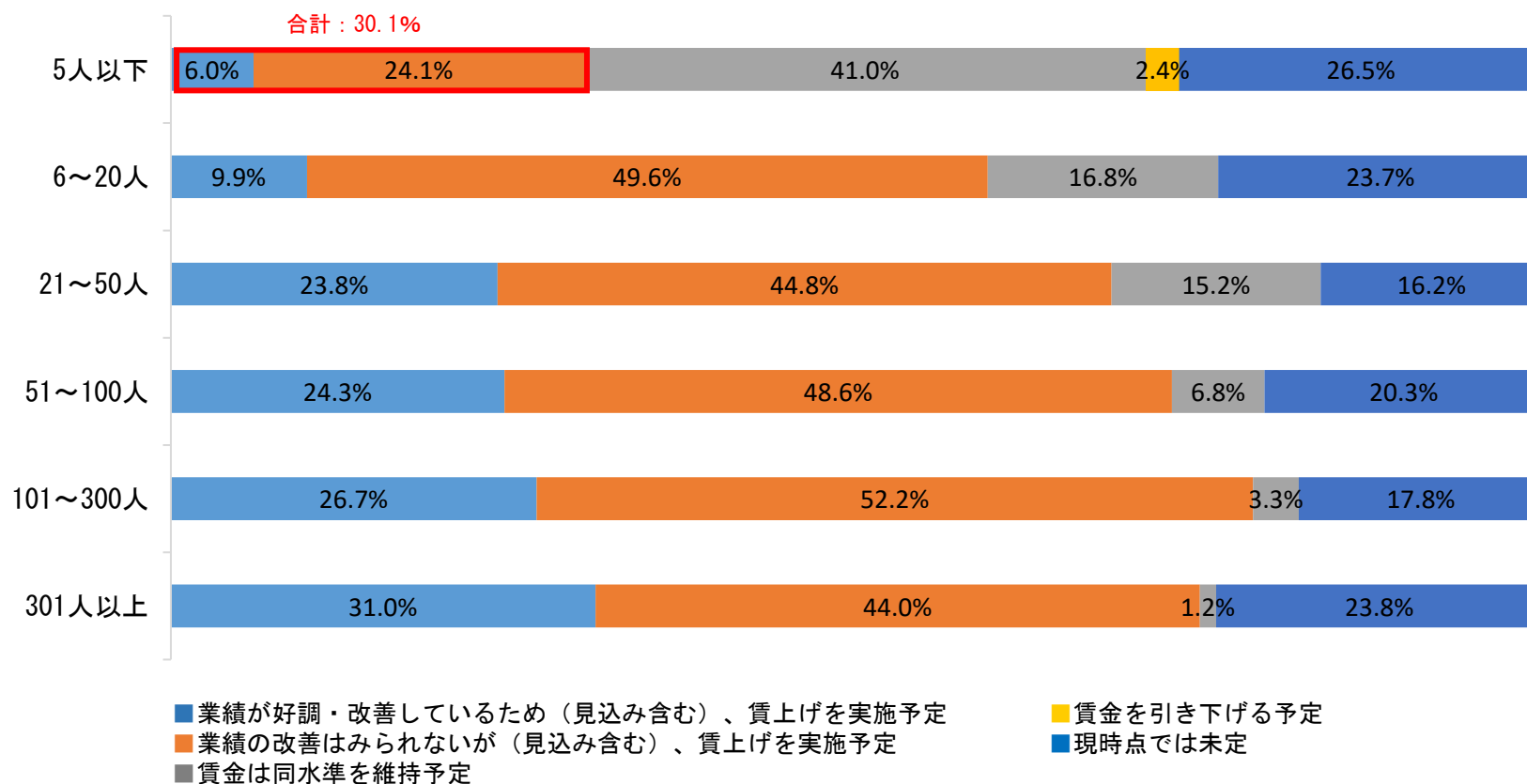
【業種別集計】 n=568 ※「無回答」除く



②正社員【従業員別】

- ・「賃上げを実施予定」と回答した企業の割合は、従業員数5人以下の企業では約3割（30.1%）にとどまり、約4割（41.0%）が現状維持を予定。

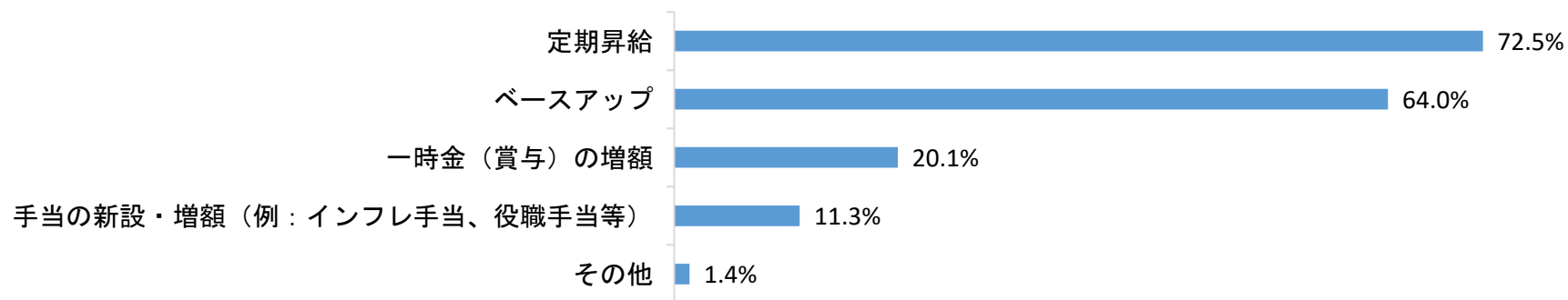
【従業員別集計】 n=567 ※「無回答」除く



①賃上げの内容 ②賃上げ率

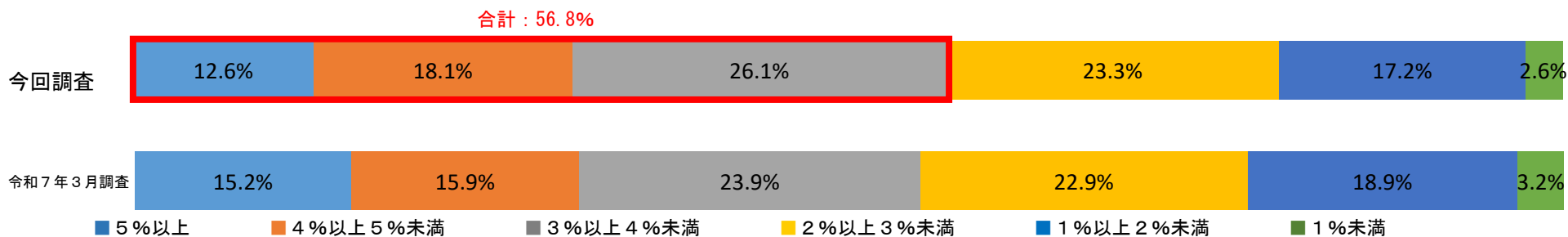
- ・ 賃上げの内容は、「定期昇給」が72.5%と最多で、「ベースアップ」（64.0%）、「一時金（賞与）の増額」（20.1%）が続く。

【複数回答】 n=364 ※10頁で「賃上げを実施予定」と回答した企業



- ・ 賃上げ率は、「3%以上4%未満」が26.1%と最多で、「2%以上3%未満」（23.3%）が続く。賃上げ率「3%以上」の企業は56.8%と前回より1.8ポイント上昇した。

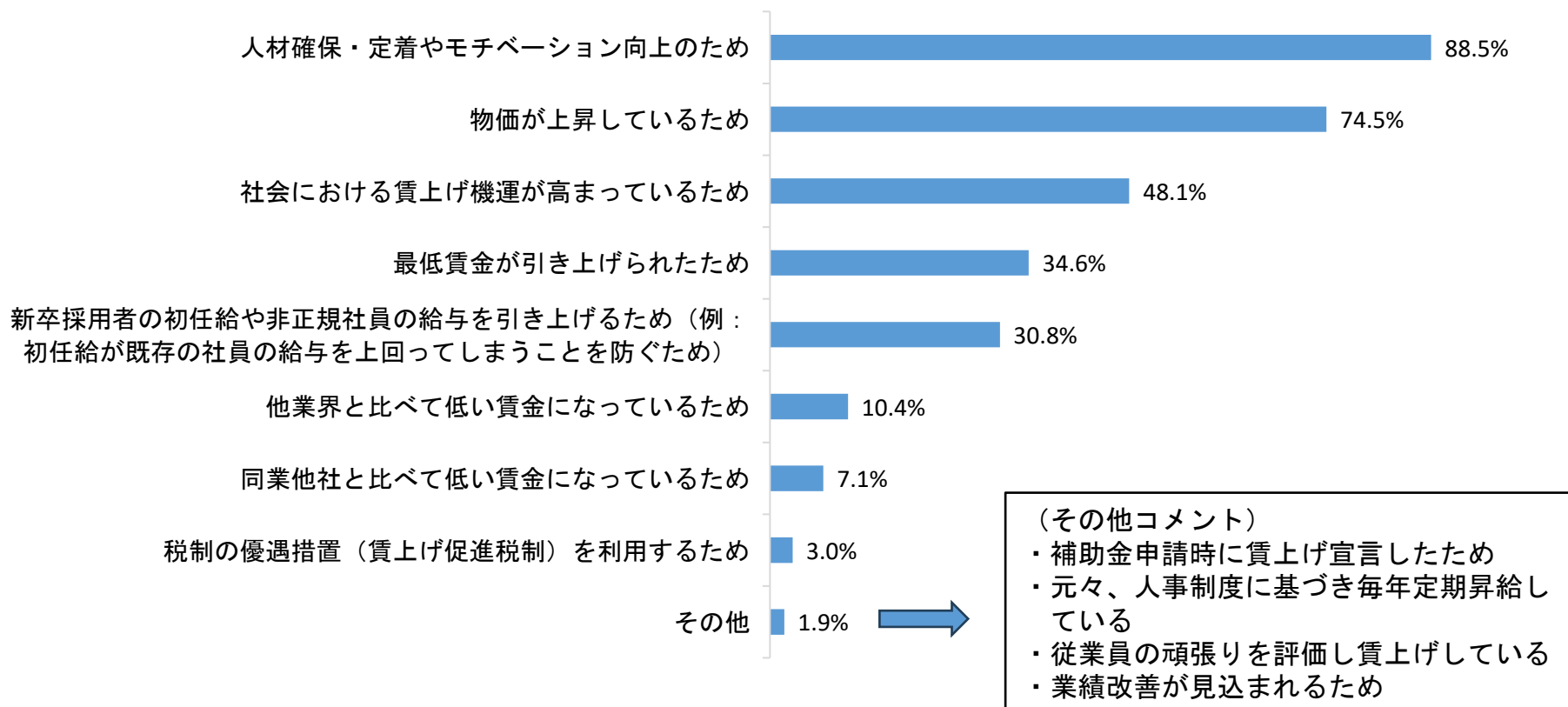
【全体集計】 n=364 ※10頁で「賃上げを実施予定」と回答した企業。「無回答」除く。



③実施予定の理由

- ・「人材確保・定着やモチベーション向上のため」が88.5%と最多で、「物価が上昇しているため」（74.5%）、「社会における賃上げ機運が高まっているため」（48.1%）、「最低賃金が引き上げられたため」（34.6%）が続く。

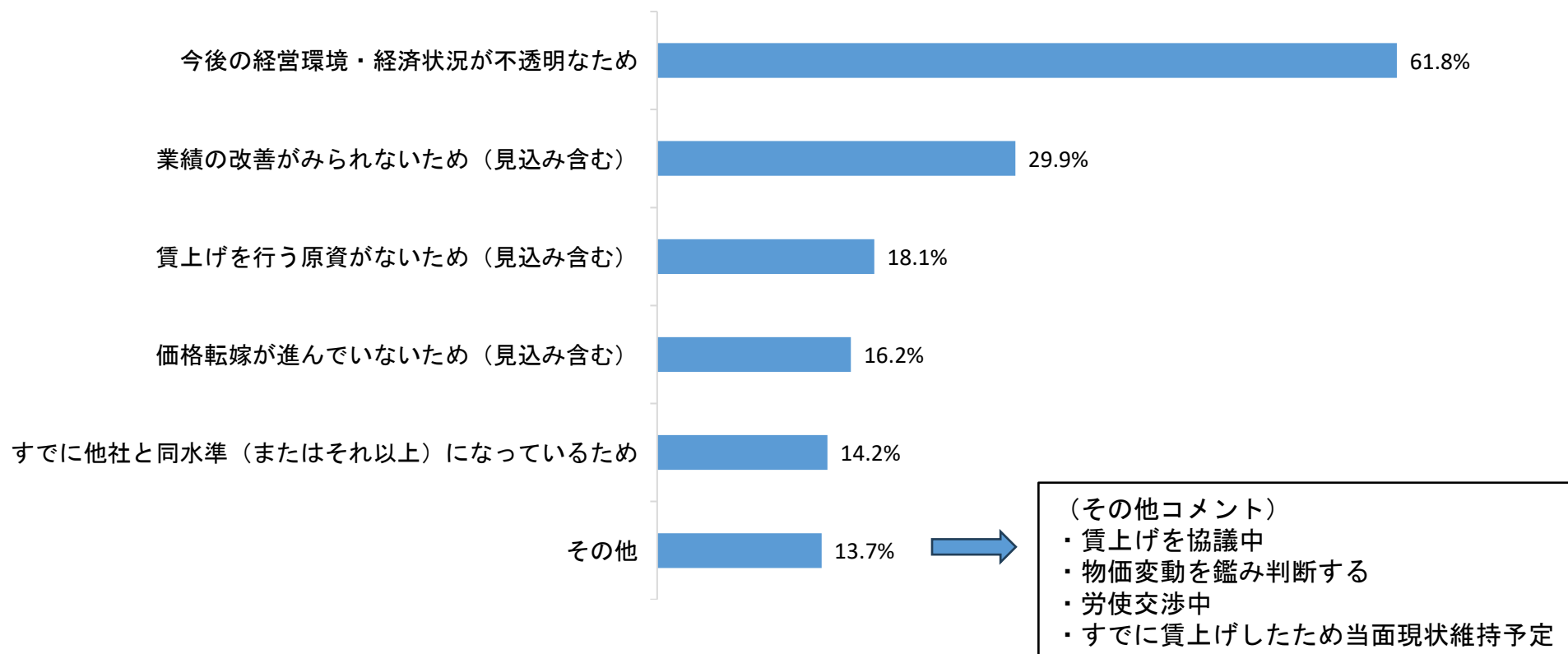
【複数回答】 n=364 ※10頁で「賃上げを実施予定」と回答した企業



④見送るまたは未定の理由

- ・「今後の経営環境・経済状況が不透明なため」が61.8%と最多で前回より4.9ポイント上昇した。「業績の改善がみられないため」（29.9%）、「賃上げを行う原資がないため」（18.1%）、「価格転嫁が進んでいないため」（16.2%）が続く。

【複数回答】 n=204 ※10頁で「賃上げを実施予定」と回答しなかった企業



調査票

広島県商工会議所連合会 中小企業等の人手不足、賃金上げに関する調査

・広島県商工会議所連合会では、現下の厳しい経済情勢の中、県内企業の人手不足、賃金上げについて
実態を把握し、国等の経済対策にかかる要望活動に活用してまいりたいと存じますので、ご多用のところ
誠に恐縮ではございますが、何卒ご理解・ご協力賜りますようお願い申し上げます。
(2026年3月1日時点でご回答ください)

◎各設問の回答につきましては、該当する番号の()に✓印をお付けください。

◎調査内容は厳重に管理し、事業所名や個別内容が特定される形で公表することは一切ございません。

業 種	() ①製造業	() ②建設業	() ③卸売業	() ④小売業
	() ⑤運輸業	() ⑥サービス業	() ⑦その他	()
※複数にまたがる場合は、主たる業種1つを選択してください				
従業員数	() ①5人以下	() ②6~20人	() ③21~50人	() ④51~100人
	() ⑤101~300人	() ⑥301人以上	()	()
※出先事業所の場合は、全社従業員数を選択してください				

I 人手不足について

設問1. 貴社における人員充足状況について、以下より1つ選択してください。

() ①不足している () ②過不足はない () ③過剰である

↓ 「①不足している」を選択した方は、設問2-(1)および(2)へお進みください。

設問2-(1) 人手不足対策として、どのような取組を実施・検討していますか。以下より選択(複数可)してください。

() ①採用活動の強化(非正規社員含む) () ⑤従業員の育成・スキルアップ
() ②労働時間・残業時間の増加 () ⑥女性・高齢者・外国人等、多様な人材の活用
() ③事業のスリム化、ムダの排除、外注の活用 () ⑦働き方改革の推進(テレワーク、副業等)
() ④デジタル・機械・ロボットの活用 () ⑧その他

「⑧その他」を選択された方は、以下にご記入ください

設問2-(2) 人手不足対策に必要な行政等の支援策として、以下より選択(複数可)してください。

() ①各種補助金・助成金等の拡充や手続きの簡素化 () ④専門家派遣(採用に向けた課題解決、
自社の魅力構築支援等)
() ②税制優遇
() ③先進事例の情報提供 () ⑤その他

「⑤その他」を選択された方は、以下にご記入ください

II 賃上げについて

設問3. 貴社の非正規社員における2026年度(2026年4月~2027年3月)の賃上げの予定について、以下より1つ選択してください。

※非正規社員の賃上げとは時給・月給アップ、手当の新設・増額、一時金の増額を指します。

() ①業績が好調・改善しているため(見込み含む)、賃上げを実施予定 () ④賃金を引き下げる予定
() ②業績の改善はみられないが(見込み含む)、賃上げを実施予定 () ⑤現時点では未定
() ③賃金は同水準を維持予定 () ⑥非正規社員はいない

設問4. 貴社の正社員における2026年度(2026年4月~2027年3月)の賃上げの予定について、以下より1つ選択してください。

※正社員の賃上げとは定期昇給、ベースアップ、一時金(賞与)の増額、手当の新設・増額を指します。

() ①業績が好調・改善しているため(見込み含む)、賃上げを実施予定 () ④賃金を引き下げる予定
() ②業績の改善はみられないが(見込み含む)、賃上げを実施予定 () ⑤現時点では未定
() ③賃金は同水準を維持予定

「①」または「②」を選択された方は、設問5-(1)~(3)へお進みください。

「③」~「⑤」のいずれかを選択された方は、設問6へお進みください。

設問5-(1) 正社員の賃上げの内容について、以下より選択(複数可)してください。

() ①定期昇給 () ④手当の新設・増額(例:インフレ手当、後職手当等)
() ②ベースアップ () ⑤その他
() ③一時金(賞与)の増額

※定期昇給とは「年齢や勤続年数に応じて賃金を一定額増やす」こと、ベースアップとは「基本給を直上上げる(賃金水準を引き上げる)」ことを指します。

設問5-(2) 正社員の賃上げ率の状況(定期昇給、ベースアップ、一時金(賞与)、手当など。概算で可)について、以下より1つ選択してください。

() ①1%未満 () ④3%以上4%未満
() ②1%以上2%未満 () ⑤4%以上5%未満
() ③2%以上3%未満 () ⑥5%以上

設問5-(3) 正社員の賃上げの実施予定の理由について、以下より選択(5つまで可)してください。

() ①人材確保・定着やモチベーション向上のため
() ②物価が上昇しているため
() ③社会における賃上げ機運が高まっているため
() ④最低賃金が引き上げられたため
() ⑤新卒採用者の初任給や非正規社員の給与を引き上げるため(例:初任給が現在の給与を上回ってしまうことを防ぐため)
() ⑥同業他社と比べて低い賃金になっているため
() ⑦他業界と比べて低い賃金になっているため
() ⑧税制の優遇措置(賃上げ促進税制)を利用するため
() ⑨その他

「⑨その他」を選択された方は、以下にご記入ください

設問6. 正社員の賃上げを見送るまたは未定とする理由について、以下より選択(3つまで可)してください。

() ①今後の経営環境・経済状況が不透明なため () ④価格転嫁が進んでいないため(見込み含む)
() ②業績の改善がみられないため(見込み含む) () ⑤すでに他社と同水準(またはそれ以上)になっているため
() ③賃上げを行う原資がないため(見込み含む) () ⑥その他

「⑥その他」を選択された方は、以下にご記入ください

~ご協力ありがとうございました~

【事務局】**広島県商工会議所連合会****（広島商工会議所 業務推進部広報情報課）****〒730－8510 広島県広島市中区基町5－44****TEL 082－222－6651****FAX 082－222－6411**

先行き懸念が広がる26年度の企業経営

～2026年度上期 経営者アンケート調査結果より～

2026年6月

株式会社ひろぎんホールディングス
経済産業調査部

【調査概要】

- 対象企業：広島銀行のお取引先企業のうち広島県内企業1,945社（県外企業の出先を含む）
- 調査時期：2026年4月初旬～中旬
- 調査方法：調査票を郵送し、WEBまたは郵送により回収
- 有効回答企業：638社（製造業 172社、非製造業 466社）、有効回答率… 32.8%
- 本調査の留意点：今回調査において調査対象企業の見直しを実施。回答企業のうち資本金5千万円未満が約8割を占めており、中小企業主体の結果である点には留意が必要

品質向上のためアンケートにご協力ください。



PCの方は[こちらをクリック](#)

※ ナインアウト株式会社が提供するアンケートサイトへ遷移します。

【調査結果のポイント】

企業経営の状況と先行き

- ・ 最近の「自社の経営状況」DIは▲10.7%ポイントと前回調査（▲5.6%ポイント）から低下。6ヵ月程度前は▲21.3%ポイントと大幅な悪化見込。
- ・ 米国関税政策の影響は全体として限定的。「イラン情勢の緊迫化」および「物価上昇」を懸念する企業は6割超。

26年度の賃上げの状況

- ・ 26年度の正社員の賃上げは、4分の3を超える企業が「前年度と同程度以上」の賃上げを決定または検討中。
- ・ 賃上げ機運は全体として維持されているが、防衛的賃上げも相当数。「イラン情勢緊迫化」等を背景とした業績の下押しと賃上げへの影響が懸念。

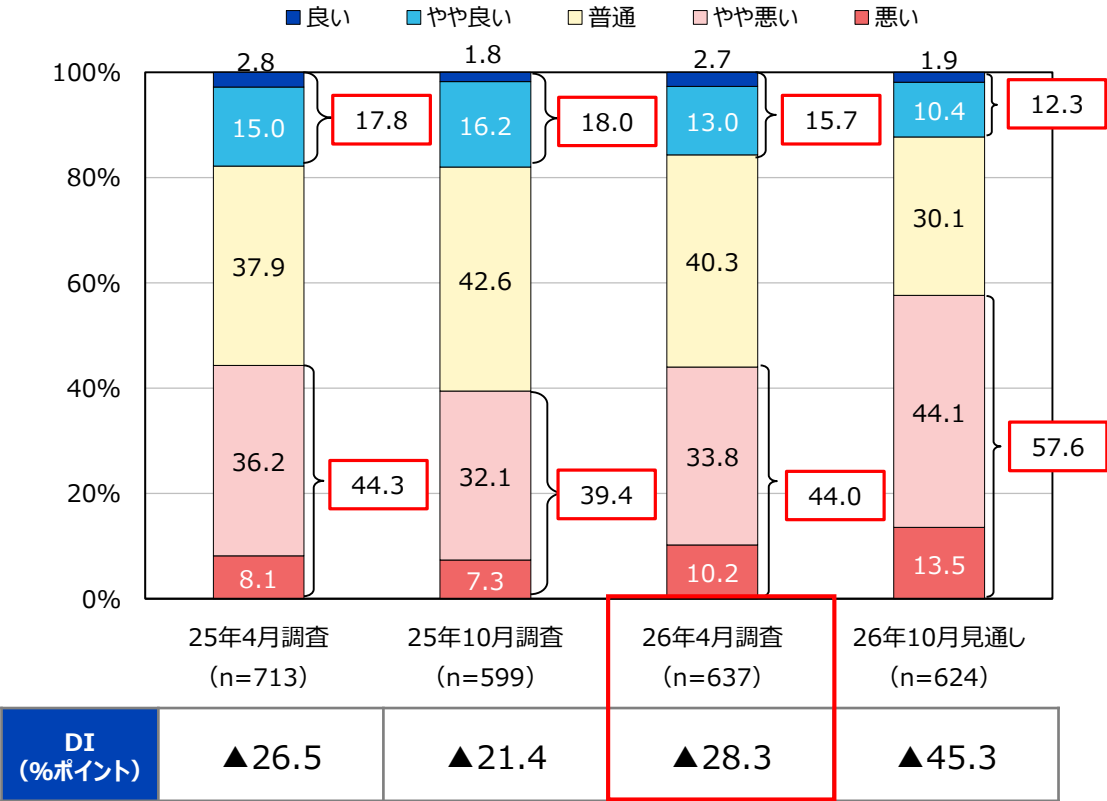
価格転嫁と労働時間規制の緩和

- ・ 25年度に価格転嫁を「行った」企業は約6割。うち、コスト等のカバー率が「8割」に届かない企業は半数超。
- ・ 労働時間規制の緩和について、約7割の企業が肯定的。賛成理由は「働きたい従業員の意欲と収入向上」が半数以上。

■ 最近の「景気認識」は、「良い」と「やや良い」を合わせた割合が15.7%、「悪い」と「やや悪い」を合わせた割合が44.0%で、DI（※）は▲28.3%ポイントと、前回25年10月調査（▲21.4%ポイント）から低下した（図表1）。6ヵ月程度先のDIは▲45.3%ポイント（現状比▲17.0ポイント）と大幅な悪化を見込んでいる（図表2）。

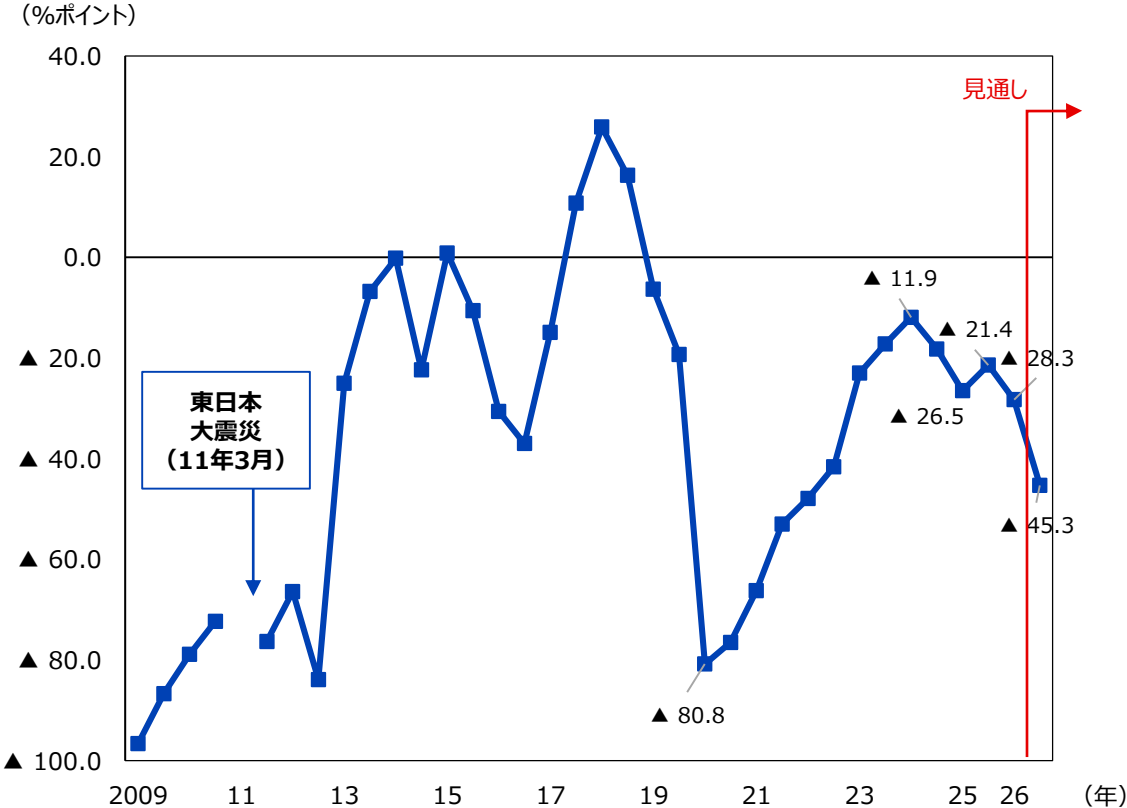
（※）DI（Diffusion Index）＝「良い＋やや良い」企業割合－「悪い＋やや悪い」企業割合（%ポイント）

図表1 最近の景気認識（社数構成比とDI）



（注）今回26年4月調査において調査対象企業を見直したことにより、前回25年10月調査以前とは厳密には連続していない（以下同様）

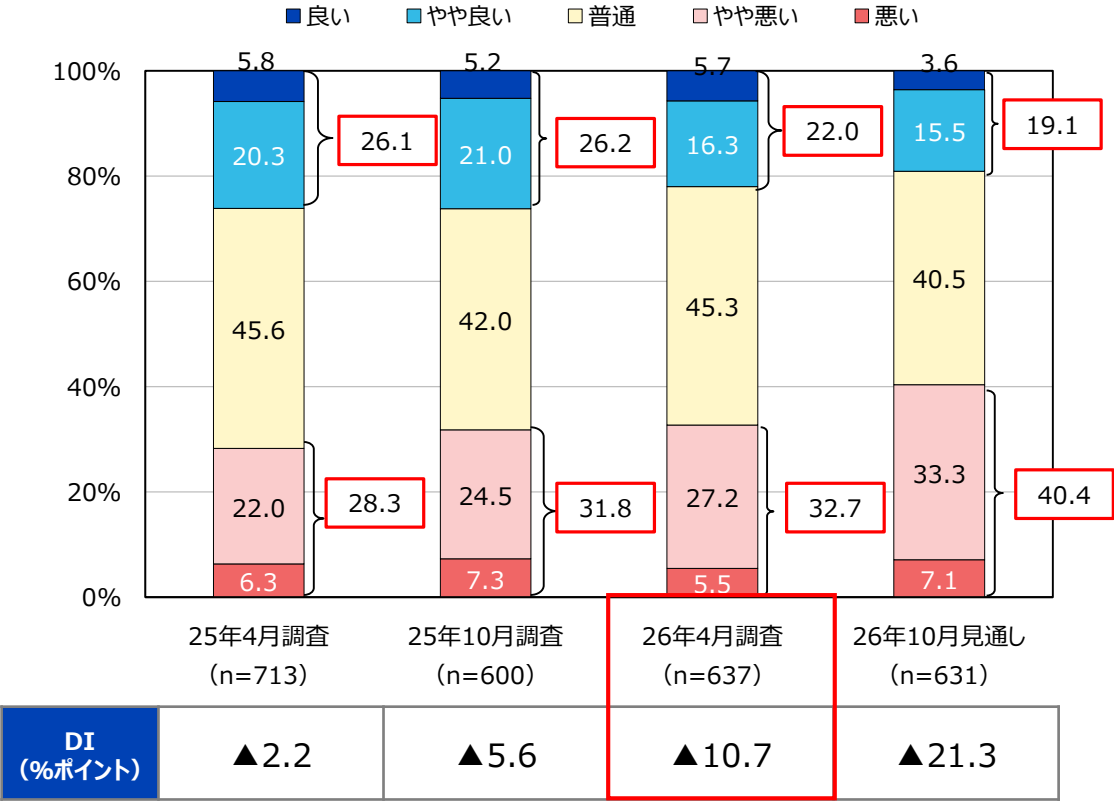
図表2 景気認識DIの推移



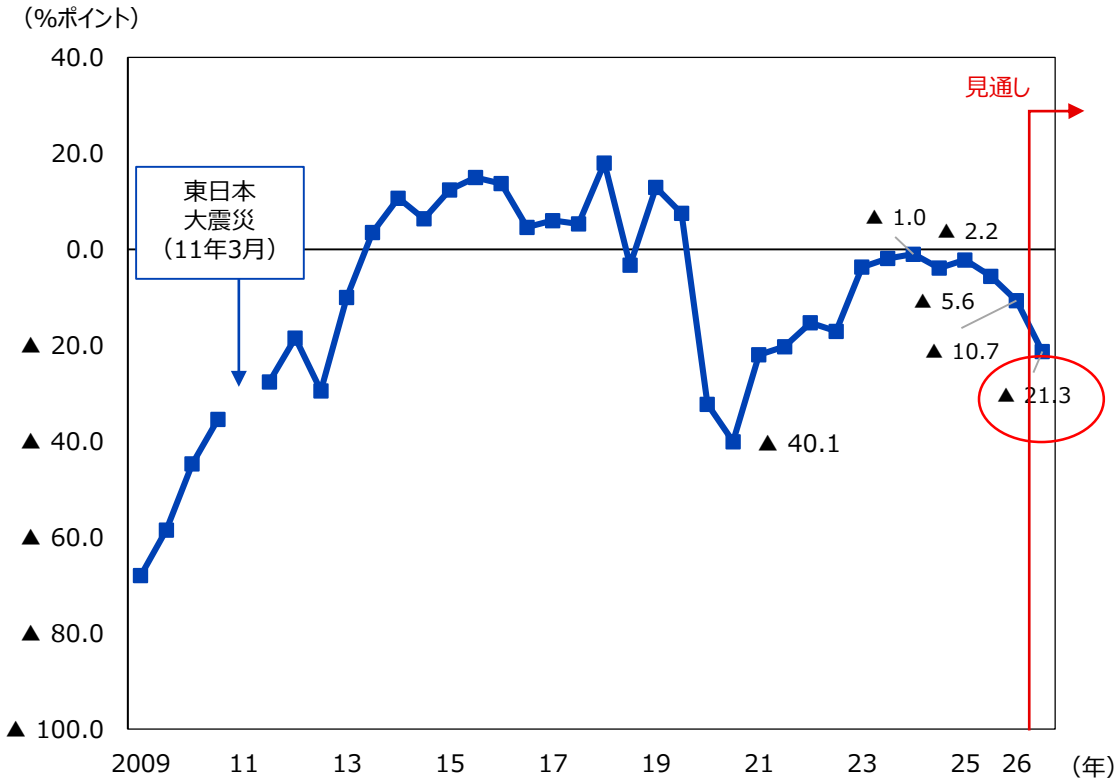
（注）例年4月・10月の2回調査を実施、ただし、東日本大震災発生直後の11年4月は調査未実施（以下同様）

■ 最近の「自社の経営状況」は、「良い」と「やや良い」を合わせた割合が22.0%、「悪い」と「やや悪い」を合わせた割合が32.7%で、DIは▲10.7%ポイントと前回調査（▲5.6%ポイント）から低下した（図表3）。6ヵ月程度先のDIは▲21.3%ポイント（現状比▲10.6ポイント）と、景気認識DI同様に一段のマイナス幅の拡大を見込んでいる（図表4）。

図表3 最近の自社の経営状況（社数構成比とDI）



図表4 自社の経営状況DIの推移



- 製造業のDIは▲13.8%ポイント（前回調査比+2.4ポイント）と僅かに改善。受注環境良好な造船関連は+40.0%ポイント（同+6.7ポイント）と高い水準を維持しているが、自動車関連（同▲4.9ポイント）をはじめとして、持ち直しの動きは鈍い（図表5）。
- 一方、非製造業のDIは▲9.5%ポイント（前回調査比▲10.3ポイント）と大きく低下。卸売（同▲18.4ポイント）、小売（同▲11.0ポイント）、旅客（同▲30.0ポイント）、陸運（同▲18.6ポイント）などでは2桁のマイナスとなった（図表6）。
- 6ヵ月程度先は、製造業（現状比▲15.5ポイント）、非製造業（同▲8.7ポイント）ともにマイナス幅が一段と拡大する見込みである。

図表5 最近の自社の経営状況DI（製造業）

(社、%ポイント、ポイント)

	25年10月		26年4月			26年10月見通し		
	n	D I	n	D I	25年10月比	n	D I	26年4月比
製造業計	228	▲ 16.2	172	▲ 13.8	+2.4	171	▲ 29.3	▲ 15.5
食料品	44	▲ 22.8	30	▲ 29.9	▲ 7.1	30	▲ 20.1	+9.8
繊維・衣服	12	▲ 16.6	6	0.0	+16.6	6	▲ 16.7	▲ 16.7
木材・家具	15	▲ 46.7	10	▲ 30.0	+16.7	10	▲ 70.0	▲ 40.0
鉄鋼・金属	30	▲ 6.6	25	▲ 24.0	▲ 17.4	25	▲ 32.0	▲ 8.0
一般機械	20	5.0	14	0.0	▲ 5.0	14	▲ 28.6	▲ 28.6
自動車関連	31	▲ 25.9	13	▲ 30.8	▲ 4.9	13	▲ 38.4	▲ 7.6
造船関連	9	33.3	5	40.0	+6.7	5	20.0	▲ 20.0
その他製造業	67	▲ 17.9	69	▲ 5.8	+12.1	68	▲ 29.4	▲ 23.6

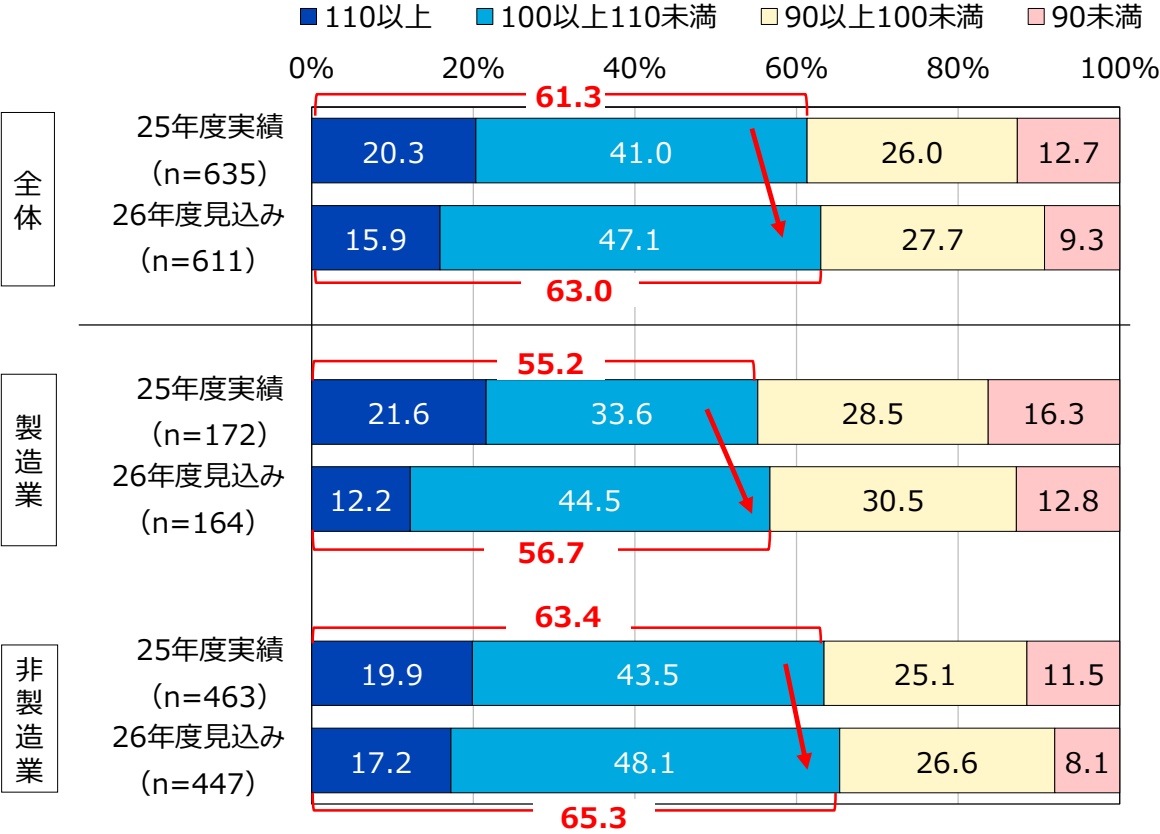
図表6 最近の自社の経営状況DI（非製造業）

(社、%ポイント、ポイント)

	25年10月		26年4月			26年10月見通し		
	n	D I	n	D I	25年10月比	n	D I	26年4月比
非製造業計	372	0.8	465	▲ 9.5	▲ 10.3	460	▲ 18.2	▲ 8.7
建設	93	11.9	88	3.4	▲ 8.5	88	▲ 14.8	▲ 18.2
卸売	80	▲ 1.2	87	▲ 19.6	▲ 18.4	85	▲ 33.0	▲ 13.4
小売	44	▲ 13.6	69	▲ 24.6	▲ 11.0	67	▲ 31.4	▲ 6.8
運輸・倉庫	36	▲ 8.3	30	▲ 16.7	▲ 8.4	29	▲ 34.5	▲ 17.8
うち海運	7	28.5	9	33.4	+4.9	8	37.5	+4.1
うち陸運	24	▲ 16.7	17	▲ 35.3	▲ 18.6	17	▲ 53.0	▲ 17.7
うち旅客	5	▲ 20.0	4	▲ 50.0	▲ 30.0	4	▲ 100.0	▲ 50.0
情報関連サービス	15	13.3	20	15.0	+1.7	20	0.0	▲ 15.0
医療・介護	16	▲ 56.3	43	▲ 44.1	+12.2	43	▲ 39.5	+4.6
不動産	28	10.6	41	19.5	+8.9	41	14.6	▲ 4.9
宿泊・飲食	10	30.0	5	20.0	▲ 10.0	5	▲ 20.0	▲ 40.0
その他非製造業	50	6.0	82	▲ 1.2	▲ 7.2	82	0.1	+1.3

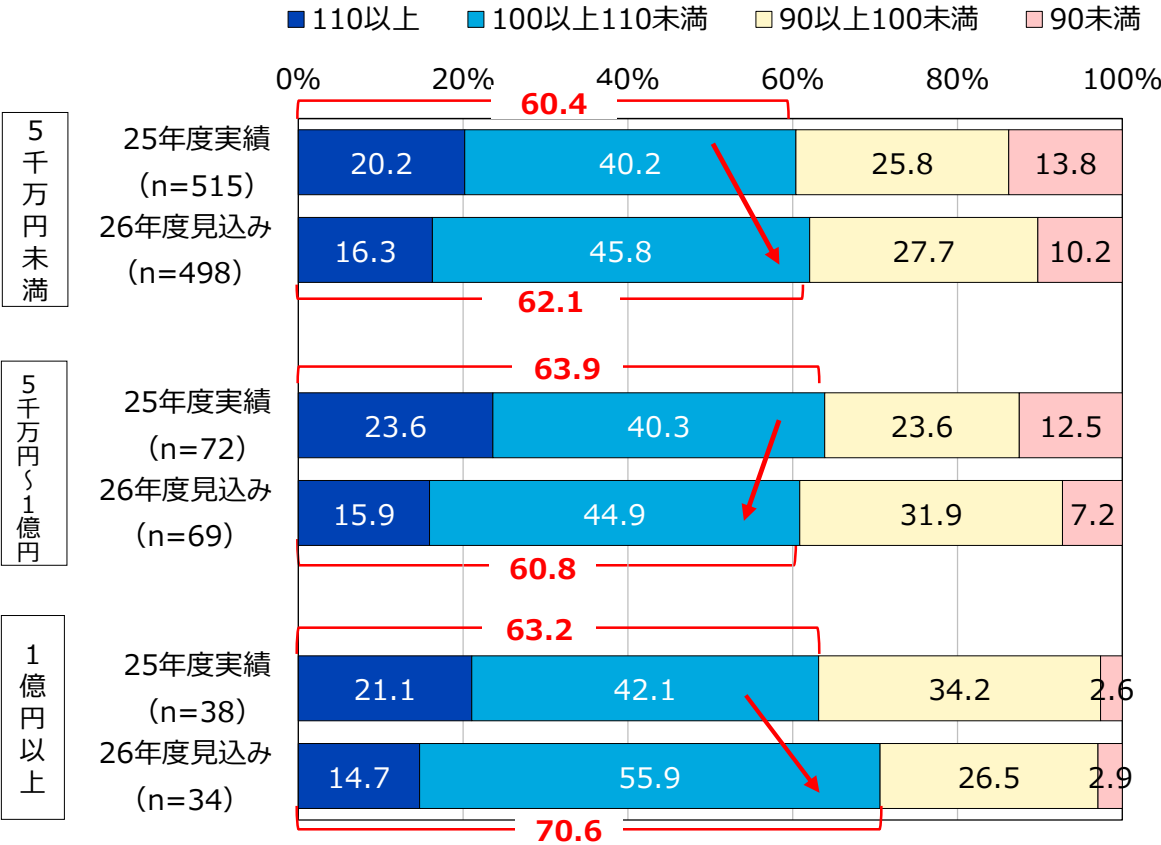
- 25年度の売上高は、「増収」企業の割合が61.3%、うち製造業で55.2%、非製造業で63.4%を占め、資本金別では、全ての規模で「増収」企業が6割を超えている（図表7・8）。
- 26年度についても、物価上昇と価格転嫁の動きが続く中で、「増収」を見込む企業（63.0%）は6割超を占めている。

図表7 売上高の業績別社数構成比
(全体、製造業・非製造業別)



(注) 前年度 = 100とした、当該年度の売上高

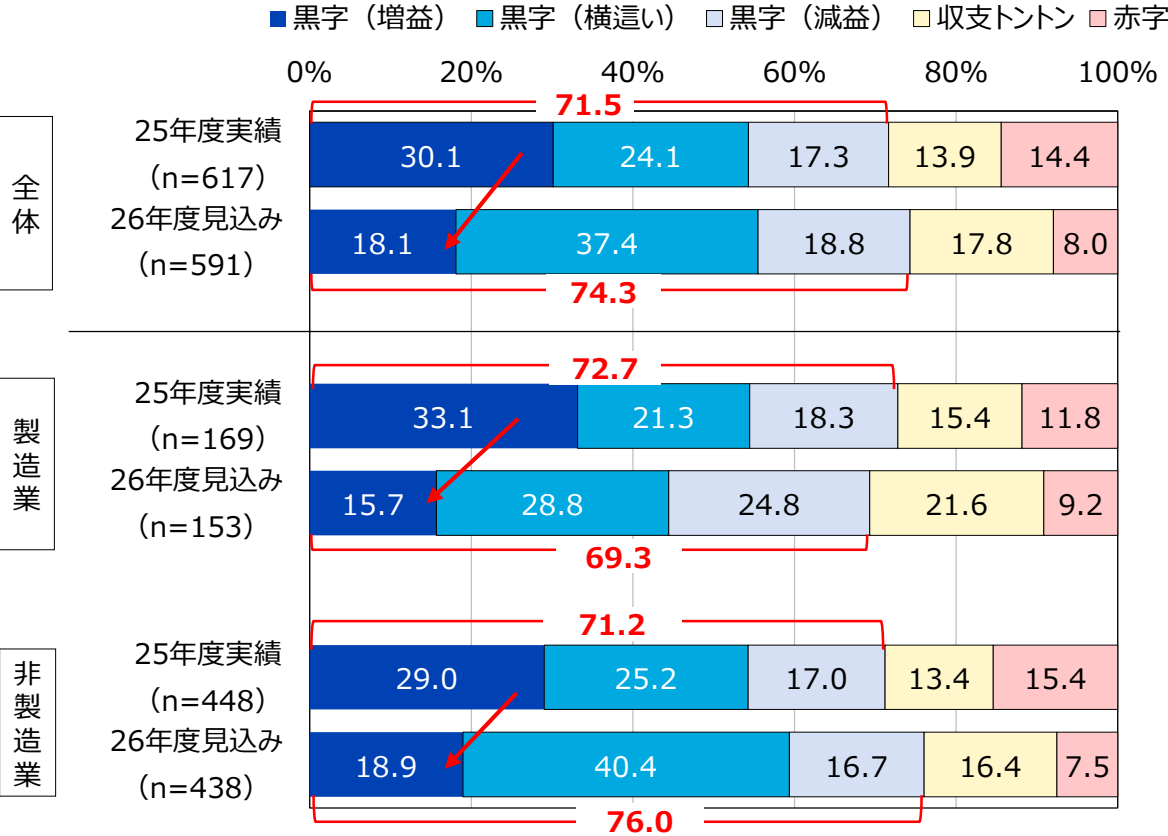
図表8 売上高の業績別社数構成比
(資本金規模別)



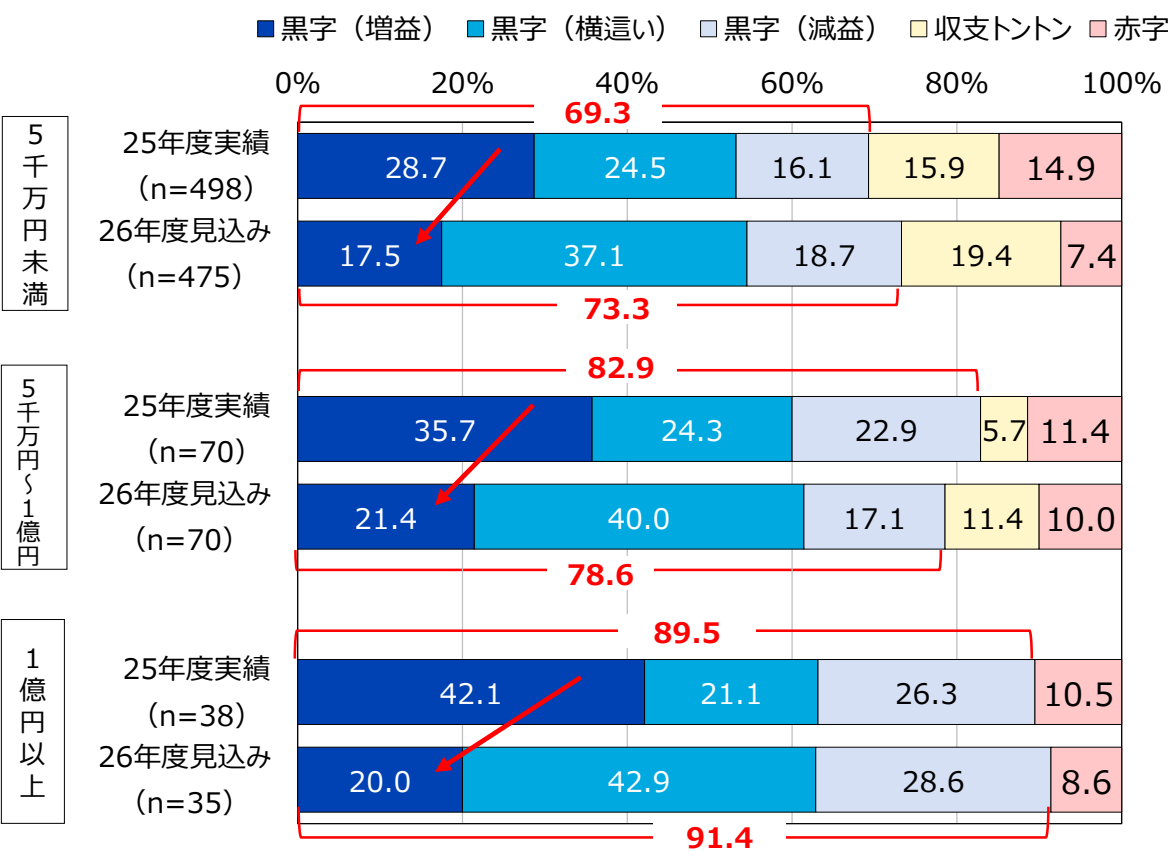
(注) 前年度 = 100とした、当該年度の売上高

- 25年度の経常損益は、「黒字」企業が71.5%、うち「増益」企業が30.1%を占めた（図表9）。
- 26年度は、「黒字」企業の割合が74.3%に上昇するものの、「増益」企業は18.1%と大きく低下。製造業・非製造業別、資本金規模別でみても2桁ポイント以上の減少を見込んでおり（図表9・10）、中東情勢の緊張が続く中で、業績の不透明感が増している。

図表9 経常損益の業績別社数構成比
（全体、製造業・非製造業別）

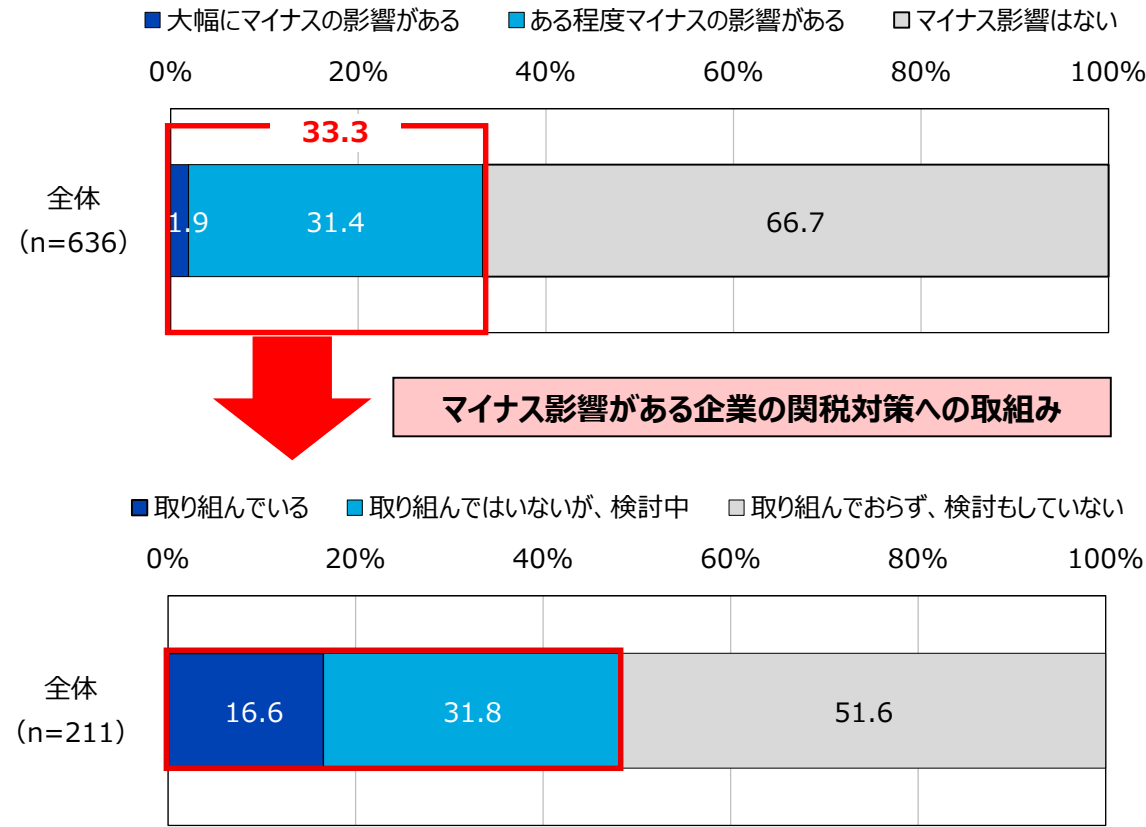


図表10 経常損益の業績別社数構成比
（資本金規模別）

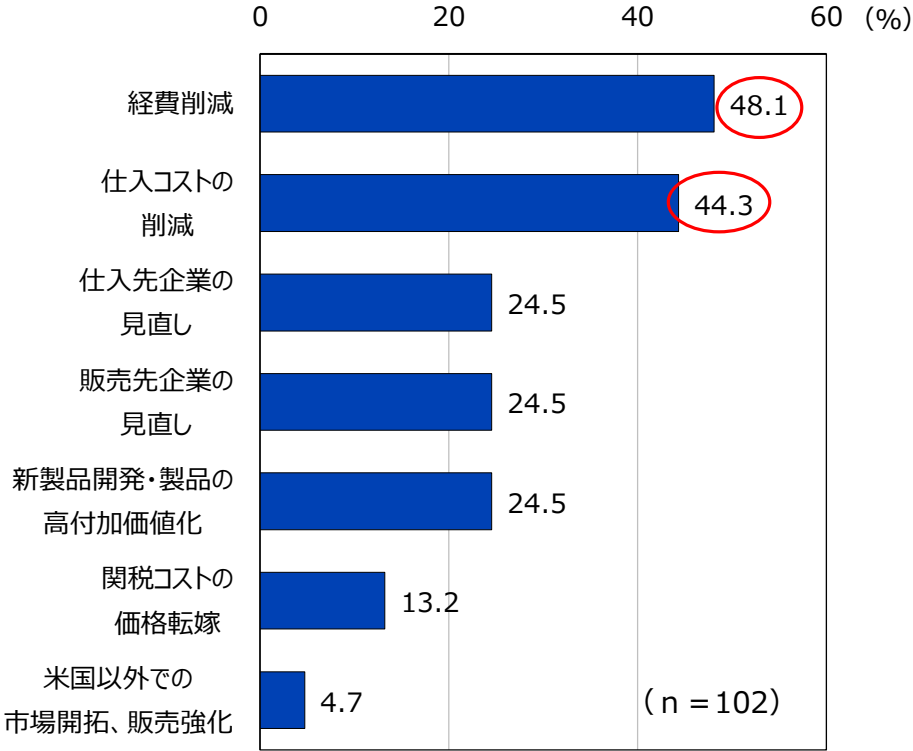


- 米国の関税政策の2025年度業績への影響は、約3分の1の企業が「マイナス影響がある」と回答した。ただし、「大幅なマイナス影響」とする企業は2%弱にとどまっており、現状では関税影響は全体としては限定的であったと考えられる（図表11）。
- なお、「マイナス影響がある」企業のうち、具体的な関税対策に取り組んでいる企業は6分の1にとどまっている。また、検討中の企業を含めた対応内容としては、「経費削減」（48.1%）や「仕入コストの削減」（44.3%）などが上位を占めている（図表12）。

図表11 米関税政策の25年度業績への影響と対応状況



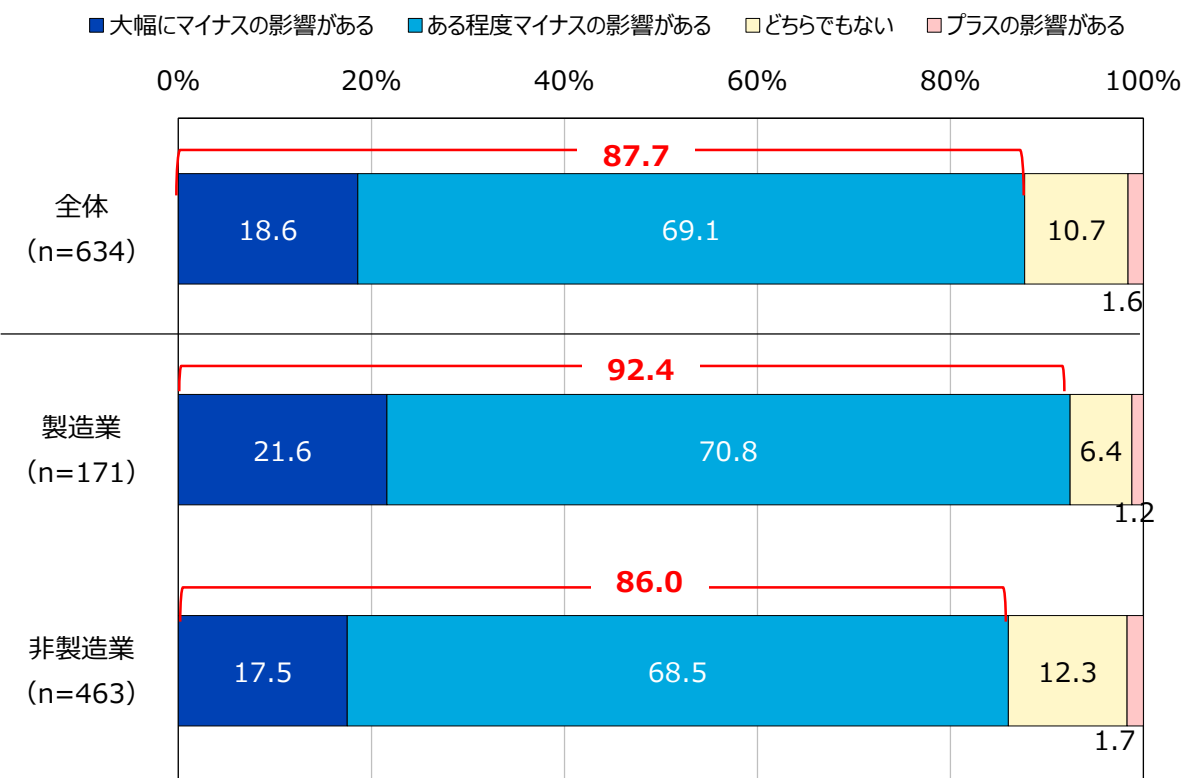
図表12 米関税政策への対応内容（上位7項目）



(注1) 業績にマイナス影響があり、具体的な対策に取り組んでいる、または対策を検討中の企業
(注2) 複数回答（主なもの3項目まで）

- 一方、原材料費・燃料費などのコストや人件費・労務費などの上昇が25年度の業績に与えた影響については、「マイナスの影響がある」とした企業は9割近くに達し、「大幅なマイナス影響」とする企業も約2割を占めた（図表13）。
- 参考までに、「大幅なマイナス影響」とする企業は、製造業では鉄鋼・金属（32.0%）や食料品（30.0%）など、非製造業では陸運（52.9%）や医療・介護（27.9%）などが上位となっている（図表14）。

図表13 原燃料費、人件・労務費等の25年度業績への影響

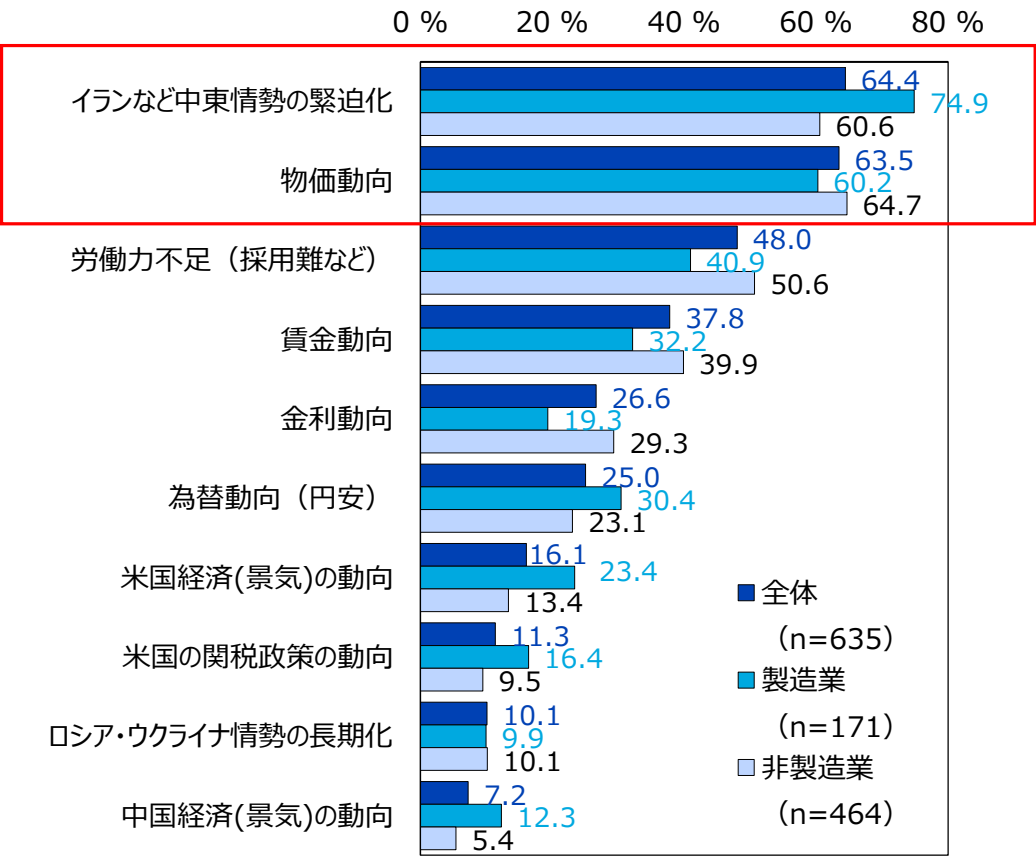


図表14 「大幅なマイナスの影響」の企業割合
(製造業・非製造業別・上位5業種)

	製造業	非製造業
1位	鉄鋼・金属 32.0% (n=25)	陸運 52.9% (n=17)
2位	食料品 30.0% (n=30)	医療・介護 27.9% (n=43)
3位	木材・家具 20.0% (n=10)	旅客 25.0% (n=4)
4位	繊維・衣服 16.7% (n=6)	海運 22.2% (n=9)
5位	自動車関連 15.4% (n=13)	小売 / 宿泊・飲食 20.0% (n=70 / n=5)

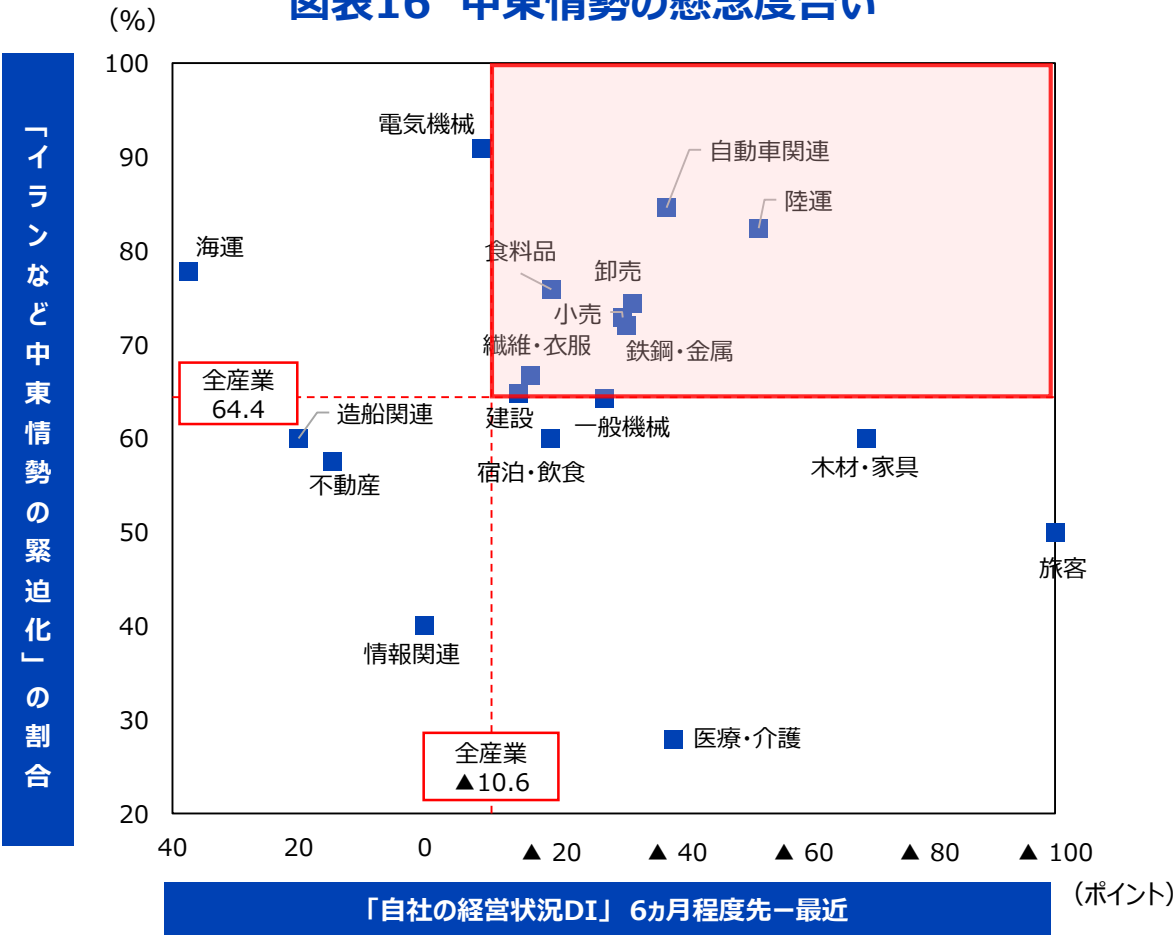
- 26年度の経営を取り巻く懸念材料としては、「イランなど中東情勢の緊迫化」（64.4%）および「物価動向」（63.5%）を挙げる割合がともに6割超に達し、「労働力不足」（48.0%）、賃金動向（37.8%）などが続いている（図表15）。
- ちなみに、図表16は、縦軸に懸念材料として「イランなど中東情勢の緊迫化」を挙げた割合、横軸に6ヵ月程度先の「自社の経営状況DI」の現状からの変化幅をとり、業種別にプロットしたものである。とくに、製造業では自動車関連や食料品、鉄鋼・金属など、非製造業では陸運、卸売、小売などで、中東情勢の緊迫化が原燃料価格などのコスト上昇や供給制約等を通じて、自社に及ぼす影響を懸念していることが窺える。

図表15 経営を取り巻く懸念材料（上位10項目）

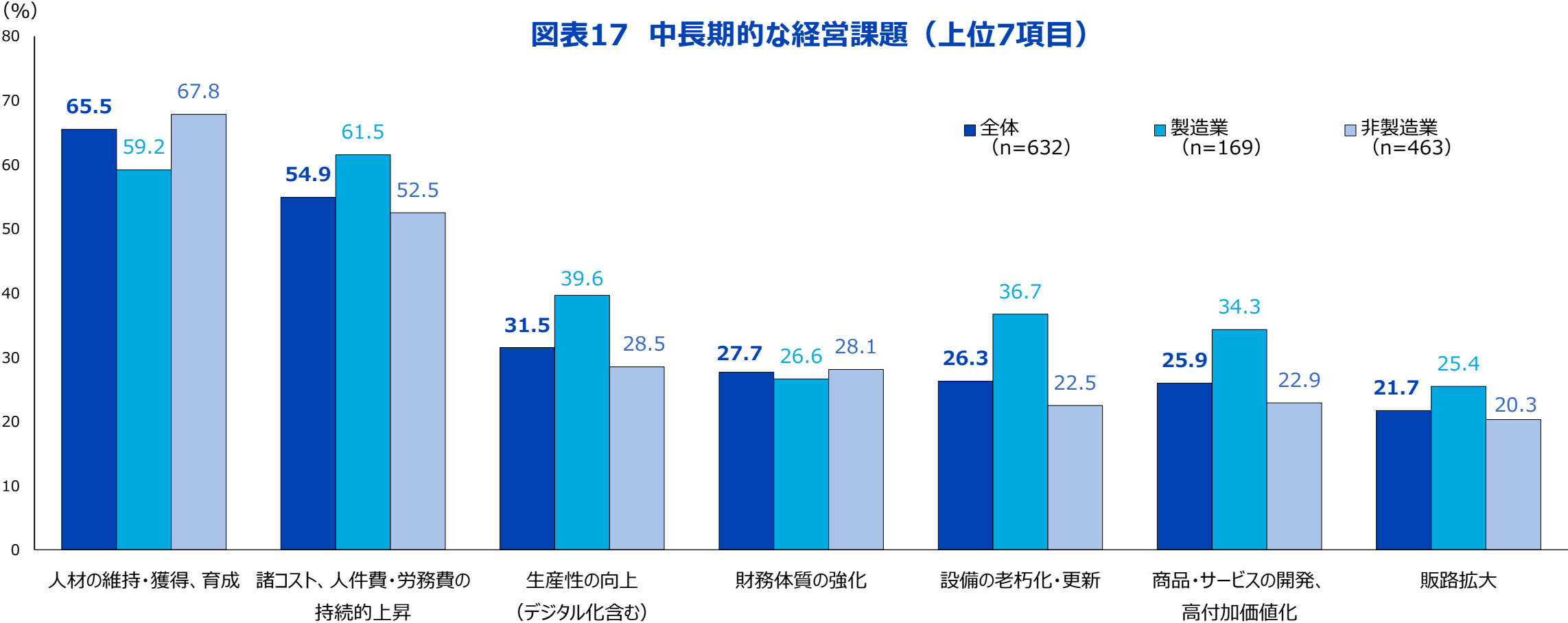


(注) 複数回答（主なもの4項目まで）

図表16 中東情勢の懸念度合い



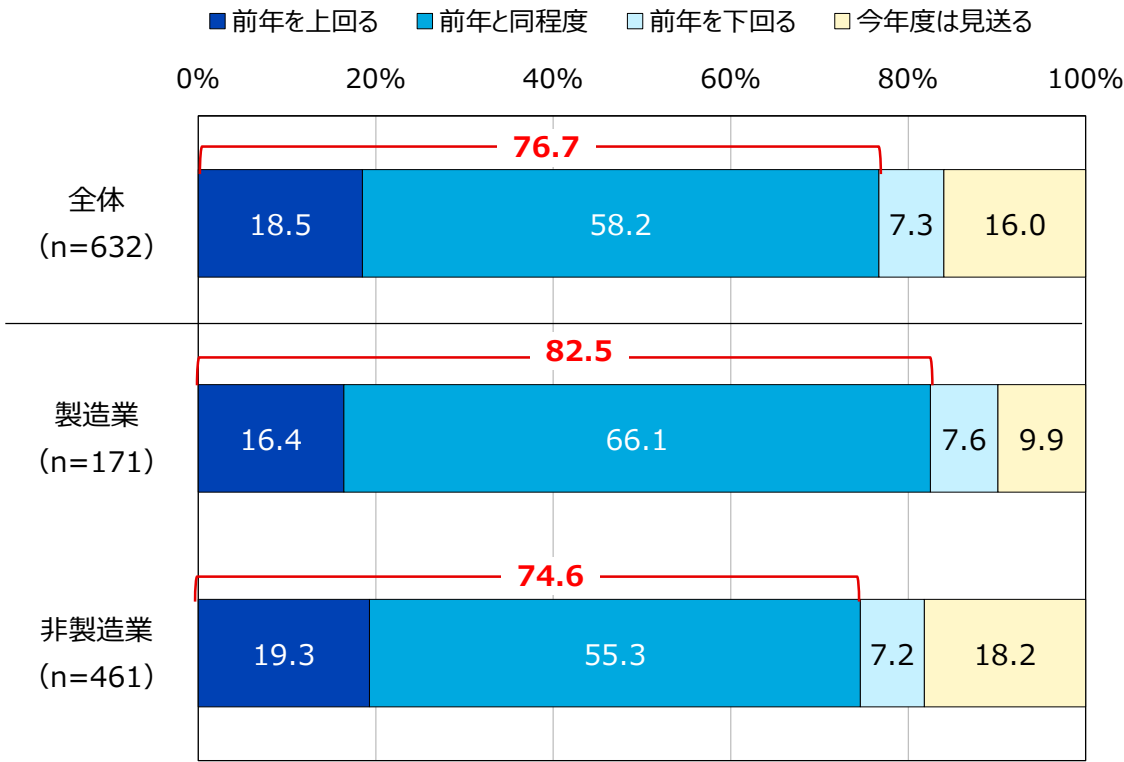
- なお、中長期的な経営課題としては、「人材の維持・獲得、育成」(65.5%)を挙げる企業が半数以上を占めて最も多く、次いで、「(原材料費や燃料費・物流費等の) 諸コスト、人件費・労務費の持続的上昇」(54.9%)、「生産性の向上」(31.5%)などと続いている(図表17)。
- このうち、製造業は「諸コスト、人件費・労務費の持続的上昇」のほか、「生産性の向上」や「設備の老朽化・更新」、非製造業では「人材の維持・獲得、育成」を挙げる割合が相対的に高い。



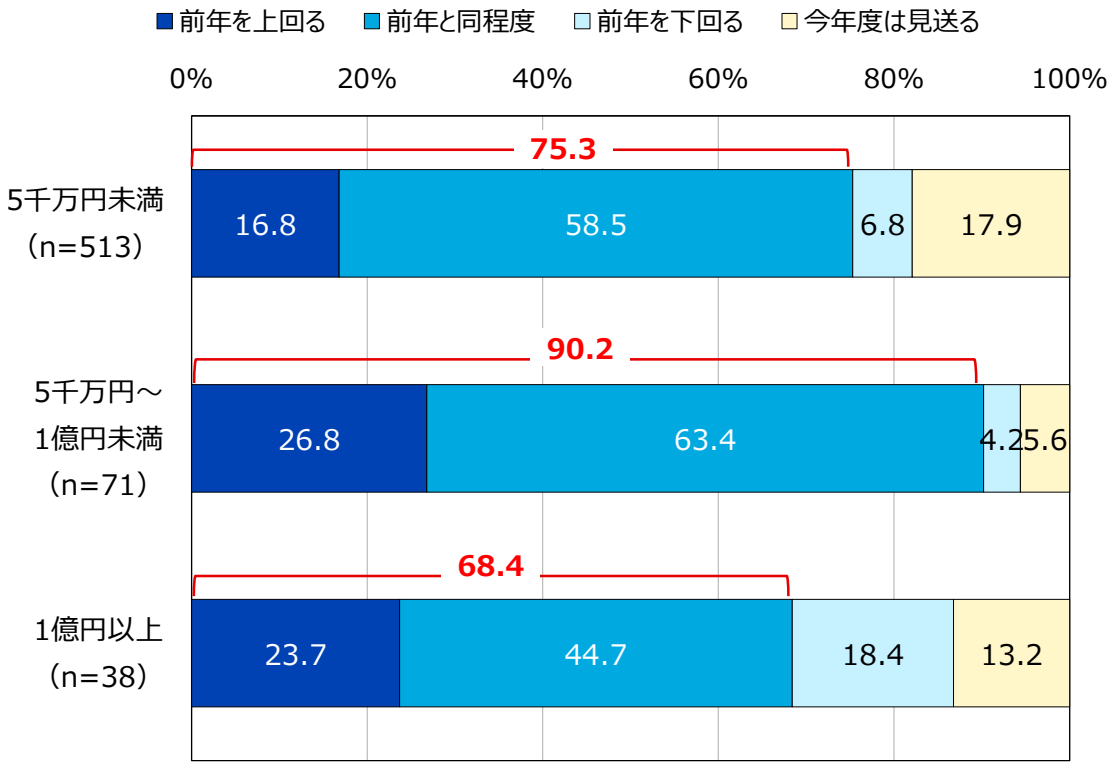
(注) 複数回答（主なもの4項目まで）

- 26年度の正社員の賃上げについて、「前年を上回る」とする企業が18.5%、「前年と同程度」とする企業が58.2%、合わせて4分の3を超える企業が「前年と同程度以上」の賃上げを決定あるいは検討中である（図表18）。
- 「前年と同程度以上の」の賃上げを行う企業は、資本金5千万円未満で約4分の3、5千万円～1億円未満では約9割を占めており、賃上げの機運は全体として維持されていると考えられる（図表19）。

図表18 26年度の賃上げ状況
(全体、製造業・非製造業別)

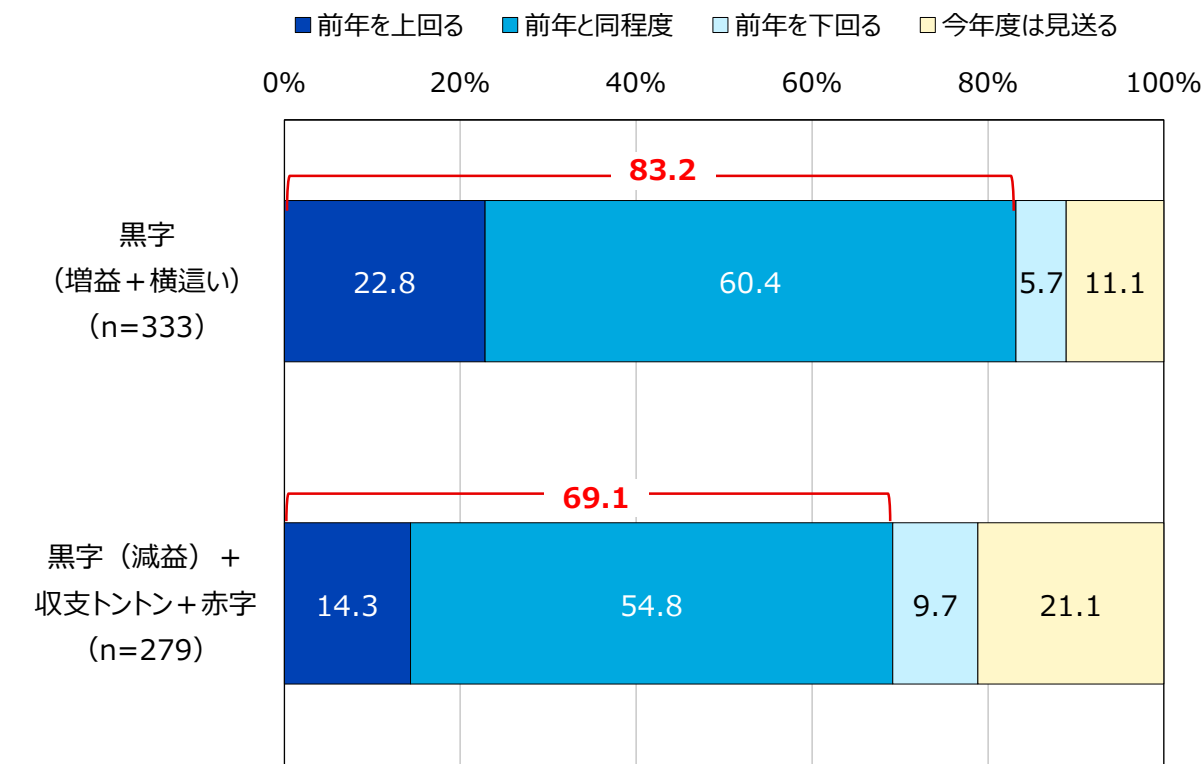


図表19 26年度の賃上げ状況
(資本金規模別)

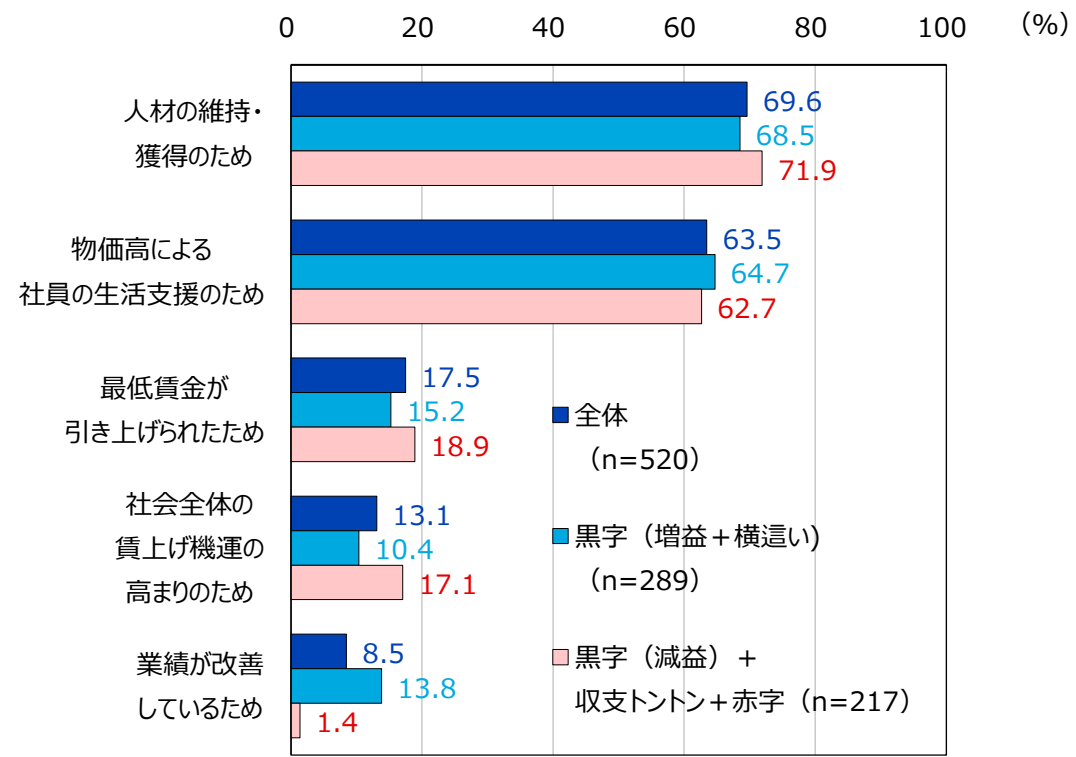


- ただし、25年度の業績別にみると、「前年と同程度以上」の賃上げを行うとする回答は、「黒字（増益または横ばい）」企業で8割を超えるが、「黒字（減益）または収支トントン、赤字」企業においても約7割を占めている（図表20）。
- ちなみに、「黒字（減益）または収支トントン、赤字」企業においても、賃上げを実施する理由として「人材の維持・獲得のため」を挙げる割合は7割超と最も高く、深刻な人手不足を背景とした「防衛的賃上げ」を行う企業も相当数あると推察される（図表21）。

図表20 26年度の正社員の賃上げ状況
(25年度の業績別)



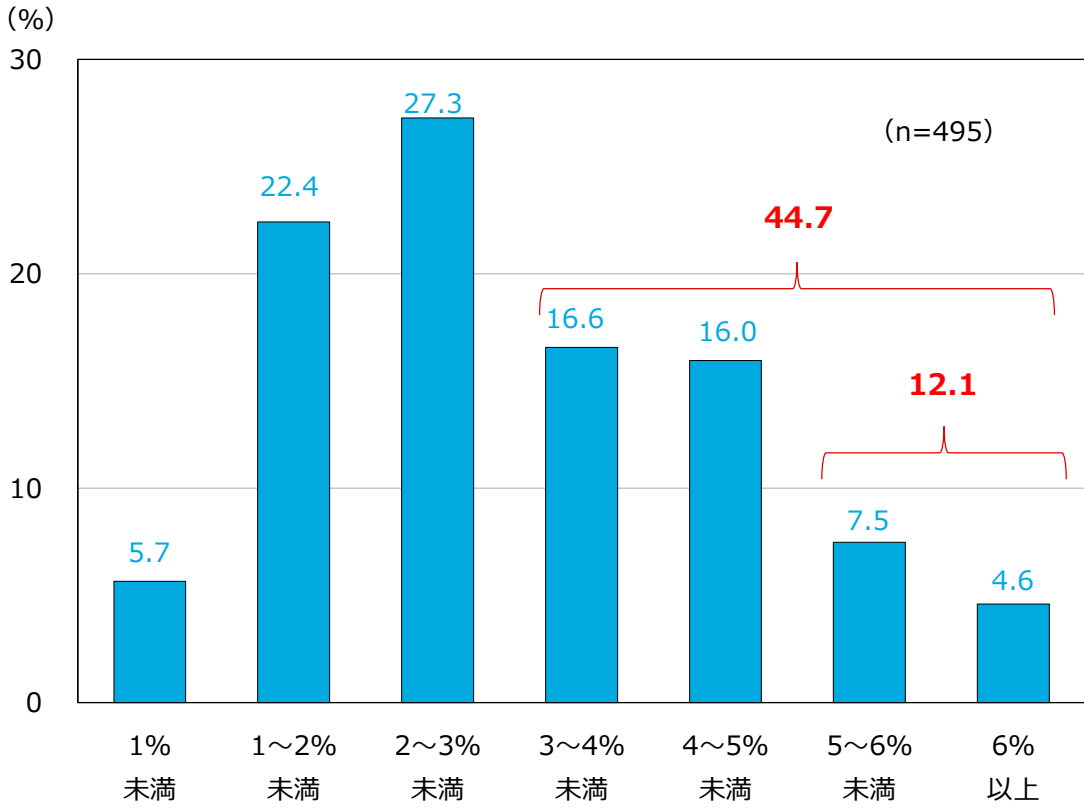
図表21 賃上げを実施する理由
(25年度の業績別・上位5項目)



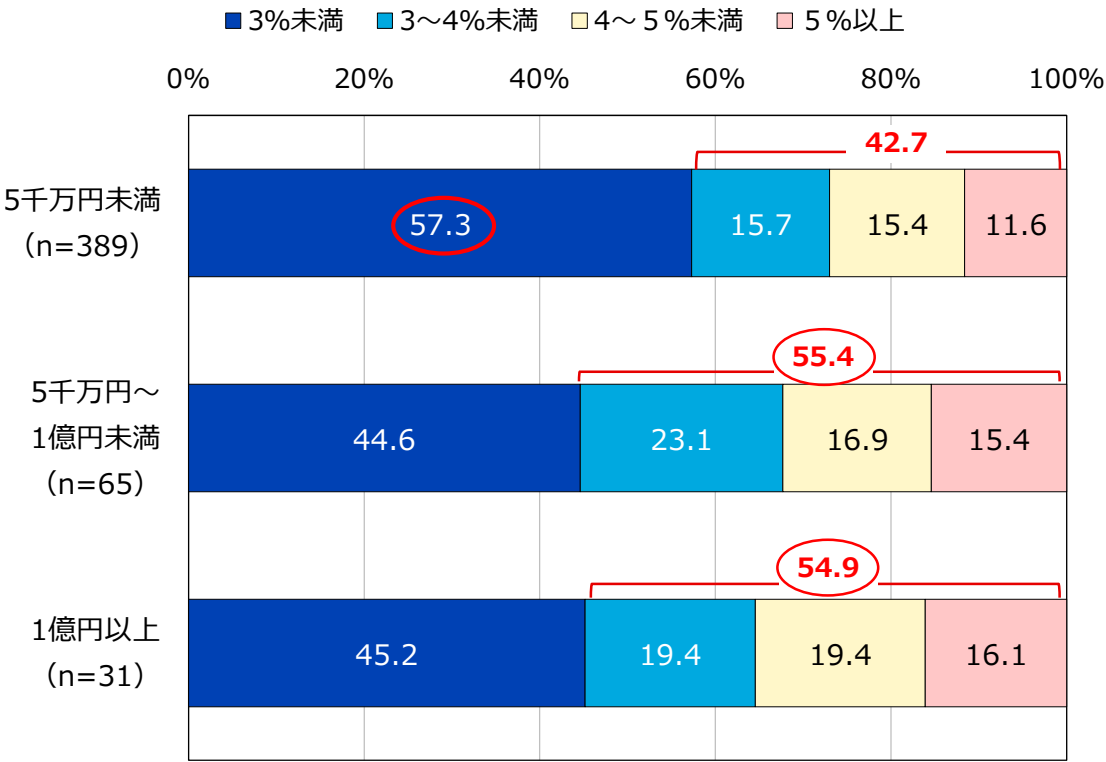
(注) 複数回答 (主なもの2項目まで)

- また、26年度の賃上げ率（定昇込）は、「2～3%未満」の企業が27.3%で最も多く、「1～2%未満」（22.4%）が続いており、「3%以上」は4割台半ば、「5%以上」は約1割にとどまっている（図表22）。資本金規模別では、5千万円以上の企業で「3%以上」が5割台半ばを占める一方、5千万円未満では「3%未満」が6割近くに達している（図表23）。
- 中東情勢の緊迫化を背景に企業物価、消費者物価ともに上昇圧力が強まっており、中小企業を中心に賃上げへの影響が懸念されるほか、「物価上昇を上回る賃上げの定着」に向けたハードルは一段と高まっている。

図表22 賃上げ率別の企業割合（定昇込）

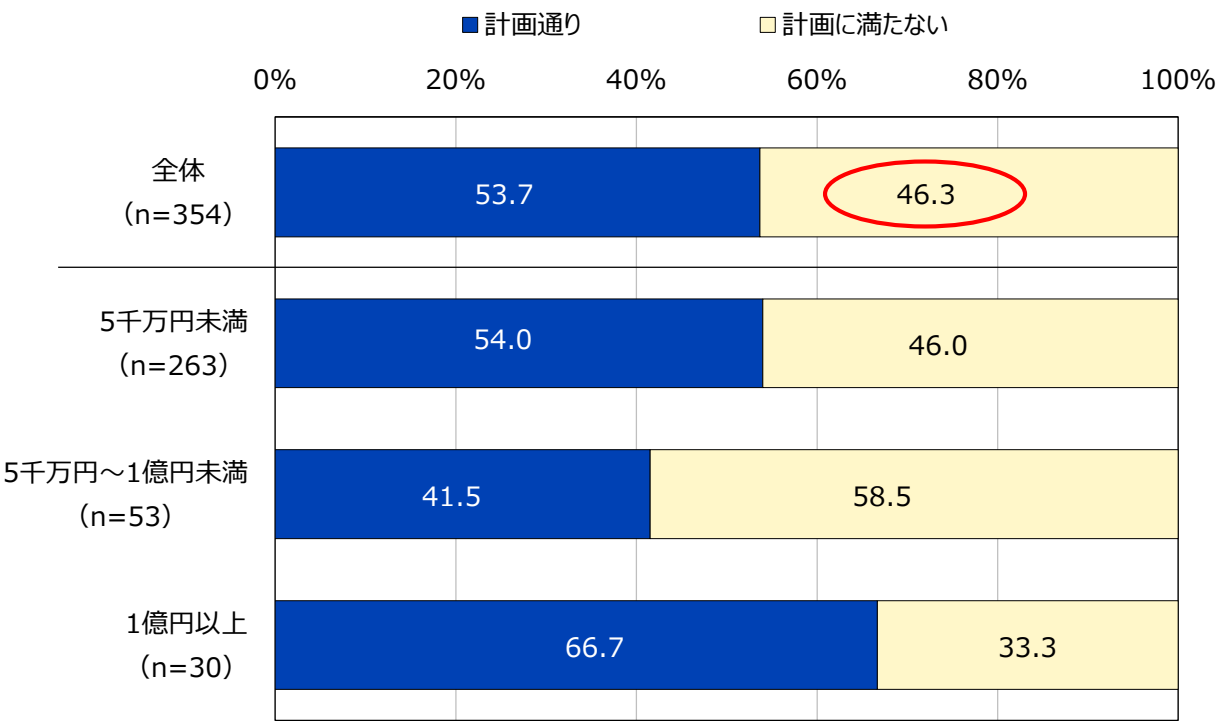


図表23 賃上げ率別の企業割合（定昇込）
（資本金規模別）



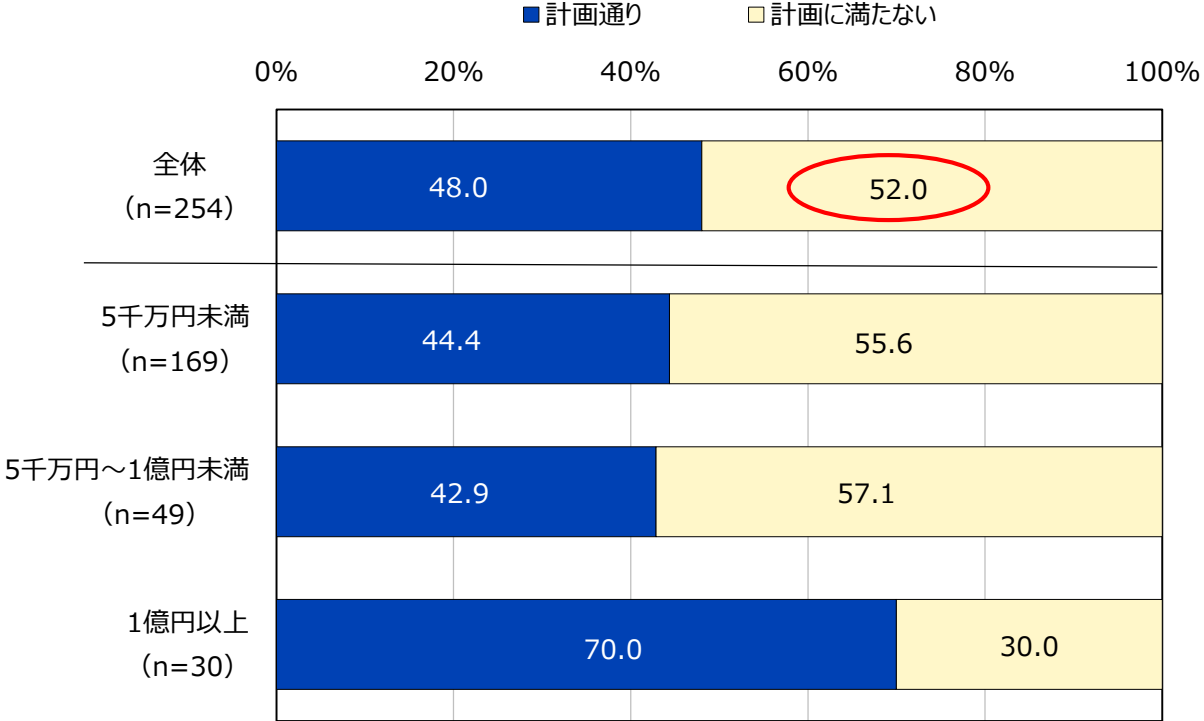
- 25年度の正社員採用を計画した企業は全体の56.2%で、うち採用実績が「計画に満たない」とする企業の割合は46.3%と半数近くに達しており、資本金1億円未満の企業を中心に多くの企業が採用に苦戦している（図表24）。
- また、新卒社員（26年4月入社）についても同様に、「計画に満たない」（52.0%）が半数を超えている（図表25）。

図表24 25年度の正社員の採用実績
（資本金規模別）



（注）採用を計画していない企業を除く

図表25 25年度の新卒社員の採用実績
（資本金規模別）



（注）採用を計画していない企業を除く

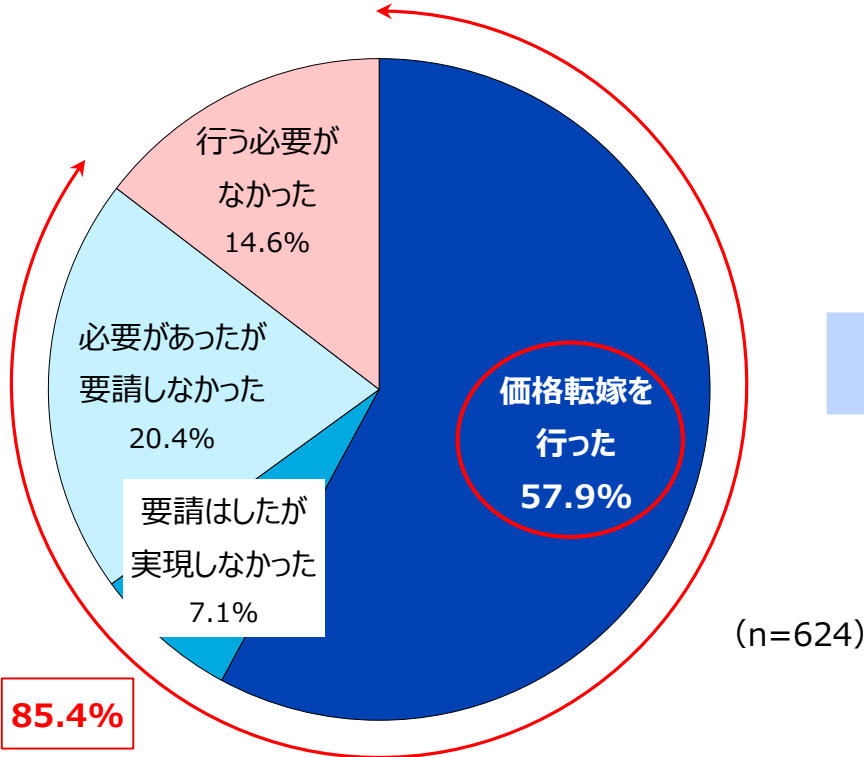
■ 参考までに、回答のあった企業の26年度の新規学卒者の初任給（単純平均）は、「高校卒」で207.7千円（前年差＋6.6千円）、「大学卒」で230.3千円（同＋7.3千円）、「大学院卒」で240.6千円（同＋6.8千円）となっており、製造業と非製造業、資本金規模にかかわらず上昇している（図表26）。

図表26 26年度の新規学卒者の初任給（単純平均）

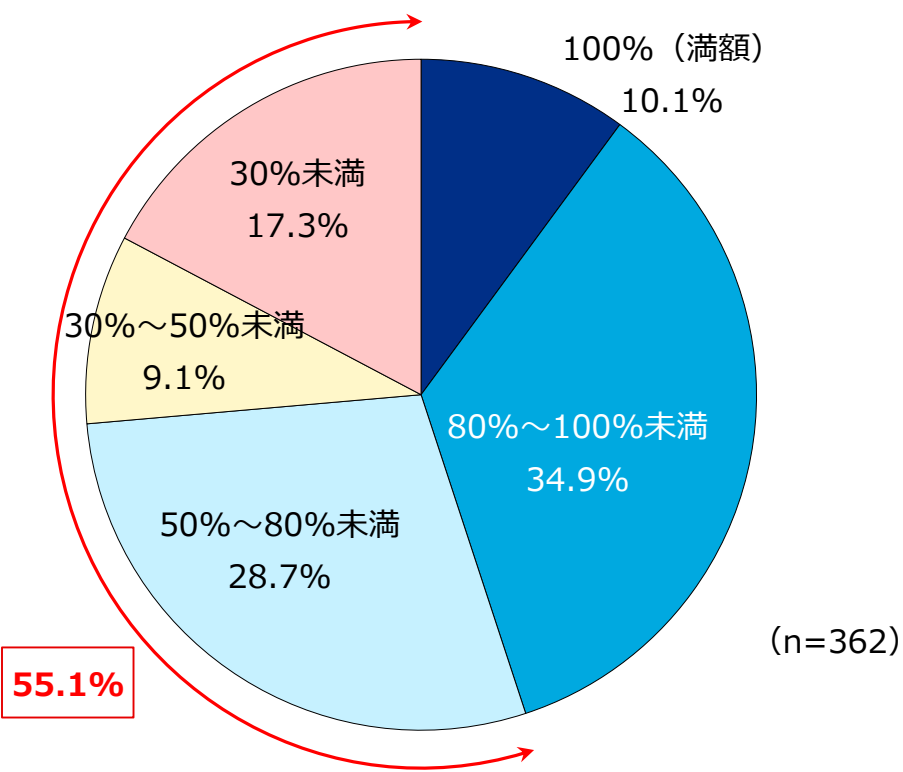
		全体	製造・非製造業		資本金		
			製造業	非製造業	5千万円未満	5千万円～1億円未満	1億円以上
高校卒 (n=94)	支給額	207.7千円	202.9千円	210.2千円	209.9千円	200.2千円	207.6千円
	前年差	＋6.6千円	＋4.4千円	＋7.5千円	＋7.5千円	＋2.2千円	＋8.9千円
	前年比	＋3.3%	＋2.2%	＋3.7%	＋3.7%	＋1.1%	＋4.5%
大学卒 (n=124)	支給額	230.3千円	234.6千円	228.9千円	230.4千円	226.3千円	242.6千円
	前年差	＋7.3千円	＋8.7千円	＋6.9千円	＋7.0千円	＋6.7千円	＋11.0千円
	前年比	＋3.3%	＋3.9%	＋3.1%	＋3.1%	＋3.1%	＋4.8%
大学院卒 (n=44)	支給額	240.6千円	260.4千円	233.1千円	238.0千円	237.1千円	255.8千円
	前年差	＋6.8千円	＋11.9千円	＋6.1千円	＋7.8千円	＋3.0千円	＋9.3千円
	前年比	＋2.9%	＋4.8%	＋2.7%	＋3.4%	＋1.3%	＋3.8%

- 2025年度（4月以降）の各種コストや人件費・労務費の販売価格への転嫁について尋ねたところ、「価格転嫁を行った」企業は57.9%と6割近くを占めた（図表27）。ただし、価格転嫁が必要と回答した企業は全体で8割台半ばに達しており、「要請したが実現しなかった」（7.1%）企業や「必要があったが要請しなかった」（20.4%）企業も相当数みられた。
- また、価格転嫁を実施した企業のうち、カバー率（原材料費などのコストや人件費・労務費の上昇分のうち価格転嫁できた割合）が「8割」に届かない企業は5割台半ばを占めており、価格転嫁は進展しつつも容易でない状況が窺える（図表28）。

図表27 価格転嫁の実施状況（25年度）

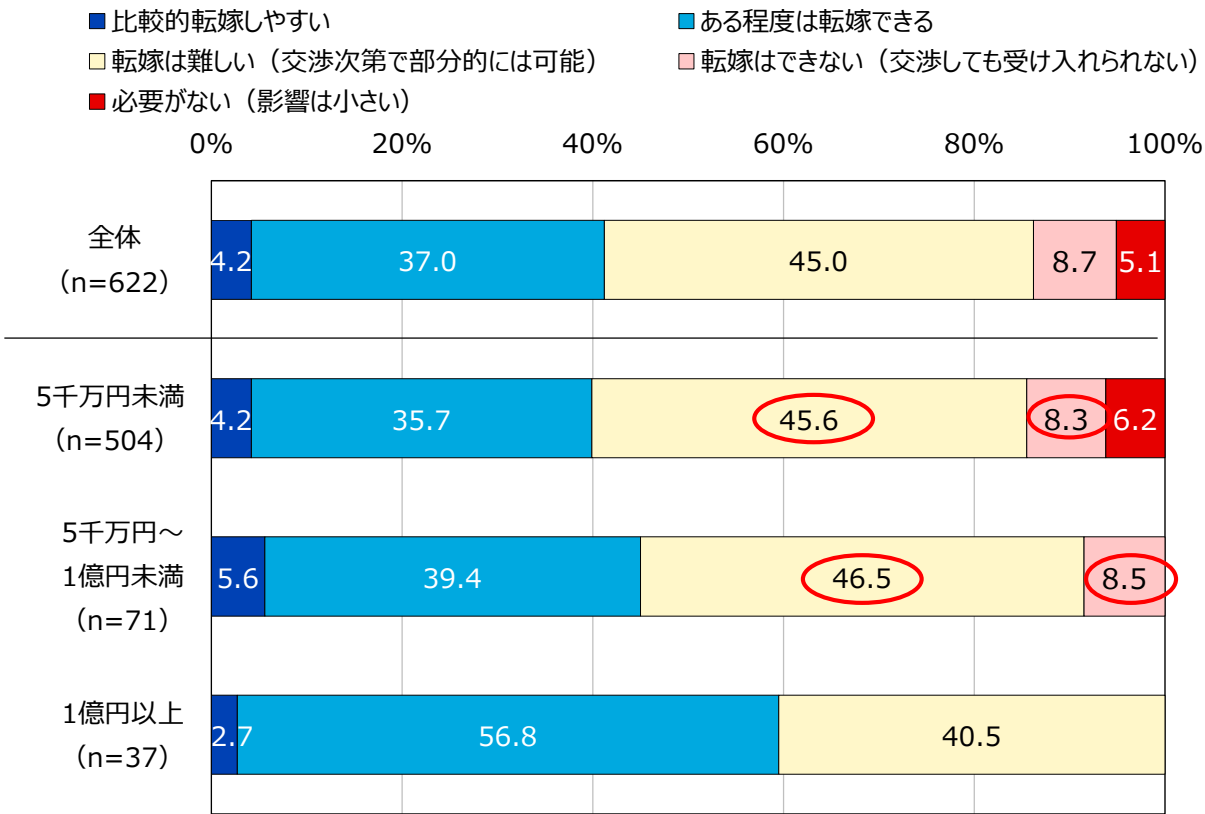


図表28 価格転嫁のカバー率（25年度）

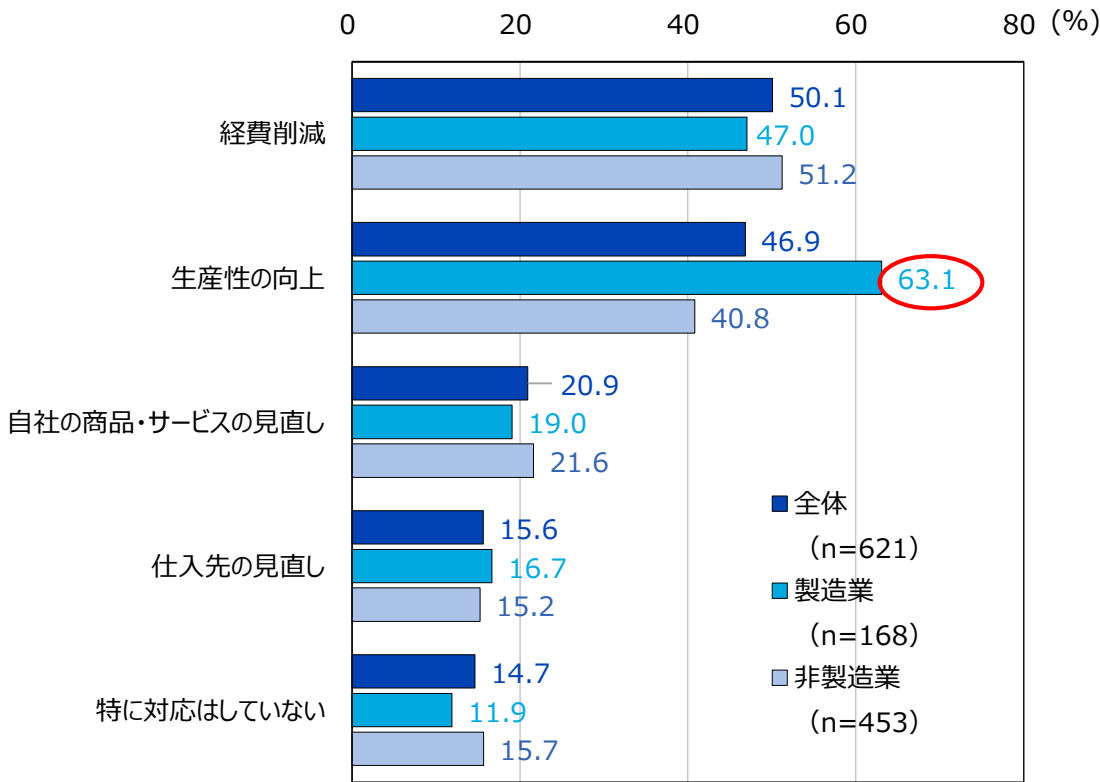


- ちなみに、人件費・労務費に係る価格転嫁の難易度について尋ねたところ、「比較的しやすい」（4.2%）および「ある程度できる」（37.0%）を合わせた割合は約4割にとどまり、資本金1億円未満の企業では、転嫁は「難しい」あるいは「できない」とする企業が半数以上を占めている（図表29）。
- なお、価格転嫁以外の対応では、「経費削減」を挙げる企業が50.1%を占めて最も多く、次いで「生産性の向上」（46.9%）、「自社の商品・サービスの見直し」（20.9%）などの順となっており、製造業では「生産性の向上」（63.1%）を挙げる割合が相対的に高い（図表30）。

図表29 人件費・労務費の価格転嫁の難易度



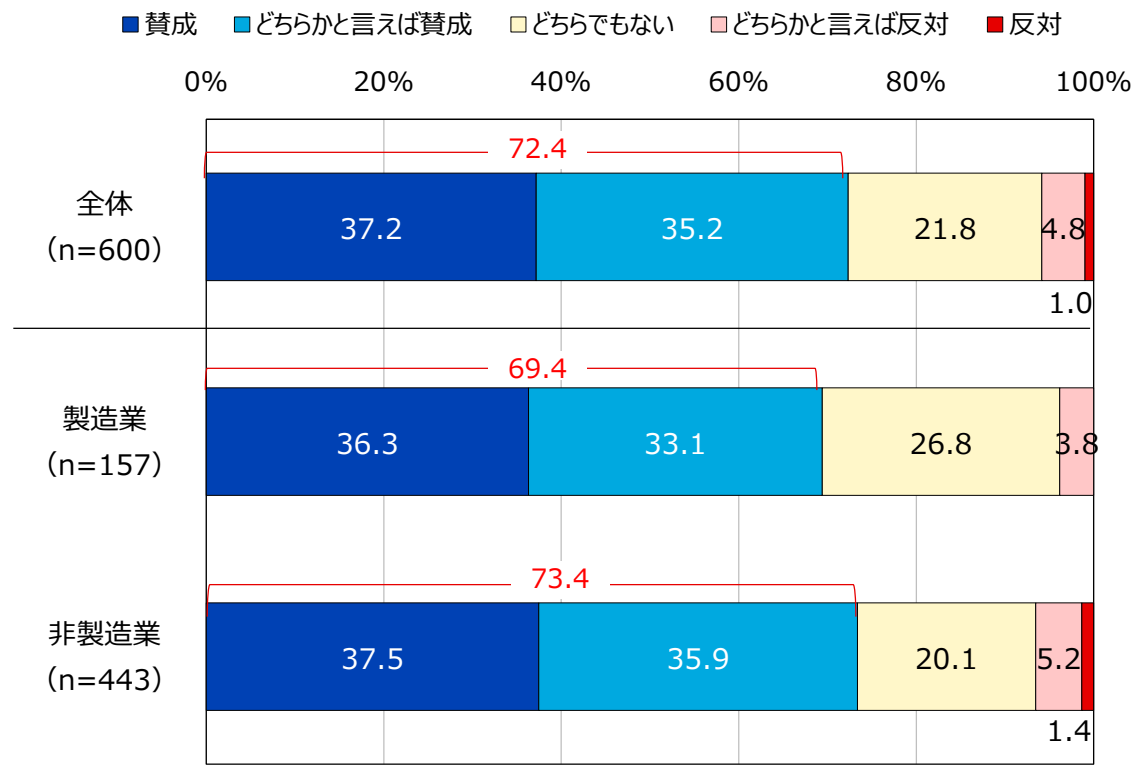
図表30 価格転嫁以外の対応（上位5項目）



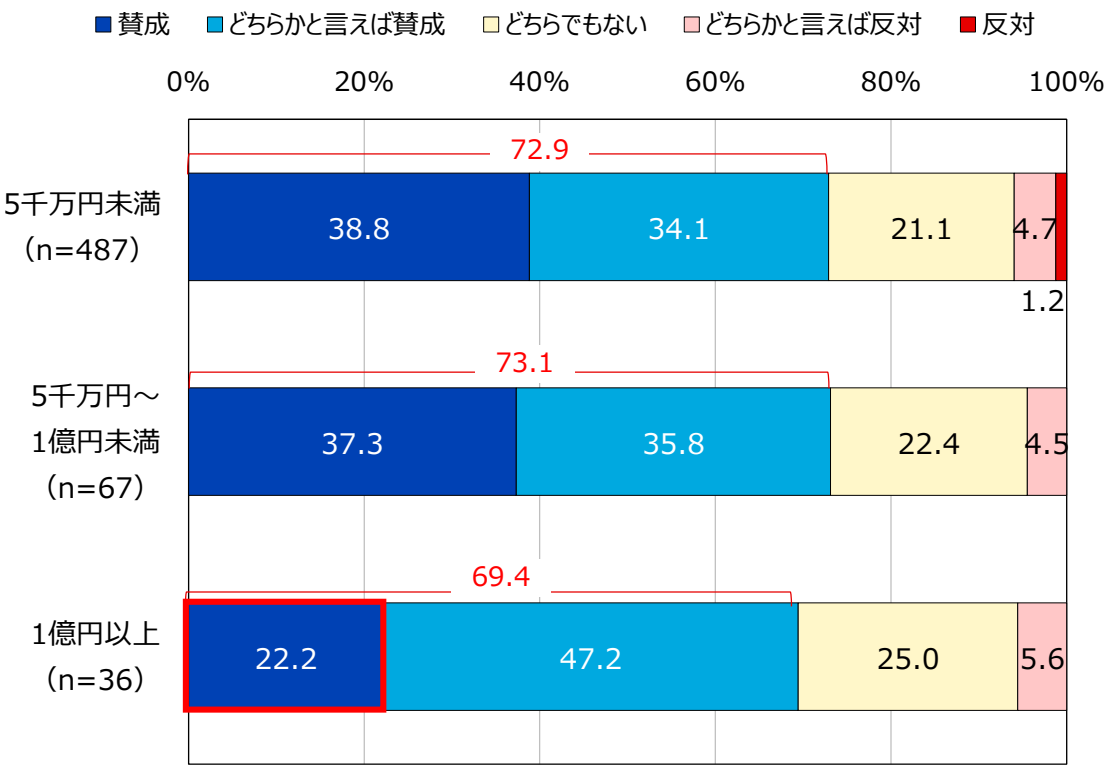
（注）複数回答（主なもの2項目まで）

- 労働時間規制の緩和に対する賛否について尋ねたところ、「賛成」が37.2%、「どちらかと言えば賛成」が35.2%と、合わせて約7割が肯定的で、「反対」または「どちらかと言えば反対」とする回答（5.8%）は1割未満とどまった（図表31）。
- 製造業・非製造業別、規模別にみても概ね同様の傾向であるが、資本金1億円以上の企業では「賛成」（22.2%）は2割程度にとどまっている（図表32）。

図表31 労働時間規制の緩和に対する賛否
（全体、製造業・非製造業別）

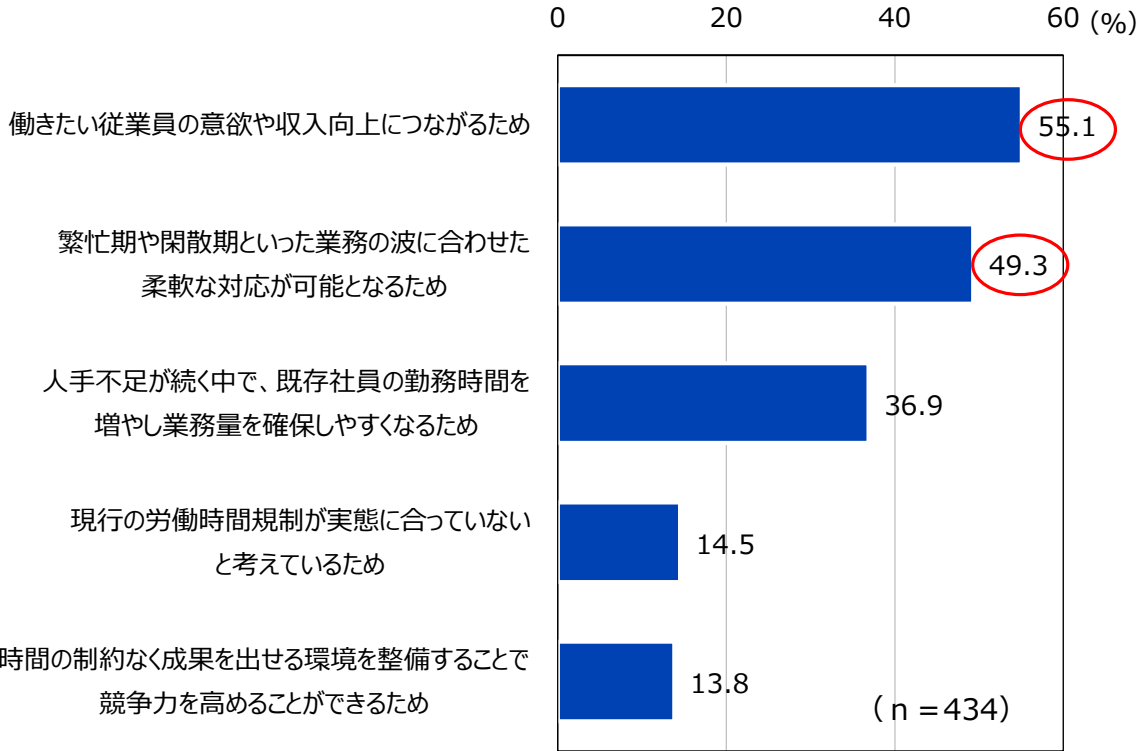


図表32 労働時間規制の緩和に対する賛否
（資本金規模別）



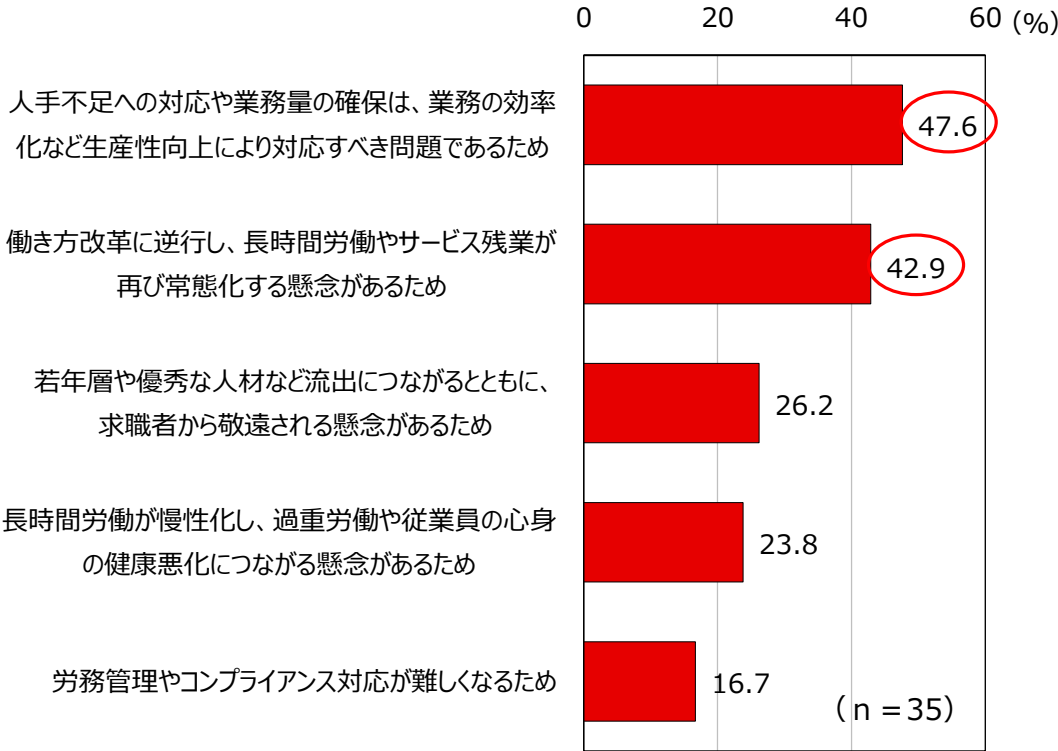
- 賛成理由として、「働きたい従業員の意欲や収入向上につながる」（55.1%）および「繁忙期や閑散期といった業務の波に合わせた柔軟な対応が可能となる」（49.3%）が5割前後を占めるほか、「人手不足が続く中で、既存社員の勤務時間を増やし業務量を確保しやすくなる」（36.9%）を挙げる企業も3割台半ばを占めて多い（図表33）。
- 一方、反対理由では、「人手不足対応や業務量確保は、生産性の向上により対応すべき」（47.6%）や「働き方改革に逆行し、長時間労働やサービス残業が常態化する懸念」（42.9%）を挙げる企業が4割を超えている（図表34）。

図表33 規制緩和の賛成理由（上位5項目）



（注）複数回答（主なもの2項目まで）

図表34 規制緩和の反対理由（上位5項目）

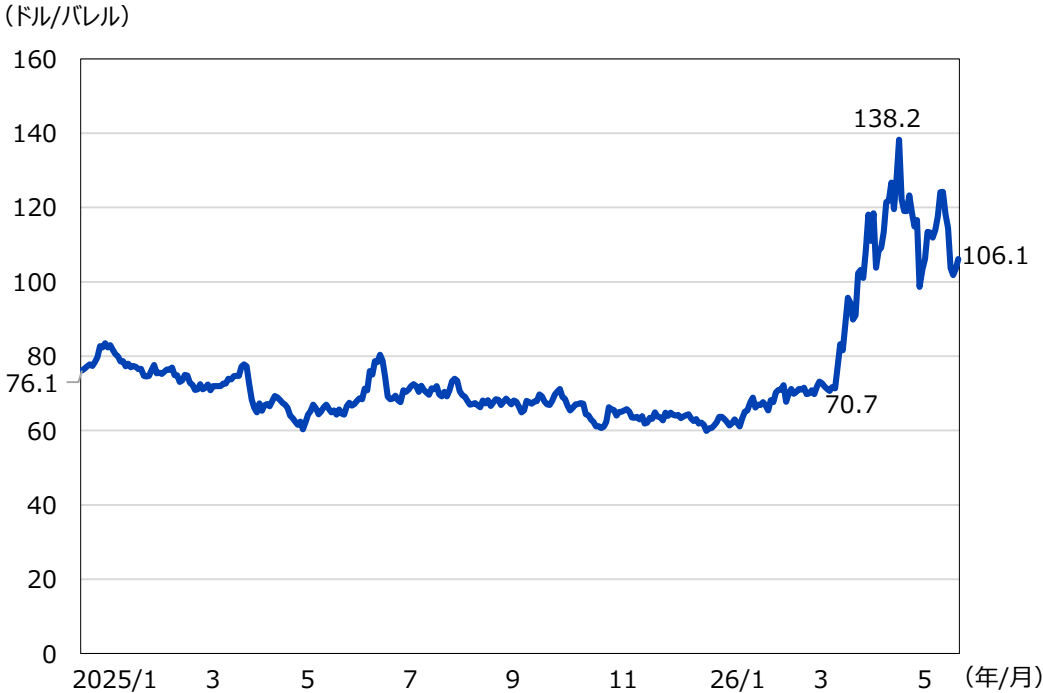


（注）複数回答（主なもの2項目まで）

- 今回の調査は、2月末の米国・イスラエルのイラン攻撃から1ヵ月余りが経過した時期に実施した。先行きの景況感および自社の経営状況は大きく悪化し、企業の多くが「イランなど中東情勢の緊迫化」と「物価上昇」を今年度最大の懸念材料と捉えている。ただし、実際の影響度合いは十分には織り込まれていないとみられ、物価上昇と価格転嫁、中間財の供給制約などを中心に、今後の企業経営に及ぼす影響を注視していく必要がある。
- 中長期的課題として「人材」を挙げる企業が約3分の2に達する中で、「前年と同程度以上の賃上げを実施・検討する」企業が4分の3に達するなど、賃上げの流れは継続していると考えられる。しかし、今後のコスト上昇に伴い企業収益が大きく下振れすれば、賃上げのモメンタムが鈍化する可能性もある。

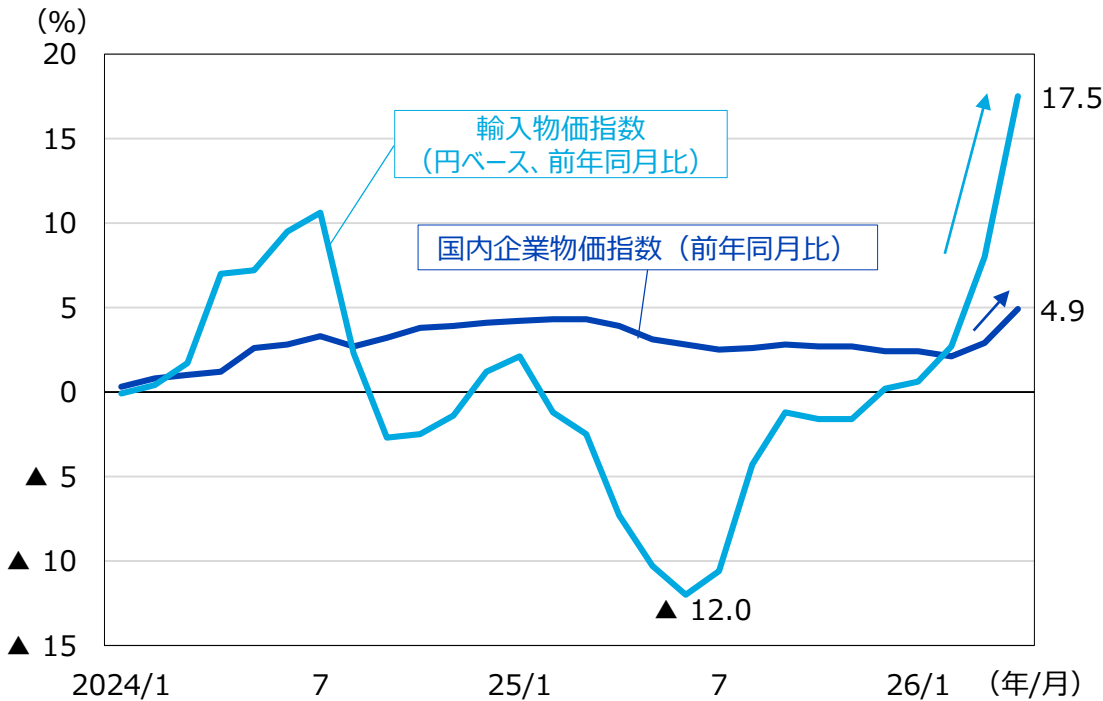
(ひろぎんホールディングス経済産業調査部 古谷 渉)

【参考】原油価格の推移（北海ブレント）



(注) スポット価格
(資料) EIA（米国エネルギー情報局）資料より当部作成

【参考】国内企業物価指数と輸入物価指数の推移



(資料) 日本銀行「企業物価指数」より当部作成

【アンケートのお願い】

- ひろぎんホールディングス経済産業調査部では、レポートの品質向上を目的として、アンケートを実施しております。（所要時間：1分程度）
- 下記の二次元コードまたはリンクからご回答いただきますようお願い申し上げます。なお、個別のご質問に対する回答は原則として行っておりませんので、あらかじめご了承ください。

アンケートはこちらから
ご回答ください



PCの方は[こちらをクリック](#)してください。

※ ナインアウト株式会社が提供する
アンケートサイトへ遷移します。

- ◆ 本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ◆ 本資料は、信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。また、本資料に記載された内容等は作成時点のものであり、今後予告なく修正、変更されることがあります。資料のご利用に関しては、お客さまご自身の責任において判断なされますよう、お願い申し上げます。
- ◆ 本資料に関連して生じた一切の損害については、責任を負いません。その他、専門的知識に係る問題については、必ず弁護士、税理士、公認会計士等の専門家にご相談のうえ、ご確認ください。
- ◆ 本資料の一部または全部を、当社の事前の了承なく複製または転送等を行うことを禁じます。
- ◆ 本件に関するご照会は、ひろぎんホールディングス経済産業調査部 古谷（082-247-4958）までお願いします。

未来を、ひろげる。



中東情勢の
影響について
83%影響がある

【緊急】 中東情勢 影響調査

一般社団法人

広島県中小企業家同友会

会員企業
932社が回答

中東情勢 影響調査 932社／2950社 31.6%が回答

調査期間：2026年4月21日～5月8日

対象：広島県中小企業家同友会 会員

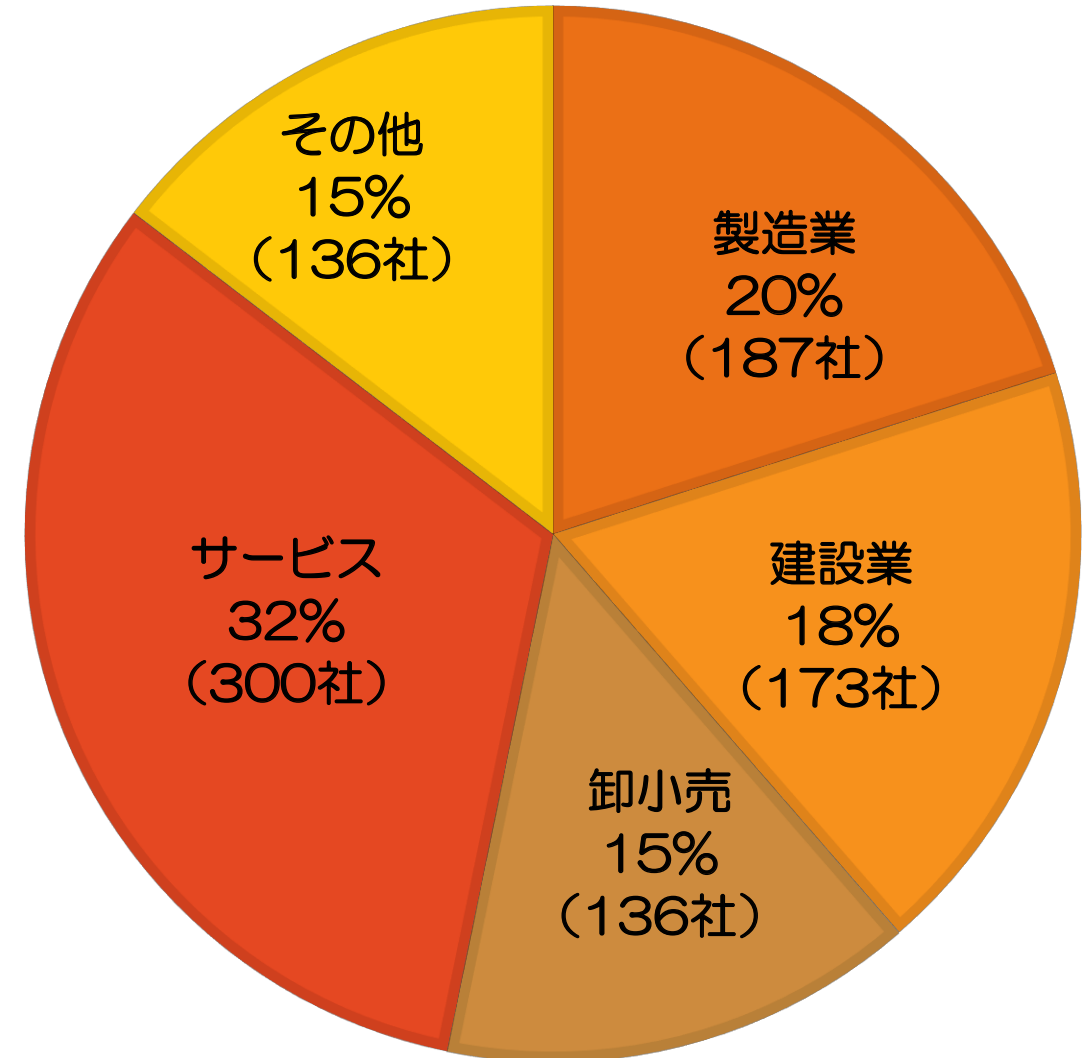
調査方法：会員専用システム（e.doyu）
で自計記入を求めた

回答数：2,950人から 932人の回答を
得た（回答率31.6%）

平均従業員数：24.8人（正社員16.3人
パートアルバイト社員 8.5人）

回答者業種割合 135

■ 製造業 ■ 建設業 ■ 卸小売 ■ サービス ■ その他



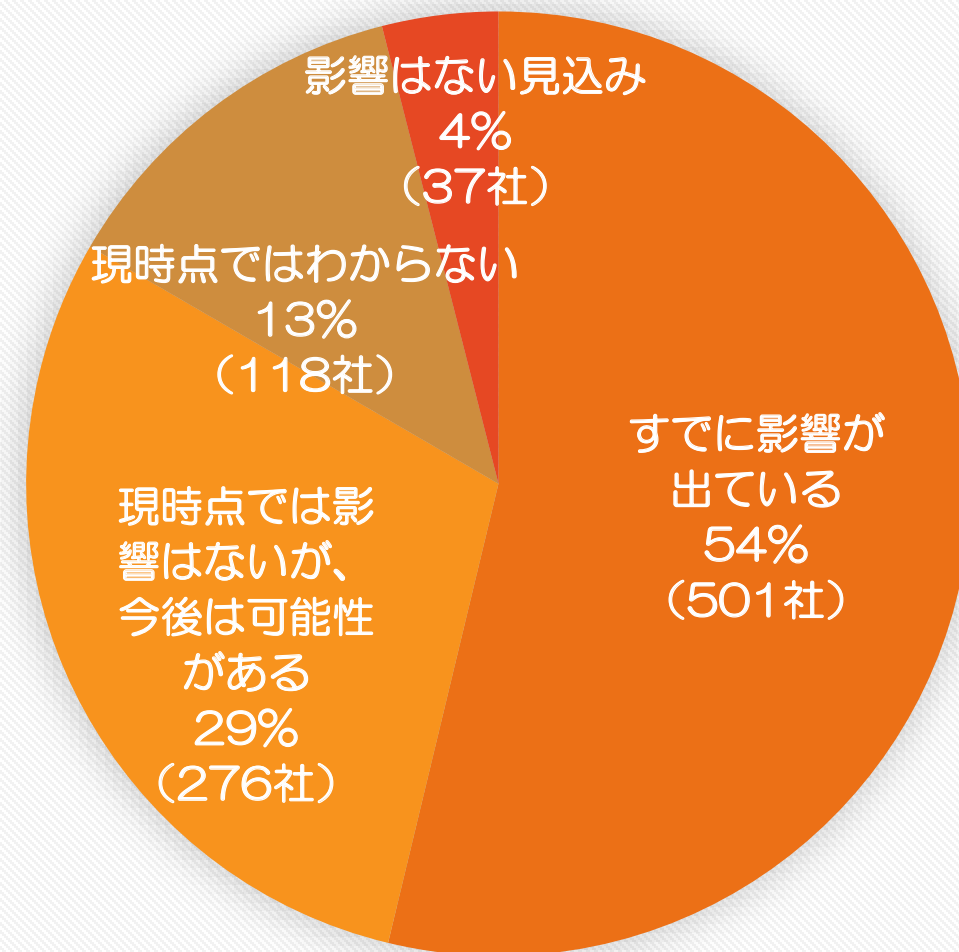
中東情勢の 影響について 83%影響がある

影響あり、今後可能性があるを合わせると、83%の企業に影響があるという深刻な事態。

すでに、休業状態、今後休業を予定している企業も少なからずあり、早急な支援が必要な状況になっている。

中東情勢の影響

136

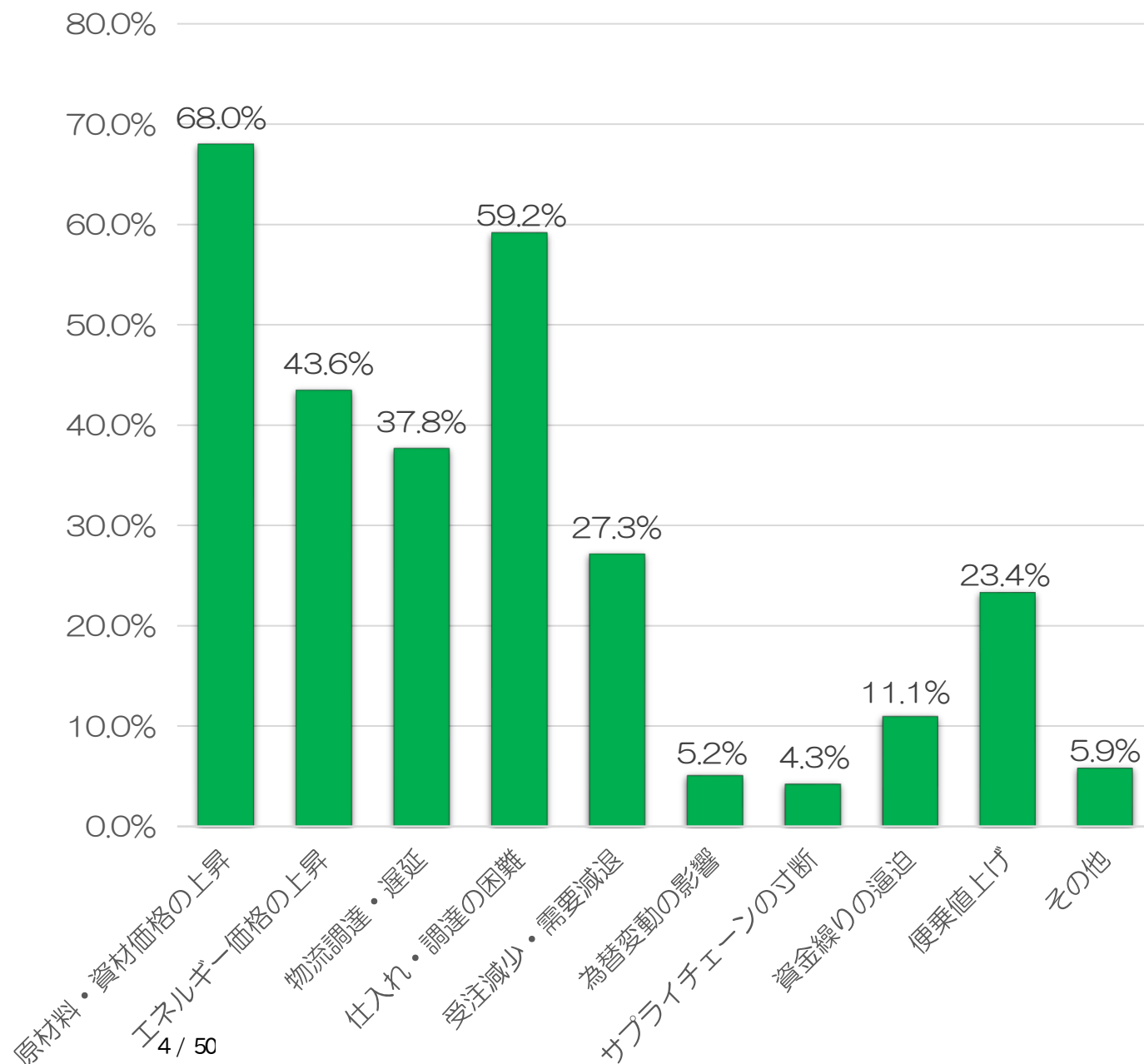


- すでに影響が出ている
- 現時点では影響はないが、今後は可能性がある
- 現時点ではわからない
- 影響はない見込み

具体的な影響について

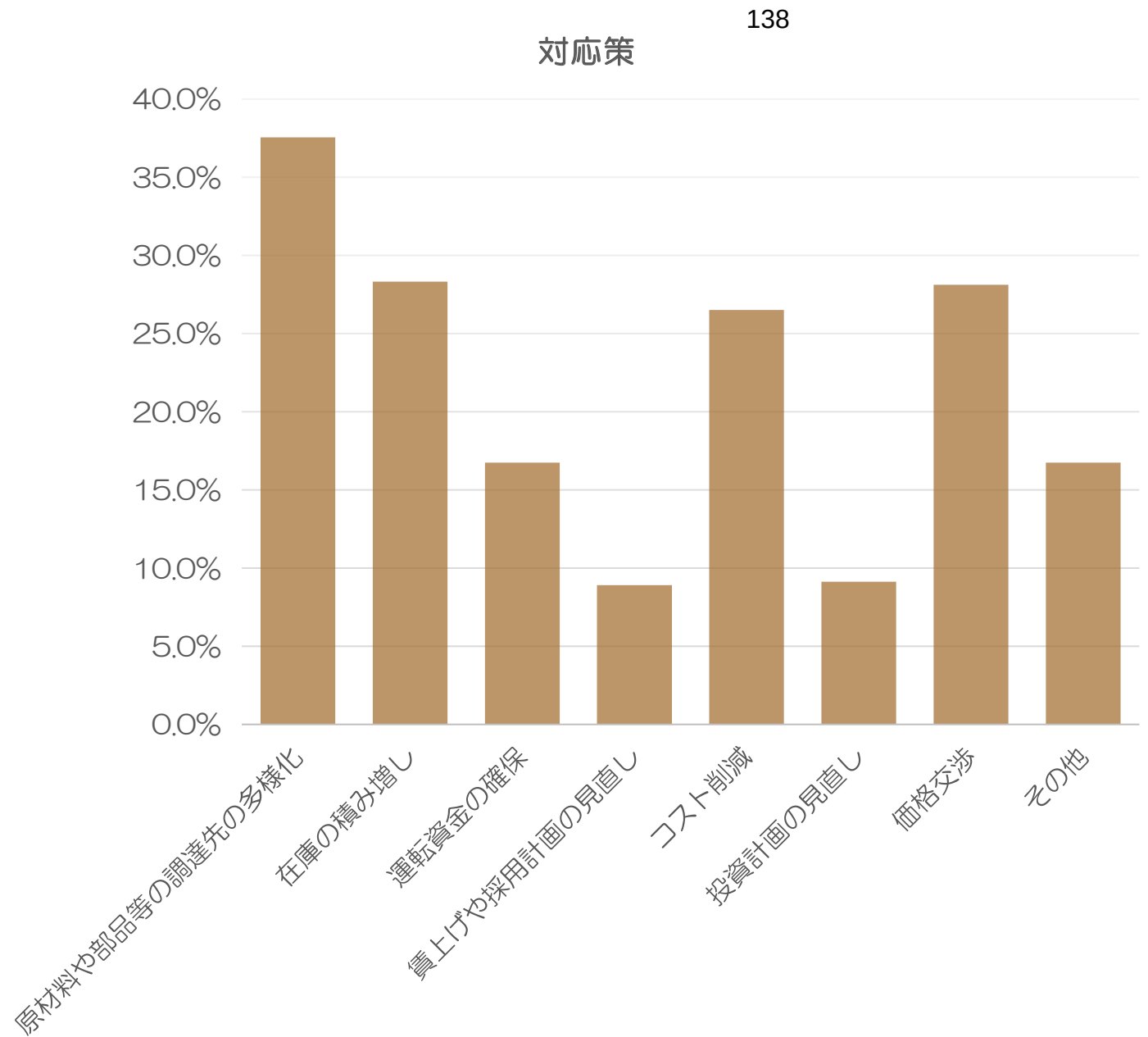
仕入れ価格の上昇と仕入れ調達の困難さが顕著。資金繰りを悪化させ、事業継続を困難している

具体的な影響について 137



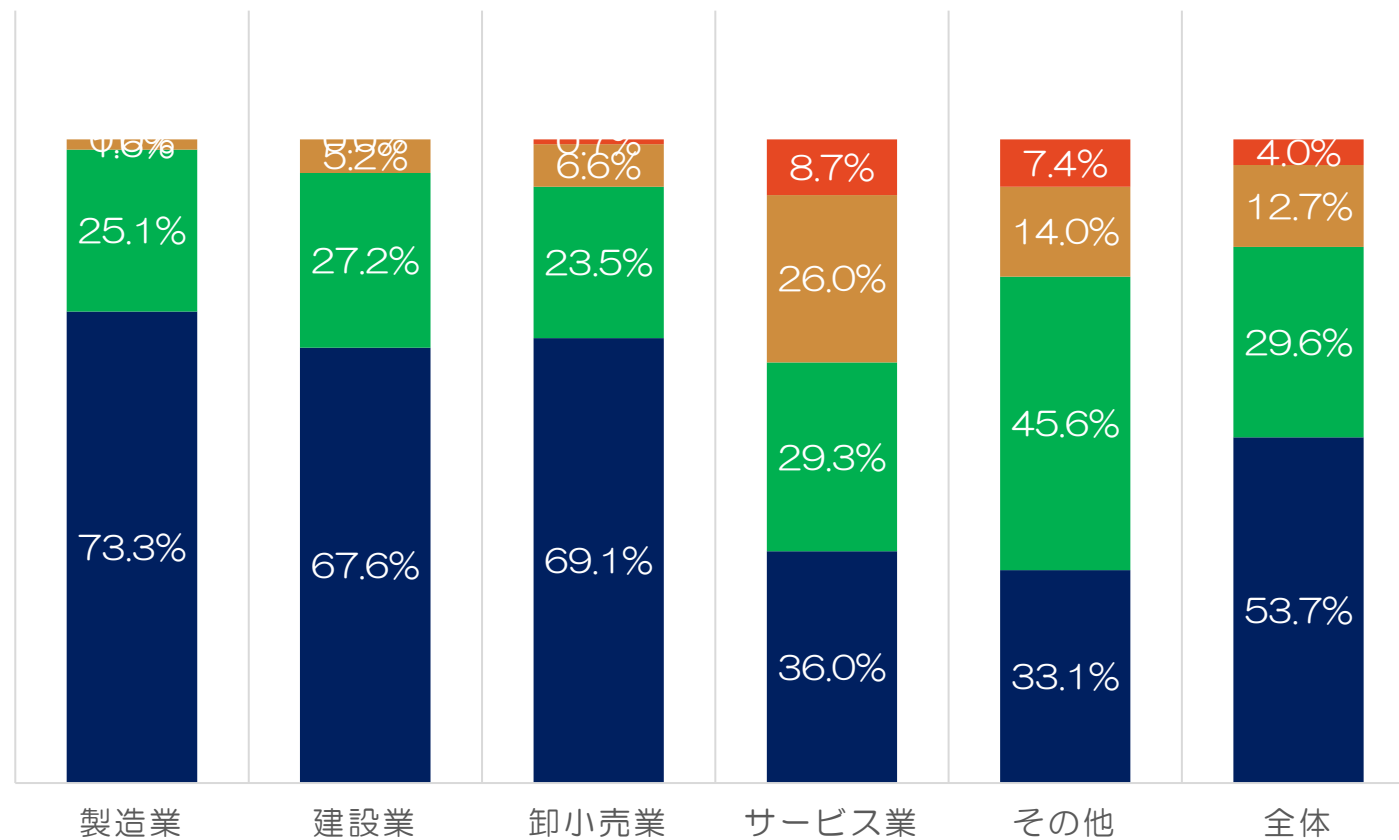
対応策について

仕入先の確保に奔走はしているものの、有効な対応策は持てていない



中東情勢の影響（業種別）

- 影響はない見込み
- 現時点ではわからない
- 現時点では影響はないが、今後は可能性がある
- すでに影響が出ている

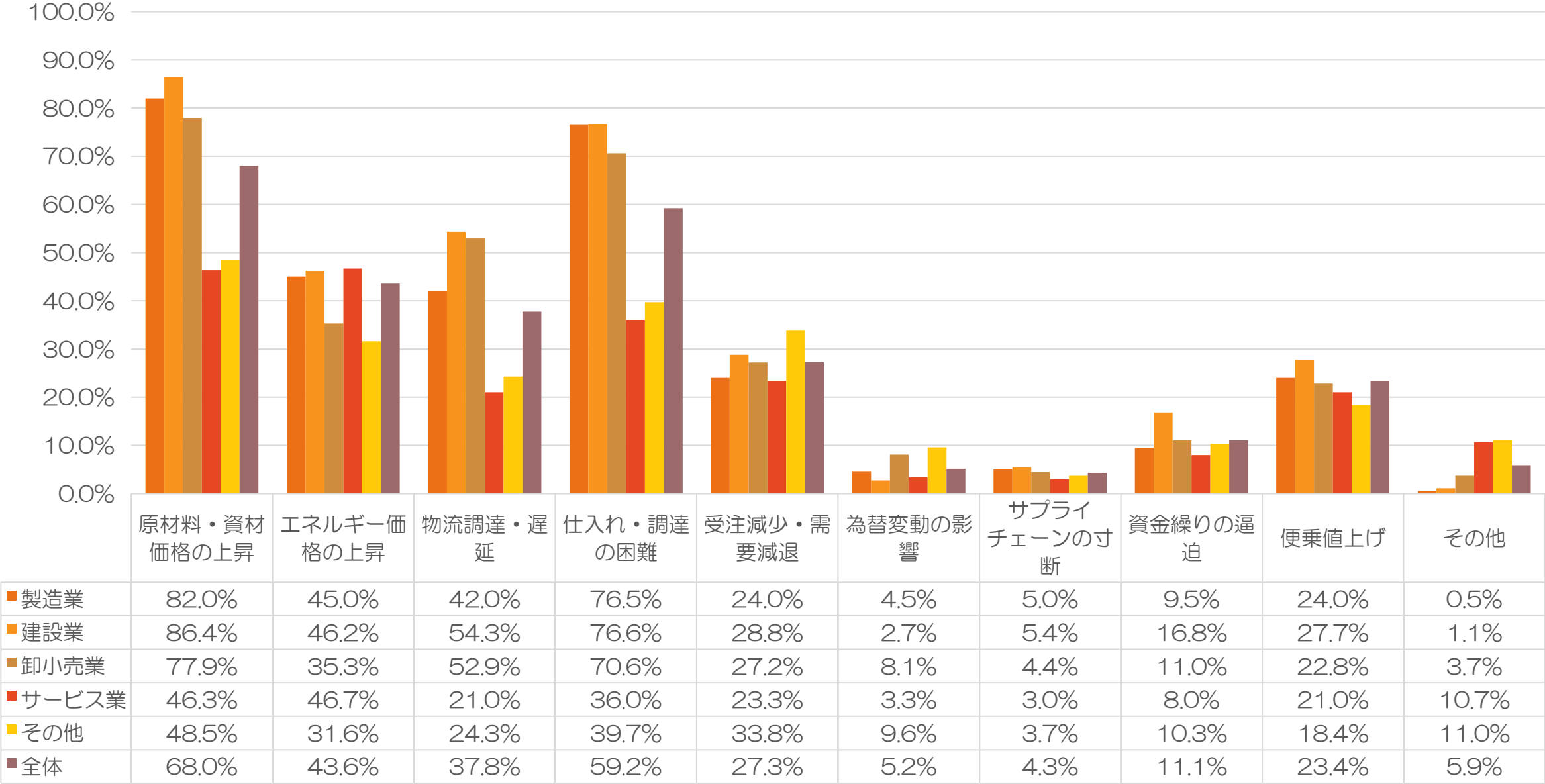


業種別の影響

製造業・建設業・卸小売業への影響が甚大。この三業種で、操業停止、休業の動きがあり、深刻。

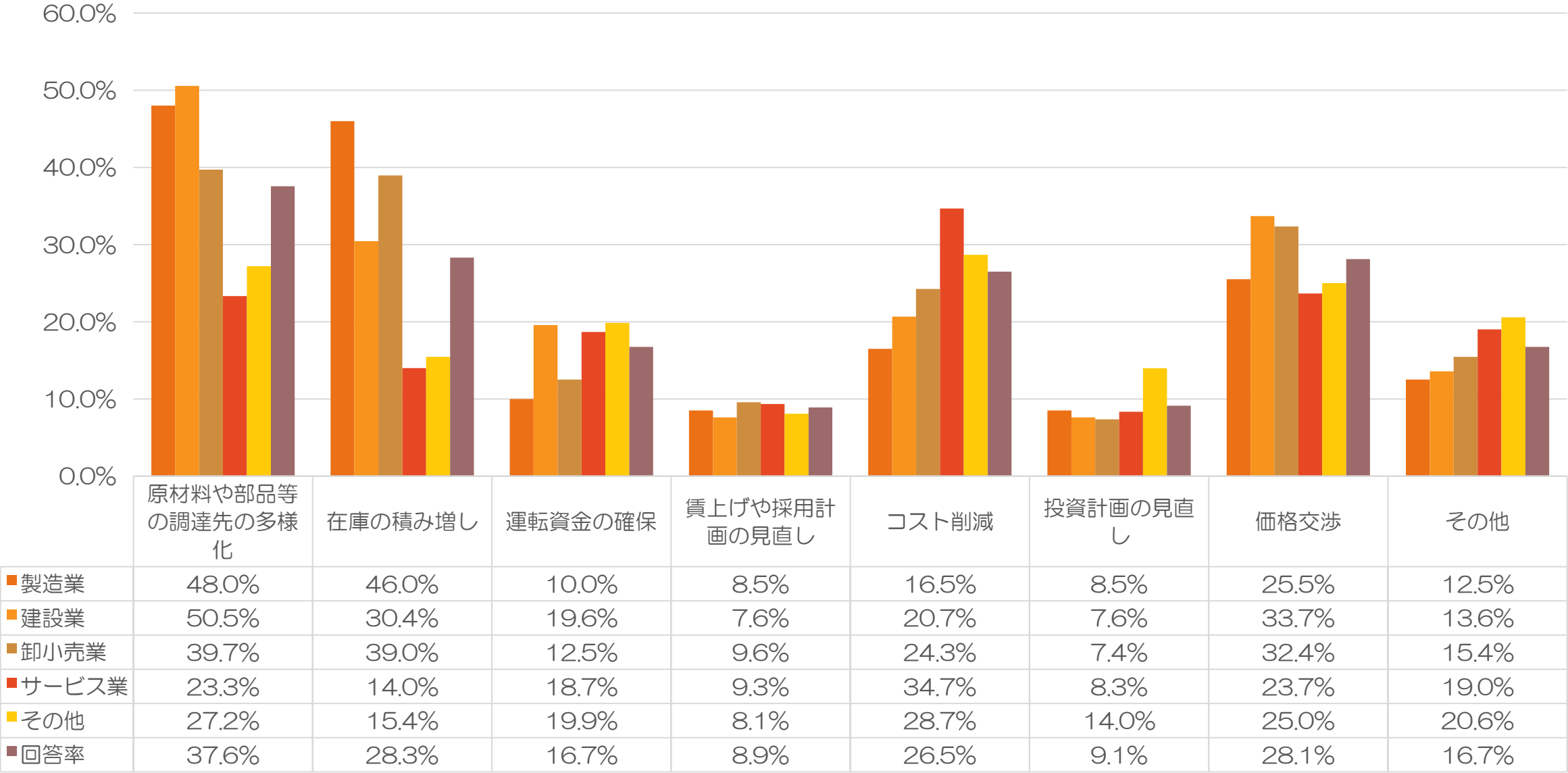
この三業種の悪化は今後、サービス、その他へ波及する可能性が大。

早急に支援が必要。



具体的な対応（業種別）

141



TDB

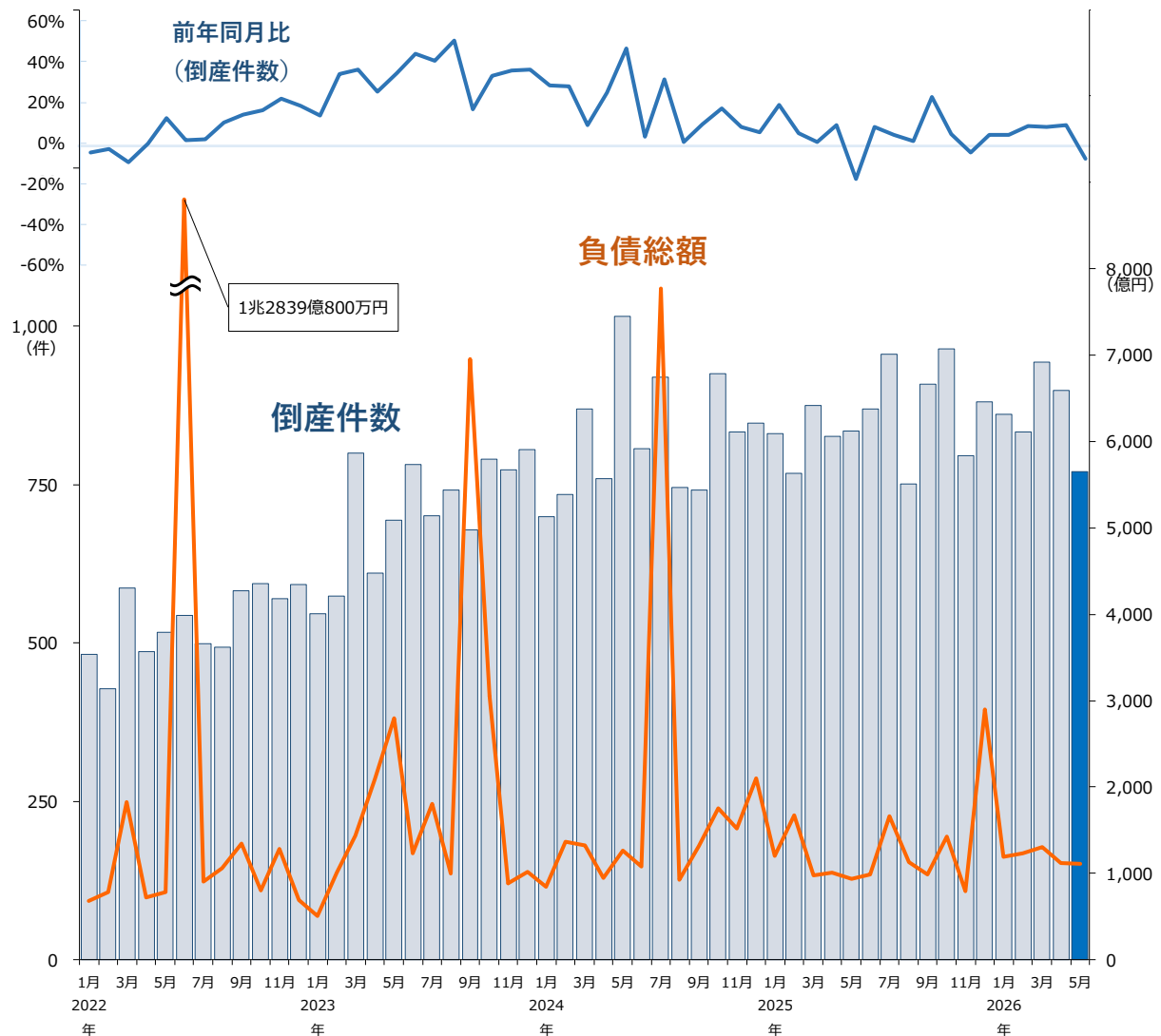
全国企業倒産集計

2026 年 5 月報

倒産件数、6 カ月ぶりに前年を下回る
「物価高倒産」は 100 件近い高水準で推移

PRESS RELEASE

月別倒産件数 推移



月別倒産件数

月別	2022年		2023年		2024年		2025年		2026年	
	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)
1月	482	67,970	546	50,769	700	84,229	830	120,519	861	118,871
2月	428	78,066	574	100,546	734	136,166	768	167,287	833	122,803
3月	587	182,582	800	143,514	870	132,005	875	97,386	943	130,411
1Q累計	1,497	328,618	1,920	294,829	2,304	352,400	2,473	385,192	2,637	372,085
4月	487	72,017	610	208,807	760	94,600	826	100,549	899	112,137
5月	517	78,540	694	279,740	1,016	126,097	835	93,388	771	111,248
6月	544	1,283,908	782	123,208	807	107,918	869	98,558		
2Q累計	1,548	1,434,465	2,086	611,755	2,583	328,615	2,530	292,495	1,670	223,385
7月	499	90,393	701	180,470	920	776,931	956	166,473		
8月	493	105,906	742	99,501	746	92,759	751	112,936		
9月	583	135,031	679	695,110	741	131,187	909	98,604		
3Q累計	1,575	331,330	2,122	975,081	2,407	1,000,877	2,616	378,013		
10月	594	80,626	790	305,584	925	175,568	965	142,322		
11月	570	128,627	773	88,150	834	152,244	796	78,883		
12月	592	68,714	806	101,504	848	210,076	881	289,983		
4Q累計	1,756	277,967	2,369	495,238	2,607	537,888	2,642	511,188		
年累計	6,376	2,372,380	8,497	2,376,903	9,901	2,219,780	10,261	1,566,888	4,307	595,470

全国企業倒産集計

2026 年 5 月報

集計期間：2026 年 5 月 1 日～5 月 31 日
 発表日：2026 年 6 月 8 日
 集計対象：負債 1000 万円以上
 法的整理による倒産

倒産件数、6 カ月ぶりに前年を下回る 「物価高倒産」は 100 件近い高水準で推移

2026年5月 倒産動向		
倒産件数	負債総額	
771 件	1112億4800万円	
前年同月比	▲7.7% (前年同月 835件)	+19.1% (前年同月 933億8800万円)
前月比	▲14.2% (前月 899件)	▲0.8% (前月 1121億3700万円)

概況・主要ポイント

- 倒産件数は 771 件（前年同月 835 件、7.7%減） となり、6 カ月ぶりに前年を下回った。なお、2026 年 1-5 月の累計は 4307 件と、前年同期（4134 件）を 173 件・4.2%上回っている
- 負債総額は 1112 億 4800 万円（前年同月 933 億 8800 万円、19.1%増） となり、3 カ月連続で前年を上回った。負債額トップは、(株)トーシンホールディングス（東証スタンダード上場）の 162 億円。上場企業の倒産は(株)オルツ（2025 年 7 月、民事再生法）以来 10 カ月ぶり
- 業種別にみると、1 年ぶりに主要 7 業種すべてで前年を下回った。『サービス業』（前年同月 220 件→196 件、10.9%減）が最も多かったものの、6 カ月ぶりに 200 件を下回った。『小売業』（同 185 件→171 件、7.6%減）は、2 カ月連続で前年を下回った。『運輸・通信業』（同 36 件→29 件、19.4%減）は 14 カ月ぶりに 30 件を下回った
- 地域別にみると、9 地域中 7 地域で前年を下回った。『近畿』（前年同月 212 件→176 件、17.0%減）は 6 カ月ぶりに前年を下回り、直近 2 年間で最少となった。『北海道』（同 23 件→21 件、8.7%減）は 7 カ月ぶりに前年を下回った。増減率でみると、『北陸』（同 20 件→39 件、95.0%増）が最も高く、構成比は 5 月として 2000 年以降で最も高かった
- 「ゼロゼロ（コロナ）融資後倒産」は 46 件判明し、3 カ月連続で前年を下回った
- 「人手不足倒産」は 28 件判明し、1 年ぶりに 30 件を下回った
- 「後継者難倒産」は 44 件判明し、6 カ月ぶりに前年を下回った
- 「物価高倒産」は 97 件判明し、100 件近い高水準で推移した

業種別

『サービス業』が196件、6カ月ぶりに200件を下回る

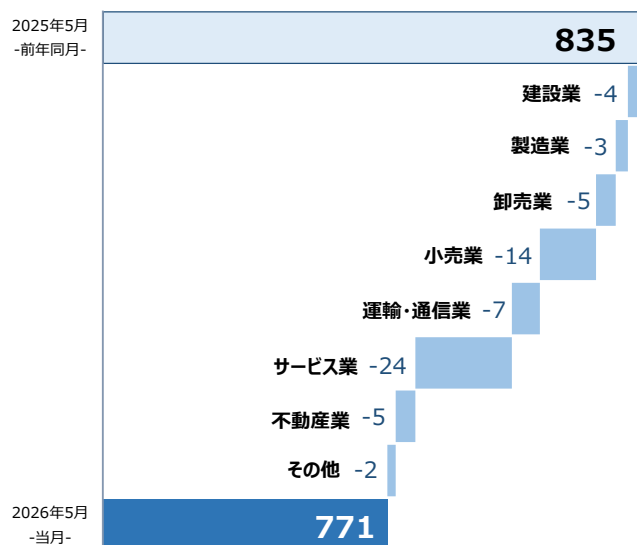
業種別にみると、1年ぶりに主要7業種すべてで前年を下回った。『サービス業』（前年同月220件→196件、10.9%減）が最多で、5月としては2000年以降で過去3番目に多かったものの、6カ月ぶりに200件を下回った。『小売業』（同185件→171件、7.6%減）は、2カ月連続で前年を下回った。『運輸・通信業』（同36件→29件、19.4%減）は14カ月ぶりに30件を下回った。

業種を細かくみると、『サービス業』では、労働者派遣や広告制作で大幅減となり「広告・調査・情報サービス」（前年同月80件→56件）の件数を押し下げた。『小売業』では、「飲食店」（同78件→67件）や「自動車・自転車小売」（同16件→10件）の減少が目立った。一方、『建設業』では大工工事や内装工事などの「職別工事」（同62件→82件）の増加が目立った。

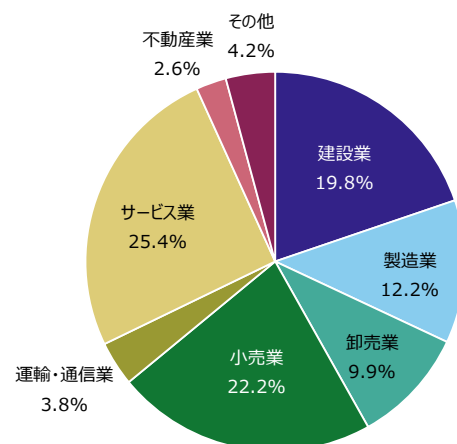
業種別	件数				構成比		
	2025年5月 -前年同月-	2026年5月 -当月-	前年同月比		2025年5月 -前年同月-	2026年5月 -当月-	対前年同月
	(件)	(件)	(件)				(ポイント)
建設業	157	153	▲ 4	▲ 2.5%	18.8%	19.8%	+1.0
製造業	97	94	▲ 3	▲ 3.1%	11.6%	12.2%	+0.6
卸売業	81	76	▲ 5	▲ 6.2%	9.7%	9.9%	+0.2
小売業	185	171	▲ 14	▲ 7.6%	22.2%	22.2%	±0.0
運輸・通信業	36	29	▲ 7	▲ 19.4%	4.3%	3.8%	▲ 0.5
サービス業	220	196	▲ 24	▲ 10.9%	26.3%	25.4%	▲ 0.9
不動産業	25	20	▲ 5	▲ 20.0%	3.0%	2.6%	▲ 0.4
その他	34	32	▲ 2	▲ 5.9%	4.1%	4.2%	+0.1
合計	835	771	▲ 64	▲ 7.7%	100.0%	100.0%	—

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100とはならない

業種別 増減分析



業種別 構成比



業種中分類別 推移

業種中分類別	件数				負債			
	2025年5月 -前年同月-	2026年5月 -当月-	前年同月比		2025年5月 -前年同月-	2026年5月 -当月-	前年同月比	
	(件)	(件)	(件)		(百万円)	(百万円)	(百万円)	
建設業	157	153	▲ 4	▲ 2.5%	16,994	15,823	▲ 1171	▲ 6.9%
職別工事業	62	82	+20	+32.3%	4,826	3,373	▲ 1453	▲ 30.1%
総合工事業	61	41	▲ 20	▲ 32.8%	9,392	8,116	▲ 1276	▲ 13.6%
設備工事業	34	30	▲ 4	▲ 11.8%	2,776	4,334	+1558	+56.1%
製造業	97	94	▲ 3	▲ 3.1%	16,186	20,611	+4425	+27.3%
食料品・飼料・飲料製造業	20	13	▲ 7	▲ 35.0%	2,832	3,579	+747	+26.4%
繊維工業、繊維製品製造業	16	8	▲ 8	▲ 50.0%	2,034	4,145	+2111	+103.8%
木材・木製品製造業	0	2	—	—	0	132	—	—
家具・装備品製造業	3	2	▲ 1	▲ 33.3%	106	20	▲ 86	▲ 81.1%
パルプ・紙・紙加工品製造業	1	3	+2	+200.0%	550	1,370	+820	+149.1%
出版・印刷・関連産業	6	11	+5	+83.3%	431	1,472	+1041	+241.5%
化学工業、石油製品・石炭製品製造業	2	1	▲ 1	▲ 50.0%	29	189	+160	+551.7%
ゴム製品製造業	0	3	—	—	0	244	—	—
皮革・同製品・毛皮製造業	3	1	▲ 2	▲ 66.7%	75	100	+25	+33.3%
窯業・土木製品製造業	0	2	—	—	0	100	—	—
鉄鋼業、非鉄金属・金属製品製造業	10	14	+4	+40.0%	882	2,107	+1225	+138.9%
一般機械器具製造業	17	16	▲ 1	▲ 5.9%	5,227	2,528	▲ 2699	▲ 51.6%
電気機械器具製造業	10	5	▲ 5	▲ 50.0%	2,381	700	▲ 1681	▲ 70.6%
輸送用機械器具製造業	3	1	▲ 2	▲ 66.7%	1,120	10	▲ 1110	▲ 99.1%
その他の製造業	6	12	+6	+100.0%	519	3,915	+3396	+654.3%
卸売業	81	76	▲ 5	▲ 6.2%	11,209	13,180	+1971	+17.6%
各種商品卸売業	1	3	+2	+200.0%	300	35	▲ 265	▲ 88.3%
繊維・衣服・繊維製品卸売業	14	12	▲ 2	▲ 14.3%	1,187	1,077	▲ 110	▲ 9.3%
飲食品卸売業	24	20	▲ 4	▲ 16.7%	4,231	4,789	+558	+13.2%
機械器具卸売業	11	16	+5	+45.5%	1,712	4,337	+2625	+153.3%
自動車・同付属品卸売業	5	3	▲ 2	▲ 40.0%	720	110	▲ 610	▲ 84.7%
木材・建築材料卸売業	7	5	▲ 2	▲ 28.6%	687	1,747	+1060	+154.3%
家具・建具・じゅう器卸売業	1	1	±0	±0.0%	10	10	±0	±0.0%
貴金属製品卸売業	3	0	▲ 3	▲ 100.0%	882	0	▲ 882	▲ 100.0%
その他の卸売業	15	16	+1	+6.7%	1,480	1,075	▲ 405	▲ 27.4%
小売業	185	171	▲ 14	▲ 7.6%	19,750	13,483	▲ 6267	▲ 31.7%
各種商品小売業	5	7	+2	+40.0%	330	356	+26	+7.9%
繊維・衣服・身のまわり品小売業	7	19	+12	+171.4%	9,157	826	▲ 8331	▲ 91.0%
飲食品小売業	38	33	▲ 5	▲ 13.2%	2,124	2,129	+5	+0.2%
飲食店	78	67	▲ 11	▲ 14.1%	4,368	4,076	▲ 292	▲ 6.7%
自動車・自転車小売業	16	10	▲ 6	▲ 37.5%	1,264	3,862	+2598	+205.5%
家具・じゅう器・家庭用機械器具小売業	7	7	±0	±0.0%	341	240	▲ 101	▲ 29.6%
その他の小売業	34	28	▲ 6	▲ 17.6%	2,166	1,994	▲ 172	▲ 7.9%
運輸・通信業	36	29	▲ 7	▲ 19.4%	3,773	966	▲ 2807	▲ 74.4%
運輸業	35	29	▲ 6	▲ 17.1%	3,743	966	▲ 2777	▲ 74.2%
郵便業、電気通信業	1	0	▲ 1	▲ 100.0%	30	0	▲ 30	▲ 100.0%
サービス業	220	196	▲ 24	▲ 10.9%	18,149	21,668	+3519	+19.4%
旅館、その他宿泊所	6	6	±0	±0.0%	884	2,181	+1297	+146.7%
娯楽業	9	15	+6	+66.7%	505	2,492	+1987	+393.5%
自動車整備業・駐車場業、修理業	9	9	±0	±0.0%	169	535	+366	+216.6%
広告・調査・情報サービス業	80	56	▲ 24	▲ 30.0%	9,970	9,854	▲ 116	▲ 1.2%
専門サービス業	36	35	▲ 1	▲ 2.8%	2,191	1,037	▲ 1154	▲ 52.7%
医療業	17	16	▲ 1	▲ 5.9%	1,478	1,732	+254	+17.2%
教育	2	3	+1	+50.0%	46	122	+76	+165.2%
その他サービス業	61	56	▲ 5	▲ 8.2%	2,906	3,715	+809	+27.8%
不動産業	25	20	▲ 5	▲ 20.0%	3,152	1,370	▲ 1782	▲ 56.5%
その他	34	32	▲ 2	▲ 5.9%	4,175	24,147	+19972	+478.4%
農業・林業・漁業	9	9	±0	±0.0%	1,495	1,177	▲ 318	▲ 21.3%
鉱業	0	0	—	—	0	0	—	—
金融・保険業	3	5	+2	+66.7%	2,460	16,310	+13850	+563.0%
その他	22	18	▲ 4	▲ 18.2%	220	6,660	+6440	+2927.3%
全業種	835	771	▲ 64	▲ 7.7%	93,388	111,248	+17860	+19.1%

主因別

「販売不振」が627件、全体の81.3%を占める

主因別にみると、「販売不振」が627件（前年同月680件、7.8%減）で最も多く、全体の81.3%（対前年同月0.1ポイント減）を占めた。その他、「売掛金回収難」（前年同月1件→4件、300.0%増）や「業界不振」（同2件→1件、50.0%減）などを含めた『不況型倒産』は632件（同684件、7.6%減）となり、6カ月ぶりに前年を下回った。

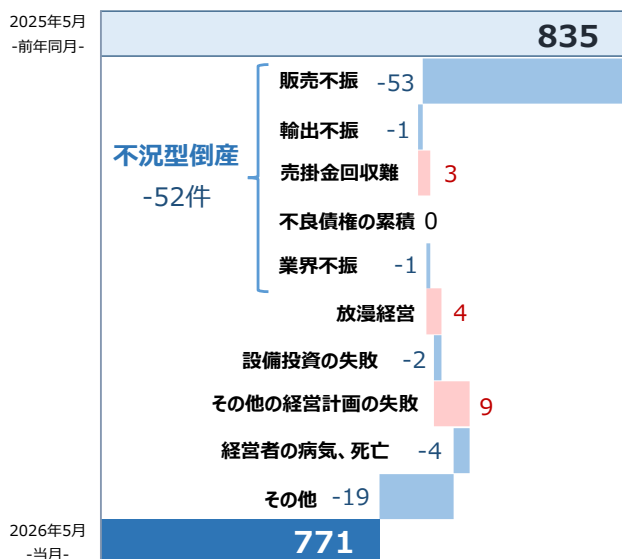
「設備投資の失敗」（前年同月4件→2件、50.0%減）は前年から半減し、「経営者の病気、死亡」（同35件→31件、11.4%減）は、4カ月ぶりに前年を下回った。一方、「その他の経営計画の失敗」（同13件→22件、69.2%増）は、2カ月連続で前年を上回った。

※倒産主因のうち、販売不振、輸出不振、売掛金回収難、不良債権の累積、業界不振を『不況型倒産』として集計

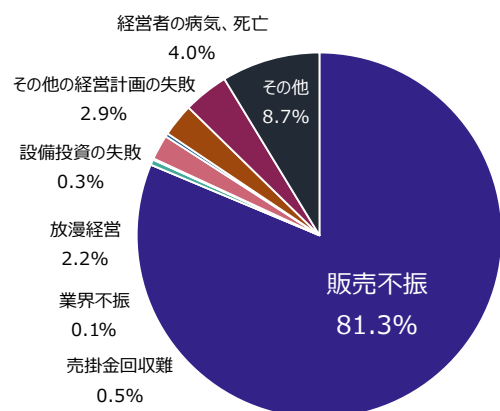
主因別	件数			構成比		
	2025年5月 -前年同月-	2026年5月 -当月-	前年同月比	2025年5月 -前年同月-	2026年5月 -当月-	対前年同月
	(件)	(件)	(件)			(ポイント)
販売不振	680	627	▲ 53 ▲ 7.8%	81.4%	81.3%	▲ 0.1
輸出不振	1	0	▲ 1 ▲ 100.0%	0.1%	0.0%	▲ 0.1
売掛金回収難	1	4	+3 +300.0%	0.1%	0.5%	+0.4
不良債権の累積	0	0	±0 —	0.0%	0.0%	±0.0
業界不振	2	1	▲ 1 ▲ 50.0%	0.2%	0.1%	▲ 0.1
「不況型」合計	684	632	▲ 52 ▲ 7.6%	81.9%	82.0%	+0.1
放漫経営	13	17	+4 +30.8%	1.6%	2.2%	+0.6
設備投資の失敗	4	2	▲ 2 ▲ 50.0%	0.5%	0.3%	▲ 0.2
その他の経営計画の失敗	13	22	+9 +69.2%	1.6%	2.9%	+1.3
経営者の病気、死亡	35	31	▲ 4 ▲ 11.4%	4.2%	4.0%	▲ 0.2
その他	86	67	▲ 19 ▲ 22.1%	10.3%	8.7%	▲ 1.6
合計	835	771	▲ 64 ▲ 7.7%	100.0%	100.0%	—

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100とはならない

主因別 増減分析



主因別 構成比



態様別

『再生型』倒産は27件、5月としては過去10年で最多

態様別にみると、『清算型』倒産は744件（前年同月821件、9.4%減）となり全体の96.5%を占めた。『再生型』倒産は27件（同14件、92.9%増）となり、5月としては過去10年で最多となった。

『清算型』では、「破産」が719件（前年同月783件、8.2%減）で6カ月ぶりに前年を下回った。「特別清算」は25件（同38件、34.2%減）と、5月としては4年ぶりに前年を下回った。

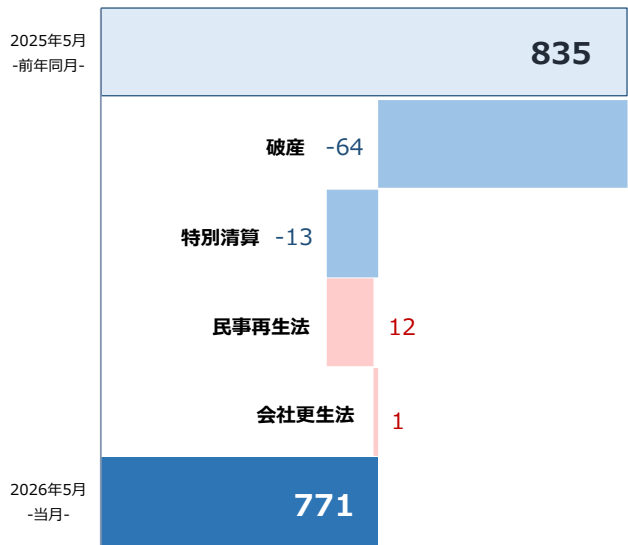
『再生型』では、「民事再生法」が26件（前年同月14件、85.7%増）と前年から大幅に増加し、3カ月連続で前年を上回った。このうち法人は8件、個人は18件だった。「会社更生法」は1件（同0件）だった。

態様別	件数			前年同月比
	2025年5月 -前年同月-	2026年5月 -当月-		
	(件)	(件)	(件)	
破産	783	719	▲ 64	▲ 8.2%
特別清算	38	25	▲ 13	▲ 34.2%
「清算型」合計	821	744	▲ 77	▲ 9.4%
民事再生法	14	26	+12	+85.7%
会社更生法	0	1	+1	—
「再生型」合計	14	27	+13	+92.9%
合計	835	771	▲ 64	▲ 7.7%

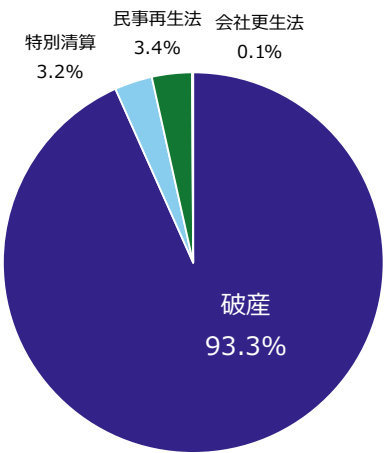
2025年5月 -前年同月-	構成比		対前年同月
	2025年5月 -前年同月-	2026年5月 -当月-	
			(ポイント)
	93.8%	93.3%	▲ 0.5
	4.6%	3.2%	▲ 1.4
	98.3%	96.5%	▲ 1.8
	1.7%	3.4%	+1.7
	0.0%	0.1%	+0.1
	1.7%	3.5%	+1.8
	100.0%	100.0%	—

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100とはならない

態様別 増減分析



態様別 構成比



規模別

負債「5000万円未満」が496件、全体の64.3%を占める

負債額を規模別にみると、「5000万円未満」が496件（前年同月527件、5.9%減）と全体の64.3%を占め、構成比は5月として2000年以降で最も高かった。「5000万円以上1億円未満」は98件（同113件、13.3%減）と、15カ月ぶりに100件を下回った。

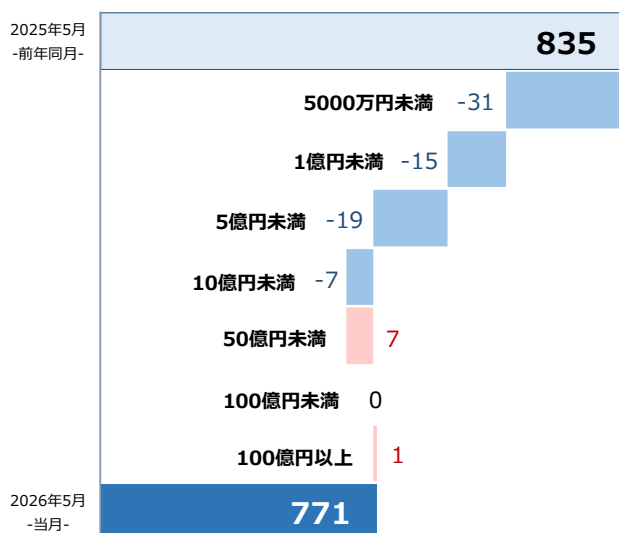
資本金を規模別にみると、『個人+1000万円未満』の倒産が566件（前年同月606件、6.6%減）で、全体の73.4%を占めた。5月としては2000年以降で3番目に多かった。

負債額規模別					構成比		
負債額規模別	2025年5月 -前年同月-	2026年5月 -当月-	前年同月比		2025年5月 -前年同月-	2026年5月 -当月-	対前年同月
	(件)	(件)	(件)				(ポイント)
5000万円未満	527	496	▲ 31	▲ 5.9%	63.1%	64.3%	+1.2
1億円未満	113	98	▲ 15	▲ 13.3%	13.5%	12.7%	▲ 0.8
5億円未満	162	143	▲ 19	▲ 11.7%	19.4%	18.5%	▲ 0.9
10億円未満	21	14	▲ 7	▲ 33.3%	2.5%	1.8%	▲ 0.7
50億円未満	11	18	+7	+63.6%	1.3%	2.3%	+1.0
100億円未満	1	1	±0	±0.0%	0.1%	0.1%	±0.0
100億円以上	0	1	+1	—	0.0%	0.1%	+0.1
合計	835	771	▲ 64	▲ 7.7%	100.0%	100.0%	—

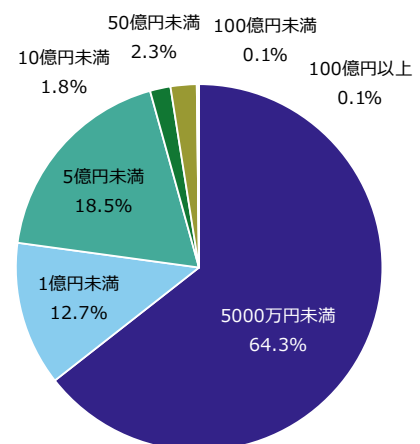
資本金規模別					構成比		
資本金規模別	2025年5月 -前年同月-	2026年5月 -当月-	前年同月比		2025年5月 -前年同月-	2026年5月 -当月-	対前年同月
	(件)	(件)	(件)				(ポイント)
個人事業主	148	136	▲ 12	▲ 8.1%	17.7%	17.6%	▲ 0.1
1000万円未満	458	430	▲ 28	▲ 6.1%	54.9%	55.8%	+0.9
「個人+1000万円未満」	606	566	▲ 40	▲ 6.6%	72.6%	73.4%	+0.8
5000万円未満	207	183	▲ 24	▲ 11.6%	24.8%	23.7%	▲ 1.1
1億円未満	18	16	▲ 2	▲ 11.1%	2.2%	2.1%	▲ 0.1
1億円以上	4	6	+2	+50.0%	0.5%	0.8%	+0.3
合計	835	771	▲ 64	▲ 7.7%	100.0%	100.0%	—

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100とはならない

負債額規模別 増減分析



負債額規模別 構成比



業歴別

業歴「10年以上15年未満」のみ増加、10カ月連続で前年を上回る

業歴別にみると、「30年以上」が249件（前年同月257件、3.1%減）で最多となるも、4カ月ぶりに前年を下回った。「15年未満」は123件（同97件、26.8%増）と唯一前年から増加し、10カ月連続で前年を上回った。

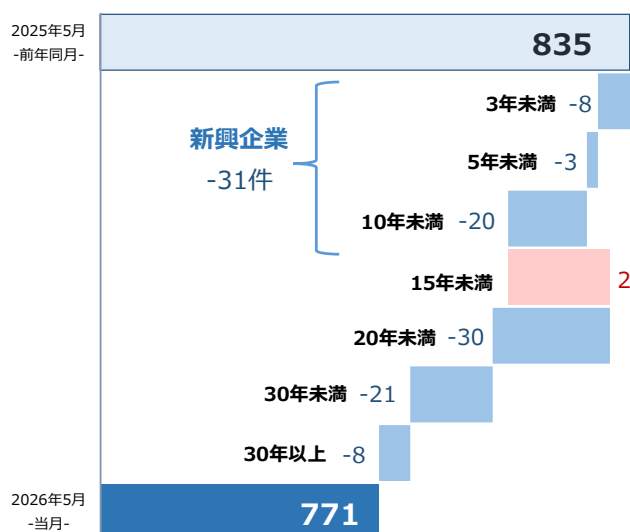
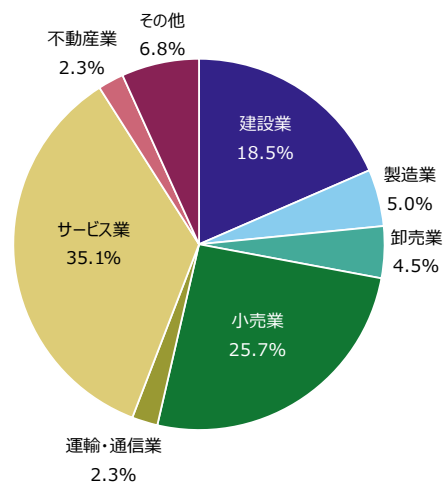
業歴10年未満の『新興企業』（「3年未満」（前年同月34件→26件、23.5%減）、「5年未満」（同48件→45件、6.3%減）、「10年未満」（同171件→151件、11.7%減））は222件（前年同月253件、12.3%減）となり、4カ月ぶりに前年を下回った。内訳を業種別にみると、「サービス業」（同86件→78件、9.3%減）が最も多く、「小売業」（同65件→57件、12.3%減）、「建設業」（同50件→41件、18.0%減）が続いた。主要7業種すべてで前年を下回った。

業歴別	件数		
	2025年5月 -前年同月-	2026年5月 -当月-	前年同月比
	(件)	(件)	(件)
3年未満	34	26	▲ 8 ▲ 23.5%
5年未満	48	45	▲ 3 ▲ 6.3%
10年未満	171	151	▲ 20 ▲ 11.7%
「新興企業」合計	253	222	▲ 31 ▲ 12.3%
15年未満	97	123	+26 +26.8%
20年未満	96	66	▲ 30 ▲ 31.3%
30年未満	132	111	▲ 21 ▲ 15.9%
30年以上	257	249	▲ 8 ▲ 3.1%
合計	835	771	▲ 64 ▲ 7.7%

	構成比	
	2025年5月 -前年同月-	2026年5月 -当月-
		対前年同月 (ポイント)
	4.1%	3.4% ▲ 0.7
	5.7%	5.8% +0.1
	20.5%	19.6% ▲ 0.9
	30.3%	28.8% ▲ 1.5
	11.6%	16.0% +4.4
	11.5%	8.6% ▲ 2.9
	15.8%	14.4% ▲ 1.4
	30.8%	32.3% +1.5
	100.0%	100.0% —

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100とはならない

業歴別 増減分析

新興企業
業種別 構成比

地域別

9 地域中 7 地域で前年を下回る 『近畿』は直近 2 年間で最も少なく

地域別にみると、9 地域中 7 地域で前年を下回った。『近畿』（前年同月 212 件→176 件、17.0%減）は 6 カ月ぶりに前年を下回り、直近 2 年間で最少となった。特に「大阪」（同 116 件→75 件）が 4 年ぶりに全国における構成比が 10%を下回った。『北海道』（同 23 件→21 件、8.7%減）は 7 カ月ぶりに前年を下回った。

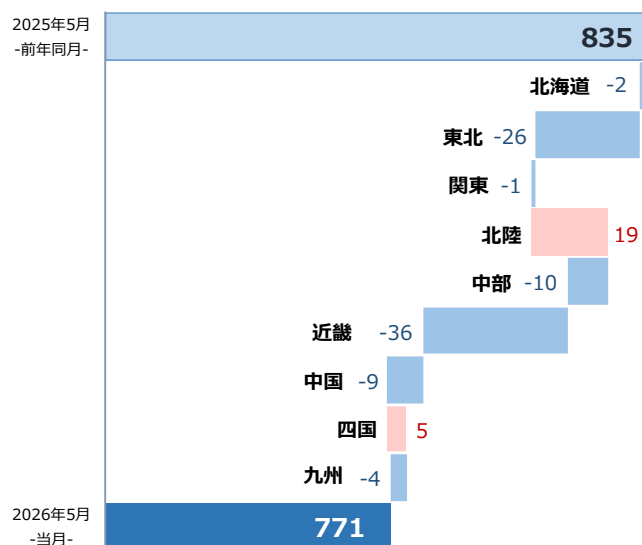
増減率でみると、『北陸』（前年同月 20 件→39 件、95.0%増）が最も高く、構成比は 5 月として 2000 年以降で最も高かった。『四国』（同 17 件→22 件、29.4%増）は、5 月としては過去 10 年で最多。一方、『東北』（同 61 件→35 件、42.6%減）は、5 カ月連続で前年を下回った。

47 都道府県中 25 道府県が前年を下回った。

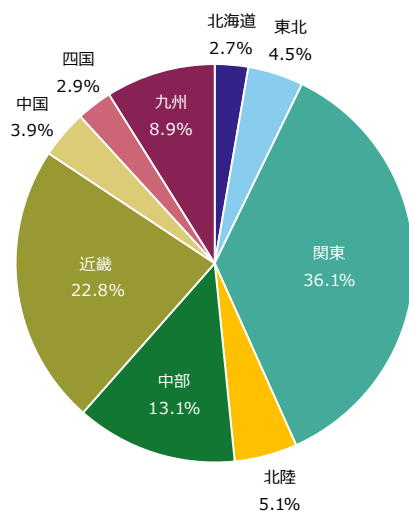
地域別	件数			構成比		
	2025年5月 -前年同月-	2026年5月 -当月-	前年同月比	2025年5月 -前年同月-	2026年5月 -当月-	対前年同月
	(件)	(件)	(件)			(ポイント)
北海道	23	21	▲ 2 ▲ 8.7%	2.8%	2.7%	▲ 0.1
東北	61	35	▲ 26 ▲ 42.6%	7.3%	4.5%	▲ 2.8
関東	279	278	▲ 1 ▲ 0.4%	33.4%	36.1%	+2.7
北陸	20	39	+19 +95.0%	2.4%	5.1%	+2.7
中部	111	101	▲ 10 ▲ 9.0%	13.3%	13.1%	▲ 0.2
近畿	212	176	▲ 36 ▲ 17.0%	25.4%	22.8%	▲ 2.6
中国	39	30	▲ 9 ▲ 23.1%	4.7%	3.9%	▲ 0.8
四国	17	22	+5 +29.4%	2.0%	2.9%	+0.9
九州	73	69	▲ 4 ▲ 5.5%	8.7%	8.9%	+0.2
合計	835	771	▲ 64 ▲ 7.7%	100.0%	100.0%	—

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100とはならない

地域別 増減分析



地域別 構成比



都道府県別 推移

都道府県別	件数				負債			
	2025年5月 -前年同月-	2026年5月 -当月-	前年同月比		2025年5月 -前年同月-	2026年5月 -当月-	前年同月比	
	(件)	(件)	(件)		(百万円)	(百万円)	(百万円)	
北海道	23	21	▲ 2	▲ 8.7%	3,392	1,773	▲ 1619	▲ 47.7%
青森県	6	8	+2	+33.3%	518	448	▲ 70	▲ 13.5%
岩手県	8	4	▲ 4	▲ 50.0%	811	1,098	+287	+35.4%
東 宮城県	17	11	▲ 6	▲ 35.3%	1,989	1,331	▲ 658	▲ 33.1%
北 秋田県	11	2	▲ 9	▲ 81.8%	1,156	370	▲ 786	▲ 68.0%
山形県	12	6	▲ 6	▲ 50.0%	1,605	180	▲ 1425	▲ 88.8%
福島県	7	4	▲ 3	▲ 42.9%	389	118	▲ 271	▲ 69.7%
茨城県	14	17	+3	+21.4%	2,389	2,075	▲ 314	▲ 13.1%
栃木県	18	10	▲ 8	▲ 44.4%	2,380	568	▲ 1812	▲ 76.1%
群馬県	10	13	+3	+30.0%	887	1,661	+774	+87.3%
関 埼玉県	29	24	▲ 5	▲ 17.2%	3,818	3,228	▲ 590	▲ 15.5%
東 千葉県	32	23	▲ 9	▲ 28.1%	2,373	2,822	+449	+18.9%
東京都	135	144	+9	+6.7%	15,272	35,415	+20143	+131.9%
神奈川県	41	47	+6	+14.6%	10,173	3,876	▲ 6297	▲ 61.9%
新潟県	7	13	+6	+85.7%	464	2,059	+1595	+343.8%
北 富山県	5	11	+6	+120.0%	416	1,537	+1121	+269.5%
陸 石川県	5	4	▲ 1	▲ 20.0%	249	194	▲ 55	▲ 22.1%
福井県	3	11	+8	+266.7%	648	533	▲ 115	▲ 17.7%
山梨県	4	5	+1	+25.0%	128	586	+458	+357.8%
長野県	8	12	+4	+50.0%	701	826	+125	+17.8%
中 岐阜県	16	12	▲ 4	▲ 25.0%	2,910	1,033	▲ 1877	▲ 64.5%
部 静岡県	12	16	+4	+33.3%	1,009	4,270	+3261	+323.2%
愛知県	65	48	▲ 17	▲ 26.2%	12,286	20,510	+8224	+66.9%
三重県	6	8	+2	+33.3%	793	645	▲ 148	▲ 18.7%
滋賀県	7	14	+7	+100.0%	237	3,477	+3240	+1367.1%
京都府	22	19	▲ 3	▲ 13.6%	2,713	1,110	▲ 1603	▲ 59.1%
近 大阪府	116	75	▲ 41	▲ 35.3%	8,498	4,242	▲ 4256	▲ 50.1%
畿 兵庫県	54	50	▲ 4	▲ 7.4%	3,098	5,386	+2288	+73.9%
奈良県	8	9	+1	+12.5%	130	338	+208	+160.0%
和歌山県	5	9	+4	+80.0%	70	180	+110	+157.1%
鳥取県	1	3	+2	+200.0%	40	93	+53	+132.5%
中 島根県	3	1	▲ 2	▲ 66.7%	152	10	▲ 142	▲ 93.4%
国 岡山県	12	9	▲ 3	▲ 25.0%	1,148	616	▲ 532	▲ 46.3%
広島県	16	13	▲ 3	▲ 18.8%	1,648	1,090	▲ 558	▲ 33.9%
山口県	7	4	▲ 3	▲ 42.9%	1,232	99	▲ 1133	▲ 92.0%
徳島県	5	9	+4	+80.0%	160	440	+280	+175.0%
四 香川県	8	5	▲ 3	▲ 37.5%	587	317	▲ 270	▲ 46.0%
国 愛媛県	2	6	+4	+200.0%	139	1,144	+1005	+723.0%
高知県	2	2	±0	±0.0%	214	54	▲ 160	▲ 74.8%
福岡県	39	38	▲ 1	▲ 2.6%	2,436	1,821	▲ 615	▲ 25.2%
佐賀県	1	4	+3	+300.0%	10	239	+229	+2290.0%
長崎県	3	4	+1	+33.3%	953	349	▲ 604	▲ 63.4%
九 熊本県	3	9	+6	+200.0%	160	435	+275	+171.9%
州 大分県	8	3	▲ 5	▲ 62.5%	666	126	▲ 540	▲ 81.1%
宮崎県	6	3	▲ 3	▲ 50.0%	682	964	+282	+41.3%
鹿児島県	8	5	▲ 3	▲ 37.5%	1,309	1,276	▲ 33	▲ 2.5%
沖縄県	5	3	▲ 2	▲ 40.0%	350	286	▲ 64	▲ 18.3%
全国	835	771	▲ 64	▲ 7.7%	93,388	111,248	+17860	+19.1%

注目の倒産動向-1

「塗装・防水工事業」の倒産動向（2026年1-5月）

中東情勢の影響拡大懸念　すでに資材調達面で制約も

倒産件数は2000年以降最多の昨年に迫るペース

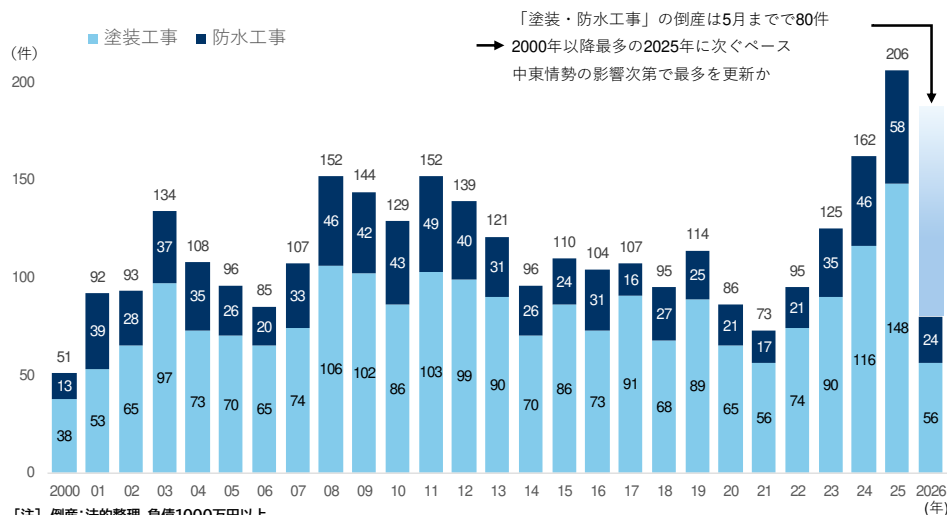
「塗装・防水工事」の2026年の倒産件数は、1月から5月までで80件発生（「塗装工事」は56件、「防水工事」は24件）。2000年以降で最多となった2025年（206件、うち1-5月は87件）に次ぐ高水準で推移している。負債額別では、1億円未満が69件と全体の86.3%を占め、小規模事業者の倒産が目立った。

塗装・防水工事は小規模事業者の割合が高く、建築作業工程のなかでも川下に位置するため、工期遅れのしわ寄せやコスト高による影響を受けやすい。コロナ禍以降、感染対策による効率低下や半導体不足に伴う住設機器の納入遅れなどにより、工期遅延の影響を直に受けた。その後も高齢化による職人の引退などで人手不足が慢性化し、人件費や外注費が上昇。塗料・防水材などの資材価格も高騰し続け、利益を圧迫している。

受注面では、リフォーム関連の需要こそ堅調なもの、新築住宅の着工件数は減少傾向にある。限られた発注工事を巡り、安い工事単価や短い工期で案件を確保しようとする競争が散見される。その結果、想定を上回る人件費・外注費の発生や、前工程での人手不足・コスト高による工期遅延が重なって不採算化し、資金繰りに行き詰まる企業が増加している。

塗装・防水工事ではナフサ由来の溶剤が多く用いられるほか、養生シートや容器などの副資材もナフサを原料としているため、今後は中東情勢によるナフサ不足の影響拡大が懸念される。現場ではすでに塗料や防水材の値上がり幅が不透明で工事金額の見積もり提示が困難となるケースや、資材調達の遅れによる工期遅延も発生している。今後、ナフサ製品の供給不安が解消されなければ、倒産件数は2025年を上回って2000年以降で最多を更新する可能性もある。

「塗装・防水工事」の倒産 推移

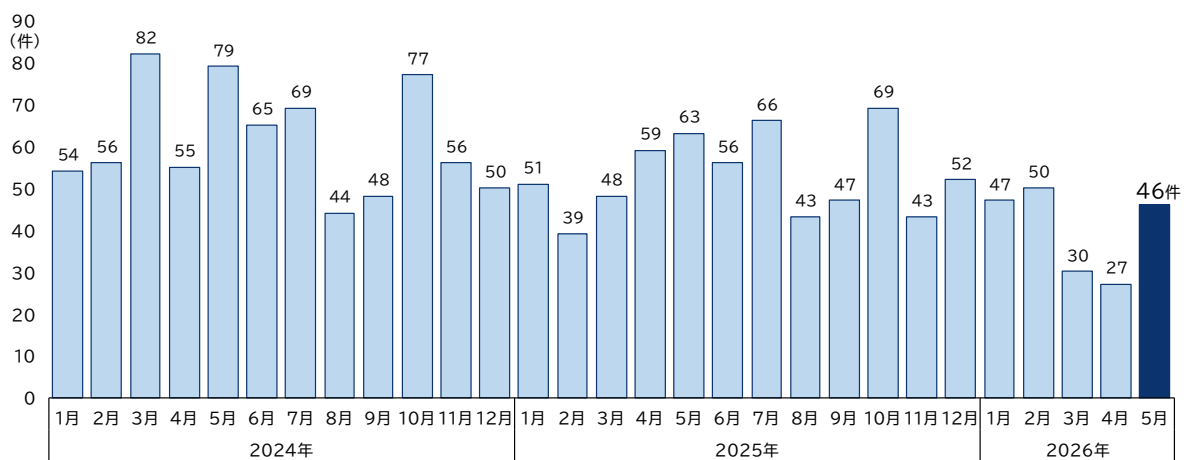


ゼロゼロ（コロナ）融資後倒産

ゼロゼロ（コロナ）融資後倒産は 46 件判明 3 カ月連続で前年を下回る

「ゼロゼロ（コロナ）融資後倒産」は、46 件（前年同月 63 件、27.0%減）判明し、3 カ月連続で前年を下回った。業種別にみると、『製造業』が 12 件で最も多く、『建設業』が 10 件、『小売業』『サービス業』が各 8 件で続いた。負債額を規模別にみると「1 億円以上 5 億円未満」が 23 件で最多となった。

「ゼロゼロ(コロナ)融資後倒産」推移

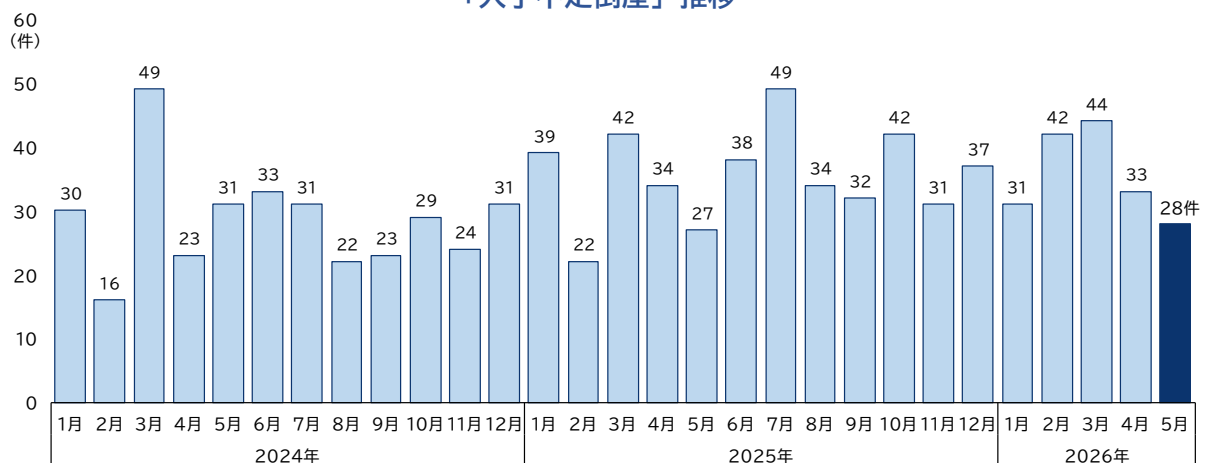


人手不足倒産

人手不足倒産は 28 件判明 1 年ぶりに 30 件を下回る

「人手不足倒産」は、28 件（前年同月 27 件、3.7%増）判明し、2 カ月ぶりに前年を上回った。2026 年 1-5 月の累計は 178 件と、前年同期（164 件）を上回ったものの、単月としては 1 年ぶりに 30 件を下回った。業種別にみると、『建設業』が 11 件で最も多く、『サービス業』が 7 件で続いた。従業員数別にみると、「10 人未満」が 27 件と全体の 96.4%を占めた。

「人手不足倒産」推移



注目の倒産動向-2

「経営コンサルティング業者」の倒産・休廃業解散動向（2026 年 1-5 月）

「経営コンサル」倒産・廃業が過去最多ペース AI 台頭で「補助金頼み」限界

コンサル市場は 4 兆円突破も伸び鈍化、拡大期から転換鮮明

2026 年 1-5 月に発生した「経営コンサルティング」業の倒産（負債 1000 万円以上、法的整理）・休廃業解散（以下、「廃業」）の累計は 242 件判明した。前年通年の件数（計 568 件）を約 1 割上回るペースで推移しており、年間では 2000 年以降で最多となる 600 件超のコンサル事業者が市場から退出する可能性がある。生成 AI の性能進化でデータ収集・分析や資料作成などのコモディティ化が進むなか、専門性で差別化できない事業者の行き詰まりが表面化しており、コンサル業の淘汰が鮮明となっている。2026 年に発生した経営コンサルティング業の倒産は 74 件となり、集計を開始した 2000 年以降で最多だった前年（167 件、1-5 月：69 件）を上回るペースで推移した。休廃業・解散は 168 件に上り、前年同期（149 件）を 19 件・12.8%上回る水準で推移した。

経営コンサルでは、行政向け申請書類の作成といった「代行業」に依存していた事業者や、中古車・LED を用いた節税スキームの指南など、実体的な付加価値を提供せず制度の「さや抜き」を主目的としていた事業者の破綻が目立つ。特に、コロナ禍における IT ツール導入に伴う「IT 補助金」（現：デジタル化・AI 導入補助金）の申請代行は、審査の厳格化や参入増、顧客需要の一巡によりビジネスモデルとして成立しなくなり、受注環境が急速に悪化した。売上高の急減や高コスト体質による業績の悪化を招きやすく、資金繰りが破綻して事業継続を断念するケースが相次いだ。

国内の経営コンサルティング市場（事業者売上高ベース）は 2023 年度に 4 兆円を突破し、足元では従業員数も 17 万人に達した。顧客ニーズがリスクマネジメントや M&A、新規事業開拓といった高度で本質的な「課題解決」へシフトするなか、足元では基礎的なリサーチや汎用的な研修コンテンツが生成 AI によって急速に代替されている。専門性による差別化を図れず、申請代行などの労働集約的・制度依存的なビジネスから脱却できないコンサルティング事業者は、生成 AI の台頭による下押し圧力に耐えきれず、今後さらに淘汰が加速するとみられる。

「経営コンサルティング業界」

倒産・休廃業解散件数 推移

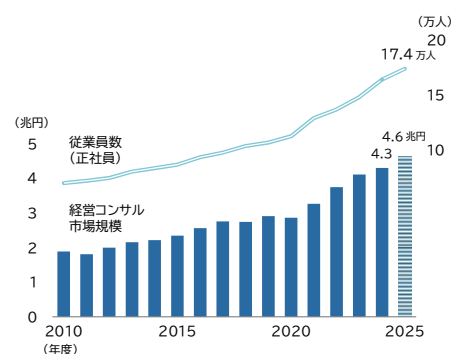


【注1】「倒産」：負債1,000万円以上の法的整理

【注2】「休廃業・解散」：特段の手続きを取らずに企業活動が停止した状態を確認(休廃業)、もしくは商業登記等で解散(ただし「みなし解散」を除く)を確認した企業

国内コンサルティング市場の動向

(事業者売上高ベース)



【注1】市場規模は事業者売上高ベース(一部推定値を含む)、最新の業績数値に基づく

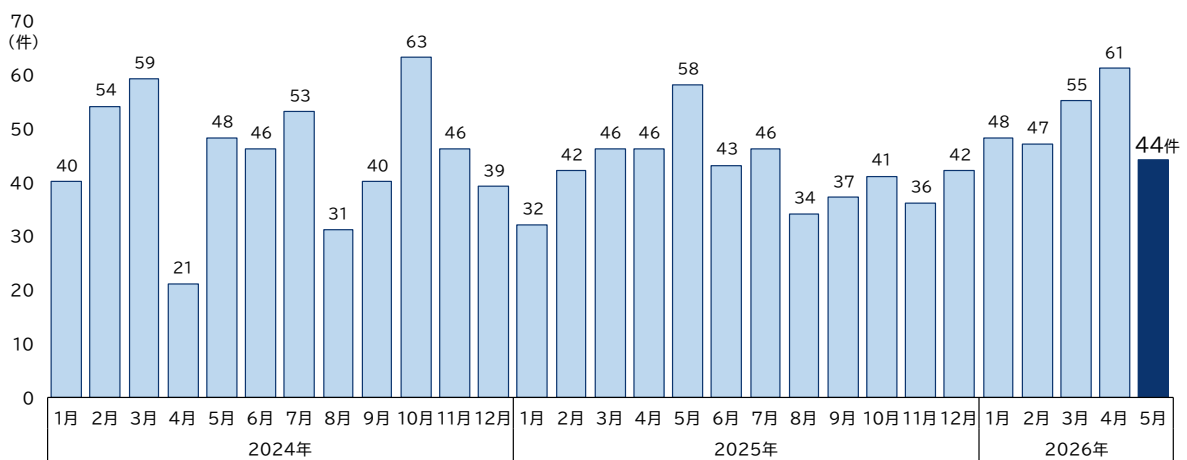
【注2】従業員数は各年3月末時点のデータに基づく

後継者難倒産

後継者難倒産は 44 件判明 6 カ月ぶりに前年を下回る

「後継者難倒産」は、44 件（前年同月 58 件、24.1%減）判明し、6 カ月ぶりに前年を下回った。業種別にみると、『小売業』が 12 件で最も多く、『建設業』『サービス業』が各 10 件で続いた。負債額を規模別にみると「1000 万円以上 5000 万円未満」が 23 件で最多となり、全体の半数以上を占めた。

「後継者難倒産」推移

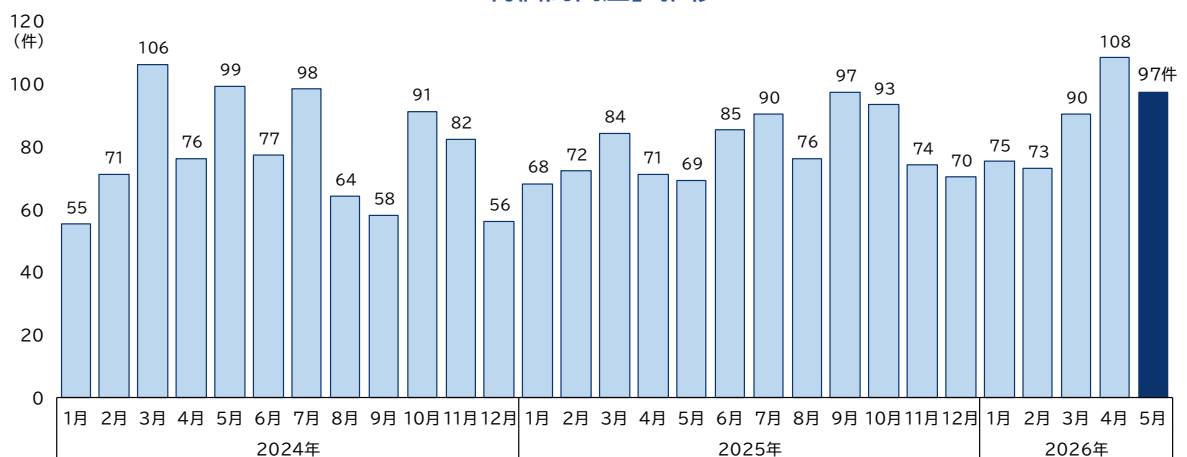


物価高倒産

物価高倒産は 97 件判明 100 件近い高水準で推移

「物価高倒産」は、97 件（前年同月 69 件、40.6%増）判明し、6 カ月連続で前年を上回った。前月（108 件）に続き、100 件近い高水準で推移した。業種別にみると、『製造業』が 22 件で最多、『建設業』が 20 件で続いた。要因別にみると、「原材料（価格の高騰）」によるものが 49 件で最多、「エネルギーコスト」が 20 件、「人件費」が 19 件で続いた。

「物価高倒産」推移



今後の見通し

倒産件数、6 カ月ぶりに前年を下回る

2026 年 5 月の全国企業倒産は 771 件となり、前年同月（835 件）から 64 件減少（7.7%減）、6 カ月ぶりに前年を下回った。減少は一時的なものと考えられ、2026 年 1-5 月の累計件数（4307 件）では前年同期（4134 件）を 173 件上回っている。とくに「建設業」では 1-5 月の累計が 844 件と、前年同期（799 件）を 45 件上回るなど増加が目立つ。中東情勢の影響を受け、企業からは「材料価格を中心に物価上昇の高止まりを予想しているため、厳しい状況が続くと考えている」（塗装工事）など、先行きを懸念する声が寄せられており、引き続き同業界の動向が注目される。

負債総額は 1112 億 4800 万円（前年同月 933 億 8800 万円、19.1%増）となり、3 カ月連続で前年を上回った。負債トップは、東証スタンダード上場で携帯電話ショップの運営などを手がけるグループの持ち株会社㈱トーシンホールディングス（愛知、負債 162 億円、会社更生法）で、㈱オルツ（東京、2025 年 7 月、民事再生法）以来、10 カ月ぶりに上場企業の倒産が発生した。負債規模別では「10 億以上 50 億円未満」が 18 件発生、1-5 月の累計では 91 件（前年同期 71 件）と、規模感ある倒産が増えているのは気になるところだ。

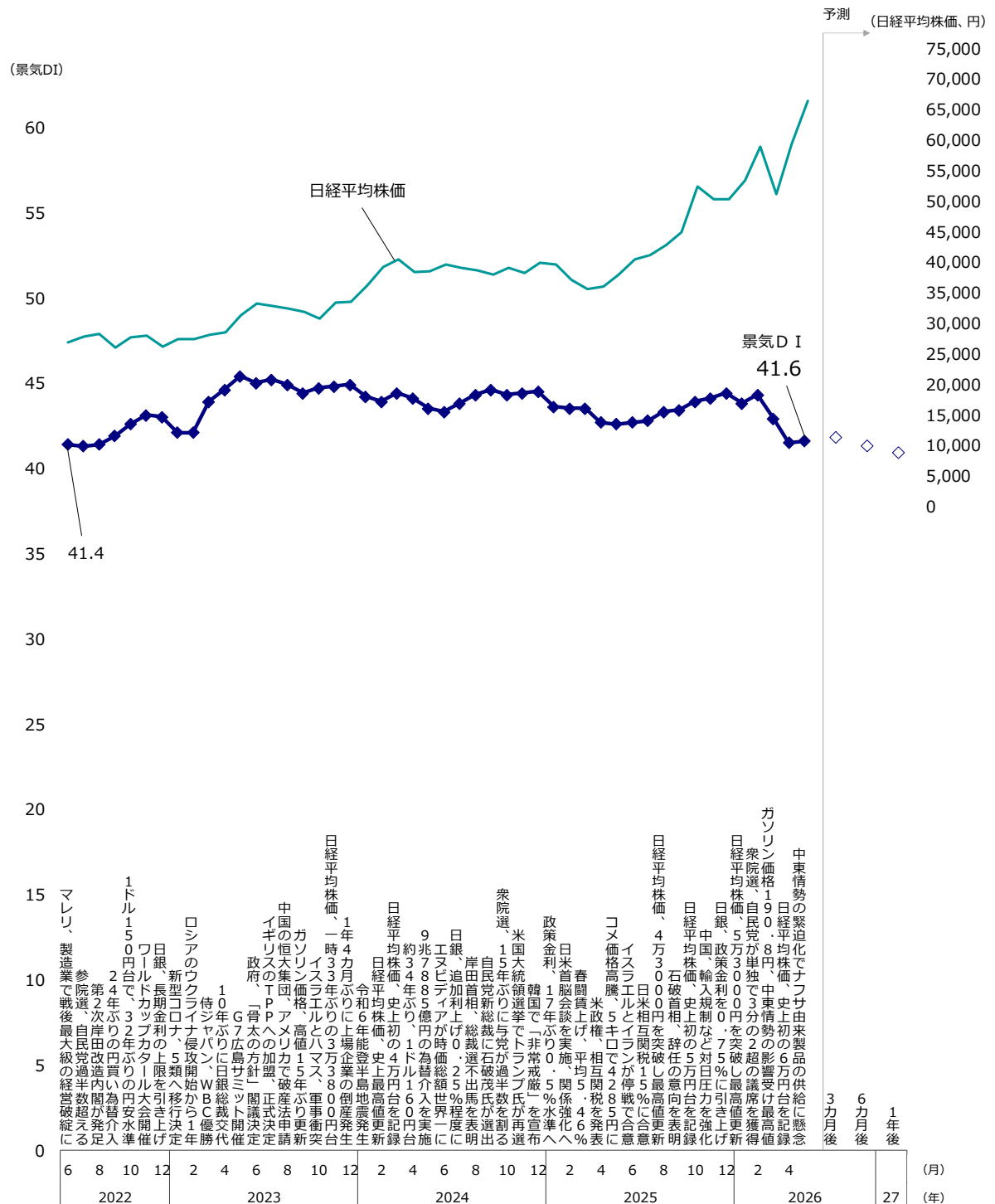
食品フィルムやトレー類などの値上げで食品価格が上昇

日本銀行が発表した国内企業物価指数（4 月速報）は、ナフサをはじめとした石油製品などのほか、エチレンなど化学製品の価格高騰を背景として、132.8（2000 年平均＝100）となり、前年比 4.9%上昇した。中東情勢を背景とした原材料費やエネルギー価格高騰の影響を強く受ける分野において、現状、企業からは「価格転嫁が追い付かない」といった声が目立つが、今後、価格転嫁が進むことで消費者物価がさらに上昇することが見込まれる。帝国データバンクが発表した『「食品主要 195 社」価格改定動向調査（6 月速報）』によると、2026 年通年の飲食料品値上げ品目数の累計（1～10 月）は 1 万 1157 品目判明、食品フィルム、トレー類などで大幅な値上げや品薄状態といった影響が表面化している。7 月以降も引き続き価格改定の増加が見込まれるなか、今春の賃上げ効果が吸収され、消費者の節約志向がさらに高まる可能性が高い。

大手と中小企業で広がる格差

従前からのコロナ禍の影響や物価高によって企業体力が弱っていた企業では、今回の中東情勢による先行き不安が追い打ちをかけ倒産したケースがみられるが、原油由来の製品の供給制約や急激な価格上昇が明確な要因となって倒産に至ったケースは 5 月末時点で発生していない。政府は急激な供給不足に対する過剰発注と過剰な在庫確保を背景とした流通の目詰まりを解消すべく、関係省庁に設置した情報提供窓口を通じてサプライチェーンの情報収集と情報共有に努めている。こうした取り組みによって先行きへの不安解消に向かうことに期待したいところだが、調達ルートの確保とコスト上昇への対応力、価格転嫁という面において、大手企業と中小企業では今後、さらに格差が拡大する可能性がある。加えて、長引く円安や人件費高騰などによるコスト上昇、長期金利上昇による資金繰りや設備投資への影響と消費マインドの低下など、倒産を押し上げるリスク要因は多い。AI、半導体関連分野が株価、国内景気をけん引している一面はあるが、内需型産業を中心に企業間格差は広がり、引き続き倒産は増加傾向を辿るものとみられる。

小幅改善



出所：6月3日発表、TDB景気動向調査（全国）— 2026年5月調査 —

(DIは、0～100までの範囲で変化し、50が判断の分かれ目となる。調査開始は2002年5月)

URL : <https://www.tdb.co.jp/report/economic/#trends>

※日経平均株価は月末終値

2026 年 5 月 主な倒産

TDB 企業コード	商号	業種	負債 (百万円)	資本金 (千円)	態様	所在地
400694341	(株)トーシンホールディングス	持ち株会社	16,200	742,099	会社更生法	愛知県
833061835	(株)ゼクサバース	メタバース・ブロックチェーン事業	7,444	3,000	破産	東京都
989794402	(株)キュアテックス	和紙繊維製品の製造販売	3,200	90,000	破産	東京都
968038056	(株)ブラウド	中古車販売	3,153	7,000	破産	静岡県
826013909	(株)ナイルワークス	農業用ドローン事業	2,500	97,827	特別清算	埼玉県
716065159	E V 充電インフラ 2 号合同会社	充電インフラ整備	2,500	100	民事再生法	東京都
014061803	ENECHANGE EVラボ(株)	EV充電器販売	2,400	5,000	民事再生法	東京都
581569902	(株)トーシン	ペットボトルリサイクル事業	2,331	20,000	民事再生法	滋賀県
867062546	E V 充電インフラ 1 号合同会社	充電インフラ整備	2,300	100	民事再生法	東京都
988835341	(株)圏央	上水道布設替工事	2,212	40,000	破産	東京都
921001935	(株)大興	路面補修工事	1,740	40,000	破産	東京都
423069472	ミライズエネチェンジ(株)	EV充電事業	1,700	100,000	民事再生法	東京都
340114078	(株)山口 (旧：やまきホテル(株))	ホテル	1,504	15,000	破産	新潟県
261044704	(株)シバショウ	冷凍水産加工品製造	1,472	10,000	破産	千葉県
985084651	(株)小野部製函所	紙器製造	1,333	81,000	破産	東京都
580594938	(株)協和精機製作所	金型設計・製造	1,317	31,250	特別清算	兵庫県
981419773	(株)メリータイムフーズ	水産加工品卸	1,200	10,000	破産	東京都
580029816	(株)山王	木材・合板卸	1,160	41,400	破産	大阪府
250430444	(株)プロスパー	飲食店	1,037	10,000	特別清算	茨城県
201690495	(株)ホクト	「塩たらこ」製造加工	1,000	10,000	破産	神奈川県
880000361	岩下産業(株)	パチンコホール	882	10,000	特別清算	宮崎県
478037667	(有)善	資材卸	825	3,000	破産	東京都
370251514	(株)オーパス	フィットネスクラブ	823	82,000	破産	富山県
200234533	トミタテクノロジー(株)	施設園芸設備製造	700	30,000	民事再生法	神奈川県
915009132	医療法人社団ほがらか会	有床診療所	679	0	破産	兵庫県

主な倒産事例

今年初の上場倒産、不正会計が発覚

トーシンホールディングス

㈱トーシンホールディングスは、5月8日に東京地裁へ会社更生法の適用を申請し、同日更生手続き開始決定を受けた。

当社は、1988年（昭和63年）4月に設立された。携帯電話ショップ運営を主体とした移動体通信関連事業などを展開するトーシングループの純粋持ち株会社。そのほか不動産賃貸やゴルフ場運営などを手がける企業を傘下として、2025年4月期の年売上高は当社単体で約12億4300万円、連結決算では約174億7700万円を計上していた。

しかし、過年度決算において売上高の過大計上や売掛金、棚卸資産の架空計上・水増しなどが発覚。2025年11月22日付で、東京証券取引所により当社株式が特別注意銘柄に指定されたことで、取引金融機関との間の借入契約のコベナントに抵触する状況となっていた。そのため、事業価値の毀損を防止しつつ安定的な再建を図るため、DIP型の会社更生手続きを利用し、再建を目指すこととなった。本件については、東京証券取引所に対して再建計画の審査を求めた結果、更生手続きの申し立てに関わらず、当面の上場が維持される形態となっている。

負債は、債権者約20名に対し約162億円（弁済を伴う商取引債権等を除いた負債総額）。

今後は、三井住友銀行との間で極度額7億円の当座貸越枠の設定（DIPファイナンス）を受けながら、ガバナンス体制の強化やスポンサー探索による再建を目指す方針。

なお、商取引債権は裁判所許可のもと全て約定通りの支払いを継続するほか、子会社の更生手続きは行わないとしている。

EV普及が想定を大きく下回る

ミライズエネチェンジなど4社

ミライズエネチェンジ㈱など4社は、5月26日に東京地裁より再生手続き開始決定を受けた。

当社は、2025年（令和7年）1月、東証グロース上場のENECHANGE㈱と中部電力ミライズ㈱の合弁会社として設立された。ENECHANGE㈱が展開するEV充電事業を承継する形で、同社と全国各地の宿泊施設、商業施設、ゴルフ場などの施設に設置されている普通充電器を利用してEV充電ができるサービスとして「エネチェンジEVチャージ」を展開する計画を進めていた。

しかし、EVの普及の進展が想定を下回り、EV充電器の稼働率が低水準にとどまったことから、収益を十分に確保できない状況となっていた。また、EV充電器の設置コストが上昇したことなどから、2026年3月期の年売上高は約9100万円にとどまり、約66億2300万円の当期純損失を計上。事業の継続を模索したが、5月20日以降に弁済期が到来する債務を弁済するメドが立たなくなったことから、5月19日に民事再生法の適用を申請していた。

負債は4社合計で約89億円。

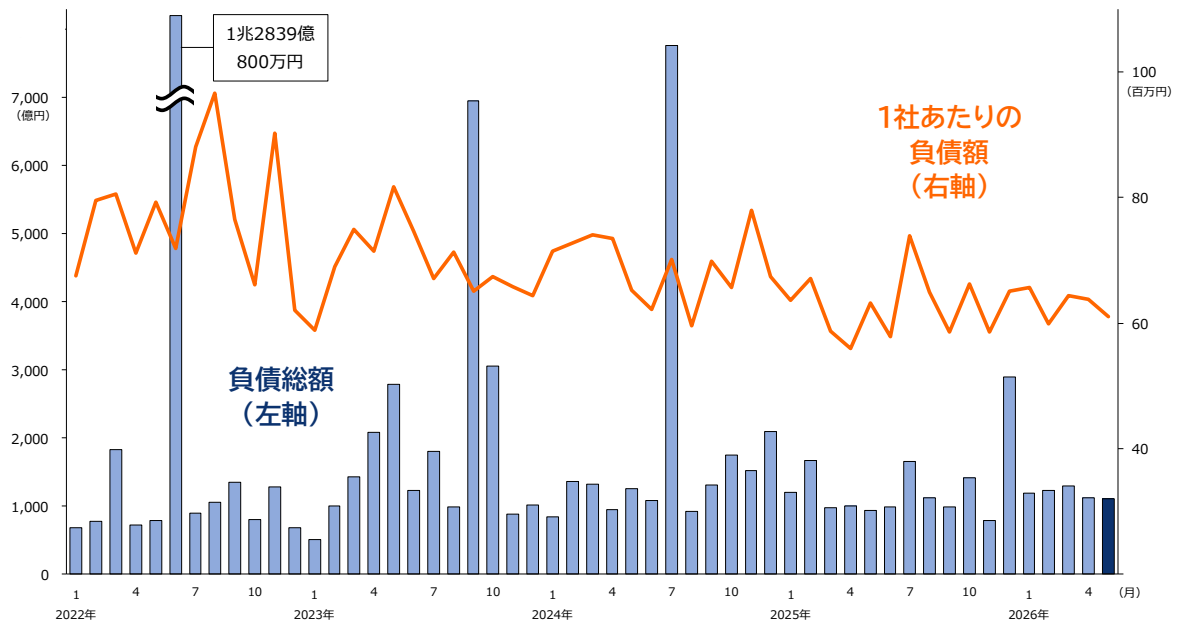
2026 年 主な倒産

TDB 企業コード	商号	業種	負債 (百万円)	態様	所在地	倒産月
095008185	(株)福島建設資材	グループの資金調達	33,293	破産	東京都	2月
400694341	(株)トーシンホールディングス	持ち株会社	16,200	会社更生法	愛知県	5月
440168760	(株)三河カントリークラブ	ゴルフ場	12,000	民事再生法	愛知県	3月
581127016	(株)ホクシンメディカル	医療機器卸	11,179	破産	兵庫県	3月
833061835	(株)ゼクサバース	メタバース・ブロックチェーン事業	7,444	破産	東京都	5月
010175477	札証物産(株)	建物売買	6,000	民事再生法	北海道	3月
982449230	ジュピターコーヒー(株)	コーヒー豆販売	5,903	民事再生法	東京都	1月
028053948	(株)EVモーターズ・ジャパン	EVバスなど電気自動車販売	5,700	民事再生法	福岡県	4月
904024936	米子バイオマス発電合同会社	バイオマス発電	4,969	民事再生法	東京都	2月
681012290	ソヤノウッドパワー(株)	元・木質バイオマス発電	4,600	特別清算	長野県	1月
230141177	プリオホールディングス(株)	持ち株会社 (結婚式場運営)	4,100	破産	群馬県	1月
985132660	(株)狩野組	水道工事	3,600	破産	東京都	1月
370109453	(有)寺尾温泉	旅館・ホテル	3,459	破産	富山県	3月
440022371	タイコウハウス(株)	木造建築工事	3,424	破産	愛知県	3月
989794402	(株)キュアテックス	和紙繊維製品の製造販売	3,200	破産	東京都	5月
968038056	(株)ブラウド	中古車販売	3,153	破産	静岡県	5月
240507045	アサヒフード(株)	工事現場の売店・食堂	3,129	破産	栃木県	3月
380072016	(株)M F	パッケージ印刷	3,100	特別清算	石川県	1月
800234351	(株)占部組	建築工事	2,952	破産	福岡県	4月
380023890	(株)M P	パッケージ印刷	2,900	特別清算	石川県	1月
696059327	(株)アマデウス (旧：MM社債投資(株))	投資業	2,872	特別清算	兵庫県	4月
800774185	(株)T - S C O R E	内装工事	2,841	破産	福岡県	2月
680015386	(株)K G H 整理会社	温泉旅館	2,822	特別清算	鳥取県	4月
527021095	(株)K アグリ茨城	トマト農場	2,800	破産	東京都	4月
200578211	(株)三徳	活貝卸	2,700	破産	神奈川県	3月

※網掛けは当月に発生した倒産

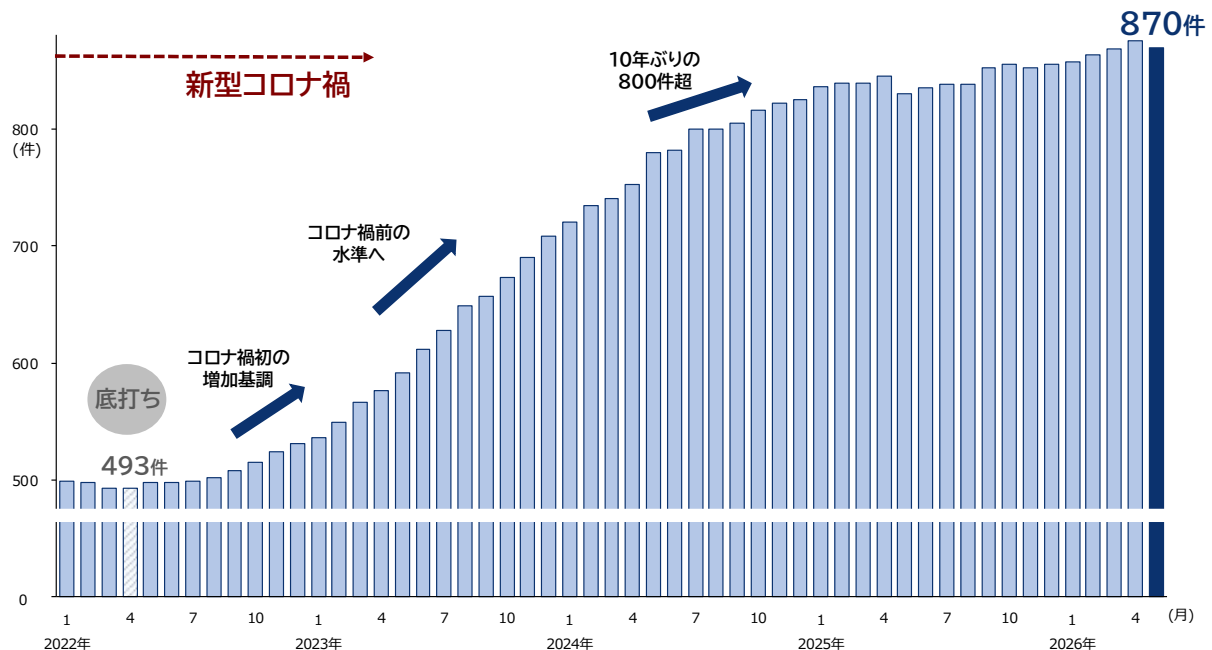
1 社あたりの負債額推移

倒産企業 1 社あたりの負債額（トリム平均上下 5%）は約 6100 万円となり、3 カ月ぶりに前年を下回った。



倒産件数の移動平均（12 カ月平均）

倒産件数の移動平均は、870 件（前年同月 830 件、4.8%増）と、44 カ月連続で前年を上回った。増加率は 8 カ月連続で 5.0%を下回り、微増傾向にある。



※倒産の発生には、決算の集中度合いや営業日数の増減などの季節要因が大きく影響するため、単月ベースでの単純比較には限界がある。そこで、長期的な倒産トレンドを分析するため、各月を基点として過去 12 カ月の倒産件数を平均した「移動平均」のデータを用いて、2022 年 1 月以降の倒産の趨勢を分析した



倒産件数・負債総額の推移(1970年(昭和45年)～2026年(令和8年))

月	1970年(昭和45年)		1971年(昭和46年)		1972年(昭和47年)		1973年(昭和48年)		1974年(昭和49年)		1975年(昭和50年)	
	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)
1	564	37,911	620	47,233	541	34,377	447	25,927	809	79,134	858	126,071
2	618	49,462	783	54,766	558	40,693	491	42,358	851	98,880	887	98,254
3	792	54,328	917	96,663	670	43,736	617	37,969	1,081	121,227	1,027	130,144
4	850	55,414	766	68,114	598	44,994	591	38,688	974	110,069	936	113,494
5	803	55,524	813	52,432	637	61,677	696	96,938	988	180,290	958	102,504
6	778	70,093	680	50,551	584	33,402	594	55,679	849	125,747	889	113,206
7	835	61,570	740	50,854	556	37,269	634	52,331	877	159,526	948	128,507
8	767	47,532	682	51,330	525	26,203	717	61,762	938	106,566	976	271,535
9	815	62,042	742	47,295	587	37,041	738	53,053	932	189,483	1,038	258,886
10	971	71,287	841	64,300	621	49,494	889	77,068	1,109	143,196	1,279	135,652
11	882	75,372	778	51,190	637	35,174	872	65,284	1,115	163,235	1,315	241,836
12	980	73,919	785	66,875	626	39,098	917	96,963	1,182	155,333	1,494	193,321
合計	9,655	714,454	9,147	701,603	7,140	483,158	8,203	704,020	11,705	1,632,686	12,605	1,913,410

月	1976年(昭和51年)		1977年(昭和52年)		1978年(昭和53年)		1979年(昭和54年)		1980年(昭和55年)		1981年(昭和56年)	
	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)
1	1,078	132,215	1,285	201,996	1,142	177,522	1,024	115,329	1,189	225,070	1,314	202,465
2	1,088	172,348	1,364	191,226	1,211	492,138	1,043	216,272	1,275	204,824	1,326	221,386
3	1,224	214,346	1,706	265,572	1,518	243,166	1,338	150,489	1,446	218,409	1,598	379,765
4	1,206	165,864	1,582	251,383	1,341	236,657	1,194	149,467	1,482	199,176	1,437	201,721
5	1,218	158,882	1,653	352,987	1,364	193,483	1,368	153,899	1,571	223,957	1,542	248,925
6	1,184	145,318	1,526	211,981	1,324	163,739	1,252	207,706	1,383	237,145	1,422	165,536
7	1,223	139,554	1,415	199,063	1,292	199,538	1,273	205,742	1,506	220,649	1,425	169,700
8	1,288	154,077	1,537	299,666	1,255	135,981	1,333	154,617	1,472	225,019	1,361	158,951
9	1,357	173,160	1,541	241,861	1,184	145,087	1,343	157,553	1,608	243,518	1,423	156,627
10	1,489	258,733	1,597	223,100	1,387	194,261	1,515	189,824	1,667	244,245	1,583	210,351
11	1,597	340,342	1,604	261,521	1,483	166,562	1,682	259,929	1,632	258,714	1,587	312,175
12	1,686	214,657	1,661	280,539	1,374	127,121	1,665	231,066	1,653	206,263	1,592	263,991
合計	15,638	2,269,496	18,471	2,980,895	15,875	2,475,255	16,030	2,191,893	17,884	2,706,989	17,610	2,691,593

月	1982年(昭和57年)		1983年(昭和58年)		1984年(昭和59年)		1985年(昭和60年)		1986年(昭和61年)		1987年(昭和62年)	
	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)
1	1,239	153,112	1,252	137,746	1,494	208,495	1,482	204,548	1,285	248,787	1,202	288,562
2	1,274	161,073	1,334	202,553	1,638	367,553	1,418	208,354	1,257	326,439	1,070	145,528
3	1,512	254,326	1,668	227,051	1,926	324,970	1,680	313,394	1,545	305,571	1,225	198,210
4	1,485	187,088	1,497	211,696	1,757	243,038	1,610	279,032	1,568	593,117	1,107	173,616
5	1,457	183,895	1,579	233,417	1,966	274,981	1,754	277,944	1,633	402,946	1,108	140,527
6	1,405	171,932	1,632	231,860	1,618	305,696	1,516	332,604	1,462	249,742	1,020	152,631
7	1,376	184,421	1,456	195,287	1,664	466,517	1,578	532,657	1,449	299,685	1,004	202,415
8	1,314	192,235	1,606	264,210	1,681	268,104	1,483	862,020	1,364	320,948	967	113,376
9	1,377	202,218	1,708	193,156	1,646	247,639	1,445	365,845	1,405	268,829	956	137,907
10	1,578	210,812	1,785	192,583	1,887	353,176	1,762	241,260	1,641	248,425	1,063	107,366
11	1,548	259,614	1,822	227,258	1,727	291,312	1,526	285,436	1,421	223,918	957	127,452
12	1,557	194,597	1,816	247,174	1,837	274,396	1,558	282,893	1,446	263,116	976	267,029
合計	17,122	2,355,323	19,155	2,563,991	20,841	3,625,877	18,812	4,185,987	17,476	3,751,523	12,655	2,054,619

月	1988年(昭和63年)		1989年(平成元年)		1990年(平成2年)		1991年(平成3年)		1992年(平成4年)		1993年(平成5年)	
	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)
1	901	134,549	605	68,443	456	58,161	646	642,340	949	448,225	960	240,348
2	822	124,454	596	74,877	447	76,011	676	329,158	1,056	457,080	1,113	443,660
3	972	176,325	786	112,283	503	73,200	773	791,340	1,134	671,287	1,340	775,294
4	955	148,758	677	84,947	525	211,225	835	855,067	1,111	766,043	1,154	337,607
5	886	143,888	661	99,608	502	186,178	892	442,615	1,158	571,499	1,113	661,206
6	826	240,704	634	82,099	515	88,191	901	365,723	1,171	375,174	1,140	464,549
7	725	122,512	552	211,858	483	86,715	875	631,855	1,213	784,061	1,129	601,327
8	795	114,864	561	79,134	513	125,317	895	957,235	1,154	380,112	1,192	427,510
9	722	171,837	567	97,264	532	89,234	846	565,655	1,145	706,716	1,185	436,457
10	882	302,299	588	106,773	645	147,935	1,070	784,914	1,294	760,020	1,258	418,570
11	816	249,193	515	86,264	634	315,337	1,110	725,898	1,328	821,642	1,176	1,032,065
12	821	129,763	492	91,018	713	487,037	1,204	868,229	1,454	821,169	1,281	875,630
合計	10,123	2,059,146	7,234	1,194,568	6,468	1,944,541	10,723	7,960,029	14,167	7,563,028	14,041	6,714,223

月	1994年(平成6年)		1995年(平成7年)		1996年(平成8年)		1997年(平成9年)		1998年(平成10年)		1999年(平成11年)	
	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)
1	1,079	424,006	1,042	328,056	1,120	323,767	1,204	717,951	1,502	684,875	1,003	752,267
2	1,030	507,677	1,140	556,290	1,107	840,292	1,216	728,741	1,583	1,042,969	955	813,366
3	1,282	463,624	1,410	1,385,916	1,285	489,756	1,407	1,402,338	1,816	2,220,512	1,269	3,183,522
4	1,176	360,737	1,301	845,737	1,159	412,658	1,378	2,615,217	1,740	841,152	1,166	965,714
5	1,194	443,292	1,217	426,421	1,322	362,091	1,303	502,143	1,791	780,608	1,360	1,614,144
6	1,164	353,265	1,193	321,045	1,127	662,976	1,349	403,882	1,741	1,363,216	1,287	1,840,776
7	1,126	358,264	1,131	477,071	1,238	481,226	1,260	1,089,441	1,710	906,192	1,332	1,354,921
8	1,143	485,831	1,368	818,858	1,115	633,369	1,329	675,418	1,534	1,006,295	1,402	935,337
9	1,104	568,087	1,339	1,794,548	1,114	328,907	1,287	645,427	1,518	3,039,112	1,372	658,503
10	1,226	845,009	1,376	677,158	1,341	1,368,432	1,614	476,902	1,707	739,273	1,395	632,584
11	1,195	398,774	1,257	971,222	1,357	1,435,762	1,425	2,017,463	1,360	649,717	1,372	408,551
12	1,244	291,082	1,312	431,168	1,259	655,173	1,593	2,746,065	1,169	1,107,303	1,547	392,527
合計	13,963	5,499,648	15,086	9,033,490	14,544	7,994,409	16,365	14,020,988	19,171	14,381,224	15,460	13,552,212

注：1970～1999年(年度)は任意整理による倒産を含んでおり、参考値として掲載

月	2000年 (平成12年)		2001年 (平成13年)		2002年 (平成14年)		2003年 (平成15年)		2004年 (平成16年)		2005年 (平成17年)	
	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)
1	354	338,607	559	838,508	767	713,822	789	1,049,223	749	387,375	691	562,215
2	474	1,081,628	623	962,230	888	1,076,430	889	1,451,530	806	1,020,030	546	703,228
3	617	411,504	679	2,189,204	939	1,878,173	901	1,070,797	871	1,210,995	584	486,921
4	523	824,537	666	897,126	882	1,158,155	907	824,367	772	521,723	605	338,098
5	562	1,517,057	672	864,967	921	1,009,316	931	728,668	755	482,927	614	584,426
6	558	1,711,469	706	577,994	763	581,278	858	782,244	759	341,993	794	439,482
7	577	4,030,041	731	637,707	1,000	1,097,233	918	655,471	765	540,229	675	417,424
8	578	1,258,580	720	587,387	800	985,301	802	1,065,377	695	583,166	754	328,053
9	551	666,688	718	2,838,474	839	698,482	764	1,053,944	718	367,292	671	550,838
10	641	8,216,109	870	915,454	964	1,775,487	874	785,452	726	658,551	825	660,576
11	615	1,083,980	825	1,706,113	829	527,323	684	937,037	694	300,501	708	760,359
12	684	698,807	789	1,407,173	833	626,702	738	391,795	743	867,066	758	354,431
合計	6,734	21,839,007	8,558	14,422,337	10,425	12,127,702	10,055	10,795,905	9,053	7,281,848	8,225	6,186,051

月	2006年 (平成18年)		2007年 (平成19年)		2008年 (平成20年)		2009年 (平成21年)		2010年 (平成22年)		2011年 (平成23年)	
	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)
1	730	516,512	842	546,799	888	389,063	1,156	864,398	949	2,587,990	976	249,684
2	777	325,283	818	280,597	935	496,033	1,131	1,197,805	966	427,596	884	391,982
3	848	473,959	916	473,076	1,127	455,934	1,216	1,038,452	1,148	296,383	1,041	291,075
4	795	421,862	817	591,268	1,013	725,441	1,169	507,443	962	254,508	956	263,629
5	731	683,898	1,016	344,387	994	481,073	1,057	511,590	879	304,481	964	235,662
6	744	383,207	985	336,427	1,065	471,920	1,294	474,472	1,085	283,723	1,025	192,826
7	746	354,840	915	306,297	1,131	640,232	1,204	340,516	918	249,357	965	202,885
8	774	360,930	985	835,122	1,018	814,858	1,042	275,344	964	169,233	969	797,581
9	667	339,920	785	465,928	1,122	5,319,794	946	358,029	943	1,370,598	847	192,934
10	889	566,029	1,083	441,669	1,231	979,015	1,070	251,394	960	501,957	906	132,917
11	754	382,348	906	457,604	1,010	541,165	1,000	690,855	935	273,923	971	190,538
12	896	463,009	891	412,554	1,147	596,774	1,021	299,849	949	216,855	865	322,020
合計	9,351	5,271,797	10,959	5,491,728	12,681	11,911,302	13,306	6,810,147	11,658	6,936,604	11,369	3,463,733

月	2012年 (平成24年)		2013年 (平成25年)		2014年 (平成26年)		2015年 (平成27年)		2016年 (平成28年)		2017年 (平成29年)	
	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)
1	951	398,379	854	229,476	809	301,696	708	160,100	678	133,047	591	114,400
2	976	628,980	858	166,250	765	116,543	627	165,283	656	155,168	664	115,855
3	1,040	358,167	836	144,623	744	111,960	847	224,047	739	156,793	807	169,585
4	884	181,062	906	677,973	858	142,956	730	191,891	642	114,368	650	91,514
5	1,013	254,089	950	154,440	733	179,083	709	119,191	652	106,090	784	96,172
6	896	177,620	906	390,365	847	211,642	779	114,694	747	102,330	751	1,178,045
7	943	715,212	952	179,617	844	115,238	765	124,157	708	127,897	698	102,706
8	851	202,077	789	163,570	683	137,674	625	96,485	688	131,777	666	88,754
9	852	177,605	817	189,508	785	127,879	609	202,169	622	93,140	648	104,378
10	961	231,674	918	152,409	794	133,860	735	94,328	704	116,904	775	101,920
11	938	249,504	820	133,517	671	110,023	689	132,870	674	582,842	646	134,983
12	824	199,925	726	175,795	647	179,246	694	385,593	654	171,327	696	156,572
合計	11,129	3,774,294	10,332	2,757,543	9,180	1,867,800	8,517	2,010,808	8,164	1,991,683	8,376	2,454,884

月	2018年 (平成30年)		2019年 (令和元年)		2020年 (令和2年)		2021年 (令和3年)		2022年 (令和4年)		2023年 (令和5年)	
	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)
1	615	100,477	694	172,356	713	117,250	506	91,258	482	67,970	546	50,769
2	596	88,746	620	218,156	634	66,374	442	77,745	428	78,066	574	100,546
3	760	348,959	651	76,927	744	89,019	648	140,053	587	182,582	800	143,514
4	618	82,770	651	104,664	758	161,467	489	79,990	487	72,017	610	208,807
5	731	93,302	648	98,286	288	71,131	461	166,447	517	78,540	694	279,740
6	709	196,863	734	80,371	806	126,438	537	72,583	544	1,283,908	782	123,208
7	689	102,284	783	91,690	847	104,801	490	73,404	499	90,393	701	180,470
8	677	112,929	669	83,721	655	69,417	449	94,621	493	105,906	742	99,501
9	588	186,762	687	105,916	602	67,996	512	91,425	583	135,031	679	695,110
10	747	112,856	785	91,079	647	66,948	512	96,727	594	80,626	790	305,584
11	706	123,866	724	130,797	563	95,212	468	81,497	570	128,627	773	88,150
12	627	75,738	708	159,622	552	145,003	501	97,559	592	68,714	806	101,504
合計	8,063	1,625,552	8,354	1,413,585	7,809	1,181,056	6,015	1,163,309	6,376	2,372,380	8,497	2,376,903

月	2024年 (令和6年)		2025年 (令和7年)		2026年 (令和8年)		2027年 (令和9年)		2028年 (令和10年)		2029年 (令和11年)	
	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)	件数	負債総額 (百万円)
1	700	84,229	830	120,519	861	118,871						
2	734	136,166	768	167,287	833	122,803						
3	870	132,005	875	97,386	943	130,411						
4	760	94,600	826	100,549	899	112,137						
5	1,016	126,097	835	93,388	771	111,248						
6	807	107,918	869	98,558								
7	920	776,931	956	166,473								
8	746	92,759	751	112,936								
9	741	131,187	909	98,604								
10	925	175,568	965	142,322								
11	834	152,244	796	78,883								
12	848	210,076	881	289,983								
合計	9,901	2,219,780	10,261	1,566,888	4,307	595,470						

倒産について

倒産とは以下のいずれかに該当する場合をいう。

- ◆ 銀行取引停止処分を受ける ※1
- ◆ 内整理入りする（代表が倒産を認めた時）
- ◆ 裁判所に**会社更生**手続開始を申請する ※2
- ◆ 裁判所に**民事再生**手続開始を申請する ※2
- ◆ 裁判所に**破産**手続開始を申請する ※2
- ◆ 裁判所に**特別清算**開始を申請する ※2

任意整理

法的整理

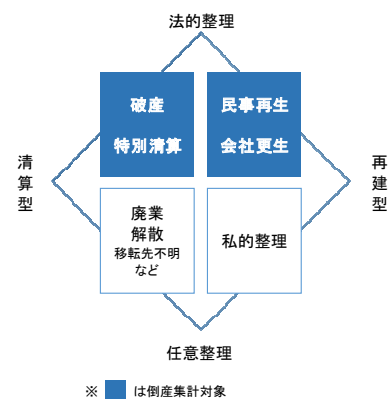
※1 手形交換所または電子債権記録機関の取引停止処分を受けた場合

※2 第三者（債権者）による申し立ての場合、手続開始決定を受けた時点で倒産となる

倒産集計について

倒産集計では、法的整理（会社更生、民事再生、破産、特別清算）手続による倒産のみを集計対象としている。

一般的に、「事業停止＝倒産」とのイメージが強いものの、倒産以外にも、資産超過状態による廃業、株主総会決議を経た解散、所在確認困難な移転先不明、相手先企業に事業統合される被合併など、さまざまなケースで事業停止（消滅）する企業が存在する。



株式会社 帝国データバンク

〒160-0003
東京都新宿区四谷本塩町14-3

情報統括部長 藤井 俊

【内容に関する問い合わせ先】

担当：白濱、袴田、伊藤

TEL 03-5919-9342 FAX 03-5919-9348

MAIL tdb_jyoho@mail.tdb.co.jp

©TEIKOKU DATABANK, LTD.

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

令和8年6月30日(火)

【照会先】

広島労働局職業安定部職業安定課長 景山 憲二

地方労働市場情報官 満田 智昭

(電話) 082(502)7831

管内の雇用情勢（令和8年5月分）

○ 有効求人倍率（季節調整値） 1.36 倍 （全国10位／中国地方2位）

前月より0.02ポイント低下し、2か月ぶりの低下。

・ 就業地別有効求人倍率（同） 1.30 倍 前月より0.01ポイント低下。

・ 正社員有効求人倍率（原数値） 1.13 倍 前年同月より0.05ポイント低下。

○ 新規求人倍率（同） 2.43 倍

前月より0.04ポイント上昇し、4か月ぶりの上昇。

<雇用情勢の概況（学卒を除き、パートを含む。）>

【基調判断】「県内の雇用情勢は、求人が求職を上回って推移しているが、持ち直しの動きに弱さがみられる。物価上昇等が雇用に与える影響に注意する必要がある。」

1 求人・求職の状況（季節調整値）

	令和8年5月	前月比	前月差	ポイント
有効求人数	57,460 人	▲ 0.8 %	▲ 436 人	2か月ぶりの減少
有効求職者数	42,232 人	1.0 %	424 人	4か月ぶりの増加
新規求人数	20,073 人	▲ 1.3 %	▲ 265 人	3か月ぶりの減少
新規求職者数	8,255 人	▲ 3.2 %	▲ 272 人	3か月ぶりの減少

2 産業別新規求人数（原数値）

	令和8年5月	前年同月比	前年同月差	ポイント
産業計	18,130 人	▲ 12.7 %	▲ 2,635 人	13か月連続の減少
主な産業	建設業	▲ 22.8 %	▲ 412 人	2か月連続の減少
	製造業	▲ 0.1 %	▲ 2 人	2か月ぶりの減少
	情報通信業	▲ 16.4 %	▲ 50 人	3か月ぶりの減少
	運輸業、郵便業	0.7 %	9 人	3か月ぶりの増加
	卸売業、小売業	▲ 27.7 %	▲ 1,019 人	20か月連続の減少
	学術研究、専門・技術サービス業	1.3 %	6 人	2か月連続の増加
	宿泊業、飲食サービス業	▲ 37.7 %	▲ 366 人	5か月連続の減少
	生活関連サービス業、娯楽業	▲ 26.9 %	▲ 191 人	8か月連続の減少
	教育、学習支援業	4.4 %	10 人	2か月連続の増加
	医療、福祉	▲ 7.2 %	▲ 330 人	2か月連続の減少
	サービス業	▲ 9.3 %	▲ 362 人	2か月連続の減少

(注) 1. ハローワークインターネットサービスの機能拡充に伴い、令和3年9月以降の数値には、ハローワークに来所せず、オンライン上で求職登録した求職者数や、求職者がハローワークインターネットサービスの求人に直接応募した就職件数等が含まれている。

2. 令和7年12月以前の季節調整値は、令和8年1月分公表時に新季節指数により改定されている。

3. 雇用保険の受給資格決定件数は速報値であり、修正があり得る。

4. 整数値の増減における「0.0」「▲0.0」は、小数点第2位を四捨五入したものである。

資 料 目 次

【グラフ】

① 有効求人・求職と有効求人倍率の推移（受理地別・季節調整値）	P 3
② 有効求人・求職と有効求人倍率の推移（就業地別・季節調整値）	P 3
③ 新規求人・求職と新規求人倍率の推移（季節調整値）	P 4
④ 正社員有効求人・求職と有効求人倍率の推移（原数値）	P 4

1 労働力需給の動向

① 有効求人・求職、有効求人倍率の推移（原数値）	P 5
② 新規求人・求職、新規求人倍率の推移（原数値）	P 5
③ 正社員有効求人・求職、有効求人倍率の推移（原数値）	P 5
④ パートタイム有効求人・求職、有効求人倍率の推移（原数値）	P 5

2 産業別新規求人の動向

① 主な産業の動向（原数値）	P 6
② 主な製造業種別の動向（原数値）	P 6

3 新規求職者の動向（常用）

① 性別、年齢別新規求職者数（原数値）	P 7
② 就業・不就業状態別新規求職者数（原数値）	P 7

4 有効求人・有効求職者の動向（常用）

① 有効求人・求職有効求職者数、有効求人倍率の推移（職業計、原数値）	P 7
② 職業別有効求人・有効求職者、有効求人倍率（原数値）	P 7

5 公共職業安定所別有効求人倍率（受理地別・原数値）

P 8

6 職業安定等業務主要指標（その1）

P 9

7 職業安定等業務主要指標（その2）

P10

8 職業安定等業務主要指標（その3）

P11

9 職業安定等業務主要指標（その4）

P12

10 職業安定等業務主要指標（その5）

P13

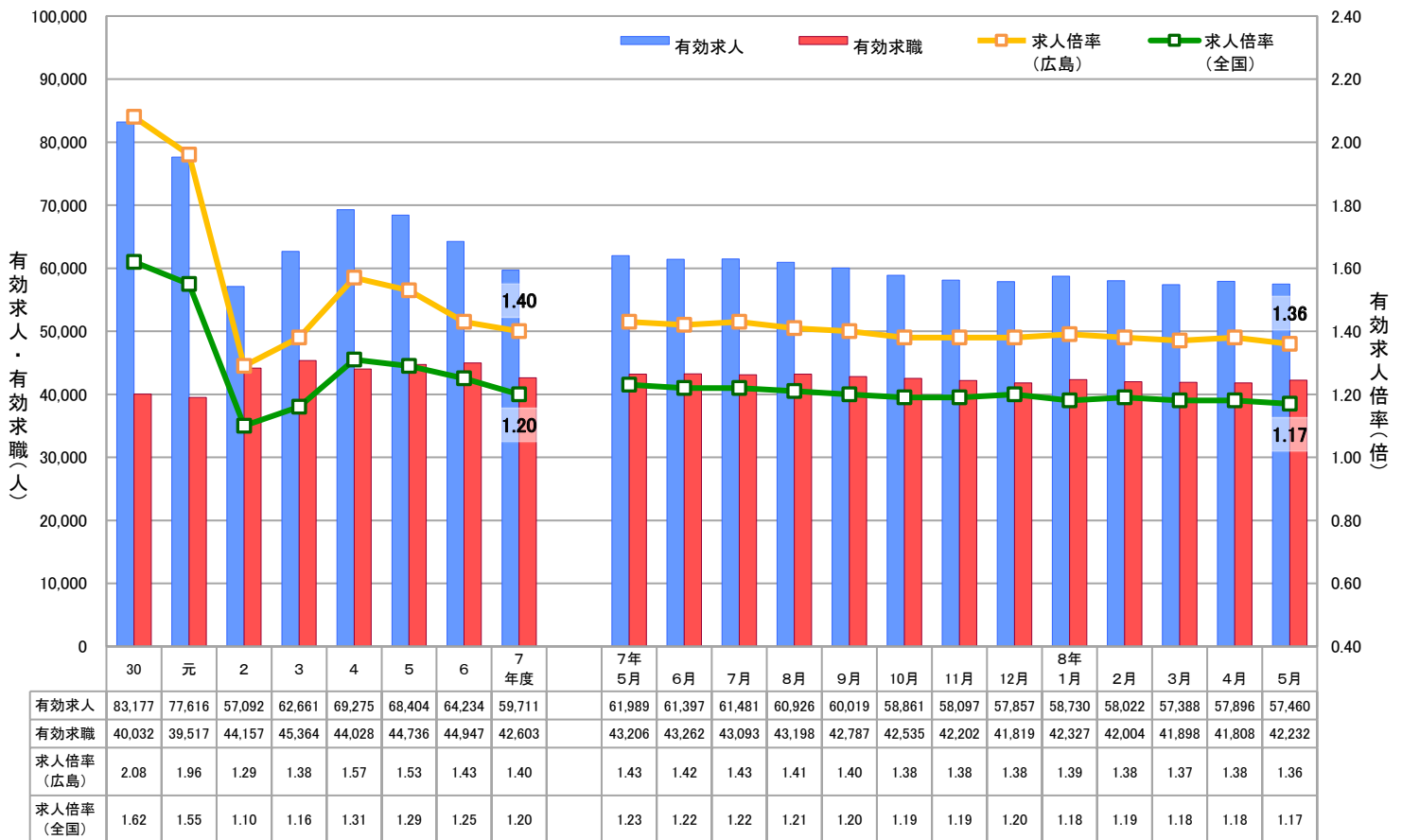
11 ハローワークのマッチング機能に関する業務の主要指標についての 数値目標及び実績＜その1＞

P14

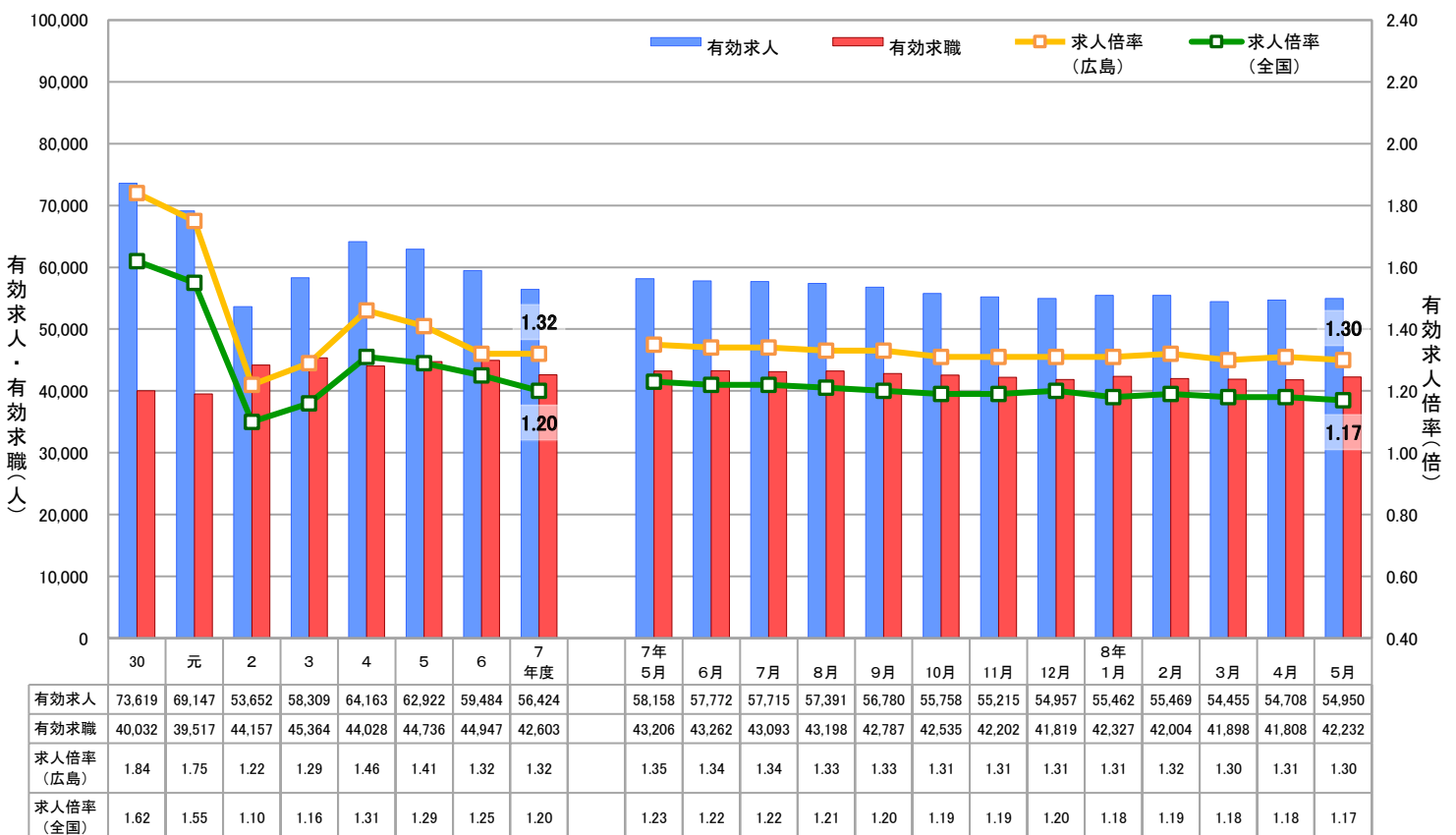
12 ハローワークのマッチング機能に関する業務の主要指標についての 数値目標及び実績＜その2＞

P14

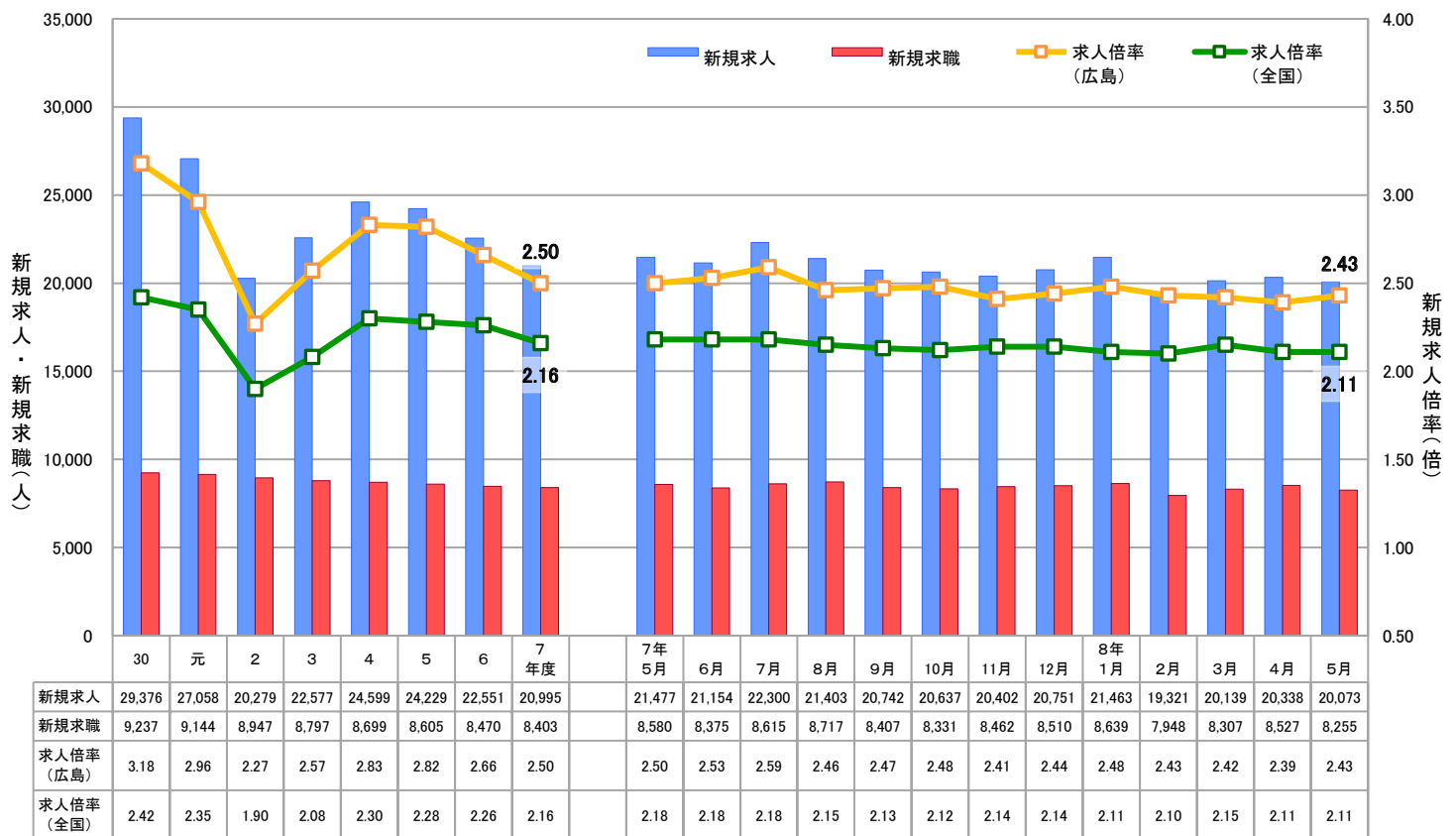
① 有効求人・求職と有効求人倍率の推移（受理地別・季節調整値）



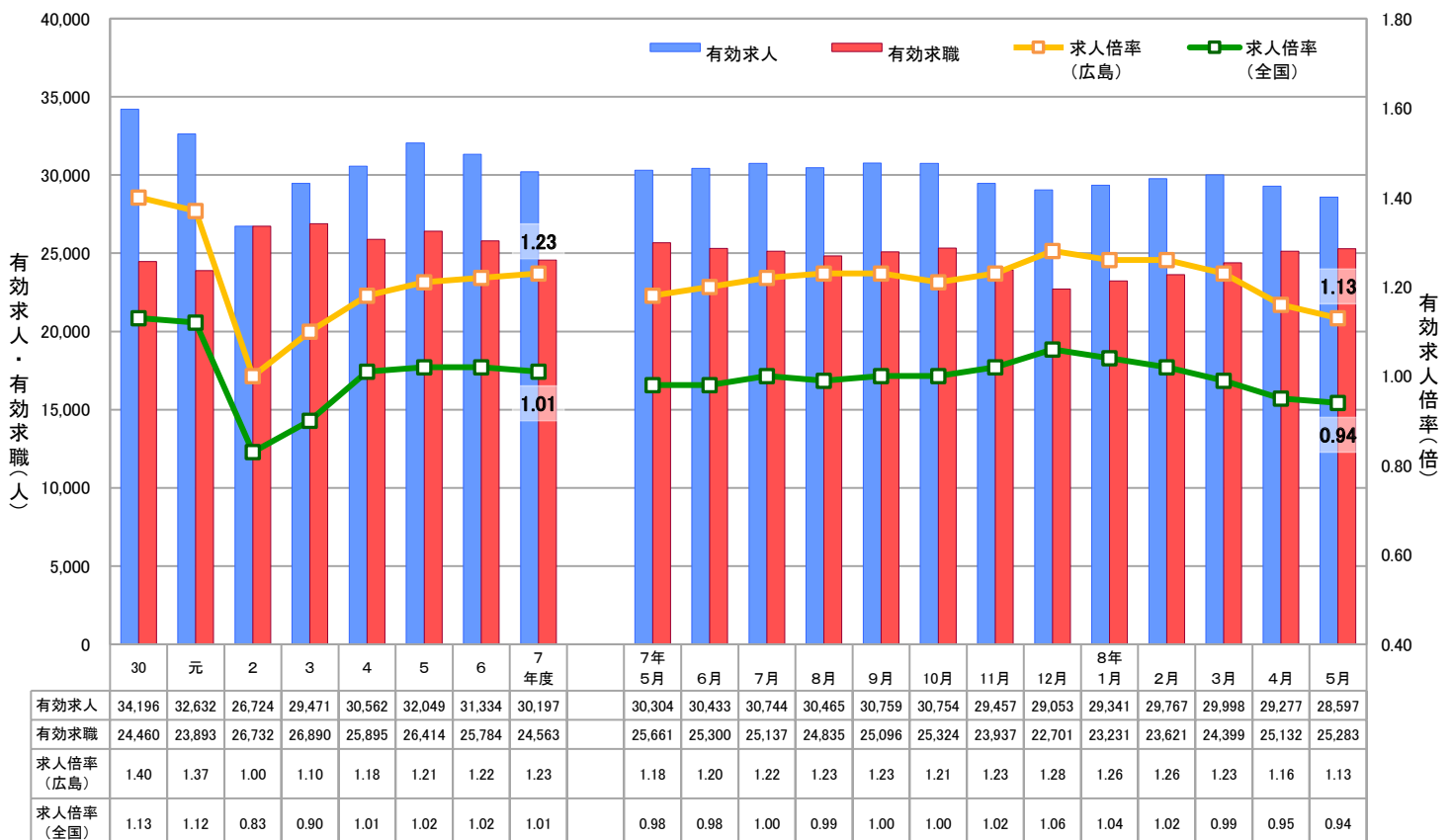
② 有効求人・求職と有効求人倍率の推移（就業地別・季節調整値）



③ 新規求人・求職と新規求人倍率の推移（季節調整値）



④ 正社員有効求人・求職と有効求人倍率の推移（原数値）



（注）常用フルタイム有効求職者にはフルタイムの派遣労働者や契約社員を希望する者も含まれるため、厳密な意味での正社員有効求人倍率より低い値となる。

1 労働力需給の動向

① 有効求人・求職、有効求人倍率の推移(原数値)

項目	年度			四半期				最近3か月		
	5	6	7	令和7年			令和8年	令和8年		
				4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	3月	4月	5月
求人	68,404 ▲ 1.3	64,234 ▲ 6.1	59,711 ▲ 7.0	60,834 ▲ 5.3	59,871 ▲ 5.3	58,439 ▲ 9.8	59,699 ▲ 7.7	59,890 ▲ 8.0	57,682 ▲ 7.6	55,311 ▲ 8.2
求職	44,736 1.6	44,947 0.5	42,603 ▲ 5.2	45,605 ▲ 5.0	43,183 ▲ 4.4	41,073 ▲ 6.8	40,553 ▲ 4.6	41,701 ▲ 3.6	44,045 ▲ 2.6	44,681 ▲ 3.0
求人倍率	1.53	1.43	1.40	1.33	1.39	1.42	1.47	1.44	1.31	1.24
季節調整値	—	—	—	1.44	1.41	1.38	1.38	1.37	1.38	1.36
求人倍率(全国)	1.29	1.25	1.20	1.16	1.19	1.23	1.25	1.22	1.12	1.08
季節調整値	—	—	—	1.23	1.21	1.19	1.19	1.18	1.18	1.17

(注) 下段は対前年度比、又は対前年同期比(%)。

② 新規求人・求職、新規求人倍率の推移(原数値)

項目	年度			四半期				最近3か月		
	5	6	7	令和7年			令和8年	令和8年		
				4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	3月	4月	5月
求人	24,229 ▲ 1.5	22,551 ▲ 6.9	20,995 ▲ 6.9	21,462 ▲ 4.4	20,950 ▲ 5.8	20,433 ▲ 9.5	21,135 ▲ 7.9	20,600 ▲ 4.5	21,111 ▲ 7.6	18,130 ▲ 12.7
求職	8,605 ▲ 1.1	8,470 ▲ 1.6	8,403 ▲ 0.8	9,708 ▲ 2.5	8,021 2.2	7,246 ▲ 3.5	8,635 0.8	8,940 1.9	11,972 0.8	8,408 ▲ 8.0
求人倍率	2.82	2.66	2.50	2.21	2.61	2.82	2.45	2.30	1.76	2.16
季節調整値	—	—	—	2.57	2.50	2.44	2.45	2.42	2.39	2.43
求人倍率(全国)	2.28	2.26	2.16	1.91	2.28	2.44	2.08	1.99	1.55	1.94
季節調整値	—	—	—	2.21	2.16	2.14	2.12	2.15	2.11	2.11

(注) 下段は対前年度比、又は対前年同期比(%)。

③ 正社員有効求人・求職、有効求人倍率の推移(原数値)

項目	年度			四半期				最近3か月		
	5	6	7	令和7年			令和8年	令和8年		
				4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	3月	4月	5月
求人	32,049 4.9	31,334 ▲ 2.2	30,197 ▲ 3.6	30,676 ▲ 1.6	30,656 ▲ 0.6	29,755 ▲ 6.3	29,702 ▲ 5.9	29,998 ▲ 5.6	29,277 ▲ 6.4	28,597 ▲ 5.6
求職	26,414 2.0	25,784 ▲ 2.4	24,563 ▲ 4.7	25,492 ▲ 7.0	25,023 ▲ 4.0	23,987 ▲ 4.8	23,750 ▲ 2.9	24,399 ▲ 2.2	25,132 ▲ 1.5	25,283 ▲ 1.5
求人倍率	1.21	1.22	1.23	1.20	1.23	1.24	1.25	1.23	1.16	1.13
求人倍率(全国)	1.02	1.02	1.01	0.98	1.00	1.03	1.02	0.99	0.95	0.94

(注) 下段は対前年度比、又は対前年同期比(%)。

④ パートタイム有効求人・求職、有効求人倍率の推移(原数値)

項目	年度			四半期				最近3か月		
	5	6	7	令和7年			令和8年	令和8年		
				4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	3月	4月	5月
求人	25,850 ▲ 5.7	24,281 ▲ 6.1	21,701 ▲ 10.6	22,457 ▲ 8.0	21,485 ▲ 9.3	20,952 ▲ 14.3	21,910 ▲ 10.9	21,741 ▲ 12.1	20,588 ▲ 11.6	19,403 ▲ 12.9
求職	18,268 1.1	19,104 4.6	17,989 ▲ 5.8	20,053 ▲ 2.2	18,109 ▲ 5.0	17,035 ▲ 9.6	16,759 ▲ 7.0	17,261 ▲ 5.4	18,871 ▲ 4.0	19,355 ▲ 4.9
求人倍率	1.42	1.27	1.21	1.12	1.19	1.23	1.31	1.26	1.09	1.00
求人倍率(全国)	1.28	1.19	1.13	1.05	1.10	1.17	1.22	1.18	1.03	0.97

(注) 下段は対前年度比、又は対前年同期比(%)。

2 産業別新規求人の動向

① 主な産業の動向(原数値)

産業		年度			四半期				最近3か月		
		5	6	7	令和7年			令和8年	令和8年		
					4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	3月	4月	5月
産業計	広島	24,229	22,551	20,995	21,462	20,950	20,433	21,135	20,600	21,111	18,130
		▲ 1.5	▲ 6.9	▲ 6.9	▲ 4.4	▲ 5.8	▲ 9.5	▲ 7.9	▲ 4.5	▲ 7.6	▲ 12.7
	全国	856,272	829,343	794,415	799,211	785,865	783,850	808,732	785,351	809,517	715,916
		▲ 2.4	▲ 3.1	▲ 4.2	▲ 1.9	▲ 3.5	▲ 6.4	▲ 5.0	▲ 2.6	▲ 3.6	▲ 8.9
建設業	広島	1,600	1,574	1,609	1,729	1,588	1,533	1,586	1,621	1,566	1,394
		▲ 1.8	▲ 1.6	2.2	12.9	1.7	▲ 2.7	▲ 2.6	3.6	▲ 5.1	▲ 22.8
	全国	74,518	70,791	69,638	71,977	69,693	67,749	69,131	72,570	73,691	61,579
		▲ 6.0	▲ 5.0	▲ 1.6	0.7	▲ 0.9	▲ 3.5	▲ 2.8	0.1	▲ 1.5	▲ 10.3
製造業	広島	2,587	2,354	2,222	2,125	2,278	2,182	2,301	2,010	2,530	1,968
		▲ 6.7	▲ 9.0	▲ 5.6	▲ 9.5	▲ 4.9	▲ 5.4	▲ 2.7	▲ 11.3	13.6	▲ 0.1
	全国	80,747	75,381	73,379	72,174	73,555	72,466	75,320	75,579	77,426	67,576
		▲ 10.1	▲ 6.6	▲ 2.7	▲ 1.3	▲ 3.3	▲ 5.4	▲ 0.5	2.0	1.2	▲ 2.1
情報通信業	広島	265	306	295	282	297	294	306	308	385	254
		1.1	15.5	▲ 3.7	▲ 2.4	▲ 1.3	▲ 14.8	6.3	19.4	9.4	▲ 16.4
	全国	21,691	22,285	21,294	22,579	21,782	20,825	19,989	19,366	22,050	20,137
		1.0	2.7	▲ 4.4	4.0	▲ 2.9	▲ 7.7	▲ 10.8	▲ 15.8	▲ 7.3	▲ 7.3
運輸業、郵便業	広島	1,472	1,424	1,417	1,429	1,430	1,345	1,462	1,138	1,558	1,387
		▲ 0.2	▲ 3.3	▲ 0.5	2.4	0.4	▲ 5.9	1.1	▲ 5.5	▲ 5.9	0.7
	全国	47,595	46,129	45,001	45,546	45,290	44,435	44,735	42,473	46,888	41,163
		▲ 1.9	▲ 3.1	▲ 2.4	▲ 0.4	▲ 0.9	▲ 5.3	▲ 3.1	▲ 4.6	▲ 4.1	▲ 7.1
卸売業、小売業	広島	4,610	4,149	3,306	3,638	3,289	3,121	3,177	3,337	3,038	2,660
		2.3	▲ 10.0	▲ 20.3	▲ 16.6	▲ 22.5	▲ 21.1	▲ 21.2	▲ 8.6	▲ 18.9	▲ 27.7
	全国	104,384	102,574	92,218	96,383	93,762	89,575	89,153	85,964	89,359	82,315
		▲ 2.6	▲ 1.7	▲ 10.1	▲ 7.5	▲ 8.3	▲ 12.4	▲ 12.2	▲ 6.5	▲ 11.0	▲ 16.8
学術研究、専門・技術サービス業	広島	551	559	540	550	543	546	521	516	651	468
		▲ 3.0	1.5	▲ 3.4	3.6	▲ 3.6	▲ 1.4	▲ 11.3	▲ 13.7	3.0	1.3
	全国	22,552	22,269	22,290	22,314	22,135	22,303	22,409	22,160	23,358	19,863
		1.2	▲ 1.3	0.1	1.2	0.3	▲ 1.1	▲ 0.0	0.0	▲ 0.9	▲ 8.1
宿泊業、飲食サービス業	広島	1,135	957	798	862	870	760	701	661	728	604
		▲ 14.9	▲ 15.7	▲ 16.6	▲ 15.5	▲ 4.5	▲ 18.3	▲ 27.5	▲ 25.9	▲ 19.3	▲ 37.7
	全国	70,968	66,434	59,774	62,153	60,812	58,146	57,984	62,765	61,790	48,805
		▲ 0.1	▲ 6.4	▲ 10.0	▲ 8.0	▲ 8.0	▲ 12.6	▲ 11.5	▲ 6.4	▲ 9.1	▲ 14.4
生活関連サービス業、娯楽業	広島	749	823	742	862	823	652	630	490	770	520
		8.4	9.9	▲ 9.8	13.0	12.7	▲ 26.2	▲ 31.1	▲ 43.4	▲ 30.6	▲ 26.9
	全国	28,021	26,121	23,993	24,939	24,162	23,177	23,692	23,046	25,008	21,683
		▲ 3.5	▲ 6.8	▲ 8.1	▲ 6.3	▲ 7.1	▲ 10.0	▲ 9.2	▲ 3.5	▲ 5.0	▲ 16.9
教育、学習支援業	広島	302	264	285	249	236	319	338	300	254	239
		8.2	▲ 12.6	8.2	6.0	▲ 2.5	25.6	4.4	▲ 0.7	3.3	4.4
	全国	14,434	13,651	13,633	12,488	12,356	13,610	16,078	14,971	13,105	11,472
		▲ 1.7	▲ 5.4	▲ 0.1	▲ 2.5	0.4	3.6	▲ 1.6	▲ 1.9	1.5	▲ 5.6
医療、福祉	広島	5,017	5,244	5,205	5,092	5,223	5,213	5,291	5,753	5,192	4,274
		▲ 5.1	4.5	▲ 0.7	1.1	▲ 1.2	▲ 1.7	▲ 1.1	7.3	▲ 3.8	▲ 7.2
	全国	219,953	217,930	212,726	211,786	211,401	211,787	215,929	206,738	217,078	200,865
		0.7	▲ 0.9	▲ 2.4	0.3	▲ 2.2	▲ 4.2	▲ 3.3	▲ 1.4	▲ 0.2	▲ 6.3
サービス業	広島	4,426	3,836	3,683	3,879	3,616	3,475	3,763	3,547	3,600	3,535
		▲ 1.9	▲ 13.3	▲ 4.0	▲ 1.3	▲ 3.3	▲ 10.0	▲ 1.3	2.5	▲ 13.0	▲ 9.3
	全国	115,884	112,761	111,281	113,185	109,676	108,937	113,328	113,903	118,966	103,753
		▲ 1.3	▲ 2.7	▲ 1.3	2.1	▲ 0.4	▲ 4.3	▲ 2.5	3.1	▲ 1.8	▲ 4.9

(注) 下段は対前年度比、又は対前年同期比(%)。

② 主な製造業種別の動向(原数値)

年月	食料品	繊維工業	金属製品	はん用機械器具	生産用機械器具	電気機械器具	輸送用機械器具			製造業計
							全数	うち自動車	うち造船	
令和8年5月	318	52	209	166	154	78	413	247	148	1,968
対前年同月比	▲ 7.8	▲ 21.2	▲ 29.4	5.1	5.5	▲ 18.8	50.7	81.6	27.6	▲ 0.1

3 新規求職者の動向(常用)

① 性別・年齢別新規求職者数(原数値)

年齢区分	全数				男				女			
	フルタイム		パートタイム		フルタイム		パートタイム		フルタイム		パートタイム	
	対前年同月比		対前年同月比		対前年同月比		対前年同月比		対前年同月比		対前年同月比	
年齢計	4,845	▲ 6.5	3,540	▲ 9.6	2,528	▲ 5.9	1,041	▲ 7.7	2,314	▲ 6.9	2,496	▲ 10.4
19歳以下	71	9.2	16	▲ 20.0	39	21.9	7	▲ 30.0	32	3.2	9	▲ 10.0
20～24歳	464	▲ 4.5	82	▲ 5.7	206	1.0	25	31.6	258	▲ 8.5	57	▲ 16.2
25～29歳	634	▲ 4.9	170	▲ 7.6	265	▲ 2.9	30	50.0	368	▲ 5.9	140	▲ 14.6
30～34歳	530	1.1	223	4.2	237	▲ 2.1	18	12.5	292	3.9	205	3.5
35～39歳	450	▲ 2.8	273	▲ 13.1	211	▲ 14.2	20	25.0	239	11.2	251	▲ 15.5
40～44歳	411	▲ 11.6	245	▲ 15.5	191	▲ 3.0	18	▲ 21.7	220	▲ 17.9	227	▲ 15.0
45～49歳	452	▲ 14.4	234	▲ 20.7	203	▲ 24.0	16	▲ 5.9	249	▲ 4.2	218	▲ 21.6
50～54歳	554	▲ 18.6	306	▲ 9.2	271	▲ 21.0	37	5.7	283	▲ 16.3	269	▲ 10.9
55～59歳	491	5.8	289	1.8	284	13.6	39	▲ 20.4	206	▲ 3.3	250	6.8
60～64歳	408	▲ 6.0	401	▲ 14.3	292	▲ 3.3	151	▲ 3.2	116	▲ 12.1	250	▲ 19.9
65歳以上	380	▲ 5.9	1,301	▲ 8.6	329	▲ 0.3	680	▲ 11.3	51	▲ 31.1	620	▲ 5.6

(注) 男女の合計は全数に必ずしも一致しない。

② 就業・不就業状態別新規求職者数(原数値)

年月	新規求職者数	在職者	離職者	雇用者				自営	無業者	家事・育児従事者	その他
				定年	事業主都合	自己都合					
令和8年5月	8,385	1,867	5,650	5,573	351	1,221	3,967	77	868	267	601
対前年同月比	▲ 7.8	▲ 7.6	▲ 8.3	▲ 8.1	1.4	▲ 12.8	▲ 7.3	▲ 20.6	▲ 5.3	▲ 12.2	▲ 2.0

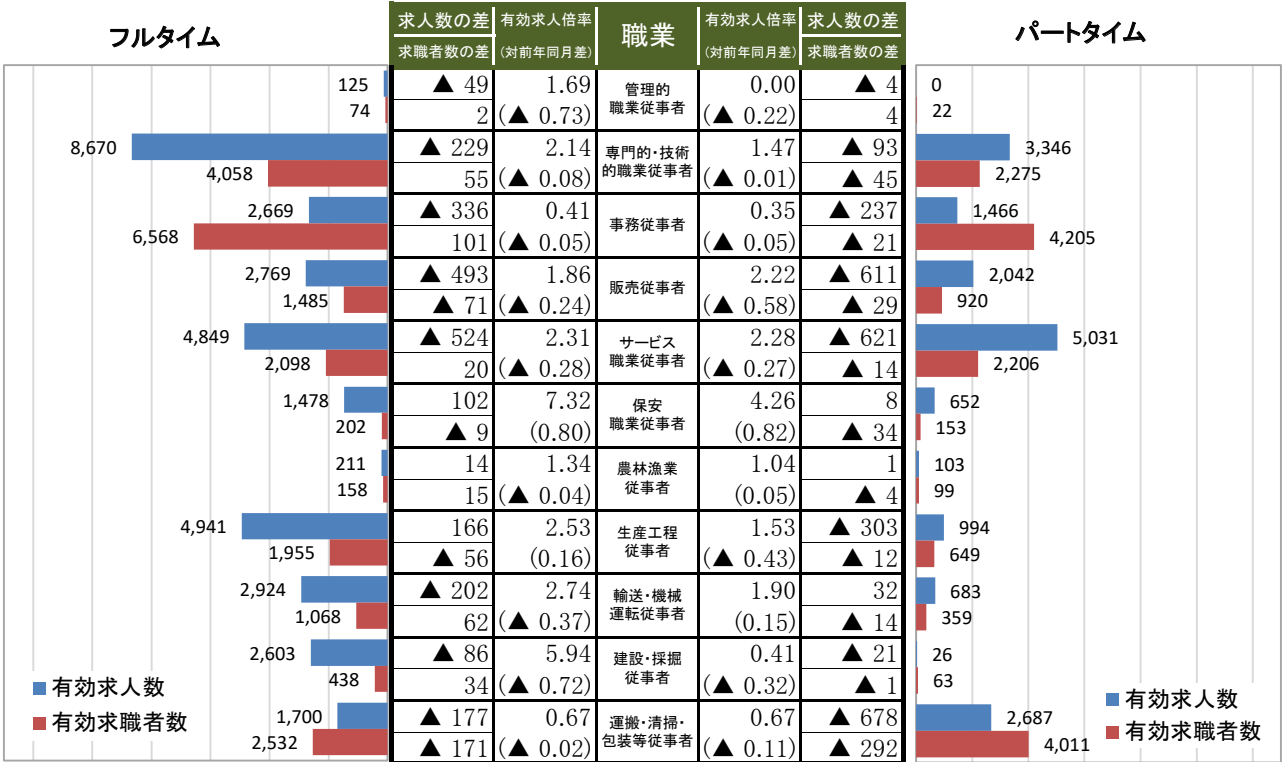
(注) 「その他」は離職後1年を超える者などである。

4 有効求人・有効求職者の動向(常用)

① 有効求人・有効求職者数、有効求人倍率(職業計、原数値)

年月	フルタイム						パートタイム					
	有効求人数		有効求職者数		有効求人倍率		有効求人数		有効求職者数		有効求人倍率	
		対前年同月差		対前年同月差		対前年同月差		対前年同月差		対前年同月差		対前年同月差
令和8年5月	32,939	▲ 1,814	25,283	▲ 378	1.30	▲ 0.05	17,030	▲ 2,527	19,247	▲ 990	0.88	▲ 0.09

② 職業別有効求人・有効求職者、有効求人倍率(原数値)



(注) 1 平成21年12月改定の「日本標準職業分類」に基づく区分である。
2 「求人数の差」及び「求職者数の差」の欄は、前年同月との差である。
3 令和6年1月から職業別大分類の項目順で掲載。

5 公共職業安定所別有効求人倍率(受理地別・原数値)

8

地域	安定所	年度								令和7年								令和8年				令和8年5月					
		30	元	2	3	4	5	6	7	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	有効求人人数		有効求職者数		有効求人倍率	
																							対前年 同月差		対前年 同月差		対前年 同月差
西部地域	広島	2.57	2.43	1.59	1.74	2.00	2.06	1.93	1.87	1.82	1.79	1.86	1.87	1.86	1.86	1.86	1.98	2.00	1.92	1.85	1.73	20,419	▲ 2,417	12,314	▲ 234	1.66	▲ 0.16
	広島東	2.52	2.38	1.49	1.88	2.25	2.18	1.97	1.86	1.75	1.73	1.87	1.85	1.84	1.81	1.78	1.92	2.03	2.02	1.94	1.72	8,802	▲ 1,745	6,010	▲ 11	1.46	▲ 0.29
	可部	0.78	0.72	0.52	0.60	0.60	0.55	0.53	0.56	0.50	0.50	0.53	0.54	0.56	0.60	0.62	0.66	0.61	0.59	0.58	0.55	1,690	▲ 99	3,130	▲ 475	0.54	0.04
	廿日市	0.70	0.61	0.39	0.53	0.60	0.58	0.53	0.46	0.46	0.46	0.45	0.47	0.45	0.42	0.49	0.48	0.48	0.44	0.42	0.38	1,034	▲ 222	2,867	165	0.36	▲ 0.10
	大竹	0.88	0.94	0.70	0.72	0.78	0.85	0.73	0.66	0.64	0.72	0.76	0.72	0.71	0.61	0.68	0.65	0.62	0.61	0.58	0.54	266	▲ 21	477	26	0.56	▲ 0.08
	広島西条	4.23	3.59	1.51	1.16	1.35	1.13	1.03	1.01	0.89	0.93	0.98	1.02	1.00	0.98	1.00	1.02	1.10	1.12	1.11	0.99	2,945	▲ 3	3,192	▲ 137	0.92	0.03
	地域計	2.29	2.13	1.29	1.43	1.65	1.62	1.51	1.46	1.38	1.38	1.45	1.45	1.44	1.44	1.45	1.53	1.56	1.52	1.47	1.35	35,156	▲ 4,507	27,990	▲ 666	1.26	▲ 0.12
芸南地域	呉	1.35	1.25	0.92	0.94	1.11	1.07	1.02	1.02	0.92	0.92	0.97	0.98	1.00	0.98	1.08	1.12	1.09	1.15	1.09	0.97	3,003	88	3,093	▲ 91	0.97	0.05
	竹原	1.34	1.32	0.96	0.97	1.11	1.00	0.86	0.83	0.82	0.85	0.76	0.85	0.81	0.90	0.79	0.90	0.89	0.84	0.81	0.77	324	▲ 100	457	▲ 59	0.71	▲ 0.11
	地域計	1.35	1.26	0.92	0.95	1.11	1.06	1.00	1.00	0.90	0.91	0.95	0.96	0.98	0.97	1.05	1.10	1.06	1.11	1.06	0.95	3,327	▲ 12	3,550	▲ 150	0.94	0.04
東部地域	福山	1.96	1.97	1.54	1.49	1.65	1.67	1.57	1.56	1.42	1.47	1.52	1.54	1.60	1.54	1.61	1.59	1.64	1.67	1.64	1.48	10,294	▲ 117	7,230	▲ 127	1.42	0.00
	府中	1.20	1.05	0.78	0.83	0.95	0.81	0.74	0.83	0.82	0.78	0.81	0.78	0.73	0.80	0.88	0.95	0.91	0.91	0.86	0.81	873	▲ 64	1,074	▲ 66	0.81	▲ 0.01
	尾道	2.05	2.00	1.41	1.42	1.61	1.34	1.44	1.45	1.30	1.34	1.41	1.44	1.46	1.44	1.49	1.57	1.49	1.53	1.51	1.34	2,526	▲ 196	2,029	▲ 70	1.24	▲ 0.06
	三原	1.55	1.62	1.23	1.33	1.48	1.28	1.18	1.26	1.08	1.10	1.19	1.23	1.23	1.29	1.32	1.51	1.42	1.40	1.32	1.23	1,398	▲ 42	1,179	▲ 159	1.19	0.11
	地域計	1.86	1.85	1.41	1.40	1.56	1.49	1.42	1.44	1.30	1.34	1.40	1.41	1.44	1.42	1.49	1.52	1.52	1.55	1.51	1.37	15,091	▲ 419	11,512	▲ 422	1.31	0.01
北部地域	三次	1.96	1.95	1.46	1.55	1.53	1.37	1.18	1.09	0.95	0.96	1.06	1.13	1.09	1.09	1.15	1.22	1.14	1.19	1.18	0.99	755	▲ 75	756	▲ 119	1.00	0.05
	庄原	1.68	1.45	1.07	1.16	1.30	1.15	1.13	1.16	1.06	1.03	1.07	1.05	1.06	1.15	1.17	1.29	1.32	1.37	1.39	1.24	482	22	415	▲ 18	1.16	0.10
	安芸高田	1.82	1.64	1.30	1.49	1.67	1.40	1.18	1.04	1.01	1.03	1.08	1.03	0.99	0.94	1.01	1.06	1.08	1.09	1.08	1.03	500	18	458	▲ 20	1.09	0.08
	地域計	1.85	1.73	1.31	1.43	1.51	1.32	1.16	1.09	0.99	0.99	1.07	1.08	1.05	1.06	1.12	1.19	1.17	1.21	1.20	1.06	1,737	▲ 35	1,629	▲ 157	1.07	0.08
広島県全体		2.08	1.96	1.29	1.38	1.57	1.53	1.43	1.40	1.31	1.31	1.38	1.39	1.39	1.38	1.41	1.48	1.50	1.48	1.44	1.31	55,311	▲ 4,973	44,681	▲ 1,395	1.24	▲ 0.07
季節調整値		—	—	—	—	—	—	—	—	1.43	1.42	1.43	1.41	1.40	1.38	1.38	1.38	1.39	1.38	1.37	1.38	57,460	▲ 4,529	42,232	▲ 974	1.36	▲ 0.07



6 職業安定等業務主要指標(その1)

年度/年・月	新規求人・求職								月間有効求人・求職								就 職		充 足		
	① 求 人 数		② 求職申込件数		③ 求人倍率〔①÷②〕			④ 求 人 数		⑤ 求 職 者 数		⑥ 求人倍率〔④÷⑤〕			⑦ 就 職 件 数		⑧ 就職率 〔⑦÷②〕	⑨ 充 足 数		⑩ 充足率 〔⑨÷①〕	
		前年比		前年比		季節 調整値	前年差 前月差		前年比		前年比		季節 調整値	前年差 前月差		前年比			前年比		
平成30年度	29,376	6.6	9,237	0.2	3.18		0.19	83,177	8.3	40,032	▲ 2.1	2.08		0.20	3,296	▲ 7.8	35.7	3,512	▲ 6.1	12.0	
令和元年度	27,058	▲ 7.9	9,144	▲ 1.0	2.96		▲ 0.22	77,616	▲ 6.7	39,517	▲ 1.3	1.96		▲ 0.12	3,065	▲ 7.0	33.5	3,240	▲ 7.7	12.0	
2	20,279	▲ 25.1	8,947	▲ 2.2	2.27		▲ 0.69	57,092	▲ 26.4	44,157	11.7	1.29		▲ 0.67	2,597	▲ 15.3	29.0	2,756	▲ 14.9	13.6	
3	22,577	11.3	8,797	▲ 1.7	2.57		0.30	62,661	9.8	45,364	2.7	1.38		0.09	2,628	1.2	29.9	2,837	2.9	12.6	
4	24,599	9.0	8,699	▲ 1.1	2.83		0.26	69,275	10.6	44,028	▲ 2.9	1.57		0.19	2,503	▲ 4.8	28.8	2,685	▲ 5.4	10.9	
5	24,229	▲ 1.5	8,605	▲ 1.1	2.82		▲ 0.01	68,404	▲ 1.3	44,736	1.6	1.53		▲ 0.04	2,478	▲ 1.0	28.8	2,675	▲ 0.4	11.0	
6	22,551	▲ 6.9	8,470	▲ 1.6	2.66		▲ 0.16	64,234	▲ 6.1	44,947	0.5	1.43		▲ 0.10	2,357	▲ 4.9	27.8	2,540	▲ 5.0	11.3	
7	20,995	▲ 6.9	8,403	▲ 0.8	2.50		▲ 0.16	59,711	▲ 7.0	42,603	▲ 5.2	1.40		▲ 0.03	2,190	▲ 7.1	26.1	2,335	▲ 8.1	11.1	
令和6年	5月	22,834	▲ 3.0	9,747	3.0	2.34	2.58	0.02	64,170	▲ 4.7	48,801	3.1	1.31	1.44	▲ 0.03	2,666	4.5	27.4	2,865	2.7	12.5
	6月	22,096	▲ 12.3	7,803	▲ 9.4	2.83	2.77	0.19	62,969	▲ 7.4	47,787	1.8	1.32	1.42	▲ 0.02	2,492	▲ 7.1	31.9	2,665	▲ 7.2	12.1
	7月	22,732	▲ 0.3	8,122	1.7	2.80	2.72	▲ 0.05	63,776	▲ 4.2	46,151	2.7	1.38	1.43	0.01	2,339	6.0	28.8	2,480	2.9	10.9
	8月	21,295	▲ 11.9	7,300	▲ 7.9	2.92	2.67	▲ 0.05	62,492	▲ 7.2	44,641	0.0	1.40	1.42	▲ 0.01	1,901	▲ 11.0	26.0	2,104	▲ 9.3	9.9
	9月	22,688	▲ 6.7	8,134	▲ 4.8	2.79	2.76	0.09	63,495	▲ 6.7	44,776	▲ 0.1	1.42	1.43	0.01	2,138	▲ 14.5	26.3	2,361	▲ 12.8	10.4
	10月	24,879	2.3	8,822	0.7	2.82	2.70	▲ 0.06	65,771	▲ 3.7	45,682	1.4	1.44	1.45	0.02	2,570	1.9	29.1	2,728	0.7	11.0
	11月	21,446	▲ 11.8	7,293	▲ 1.1	2.94	2.55	▲ 0.15	65,145	▲ 5.3	44,534	1.2	1.46	1.43	▲ 0.02	2,167	▲ 9.2	29.7	2,395	▲ 7.8	11.2
	12月	21,381	▲ 9.7	6,420	3.9	3.33	2.55	0.00	63,347	▲ 7.2	42,042	0.8	1.51	1.40	▲ 0.03	2,162	▲ 1.6	33.7	2,354	▲ 0.5	11.0
	令和7年	1月	24,040	▲ 5.1	8,865	▲ 2.9	2.71	2.69	0.14	64,035	▲ 7.5	42,099	▲ 0.9	1.52	1.41	0.01	1,818	▲ 7.3	20.5	1,967	▲ 6.0
2月		23,237	▲ 7.4	8,053	▲ 7.2	2.89	2.82	0.13	64,947	▲ 7.9	42,228	▲ 3.2	1.54	1.42	0.01	2,128	▲ 16.4	26.4	2,313	▲ 15.8	10.0
3月		21,562	▲ 9.0	8,775	0.7	2.46	2.66	▲ 0.16	65,101	▲ 6.9	43,243	▲ 3.4	1.51	1.44	0.02	3,188	▲ 2.8	36.3	3,334	▲ 4.5	15.5
4月		22,851	1.9	11,876	▲ 3.5	1.92	2.69	0.03	62,409	▲ 4.8	45,221	▲ 4.6	1.38	1.46	0.02	2,545	▲ 6.2	21.4	2,736	▲ 5.9	12.0
5月		20,765	▲ 9.1	9,139	▲ 6.2	2.27	2.50	▲ 0.19	60,284	▲ 6.1	46,076	▲ 5.6	1.31	1.43	▲ 0.03	2,343	▲ 12.1	25.6	2,492	▲ 13.0	12.0
6月		20,769	▲ 6.0	8,108	3.9	2.56	2.53	0.03	59,808	▲ 5.0	45,517	▲ 4.8	1.31	1.42	▲ 0.01	2,235	▲ 10.3	27.6	2,401	▲ 9.9	11.6
7月		22,632	▲ 0.4	8,236	1.4	2.75	2.59	0.06	60,533	▲ 5.1	43,863	▲ 5.0	1.38	1.43	0.01	2,175	▲ 7.0	26.4	2,341	▲ 5.6	10.3
8月		19,674	▲ 7.6	7,510	2.9	2.62	2.46	▲ 0.13	59,472	▲ 4.8	42,813	▲ 4.1	1.39	1.41	▲ 0.02	1,762	▲ 7.3	23.5	1,916	▲ 8.9	9.7
9月		20,544	▲ 9.4	8,318	2.3	2.47	2.47	0.01	59,607	▲ 6.1	42,872	▲ 4.3	1.39	1.40	▲ 0.01	2,135	▲ 0.1	25.7	2,279	▲ 3.5	11.1
10月		22,328	▲ 10.3	8,682	▲ 1.6	2.57	2.48	0.01	59,663	▲ 9.3	43,176	▲ 5.5	1.38	1.38	▲ 0.02	2,334	▲ 9.2	26.9	2,501	▲ 8.3	11.2
11月		18,815	▲ 12.3	6,692	▲ 8.2	2.81	2.41	▲ 0.07	57,985	▲ 11.0	41,072	▲ 7.8	1.41	1.38	0.00	1,941	▲ 10.4	29.0	2,046	▲ 14.6	10.9
12月		20,156	▲ 5.7	6,365	▲ 0.9	3.17	2.44	0.03	57,668	▲ 9.0	38,971	▲ 7.3	1.48	1.38	0.00	1,994	▲ 7.8	31.3	2,144	▲ 8.9	10.6
令和8年	1月	22,813	▲ 5.1	8,939	0.8	2.55	2.48	0.04	59,353	▲ 7.3	39,614	▲ 5.9	1.50	1.39	0.01	1,815	▲ 0.2	20.3	1,890	▲ 3.9	8.3
	2月	19,993	▲ 14.0	8,027	▲ 0.3	2.49	2.43	▲ 0.05	59,855	▲ 7.8	40,345	▲ 4.5	1.48	1.38	▲ 0.01	2,068	▲ 2.8	25.8	2,169	▲ 6.2	10.8
	3月	20,600	▲ 4.5	8,940	1.9	2.30	2.42	▲ 0.01	59,890	▲ 8.0	41,701	▲ 3.6	1.44	1.37	▲ 0.01	2,931	▲ 8.1	32.8	3,101	▲ 7.0	15.1
	4月	21,111	▲ 7.6	11,972	0.8	1.76	2.39	▲ 0.03	57,682	▲ 7.6	44,045	▲ 2.6	1.31	1.38	0.01	2,272	▲ 10.7	19.0	2,441	▲ 10.8	11.6
	5月	18,130	▲ 12.7	8,408	▲ 8.0	2.16	2.43	0.04	55,311	▲ 8.2	44,681	▲ 3.0	1.24	1.36	▲ 0.02	2,048	▲ 12.6	24.4	2,216	▲ 11.1	12.2

(注) 1 求人・求職関係は、学卒を除きパートタイムを含む。

7 職業安定等業務主要指標(その2)

年度/年・月	正社員有効求人・求職						パートタイム有効求人・求職						全国の求人倍率						完全失業者数 [万人]		完全失業率			
	① 求人数		② 常用求職者数		③ 求人倍率[①÷②]		④ 求人数		⑤ 求職者数		⑥ 求人倍率[④÷⑤]		⑦ 新規		⑧ 有効		⑨ 正社員 有効	⑩ パート タイム 有効	⑪	⑫	⑬ 全国	⑭ 広島		
		前年比		前年比		前年差		前年比		前年比		前年差		季節 調整値		季節 調整値			全国	広島				
平成30年度	34,196	7.4	24,460	▲ 2.7	1.40	0.13	37,124	10.7	15,496	▲ 1.0	2.40	0.26	2.42		1.62		1.13	1.81	167	3.5	2.4			
令和元年度	32,632	▲ 4.6	23,893	▲ 2.3	1.37	▲ 0.03	35,073	▲ 5.5	15,543	0.3	2.26	▲ 0.14	2.35		1.55		1.12	1.71	162	3.5	2.4			
2	26,724	▲ 18.1	26,732	11.9	1.00	▲ 0.37	23,834	▲ 32.0	17,357	11.7	1.37	▲ 0.89	1.90		1.10		0.83	1.18	192	3.6	2.8			
3	29,471	10.3	26,890	0.6	1.10	0.10	24,675	3.5	18,409	6.1	1.34	▲ 0.03	2.08		1.16		0.90	1.16	195	3.5	2.8			
4	30,562	3.7	25,895	▲ 3.7	1.18	0.08	27,398	11.0	18,076	▲ 1.8	1.52	0.18	2.30		1.31		1.01	1.31	179	3.2	2.6			
5	32,049	4.9	26,414	2.0	1.21	0.03	25,850	▲ 5.7	18,268	1.1	1.42	▲ 0.10	2.28		1.29		1.02	1.28	178	3.1	2.6			
6	31,334	▲ 2.2	25,784	▲ 2.4	1.22	0.01	24,281	▲ 6.1	19,104	4.6	1.27	▲ 0.15	2.26		1.25		1.02	1.19	176	3.2	2.5			
7	30,197	▲ 3.6	24,563	▲ 4.7	1.23	0.01	21,701	▲ 10.6	17,989	▲ 5.8	1.21	▲ 0.06	2.16		1.20		1.01	1.13	176	3.5	2.5			
令和6年	5月	31,093	2.6	27,811	1.3	1.12	0.02	24,439	▲ 7.3	20,929	5.7	1.17	▲ 0.16	2.02	2.24	1.14	1.24	0.94	1.07	193		2.8	2.6	
	6月	30,845	▲ 2.5	26,999	▲ 0.7	1.14	▲ 0.02	23,526	▲ 8.2	20,714	5.2	1.14	▲ 0.16	2.35	2.25	1.16	1.24	0.96	1.07	181	3.4	2.6	2.5	
	7月	31,367	▲ 0.8	26,542	▲ 0.1	1.18	▲ 0.01	23,602	▲ 3.8	19,531	6.7	1.21	▲ 0.13	2.35	2.24	1.20	1.24	0.99	1.13	188		2.7	2.7	
	8月	30,263	▲ 6.5	25,852	▲ 3.3	1.17	▲ 0.04	23,576	▲ 3.4	18,719	5.0	1.26	▲ 0.11	2.50	2.30	1.23	1.24	1.00	1.16	175		2.5	2.5	
	9月	30,932	▲ 4.7	25,808	▲ 3.5	1.20	▲ 0.01	23,856	▲ 3.2	18,906	4.9	1.26	▲ 0.11	2.31	2.21	1.24	1.25	1.01	1.18	173	3.0	2.5	2.4	
	10月	32,110	▲ 0.2	26,250	▲ 1.6	1.22	0.01	24,862	▲ 1.7	19,381	5.9	1.28	▲ 0.10	2.43	2.25	1.27	1.26	1.03	1.21	170		2.4	2.5	
	11月	32,028	▲ 1.7	25,407	▲ 2.0	1.26	0.00	24,519	▲ 5.4	19,079	5.8	1.29	▲ 0.15	2.56	2.25	1.30	1.26	1.06	1.24	164		2.4	2.5	
	12月	31,094	▲ 3.7	23,937	▲ 3.2	1.30	▲ 0.01	23,927	▲ 5.5	18,050	6.6	1.33	▲ 0.17	2.73	2.26	1.35	1.25	1.11	1.30	154	3.0	2.2	2.5	
	令和7年	1月	31,112	▲ 4.9	24,067	▲ 4.6	1.29	▲ 0.01	24,439	▲ 7.8	17,974	4.6	1.36	▲ 0.18	2.28	2.30	1.34	1.25	1.08	1.31	163		2.3	2.5
		2月	31,820	▲ 4.6	24,343	▲ 6.1	1.31	0.02	24,605	▲ 9.7	17,834	1.0	1.38	▲ 0.16	2.33	2.31	1.32	1.25	1.07	1.31	165		2.4	2.4
		3月	31,792	▲ 3.6	24,948	▲ 5.9	1.27	0.03	24,724	▲ 8.2	18,246	0.1	1.36	▲ 0.12	2.13	2.27	1.29	1.25	1.05	1.26	180	3.5	2.6	2.5
		4月	31,292	▲ 0.8	25,515	▲ 7.0	1.23	0.08	23,289	▲ 7.9	19,654	▲ 1.1	1.18	▲ 0.09	1.64	2.26	1.18	1.25	0.99	1.10	188		2.7	2.5
5月		30,304	▲ 2.5	25,661	▲ 7.7	1.18	0.06	22,268	▲ 8.9	20,356	▲ 2.7	1.09	▲ 0.08	2.00	2.18	1.14	1.23	0.98	1.04	183		2.6	2.5	
6月		30,433	▲ 1.3	25,300	▲ 6.3	1.20	0.06	21,815	▲ 7.3	20,150	▲ 2.7	1.08	▲ 0.06	2.21	2.18	1.14	1.22	0.98	1.03	176	3.5	2.5	2.5	
7月		30,744	▲ 2.0	25,137	▲ 5.3	1.22	0.04	21,852	▲ 7.4	18,669	▲ 4.4	1.17	▲ 0.04	2.32	2.18	1.18	1.22	1.00	1.09	169		2.4	2.4	
8月		30,465	0.7	24,835	▲ 3.9	1.23	0.06	21,374	▲ 9.3	17,929	▲ 4.2	1.19	▲ 0.07	2.31	2.15	1.18	1.21	0.99	1.10	182		2.6	2.6	
9月		30,759	▲ 0.6	25,096	▲ 2.8	1.23	0.03	21,228	▲ 11.0	17,728	▲ 6.2	1.20	▲ 0.06	2.22	2.13	1.20	1.20	1.00	1.12	184	3.5	2.6	2.6	
10月		30,754	▲ 4.2	25,324	▲ 3.5	1.21	▲ 0.01	20,945	▲ 15.8	17,799	▲ 8.2	1.18	▲ 0.10	2.30	2.12	1.20	1.19	1.00	1.13	183		2.6	2.6	
11月		29,457	▲ 8.0	23,937	▲ 5.8	1.23	▲ 0.03	20,967	▲ 14.5	17,084	▲ 10.5	1.23	▲ 0.06	2.45	2.14	1.23	1.19	1.02	1.16	171		2.4	2.6	
12月		29,053	▲ 6.6	22,701	▲ 5.2	1.28	▲ 0.02	20,945	▲ 12.5	16,221	▲ 10.1	1.29	▲ 0.04	2.59	2.14	1.28	1.20	1.06	1.22	166	3.6	2.4	2.6	
令和8年	1月	29,341	▲ 5.7	23,231	▲ 3.5	1.26	▲ 0.03	21,767	▲ 10.9	16,335	▲ 9.1	1.33	▲ 0.03	2.12	2.11	1.27	1.18	1.04	1.24	179		2.6	2.7	
	2月	29,767	▲ 6.5	23,621	▲ 3.0	1.26	▲ 0.05	22,223	▲ 9.7	16,682	▲ 6.5	1.33	▲ 0.05	2.13	2.10	1.26	1.19	1.02	1.24	180		2.6	2.6	
	3月	29,998	▲ 5.6	24,399	▲ 2.2	1.23	▲ 0.04	21,741	▲ 12.1	17,261	▲ 5.4	1.26	▲ 0.10	1.99	2.15	1.22	1.18	0.99	1.18	194	3.9	2.8	2.7	
	4月	29,277	▲ 6.4	25,132	▲ 1.5	1.16	▲ 0.07	20,588	▲ 11.6	18,871	▲ 4.0	1.09	▲ 0.09	1.55	2.11	1.12	1.18	0.95	1.03	193		2.7	2.5	
	5月	28,597	▲ 5.6	25,283	▲ 1.5	1.13	▲ 0.05	19,403	▲ 12.9	19,355	▲ 4.9	1.00	▲ 0.09	1.94	2.11	1.08	1.17	0.94	0.97	185		2.6	2.5	

(注) 1 完全失業者数及び完全失業率は総務省統計局「労働力調査」による。年度欄は年平均値。

8 職業安定等業務主要指標(その3)

年度/年・月		産 業 別 新 規 求 人 数 (主 な 産 業)																					
		① 建設業		② 製造業		③ 情報通信業		④ 運輸業、郵便業		⑤ 卸売業、小売業		⑥ 学術研究、専門・技 術サービス業		⑦ 宿泊業、 飲食サービス業		⑧ 生活関連サー ビス業、娯楽業		⑨ 教育、学習支援業		⑩ 医療、福祉		⑪ サービス業	
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
平成30年度		1,701	6.6	3,136	8.3	411	▲ 12.7	1,778	3.1	7,025	16.3	851	9.8	1,440	1.0	1,074	0.6	278	▲ 12.6	5,625	4.7	4,131	2.7
令和元年度		1,680	▲ 1.2	2,679	▲ 14.6	378	▲ 8.0	1,694	▲ 4.7	6,128	▲ 12.8	740	▲ 13.0	1,437	▲ 0.2	933	▲ 13.1	378	36.0	5,606	▲ 0.3	3,654	▲ 11.5
2		1,597	▲ 4.9	1,914	▲ 28.6	298	▲ 21.2	1,280	▲ 24.4	3,861	▲ 37.0	486	▲ 34.3	1,059	▲ 26.3	740	▲ 20.7	259	▲ 31.5	4,833	▲ 13.8	2,656	▲ 27.3
3		1,697	6.3	2,580	34.8	289	▲ 3.0	1,391	8.7	4,124	6.8	547	12.6	1,172	10.7	793	7.2	266	2.7	5,114	5.8	3,406	28.2
4		1,630	▲ 3.9	2,773	7.5	262	▲ 9.3	1,475	6.0	4,508	9.3	568	3.8	1,333	13.7	691	▲ 12.9	279	4.9	5,287	3.4	4,513	32.5
5		1,600	▲ 1.8	2,587	▲ 6.7	265	1.1	1,472	▲ 0.2	4,610	2.3	551	▲ 3.0	1,135	▲ 14.9	749	8.4	302	8.2	5,017	▲ 5.1	4,426	▲ 1.9
6		1,574	▲ 1.6	2,354	▲ 9.0	306	15.5	1,424	▲ 3.3	4,149	▲ 10.0	559	1.5	957	▲ 15.7	823	9.9	264	▲ 12.6	5,244	4.5	3,836	▲ 13.3
7		1,609	2.2	2,222	▲ 5.6	295	▲ 3.7	1,417	▲ 0.5	3,306	▲ 20.3	540	▲ 3.4	798	▲ 16.6	742	▲ 9.8	285	8.2	5,205	▲ 0.7	3,683	▲ 4.0
令和6年	5月	1,463	▲ 4.5	2,202	▲ 1.7	291	37.9	1,479	▲ 3.3	5,079	▲ 7.7	541	10.4	1,040	▲ 11.5	594	▲ 21.4	221	7.8	5,103	13.8	3,740	▲ 8.1
	6月	1,738	▲ 3.2	2,612	▲ 17.6	281	36.4	1,367	▲ 7.1	4,052	3.5	468	▲ 6.0	880	▲ 33.9	660	▲ 24.6	186	▲ 47.8	5,130	▲ 3.0	3,982	▲ 18.6
	7月	1,481	6.6	2,343	▲ 1.3	360	41.7	1,423	▲ 3.3	3,967	▲ 8.8	602	▲ 15.1	951	▲ 18.4	980	56.3	243	16.8	5,543	15.1	3,961	▲ 7.9
	8月	1,551	6.1	2,142	▲ 15.4	277	▲ 8.9	1,491	▲ 8.5	3,920	▲ 26.4	507	2.6	974	▲ 9.1	600	▲ 19.8	247	7.9	5,190	8.3	3,545	▲ 15.5
	9月	1,651	▲ 9.9	2,701	▲ 10.4	265	29.9	1,359	▲ 0.9	4,841	16.0	579	12.0	807	▲ 24.9	610	▲ 14.7	236	▲ 23.4	5,134	▲ 1.0	3,714	▲ 21.0
	10月	1,626	18.4	2,684	▲ 1.2	403	31.7	1,496	▲ 10.3	4,322	▲ 2.3	639	7.0	1,165	2.0	1,159	62.3	285	▲ 2.1	5,649	11.2	4,610	2.1
	11月	1,622	5.9	2,146	▲ 9.4	343	27.0	1,468	▲ 0.2	3,940	▲ 22.9	523	▲ 1.3	952	▲ 25.0	664	▲ 2.2	230	▲ 27.0	4,891	5.8	3,478	▲ 18.8
	12月	1,480	▲ 16.9	2,089	▲ 18.6	290	4.3	1,322	6.5	3,613	▲ 10.1	500	5.9	674	▲ 27.9	825	▲ 16.4	247	▲ 33.2	5,364	1.2	3,488	▲ 19.5
令和7年	1月	1,617	11.4	2,368	▲ 5.0	300	0.0	1,584	2.7	4,046	▲ 11.6	688	8.3	1,127	6.3	1,110	48.8	342	▲ 17.8	5,550	▲ 0.8	4,055	▲ 8.6
	2月	1,702	6.6	2,458	2.0	306	14.6	1,552	▲ 4.9	4,400	▲ 14.8	475	▲ 10.4	882	▲ 15.8	770	2.8	326	▲ 11.9	5,137	7.1	3,923	▲ 9.0
	3月	1,565	▲ 18.2	2,267	▲ 19.3	258	▲ 4.4	1,204	4.3	3,651	▲ 15.9	598	23.8	892	▲ 14.2	866	32.6	302	2.4	5,361	5.2	3,461	▲ 17.3
	4月	1,650	18.5	2,227	▲ 0.1	352	18.9	1,656	23.6	3,744	▲ 5.5	632	8.0	902	▲ 20.9	1,110	7.1	246	▲ 17.7	5,397	10.7	4,139	1.6
	5月	1,806	23.4	1,970	▲ 10.5	304	4.5	1,378	▲ 6.8	3,679	▲ 27.6	462	▲ 14.6	970	▲ 6.7	711	19.7	229	3.6	4,604	▲ 9.8	3,897	4.2
	6月	1,731	▲ 0.4	2,179	▲ 16.6	189	▲ 32.7	1,254	▲ 8.3	3,490	▲ 13.9	557	19.0	714	▲ 18.9	765	15.9	272	46.2	5,274	2.8	3,601	▲ 9.6
	7月	1,629	10.0	2,657	13.4	335	▲ 6.9	1,613	13.4	3,414	▲ 13.9	620	3.0	845	▲ 11.1	1,035	5.6	252	3.7	5,575	0.6	3,909	▲ 1.3
	8月	1,593	2.7	1,851	▲ 13.6	329	18.8	1,321	▲ 11.4	3,169	▲ 19.2	439	▲ 13.4	1,041	6.9	672	12.0	217	▲ 12.1	4,800	▲ 7.5	3,389	▲ 4.4
	9月	1,543	▲ 6.5	2,325	▲ 13.9	227	▲ 14.3	1,356	▲ 0.2	3,283	▲ 32.2	570	▲ 1.6	723	▲ 10.4	763	25.1	238	0.8	5,294	3.1	3,551	▲ 4.4
	10月	1,828	12.4	2,721	1.4	319	▲ 20.8	1,582	5.7	3,159	▲ 26.9	577	▲ 9.7	688	▲ 40.9	910	▲ 21.5	335	17.5	5,550	▲ 1.8	3,869	▲ 16.1
	11月	1,458	▲ 10.1	1,790	▲ 16.6	248	▲ 27.7	1,391	▲ 5.2	2,938	▲ 25.4	504	▲ 3.6	908	▲ 4.6	526	▲ 20.8	295	28.3	4,331	▲ 11.4	3,350	▲ 3.7
	12月	1,312	▲ 11.4	2,035	▲ 2.6	315	8.6	1,062	▲ 19.7	3,265	▲ 9.6	556	11.2	684	1.5	520	▲ 37.0	327	32.4	5,757	7.3	3,206	▲ 8.1
令和8年	1月	1,610	▲ 0.4	2,822	19.2	333	11.0	1,687	6.5	3,250	▲ 19.7	589	▲ 14.4	661	▲ 41.3	850	▲ 23.4	355	3.8	5,637	1.6	3,969	▲ 2.1
	2月	1,528	▲ 10.2	2,072	▲ 15.7	277	▲ 9.5	1,561	0.6	2,943	▲ 33.1	457	▲ 3.8	782	▲ 11.3	551	▲ 28.4	358	9.8	4,483	▲ 12.7	3,772	▲ 3.8
	3月	1,621	3.6	2,010	▲ 11.3	308	19.4	1,138	▲ 5.5	3,337	▲ 8.6	516	▲ 13.7	661	▲ 25.9	490	▲ 43.4	300	▲ 0.7	5,753	7.3	3,547	2.5
	4月	1,566	▲ 5.1	2,530	13.6	385	9.4	1,558	▲ 5.9	3,038	▲ 18.9	651	3.0	728	▲ 19.3	770	▲ 30.6	254	3.3	5,192	▲ 3.8	3,600	▲ 13.0
	5月	1,394	▲ 22.8	1,968	▲ 0.1	254	▲ 16.4	1,387	0.7	2,660	▲ 27.7	468	1.3	604	▲ 37.7	520	▲ 26.9	239	4.4	4,274	▲ 7.2	3,535	▲ 9.3

(注) 令和6年4月以降については令和5年7月改定の「日本標準産業分類」に基づく区分、令和6年3月以前については平成25年10月改定の「日本標準産業分類」に基づく区分

9 職業安定等業務主要指標(その4)

年度/年・月		就業・不就業状態別新規求職者数(パートを含む常用)																					
		① 新規求職者数 [②+③+⑨]		② 在職者		③ 離職者 [④+⑧]		④ 雇 用 者								⑧ 自 営		⑨ 無業者 [⑩+⑪]		⑩ 家事・育児 従事者		⑪ その他	
								⑤ 定 年				⑥ 事業主都合		⑦ 自己都合									
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比			
平成30年度		9,199	0.2	2,492	0.3	5,716	2.5	5,628	2.6	265	9.5	1,245	3.4	4,101	1.8	89	▲ 1.1	991	▲ 11.1	374	▲ 16.7	617	▲ 7.4
令和元年度		9,105	▲ 1.0	2,439	▲ 2.1	5,780	1.1	5,690	1.1	264	▲ 0.4	1,254	0.7	4,154	1.3	90	1.1	886	▲ 10.6	362	▲ 3.2	524	▲ 15.1
	2	8,902	▲ 2.2	2,217	▲ 9.1	5,952	3.0	5,862	3.0	264	0.0	1,620	29.2	3,961	▲ 4.6	90	0.0	733	▲ 17.3	308	▲ 14.9	426	▲ 18.7
	3	8,758	▲ 1.6	2,330	5.1	5,629	▲ 5.4	5,534	▲ 5.6	265	0.4	1,321	▲ 18.5	3,923	▲ 1.0	95	5.6	799	9.0	324	5.2	474	11.3
	4	8,666	▲ 1.1	2,272	▲ 2.5	5,604	▲ 0.4	5,513	▲ 0.4	286	7.9	1,167	▲ 11.7	4,027	2.7	91	▲ 4.2	790	▲ 1.1	302	▲ 6.8	488	3.0
	5	8,573	▲ 1.1	2,196	▲ 3.3	5,616	0.2	5,526	0.2	279	▲ 2.4	1,236	5.9	3,966	▲ 1.5	90	▲ 1.1	760	▲ 3.8	288	▲ 4.6	473	▲ 3.1
	6	8,437	▲ 1.6	2,148	▲ 2.2	5,483	▲ 2.4	5,397	▲ 2.3	278	▲ 0.4	1,193	▲ 3.5	3,892	▲ 1.9	86	▲ 4.4	806	6.1	271	▲ 5.9	535	13.1
	7	8,371	▲ 0.8	2,080	▲ 3.2	5,487	0.1	5,404	0.1	271	▲ 2.5	1,136	▲ 4.8	3,970	2.0	83	▲ 3.5	804	▲ 0.2	254	▲ 6.3	550	2.8
令和6年	5月	9,698	2.9	2,252	8.8	6,495	▲ 0.2	6,385	▲ 0.5	363	▲ 3.2	1,534	3.6	4,443	▲ 1.1	110	19.6	951	12.1	363	4.9	588	17.1
	6月	7,758	▲ 9.5	2,008	▲ 7.0	4,954	▲ 11.4	4,871	▲ 11.3	221	▲ 0.5	1,063	▲ 15.3	3,559	▲ 10.3	83	▲ 14.4	796	▲ 3.7	265	▲ 10.5	531	0.0
	7月	8,087	1.6	1,896	▲ 5.8	5,449	2.9	5,361	2.7	259	17.2	1,268	1.6	3,804	2.5	88	15.8	742	13.5	226	3.2	516	18.6
	8月	7,285	▲ 7.8	1,897	▲ 9.2	4,741	▲ 7.6	4,664	▲ 7.8	223	6.7	933	▲ 10.4	3,478	▲ 7.9	77	8.5	647	▲ 5.0	200	▲ 18.0	447	2.3
	9月	8,102	▲ 4.8	1,984	▲ 4.2	5,271	▲ 5.9	5,200	▲ 5.4	222	0.5	958	▲ 15.6	3,990	▲ 2.4	71	▲ 29.7	847	0.5	315	▲ 15.3	532	13.0
	10月	8,792	0.8	2,130	1.1	5,816	▲ 0.5	5,723	▲ 0.7	254	▲ 6.6	1,265	▲ 6.7	4,162	1.8	93	6.9	846	9.9	302	▲ 1.6	544	17.5
	11月	7,261	▲ 1.0	1,940	▲ 0.1	4,591	▲ 3.2	4,519	▲ 3.1	179	▲ 13.9	980	▲ 5.2	3,329	▲ 1.7	72	▲ 8.9	730	11.6	292	4.7	438	16.8
	12月	6,394	3.8	1,775	▲ 2.5	4,017	6.1	3,942	6.2	188	25.3	870	9.8	2,856	4.5	75	4.2	602	8.7	177	▲ 18.4	425	26.1
令和7年	1月	8,830	▲ 3.1	2,427	▲ 4.8	5,608	▲ 3.8	5,518	▲ 3.7	229	▲ 13.3	1,080	▲ 6.6	4,168	▲ 2.2	90	▲ 8.2	795	8.8	256	▲ 8.6	539	19.5
	2月	8,028	▲ 7.2	2,602	▲ 8.8	4,709	▲ 6.8	4,638	▲ 6.4	170	▲ 18.3	897	▲ 11.3	3,544	▲ 4.5	71	▲ 28.3	717	▲ 3.6	233	▲ 14.7	484	2.8
	3月	8,750	0.7	2,724	5.5	5,100	▲ 2.8	4,998	▲ 2.8	230	3.6	1,025	▲ 3.2	3,712	▲ 2.7	102	▲ 2.9	926	8.1	273	0.4	653	11.6
	4月	11,818	▲ 3.6	2,085	▲ 2.7	8,558	▲ 5.4	8,463	▲ 5.4	754	▲ 4.8	2,137	▲ 12.6	5,525	▲ 2.3	95	▲ 1.0	1,175	9.7	299	▲ 15.1	876	21.8
	5月	9,098	▲ 6.2	2,021	▲ 10.3	6,160	▲ 5.2	6,063	▲ 5.0	346	▲ 4.7	1,400	▲ 8.7	4,280	▲ 3.7	97	▲ 11.8	917	▲ 3.6	304	▲ 16.3	613	4.3
	6月	8,066	4.0	2,029	1.0	5,203	5.0	5,120	5.1	230	4.1	1,067	0.4	3,794	6.6	83	0.0	834	4.8	277	4.5	557	4.9
	7月	8,219	1.6	2,084	9.9	5,352	▲ 1.8	5,282	▲ 1.5	196	▲ 24.3	1,118	▲ 11.8	3,939	3.5	70	▲ 20.5	783	5.5	244	8.0	539	4.5
	8月	7,479	2.7	1,854	▲ 2.3	4,922	3.8	4,845	3.9	220	▲ 1.3	963	3.2	3,630	4.4	77	0.0	703	8.7	206	3.0	497	11.2
	9月	8,285	2.3	1,934	▲ 2.5	5,539	5.1	5,465	5.1	239	7.7	1,023	6.8	4,171	4.5	74	4.2	812	▲ 4.1	296	▲ 6.0	516	▲ 3.0
	10月	8,654	▲ 1.6	1,996	▲ 6.3	5,826	0.2	5,754	0.5	259	2.0	1,225	▲ 3.2	4,243	1.9	72	▲ 22.6	832	▲ 1.7	296	▲ 2.0	536	▲ 1.5
	11月	6,662	▲ 8.2	1,702	▲ 12.3	4,241	▲ 7.6	4,168	▲ 7.8	154	▲ 14.0	794	▲ 19.0	3,204	▲ 3.8	73	1.4	719	▲ 1.5	253	▲ 13.4	466	6.4
	12月	6,343	▲ 0.8	1,844	3.9	3,937	▲ 2.0	3,858	▲ 2.1	170	▲ 9.6	777	▲ 10.7	2,896	1.4	79	5.3	562	▲ 6.6	172	▲ 2.8	390	▲ 8.2
令和8年	1月	8,911	0.9	2,306	▲ 5.0	5,872	4.7	5,771	4.6	237	3.5	1,139	5.5	4,369	4.8	101	12.2	733	▲ 7.8	222	▲ 13.3	511	▲ 5.2
	2月	8,007	▲ 0.3	2,498	▲ 4.0	4,794	1.8	4,713	1.6	200	17.6	911	1.6	3,582	1.1	81	14.1	715	▲ 0.3	214	▲ 8.2	501	3.5
	3月	8,904	1.8	2,603	▲ 4.4	5,439	6.6	5,349	7.0	241	4.8	1,080	5.4	4,002	7.8	90	▲ 11.8	862	▲ 6.9	263	▲ 3.7	599	▲ 8.3
	4月	11,927	0.9	2,060	▲ 1.2	8,706	1.7	8,614	1.8	782	3.7	2,254	5.5	5,530	0.1	92	▲ 3.2	1,161	▲ 1.2	299	0.0	862	▲ 1.6
	5月	8,385	▲ 7.8	1,867	▲ 7.6	5,650	▲ 8.3	5,573	▲ 8.1	351	1.4	1,221	▲ 12.8	3,967	▲ 7.3	77	▲ 20.6	868	▲ 5.3	267	▲ 12.2	601	▲ 2.0

(注)「⑪その他」は、離職後1年を超える者などである。

10 職業安定等業務主要指標(その5)

年度/年・月	雇 用 保 険 関 係																		
	① 月末適用事業所数		② 月末被保険者数		③ 資格取得者数		④ 資格喪失者数		⑤ 離職票交付枚数		⑥ 受給資格決定件数		基本手当（基本分）						
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比	⑦ 初回受給者数		⑧ 受給者実人員		⑨ 受給率 〔⑧÷(②+⑧)〕	⑩ 支給額 〔十万円〕	
平成30年度	51,249	0.8	1,012,413	1.2	15,029	▲ 2.6	14,222	2.1	9,202	1.9	2,773	1.8	2,455	14.8	10,047	9.5	1.0	11,770	
令和元年度	51,642	0.8	1,021,546	0.9	15,128	0.7	14,230	0.1	9,198	▲ 0.0	2,708	▲ 2.3	2,300	▲ 6.3	9,952	▲ 0.9	1.0	11,771	
2	52,345	1.4	1,024,250	0.3	13,207	▲ 12.7	13,152	▲ 7.6	8,855	▲ 3.7	2,893	6.8	2,406	4.6	10,397	4.5	1.0	12,718	
3	52,962	1.2	1,029,858	0.5	12,633	▲ 4.3	13,581	3.3	9,034	2.0	2,586	▲ 10.6	2,208	▲ 8.2	9,972	▲ 4.1	1.0	12,090	
4	53,308	0.7	1,023,784	▲ 0.6	13,732	8.7	13,801	1.6	9,178	1.6	2,568	▲ 0.7	2,136	▲ 3.3	9,357	▲ 6.2	0.9	11,432	
5	53,365	0.1	1,019,229	▲ 0.4	13,334	▲ 2.9	13,835	0.2	9,533	3.9	2,651	3.2	2,256	5.6	9,874	5.5	1.0	12,463	
6	53,414	0.1	1,013,574	▲ 0.6	12,698	▲ 4.8	13,462	▲ 2.7	9,204	▲ 3.5	2,511	▲ 5.3	2,147	▲ 4.8	9,687	▲ 1.9	0.9	12,163	
7	53,258	▲ 0.3	1,008,458	▲ 0.5	12,549	▲ 1.2	12,824	▲ 4.7	8,720	▲ 5.3	2,518	0.3	2,386	11.1	10,126	4.5	1.0	13,199	
令和6年	5月	53,547	0.1	1,019,098	▲ 0.5	19,130	▲ 20.5	14,131	▲ 2.3	9,341	▲ 6.0	3,878	1.3	3,071	▲ 4.4	9,831	3.5	1.0	12,765
	6月	53,555	0.1	1,020,089	▲ 0.5	12,213	▲ 5.0	11,248	▲ 7.4	7,542	▲ 6.9	2,684	▲ 8.0	2,137	▲ 17.1	9,792	▲ 2.4	1.0	11,591
	7月	53,545	0.0	1,019,185	▲ 0.5	12,134	0.4	12,988	3.6	8,897	4.2	2,457	2.1	3,041	12.6	11,212	4.5	1.1	14,567
	8月	53,595	0.1	1,017,171	▲ 0.5	9,667	▲ 12.8	11,742	▲ 9.2	8,253	▲ 7.6	2,294	▲ 9.9	2,253	▲ 17.2	10,831	▲ 5.1	1.1	14,018
	9月	53,145	0.2	1,014,885	▲ 0.6	10,462	▲ 8.9	12,598	1.7	8,285	▲ 2.2	2,226	▲ 11.8	1,775	▲ 3.9	10,515	▲ 0.8	1.0	12,911
	10月	53,194	0.1	1,011,923	▲ 0.8	12,159	▲ 2.0	14,999	3.9	9,970	▲ 0.4	2,654	▲ 9.2	2,182	▲ 0.9	10,222	▲ 4.6	1.0	14,417
	11月	53,238	0.1	1,011,848	▲ 0.8	10,344	▲ 12.3	10,248	▲ 7.6	7,092	▲ 6.1	2,372	3.9	2,012	▲ 15.3	9,380	▲ 8.5	0.9	11,123
	12月	53,318	0.1	1,011,793	▲ 0.5	9,061	▲ 6.2	9,266	▲ 2.9	6,210	▲ 0.6	1,885	▲ 2.5	1,945	7.6	9,311	▲ 1.5	0.9	10,747
	令和7年	1月	53,373	0.1	1,007,921	▲ 0.5	9,621	▲ 6.5	13,363	▲ 5.5	9,209	▲ 4.1	2,148	▲ 9.4	1,880	▲ 4.0	9,297	▲ 4.5	0.9
2月		53,456	0.1	1,007,695	▲ 0.5	9,949	▲ 7.0	10,406	▲ 7.5	7,157	▲ 8.0	2,087	▲ 11.0	1,740	▲ 11.0	8,609	▲ 6.7	0.8	10,132
3月		53,485	0.1	1,007,059	▲ 0.9	10,954	4.8	11,763	▲ 0.6	8,107	▲ 1.0	2,219	▲ 5.9	1,457	▲ 9.2	8,228	▲ 5.0	0.8	9,986
4月		53,499	▲ 0.0	1,003,558	▲ 1.1	22,953	▲ 14.0	26,657	▲ 7.4	18,702	▲ 8.3	3,240	0.3	2,238	▲ 1.5	8,335	▲ 7.6	0.8	10,552
5月		53,493	▲ 0.1	1,013,174	▲ 0.6	22,840	19.4	13,220	▲ 6.4	9,156	▲ 2.0	3,574	▲ 7.8	2,812	▲ 8.4	9,169	▲ 6.7	0.9	11,362
6月		53,529	▲ 0.0	1,014,166	▲ 0.6	12,672	3.8	11,381	1.2	7,460	▲ 1.1	2,588	▲ 3.6	2,523	18.1	10,023	2.4	1.0	11,796
7月		53,482	▲ 0.1	1,014,185	▲ 0.5	11,958	▲ 1.5	12,369	▲ 4.8	8,258	▲ 7.2	2,490	1.3	3,665	20.5	11,660	4.0	1.1	16,197
8月		53,496	▲ 0.2	1,011,931	▲ 0.5	9,245	▲ 4.4	11,351	▲ 3.3	7,805	▲ 5.4	2,117	▲ 7.7	2,254	0.0	11,326	4.6	1.1	14,282
9月		52,974	▲ 0.3	1,011,019	▲ 0.4	10,610	1.4	11,514	▲ 8.6	8,061	▲ 2.7	2,564	15.2	2,294	29.2	11,755	11.8	1.1	15,721
10月		53,000	▲ 0.4	1,009,019	▲ 0.3	11,856	▲ 2.5	13,771	▲ 8.2	8,993	▲ 9.8	2,808	5.8	2,562	17.4	11,241	10.0	1.1	15,724
11月		53,044	▲ 0.4	1,009,174	▲ 0.3	9,698	▲ 6.2	9,494	▲ 7.4	6,201	▲ 12.6	2,053	▲ 13.4	2,079	3.3	10,107	7.8	1.0	12,557
12月		53,070	▲ 0.5	1,008,959	▲ 0.3	8,848	▲ 2.4	9,027	▲ 2.6	5,868	▲ 5.5	1,801	▲ 4.5	2,115	8.7	10,054	8.0	1.0	12,848
令和8年	1月	53,113	▲ 0.5	1,005,285	▲ 0.3	9,846	2.3	13,271	▲ 0.7	9,224	0.2	2,140	▲ 0.4	1,759	▲ 6.4	9,490	2.1	0.9	13,817
	2月	53,177	▲ 0.5	1,001,248	▲ 0.6	9,568	▲ 3.8	10,083	▲ 3.1	6,804	▲ 4.9	2,228	6.8	1,801	3.5	8,862	2.9	0.9	10,882
	3月	53,218	▲ 0.5	999,774	▲ 0.7	10,490	▲ 4.2	11,747	▲ 0.1	8,111	0.0	2,608	17.5	2,529	73.6	9,487	15.3	0.9	12,650
	4月	53,250	▲ 0.5	996,300	▲ 0.7	21,655	▲ 5.7	25,315	▲ 5.0	18,261	▲ 2.4	2,963	▲ 8.5	2,373	6.0	9,140	9.7	0.9	12,866
	5月	53,225	▲ 0.5	1,006,222	▲ 0.7	21,640	▲ 5.3	11,747	▲ 11.1	8,098	▲ 11.6	3,470	▲ 2.9	2,885	2.6	9,560	4.3	0.9	11,999

(注) 1 「②月末被保険者数」及び「⑤離職票交付枚数」は、全被保険者分で、基本手当は延長分を含まず。

2 雇用保険の受給資格決定件数は速報値であり、修正があり得る。

11 ハローワークのマッチング機能に関する業務の主要指標についての数値目標及び実績＜その1＞（令和8年5月末現在）

主要指標	区分	労働局計	広島	広島西条	呉	尾道	福山	三原	三次	可部	府中	広島東	廿日市
就職件数（一般）	数値目標	26,562	5,540	2,490	2,421	1,588	3,903	1,143	1,555	2,063	937	2,904	2,018
	実績	4,305	859	408	401	250	624	170	267	367	145	467	347
人材不足分野の 就職件数	数値目標	7,672	1,298	698	687	429	1,299	358	414	701	271	852	665
	実績	1,243	201	119	109	74	192	48	66	132	34	157	111
求人充足数（一般）	数値目標	28,687	8,476	2,209	2,082	1,565	4,857	925	1,390	1,105	555	4,448	1,075
	実績	4,657	1,352	356	327	259	782	139	225	201	101	725	190

- (注) 1 数値目標は令和8年度における年間目標値で、実績は当月までの累計である。
2 出張所の数値目標及び実績は、本所（竹原は広島西条、安芸高田及び庄原は三次、大竹は廿日市）に含まれている。
3 就職件数については、オンライン自主応募によるものを含まない。

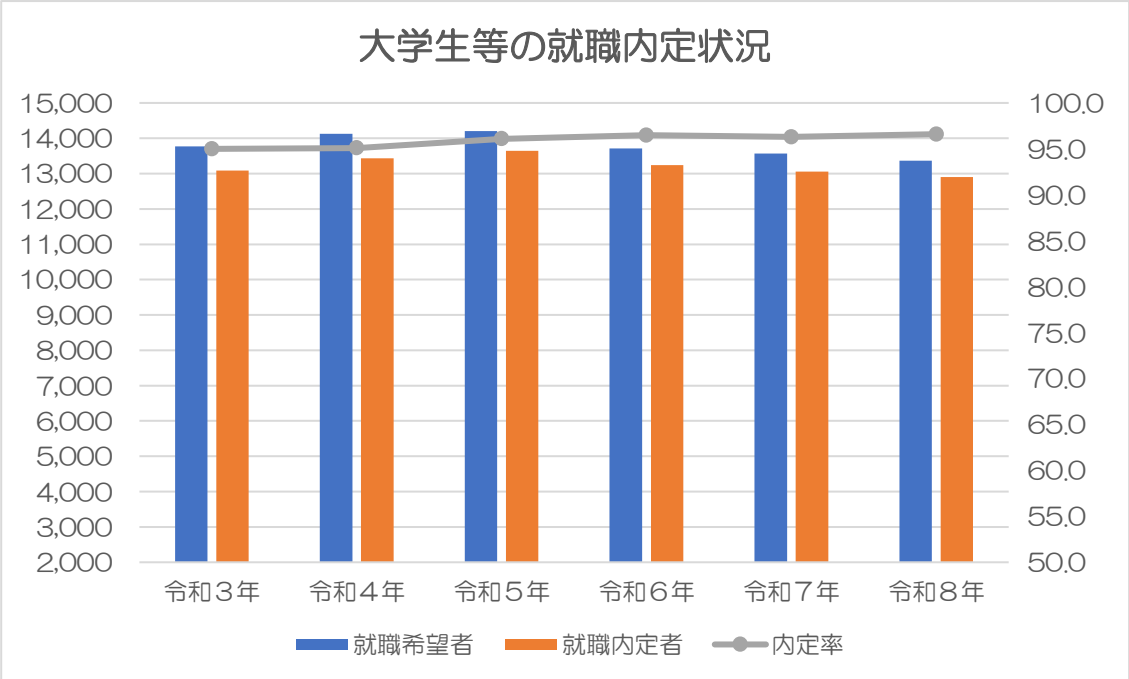
14

12 ハローワークのマッチング機能に関する業務の主要指標についての数値目標及び実績＜その2＞（令和8年3月末現在）

主要指標	区分	労働局計	広島	広島西条	呉	尾道	福山	三原	三次	可部	府中	広島東	廿日市
雇用保険受給者の 早期再就職割合	数値目標	34.0	31.4	34.7	34.1	38.1	35.2	37.4	39.6	33.3	36.1	31.6	36.3
	実績	31.8	31.1	32.1	28.4	34.3	33.9	33.5	37.8	33.3	35.3	28.1	32.6

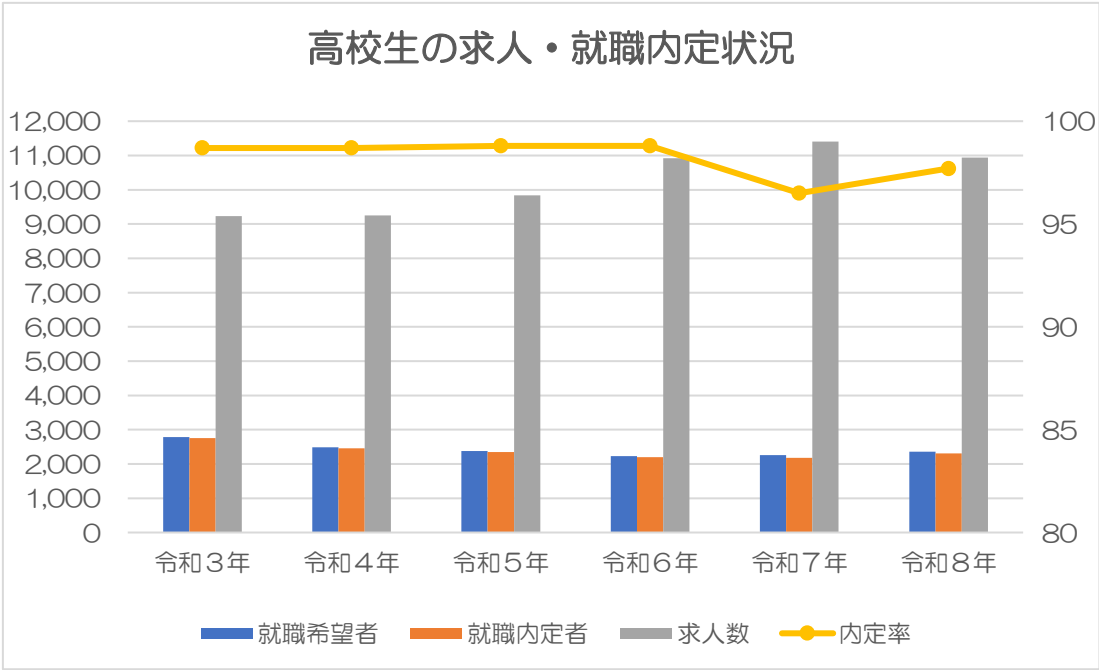
- (注) 1 数値目標は令和7年度における年間目標値で、実績は2か月後の集計となるため、前月又は前々月までの累計の割合となる。
2 出張所の数値目標及び実績は、本所（竹原は広島西条、安芸高田及び庄原は三次、大竹は廿日市）に含まれている。

就職内定状況の推移（大学生等・高校生）（3月末現在）



(単位：人、%)

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年
就職希望者	13,771	14,123	14,201	13,714	13,569	13,362
就職内定者	13,089	13,429	13,641	13,236	13,061	12,907
内定率	95.0	95.1	96.1	96.5	96.3	96.6



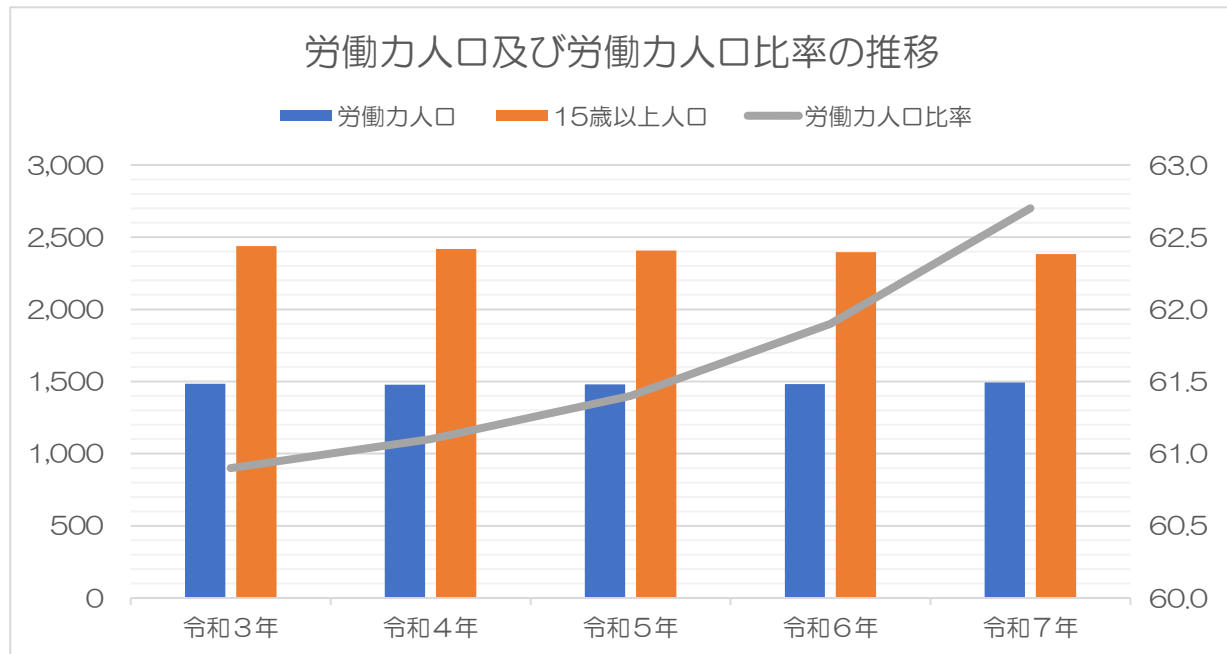
(単位：人、%)

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年
就職希望者	2,789	2,485	2,375	2,229	2,258	2,360
就職内定者	2,752	2,452	2,347	2,203	2,178	2,305
求人数	9,226	9,255	9,832	10,921	11,410	10,942
内定率	98.7	98.7	98.8	98.8	96.5	97.7

資料出所：広島労働局「管内の雇用情勢」

広島県 労働力人口・転出超過の推移

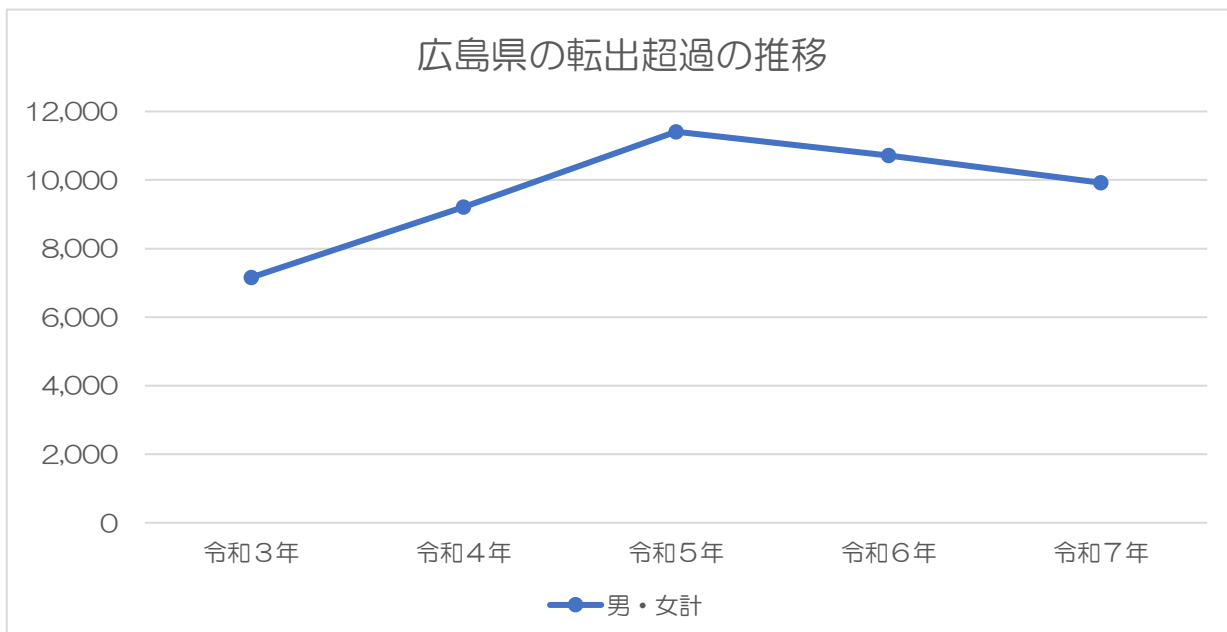
(単位：千人、%)



	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
労働力人口	1,484	1,478	1,479	1,483	1,493
15歳以上人口	2,437	2,419	2,408	2,395	2,382
労働力人口比率	60.9	61.1	61.4	61.9	62.7

資料出所：広島県統計課「労働力調査」

(単位：人)



	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
男・女計	7,159	9,207	11,409	10,711	9,921

資料出所：総務省「住民基本台帳人口移動調査」

賃上げ環境整備のための経済産業省支援策について

2026年7月7日

中国経済産業局 経営支援課

1. 賃上げ施策にかかる全体像
2. 賃上げ原資確保のための生産性向上支援
～よろず支援拠点生産性向上支援センター
3. 賃上げ原資確保のための設備投資等支援
～省力化投資補助金等の補助メニュー

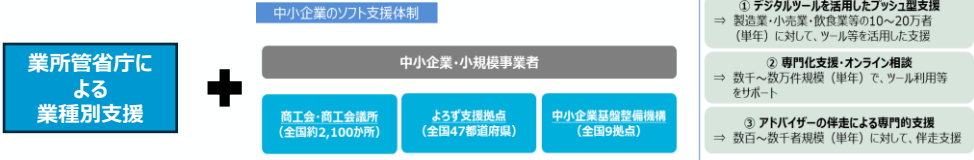
「中小企業・小規模事業者の賃金向上推進5か年計画」の主要施策

○2029年度までの5年間で、日本経済全体で、実質賃金で1%程度の上昇、すなわち、2%の持続的・安定的な物価上昇の下で、物価上昇を1%程度上回る賃金上昇を賃上げのノルムとして我が国に定着させる。
○特に、我が国の雇用の7割を占める中小企業・小規模事業者の経営変革の後押しと賃上げ環境の整備を通じ、全国津々浦々で物価上昇に負けない賃上げを早急に実現・定着させるため、2029年度までの5年間で集中的に取り組む政策対応を「中小企業・小規模事業者の賃金向上推進5か年計画」の施策パッケージとして示し、政策資源を総動員してこれを実行する。

1. 生産性向上投資

- 5年間60兆円※の中小企業・小規模事業者の生産性向上投資を官民で実現するために、複数年度にわたる支援を行う。
 - ※ 中小企業の設備投資は、2021-23年度の過去3年間で年平均+2.8%（足元の生産性向上の投資額は年間10兆円程度）。5年間60兆円の投資額は、この投資額を、複数年度の生産性向上支援により、2025-29年度の5年間を通じて毎年平均+4%の伸び率（2030年度135兆円の官民国内投資目標に向けた伸び率と同率）とすることに相当
- その際、全国津々浦々で必要な投資が行われるよう、全国2,000を超える者（全国2,200か所の商工会・商工会議所や中小企業団体中央会＋全国500行の地域金融機関等）によるきめ細やかな支援を行うなど、全国的なサポート体制を構築する。
- 特に、最低賃金引上げの影響を大きく受ける、人手不足が深刻な12業種※については、業種別の「省力化投資促進プラン」（業種ごとに、生産性向上目標、目標の実現に資する省力化事例、省力化促進策等をリストアップ）に基づき、官民で省力化投資を推進する。
 - ※ 最低賃金引上げの影響を大きく受ける、人手不足が深刻な12業種（カッコ内は主な省力化事例）：
①飲食業〔調理ロボット・セルフオーダーシステム〕、②宿泊業〔自動チェックイン機〕、③小売業〔POSレジ・シフト管理システム〕、④生活関連サービス業（理容・美容・クリーニング・冠婚葬祭）〔POSレジ・会計管理システム〕、⑤自動車整備業・ビルメンテナンス業〔効率的に故障を探知するスキャンツール、清掃ロボット〕、⑥製造業〔ロボット・IoTシステム〕、⑦運輸業〔自動倉庫・無人フォークリフト〕、⑧建設業〔遠隔で作業員の状態を管理するウェアラブルカメラ〕、⑨医療〔電子カルテ〕、⑩介護・福祉〔AIによる報告書作成〕、⑪保育〔マット午睡センサー〕、⑫農林水産業〔散布用ドローン、養殖向け自動給餌機〕

※ あわせて、省力化投資補助金、業務改善助成金、各業種での設備投資等を支援する助成金、生産性革命推進事業（ものづくり補助金、IT導入補助金、小規模事業者持続化補助金、成長加速化補助金）、新事業進出補助金等の強化を図る。



○地域で中小企業・小規模事業者の生産性向上を推進する人材を確保するため、「週1副社長」の取組を始め、経営人材の副業・兼業等のマッチングを強化する。

2. 価格転嫁・取引適正化

- 自治体の官公需（17.4兆円）と国・独立行政法人等の官公需（11.0兆円）の両方で、適切な価格転嫁を徹底して進める。
 - とりわけ、自治体の官公需の価格転嫁のため、
 - 自治体に、重点支援地方交付金※を徹底的に活用していただく。
 - ※ 重点支援地方交付金は、地方自治体の公共調達の中で労務費を含めた価格転嫁の円滑化に活用可能
 - 自治体の低入札価格調査制度・最低制限価格制度※（導入は自治体の任意）の導入状況を、国が一覧性をもって可視化し、両制度の導入拡大を図る。
 - ※ 低入札価格調査制度：最低の価格で申込みをした者について調査を行い、契約に適合した履行がされないおそれがある等の場合に、その者を落札者となしうことが出来る制度
 - ※ 最低制限価格制度：あらかじめ最低制限価格を設けた上で、当該価格以上の申込みの中で、最も価格が低い者を落札者とする制度
 - 「下請けかけこみ寺」を通じて、中小企業・小規模事業者からの苦情・相談を積極的に受け付け、それに基づき自治体に適切な対応を促す。
- 中小受託取引適正化法の執行強化のため、公正取引委員会・中小企業庁・業所管省庁の体制強化とともに、違反企業への対応厳格化（補助金交付・入札参加資格停止）を検討する。
- 労働基準監督署により、新たに、企業への監督指導等の機会をとらえて、中小企業・小規模事業者に取引先に価格交渉を行うこと等を呼びかける。

3. 事業承継・M&A

- 336万者の経営者全員が、事業承継・M&A等について、いつでも相談できる支援体制を構築する。
 - 全国47都道府県にある事業承継・引継ぎ支援センターの支援体制を強化するとともに、身近に相談できる地銀・信金・信組等の地域金融機関による経営者へのコンサルティングを促進する。
 - M&Aアドバイザーの専門知識や倫理観にバラつきがあり、不適切なM&A事案を発生させる一因となっていることを踏まえ、新たな資格制度を検討する。また、雇用維持や経営者保証を外さない不適切な買い手の問題に対する不安に対処するため、M&A後の同意事項に反した場合に買い戻し又は解除を可能とする措置を検討する。

4. 地域で活躍する人材の育成・処遇改善

- アドバンスト・エッセンシャルワーカー（デジタル技術等も活用して現在よりも高い賃金を得るエッセンシャルワーカー）を育成するため、就業人口の6割を占める現場人材※へのデジタル技術等のリ・スキリングや処遇改善を進める。
 - ※ 現場人材とは、就業者のうち、管理職・事務職等のホワイトカラー業種を除いた、販売・サービス・保安・農林漁業・生産工程・運送・建設等の業務に従事する労働者
- 医療・介護・保育・福祉等の現場での公定価格の引上げのため、（これまでの歳出改革を通じた保険料負担の抑制努力も継続しつつ、）次期報酬改定を始めとした必要な対応策について、経済・物価動向等への配慮として、今年の春季労使交渉における力強い賃上げの実現や昨今の物価上昇による影響等を踏まえながら、経営の安定や現場で働く方々の賃上げに確実につながるよう、的確な対応を行う。

- 【かかりつけ医】**

税理士等による
認定経営革新等支援機関
(約35,000者)

商工会・商工会議所等
(経営指導員約7,500人)

各金融機関 等
(地銀、信金、信組等)

積極的な働きかけによる
気づきの提供と相談対応
<プッシュ型>

中小企業・小規模事業者

HP等を通じた
気づきの提供

を簡単に計算で
ツールに加え、
化の「デジタル
ツール」を新た
発し、プッシュ
働きかけ

寄り添った
支援
<伴走支援>

再生
再チャレンジ

事業承継

【専門医】

売上増

new

業種毎の
生産性向上

価格転嫁

売上増

事業承継

よろず支援拠点
全国47都道府県に設置。専門家約1000人

「生産性向上を支援するセンター」の新設
生産性向上支援サポーターによる伴走支援

価格転嫁サポート窓口

商工会・商工会議所
年間406万件の経営指導の中で実施。
経営指導員約7,500人
経営指導員、外部専門家の経営相談体制強化

中小企業活性化協議会
全国47都道府県に設置。相談員約450人
「早期経営改善計画」策定支援、協議会の体制強化

事業承継・引継ぎ支援センター
全国47都道府県に設置 相談員約700人
「事業承継計画」策定支援・センターの体制強化

【主な支援策】

 - 生産性革命推進事業
・デジタル化・AI導入補助金
・持続化補助金 等
 - 省力化投資促進事業
 - 事業環境変化対応型支援事業
 - 公庫等による金融支援
 - 取引適正化の徹底 等
 - 経営改善計画策定支援事業
(405/Vアップ事業)
 - 中小企業活性化・事業承継総合支援事業
 - 事業承継・M&A補助金

2. 賃上げ原資確保のための生産性向上支援

～よろず支援拠点生産性向上支援センター

ワンストップ相談窓口（平成26年度～）

中小企業庁

中小企業の経営者を「一人にしない」
国が設置した無料の経営相談所

年間50万件以上の相談対応

満足度90%以上

中小企業・小規模事業者のための経営相談所

よろず支援拠点

どんな相談もワンストップで解決。

回数無制限 無料で相談

あらゆる経営課題へ対応

中小企業・小規模事業者の皆さまが直面し、変化していく様々な経営課題の相談に応じます。

専門性の高い経営アドバイス

経営、金融、マーケティングなど、多様な分野の専門家や、企業経営の経験者が在籍しています。

相談から実行までフォロー

解決策の提案だけでなく、その実行に向けて継続的にフォローします。課題解決後も、新たな課題や目標に向けて継続して支援を行います。

他の支援機関との連携による支援

相談内容や経営課題に応じて、地域の他の支援機関等と連携して支援を行います。

質問・相談・予約は、お近くの「よろず支援拠点」まで、お気軽にお問い合わせください。

今すぐ相談！

よろず支援拠点を 知る

よろず支援拠点全国本部 HP
<https://yorozu.smrj.go.jp/about/>

お近くの拠点を 調べる

よろず支援拠点一覧
<https://yorozu.smrj.go.jp/base/>

生産性向上支援センター（令和8年度～）

new

中小企業庁

中小企業等の生産性向上を徹底的に伴走！
国がよろず支援拠点内で実施する無料の支援です。

2026年4月開設予定

人手不足の
中小企業・小規模事業者の
皆さまへ

よろず支援拠点 生産性向上支援センター

こんな悩みを
ひとりで抱えて
いませんか？

- 「残業が減らず、人が定着しない…」
- 「本当は見直したいが、手作業が当たり前になっている…」
- 「忙しさに追われ、改善に手を付けられない…」

生産性向上支援センターは、中小企業等の皆さまに寄り添い、
「今の現場に合った」次の一步を一緒に考えます。

ポイント1 生産性向上の「プロ」が支援

生産性向上に関する知識・経験豊富な「プロ」が「今の現場に合った」次の一步と一緒に考えます。

ポイント2 無料・複数回の現場訪問

「相談にいく時間がない」、そんな場合でも、ご安心ください。サポーターが何度でも、無料でご現場へ伺います。

ポイント3 補助金活用にもメリット

センターの支援を受けることで、省力化投資補助金（一般型）の採択審査において加点が受けられます。（予定）

質問・相談・予約は、お近くの「よろず支援拠点 生産性向上支援センター」まで、お気軽にお問い合わせください。

お近くの拠点を 調べる

よろず支援拠点一覧 <https://yorozu.smrj.go.jp/base/>

センターで働きたい方はこちら
サポーター公募情報
<https://yorozu.smrj.go.jp/recruit/>

※「補助金」の支援は、合計100万円を想定しています。※省力化投資補助金（一般型）の採択審査における加点要素については、2026年度以降の公募要綱から実施予定です。
※よろず支援拠点一覧の各都道府県センターの情報は2026年春に更新されます。
※本事業は、令和8年度当初予算案に基づいており、本事業の実施は当該予算案の可決・成立が前提となります。今後の国会審議次第では事業内容等が変更される可能性がありますので、予めご了承ください。（2026年2月時点）

- 生産性向上支援センターとは、人手不足などの課題に直面する中小企業等が、生産性向上に取り組めるよう、国が全国の「よろず支援拠点」内に設置する公的支援組織（2026年4月1日新規オープン）。
- 生産性向上のプロ（サポーター）が、無料で、複数回、中小企業等の現場に訪問し、徹底して伴走。
- 業務の見える化、ムリムラムダの削減、作業の標準化、導線の効率化、デジタル活用、省力化投資の検討など、状況に応じた最適な一步をアドバイス。

広島県よろず支援拠点・
生産性向上支援センター
詳細はこちら↓



ポイント

01 生産性向上のプロがアドバイス

生産性向上に関する知識・経験が豊富なサポーターが専門性の高いアドバイスを提供。

02 無料で複数回の現場訪問

「相談に行く余裕も時間もない・・・」という場合も安心。何度でも、無料で、サポーターが現場訪問。

03 国の補助金における加点（予定）

センターの支援を受けると、省力化投資補助金（一般型）の採択審査において加点が受けられる。

支援内容の一例



課題のありか	目的	方法・支援内容
⑤自動化・IoT	・画期的な省人化・省力化 ・工法・加工技術の開発改良 ・リアルタイム管理	・AI/ロボット/センサー/カメラなどメカトロ技術を活用 ・システムインテグレーション ・情報ネットワーク技術によりリアルタイム化とアクション
④スタッフ業務改革	・受発注・生産管理・設計開発 事務・技術・計画業務効率化 とリードタイム短縮	・アナログな作業をデジタル化（DX）一気通貫・一括処理 ・POS、RPA、クラウドなどITの活用 ・CAD/CAMなどデジタルエンジニアリング技術の活用
③プロセス改革	・コスト原単位に基づいた改革 ・工程短縮・共通化、在庫低減 ・レイアウト・物流・動線改革	・ヒト・モノ・情報の流れを把握&分析、減らす/止める/共通化 ・作業手順・工数・在庫量・仕掛かりタイミングを明らかにし シンプル・スリム・スピーディ・フレキシブルに
②改善職場づくり	・作業者の声をもとに自発的に 改善の進む職場文化・風土	・ムリ/ムダ/ムラ、やりにくい作業、守りにくいルールの改善 ・全員参加・現地現物・チームワーク・改善マインドの醸成
①作業環境の整備	・安全・安心・健康な作業環境 ・正常・異常がすぐわかる ・ムリ・ムダ・ムラを目立たせる	・5S(3S) 必要な物は近く、分かるように、不要物は整理 ・災害・疾病リスクアセスメントで、より良い作業環境作り

※「複数回」の支援は、合計10回程度を想定。
※省力化投資補助金（一般型）の採択審査における加点措置については、2026年夏頃以降の公募回から実施予定。
※「支援内容の一例」は「福岡県中小企業DX推進センター」HPから引用。

3. 賃上げ原資確保のための設備投資等支援

～省力化投資補助金等の補助メニュー

事業規模や成長ステージごとの生産性向上投資支援

190

※令和7年度補正予算等

売上規模		事業者数	売上拡大		高付加価値化		
100億円以上	大企業	約1,300者			✓ 会社を急成長させたい ✓ 上場を目指したい		
	中堅企業	約0.9万者	中堅等大規模投資補助金 【中堅向け】				
	中小企業	約4,500者	上限50億 補助率1/3等				
100億未満 10億円		約9万者	100億企業支援		✓ 承継前に事業を磨きたい ✓ M&Aの統合効果を出したい		
			成長加速化補助金 上限5億 補助率1/2	【100億宣言企業向け】 上限50億 補助率1/3等			
10億円 1億円		約60万者	新事業進出・ものづくり補助金 上限9,000万 補助率1/2等		事業承継・M&A補助金 上限2,000万 補助率1/2等 省力化投資補助金 上限1億 補助率1/2等 デジタル化・AI導入補助金 上限450万 補助率1/2等		
1億円 1,000万円		約140万者	持続化補助金 上限250万 補助率2/3 等		✓ 販路を広げたい ✓ 商品をPRしたい		
1,000万円以下		約140万者					

中小企業省力化投資補助金（一般型）

191

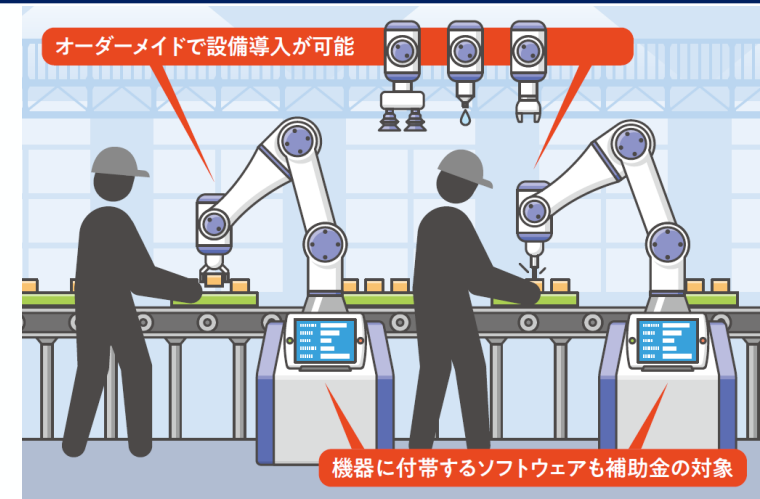
- 人手不足解消に効果のある「省力化投資」を後押しするための支援です。
- 省力化効果のある設備・システムなどをオーダーメイド・セミオーダーメイドで導入する際に活用できます。

【一般型】

項目	内容
1 補助上限	最大1億円（補助率 中小企業1/2、小規模等2/3） ※従業員数によって補助上限が異なります ※大幅な賃上げを行う場合補助上限が上がります
2 事業期間	18ヶ月以内
3 対象者	中小企業・小規模事業者 等
4 要件	①労働生産性 年平均成長率4%以上 ②省力化の度合いや投資回収年数を記載した事業計画の策定が必要
5 対象経費	機械装置費、システム構築費 等

【活用事例】

- ✓ 通信販売事業でオンラインショッピングの顧客数及び購買量に対応するため、**自動梱包機及び倉庫管理システムをオーダーメイドで開発・導入**
- ✓ 自動車関連部品製造事業で検査が難しい微細な自動車関連部品の製造を効率的に行うため、**最新のデジタルカメラやAI技術等を活用した自動外観検査装置を事業者の現場に合わせた形で導入**



現在第7回公募中。
詳細はこちら→



中小企業省力化投資補助金（カタログ注文型）

192

- 人手不足解消に効果のある「省力化投資」を後押しするための支援です。
- 省力化製品を対象製品のリスト（カタログ）から選んで導入する際に活用できます。

【カタログ注文型】

項目	内容
1 補助上限	最大1,500万円（補助率1/2以内） ※従業員数に依って補助上限が異なります ※大幅な賃上げを行う場合補助上限が上がります
2 事業期間	1 2ヶ月以内
3 対象者	中小企業・小規模事業者 等
4 要件	労働生産性 年平均成長率3%以上
5 対象経費	カタログに掲載された省力化製品の購入費

【活用事例】

- ✓ 旅館において、**自動清掃ロボット**を導入することで受付の人員を増強し、手続き迅速化・おもてなし等で顧客満足度を向上させ、高付加価値化
- ✓ 倉庫に**無人搬送車**を導入することで、棚替え業務を省力化し、多くの受注をこなすようにすることで生産性を向上



拡大中！

カタログはこちら→



随時申請受付中。

詳細はこちら→



- 業務の効率化やDXの推進、セキュリティ対策に向けたITツール等の導入費用を支援します。

【通常枠】

項目	内容
1 補助上限	450万円（補助率1/2） ※対象経費によって補助上限が異なります
2 事業期間	交付決定から6ヶ月程度
3 対象者	中小企業・小規模事業者等
4 要件	労働生産性 年平均成長率3%以上
5 対象経費	ソフトウェア購入費、クラウド利用料 等

【インボイス枠】

項目	内容
1 補助上限	350万円（補助率1/2～4/5） ※対象経費によって補助上限が異なります
2 事業期間	交付決定から6ヶ月程度
3 対象者	中小企業・小規模事業者等
4 要件	インボイス制度に対応したITツールの導入
5 対象経費	ソフトウェア購入費、クラウド利用費 等

【活用事例】

✓ 通常枠で・・・

-タイムカードによる勤怠管理のため、オフィスに出社してからの現場移動、帰社してからの退勤が必要だったところ、「**勤怠・労務管理ツール**」の導入により出先からの打刻が可能に。これにより、**残業時間が3割削減**、人事担当の**作業効率も大幅アップ**！



✓ インボイス枠で・・・

-**インボイス発行の作業を効率化**するため、「**会計ツール**」を導入。経理担当が手作業で行っていた出納管理が自動化され、バックオフィスの効率が全体的に向上。



第3次申し込み受付中

詳細はこちら→



新事業進出・ものづくり商業サービス補助金

194

- 技術的革新性のある製品・サービスの開発や既存事業とは異なる新市場・高付加価値事業への進出、海外市場開拓（輸出）に向けた国内の輸出体制の強化に係る設備投資等を支援します。

項目	革新的新製品・サービス枠	新事業進出枠	グローバル枠
補助上限	2,500万円※1、 2（補助率1/2※3、 2/3）	7,000万円※1、 2（補助率1/2※3）	7,000万円※1、 2（補助率2/3）
事業期間	交付決定日から10か月以内	交付決定日から14か月以内	
対象者	中小企業・小規模事業者等		
基本要件	①付加価値額：年平均成長率4.0%以上増加 ②賃上げ：1人あたり給与支給総額年平均成長率3.5%以上 ③事業場内最低賃金：事業実施都道府県の最低賃金+30円以上の水準 ④次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画を公表及び職場環境改善に向けて追加的に取組を行うこと等		
対象経費	機械装置・システム構築費、技術導入費、専門家経費、建物費※4、海外旅費※5、通訳・翻訳費※5 等		

※1：従業員数により補助上限は異なる、 ※2：一定の賃上げを行う場合は補助上限を引上げ、 ※3：最低賃金の引上げを行う場合は補助率2/3、
 ※4：新事業進出枠及びグローバル枠のみ、 ※5：グローバル枠のみ

【活用事例】

革新的新製品・サービス枠で…



最新複合加工機を導入し、これまではできなかった精密加工が可能になり、より付加価値の高い新製品を開発

新事業進出枠で…



鉄鋼材加工業で培ってきた技術を活かして、新たに半導体製造装置部品の製造に挑戦

グローバル枠で…



海外の展示会で現地ニーズを調査し、国内に最新設備を導入。新規顧客への営業で輸出品に採用されるタッチセンサの受注を新規獲得

**第1次申し込み
受付中**
 詳細はこちら↓



小規模事業者持続化補助金（通常枠）

195

- 商工会・商工会議所の経営指導員の伴走支援を受けながら、事業者自らが策定した経営計画に基づき行う販路開拓等の取組を支援します。

【概要】

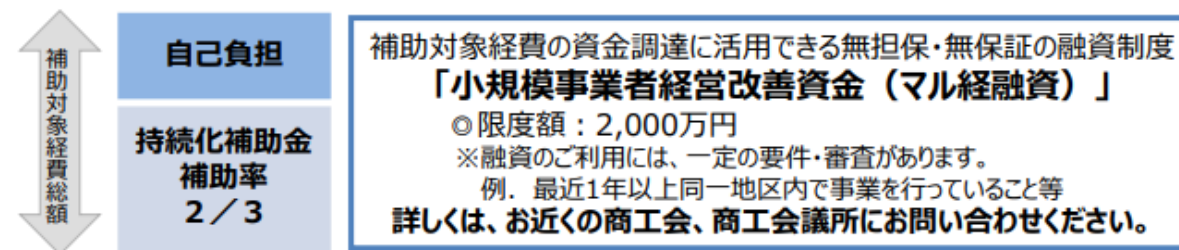
項目	内容
1 補助上限	50万円（補助率2/3） ※特例を活用した場合は最大で250万円。 ※賃金引上げ特例活用事業者のうち赤字事業者については補助率が上がります。
2 事業期間	1 2 か月程度（公募要領をご確認ください）
3 対象者	小規模事業者 （従業員が商業・サービス業（宿泊業・娯楽業を除く）の場合5人以下、製造業又はそれ以外の業種の場合20人以下）
4 要件	商工会・商工会議所の経営指導員による伴走支援 ※地域の商工会・商工会議所が発行する「事業支援計画書」の添付が必要です。
5 対象経費	機械装置等費、展示会出展費、新商品開発費 等
6 その他	補助事業実施中や終了時において、商工会・商工会議所の経営指導員から助言等の支援を受けることができます。

※内容は変更となる可能性があります

【活用事例】

- ✓ 観光ぶどう農園を有する喫茶店において、フリーズドライ製品の洗練されたパッケージデザインやリーフレットを作成し、高級スーパー等への商談に活用し、新たな販路を開拓。
- ✓ 醤油製造業者が、事前のテストマーケティングを実施の上、新たな原材料に対応した機械装置を導入するなどして、新商品を開発。海外向け展示会に出展し、新規顧客を獲得。

【関連融資制度】



次回は令和8年 1 1 月 5 日～申請受付開始。

詳細はこちら→



補助金等チラシの提供

- 中小企業庁ウェブサイト「ミラサポplus」において、補助金等のチラシを掲載。

経済産業省 中小企業庁

ミラサポplus

中小企業向け
補助金・総合支援サイト

このサイトは日本政府公式Webサイトです

経営相談しよう

使い方ガイド

補助金・助成金等チラシ

会員登録する

ログイン

補助金を探す

補助金について知る

自社の未来を考える

経営のヒント

動画でわかる補助金情報

最新情報

一覧を見る

2026年06月30日 NEW

【補助金】新事業進出・ものづくり商業サービス補助金の第1回公募要領を公開

2026年06月26日 NEW

【メンテナンス告知】GビズIDのシステムメンテナンス

重要なお知らせ

2026年06月30日

【補助金】新事業進出・ものづくり商業サービス補助金の第1回公募要領を公開

貸上げ 最低賃金 対応 支援特設サイト

成長加速 マッチングサービス

3分でわかる! 忙しい人のための 補助金動画

経済産業省 中小企業庁

ミラサポplus

中小企業向け
補助金・総合支援サイト

経営相談しよう

使い方ガイド

補助金・助成金等チラシ

会員登録する

ログイン

自社の経営を創る

人気の補助金

事例を探す

経営のヒント

ローカルベンチマーク

成長加速マッチング

補助金・助成金等チラシ

※公勢開始時期の決定後にチラシを掲載する場合がございます。ご了承ください。

すべて

補助金

金融支援

税制優遇

事業承継支援

取引支援

その他の支援

相談窓口等

予算

助成金

貸上げ

補助金

補助金

補助金

相談窓口等

事業承継・M&A補助金

持続化補助金<創業型>

持続化補助金<一般型(通常枠)>

中小企業活性化協議会

2026年1月30日更新

2026年1月28日更新

2026年1月28日更新

2026年1月27日更新

税制優遇

金融支援

相談窓口等

貸上げ

中小企業税制パンフレット

資金繰りにお悩みの皆様へ

取引Gメンによる訪問調査

貸上げ引き上げの支援策(リーフレット)

2026年1月26日更新

2026年1月23日更新

2026年1月19日更新

2026年1月16日更新

貸上げ

貸上げ

補助金

補助金

詳細はこちら↓

15

- 中小企業庁ウェブサイト「ミラサポplus」において、賃上げ・最賃対応の特設サイトを設置。



ミラサポplus 中小企業庁 賃上げ・最低賃金対応支援特設サイト

賃上げ必要額・収益分析のツールとヒント、相談窓口、補助金等の支援策などをまとめています。



- 自社の賃上げ額をまず知っていただく。
- 賃上げ原資の確保のためのヒントを提供。
 - －価格交渉・価格転嫁をしたい
 - －売上増加・生産性向上したい
 - －IT導入・省力化したい
 - －経営改善・事業再生・再チャレンジをしたい
 - －事業承継を進めたい
- 上記の5つの対策のイメージの漫画、企業の事例、相談窓口、関連する補助金等の施策の紹介

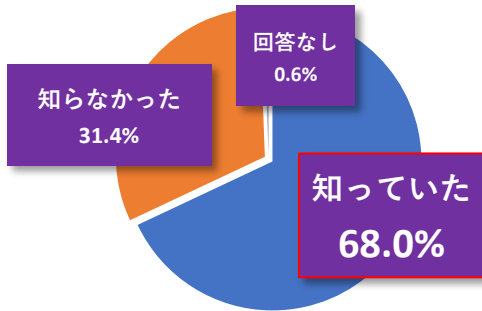
令和7年度 業務改善助成金アンケート結果

業務改善助成金を申請した事業場に制度や効果についてアンケートを実施しました。
結果は以下のとおりです。今後とも必要な対応に努めてまいります。(回答数153事業場)

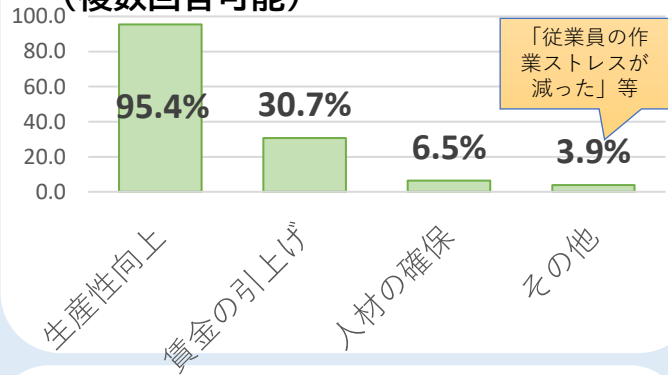
結果概要

- 業務改善助成金は…「大いに役に立った」(92.8%)、「まあまあ役に立った」(7.2%)
- 取組の効果として…「生産性の向上につながった」(95.4%)、
「最低賃金以外で働く労働者の賃金の引上げ」(30.7%)
- 今後の活用は…「今後も利用したい」(48.6%)、
「設備投資する予定があれば考えたい」(40.9%)

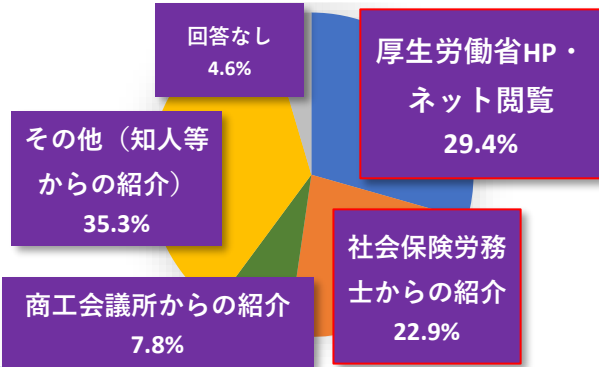
1. 業務改善助成金の認知度



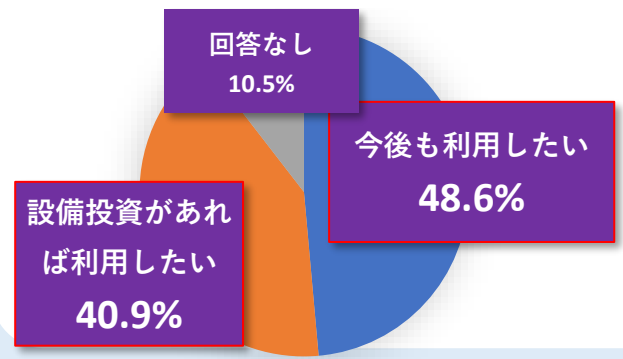
4. 取組の結果、どのような効果があったか (複数回答可能)



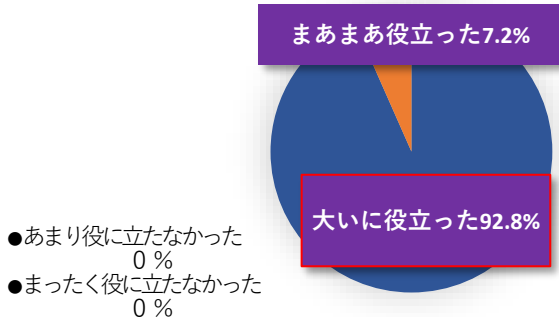
2. 業務改善助成金制度を知るきっかけ



5. 今後も業務改善助成金を利用したいか



3. 業務改善助成金が役に立ったか



<注意事項>

- ・過去に、業務改善助成金を活用した事業者も助成対象になります。
- ・予算の範囲内で交付するため、期間内に募集を終了する可能性があります。
- ・交付決定前に助成対象設備の導入を行った場合は、助成の対象とはなりません。
- ・必ず最新の交付要綱・要領で、助成要件を確認ください。(交付要綱・要領は、裏面にある「業務改善助成金」ページをご参照ください。)

【お問い合わせ先】
業務改善助成金コールセンター
0120-366-440
(受付時間 平日9:00-17:00)

【ワンストップ窓口】
広島働き方改革推進支援センター
0120-610-494
(受付時間 平日9:00-17:00)

厚生労働省
広島労働局

◆ 業務改善助成金の概要

- 事業所内で最も低い賃金(事業所内最低賃金)を¹⁹⁹50円以上引き上げ、生産性向上に資する設備投資等(機械設備導入、コンサルティング等)を行った場合に、その設備等にかかった費用の一部を助成する制度です(要件により、最大600万円まで)。
- 令和8年度の申請期間は、令和8年9月1日から申請事業場に適用される地域別最低賃金の発効日の前日又は同年11月30日のいずれか早い日までです。

対象事業者の要件

- ・中小企業・小規模事業者であること
(大企業と密接な関係を有する企業(みなし大企業)でないこと)
- ・事業場内最低賃金が令和8年度改定後の地域別最低賃金額未満までの事業所であること
- ・解雇、賃下げなどの不交付事由がないこと 等

申請の単位

要件を満たした事業主は事業場ごとに申請する

◆ 業務改善助成金の申請～受領までの流れ

- 広島労働局雇用環境・均等室(※事業場所在地を管轄する都道府県労働局)に対し、所定様式で申請を行っていただきます。

STEP1.

交付申請

- ・交付申請書
 - ・事業実施計画書 等
- を広島労働局 雇用環境・均等室に提出

労働局
交付決定
申請書等を審査の上、通知

STEP2.

事業の実施

申請内容に沿って事業を実施
(賃金の引き上げ、設備の導入、代金の支払等を実施)
令和9年1月31日まで

STEP3.

事業実績報告

- ・助成金支給申請書
 - ・事業実績報告書 等
- を提出

労働局
交付額決定と助成金支払い
実績報告書等を審査し適正と認められれば、交付額の確定と助成金支払いを実施

助成金受領

状況報告 (賃金引き上げ後の状況の報告)

業務改善助成金 広島県内の導入事例

【小売業】

【取組内容(導入機器等)】

POSレジシステム



【導入の効果】

お客様のレジを待つ時間が軽減された。
閉店後の精算処理も約2時間かかって
いたが、約1時間で作業が終わるよう
になった。
現金誤差が発生しなくなった。

【飲食店】

【取組内容(導入機器等)】

業務用電子レンジ



【導入の効果】

家庭用電子レンジ1台を使用していた
が、壊れやすく、ワット数が小さい(600w)
ので時間がかかっていた。
業務用電子レンジ(1800w)を3台導
入し、温める時間が3分の1になり、以
前より速く料理が出せるようになった。

【農業】

【取組内容(導入機器等)】

ラジコン草刈り機



【導入の効果】

時間当たりの処理能力は、手作業によ
る500㎡から、導入後は800㎡へと向上
した。1回につき、45分業務時間が削減
された。
これまで2名の作業員を要していたが、
1名での運用が可能となった。

【申請様式・マニュアル等について】

上記検索、または右のQRコードから

厚生労働省HP「業務改善助成金」ページにある

・交付要綱・各種様式 > 令和8年度申請分
・申請のお役立ちツール > 「申請マニュアル」「申請書等の記入例」等
を参照いただき申請ください。ご不明点は、裏面の問い合わせ先にご連絡ください。

業務改善助成金

検索



【申請先】

広島労働局 雇用環境・均等室

〒730-8538

広島県広島市中区八丁堀6番30号

広島合同庁舎第2号5階

082-221-9247 (受付時間 平日8:30-17:15)

令和7年度 業務改善助成金アンケート結果(速報)

アンケート回収事業場

153 事業場

1 業務改善助成金の認知度

A 制度を知っていた	104	認知率	68.0%
B 制度を知らなかった	48		
C 回答なし	1		

2 業務改善助成金制度を知るきっかけ

A 厚生労働省ホームページ	45	29.4%
B 社会保険労務士からの紹介	35	22.9%
C 商工会議所・商工会からの紹介	12	7.8%
D その他	54	35.3%
E 回答なし	7	4.6%

3 業務改善助成金が生産性向上に役立ったか

A 大変役に立った	142	92.8%
B やや役に立った	11	7.2%
C あまり役に立たなかった	0	0.0%
D 全く役に立たなかった	0	0.0%

4 取組の結果、どのような効果があったか(複数可)

A 生産性の向上につながった	146
B 事業場内最低賃金以外の賃金で働く労働者の賃金も引き上げることができた	47
C 人材の確保につながった	10
D その他の効果(具体的に:)	6

5 今後も業務改善助成金を利用したいか

A 利用したい	51	48.6%
B 設備投資する予定が今後あれば、考えた		
い	43	41.0%
C 利用しない	0	0.0%
D 無回答	11	10.5%
Cを選んだ場合、その理由	該当なし	

業務改善助成金の都道府県別実績(交付決定件数)

201

資料№5－3

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
北海道	628	953	787
青森	158	248	134
岩手	242	240	295
宮城	188	241	383
秋田	95	144	179
山形	147	219	248
福島	254	346	541
茨城	213	302	303
栃木	204	351	298
群馬	187	230	198
埼玉	340	432	434
千葉	235	356	402
東京	693	1,007	805
神奈川	430	591	528
新潟	320	381	415
富山	158	206	225
石川	189	257	340
福井	253	342	436
山梨	127	111	127
長野	241	339	395
岐阜	308	439	429
静岡	322	730	619
愛知	1,085	1,315	1,512
三重	247	292	350

(件)

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
滋賀	236	273	270
京都	184	462	462
大阪	1,021	1,363	1,054
兵庫	563	919	1,014
奈良	158	252	290
和歌山	176	233	296
鳥取	177	192	158
島根	156	163	228
岡山	265	201	303
広島	403	429	541
山口	240	301	275
徳島	127	333	306
香川	241	323	408
愛媛	173	302	388
高知	196	172	166
福岡	529	863	808
佐賀	211	210	267
長崎	216	255	339
熊本	154	298	236
大分	224	299	296
宮崎	153	169	260
鹿児島	122	163	191
沖縄	217	354	532
全国計	13,406	18,601	19,471

価格交渉促進月間（2026年3月） フォローアップ調査結果

令和8年6月26日
中小企業庁

2026年3月 価格交渉促進月間フォローアップ調査の概要

- 原材料費やエネルギー費、労務費等が上昇する中、多くの中小企業が価格交渉・価格転嫁できる環境整備のため、2021年9月より毎年9月と3月を「価格交渉促進月間」と設定。2026年3月で10回目。
- 成果を確認するため、各「月間」の終了後、価格交渉・転嫁の実施状況等について、中小企業に対し、①アンケート調査、②取引Gメンによるヒアリングを実施。必要に応じて業所管大臣名での行政指導等に繋げていく。

①アンケート調査

○調査の内容

中小企業等に、2025年10月～2026年3月末までの期間における、発注者（最大3者分）との間の価格交渉・価格転嫁・支払条件の状況を問うアンケート票を送付。調査票の配布先は、経済センサスの産業別・都道府県別法人企業数の割合（BtoC取引が中心の業種を除く）を参考にして抽出。

○配布先の企業数 30万社

○調査期間 2026年4月20日～6月3日

○回答企業数 69,625社（回答から抽出される発注企業数は延べ91,233社）

※回答企業のうち、BtoC取引のみであり発注者となる取引先がないなどの理由により、回答対象外の企業は10,774社

※参考：2025年9月調査：69,988社（延べ86,538社）

2025年3月調査：65,725社（延べ76,894社）

○回収率 23.2%（※回答企業数／配布先の企業数）

※参考：2025年9月調査：23.3%、2025年3月調査：21.9%

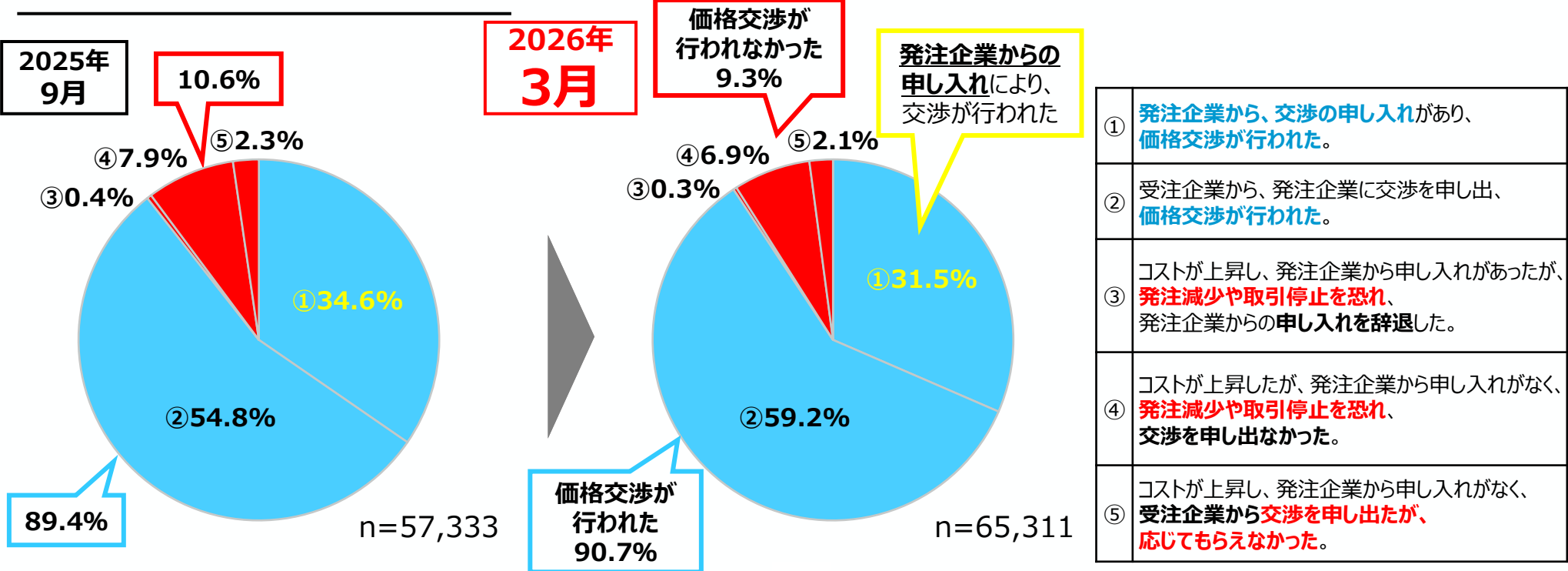
②取引Gメンによるヒアリング調査

○調査の内容

発注企業との間における価格交渉の内容や転嫁状況等について、全国の中小企業から広くヒアリングを実施。

- 「価格交渉が行われた」割合（①②）は前回から約 1 ポイント増加し、9 割を超過（前回89.4%→90.7%）。
- 「発注側企業から申し入れがあり、価格交渉が行われた」割合（①）は、前回から約 3 ポイント減の31.5%。
- 「価格交渉が行われなかった」割合（③④⑤）は前回から微減（前回10.6%→9.3%）。
 - 価格交渉は浸透しつつあるものの、引き続き、受注企業の意に反して交渉が行われなかった者が約 1 割。協議に応じない一方的な価格決定の禁止を盛り込んだ「中小受託取引適正化法」の着実な執行などを通して、価格交渉・転嫁への更なる機運醸成が重要。

直近 6 か月間における価格交渉の状況



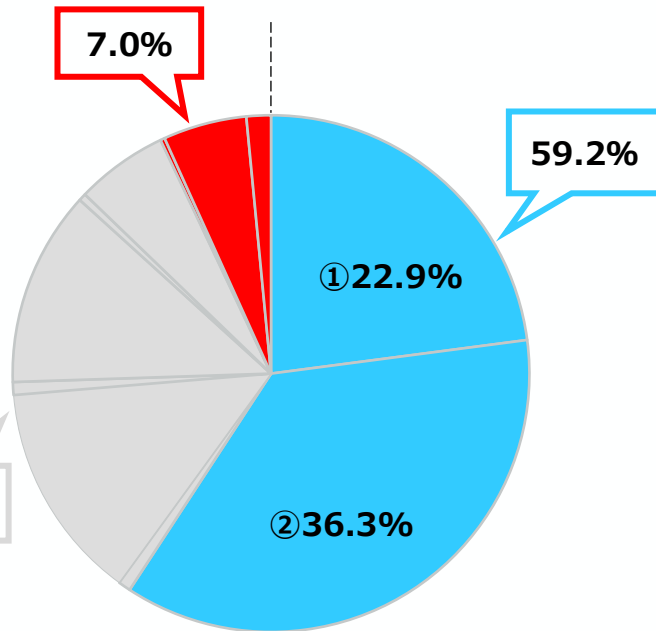
※「価格交渉不要」の回答を除いた分布。
※本調査の回答は、取適法の対象外取引も含まれ得ることに留意。以下同じ。

【参考】「価格交渉不要」の回答を含めた場合の回答分布

- 発注企業との価格交渉が行われた割合は、約 **6 割** となり、前回から増加（前回59.2%→**64.9%**）。
- 「発注企業から交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた」割合は、**2 割超**（前回22.9%→**22.5%**）。
- 「価格交渉を希望したが、交渉が行われなかった」割合は横ばい（前回7.0%→**6.7%**）。

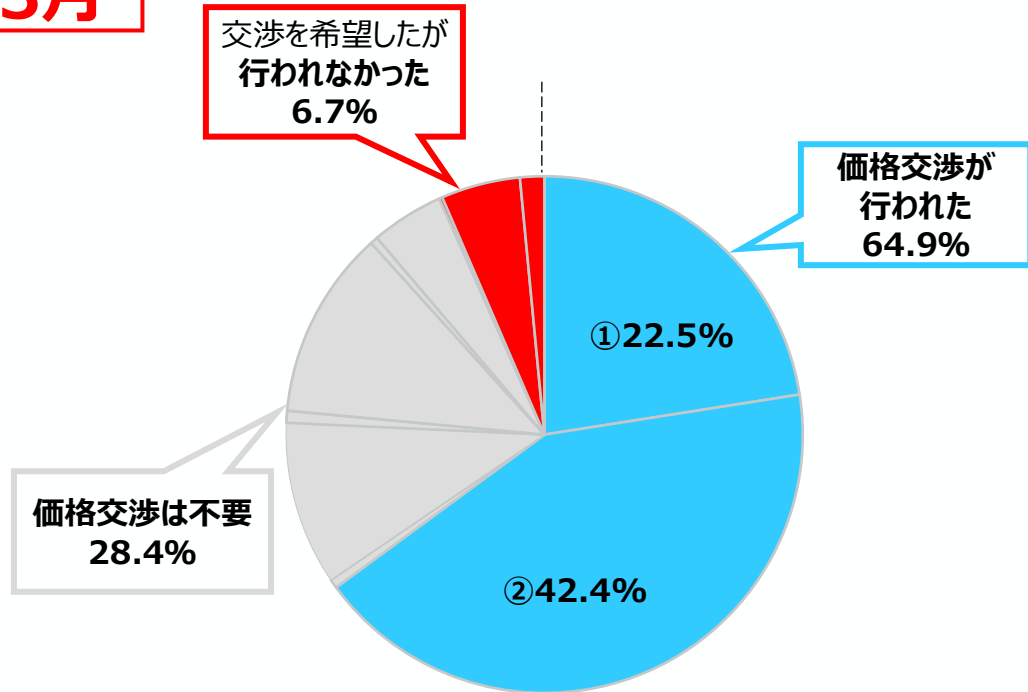
直近 6 か月間における価格交渉の状況

9月



n= 86,538

3月



n=91,233

【参考】価格交渉【アンケート回答項目と回答分布】

206

直近 6 か月間における価格交渉の状況

9月

3月

n= 86,538

n=91,233

①	発注企業から、交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた。	22.9%	22.5%
②	受注企業から、発注企業に交渉を申し出、価格交渉が行われた。	36.3%	42.4%
③	コストが上昇せず、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。	0.8%	0.6%
④	コストが上昇せず、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。	13.7%	10.2%
⑤	コストが上昇したが、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。	0.8%	0.8%
⑥	コストが上昇し、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。	12.3%	11.8%
⑦	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。	0.5%	0.5%
⑧	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。	5.8%	4.5%
⑨	コストが上昇し、発注企業から申し入れがあったが、発注減少や取引停止を恐れ、発注企業からの申し入れを辞退した。	0.3%	0.2%
⑩	コストが上昇したが、発注企業から申し入れがなく、発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。	5.2%	5.0%
⑪	コストが上昇し、発注企業から申し入れがなく、受注企業から交渉を申し出たが、応じてもらえなかった。	1.5%	1.5%

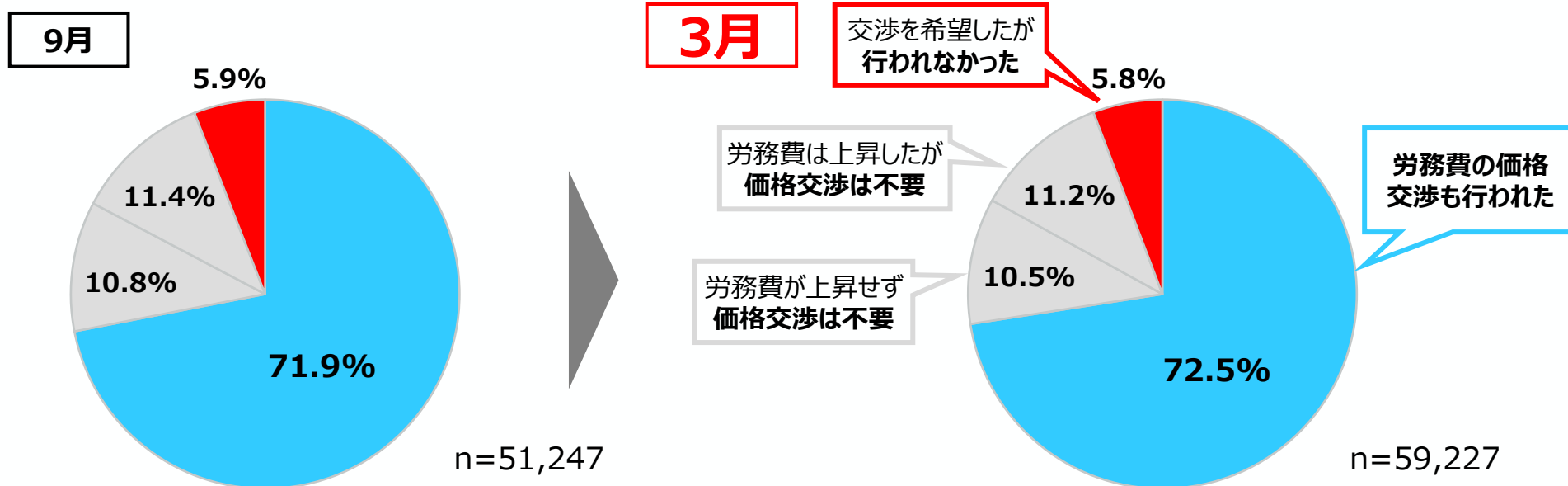
労務費に係る価格交渉の状況

207

※2023年11月に、「**労務費指針**（労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針）」が策定・公表されたことを踏まえ、今回の調査においても、「**労務費について価格交渉ができたか**」を調査（同指針は2025年12月に改定）。

- 価格交渉が行われた企業（64.9%）のうち **7割超**において、**労務費についても交渉を実施**。
- 一方で、「労務費が上昇し、**価格交渉を希望したが出来なかった**」企業も依然として存在（前回5.9%→**5.8%**）。
 - 公正取引委員会等と連携し、「**労務費指針**」を周知・徹底していく。

労務費の交渉状況

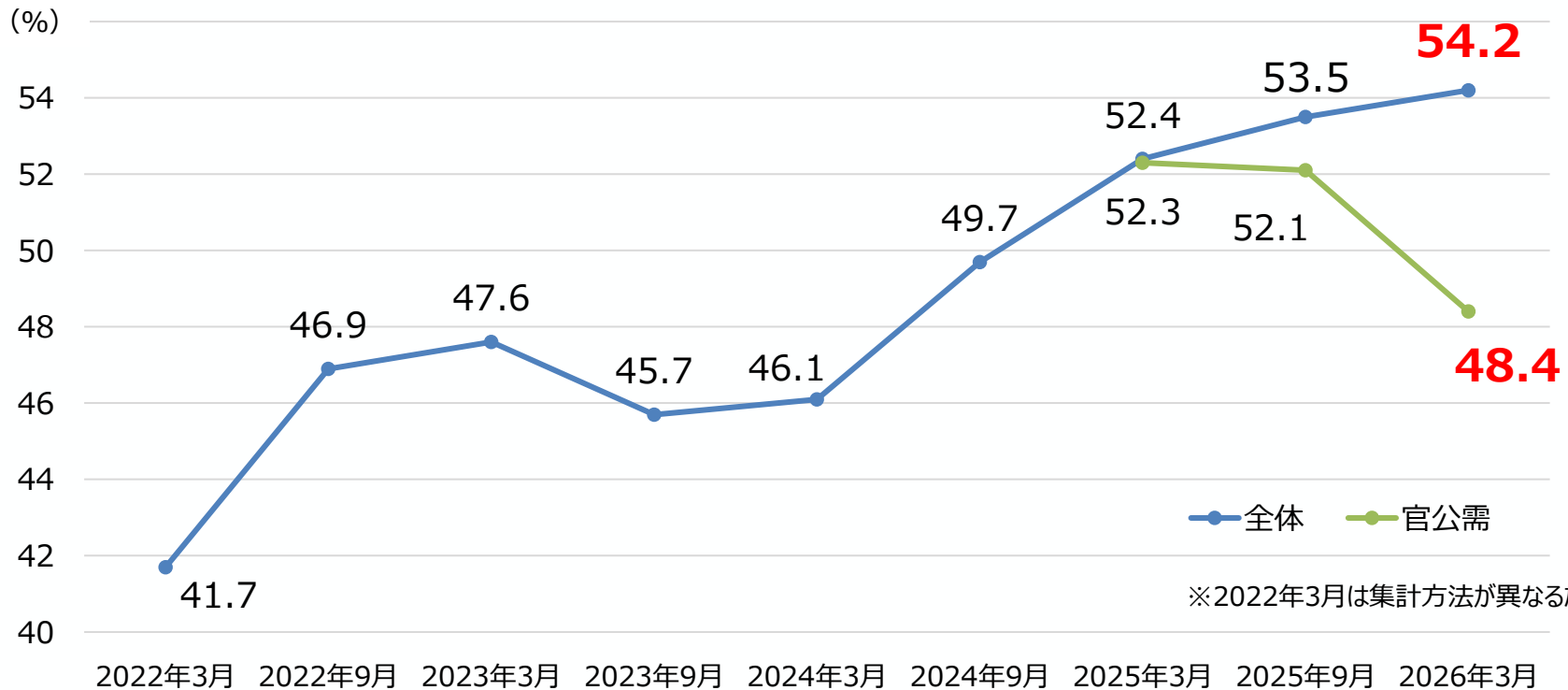


アンケート回答企業からの具体的な声

- ▲OEMや業界団体が示す比率（価格上昇率・労務費率など）を一方的に採用され、**実際の価格上昇分の一部しか転嫁できなかった**。個別交渉をお願いしたが応じてもらえなかった。
- ▲資料を揃えて労務費の交渉を申し入れたが、**最低賃金の上昇分すら転嫁を認めてもらえなかった**。

- コスト全体の価格転嫁率は**54.2%**。昨年9月時点より**約1ポイント増加**（前回53.5%→**54.2%**）。
- 官公需取引に限った場合の価格転嫁率は、前回から約4ポイント低下し、**48.4%**（前回52.1%）。

価格転嫁率の推移



価格転嫁の状況【コスト全般】

209

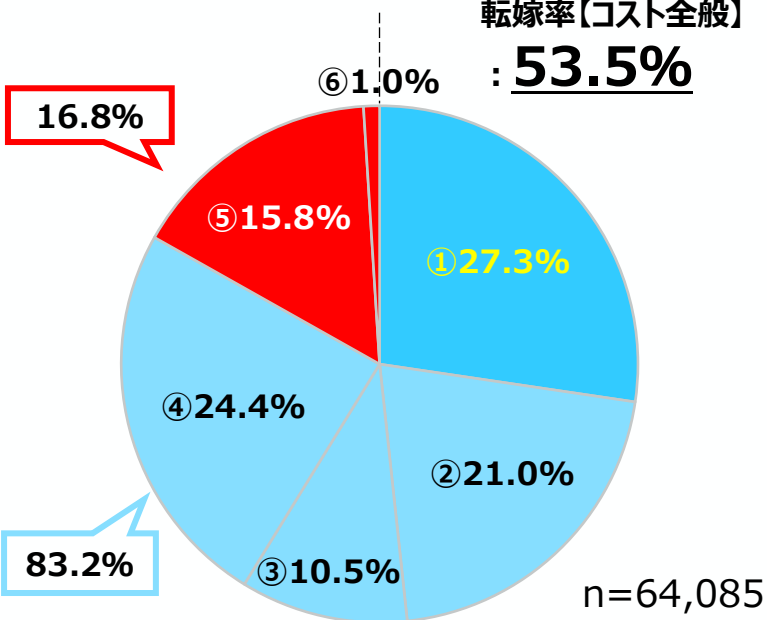
- 「一部でも転嫁できた」割合（①②③④）は8割超。「全額転嫁できた」割合（①）は3割弱。
- 「転嫁できなかった」「マイナスとなった」割合（⑤⑥）は横ばいの状況（前回16.8%→16.0%）。
 - 価格転嫁の状況はほぼ横ばいであり、引き続き、転嫁できない企業と二極分離の状態が継続している。転嫁が困難な企業への更なる対策が重要。

直近6か月間における価格転嫁の状況

9月

転嫁率【コスト全般】

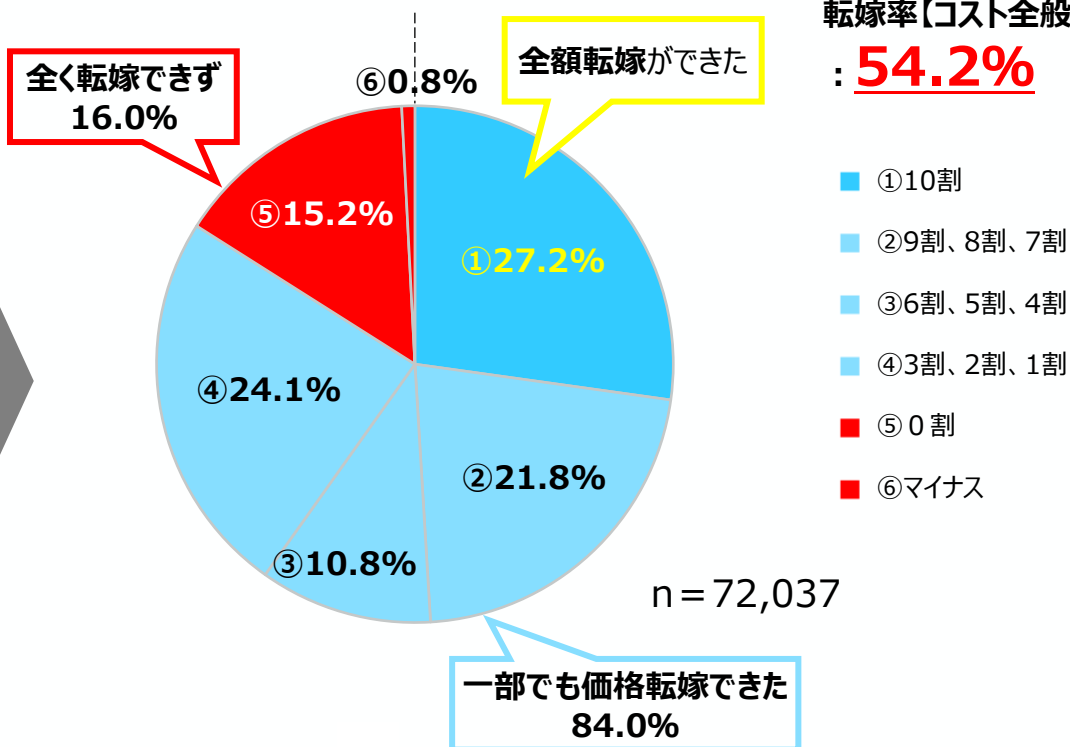
: **53.5%**



3月

転嫁率【コスト全般】

: **54.2%**



※「価格転嫁不要」の回答を除いた分布。

【参考】「価格転嫁不要」の回答を含めた回答分布

210

- 「全額転嫁できた」割合は、引き続き、約 2 割程度。「一部でも転嫁できた」割合は、7 割弱。
- 「転嫁できなかった」「マイナスとなった」割合は横ばいの状況（前回12.5%→12.6%）。

直近 6 か月間における価格転嫁の状況

9月

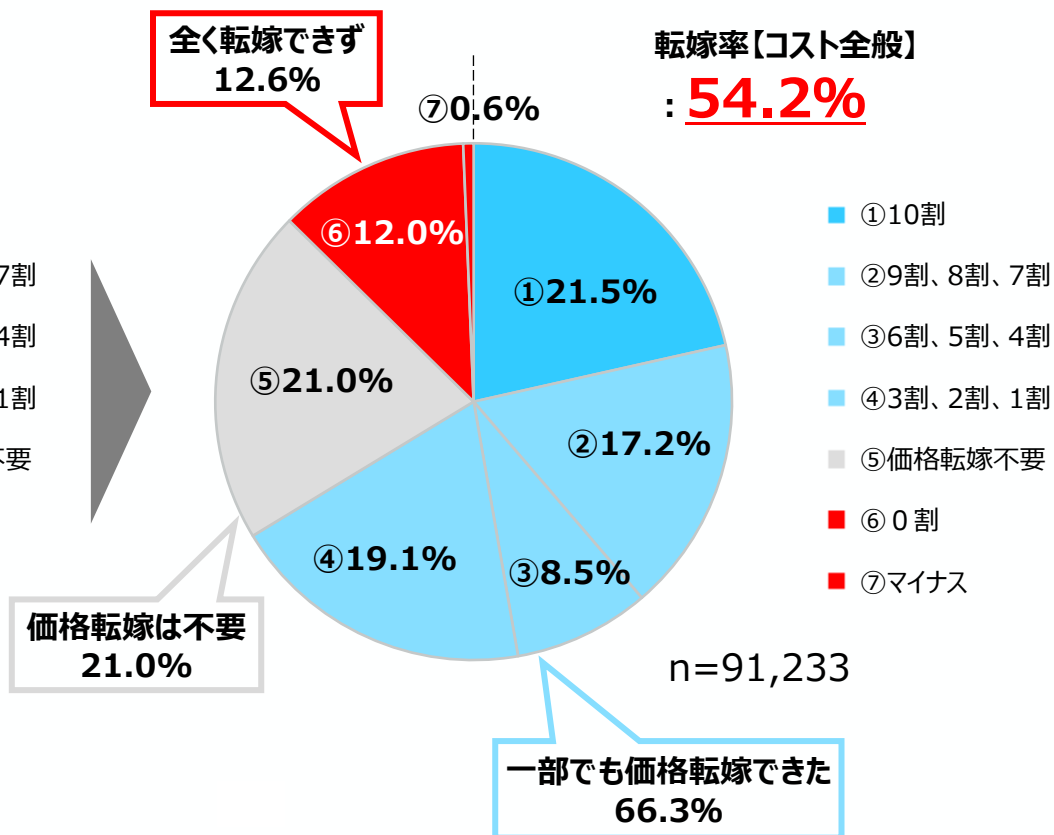
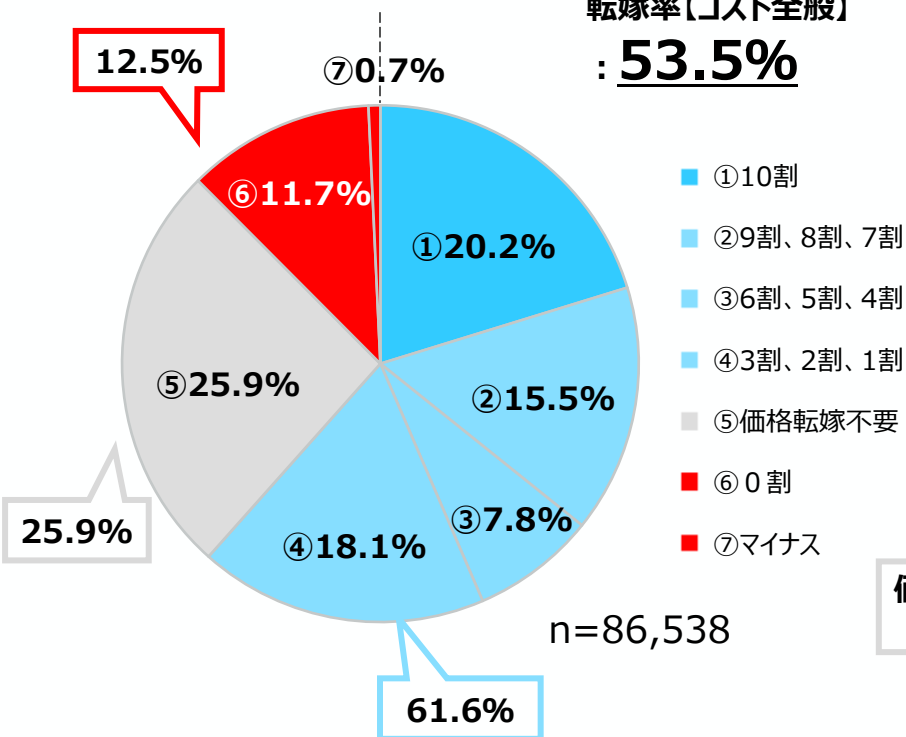
3月

転嫁率【コスト全般】

: **53.5%**

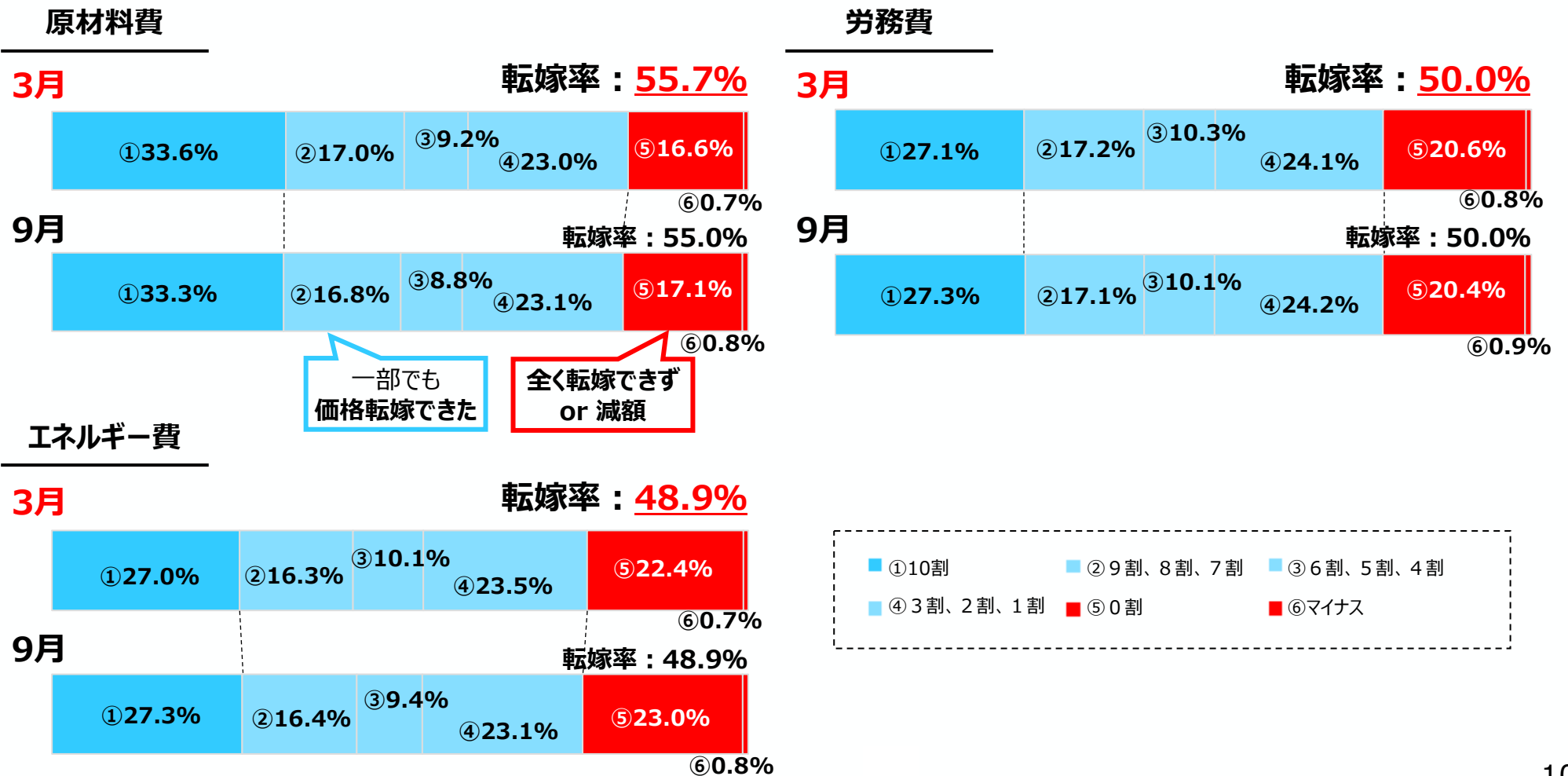
転嫁率【コスト全般】

: **54.2%**



価格転嫁の状況【コスト要素別】

- 原材料費の転嫁率は上昇したものの、労務費・エネルギー費は前回から横ばい。
- 労務費の転嫁率は、5割を維持したものの、原材料費と比較して約5ポイント低い。エネルギー費の転嫁率が前回に引き続き最も低い水準となった。
 - 労務費に限らず、原材料費・エネルギー費を含めたコスト全般の価格転嫁を一層推進していく必要がある。



※「価格転嫁不要」の回答を除いた分布

【参考】価格転嫁の状況【コスト要素別】（「価格転嫁不要」の回答を含む）

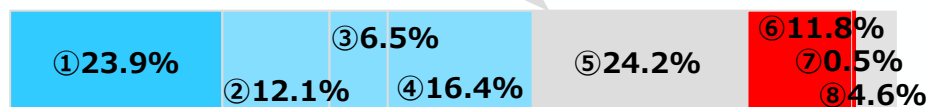
- 「転嫁できなかった」「マイナスとなった」割合は、それぞれ微増。
- 「全額転嫁できた」割合についても、いずれのコストにおいても微増の状況。

原材料費

価格転嫁不要

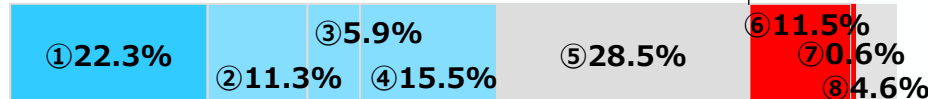
3月

転嫁率：55.7%



9月

転嫁率：55.0%



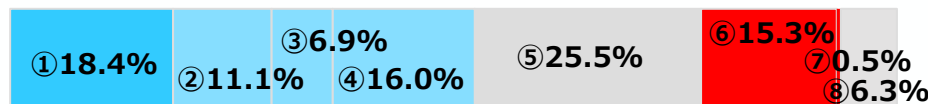
一部でも
価格転嫁できた

全く転嫁できず
or 減額

エネルギー費

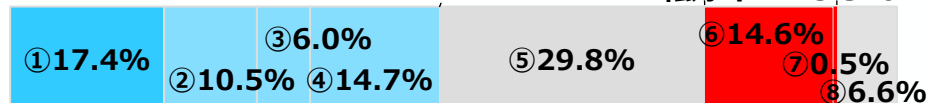
3月

転嫁率：48.9%



9月

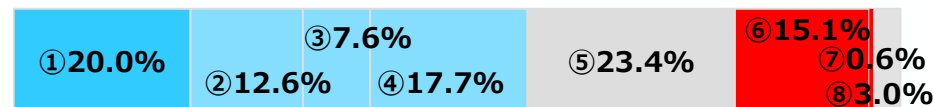
転嫁率：48.9%



労務費

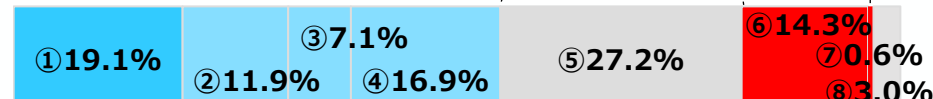
3月

転嫁率：50.0%



9月

転嫁率：50.0%



- ① 10割
- ② 9割、8割、7割
- ③ 6割、5割、4割
- ④ 3割、2割、1割
- ⑤ 価格転嫁不要
- ⑥ 0割
- ⑦ マイナス
- ⑧ 当該費用は支払代金に含まれない

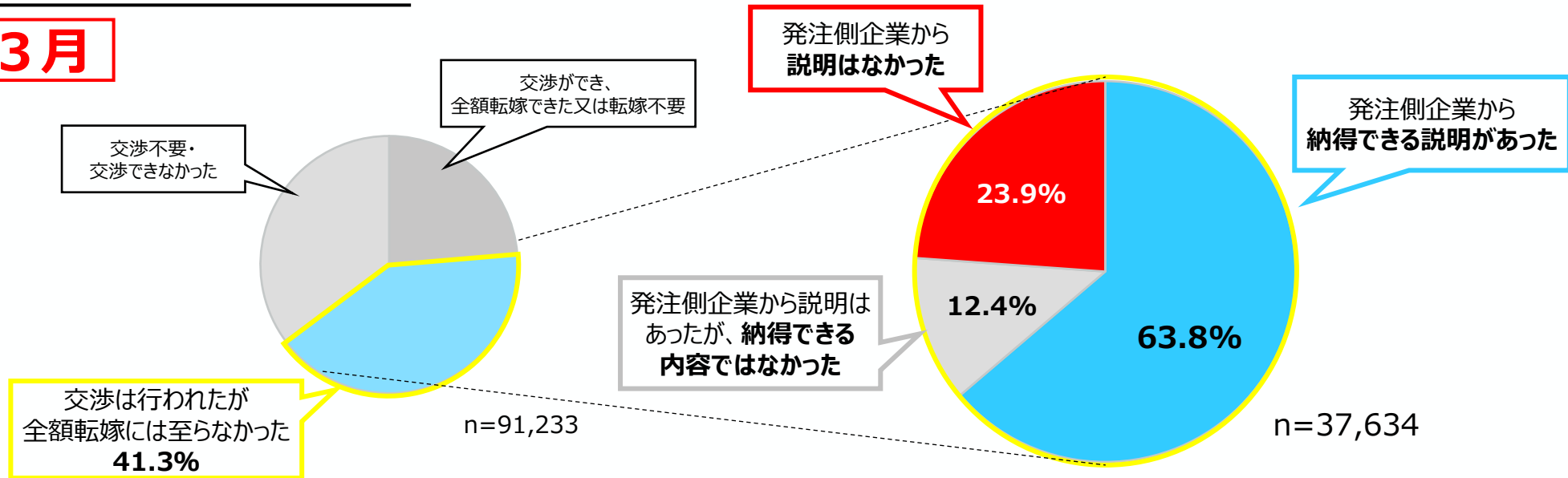
価格転嫁に関する発注側企業による説明

213

- 価格交渉が行われたものの、全額の転嫁には至らなかった企業（全体の41.3%）のうち、「発注側企業から説明はあったものの、納得できるものではなかった」又は「発注側企業からの説明はなかった」とする回答が約4割（前回36.6%→36.3%）。
- 発注側企業に対し、価格交渉の場の設定のみならず、価格に関する十分な説明も求めていく必要。
「中小受託取引適正化法」により、価格協議において、必要な説明又は情報の提供をしないことや一方的な価格決定が禁止されている旨の周知、対応の徹底を促していく。

発注側企業からの説明状況

3月



アンケート回答企業からの具体的な声

- ▲ 自社（受注側）にはコスト上昇についての詳細な根拠資料を求めるにも関わらず、一方的に価格を決められ、その根拠について発注側からの説明はない。

価格交渉の実施状況の業種別ランキング【発注企業の業種毎に集計】

交渉に応じている業種と応じていない業種の差が僅かに縮小。交渉に応じている業種は転嫁率も高い傾向にある。

順位	業種	交渉平均点	
－	全体	7.39	(7.30)
1位	製薬	↑↑↑ 8.49	(7.22)
2位	造船	↑ 7.92	(7.58)
3位	建設	↓ 7.82	(7.96)
4位	化学	↓ 7.81	(7.94)
5位	電気・ガス・熱供給・水道	↑ 7.80	(7.55)
6位	情報サービス・ソフトウェア	↑ 7.76	(7.39)
7位	広告	↑↑ 7.70	(7.07)
8位	通信	↑↑ 7.66	(7.11)
9位	鉱業・採石・砂利採取	↑↑ 7.58	(6.67)
10位	電機・情報通信機器	↑ 7.57	(7.26)
11位	金融・保険	↑↑ 7.52	(6.95)
12位	自動車・自動車部品	↑ 7.42	(7.29)
13位	食品製造	↑ 7.41	(7.14)
14位	機械製造	↑ 7.35	(7.13)
15位	卸売	↑ 7.31	(7.28)
16位	飲食サービス	↑ 7.28	(7.09)
17位	不動産業・物品賃貸業	↓ 7.25	(7.26)
18位	警備	－ 7.23	－
19位	運輸・郵便（トラック運送除く）	↑ 7.22	(6.98)
20位	小売	↑ 7.20	(7.05)
21位	放送コンテンツ	↑ 7.01	(6.77)
22位	金属	↓ 6.99	(7.05)
23位	農業・林業	↓ 6.95	(7.13)
24位	建材・住宅設備	↑↑ 6.93	(6.27)
25位	石油製品・石炭製品製造	↑↑ 6.88	(6.35)
26位	繊維	↑ 6.84	(6.38)
27位	印刷	↑ 6.81	(6.48)
28位	紙・紙加工	↑ 6.78	(6.57)
29位	廃棄物処理	↑↑ 6.54	(5.90)
30位	生活関連サービス	↑ 6.48	(6.42)
31位	ビルメンテナンス	－ 6.35	－
32位	トラック運送	↑↑ 6.27	(5.60)
－	その他	－	－

※（）内は2025年9月の平均点を示す。9月時点との変化幅と矢印の数の関係は以下のとおり。
↑／↓：0.5未満 上昇／下落、↑↑／↓↓：0.5以上～1.0未満 上昇／下落、
↑↑↑／↓↓↓：1.0以上 上昇／下落
※価格交渉が行われたか、下記の評価方法で回答を点数化し、発注企業の業種別に集計。
（例）家電メーカー（発注者）が、トラック運送業者（受注者）に運送委託するケースは、「電機・情報通信機器」に集計。

質問① 交渉有無	質問② 交渉申し入れ 有無	質問③ 交渉が実現しなかった理由	点数
行われた	申し入れが あった	—	10点
	申し入れが なかった	—	8点
行われ なかった	申し入れが あった	コストが上昇せず、交渉は不要と判断し、辞退したため	10点
		コストが上昇したが、交渉は不要と判断し、辞退したため	10点
		支払代金が市場価格に連動するため、 交渉は不要と判断し、辞退したため	対象外
		コストが上昇したが、 発注量減少や取引停止を恐れ、辞退したため	5点
	申し入れが なかった	コストが上昇せず、 交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかったため	対象外
		コストが上昇したが、 交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかったため	対象外
		支払代金が市場価格に連動するため、 交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかったため	対象外
		コストが上昇したが、 発注量減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかったため	－5点
	コストが上昇し、交渉を申し出たが、応じてもらえなかったため	－10点	

価格転嫁の実施状況の業種別ランキング【発注企業の業種毎に集計】

- 上位の製造業系の業種は、転嫁率が数ポイントずつ上昇し、改善傾向にあるものの、下位のトラック運送業、廃棄物処理、農業・林業などは、昨年9月時点とほぼ横ばいの結果となっている。

2026年3月			コスト増に対する転嫁率		各要素別の転嫁率									
全体					原材料費		エネルギー費		労務費					
業種別	1位	化学	↓	65.9%	(66.7%)	↑	69.7%	(69.6%)	↓	62.4%	(62.5%)	↓	60.0%	(60.6%)
	2位	電機・情報通信機器	↑	63.6%	(60.6%)	↑	67.7%	(64.5%)	↑	56.5%	(54.9%)	↑	56.9%	(56.0%)
	3位	造船	↑	62.4%	(59.4%)	↑	64.9%	(63.9%)	↑	57.0%	(55.1%)	↑	56.9%	(54.1%)
	4位	飲食サービス	↑	62.0%	(57.2%)	↑	62.7%	(60.7%)	↑	52.2%	(48.4%)	↑	53.0%	(48.5%)
	5位	機械製造	↑	61.4%	(59.4%)	↑	65.7%	(64.8%)	↑	56.5%	(55.2%)	↑	56.4%	(54.5%)
	6位	自動車・自動車部品	↑	61.2%	(58.9%)	↑	67.8%	(64.9%)	↑	59.4%	(56.0%)	↑	58.1%	(56.1%)
	7位	食品製造	↑	59.5%	(59.3%)	↑	61.9%	(60.2%)	↑	53.2%	(53.1%)	↓	52.6%	(53.2%)
	8位	製薬	↑↑↑	57.2%	(46.7%)	↑↑	57.6%	(50.8%)	↑↑	52.6%	(46.0%)	↑↑	51.1%	(42.6%)
	9位	情報サービス・ソフトウェア	↑↑	56.7%	(50.9%)	↑↑	51.3%	(46.1%)	↑↑	49.4%	(43.2%)	↑↑	56.4%	(51.3%)
	10位	鉱業・採石・砂利採取	↑	56.5%	(52.9%)	↑	56.3%	(52.2%)	↑	52.1%	(48.6%)	↑↑	54.8%	(47.7%)
	11位	金融・保険	↑	56.5%	(56.2%)	↓	54.4%	(58.6%)	↓	49.2%	(54.0%)	↓	54.5%	(56.0%)
	12位	電気・ガス・熱供給・水道	↑	56.2%	(52.7%)	↑	57.6%	(53.2%)	↑	52.2%	(49.3%)	↑	53.4%	(50.5%)
	13位	金属	↑	55.1%	(54.2%)	↑	59.6%	(58.5%)	↑	49.5%	(49.4%)	↑	49.3%	(48.9%)
	14位	石油製品・石炭製品製造	↑	54.7%	(50.0%)	↑↑	61.5%	(55.6%)	↑	48.7%	(44.9%)	↑	49.1%	(44.6%)
	15位	卸売	↑	54.6%	(54.1%)	↑	55.7%	(55.7%)	↓	47.8%	(49.4%)	↓	47.2%	(48.6%)
	16位	小売	↑	54.3%	(54.0%)	↑	56.0%	(55.7%)	↑	48.7%	(48.3%)	↓	47.3%	(48.0%)
	17位	紙・紙加工	↑	53.4%	(50.0%)	↑	54.2%	(53.2%)	↑	47.5%	(45.5%)	↑	47.6%	(44.7%)
	18位	建設	↓	53.0%	(53.2%)	↓	53.9%	(53.9%)	↓	48.5%	(49.8%)	↓	50.5%	(51.6%)
	19位	不動産業・物品賃貸業	↑	52.9%	(51.7%)	↑	51.9%	(51.3%)	↓	47.1%	(47.2%)	↑	50.2%	(48.3%)
	20位	運輸・郵便（トラック運送除く）	↑	52.8%	(52.4%)	↓	49.4%	(49.9%)	↑	48.1%	(45.8%)	↑	49.2%	(48.9%)
	21位	印刷	↑	51.7%	(49.9%)	↑	52.3%	(49.8%)	↑	44.0%	(42.7%)	↓	42.0%	(44.0%)
	22位	警備	－	50.5%	－	－	42.0%	－	－	38.6%	－	－	49.7%	－
	23位	繊維	↑	50.2%	(48.1%)	↑	52.6%	(51.6%)	↑	44.8%	(44.6%)	↑	44.8%	(44.8%)
	24位	生活関連サービス	↑	49.3%	(48.9%)	↓	48.1%	(49.8%)	↑	43.0%	(42.3%)	↑	44.8%	(44.2%)
	25位	建材・住宅設備	↑	48.9%	(47.2%)	↑	51.7%	(48.9%)	↑	42.7%	(40.9%)	↑	42.5%	(41.6%)
	26位	通信	↑	48.1%	(46.6%)	↑	46.6%	(46.6%)	↓	41.8%	(43.4%)	↑	47.6%	(45.9%)
	27位	広告	↑	44.0%	(43.4%)	↑	43.9%	(43.6%)	↑	35.2%	(33.5%)	↓	42.2%	(42.8%)
	28位	農業・林業	↑	42.4%	(42.3%)	↑	43.3%	(41.9%)	↑	38.9%	(38.7%)	↑	38.3%	(38.1%)
	29位	廃棄物処理	↑	42.0%	(41.1%)	↑	40.4%	(38.0%)	↑	39.5%	(36.0%)	↑	37.8%	(34.9%)
	30位	放送コンテンツ	↑	41.4%	(40.1%)	↓	38.3%	(41.6%)	↓	33.0%	(34.2%)	↑	37.9%	(37.7%)
	31位	ビルメンテナンス	－	40.2%	－	－	36.0%	－	－	34.2%	－	－	39.9%	－
	32位	トラック運送	↓	34.5%	(34.7%)	↓	31.0%	(31.3%)	↑	31.4%	(30.4%)	↑	31.3%	(31.0%)
	－	その他	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

※2025年9月時点との変化幅と矢印の数の関係 ↑／↓：～4ポイント上昇／下落、↑↑／↓↓：5～9ポイント上昇／下落、↑↑↑／↓↓↓：10ポイント以上上昇／下落

※（）内は前回の転嫁率を示す。

価格転嫁の実施状況の業種別ランキング【受注企業の業種毎に集計】

- 状況が改善した業種、悪化した業種の乖離が大きくなる結果となった。受注者として価格転嫁してもらえている業種（上位にある業種）は、発注者としても価格転嫁に応じている傾向にある。

2026年3月			コスト増に対する転嫁率		各要素別の転嫁率									
					原材料費		エネルギー費		労務費					
全体			↑	54.2%	(53.5%)	↑	55.7%	(55.0%)	↓	48.9%	(48.9%)	↑	50.0%	(50.0%)
業種別	1位	化学	↑	65.7%	(64.5%)	↑↑	72.5%	(66.5%)	↑	61.7%	(58.8%)	↑	57.1%	(56.4%)
	2位	電機・情報通信機器	↑	64.5%	(61.1%)	↑	68.3%	(64.6%)	↑	58.2%	(55.1%)	↑	58.3%	(56.8%)
	3位	紙・紙加工	↑↑↑	64.3%	(53.0%)	↑↑↑	68.0%	(54.9%)	↑↑	57.2%	(48.1%)	↑↑	56.5%	(48.6%)
	4位	機械製造	↑	63.9%	(63.4%)	↓	68.2%	(68.3%)	↑	60.6%	(60.4%)	↑	60.0%	(59.9%)
	5位	卸売	↑	62.9%	(61.8%)	↑	65.2%	(63.8%)	↓	54.6%	(54.7%)	↓	52.5%	(53.1%)
	6位	造船	↑↑	60.7%	(51.2%)	↑↑↑	61.9%	(51.9%)	↑↑	54.3%	(45.9%)	↑↑	55.5%	(48.1%)
	7位	自動車・自動車部品	↑	58.2%	(58.1%)	↓	66.5%	(66.6%)	↓	57.3%	(57.4%)	↑	57.1%	(56.9%)
	8位	情報サービス・ソフトウェア	↑↑	57.3%	(51.9%)	↑	52.2%	(47.5%)	↑	48.2%	(44.4%)	↑	56.8%	(52.5%)
	9位	石油製品・石炭製品製造	↑↑	55.9%	(50.3%)	↑↑	64.9%	(57.9%)	↑	48.8%	(46.3%)	↑	48.7%	(44.7%)
	10位	金属	↑	55.8%	(54.8%)	↑	61.8%	(60.3%)	↑	51.3%	(49.7%)	↑	50.5%	(49.5%)
	11位	食品製造	↓	54.9%	(55.7%)	↓	56.1%	(57.6%)	↓	49.0%	(50.4%)	↓	48.4%	(51.0%)
	12位	広告	↑↑	54.8%	(46.8%)	↑↑↑	56.9%	(45.4%)	↑↑	50.7%	(40.8%)	↑	48.7%	(43.8%)
	13位	小売	↓	54.5%	(57.3%)	↓	56.2%	(60.0%)	↓	48.0%	(51.0%)	↓↓	45.5%	(51.0%)
	14位	建材・住宅設備	↑↑	54.4%	(48.2%)	↑↑	55.8%	(49.6%)	↑↑	47.5%	(42.4%)	↑↑	48.2%	(42.7%)
	15位	運輸・郵便（トラック運送除く）	↑	53.9%	(50.7%)	↑	50.0%	(48.2%)	↑	51.5%	(47.0%)	↑	50.9%	(49.0%)
	16位	鉱業・採石・砂利採取	↑	52.6%	(51.3%)	↑	50.2%	(49.7%)	↑	47.5%	(44.9%)	↓	42.6%	(45.2%)
	17位	建設	↓	52.3%	(53.4%)	↓	53.6%	(54.4%)	↓	48.4%	(50.7%)	↓	50.7%	(52.3%)
	18位	印刷	↑	51.7%	(49.1%)	↑	52.2%	(50.4%)	↑	43.6%	(42.2%)	↑	43.3%	(42.1%)
	19位	警備	—	51.5%	—	—	39.5%	—	—	40.1%	—	—	52.6%	—
	20位	電気・ガス・熱供給・水道	↑	49.1%	(45.4%)	↑	51.2%	(47.8%)	↑	45.6%	(42.8%)	↑	46.5%	(43.0%)
	21位	飲食サービス	↑↑↑	46.8%	(33.0%)	↑↑	31.1%	(25.7%)	↑	30.0%	(26.5%)	↑↑↑	41.5%	(31.0%)
	22位	製薬	↑↑↑	46.7%	(30.0%)	↑↑↑	75.0%	(30.0%)	↑↑↑	48.3%	(30.0%)	↑↑↑	54.0%	(16.7%)
	23位	繊維	↑	46.5%	(46.3%)	↓	48.2%	(48.7%)	↓	40.6%	(43.6%)	↓	41.1%	(42.3%)
	24位	生活関連サービス	↑↑	46.3%	(37.6%)	↑↑	43.1%	(35.3%)	↑↑↑	42.9%	(32.2%)	↑↑↑	44.6%	(34.6%)
	25位	通信	↑	46.1%	(46.1%)	↓↓	43.7%	(49.7%)	↓	41.0%	(44.4%)	↑	49.5%	(46.1%)
	26位	ビルメンテナンス	—	45.3%	—	—	39.4%	—	—	36.5%	—	—	44.7%	—
	27位	廃棄物処理	↑	43.2%	(39.6%)	↑↑	41.8%	(36.7%)	↑	40.1%	(35.6%)	↑	39.9%	(35.7%)
	28位	不動産業・物品賃貸業	↓	41.0%	(49.0%)	↓↓	39.7%	(48.4%)	↓↓↓	36.9%	(50.1%)	↓	41.4%	(50.5%)
	29位	農業・林業	↓	38.3%	(41.4%)	↓	37.2%	(41.2%)	↓	35.0%	(38.3%)	↓	34.1%	(37.0%)
	30位	放送コンテンツ	↑	38.0%	(34.0%)	↓	34.7%	(34.9%)	↑	30.3%	(30.3%)	↑	34.4%	(32.5%)
	31位	トラック運送	↑	36.9%	(36.5%)	↓	32.2%	(32.5%)	↑	34.2%	(33.9%)	↓	33.5%	(33.6%)
	32位	金融・保険	↓↓↓	31.4%	(45.0%)	↓	36.0%	(36.4%)	↓↓↓	12.9%	(36.4%)	↓↓↓	25.0%	(50.0%)
—	その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

※2025年9月時点との変化幅と矢印の数の関係 ↑／↓：～4ポイント上昇／下落、↑↑／↓↓：5～9ポイント上昇／下落、↑↑↑／↓↓↓：10ポイント以上上昇／下落

※（）内は前回の転嫁率を示す。

価格転嫁の状況の都道府県別ランキング 【発注企業の所在地ごとに集計】

- 都道府県別の転嫁率は、上位の都道府県と下位の都道府県で**20%以上の差**が生じている。

2026年3月				コスト増に対する転嫁率	件数
全体				54.2%	91,233
都道府県別	1位	中国	島根県	↑ 62.8% (58.6%)	145
	2位	北海道	北海道	↑ 60.2% (55.5%)	2,675
	3位	東北	山形県	↑ 57.1% (52.2%)	272
	4位	東北	秋田県	↑ 56.7% (56.0%)	378
	5位	近畿	兵庫県	↑ 56.7% (54.8%)	2,827
	6位	沖縄	沖縄県	↑ 56.2% (52.1%)	365
	7位	九州	大分県	↓ 55.8% (56.5%)	417
	8位	関東	新潟県	↑ 55.8% (53.2%)	1,712
	9位	関東	長野県	↑↑ 55.6% (48.2%)	1,921
	10位	中国	広島県	↓ 55.3% (55.3%)	2,337
	11位	中部	愛知県	↑ 55.2% (51.4%)	6,327
	12位	関東	東京都	↑ 55.0% (54.9%)	26,908
	13位	九州	長崎県	↓ 54.9% (55.8%)	226
	14位	関東	神奈川県	↑ 54.8% (53.8%)	4,847
	15位	東北	青森県	↓ 54.7% (54.8%)	977
	16位	近畿	京都府	↑ 54.6% (51.4%)	2,155
	17位	中部	富山県	↑ 54.6% (50.9%)	1,328
	18位	近畿	大阪府	↑ 54.5% (53.2%)	7,949
	19位	東北	宮城県	↑↑ 54.2% (48.1%)	1,481
	20位	関東	千葉県	↑ 54.1% (53.6%)	2,160
	21位	東北	福島県	↑ 53.9% (49.7%)	344
	22位	九州	福岡県	↑ 53.7% (53.7%)	3,612
	23位	四国	徳島県	↑↑ 53.6% (47.2%)	335
	24位	中国	岡山県	↑ 53.2% (51.5%)	1,065

			コスト増に対する転嫁率	件数
25位	九州	佐賀県	↑ 52.9% (52.1%)	216
26位	中部	石川県	↑ 52.8% (51.7%)	1,331
27位	四国	愛媛県	↑ 52.4% (51.8%)	539
28位	関東	静岡県	↑ 52.3% (49.4%)	1,741
29位	関東	山梨県	↑↑ 52.0% (46.0%)	674
30位	四国	香川県	↓ 52.0% (53.9%)	885
31位	近畿	和歌山県	↑ 51.8% (49.2%)	490
32位	中部	岐阜県	↑ 51.8% (49.5%)	907
33位	関東	茨城県	↓ 51.8% (53.2%)	1,368
34位	近畿	滋賀県	↑ 51.8% (51.1%)	599
35位	中部	三重県	↑ 51.5% (49.5%)	386
36位	九州	熊本県	↓ 51.3% (54.0%)	395
37位	四国	高知県	↓ 50.9% (55.3%)	151
38位	近畿	福井県	↑ 50.4% (47.7%)	1,109
39位	近畿	奈良県	↑ 50.2% (48.9%)	358
40位	関東	栃木県	↑ 50.0% (47.2%)	1,222
41位	関東	埼玉県	↓ 49.6% (51.5%)	2,610
42位	中国	山口県	↓↓ 49.4% (56.0%)	375
43位	関東	群馬県	↑ 49.4% (45.8%)	1,591
44位	東北	岩手県	↑ 48.3% (45.5%)	855
45位	九州	鹿児島県	↓↓ 47.5% (55.1%)	276
46位	九州	宮崎県	↓↓ 42.3% (52.0%)	180
47位	中国	鳥取県	↓↓↓ 37.5% (56.5%)	95

※2025年9月時点との変化幅と矢印の数の関係 ↑/↓ : ~4ポイント上昇/下落、↑↑/↓↓ : 5~9ポイント上昇/下落、↑↑↑/↓↓↓ : 10ポイント以上上昇/下落

※ () 内は前回の転嫁率を示す。発注側企業の都道府県不明・海外企業等があるため、各都道府県の件数の合計と全体の件数は一致しない。

価格交渉・転嫁の地域別状況 【発注企業の所在地ごとに集計】⁸

地域別 価格交渉の状況

地域			点数	件数
全体			7.39	91,233
地域別	1位	北海道	7.98	2,675
	2位	東北	7.75	4,307
	3位	沖縄	7.58	365
	4位	九州	7.48	5,322
	5位	四国	7.44	1,910
	6位	関東	7.37	46,754
	7位	近畿	7.36	15,487
	8位	中部	7.26	10,279
	9位	中国	7.25	4,017

地域別 価格転嫁の状況

地域			転嫁率	件数
全体			54.2%	91,233
地域別	1位	北海道	60.2%	2,675
	2位	沖縄	56.2%	365
	3位	中部	54.4%	10,279
	4位	近畿	54.4%	15,487
	5位	関東	54.1%	46,754
	6位	中国	54.1%	4,017
	7位	東北	53.5%	4,307
	8位	九州	53.0%	5,322
	9位	四国	52.3%	1,910

※地域区分は、各経済産業局管轄区域にしたがって分類。発注側企業の都道府県不明・海外企業等があるため、各地域の件数の合計と全体の件数は一致しない。

【受注企業の所在地ごとに集計】

- 発注企業の所在地で価格転嫁率が高い都道府県（上位にある都道府県）は、受注企業の所在地ごとの集計でも価格転嫁率が高い傾向にある。

2026年3月				コスト増に対する転嫁率	件数
全体				54.2%	91,233
都道府県別	1位	東北	秋田県	↑↑ 60.4% (54.1%)	582
	2位	北海道	北海道	↑ 60.0% (55.3%)	3,512
	3位	中国	島根県	↑ 58.5% (56.5%)	149
	4位	中国	広島県	↑ 57.5% (56.3%)	3,244
	5位	近畿	大阪府	↑ 56.6% (54.8%)	4,304
	6位	近畿	兵庫県	↑ 56.5% (56.3%)	3,790
	7位	中部	石川県	↑ 56.3% (53.7%)	1,785
	8位	関東	長野県	↑↑ 56.3% (49.1%)	2,746
	9位	東北	山形県	↑↑ 56.1% (47.3%)	272
	10位	沖縄	沖縄県	↑↑ 55.8% (49.6%)	433
	11位	中部	岐阜県	↑ 55.8% (51.1%)	883
	12位	関東	新潟県	↑ 55.8% (51.1%)	2,464
	13位	九州	佐賀県	↑ 55.7% (51.7%)	281
	14位	中部	富山県	↑ 55.4% (52.0%)	1,778
	15位	九州	福岡県	↑ 55.2% (54.1%)	5,048
	16位	中部	愛知県	↑↑ 55.1% (48.8%)	7,378
	17位	近畿	京都府	↑ 55.0% (51.1%)	2,653
	18位	関東	神奈川県	↑ 54.4% (51.8%)	7,359
	19位	関東	静岡県	↑ 54.0% (50.1%)	2,582
	20位	東北	青森県	↑ 53.9% (51.3%)	1,434
	21位	東北	福島県	↑ 53.7% (53.1%)	270
	22位	四国	徳島県	↑↑ 53.7% (48.5%)	523
	23位	中国	岡山県	↓ 53.5% (54.2%)	1,413
	24位	関東	千葉県	↑↑ 53.5% (47.9%)	4,097

			コスト増に対する転嫁率	件数
25位	東北	宮城県	↑↑↑ 53.1% (40.4%)	2,290
26位	近畿	和歌山県	↑ 53.1% (52.7%)	829
27位	関東	埼玉県	↑ 52.8% (50.0%)	5,249
28位	関東	東京都	↓ 52.6% (55.2%)	5,939
29位	四国	香川県	↑ 52.5% (52.3%)	1,358
30位	四国	愛媛県	↑ 52.5% (52.1%)	439
31位	九州	大分県	↓ 52.4% (53.1%)	580
32位	関東	茨城県	↑ 51.9% (50.6%)	2,596
33位	近畿	滋賀県	↓ 51.8% (52.3%)	1,105
34位	関東	栃木県	↑ 51.5% (48.8%)	2,202
35位	関東	山梨県	↑↑ 51.4% (44.7%)	1,040
36位	近畿	奈良県	↑ 51.4% (49.0%)	912
37位	近畿	福井県	↑ 50.9% (46.5%)	1,432
38位	関東	群馬県	↑ 50.6% (46.0%)	2,720
39位	九州	鹿児島県	↓ 50.4% (54.2%)	316
40位	東北	岩手県	↑ 50.2% (46.5%)	1,375
41位	九州	長崎県	↓↓ 49.5% (55.9%)	278
42位	中国	山口県	↓↓ 49.1% (55.0%)	386
43位	四国	高知県	↓↓ 48.8% (55.1%)	153
44位	中部	三重県	↓ 47.9% (52.6%)	311
45位	九州	熊本県	↓↓ 46.1% (54.6%)	428
46位	九州	宮崎県	↓↓↓ 39.7% (52.6%)	216
47位	中国	鳥取県	↓↓↓ 34.2% (55.1%)	99

※2025年9月時点との変化幅と矢印の数の関係 ↑/↓ : ~4ポイント上昇/下落、↑↑/↓↓ : 5~9ポイント上昇/下落、↑↑↑/↓↓↓ : 10ポイント以上上昇/下落

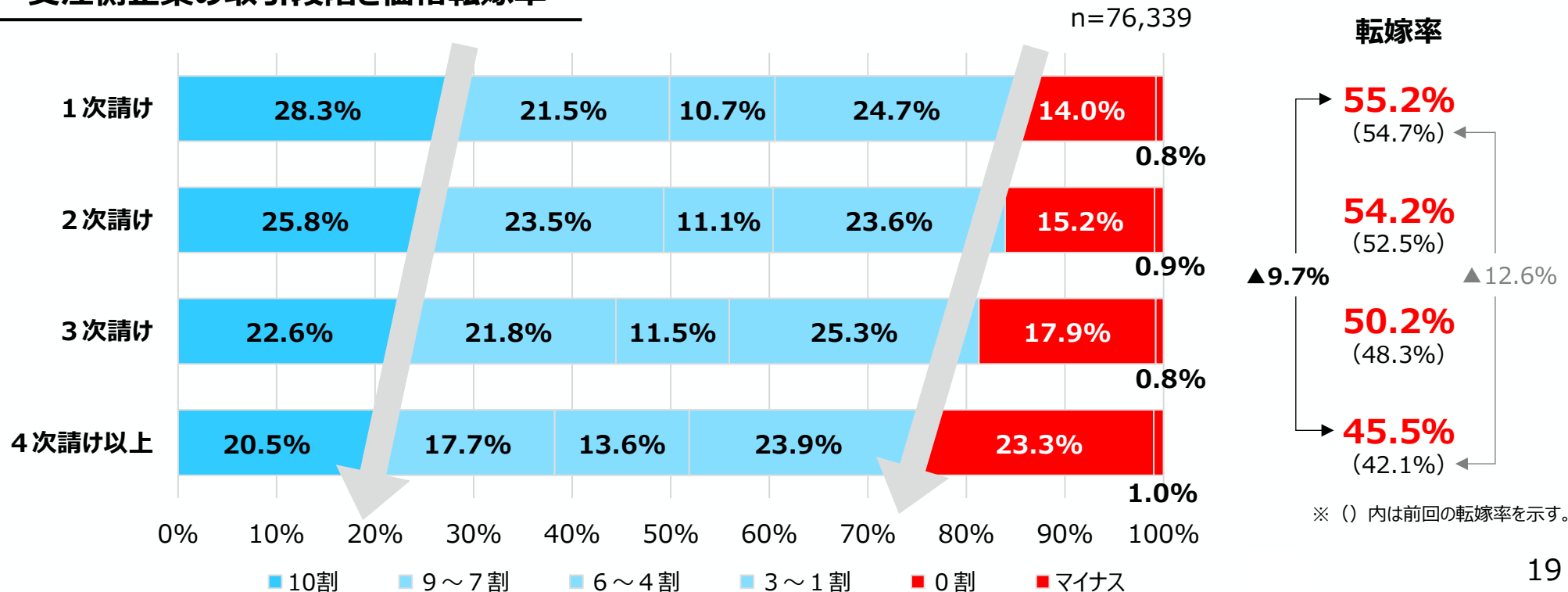
※ () 内は前回の転嫁率を示す。

サプライチェーンの各取引段階（※）における価格転嫁の状況

※各取引段階：受注側中小企業に対する、「自社が、**最終製品・サービスを提供する企業**から数え、どの取引段階に位置しているか」との質問への回答を集計したもの。

- **価格転嫁率**は、**1次請けの企業は5割超（55.2%）**に対し、**4次請け以上の企業は4割程度（45.5%）**。
 - いずれの段階においても、前回と比較して**転嫁率は上昇傾向**にあり、1次請けの企業と4次請け以上の企業の**転嫁率の差は縮小した**。
 - 一方、引き続き、受注側企業の**取引段階が深くなるにつれて価格転嫁率が低くなる**傾向がみられ、特に、**4次請け以上の階層**においては、「**全く転嫁できなかった**」又は「**減額された**」企業は、**2割強（24.3%）**。
- 引き続き、取引階層の深い段階への**価格転嫁の浸透**が課題。

受注側企業の取引段階と価格転嫁率

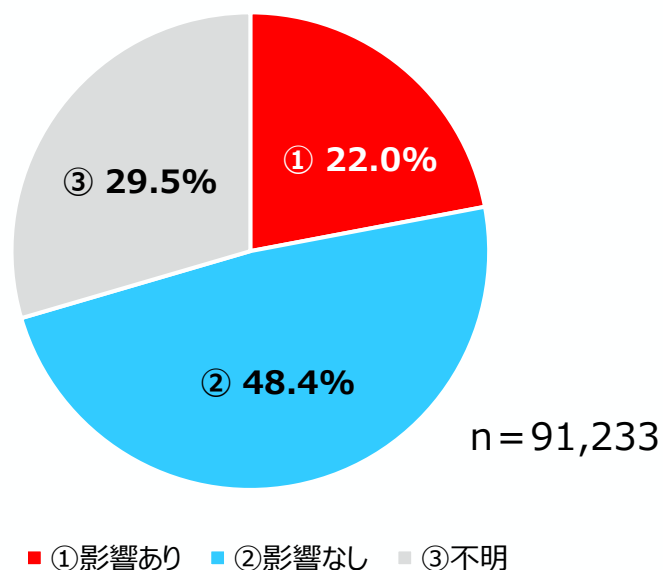


中東情勢の変化による価格交渉・価格転嫁への影響

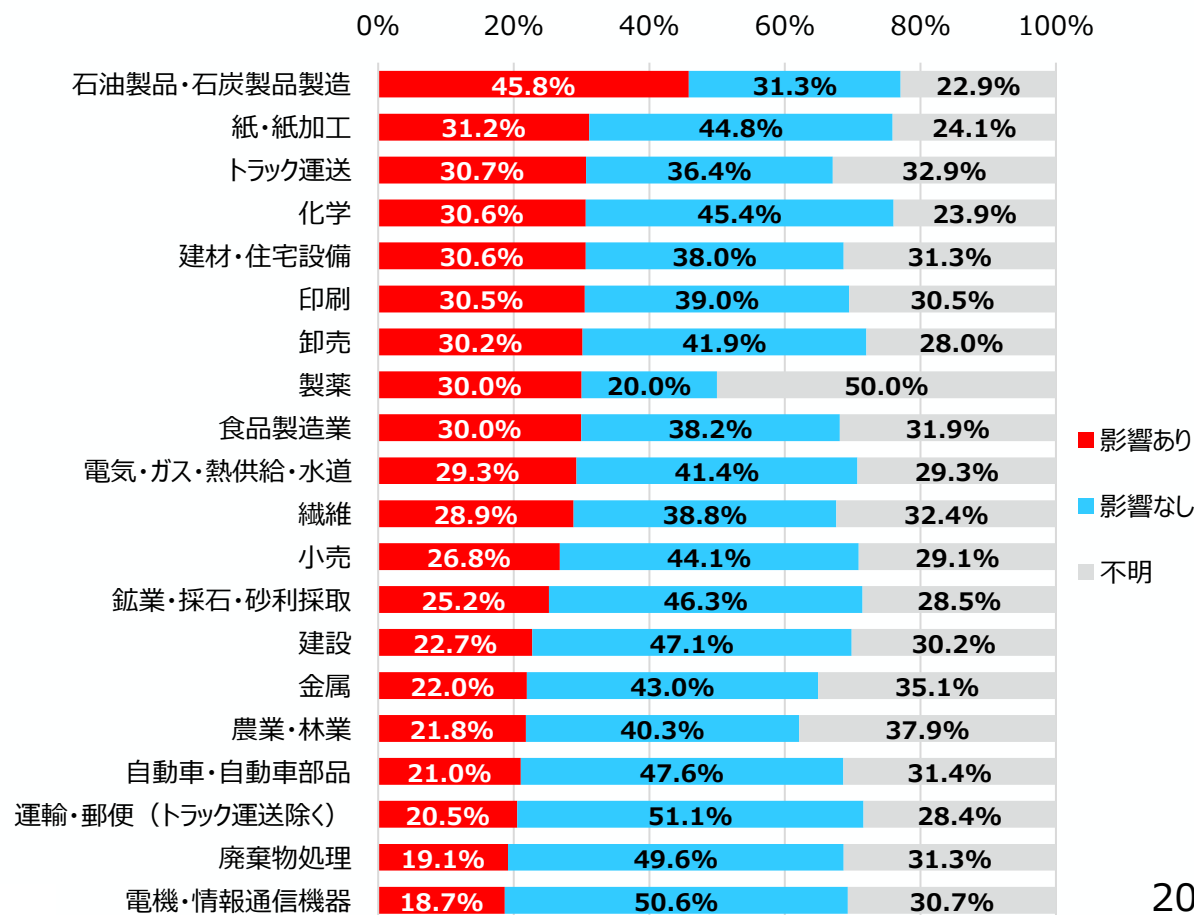
221

- 発注側企業との価格交渉・価格転嫁の状況について、今般の中東情勢の変化による影響の有無を調査。
- 「影響があった」と回答した企業は全体の約 2 割。また、「影響なし」が約 5 割、「影響は不明」が約 3 割。
- 「影響あり」と回答した企業の割合が高い業種は、石油製品・石炭製品製造業、紙・紙加工業、トラック運送業などとなった。

中東情勢による価格交渉・転嫁への影響の有無



受注側企業の業種ごとの影響有無（「影響あり」が多い上位20業種）



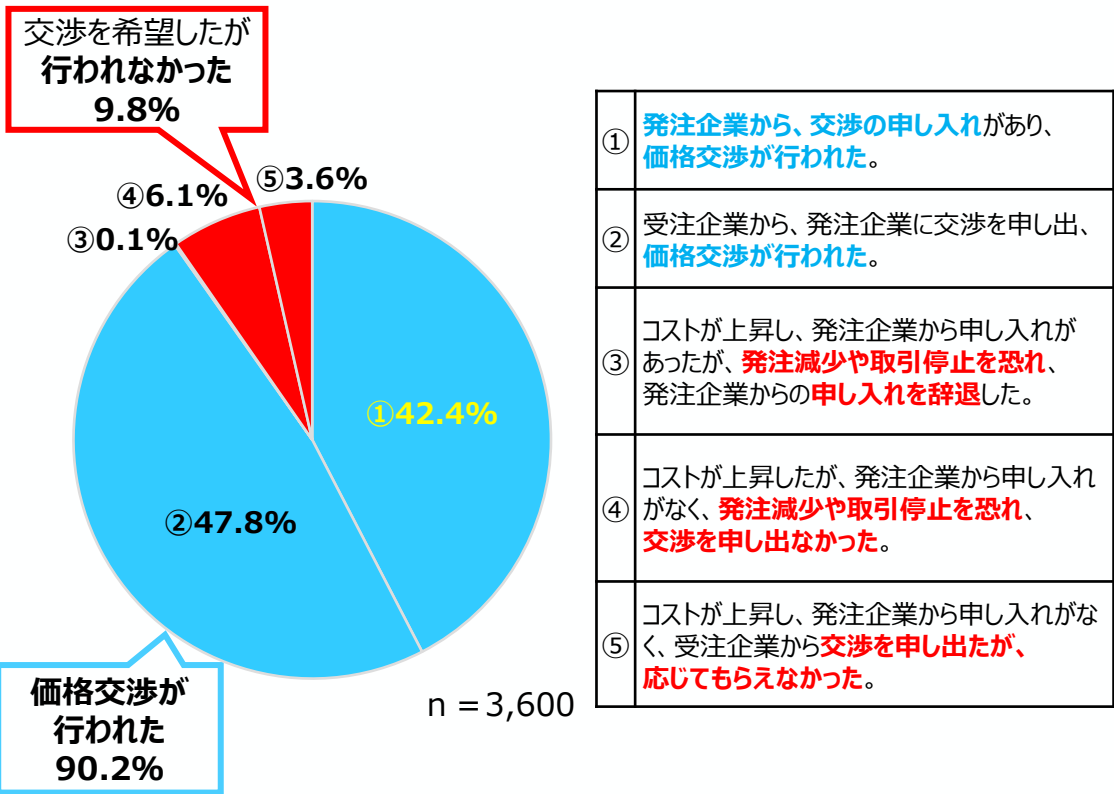
官公需（※）における価格交渉・価格転嫁の状況

222

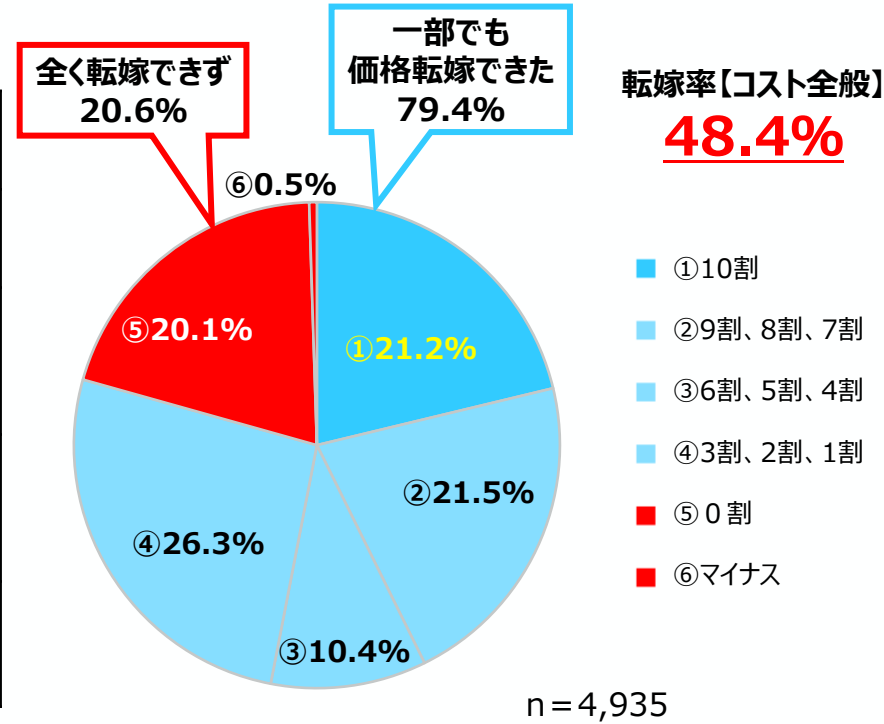
※「官公需」とは、国や地方公共団体等が、物品購入・役務の提供依頼・工事の発注を行うこと。

- 官公需の回答数は7,840件に増加（前回7,193件）。価格転嫁率は、**48.4%**（前回52.1%）。
- 「価格交渉が行われた」割合は、**9割超**（前回89.5%→**90.2%**）。
- 全額転嫁できた割合が**21.2%**となり、前回24.9%から**減少**。また、全く転嫁できなかった割合は**約2割**と**前回より増加**した（前回17.6%→20.6%）。

直近6か月間における価格交渉の状況



直近6か月間における価格転嫁の状況



※「価格交渉不要」、「価格転嫁不要」の回答を除いた分布。

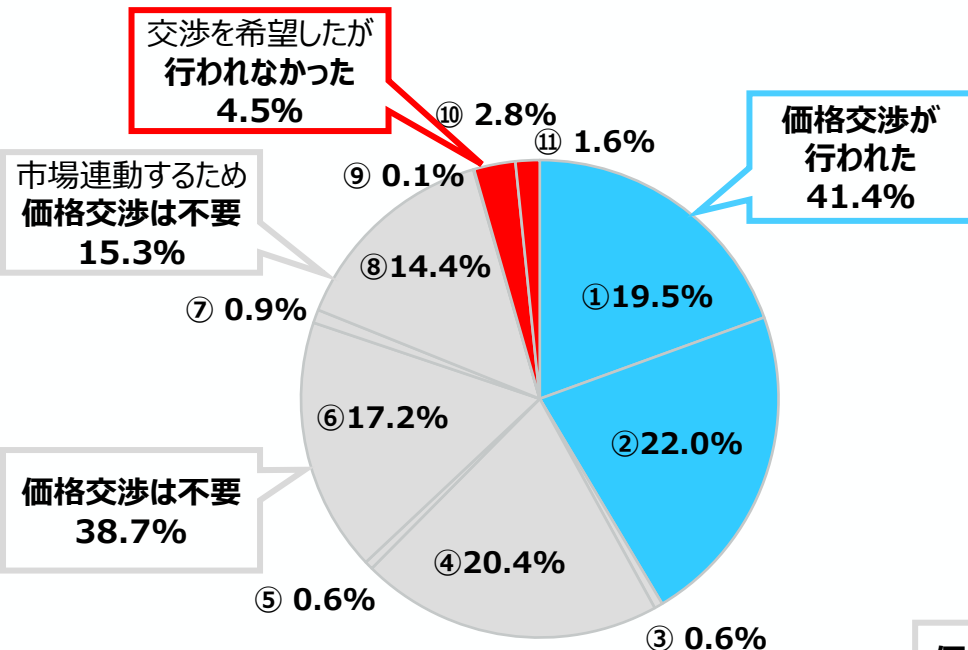
【参考】官公需における価格交渉・価格転嫁の状況

223

（「価格交渉不要」「価格転嫁不要」の回答を含む）

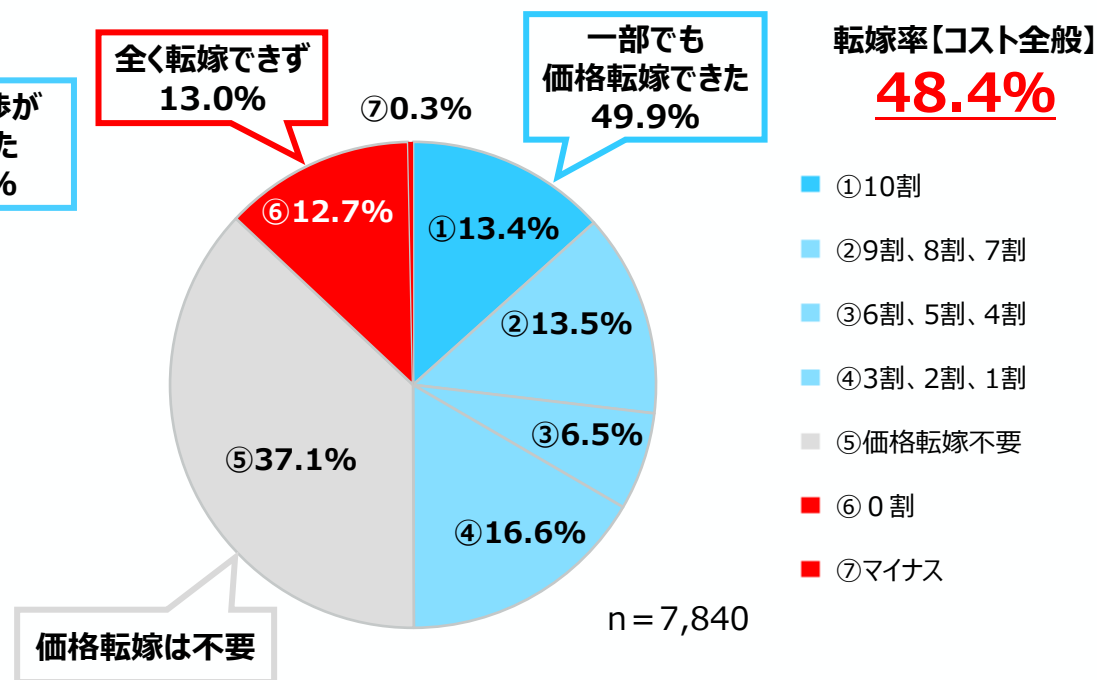
- 官公需全体としては、「価格交渉不要」と回答した割合が5割超、「価格転嫁不要」と回答した割合が約4割。

直近6か月間における価格交渉の状況



※①～⑪の凡例（アンケート回答項目）は5ページ参照。

直近6か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】



アンケート回答企業からの具体的な声

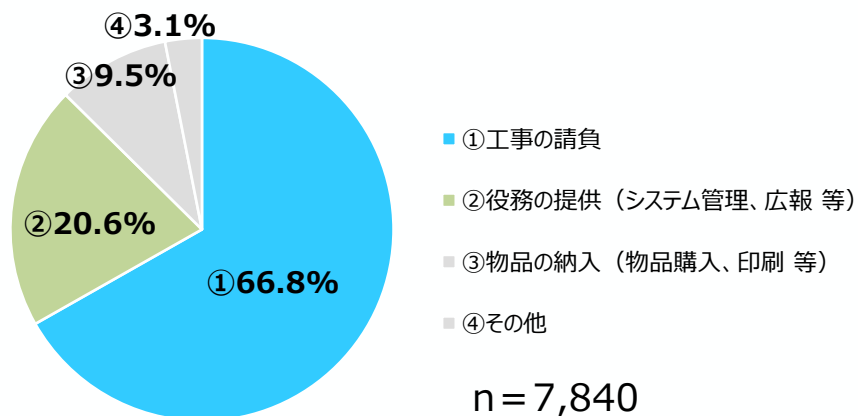
- ▲複数年度で契約した案件について、契約期間途中で価格交渉をしたものの、転嫁を認めてもらえなかった。
- ▲最低制限価格制度が導入されておらず、コストが上昇しているにもかかわらず、契約金額は毎年下がっている。
- ▲契約期間が4月から翌年3月までであり、10月に最低賃金が増加したにもかかわらず、差分の転嫁をしてもらえなかった。
- ▲公共工事のため、設計単価が固定されており、実勢価格と乖離があっても価格に反映することができない。スライド条項があっても、自己負担があることに加え、手続きが煩雑で使いにくい。

官公需における取引内容別の価格転嫁の状況

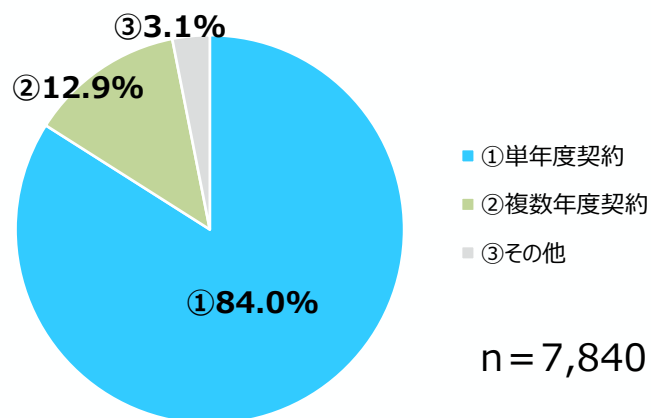
224

- 官公需の取引は、**工事の請負が約 7 割**を占める。次いで、**役務の提供が約 2 割**。
- 取引内容別の転嫁率は、工事の請負が**48.7%**（前回52.9%）、役務の提供が**47.6%**（前回48.5%）、物品の納入が**48.9%**（前回53.1%）といずれも前回から低下。

取引内容



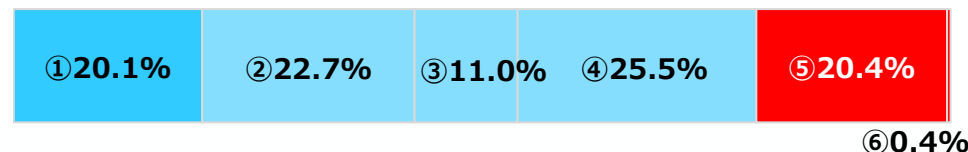
契約期間



取引内容別転嫁率・回答分布

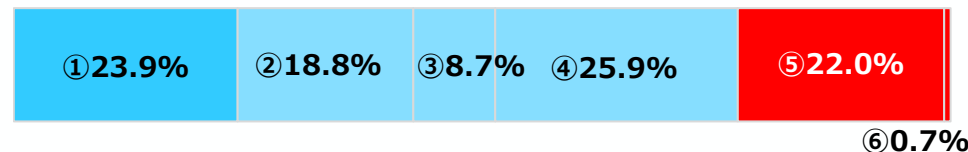
工事の請負

転嫁率：**48.7%**



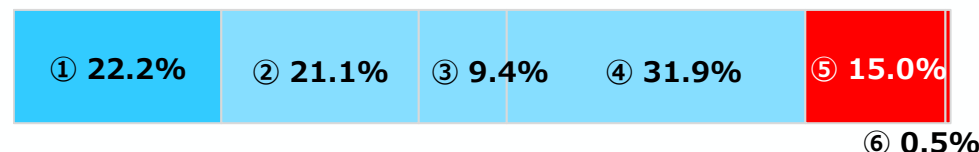
役務の提供

転嫁率：**47.6%**



物品の納入

転嫁率：**48.9%**



①10割 ②9割、8割、7割 ③6割、5割、4割
④3割、2割、1割 ⑤0割 ⑥マイナス

官公需における組織別・業種別の価格転嫁の状況

225

- 全体として価格転嫁率が前回よりも低下傾向にあり、官公需における価格転嫁への対応が不十分な結果。
- 組織区分で見ると、**国（府省庁）の転嫁率が最も高く、独立行政法人等、都道府県、市区町村の順に転嫁率が低下**しており、規模の小さな機関まで含め取組を進める必要。

組織区分・取引内容別結果

※ 独法等は、国立研究開発法人、国立大学法人等を含む。括弧内は前回2025年9月の結果。

取引内容 組織区分		転嫁率（全体）	工事	役務	物品	件数
官公需全体		48.4%（52.1%）	48.7%（52.9%）	47.6%（48.5%）	48.9%（53.1%）	7,840（7,193）
	国（府省庁）	57.8%（60.7%）	59.2%（66.5%）	58.0%（53.3%）	43.6%（45.9%）	504（497）
	独法等※	53.8%（54.5%）	59.0%（69.7%）	50.2%（48.7%）	56.2%（55.3%）	278（302）
	都道府県	50.6%（54.9%）	51.6%（54.8%）	50.2%（50.9%）	43.3%（61.5%）	2,380（2,322）
	市区町村	45.7%（49.2%）	45.3%（49.7%）	45.0%（46.4%）	49.6%（49.9%）	4,678（4,072）
件数		7,840（7,193）	5,235（5,100）	1,618（1,325）	745（657）	－－

受注企業の業種別結果

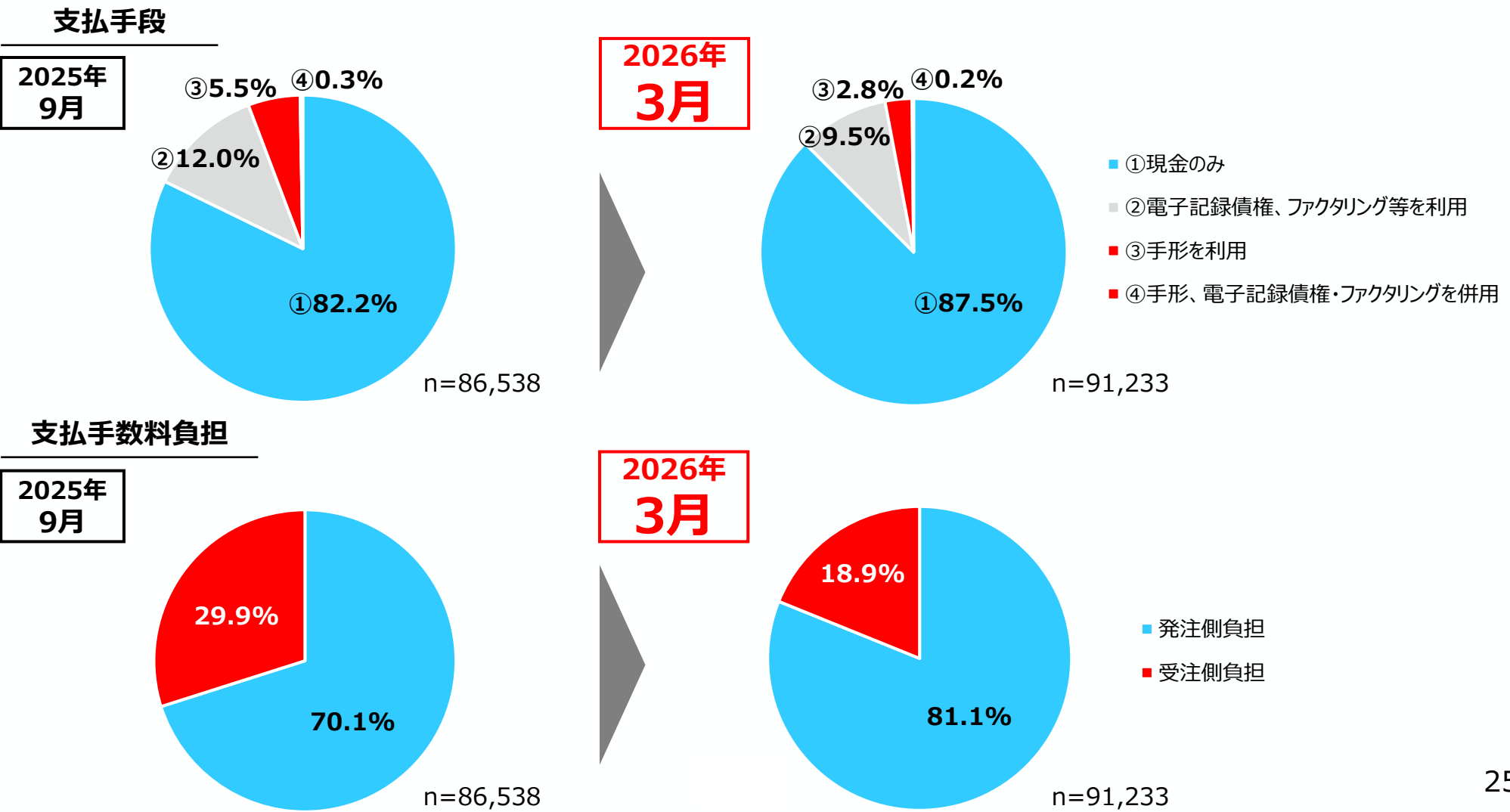
※ 業種別結果は、30件以上の回答があった業種のみを集計。

業種区分	価格転嫁率	件数	業種区分	価格転嫁率	件数
情報サービス・ソフトウェア	63.6%（42.2%）	71（64）	印刷	40.4%（41.4%）	129（103）
卸売	52.0%（55.7%）	247（213）	電気・ガス・熱供給・水道	39.7%（50.0%）	112（109）
建設	48.8%（52.1%）	4,713（4,434）	農業・林業	38.6%（56.4%）	35（22）
小売	46.6%（56.6%）	158（149）	廃棄物処理	38.6%（36.2%）	137（128）
生活関連サービス	46.3%（42.8%）	36（50）	放送コンテンツ	35.0%（48.2%）	40（34）
ビルメンテナンス	43.2%－	192－	警備	27.7%－	38－

取引代金の支払条件の状況

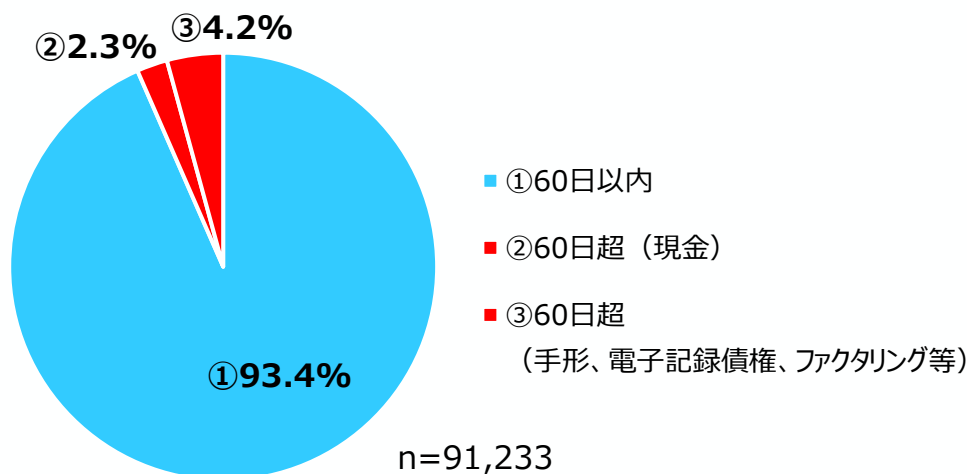
226

- 取引代金の支払手段について、全額「現金のみ」の割合は**87.5%**まで増加（前回82.2%）。「手形の利用がある」割合は、**3%**まで減少（前回5.8%）。
- 支払手数料の負担について、「受注側企業が負担している」割合は、**2割弱まで減少**（前回29.9%）。

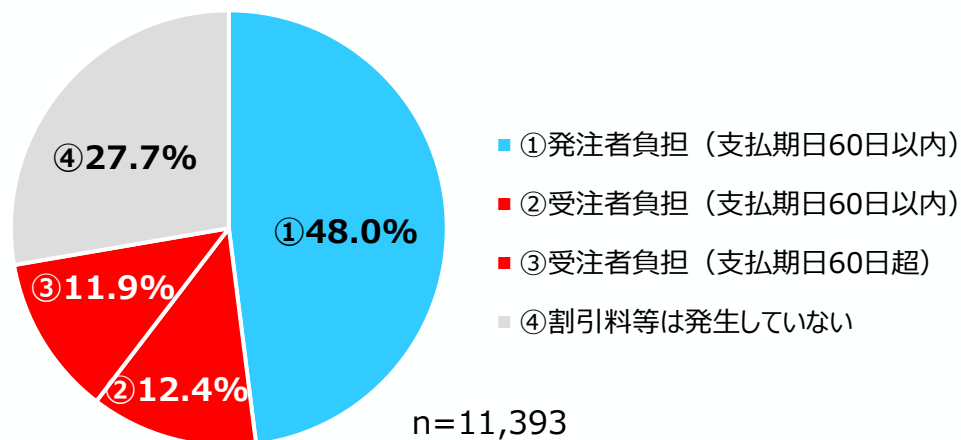


- **支払期日**（支払いまでの期間）が**60日を超過**している割合は全体の**6.6%**。
- 手形等（手形・電子記録債権・ファクタリング）の利用があり、**「割引料等を受注側企業が負担している」**と回答した割合は、手形等を利用している企業のうち**約2割**（24.3%）を占める。

支払期日※



割引料等※の負担状況



※ 支払期日は、発注側企業が給付を受領した日（役務の場合は提供を受けた日）から受注側企業が取引代金の全額を受け取るまでの期間をいう。

※ 割引料等は、ファクタリング等の現金化に係る手数料（割引料等）や、当該ファクタリング等を利用する際の手数料（システム利用料等）を含む。割引料負担は、満期日より前に、受注者側の事情により、代金の受領を前倒しするために割引料を支払う場合を除く。

アンケート回答企業からの支払条件に関する具体的な声

○今年1月から取適法が適用され、期日が短縮されるとともに振込手数料も発注側企業の負担になった。

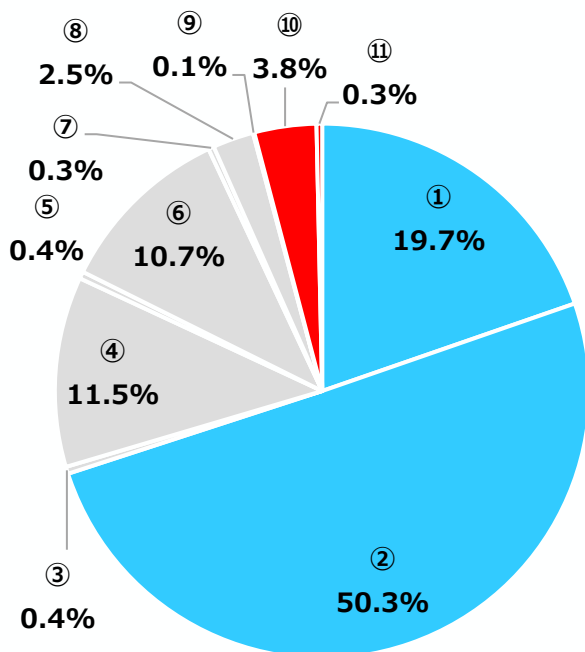
○手形支払が全額現金に変更になり、支払サイトが短縮されたので資金繰りが楽になった。

▲未だに120日を超えた支払いがある。期日の短縮や支払の現金化を依頼しているが取り合ってもらえない。

【参考】業種毎の価格交渉・価格転嫁の状況

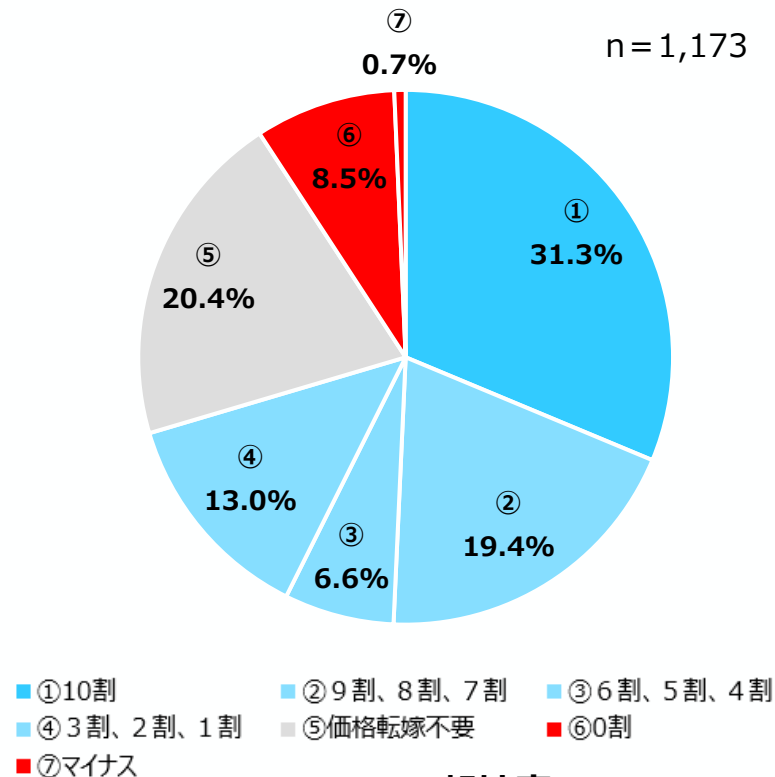


直近 6 か月間における価格交渉の状況



①	発注企業から、交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた。
②	受注企業から、発注企業に交渉を申し出、価格交渉が行われた。
③	コストが上昇せず、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
④	コストが上昇せず、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑤	コストが上昇したが、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑥	コストが上昇し、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑦	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑧	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑨	コストが上昇し、発注企業から申し入れがあったが、発注減少や取引停止を恐れ、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑩	コストが上昇したが、発注企業から申し入れがなく、発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。
⑪	コストが上昇し、発注企業から申し入れがなく、受注企業から交渉を申し出たが、応じてもらえなかった。

直近 6 か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】



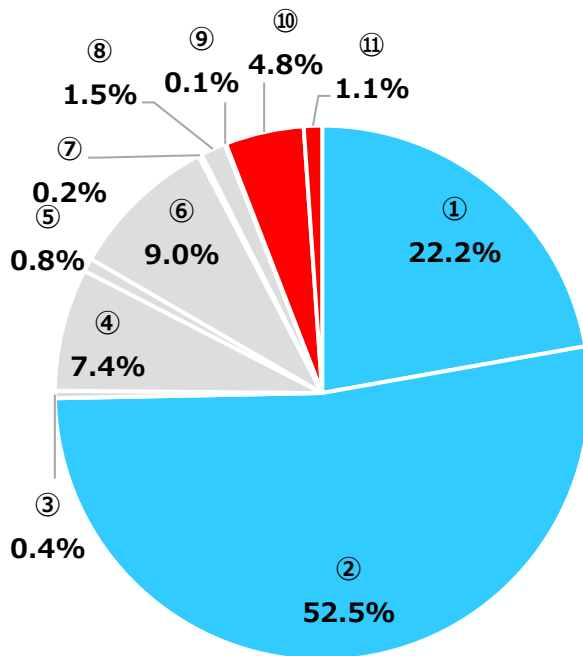
転嫁率：65.9%

アンケート回答企業からの具体的な声

【凡例】○：よい事例、▲：問題のある事例

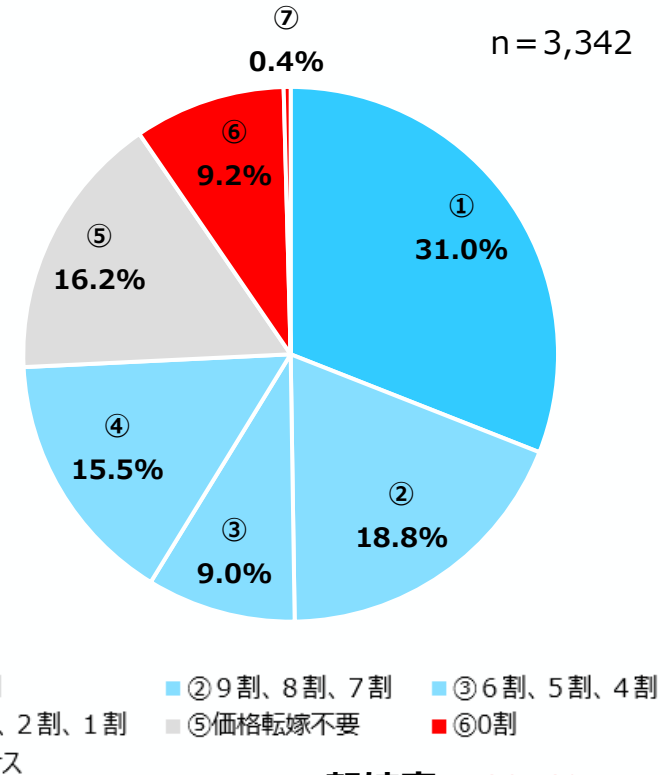
- 原材料費を発注側が持ち、製造経費を全額加算する方式で価格決定しており、受注側の負担が生じない。
- 業務内容の高度化や人件費上昇を踏まえ、発注側が価格引上げを検討し、期待以上の条件提示があった。
- ▲競合他社が動くまで値上げを認めず、承認手続にも時間を要するため、その間は自社でコスト増を吸収せざるを得ない。
- ▲法対応に必要な費用まで繰り返し説明や明細提出を求められ、値切りや先延ばしが常態化しており、受注側の負担が大きい。

直近6か月間における価格交渉の状況



①	発注企業から、交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた。
②	受注企業から、発注企業に交渉を申し出、価格交渉が行われた。
③	コストが上昇せず、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
④	コストが上昇せず、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑤	コストが上昇したが、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑥	コストが上昇し、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑦	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑧	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑨	コストが上昇し、発注企業から申し入れがあったが、発注減少や取引停止を恐れ、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑩	コストが上昇したが、発注企業から申し入れがなく、発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。
⑪	コストが上昇し、発注企業から申し入れがなく、受注企業から交渉を申し出たが、応じてもらえなかった。

直近6か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】



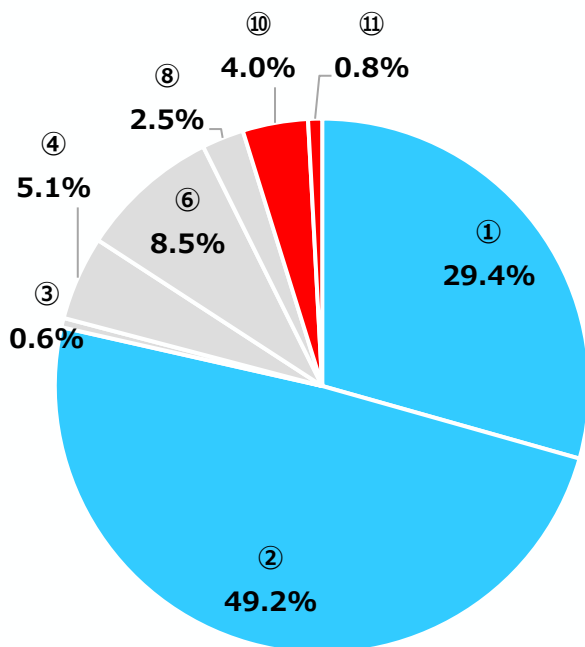
転嫁率：63.6%

アンケート回答企業からの具体的な声

【凡例】○：よい事例、▲：問題のある事例

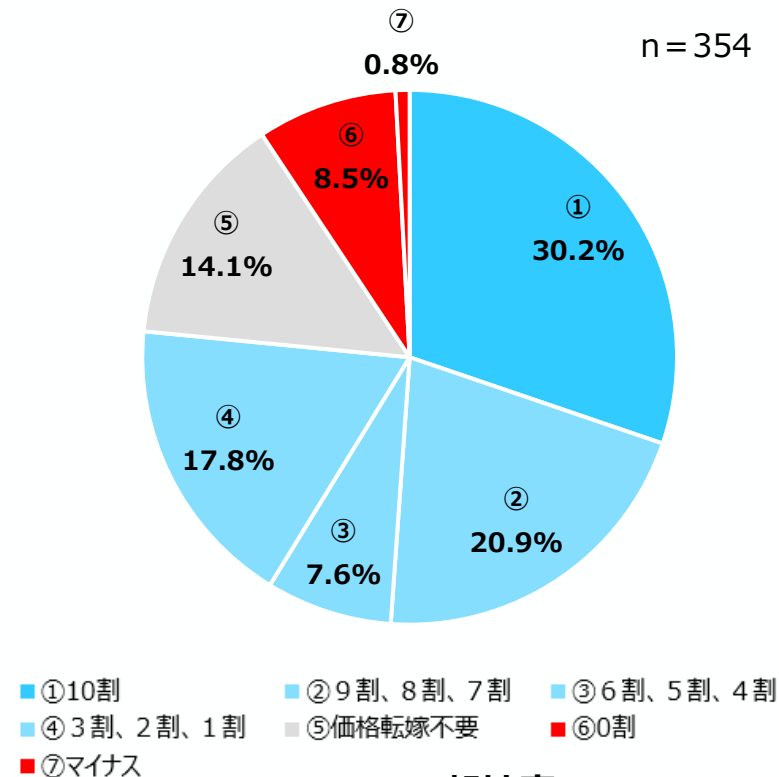
- 定期的なアンケートと訪問で課題把握と対話を行い、提示価格も受け入れられている。
- 発注側から価格交渉を促し、指値や数量値引きの慣行が解消され公正な取引に改善した。
- ▲ 労務費の根拠資料提出を求められ続け、作成負担が大きく交渉が進まない。
- ▲ 材料値上げを申し入れたが、転注を示唆され交渉を断念せざるを得なかった。

直近 6 か月間における価格交渉の状況



①	発注企業から、交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた。
②	受注企業から、発注企業に交渉を申し出、価格交渉が行われた。
③	コストが上昇せず、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
④	コストが上昇せず、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑤	コストが上昇したが、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑥	コストが上昇し、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑦	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑧	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑨	コストが上昇し、発注企業から申し入れがあったが、発注減少や取引停止を恐れ、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑩	コストが上昇したが、発注企業から申し入れがなく、発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。
⑪	コストが上昇し、発注企業から申し入れがなく、受注企業から交渉を申し出たが、応じてもらえなかった。

直近 6 か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】



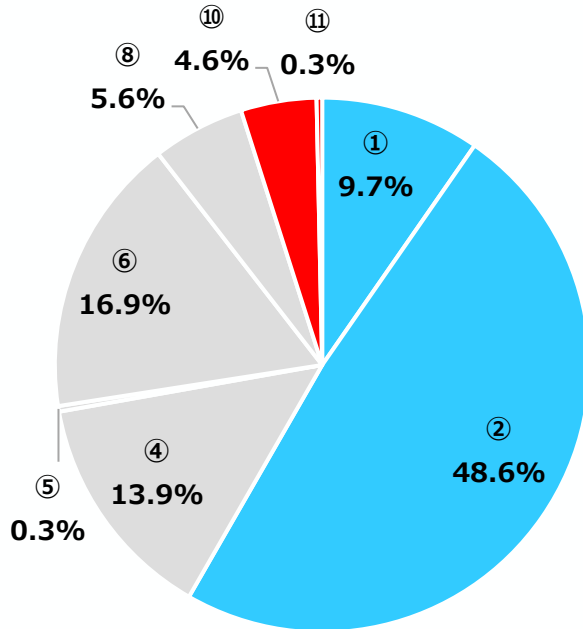
転嫁率：62.4%

アンケート回答企業からの具体的な声

【凡例】○：よい事例、▲：問題のある事例

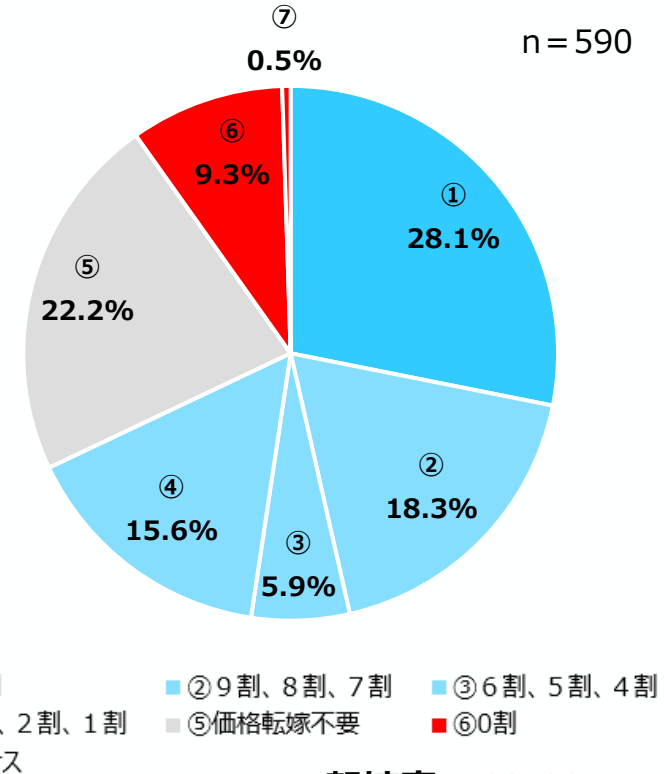
- 各コストを毎月共有し変動分を価格へ自動反映する仕組みで、個別交渉を不要としている。
- 年 1 回の価格見直しを基本とし、急激な変動時は随時協議する運用となっている。
- ▲価格交渉のたびに転注を示唆され折れざるを得ず、回答も遅く、その間のコスト増を自社で負担している。
- ▲発注側から交渉の働きかけがなく、費用構造の理解不足や窓口不明確で価格交渉が進まない。

直近 6 か月間における価格交渉の状況



①	発注企業から、交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた。
②	受注企業から、発注企業に交渉を申し出、価格交渉が行われた。
③	コストが上昇せず、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
④	コストが上昇せず、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑤	コストが上昇したが、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑥	コストが上昇し、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑦	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑧	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑨	コストが上昇し、発注企業から申し入れがあったが、発注減少や取引停止を恐れ、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑩	コストが上昇したが、発注企業から申し入れがなく、発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。
⑪	コストが上昇し、発注企業から申し入れがなく、受注企業から交渉を申し出たが、応じてもらえなかった。

直近 6 か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】



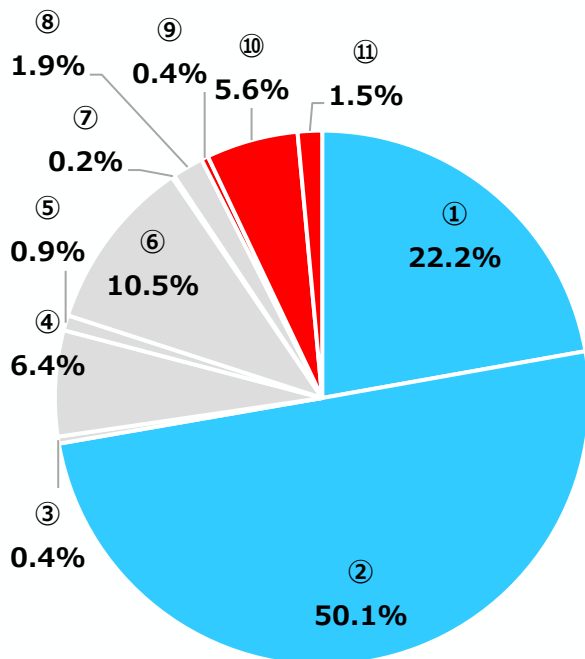
転嫁率：62.0%

アンケート回答企業からの具体的な声

【凡例】○：よい事例、▲：問題のある事例

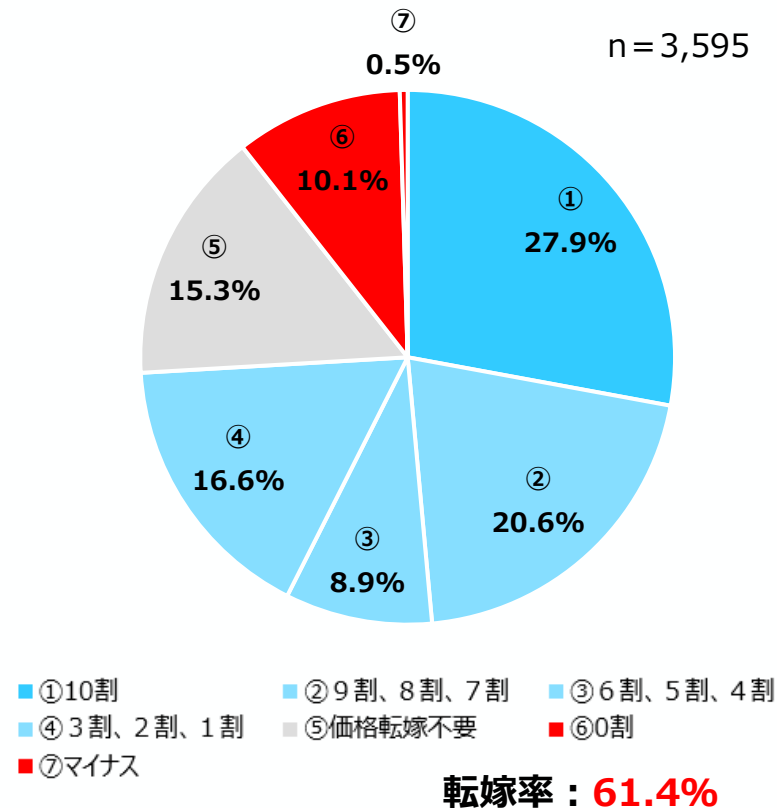
- 発注側から定期的な価格改定の方針が示され、価格上昇要因も明確化されるなど透明性の高い運用が行われている。
- メーカー値上げ分をコスト上乗せすることができ、難しい場合は代替商品で対応するなど柔軟な関係が構築されている。
- ▲価格を維持すると転注されるため定期的に値下げを迫られ、記録も残らない交渉の中で不利な条件を受け入れざるを得ない構造となっている。
- ▲価格以外の要素は考慮されず、常に最も安価な取引先が選ばれる状況である。

直近 6 か月間における価格交渉の状況



①	発注企業から、交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた。
②	受注企業から、発注企業に交渉を申し出、価格交渉が行われた。
③	コストが上昇せず、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
④	コストが上昇せず、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑤	コストが上昇したが、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑥	コストが上昇し、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑦	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑧	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑨	コストが上昇し、発注企業から申し入れがあったが、発注減少や取引停止を恐れ、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑩	コストが上昇したが、発注企業から申し入れがなく、発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。
⑪	コストが上昇し、発注企業から申し入れがなく、受注企業から交渉を申し出たが、応じてもらえなかった。

直近 6 か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】



アンケート回答企業からの具体的な声

【凡例】○：よい事例、▲：問題のある事例

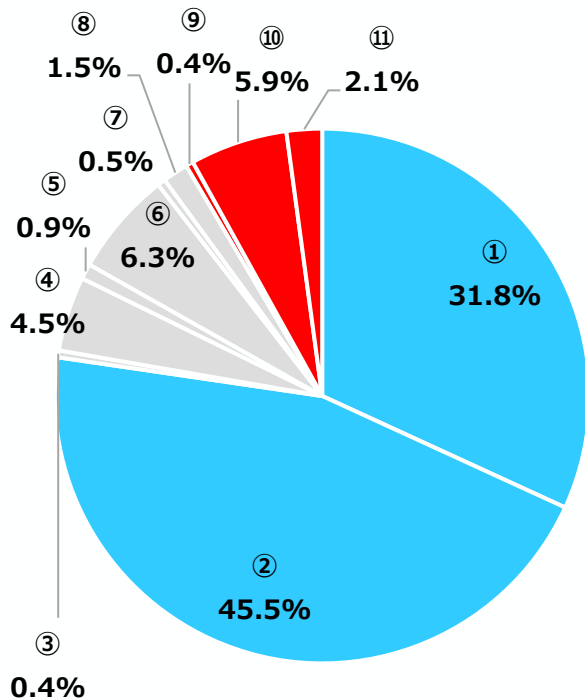
○発注側が価格転嫁の申し出を促し、エネルギー費は書式に基づき実績値に応じて定期的に支払ってもらっている。

○案件ごとの都度見積りで価格交渉が行われ、発注側からコスト確認もあり転嫁しやすい。

▲価格改定申請後も反映時期が不明で遅延し、遡及もなくその間のコストを自社負担している。

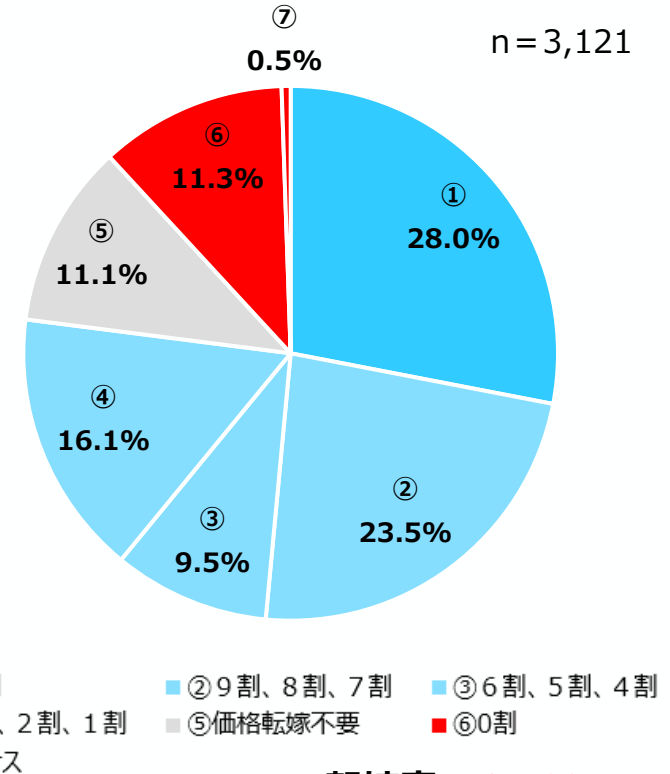
▲カタログ品は長年価格が据え置かれており交渉しにくい。交渉を申し入れても品質向上の要求ばかりで、価格交渉が先延ばしされている。

直近 6 か月間における価格交渉の状況



①	発注企業から、交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた。
②	受注企業から、発注企業に交渉を申し出、価格交渉が行われた。
③	コストが上昇せず、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
④	コストが上昇せず、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑤	コストが上昇したが、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑥	コストが上昇し、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑦	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑧	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑨	コストが上昇し、発注企業から申し入れがあったが、発注減少や取引停止を恐れ、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑩	コストが上昇したが、発注企業から申し入れがなく、発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。
⑪	コストが上昇し、発注企業から申し入れがなく、受注企業から交渉を申し出たが、応じてもらえなかった。

直近 6 か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】



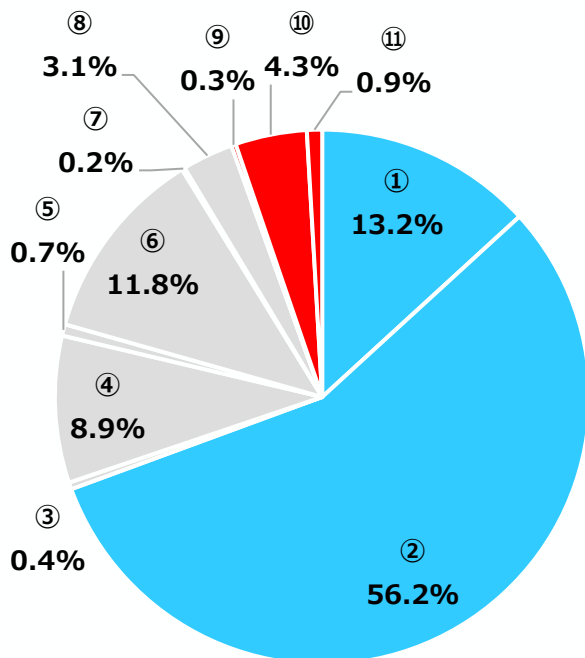
転嫁率：61.2%

アンケート回答企業からの具体的な声

【凡例】○：よい事例、▲：問題のある事例

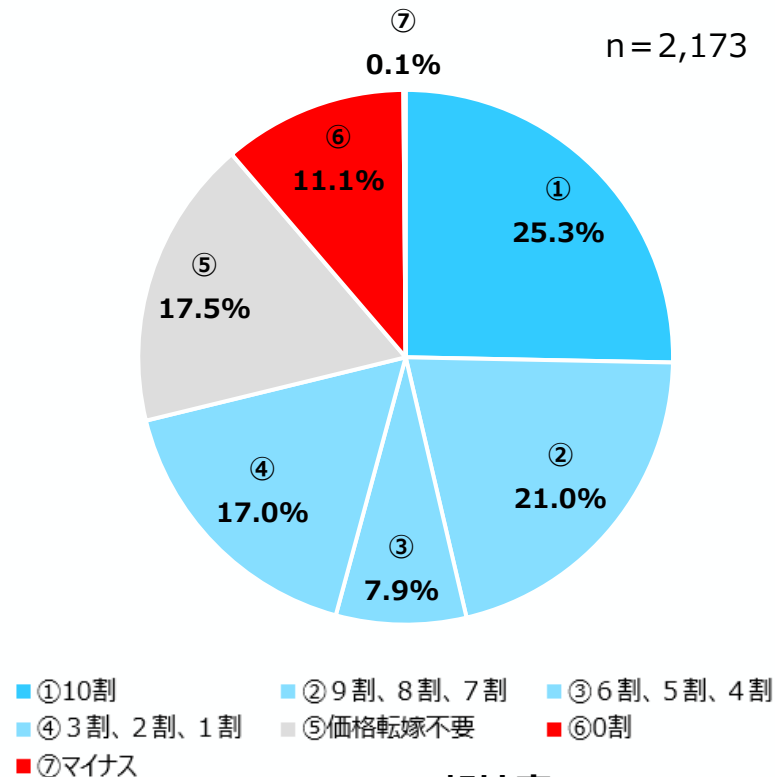
- 主要原材料については、仕入価格変動分を毎月の見積単価に反映してもらっている。
- 案件ごとに見積りと価格相談を行い、進行中も追加費用に配慮した柔軟な対応が行われている。
- ▲価格交渉を申し入れても「他社も我慢している」として協議自体に応じてもらえない。
- ▲過剰な資料要求や強い発言に加え、転注も示唆されるなど、価格交渉に大きな圧力がかかっている。

直近 6 か月間における価格交渉の状況



①	発注企業から、交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた。
②	受注企業から、発注企業に交渉を申し出、価格交渉が行われた。
③	コストが上昇せず、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
④	コストが上昇せず、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑤	コストが上昇したが、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑥	コストが上昇し、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑦	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑧	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑨	コストが上昇し、発注企業から申し入れがあったが、発注減少や取引停止を恐れ、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑩	コストが上昇したが、発注企業から申し入れがなく、発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。
⑪	コストが上昇し、発注企業から申し入れがなく、受注企業から交渉を申し出たが、応じてもらえなかった。

直近 6 か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】



転嫁率：59.5%

アンケート回答企業からの具体的な声

【凡例】○：よい事例、▲：問題のある事例

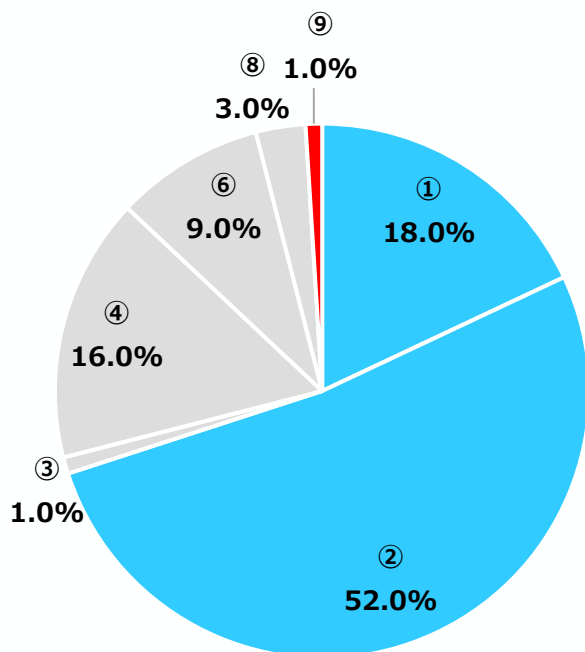
○天候不順による主原料価格の急騰を説明し、価格改定を申し入れた結果、取引先に理解され改定が受け入れられた。

○原材料費の高騰に関して、客観的な資料を提示して説明を行ったところ、直ちに価格改定に応じてもらった。

▲燃料費・人件費高騰を理由に価格交渉したが、他社への切り替えを示唆され、最終的に契約を解除された。

▲資料を提出して説明したが、「赤字なら取引をやめればよい」と言われ、協議が進まず価格交渉が成立しなかった。

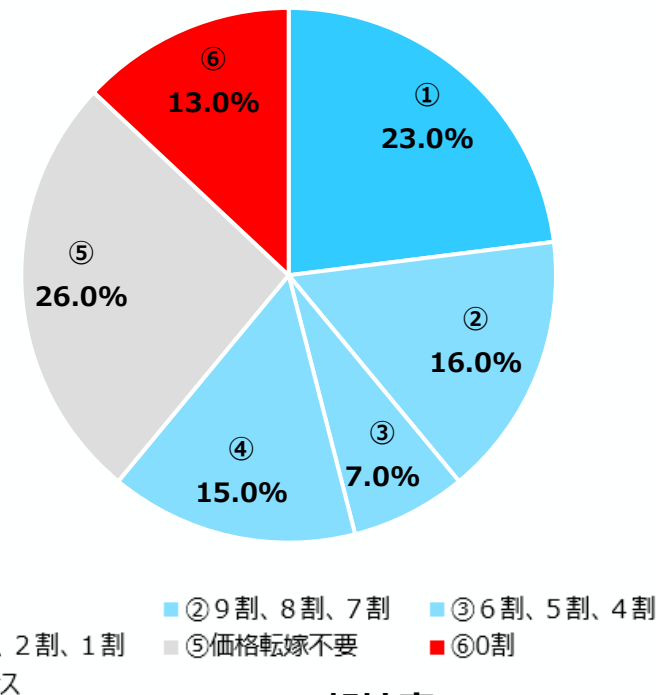
直近 6 か月間における価格交渉の状況



①	発注企業から、交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた。
②	受注企業から、発注企業に交渉を申し出、価格交渉が行われた。
③	コストが上昇せず、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
④	コストが上昇せず、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑤	コストが上昇したが、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑥	コストが上昇し、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑦	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑧	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑨	コストが上昇し、発注企業から申し入れがあったが、発注減少や取引停止を恐れ、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑩	コストが上昇したが、発注企業から申し入れがなく、発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。
⑪	コストが上昇し、発注企業から申し入れがなく、受注企業から交渉を申し出たが、応じてもらえなかった。

直近 6 か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】

n = 100



転嫁率：57.2%

アンケート回答企業からの具体的な声

【凡例】○：よい事例、▲：問題のある事例

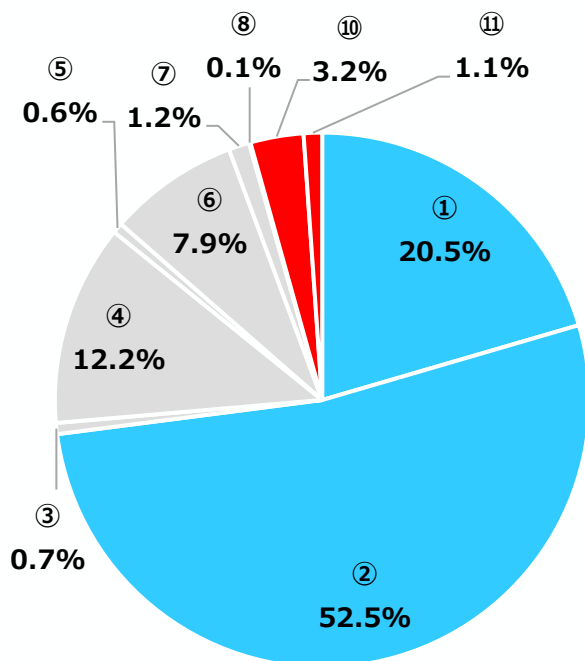
○人件費上昇の状況をレポートとして整理・提示することで、根拠に基づいた説明が可能となり価格転嫁が認められた。

○コスト増や人件費上昇に対して柔軟に応じてもらい、適切に価格へ反映できている。

▲減額の根拠が開示されないまま、契約解釈を一方向的に押し付けられ不利な条件で交渉が進められた。

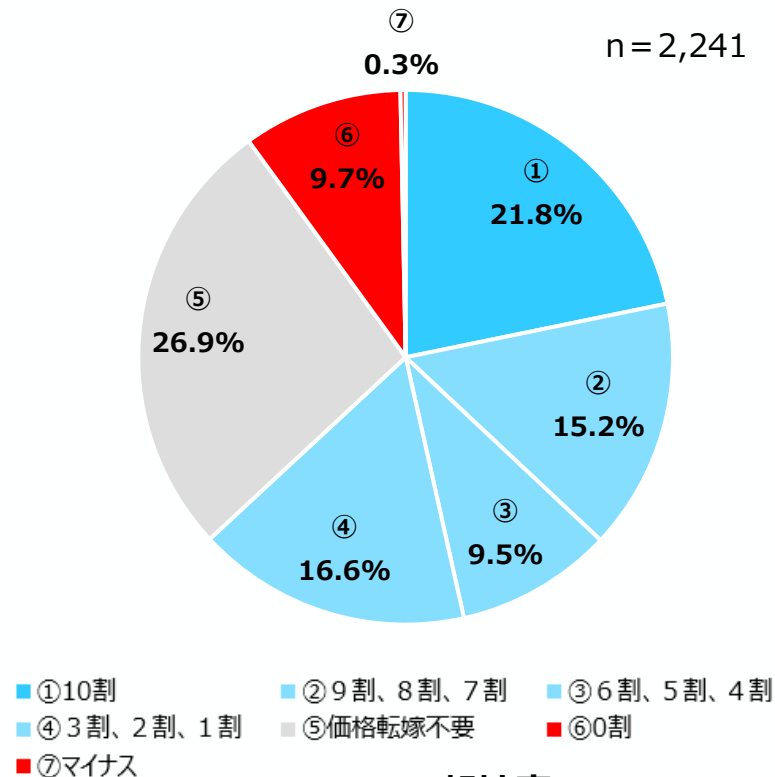
▲既存価格でエンドユーザーと交渉しているため、値上げは赤字要因となり受け入れられないとされた。

直近 6 か月間における価格交渉の状況



①	発注企業から、交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた。
②	受注企業から、発注企業に交渉を申し出、価格交渉が行われた。
③	コストが上昇せず、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
④	コストが上昇せず、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑤	コストが上昇したが、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑥	コストが上昇し、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑦	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑧	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑨	コストが上昇し、発注企業から申し入れがあったが、発注減少や取引停止を恐れ、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑩	コストが上昇したが、発注企業から申し入れがなく、発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。
⑪	コストが上昇し、発注企業から申し入れがなく、受注企業から交渉を申し出たが、応じてもらえなかった。

直近 6 か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】



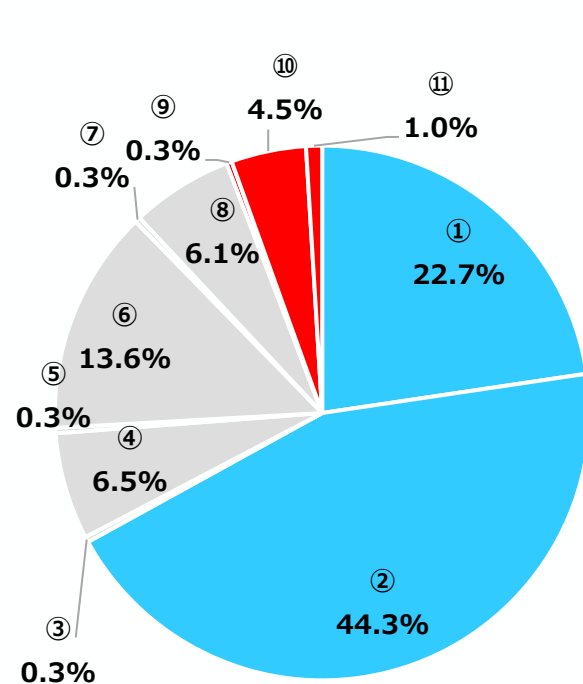
転嫁率：56.7%

アンケート回答企業からの具体的な声

【凡例】○：よい事例、▲：問題のある事例

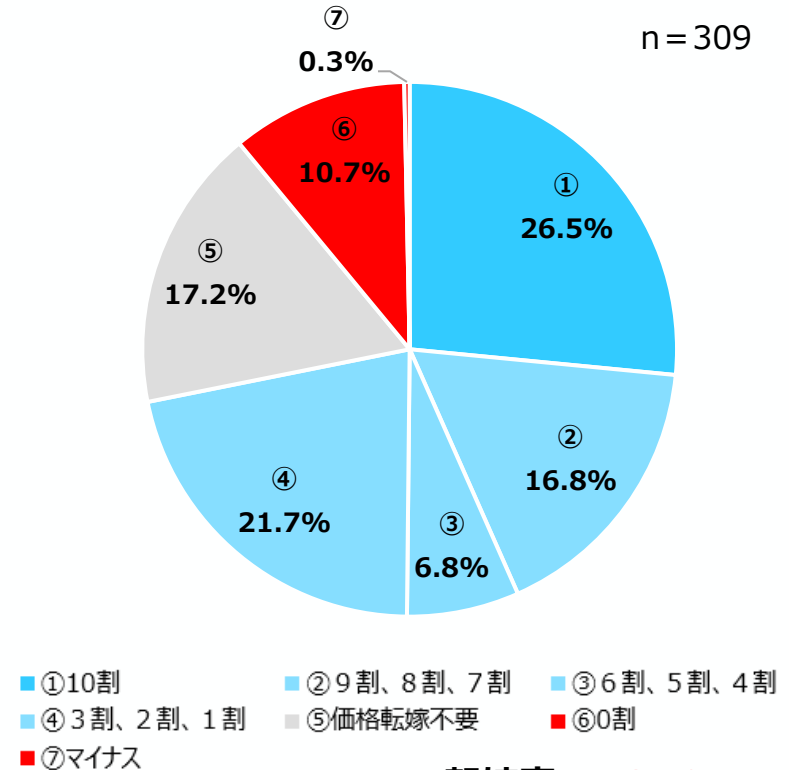
- 交渉手順やフォーマットが整備され、発注側からの申し出により価格交渉が円滑に行えている。
- 発注側から交渉提起や定期連絡が行われるようになり、価格交渉が制度として定着している。
- ▲暫定価格で契約書もなく業務を開始し、その後も価格交渉できず当初単価での継続を強いられている。
- ▲決算書や取引先情報の開示を一方的に求められ、不満があっても取引停止を恐れ交渉できない。

直近 6 か月間における価格交渉の状況



①	発注企業から、交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた。
②	受注企業から、発注企業に交渉を申し出、価格交渉が行われた。
③	コストが上昇せず、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
④	コストが上昇せず、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑤	コストが上昇したが、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑥	コストが上昇し、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑦	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑧	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑨	コストが上昇し、発注企業から申し入れがあったが、発注減少や取引停止を恐れ、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑩	コストが上昇したが、発注企業から申し入れがなく、発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。
⑪	コストが上昇し、発注企業から申し入れがなく、受注企業から交渉を申し出たが、応じてもらえなかった。

直近 6 か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】



転嫁率：56.5%

アンケート回答企業からの具体的な声

【凡例】○：よい事例、▲：問題のある事例

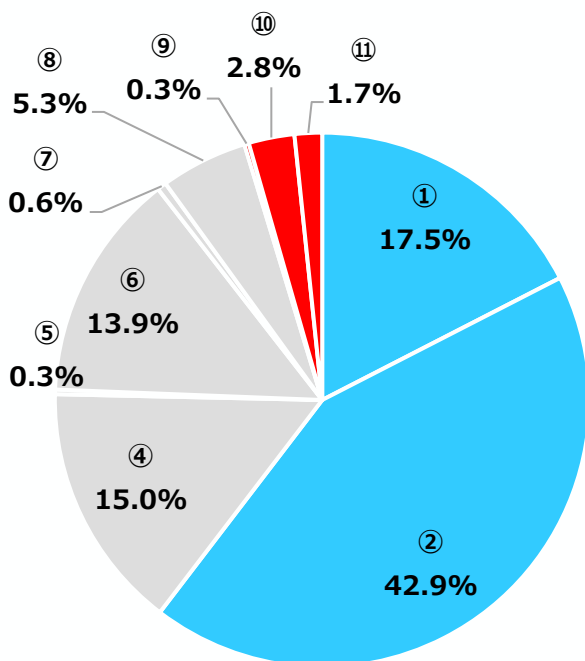
○価格交渉することなく発注側が定期的に値上げしてくれている。

○価格交渉を長年行ってきたがいなかったが交渉の依頼を申し出たことで、前向きに交渉への手続きを進めていただけた。

▲同じ業務を行っている大手受注企業には高い単価で払うが、地場の中小零細企業には低い単価で払うという企業規模差別をされている。

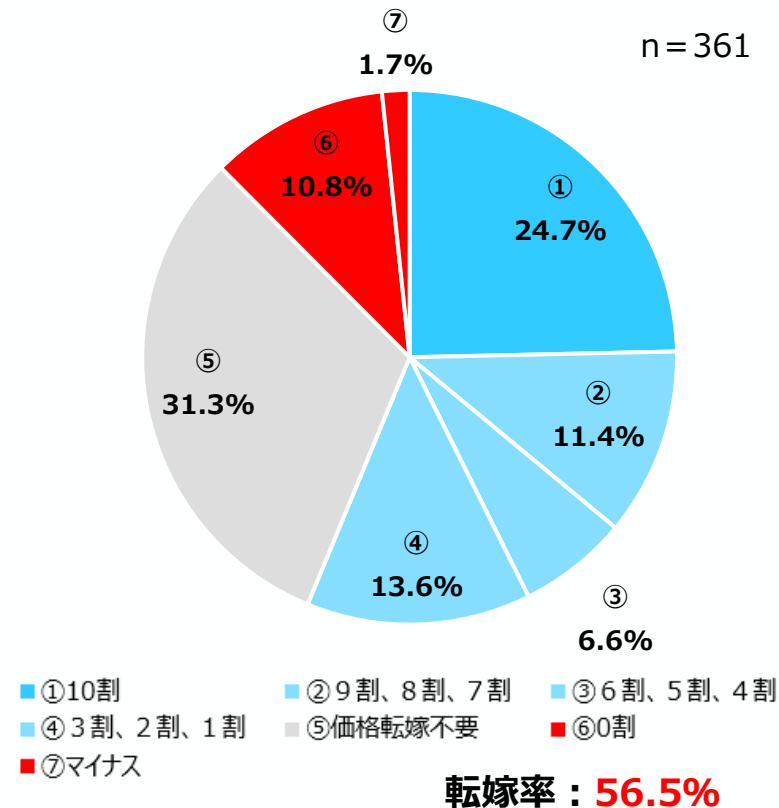
▲商品を運送するにあたり国交省の標準運賃とかけ離れている状況を説明をしても、一部の地区だけの改定は難しいと言われる。

直近6か月間における価格交渉の状況



①	発注企業から、交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた。
②	受注企業から、発注企業に交渉を申し出、価格交渉が行われた。
③	コストが上昇せず、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
④	コストが上昇せず、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑤	コストが上昇したが、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑥	コストが上昇し、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑦	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑧	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑨	コストが上昇し、発注企業から申し入れがあったが、発注減少や取引停止を恐れ、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑩	コストが上昇したが、発注企業から申し入れがなく、発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。
⑪	コストが上昇し、発注企業から申し入れがなく、受注企業から交渉を申し出たが、応じてもらえなかった。

直近6か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】



アンケート回答企業からの具体的な声

【凡例】○：よい事例、▲：問題のある事例

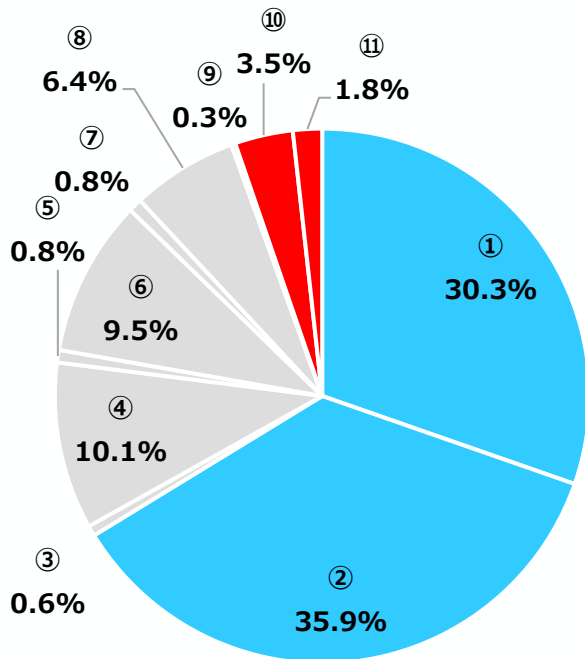
○コスト上昇の根拠を示した協議により、再委託先を含む関係者が納得できる価格改定が実現している。

○自社に価格決定権があり、仕入価格の上昇分をそのまま販売価格へ反映できている。

▲単価据え置きや値引き強要、支払遅延などが続き、交渉にも応じない旧来の不適正慣行が残る。

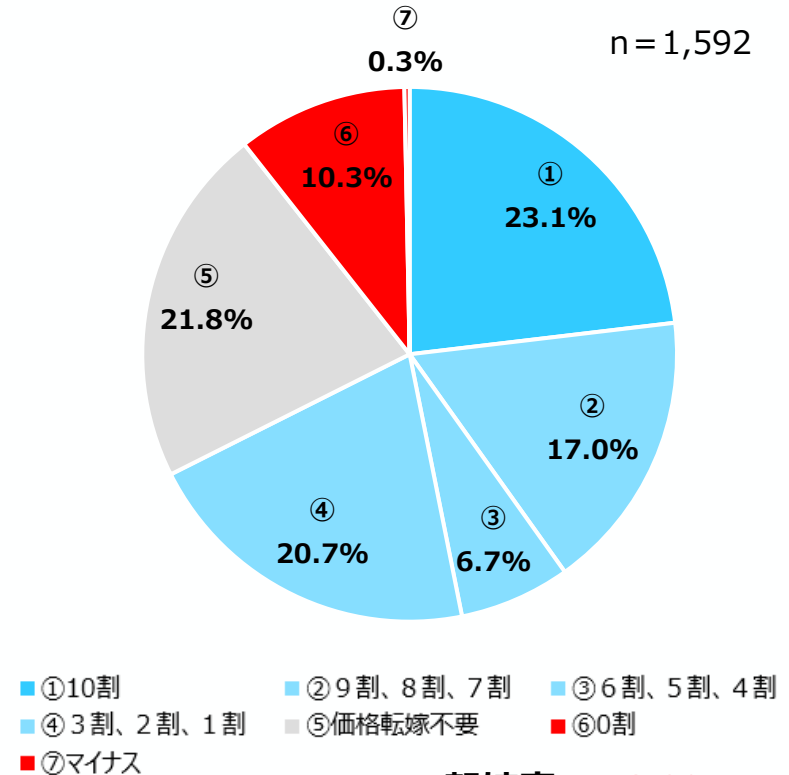
▲コストや原材料価格が30年前の水準に抑えられ、交渉で一時的に引上げても担当変更で再び旧水準に戻される。結果として価格転嫁は認められず、値引きまで強要される状況が続いている。

直近 6 か月間における価格交渉の状況



①	発注企業から、交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた。
②	受注企業から、発注企業に交渉を申し出、価格交渉が行われた。
③	コストが上昇せず、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
④	コストが上昇せず、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑤	コストが上昇したが、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑥	コストが上昇し、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑦	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑧	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑨	コストが上昇し、発注企業から申し入れがあったが、発注減少や取引停止を恐れ、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑩	コストが上昇したが、発注企業から申し入れがなく、発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。
⑪	コストが上昇し、発注企業から申し入れがなく、受注企業から交渉を申し出たが、応じてもらえなかった。

直近 6 か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】



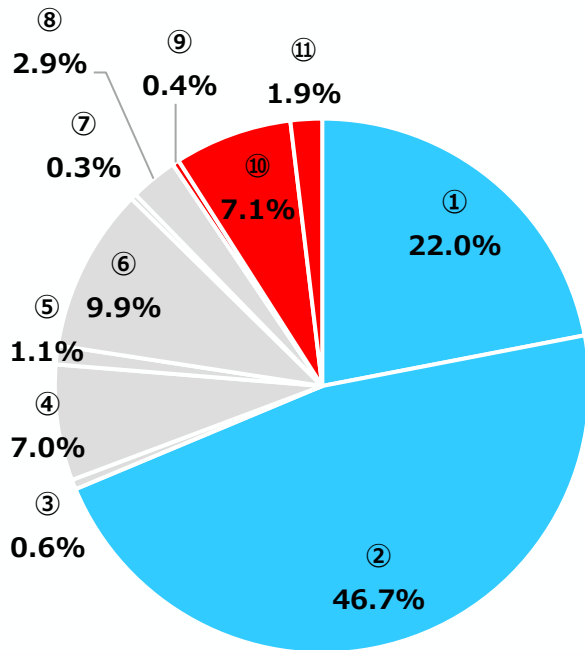
転嫁率：56.2%

アンケート回答企業からの具体的な声

【凡例】○：よい事例、▲：問題のある事例

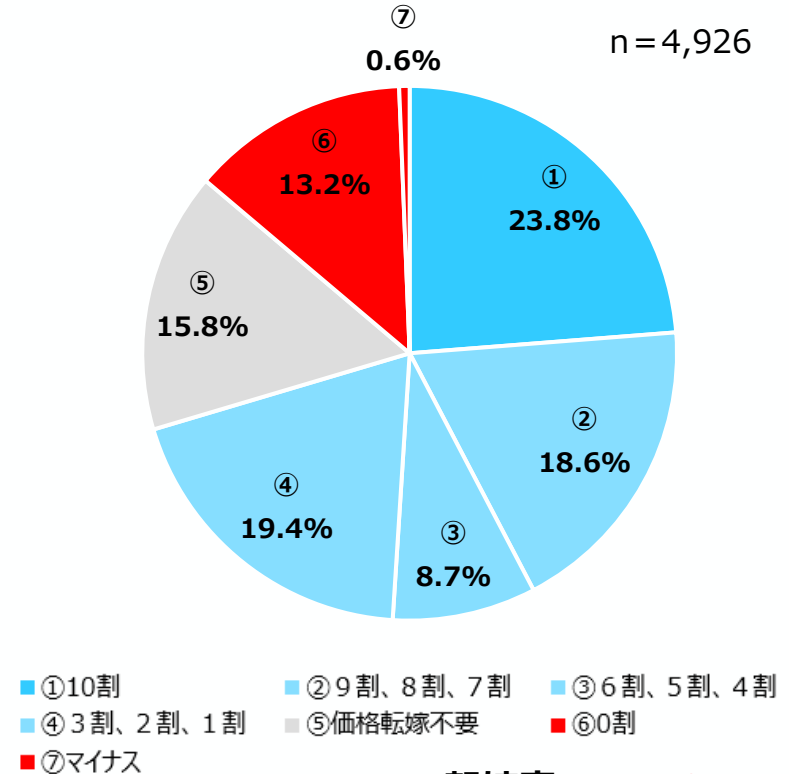
- 単価を一律で設定し価格競争を抑えつつ、年度ごとに見直しも行う。品質も評価する仕組みがある。
- 発注側が自ら来社し実情を確認した上で、コスト上昇分の価格転嫁が実現した。
- ▲単価改定と同時に工事量が減らされ、価格転嫁しても総収益が減少し負担が残る構造となっている。
- ▲見積り提出後に発注側企業内の査定で必ず値引きされ、交渉できず受注維持のため受け入れている。

直近 6 か月間における価格交渉の状況



①	発注企業から、交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた。
②	受注企業から、発注企業に交渉を申し出、価格交渉が行われた。
③	コストが上昇せず、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
④	コストが上昇せず、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑤	コストが上昇したが、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑥	コストが上昇し、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑦	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑧	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑨	コストが上昇し、発注企業から申し入れがあったが、発注減少や取引停止を恐れ、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑩	コストが上昇したが、発注企業から申し入れがなく、発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。
⑪	コストが上昇し、発注企業から申し入れがなく、受注企業から交渉を申し出たが、応じてもらえなかった。

直近 6 か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】



転嫁率：55.1%

アンケート回答企業からの具体的な声

【凡例】○：よい事例、▲：問題のある事例

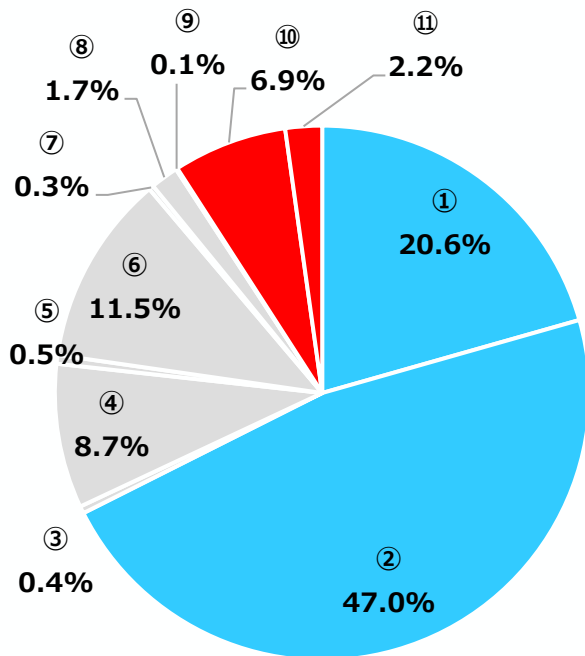
○鋼材は毎月変動制、その他原材料も半年ごとの見直しとなり、コスト変動を機動的に価格へ反映できている。

○材料メーカーの通知を根拠に価格改定協議が進み、知財に配慮した様式整備や定期確認も行われている。

▲受注減で赤字化しても値上げが進まず、金型保管料も低水準のまま、廃却も進んでいない。

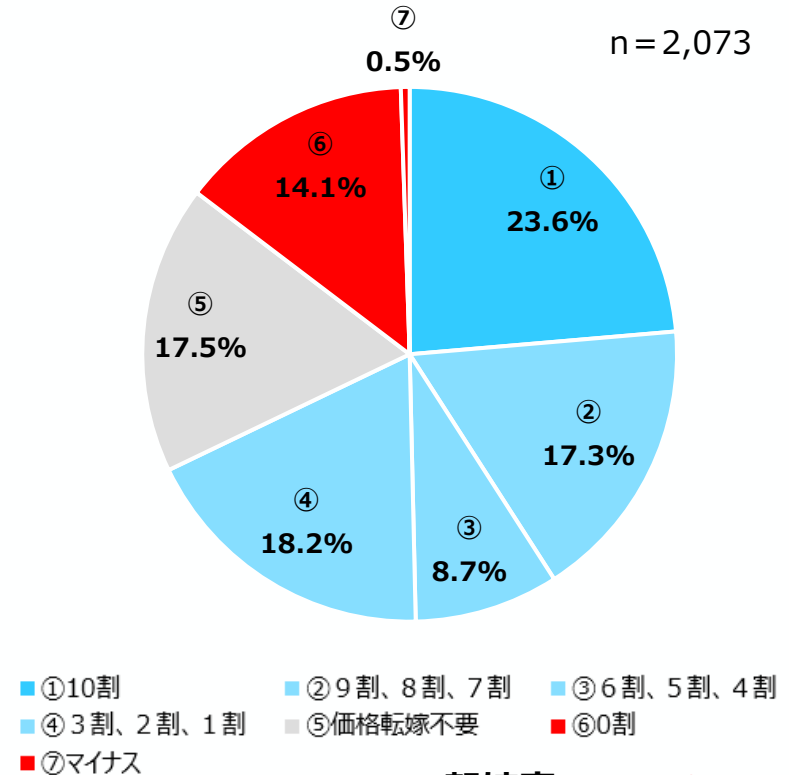
▲元請が価格交渉に一切応じず協議ができない。逆にコスト削減を強く求められている状況である。

直近 6 か月間における価格交渉の状況



①	発注企業から、交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた。
②	受注企業から、発注企業に交渉を申し出、価格交渉が行われた。
③	コストが上昇せず、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
④	コストが上昇せず、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑤	コストが上昇したが、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑥	コストが上昇し、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑦	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑧	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑨	コストが上昇し、発注企業から申し入れがあったが、発注減少や取引停止を恐れ、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑩	コストが上昇したが、発注企業から申し入れがなく、発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。
⑪	コストが上昇し、発注企業から申し入れがなく、受注企業から交渉を申し出たが、応じてもらえなかった。

直近 6 か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】



転嫁率：54.7%

アンケート回答企業からの具体的な声

【凡例】○：よい事例、▲：問題のある事例

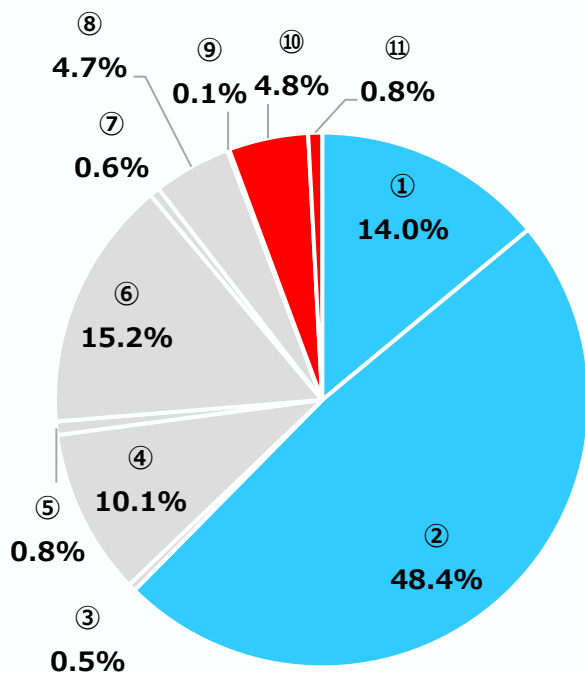
○為替変動に応じて半期ごとに価格見直し時期を定め、急な原材料・エネルギー高騰時にも改定の申し入れができる。

○発注側が労務費上昇の申請書式を示し、価格交渉しやすい環境を整えてくれた。

▲価格改定を申し入れたところ、今後の発注減少を示す発言があり、申請を取り下げざるを得なかった。

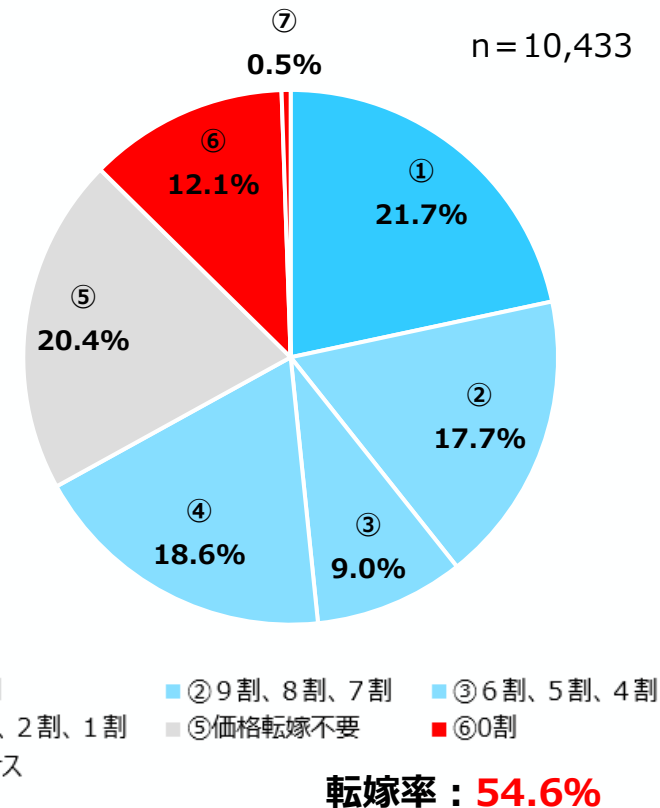
▲原材料・運賃・電力費・梱包費・人件費の上昇分の転嫁が認められず、手続変更で交渉も停滞し、長期間に渡り経営が圧迫されている。

直近6か月間における価格交渉の状況



①	発注企業から、交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた。
②	受注企業から、発注企業に交渉を申し出、価格交渉が行われた。
③	コストが上昇せず、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
④	コストが上昇せず、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑤	コストが上昇したが、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑥	コストが上昇し、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑦	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑧	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑨	コストが上昇し、発注企業から申し入れがあったが、発注減少や取引停止を恐れ、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑩	コストが上昇したが、発注企業から申し入れがなく、発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。
⑪	コストが上昇し、発注企業から申し入れがなく、受注企業から交渉を申し出たが、応じてもらえなかった。

直近6か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】



アンケート回答企業からの具体的な声

【凡例】○：よい事例、▲：問題のある事例

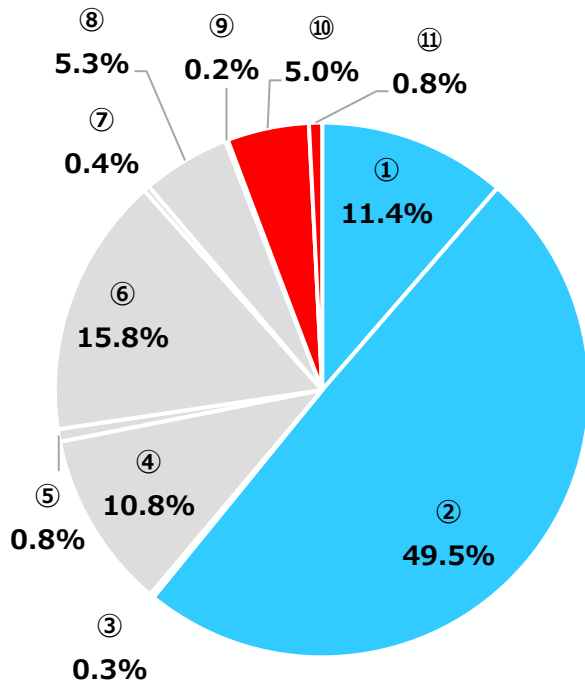
○商品ごとに都度交渉し、過去分も考慮して上乗せ対応するなど柔軟な価格調整が行われている。

○市場相場にコストを上乗せした価格提示が受け入れられ、都度合意で取引が円滑に進んでいる。

▲加工賃は15年以上据え置きで協議の場もなく、最低賃金上昇分も自助努力と一蹴される。さらに、納品伝票への価格の記載を禁じられるなど、不透明かつ不公平な取引慣行が続いている。

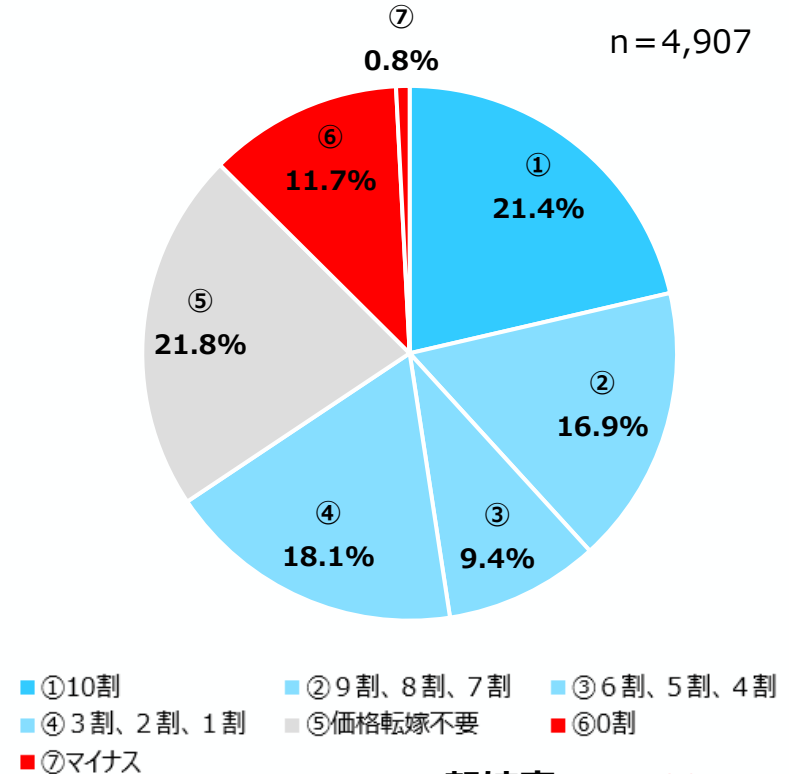
▲価格改定は受け入れられるが販売数量が減少し売上が落ち、物流費負担も求められ採算が悪化している。

直近 6 か月間における価格交渉の状況



①	発注企業から、交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた。
②	受注企業から、発注企業に交渉を申し出、価格交渉が行われた。
③	コストが上昇せず、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
④	コストが上昇せず、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑤	コストが上昇したが、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑥	コストが上昇し、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑦	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑧	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑨	コストが上昇し、発注企業から申し入れがあったが、発注減少や取引停止を恐れ、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑩	コストが上昇したが、発注企業から申し入れがなく、発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。
⑪	コストが上昇し、発注企業から申し入れがなく、受注企業から交渉を申し出たが、応じてもらえなかった。

直近 6 か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】



転嫁率：54.3%

アンケート回答企業からの具体的な声

【凡例】○：よい事例、▲：問題のある事例

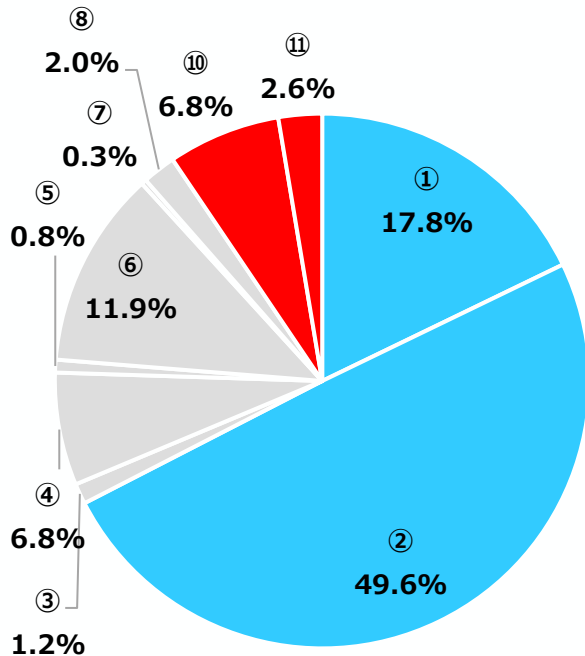
○仕入れや自社コストの増加分を含め提示価格がそのまま認められ、十分な価格転嫁ができている。

○事前に価格改定を案内し資料で説明することで理解を得て、コスト上昇分を円滑に価格転嫁できた。

▲発注側企業から、商品の包装資材を買い込むよう指示があったが、包装資材価格の上昇分は価格に反映してもらえなかった。

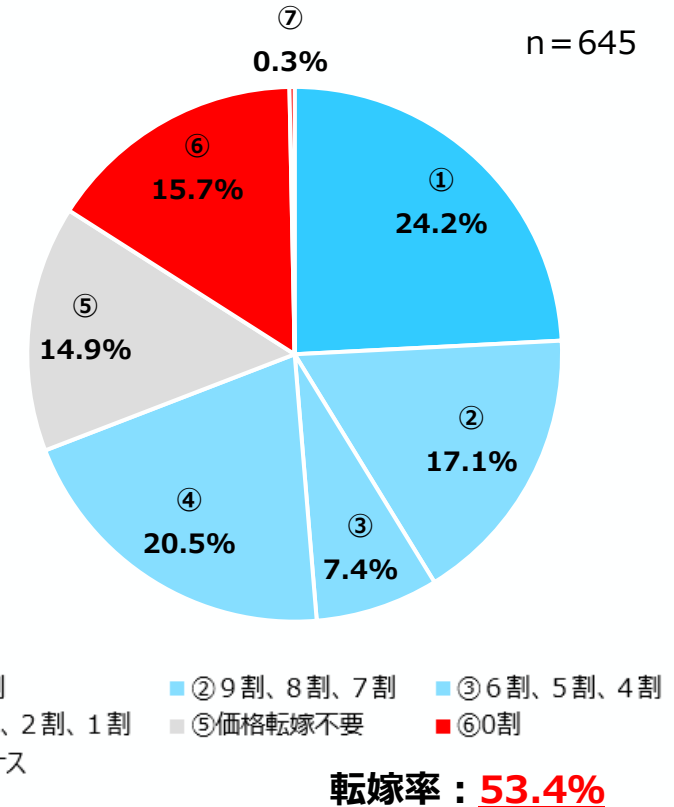
▲価格交渉は可能でも、他社との競争や小売価格制約により値上げは難しく、応じなければ転注や取扱停止となるため十分な価格転嫁ができない状況にある。

直近 6 か月間における価格交渉の状況



①	発注企業から、交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた。
②	受注企業から、発注企業に交渉を申し出、価格交渉が行われた。
③	コストが上昇せず、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
④	コストが上昇せず、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑤	コストが上昇したが、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑥	コストが上昇し、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑦	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑧	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑨	コストが上昇し、発注企業から申し入れがあったが、発注減少や取引停止を恐れ、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑩	コストが上昇したが、発注企業から申し入れがなく、発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。
⑪	コストが上昇し、発注企業から申し入れがなく、受注企業から交渉を申し出たが、応じてもらえなかった。

直近 6 か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】

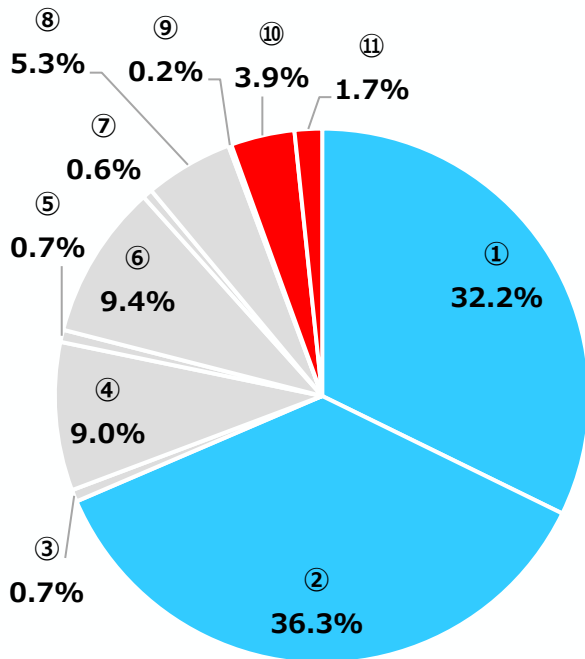


アンケート回答企業からの具体的な声

【凡例】○：よい事例、▲：問題のある事例

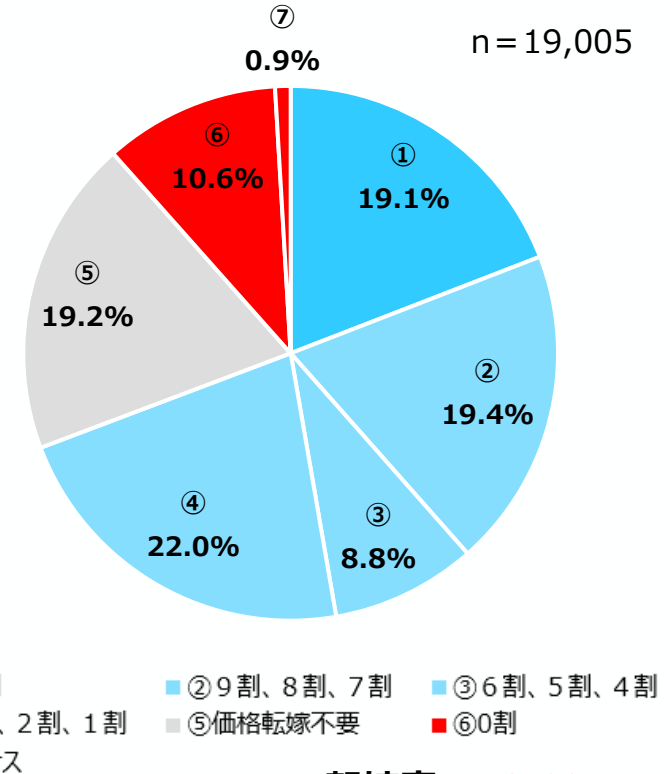
- 主要原料の価格改定に連動して発注側企業との価格も自動で見直す仕組みがある。
- 発注側から現状の単価一覧を示して確認があり、仕入価格上昇分を踏まえた改定単価を全て受け入れてもらった。
- ▲工場構内の荷役で機械費・燃料費・労務費が大幅に上がっても、転嫁は僅かであり、機械使用料も据え置かれている。
- ▲主原料の値動き時しか価格改定の対象にならず、労務費や副資材、運送費の上昇は転嫁できていない。

直近 6 か月間における価格交渉の状況



①	発注企業から、交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた。
②	受注企業から、発注企業に交渉を申し出、価格交渉が行われた。
③	コストが上昇せず、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
④	コストが上昇せず、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑤	コストが上昇したが、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑥	コストが上昇し、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑦	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑧	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑨	コストが上昇し、発注企業から申し入れがあったが、発注減少や取引停止を恐れ、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑩	コストが上昇したが、発注企業から申し入れがなく、発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。
⑪	コストが上昇し、発注企業から申し入れがなく、受注企業から交渉を申し出たが、応じてもらえなかった。

直近 6 か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】



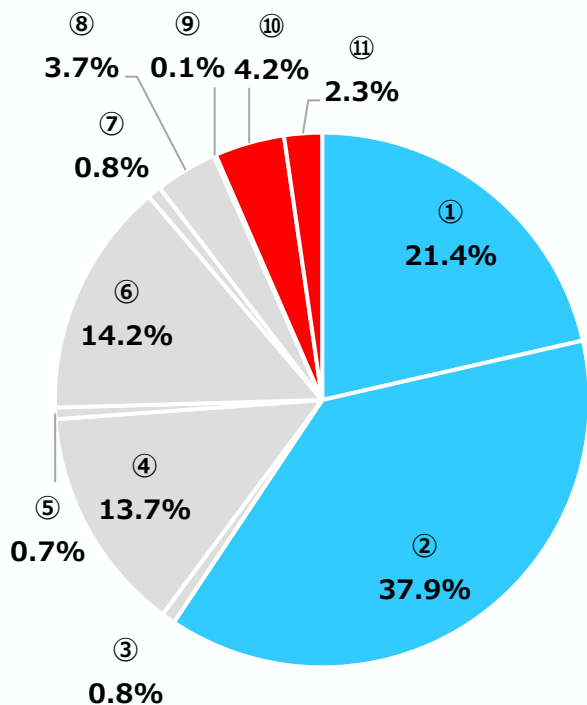
転嫁率：53.0%

アンケート回答企業からの具体的な声

【凡例】○：よい事例、▲：問題のある事例

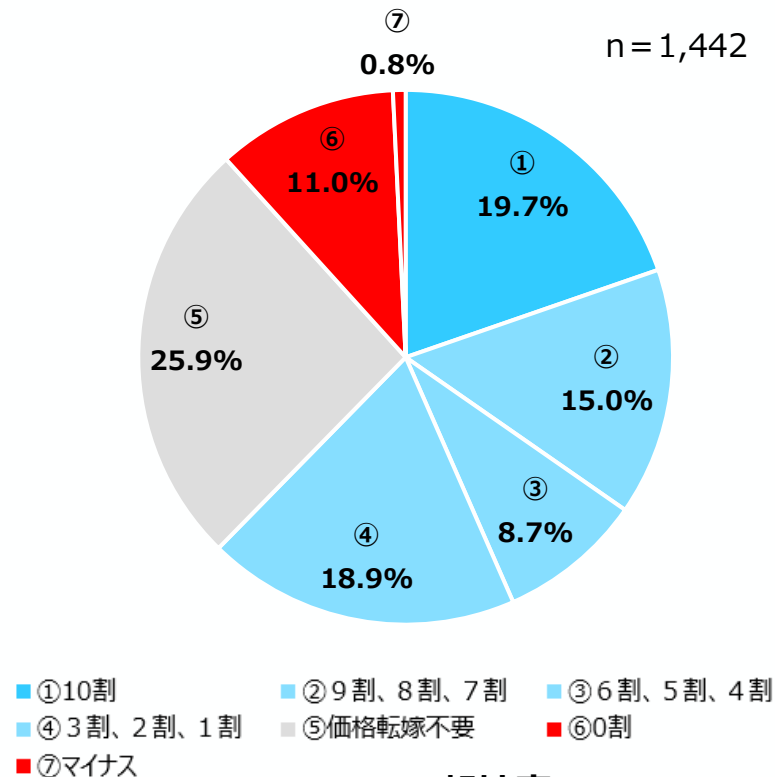
- 原材料費やエネルギー費、人件費高騰を踏まえ、発注側から早期の再見積り要請があり、価格協議が円滑に行われている。
- 労務費等を明示した見積り・契約が進み、安全衛生費なども可視化され、価格交渉や転嫁の協議が行いやすい環境になった。
- ▲労務費上昇分を価格転嫁してほしいと要望したが、施主が上げないから上げられないという納得のできない回答があった。
- ▲工事中に予定外の作業が発生し費用が増加したが、「約束していない」と強く否定され、工事代金を支払ってもらえなかった。

直近 6 か月間における価格交渉の状況



①	発注企業から、交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた。
②	受注企業から、発注企業に交渉を申し出、価格交渉が行われた。
③	コストが上昇せず、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
④	コストが上昇せず、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑤	コストが上昇したが、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑥	コストが上昇し、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑦	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑧	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑨	コストが上昇し、発注企業から申し入れがあったが、発注減少や取引停止を恐れ、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑩	コストが上昇したが、発注企業から申し入れがなく、発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。
⑪	コストが上昇し、発注企業から申し入れがなく、受注企業から交渉を申し出たが、応じてもらえなかった。

直近 6 か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】



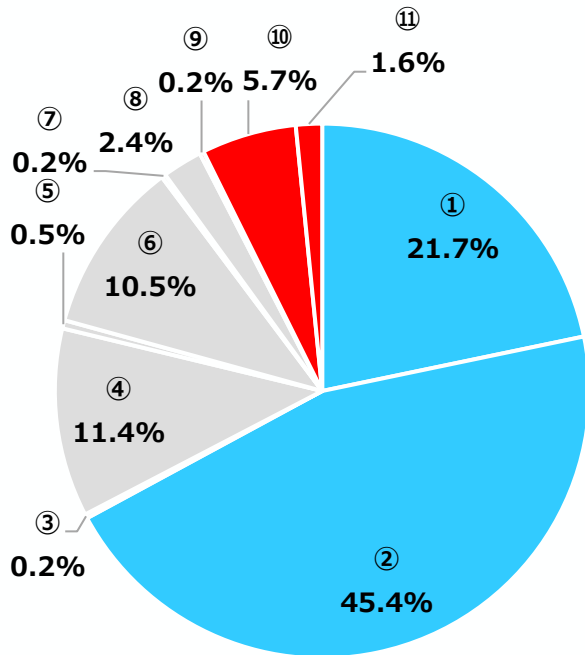
転嫁率：52.9%

アンケート回答企業からの具体的な声

【凡例】○：よい事例、▲：問題のある事例

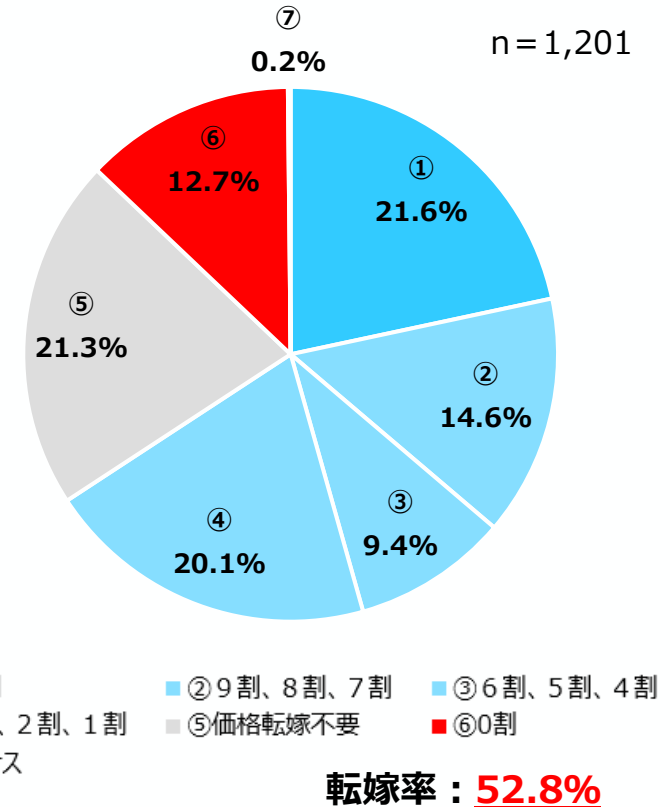
- 発注者の理解が高く、提示価格で受注できており、今後の価格変動にも協議の場が確保されている。
- 工期が長期化した際、発注側から再見積を促され、コスト上昇を反映できる柔軟な対応が行われている。
- ▲コスト資料を提出しても対応は形式的な聞き取りに留まり改善されず、実質的な協議が行われないうまま 5 年以上価格据え置きが続いている。
- ▲複数社参加の協議の場で単価が一方的に決められるため価格提案が困難な状況にある。

直近 6 か月間における価格交渉の状況



①	発注企業から、交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた。
②	受注企業から、発注企業に交渉を申し出、価格交渉が行われた。
③	コストが上昇せず、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
④	コストが上昇せず、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑤	コストが上昇したが、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑥	コストが上昇し、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑦	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑧	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑨	コストが上昇し、発注企業から申し入れがあったが、発注減少や取引停止を恐れ、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑩	コストが上昇したが、発注企業から申し入れがなく、発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。
⑪	コストが上昇し、発注企業から申し入れがなく、受注企業から交渉を申し出たが、応じてもらえなかった。

直近 6 か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】

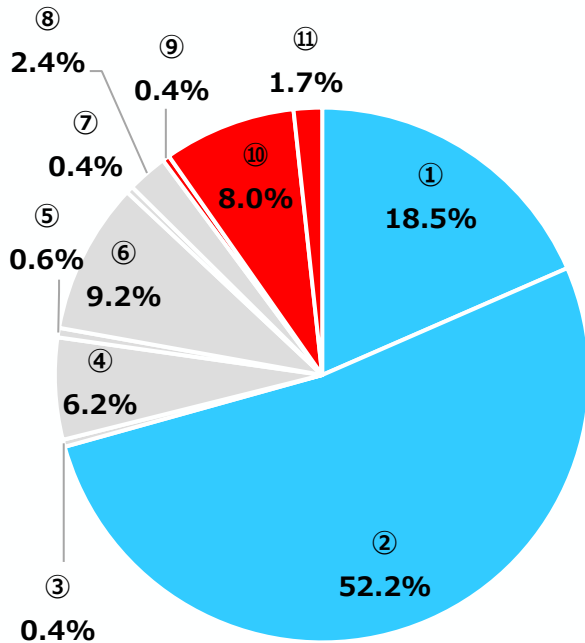


アンケート回答企業からの具体的な声

【凡例】○：よい事例、▲：問題のある事例

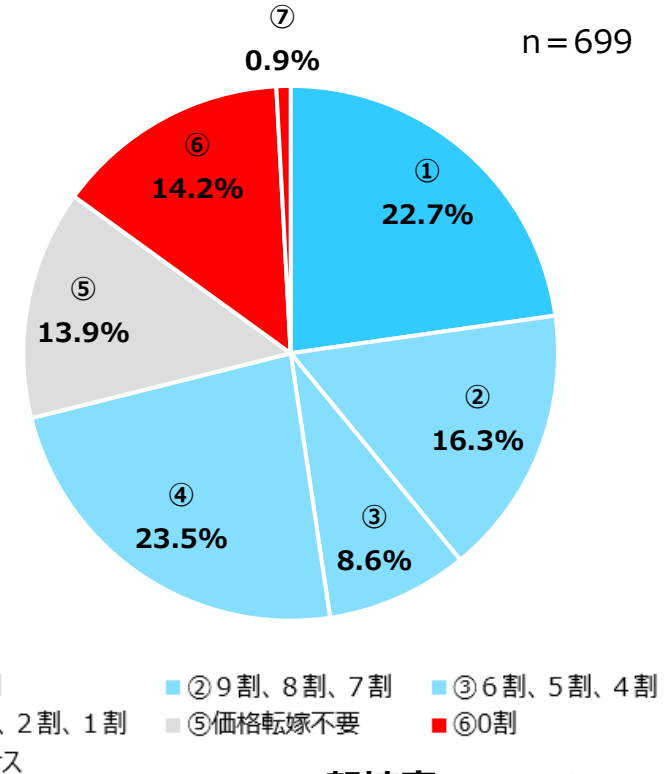
- 発注側から価格見直しの働きかけがあり、資料に基づき付帯業務も含めた適正な価格交渉が実施された。
- 早期から価格交渉を開始できる体制が整い、定期改定と一定の利益確保が可能となっている。
- ▲荷主の承認が得られないことを理由に価格交渉が進まず、燃料費高騰分が運賃に十分反映されない。
- ▲値上げを打診すると取引停止や他社切替を示唆され、価格交渉自体を断念せざるを得ない。

直近 6 か月間における価格交渉の状況



①	発注企業から、交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた。
②	受注企業から、発注企業に交渉を申し出、価格交渉が行われた。
③	コストが上昇せず、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
④	コストが上昇せず、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑤	コストが上昇したが、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑥	コストが上昇し、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑦	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑧	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑨	コストが上昇し、発注企業から申し入れがあったが、発注減少や取引停止を恐れ、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑩	コストが上昇したが、発注企業から申し入れがなく、発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。
⑪	コストが上昇し、発注企業から申し入れがなく、受注企業から交渉を申し出たが、応じてもらえなかった。

直近 6 か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】



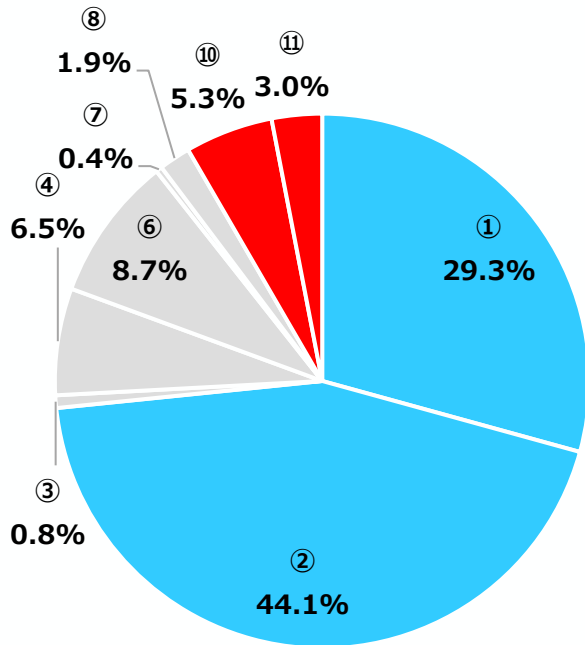
転嫁率：51.7%

アンケート回答企業からの具体的な声

【凡例】○：よい事例、▲：問題のある事例

- 発注側が採算の合うロット数を踏まえた発注条件を提示し、受注側の採算確保に配慮した価格決定が行われた。
- 過去実績のある案件でも都度見積りと価格協議を行い、継続案件でも価格転嫁が進められている。
- ▲銅などの資材が高騰しているにもかかわらず、逆に製版価格の引下げを求められている。
- ▲相見積で価格を過度に競わせ、限度額以下まで引下げられるうえ、大企業と中小の採算差も考慮されていない。

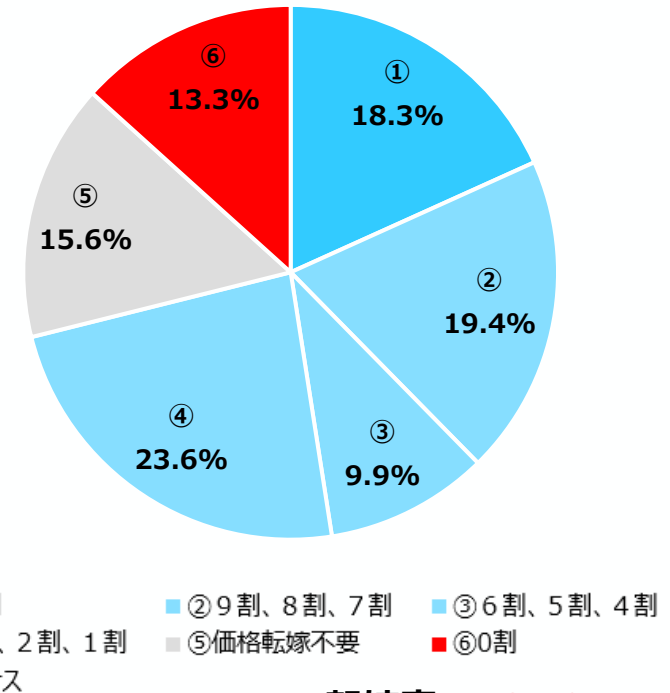
直近 6 か月間における価格交渉の状況



①	発注企業から、交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた。
②	受注企業から、発注企業に交渉を申し出、価格交渉が行われた。
③	コストが上昇せず、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
④	コストが上昇せず、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑤	コストが上昇したが、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑥	コストが上昇し、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑦	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑧	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑨	コストが上昇し、発注企業から申し入れがあったが、発注減少や取引停止を恐れ、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑩	コストが上昇したが、発注企業から申し入れがなく、発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。
⑪	コストが上昇し、発注企業から申し入れがなく、受注企業から交渉を申し出たが、応じてもらえなかった。

直近 6 か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】

n = 263



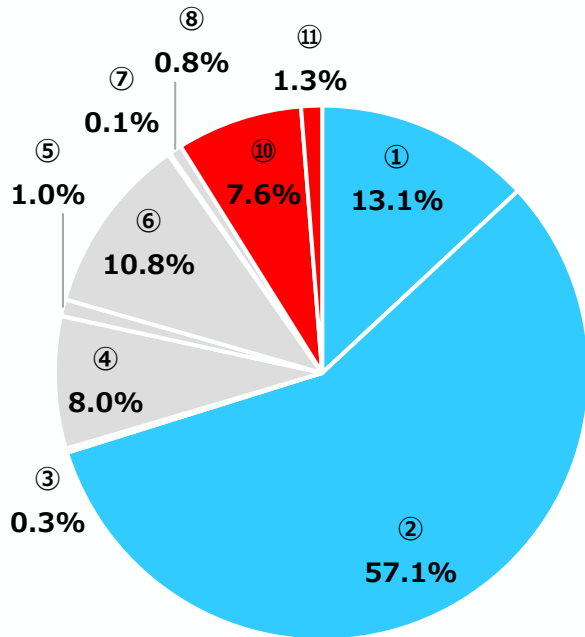
転嫁率：50.5%

アンケート回答企業からの具体的な声

【凡例】○：よい事例、▲：問題のある事例

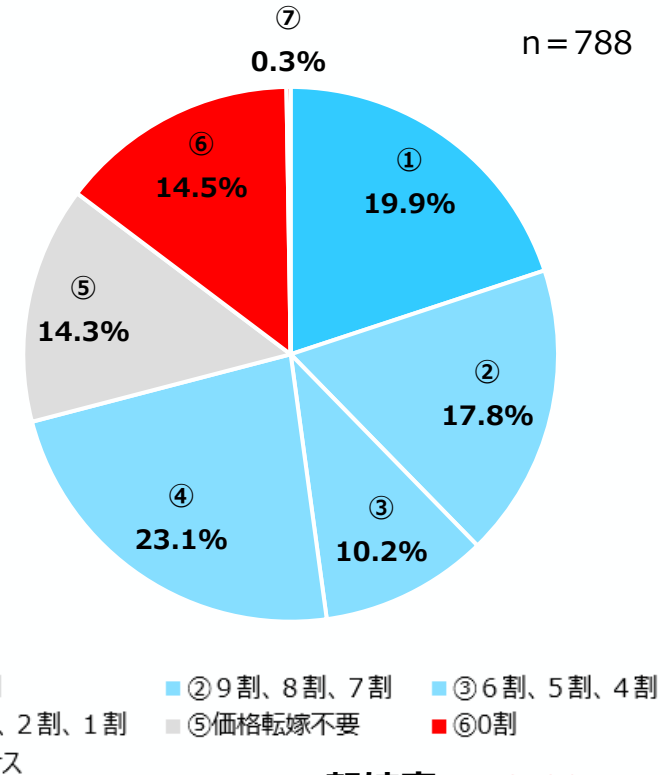
- 人件費上昇を反映した価格改定が認められ、賃金確保や人材確保につながっている。
- 人手不足の共通認識により取引先の理解が進み、以前より価格交渉に応じてもらいやすくなっている。
- ▲発注側の価格設定が追いつかず、調整が中間層で止まり下流の警備会社に負担が集中している。
- ▲発注側が価格を指定し、値上げ交渉にも応じず一方的に条件が決められている。

直近 6 か月間における価格交渉の状況



①	発注企業から、交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた。
②	受注企業から、発注企業に交渉を申し出、価格交渉が行われた。
③	コストが上昇せず、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
④	コストが上昇せず、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑤	コストが上昇したが、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑥	コストが上昇し、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑦	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑧	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑨	コストが上昇し、発注企業から申し入れがあったが、発注減少や取引停止を恐れ、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑩	コストが上昇したが、発注企業から申し入れがなく、発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。
⑪	コストが上昇し、発注企業から申し入れがなく、受注企業から交渉を申し出たが、応じてもらえなかった。

直近 6 か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】



転嫁率：50.2%

アンケート回答企業からの具体的な声

【凡例】○：よい事例、▲：問題のある事例

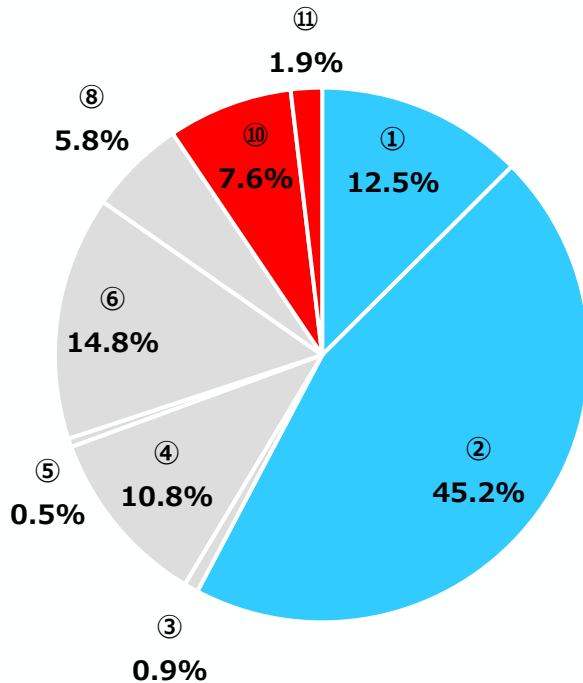
○値上げ前に 2 か月かけて説明し、正式通知後はすぐに合意され円滑に価格改定が実施された。

○海外生産の物に関しては、為替や運搬費の状況に合わせて価格交渉ができるので安心できる。

▲仕入価格上昇を反映した見積提出後に契約を打ち切れ、価格交渉が取引継続に結びつかなかった。

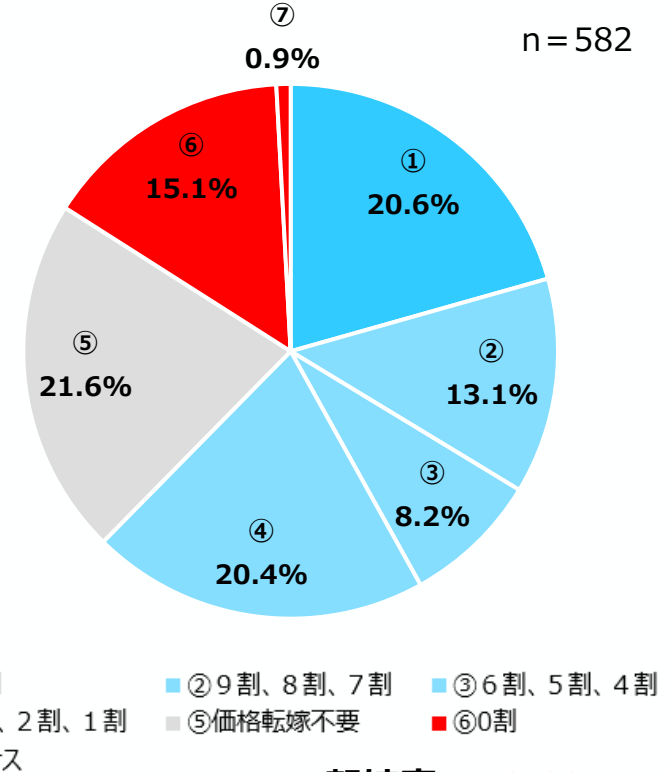
▲口頭では工賃を承諾されるものの、実際の見積提示時に減額を求められるか他社へ発注が移され、自社の生産ライン確保に大きな影響が出る。

直近 6 か月間における価格交渉の状況



①	発注企業から、交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた。
②	受注企業から、発注企業に交渉を申し出、価格交渉が行われた。
③	コストが上昇せず、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
④	コストが上昇せず、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑤	コストが上昇したが、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑥	コストが上昇し、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑦	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑧	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑨	コストが上昇し、発注企業から申し入れがあったが、発注減少や取引停止を恐れ、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑩	コストが上昇したが、発注企業から申し入れがなく、発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。
⑪	コストが上昇し、発注企業から申し入れがなく、受注企業から交渉を申し出たが、応じてもらえなかった。

直近 6 か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】



転嫁率：49.3%

アンケート回答企業からの具体的な声

【凡例】○：よい事例、▲：問題のある事例

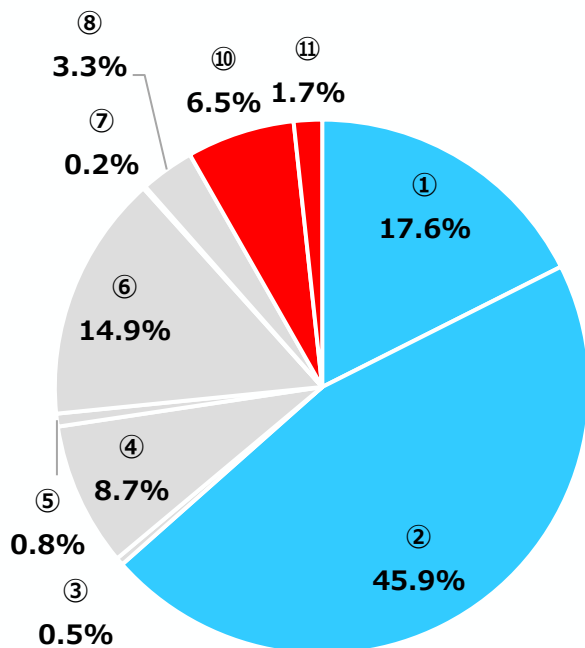
○顧客がコスト上昇を理解しており、都度見積りにより急なコスト変動も柔軟に価格へ反映できる体制となっている。

○コスト上昇時には発注側から価格改定の申請を促されるなど、前向きに価格転嫁が進めやすい環境が整っている。

▲業務負担が変わらない中で単価引下げを一方向的に通告され、拒否すれば契約終了とされるため不利な条件を受け入れざるを得ない。

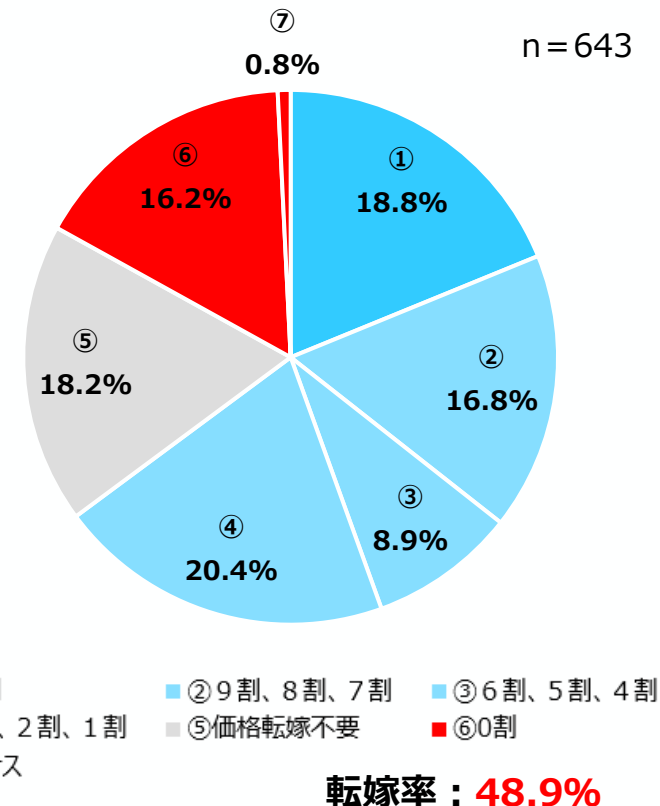
▲多重取引構造と予算の制約により、コスト上昇があっても価格転嫁が困難で調整余地がほとんどない。

直近 6 か月間における価格交渉の状況



①	発注企業から、交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた。
②	受注企業から、発注企業に交渉を申し出、価格交渉が行われた。
③	コストが上昇せず、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
④	コストが上昇せず、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑤	コストが上昇したが、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑥	コストが上昇し、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑦	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑧	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑨	コストが上昇し、発注企業から申し入れがあったが、発注減少や取引停止を恐れ、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑩	コストが上昇したが、発注企業から申し入れがなく、発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。
⑪	コストが上昇し、発注企業から申し入れがなく、受注企業から交渉を申し出たが、応じてもらえなかった。

直近 6 か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】



アンケート回答企業からの具体的な声

【凡例】○：よい事例、▲：問題のある事例

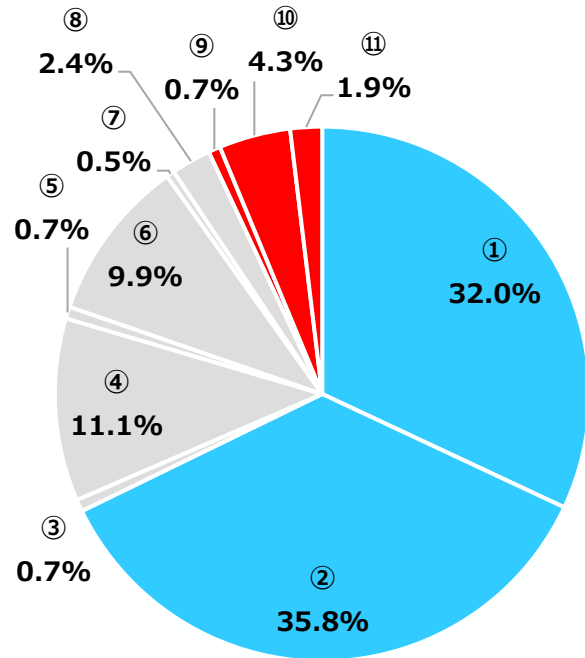
○材料費・労務費の上昇時に随時連絡し、追加費用として都度反映できる。

○倉庫費用や作業費については発注側から値上げ提案があり、価格が見直されている。

▲販売会社を挟む二次請け構造のため、値上げ協議が進みにくく、十分な価格転嫁まで時間を要している。

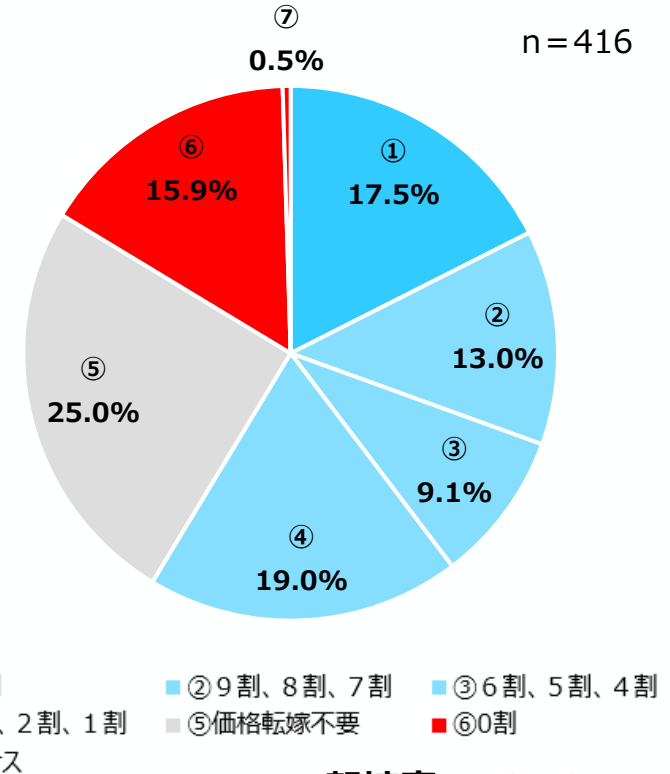
▲見積提出から実際の工事発注まで時間がかかるため、その間の資材・労務費上昇を反映しにくい。また、施主の予算が先に確定しているため、発注時には元請から受注側への値引き要請が生じやすい。

直近 6 か月間における価格交渉の状況



①	発注企業から、交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた。
②	受注企業から、発注企業に交渉を申し出、価格交渉が行われた。
③	コストが上昇せず、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
④	コストが上昇せず、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑤	コストが上昇したが、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑥	コストが上昇し、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑦	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑧	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑨	コストが上昇し、発注企業から申し入れがあったが、発注減少や取引停止を恐れ、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑩	コストが上昇したが、発注企業から申し入れがなく、発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。
⑪	コストが上昇し、発注企業から申し入れがなく、受注企業から交渉を申し出たが、応じてもらえなかった。

直近 6 か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】



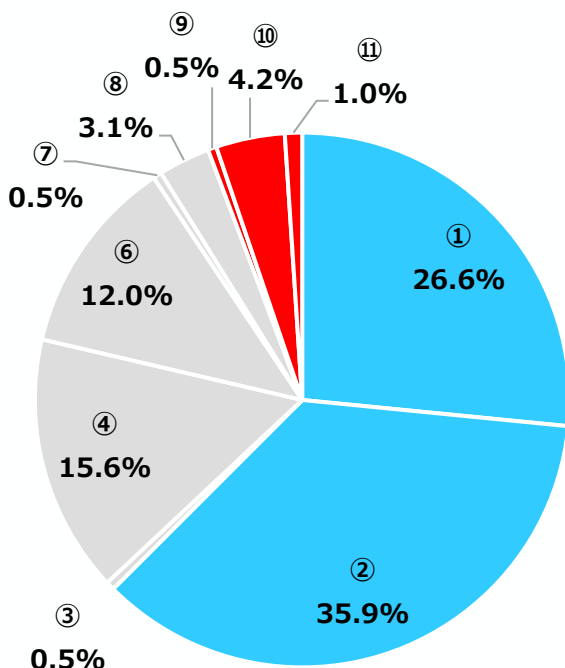
転嫁率：48.1%

アンケート回答企業からの具体的な声

【凡例】○：よい事例、▲：問題のある事例

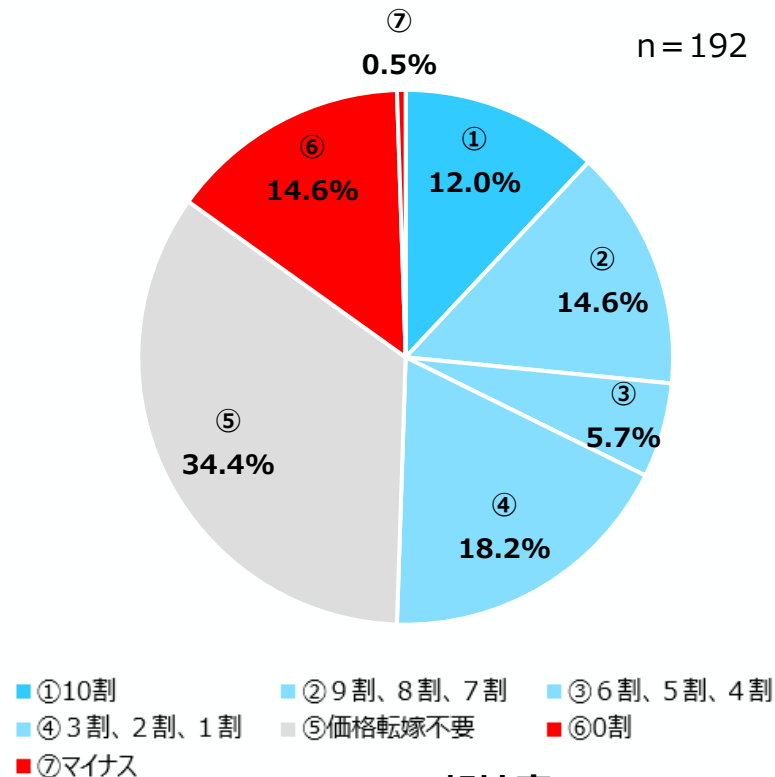
- 発注側で成果や生産性をきちんと評価していただき、物価上昇や春闘賃上げ率も考慮した価格へ反映することができている。
- 振込手数料負担の見直しに加え、人件費や資材高騰も受け入れられ、取引条件の改善が進んでいる。
- ▲他社価格を理由に繰り返し値下げを要求され、最終的に失注となった。
- ▲単価は年 1 回通達のみで交渉できず、コスト上昇も反映されず改善要求も難しい。

直近 6 か月間における価格交渉の状況



①	発注企業から、交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた。
②	受注企業から、発注企業に交渉を申し出、価格交渉が行われた。
③	コストが上昇せず、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
④	コストが上昇せず、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑤	コストが上昇したが、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑥	コストが上昇し、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑦	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑧	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑨	コストが上昇し、発注企業から申し入れがあったが、発注減少や取引停止を恐れ、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑩	コストが上昇したが、発注企業から申し入れがなく、発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。
⑪	コストが上昇し、発注企業から申し入れがなく、受注企業から交渉を申し出たが、応じてもらえなかった。

直近 6 か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】



転嫁率：44.0%

アンケート回答企業からの具体的な声

【凡例】○：よい事例、▲：問題のある事例

○コスト上昇について説明すれば理解が得られ、見積りベースで柔軟に協議できる環境が整っている。

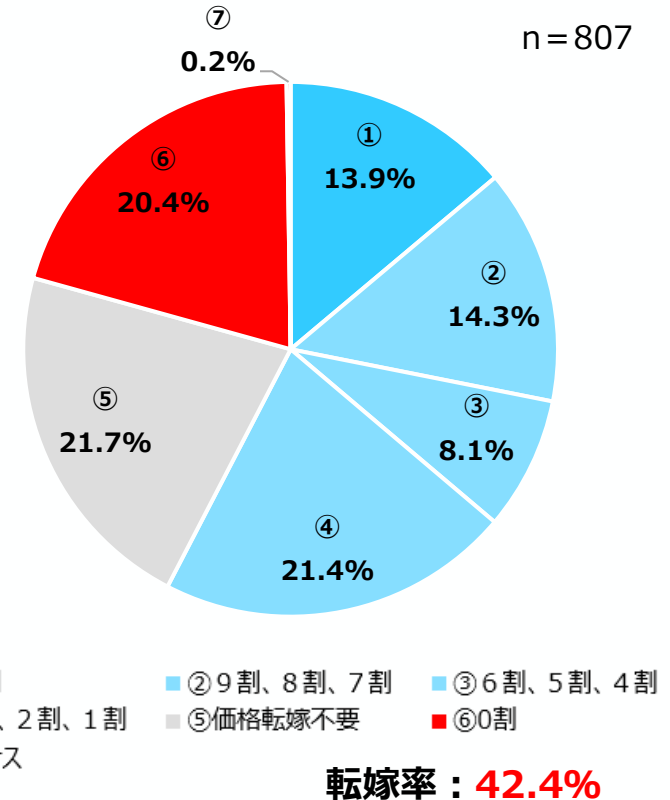
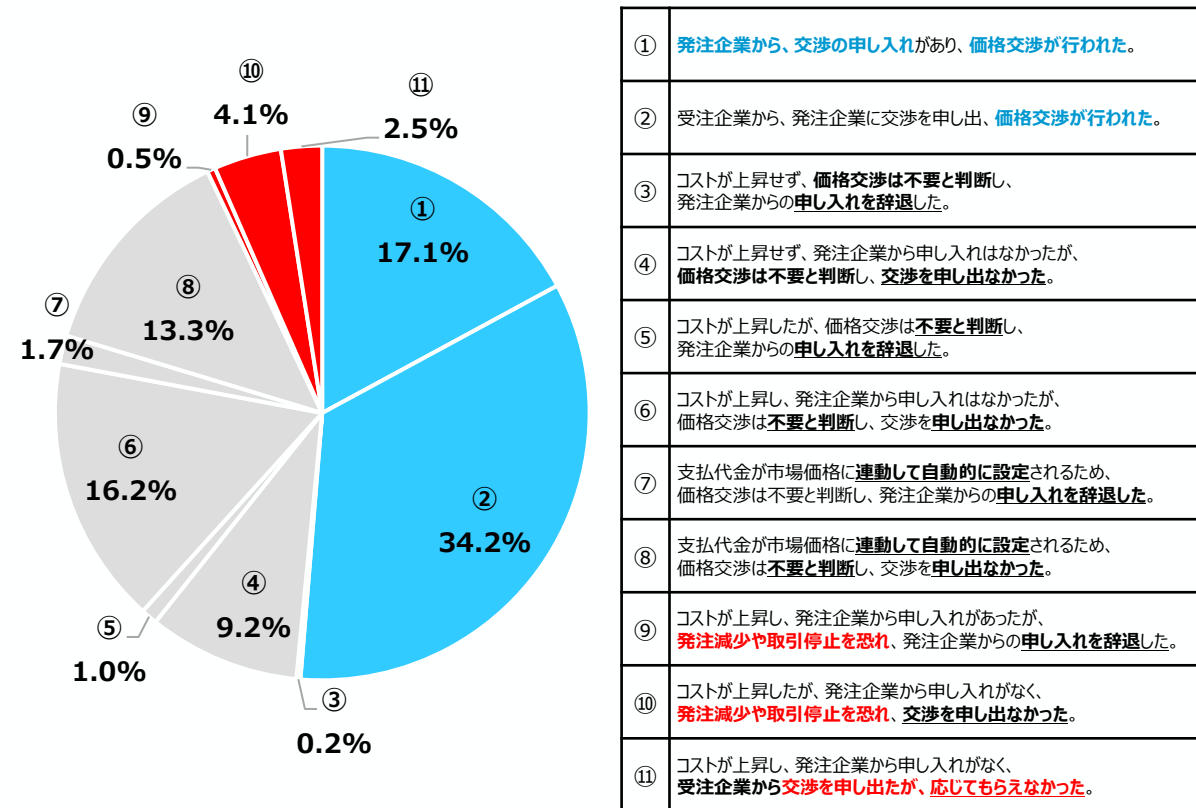
○発注側から価格交渉の申し出を促されるなど、コスト上昇を前提とした前向きな調整環境が形成されている。

▲人件費が上昇しても定期案件は予算が固定されており、価格交渉をしても転嫁が認められず据え置かれる状況にある。

▲競合他社との関係から値上げ交渉が難しく、労務費が上昇しても制作費は20年以上ほぼ据え置きで価格転嫁が進んでいない。

直近 6 か月間における価格交渉の状況

直近 6 か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】

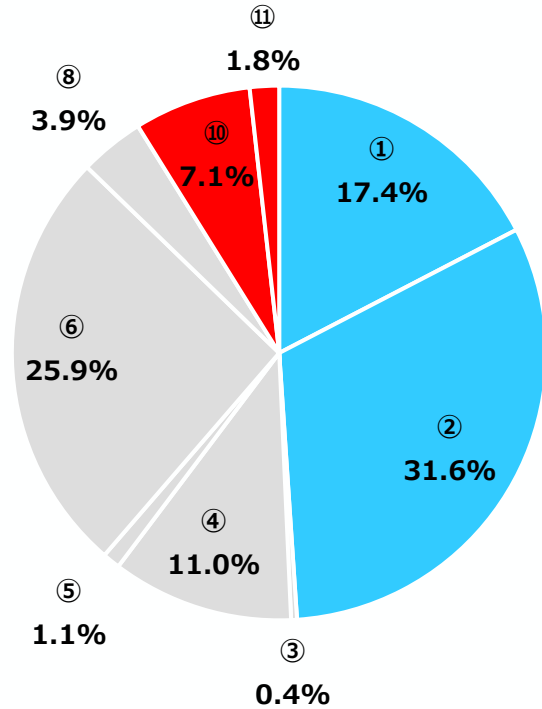


アンケート回答企業からの具体的な声

【凡例】○：よい事例、▲：問題のある事例

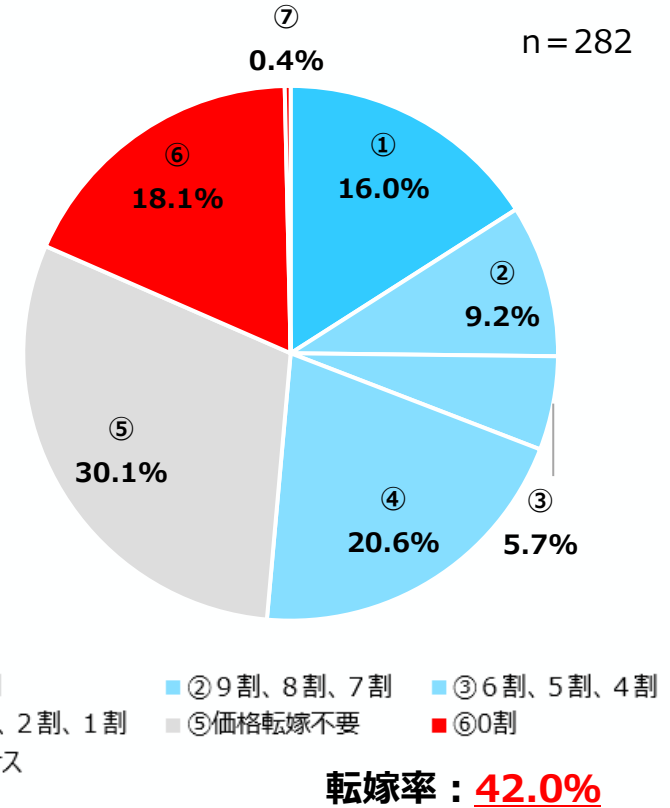
- 飼料代や雛代、原材料コスト、輸送費、人件費等の高騰により半年に1回の見直しを受け入れてもらえた。
- 全国の米の相場を考慮し、価格が前年の倍近くまで改定され、人件費、肥料、農薬等の支払いがスムーズに行えた。
- ▲自社が生産している食肉の価格は組合一括交渉となり、個別事情が反映されず、コスト上昇を転嫁できず経営が厳しい。
- ▲原料高で値上げ要請を行うが、取引先の収益悪化に配慮し十分な転嫁は難しく、慎重姿勢から交渉が長期化している。

直近 6 か月間における価格交渉の状況



①	発注企業から、交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた。
②	受注企業から、発注企業に交渉を申し出、価格交渉が行われた。
③	コストが上昇せず、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
④	コストが上昇せず、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑤	コストが上昇したが、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑥	コストが上昇し、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑦	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑧	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑨	コストが上昇し、発注企業から申し入れがあったが、発注減少や取引停止を恐れ、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑩	コストが上昇したが、発注企業から申し入れがなく、発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。
⑪	コストが上昇し、発注企業から申し入れがなく、受注企業から交渉を申し出たが、応じてもらえなかった。

直近 6 か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】



アンケート回答企業からの具体的な声

【凡例】○：よい事例、▲：問題のある事例

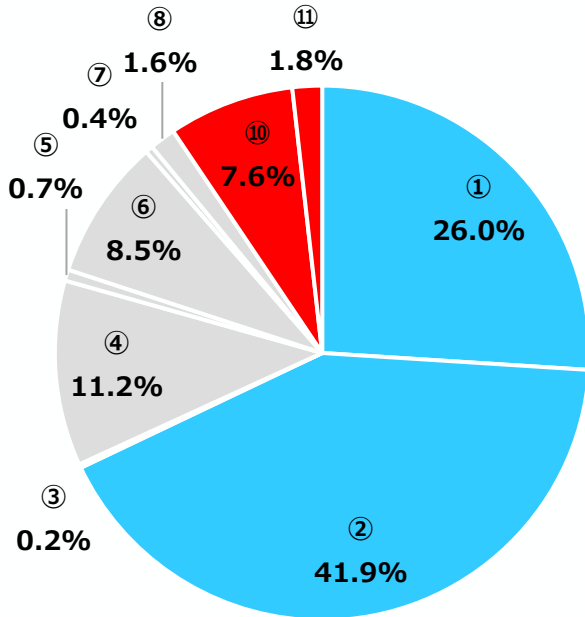
○提示した見積金額に対する値引き要求はなく、適正価格で取引が行われている。

○原材料費や人件費の上昇分がそのまま認められ、価格転嫁が円滑に進んでいる。

▲根拠を示しても予算に合わせた低単価を強いられ、人件費上昇が賃金に反映できない状況。

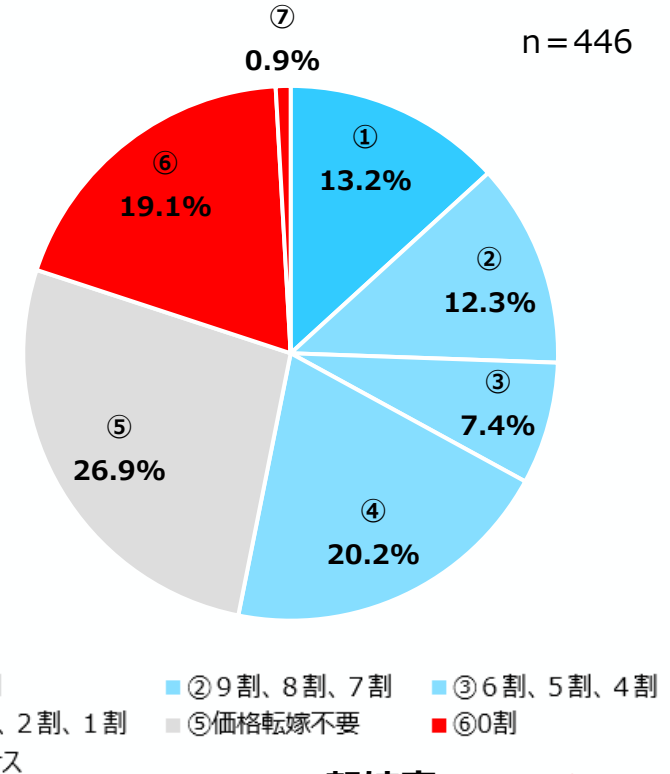
▲他社が値上げしない中では価格改定できず、業界横並びで転嫁が進まない。

直近 6 か月間における価格交渉の状況



①	発注企業から、交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた。
②	受注企業から、発注企業に交渉を申し出、価格交渉が行われた。
③	コストが上昇せず、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
④	コストが上昇せず、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑤	コストが上昇したが、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑥	コストが上昇し、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑦	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑧	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑨	コストが上昇し、発注企業から申し入れがあったが、発注減少や取引停止を恐れ、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑩	コストが上昇したが、発注企業から申し入れがなく、発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。
⑪	コストが上昇し、発注企業から申し入れがなく、受注企業から交渉を申し出たが、応じてもらえなかった。

直近 6 か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】



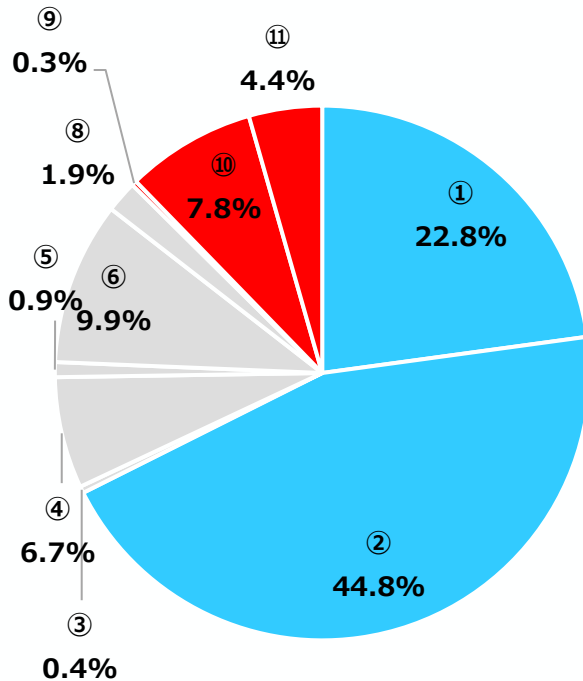
転嫁率：41.4%

アンケート回答企業からの具体的な声

【凡例】○：よい事例、▲：問題のある事例

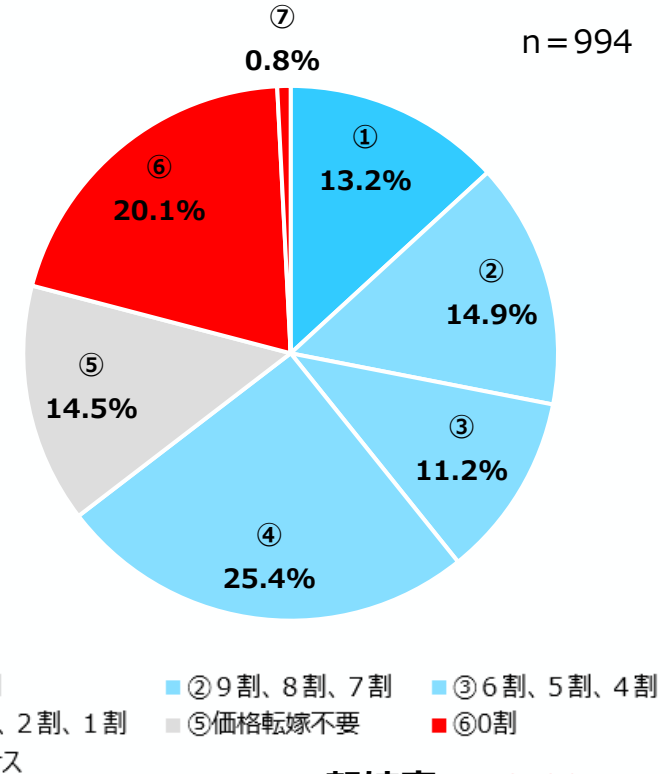
- 長期的な信頼関係に基づき見積価格が受け入れられ、双方が配慮しながら安定的な取引が行われている。
- 早期の見積依頼により事前に交渉調整ができ、価格について前向きな協議が行われている。
- ▲現場の実態を反映しない形式的な交渉に終始し、コスト増が認められず価格転嫁に至らない。
- ▲上層部からは交渉してもらっても問題ないと言われているが、担当レベルになるとコスト削減を理由に逆に減額を求められる。

直近 6 か月間における価格交渉の状況



①	発注企業から、交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた。
②	受注企業から、発注企業に交渉を申し出、価格交渉が行われた。
③	コストが上昇せず、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
④	コストが上昇せず、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑤	コストが上昇したが、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑥	コストが上昇し、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑦	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑧	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑨	コストが上昇し、発注企業から申し入れがあったが、発注減少や取引停止を恐れ、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑩	コストが上昇したが、発注企業から申し入れがなく、発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。
⑪	コストが上昇し、発注企業から申し入れがなく、受注企業から交渉を申し出たが、応じてもらえなかった。

直近 6 か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】



転嫁率：40.2%

アンケート回答企業からの具体的な声

【凡例】○：よい事例、▲：問題のある事例

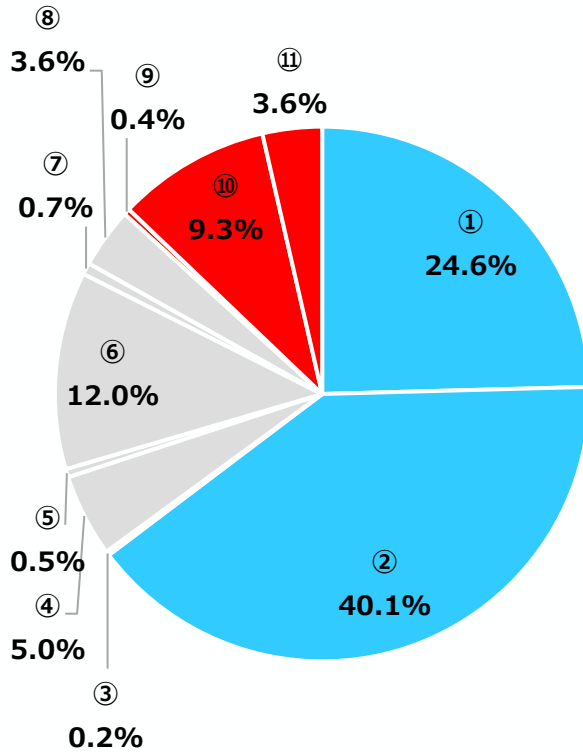
○入札後に人件費高騰を踏まえ再交渉が認められ、申請により希望額で価格改定が実現した。

○発注側が上流との調整後、要請を待たず自発的に発注金額を見直している。

▲発注側企業から威圧的に再見積りを強要され、結果として低価格業者へ切り替えられ受注案件の大半を失った。

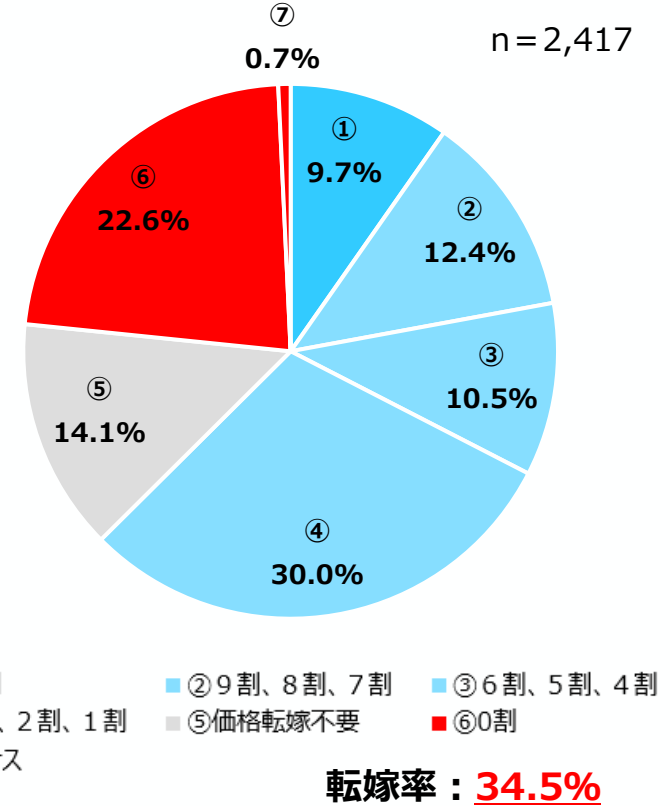
▲発注側が複数社に対し、根拠不明の一律数%の改定のみ提示し、資料を提出しても半年以上協議に応じず価格が据え置かれている。

直近 6 か月間における価格交渉の状況



①	発注企業から、交渉の申し入れがあり、価格交渉が行われた。
②	受注企業から、発注企業に交渉を申し出、価格交渉が行われた。
③	コストが上昇せず、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
④	コストが上昇せず、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑤	コストが上昇したが、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑥	コストが上昇し、発注企業から申し入れはなかったが、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑦	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑧	支払代金が市場価格に連動して自動的に設定されるため、価格交渉は不要と判断し、交渉を申し出なかった。
⑨	コストが上昇し、発注企業から申し入れがあったが、発注減少や取引停止を恐れ、発注企業からの申し入れを辞退した。
⑩	コストが上昇したが、発注企業から申し入れがなく、発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。
⑪	コストが上昇し、発注企業から申し入れがなく、受注企業から交渉を申し出たが、応じてもらえなかった。

直近 6 か月間における価格転嫁の状況【コスト全般】



アンケート回答企業からの具体的な声

【凡例】○：よい事例、▲：問題のある事例

- 高速代を運賃と別建てで支給されるようになり、実費負担の軽減と運行条件の改善につながった。
- 交渉の場を積極的に設けていただき、納得できる価格改定も行っていた。
- ▲多重取引構造で中間マージンが差し引かれ、元荷主と直接交渉できず価格転嫁が進まない。
- ▲値上げ交渉すると他社切替えを示唆され、コスト増を自社負担せざるを得ない状況にある。

最低賃金額の引上げ及び地域間格差の是正を求める会長声明

2026年（令和8年）6月9日
広島弁護士会 会長 古河 真

第1 声明の趣旨

- 1 当会は、中央最低賃金審議会に対し、①2026年度（令和8年度）地域別最低賃金額改定の目安に関する答申において目安を引き上げることによって地域別最低賃金額の引上げを促すこと、及び②地域間格差を是正するために全国一律最低賃金の実施に向けた提言を行うことを求める。
- 2 当会は、広島地方最低賃金審議会に対し、主体的に2026年度（令和8年度）地域別最低賃金額の引上げを図ることを求める。

第2 声明の理由

- 1 中央最低賃金審議会は、近々、厚生労働大臣に対し、地域別最低賃金額改定の目安に関する答申をする予定である。その後、中央最低賃金審議会の答申を受けて、各都道府県地方最低賃金審議会において調査・審議を行い、賃金額改定の答申がされ、これをふまえて、各都道府県労働局長が地域別最低賃金額を決定することとなる。
- 2 2025年（令和7年）7月、中央最低賃金審議会は、全国加重平均63円の引上げ（全国加重平均1118円）を答申した。これを受けて、広島県においても、2025年度（令和7年度）には65円の引上げがなされ、その結果、最低賃金額は1085円とされた。

もともと、増額された上記金額によっても、1日8時間、週40時間働いた場合でも、月収約19万円、年収で約228万円にしかない。

他方で、総務省の消費者物価指数は、2020年（令和2年）を100とすると2026年（令和8年）3月には112.7と12.7パーセントも上昇しており、近年の国際的な原材料価格の高騰や円安の影響等により、消費者物価は大幅な上昇が継続している。このため、厚生労働省発表にかかる2025年（令和7年）分毎月勤労統計調査によれば、実質賃金指数は前年比マイナス1.3%と4年連

続のマイナスとなっている。なお、こうした物価の上昇傾向は、昨今の中東情勢の影響もあり、今後もその傾向に一層の拍車がかかっていくと見込まれる。

このように、給与の上昇が物価高に追いついていない状態が続いており、特に低所得者層ほど消費者物価の上昇の影響を受けやすいことに鑑みれば、上記の最低賃金額では、労働者が賃金だけで人間らしい生活を持続的に営むことはできず、すべての労働者を低廉な賃金から保護する安全網（セーフティネット）としての最低賃金制度の目的を果たしているとは言い難い。したがって、最低賃金額をさらに引き上げ、最低賃金制度を真に実効的に機能させることが必要不可欠である。

この点、石破茂前内閣総理大臣は、「2020年代に全国平均1500円という高い目標に向かってたゆまぬ努力を続ける」と表明していたが、後任の高市早苗内閣総理大臣は、賃上げに向けた環境整備を加速させる方針を示してはいるものの、その内容は具体性に乏しいといわざるを得ない。

前述のような近年の消費者物価の大幅な上昇傾向に鑑みれば、大幅な最低賃金額の引上げは急務であり、迅速に実現されなければならない。

- 3 また、2025年度（令和7年度）の最低賃金額の引上げ額は全国加重平均66円であり、この結果、全ての都道府県で最低賃金額が1000円を超えるようになったが、引上げ後も都市部ほど最低賃金額が高いことに未だ変わりはなく、労働者が高い賃金を求めて都市部に流出し、地方において労働力の不足が生じ、地域経済にとってマイナス要因となっている状況にあることも否定できない。

そのため、広島県において最低賃金額をさらに引き上げることや、全国一律最低賃金制度の実施によって地域間の賃金格差を解消することは、地域経済の活性化の観点からも必要といえることができる。

- 4 一方、最低賃金額の大幅な引上げは、賃金を支給する事業者、特に中小企業・小規模事業者の経営に影響を与える可能性が高いことから、最低賃金額の引上げにあたっては、各種助成金・補助金の支給や社会保険料の事業者負担分の減免等、これら中小企業・小規模事業者へのさらなる支援及びその拡充も必要である。また、大企業に比して交渉力が弱い中小企業・小規模事業者が適正な代金の支払を得て、賃金の引上げに充てることが可能となるように、独占禁止法や

中小受託取引適正化法の積極的な運用等が求められることから、こうした取り組みへの働きかけも付言されるのが相当である。

- 5 以上の次第で、当会は、中小企業・小規模事業者への支援策に注意を払いつつ、労働者の生活の安定、労働力の質的向上及び国民経済の健全な発展への寄与という最低賃金法の目的を達するため、改めて、中央最低賃金審議会に対し、今回の答申において目安を引き上げることによって地域別最低賃金額の引上げを促すこと及び地域間格差を是正するために全国一律最低賃金制度の実施に向けた提言を行うことを求めるとともに、広島地方最低賃金審議会に対し、主体的に地域別最低賃金額の引上げを図ることを求める。

以上

広島労働局長
宮原 真太郎 様

全国労働組合総連合中国ブロック協議会
議 長 石田 高士

広島県労働組合総連合
議 長 神部 泰
広島市東区光町 2 丁目9-24
広島ロードビル 205 号 082-

最低賃金の大幅引上げと全国一律最低賃金制実現を求める要請

日本の最低賃金は、2025年の改定で、加重平均は1,121円(前年比6.3%増)となりましたが、長期にわたる物価高騰を後追いするだけであり、特に最低賃金近傍の労働者の生活改善には繋がっていません。広島県の最低賃金を月額に換算すると162,750円(月150時間)にしかありません。地域間格差は、高知県、宮崎県、沖縄県の最低賃金1,023円と最高額の東京都1,226円との差が203円にもなります。また、発効日をこれまでの10月1日から遅らせる地方が増え、同じ最賃額でも年収が大きく異なってしまう新たな地域間格差が発生しています。これらの要因で、地方から賃金の高い都市部への人口流出が起こり、広島県は5年連続で全国1位となっています。

私たちが取り組んでいる「最低生計費試算調査」では、一人の若い労働者が自立して人間らしく暮らすには、全国どこでも時給1,700円以上(月150時間)が必要であり、都市部と地方の差もほとんどないことが明らかになりました。私たちは、労働者の所得の底上げで地域経済をあたため、地域間格差の解消で人口減少に歯止めをかける確かな道として、全国一律最低賃金制度への改正と、最低賃金「1,700円以上」の実現を求めています。あわせて、地方の経済を支えている中小企業・小規模事業者への最低賃金引き上げに対応できる特別な支援策(岩手県、群馬県のような直接支援)と財政措置を求めるとともに、公正取引ルールの確立や社会保険料の減免のほか、原材料費の高騰が続くなかで諸経費が価格に適正に反映される仕組みなどの整備を求めます。

つきましては、最低賃金の大幅引上げと全国一律最低賃金制実現に関して、以下の事項について要請します。

■ 要 請 項 目 ■

1. 広島県の最低賃金を直ちに1700円以上に引き上げ、地域間格差を解消すること。
2. すべての働く人に人間らしい生活を保障し、格差を是正するために、最低賃金法を改正し、生計費原則にもとづく全国一律最低賃金制を実現するよう私たちの意見を基に中央審議会に要請すること。
3. 最低賃金の引き上げに対応した中小企業・小規模事業者支援策の拡大、岩手県、群馬県での直接支援制度などを講じ、企業間取引で公正な取引のルールの確立に向けた指導を徹底するよう、国や県、関係機関に求めること。
4. 広島県地方最低賃金審議会の委員の選任に当たってはジェンダー平等の視点での男女同数や労働者委員の選任は広島県の最低賃金近傍で働く非正規労働者から選任するなど公正な任命につとめ、推薦された候補者、選任の方法、選任基準、結果を一般公開すること。
5. 広島県地方最低賃金審議会開催にあたって以下についての状況を示していただき改善を行うこと。
 - ① 審議会での意見陳述にあたっては、人数制限を行わず、極端な時間制限を設けず、質疑を受け付けること。
 - ② 専門部会の傍聴を含めた審議会の完全公開を行うこと。
 - ③ 審議会の傍聴に誰もが参加できるように審議会の会場を事前に大きなものとし、人数制限を行わないこと。
 - ④ 異議申し出の場合の意見陳述を受け付けること。
 - ⑤ 発効日については10月1日とし、答申の1ヶ月以内とすること。
 - ⑥ 会議議事録についてのホームページ公開状況を示していただくと共にすべてを公開すること。

以 上

ぐんま賃上げ促進支援金

令和7年10月16日から利用しやすいよう一部制度を変更しました

従業員の賃金を一定額以上引き上げた場合

40人分、最大**200万円**の支援金を支給します。

※改定後の最低賃金額の適用時期である

令和8(2026)年3月を待たず、3%又は5%以上の賃上げを
年内に実施した場合、本支援金を活用できます。

支給額

賃金を5%以上引き上げた場合
1人あたり5万円、最大40人分

申請上限が
40人に増加！

小規模な事業者
特例を新設！

「小規模な事業者」のみ 次の特例を利用できます！

賃金を3%以上引き上げた場合
1人あたり3万円、最大20人分

複数回申請
できるよう
になりました！

申請回数

申請上限に達するまで何度でも申請できます！

支給対象者

県内に事業所を有する中小企業等
※医療法人、社会福祉法人、農業法人等もご利用いただけます。

対象期間

令和7年4月1日から 令和7年12月31日まで に賃上げを
実施

賃上げ対象期間が
延長しました！

申請期限

令和8年 **1月31日(土)**まで

申請期間が
延長しました！

申請方法

特設サイトから申請

<https://gunma-chinage.pref.gunma.jp/>



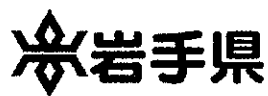
ただし、予算には限りがあります。
早めの申請をおすすめします。

太田市・館林市・渋川市・玉村町・大泉町では、上乘せを実施しています。

※詳細は特設サイトを御確認ください。

※本事業は、国の「物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金」を
財源として実施する事業です。

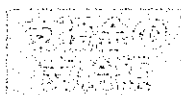
詳しい申請手続きは裏面



物価高騰対策 賃上げ支援金

岩手県では、60円以上(1時間当たり)の
賃上げを行った中小企業等を対象に

従業員1人あたり6万円(上限)を支給します。



従業員1人あたり6万円、上限50人分(1事業所当たり最大400万円)

※令和7年10月1日から令和7年12月1日までの間に、時給971円未満の従業員の賃金を時給1,031円以上に引き上げた場合は、2万円加算する。



県内に事業所を有する中小企業等

※公益法人、協同組合、個人事業主等(従業員を1人以上雇用しているものに限る)も含む。
(詳しくは裏面へ)



①賃上げの対象時期

令和7年10月1日から令和8年9月30日まで
(賃金の支給が令和8年10月31日までのものを含む)

②賃上げ対象従業員

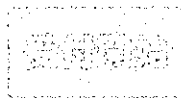
県内事業所に勤務する正規及び非正規雇用労働者。
ただし、非正規雇用労働者については、週所定労働時間20時間以上であること。

③賃上げ額

- (ア)対象時期において、従業員の賃金を賃上げ月の前月と比較して1時間当たり60円以上引き上げていること。
- (イ)最低1月以上、引き上げ後の賃金支給実績があること。
- (ウ)引き上げ後の賃金水準を1年間継続すること。

④その他

申請時点において、事務所内の全ての労働者の1時間当たりの賃金が最低賃金を上回っていること。



令和8年 2月13日(金)



**岩手県全体で25億4,000万円を上限とし
上限に達し次第終了します。**

※なお、上限に達しない場合でも、令和8年11月13日(金)で受付終了とします。

手続きについては
裏面をご覧ください

[2026.02]